

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7277025号
(P7277025)

(45)発行日 令和5年5月18日(2023.5.18)

(24)登録日 令和5年5月10日(2023.5.10)

(51)国際特許分類

F I

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

A 6 3 F 7/02 3 2 0

A 6 3 F 7/02 3 1 5 A

請求項の数 1 (全300頁)

(21)出願番号	特願2019-105912(P2019-105912)	(73)特許権者	000144153
(22)出願日	令和1年6月6日(2019.6.6)		株式会社三共
(65)公開番号	特開2020-198917(P2020-198917 A)	(72)発明者	小倉 敏男
(43)公開日	令和2年12月17日(2020.12.17)		東京都渋谷区渋谷三丁目2 9 番1 4 号
審査請求日	令和4年1月13日(2022.1.13)		株式会社三共内
		審査官	渡辺 剛史

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 遊技機

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

遊技媒体を発射可能な遊技領域と、
遊技状態を制御する遊技状態制御手段と、
演出を制御する演出制御手段と、
画像表示手段と、を備える遊技機であって、
前記遊技領域は、第1遊技領域と、第2遊技領域とを含み、
前記遊技状態制御手段は、通常状態と、遊技者にとって有利な有利状態と、前記有利状態とは異なる特殊状態と、前記特殊状態により遊技価値が付与されやすい特別状態と、前記特別状態とは異なる所定状態と、に制御可能であり、
前記通常状態において、前記第1遊技領域に遊技媒体が発射される方が、前記第2遊技領域に遊技媒体が発射されるよりも有利度が高く、
前記所定状態と、前記特別状態とにおいて、前記第2遊技領域に遊技媒体が発射される方が、前記第1遊技領域に遊技媒体が発射されるよりも有利度が高く、
前記特別状態は、第1可変表示と第2可変表示のうち、前記第2可変表示の実行頻度が前記通常状態よりも高くなる状態であり、
前記演出制御手段は、
前記特別状態において遊技者の動作に基づいて、複数種類の演出モードのうちのいずれかの演出モードに制御可能であり、
前記有利状態において複数種類の演出モードのうちのいずれかの演出モードを選択可能で

あることを示唆する選択演出を前記画像表示手段に表示させることが可能であり、
前記選択演出を実行しているときの遊技者の動作に基づいて、複数種類の演出モードのうちのいずれかの演出モードに制御可能であり、
前記有利状態の終了後に前記特別状態に制御される場合と、前記有利状態の終了後に前記所定状態に制御される場合とで、前記有利状態において共通の前記選択演出を実行可能であり、
前記有利状態の終了後に前記特別状態に制御される場合、前記有利状態において、前記有利状態の終了後に前記所定状態に制御される場合に表示されない特殊表示を表示可能であり、

前記特殊状態に制御されている場合に所定演出を実行可能であり、
演出モードに応じて、遊技価値が付与されたときに実行される前記所定演出の態様を異ならせることが可能であり、

前記特別状態に制御されている場合に、前記所定状態に制御されているときに表示可能な背景画像と、前記所定状態に制御されているときに表示されない特別表示とを前記画像表示手段に表示させることが可能であり、

前記特別表示は、前記第2可変表示の実行が保留されている数を示す保留表示が表示される保留表示領域と重畳しない位置に表示される、
ことを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、遊技を行うことが可能なパチンコ機等の遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

遊技機として、遊技媒体である遊技球を発射装置によって遊技領域に発射し、遊技領域に設けられている入賞口などの入賞領域に遊技球が入賞すると、所定個の賞球が遊技者に払い出されるものがある。さらに、識別情報を可変表示（「変動」ともいう。）可能な可変表示装置が設けられ、可変表示装置において識別情報の可変表示の表示結果が特定表示結果となった場合に、遊技状態（遊技機の状態。よって、具体的には、遊技機が制御されている状態。）を変更して、所定の遊技価値を遊技者に与えるように構成されたものがある（いわゆるパチンコ機）。

【0003】

なお、遊技価値とは、遊技機の遊技領域に設けられた可変入賞球装置の状態が、打球が入賞しやすい遊技者にとって有利な状態になることや、遊技者にとって有利な状態になるための権利を発生させたりすることや、賞球払出の条件が成立しやすくなる状態になることである。

【0004】

パチンコ遊技機では、始動入賞口に遊技球が入賞したことにもとづいて可変表示装置において開始される特別図柄（識別情報）の可変表示の表示結果として、あらかじめ定められた特定の表示態様が導出表示された場合に、「大当たり」が発生する。なお、導出表示とは、図柄（最終停止図柄）を最終的に停止表示させることである。大当たりが発生すると、例えば、大入賞口が所定回数開放して打球が入賞しやすい大当たり遊技状態に移行する。そして、各開放期間において、所定個（例えば、10個）の大入賞口への入賞があると大入賞口は閉成する。そして、大入賞口の開放回数は、所定回数（例えば、15ラウンド）に固定されている。なお、各開放について開放時間（例えば、29秒）が決められ、入賞数が所定個に達しなくても開放時間が経過すると大入賞口は閉成する。以下、各々の大入賞口の開放期間をラウンドということがある。また、ラウンドにおける遊技をラウンド遊技ということがある。

【0005】

また、可変表示装置において、最終停止図柄（例えば、左中右図柄のうち中図柄）とな

10

20

30

40

50

る図柄以外の図柄が、所定時間継続して、特定の表示結果と一致している状態で停止、揺動、拡大縮小もしくは変形している状態、または、複数の図柄が同一図柄で同期して変動したり、表示図柄の位置が入れ替わっていたりして、最終結果が表示される前で大当り発生の可能性が継続している状態（以下、これらの状態をリーチ状態という。）において行われる演出をリーチ演出という。また、リーチ状態やその様子をリーチ態様という。さらに、リーチ演出を含む可変表示をリーチ可変表示という。そして、可変表示装置に変動表示される図柄の表示結果が特定の表示結果でない場合には「はずれ」となり、変動表示状態は終了する。遊技者は、大当りをいかにして発生させるかを楽しみつつ遊技を行う。

【0006】

そのような遊技機において、有利状態とは異なる状態である特殊状態に制御可能に構成されたものがある。例えば、特許文献1に示すように、大入賞口が所定のパターンで開放される小当り遊技を行うことが可能であり、小当り遊技を行うか否かの判定結果を演出図柄によって報知する遊技機が提案されている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0007】

【文献】特開2018-33787号公報（図18）

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0008】

特許文献1に記載されたような特殊状態に制御可能な遊技機に関しては、遊技の興趣を向上させる余地がある。

【0009】

この発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、特殊状態に制御可能な遊技機における遊技の興趣を向上させることにある。

【課題を解決するための手段】

【0010】

手段1の遊技機は、

遊技媒体を発射可能な遊技領域と、

遊技状態を制御する遊技状態制御手段と、

演出を制御する演出制御手段と、

画像表示手段と、を備える遊技機であって、

前記遊技領域は、第1遊技領域と、第2遊技領域とを含み、

前記遊技状態制御手段は、通常状態と、遊技者にとって有利な有利状態と、前記有利状態とは異なる特殊状態と、前記特殊状態により遊技価値が付与されやすい特別状態と、前記特別状態とは異なる所定状態と、に制御可能であり、

前記通常状態において、前記第1遊技領域に遊技媒体が発射される方が、前記第2遊技領域に遊技媒体が発射されるよりも有利度が高く、

前記所定状態と、前記特別状態とにおいて、前記第2遊技領域に遊技媒体が発射される方が、前記第1遊技領域に遊技媒体が発射されるよりも有利度が高く、

前記特別状態は、第1可変表示と第2可変表示のうち、前記第2可変表示の実行頻度が前記通常状態よりも高くなる状態であり、

前記演出制御手段は、

前記特別状態において遊技者の動作に基づいて、複数種類の演出モードのうちのいずれかの演出モードに制御可能であり、

前記有利状態において複数種類の演出モードのうちのいずれかの演出モードを選択可能であることを示唆する選択演出を前記画像表示手段に表示させることが可能であり、

前記選択演出を実行しているときの遊技者の動作に基づいて、複数種類の演出モードのうちのいずれかの演出モードに制御可能であり、

前記有利状態の終了後に前記特別状態に制御される場合と、前記有利状態の終了後に前記

10

20

30

40

50

所定状態に制御される場合とで、前記有利状態において共通の前記選択演出を実行可能であり、

前記有利状態の終了後に前記特別状態に制御される場合、前記有利状態において、前記有利状態の終了後に前記所定状態に制御される場合に表示されない特殊表示を表示可能であり、

前記特殊状態に制御されている場合に所定演出を実行可能であり、

演出モードに応じて、遊技価値が付与されたときに実行される前記所定演出の態様を異ならせることが可能であり、

前記特別状態に制御されている場合に、前記所定状態に制御されているときに表示可能な背景画像と、前記所定状態に制御されているときに表示されない特別表示とを前記画像表示手段に表示させることが可能であり、

前記特別表示は、前記第2可変表示の実行が保留されている数を示す保留表示が表示される保留表示領域と重畳しない位置に表示される、
ことを特徴としている。

手段A1の遊技機は、

遊技状態を制御する遊技状態制御手段(CPU103)と、演出を制御する演出制御手段(演出制御用CPU120)とを備え、不利設定値(例えば、1~3)と該不利設定値よりも遊技者にとっての有利度が高い有利設定値(例えば、4~6)とを含む複数の設定値のうちからいずれかの設定値を設定可能な遊技機(パチンコ遊技機1)であって、

可変表示(飾り図柄の変動表示、小図柄の変動表示)を実行可能な可変表示手段(演出制御用CPU120)を備え、

前記可変表示手段(演出制御用CPU120)は、第1装飾識別情報の可変表示(飾り図柄の変動表示)と、第1装飾識別情報よりも視認性が低い第2装飾識別情報の可変表示(小図柄の変動表示)とを実行可能であり、

前記遊技状態制御手段(CPU103)は、

遊技者にとって有利な有利状態(大当り遊技状態)と、前記有利状態とは異なる特殊状態(小当り遊技状態)と、前記特殊状態により遊技価値が付与されやすい特別状態(高確／第2KT状態)と、に制御可能であり、

前記演出制御手段(演出制御用CPU120)は、

前記特別状態(高確／第2KT状態)において遊技者の動作(遊技者によりプッシュボタン31Bを操作されたこと)に基づいて、複数種類の演出モード(曇りモード、雨モード、及び台風モード)のうちのいずれかの演出モードに制御可能であり、

演出モードに応じて、前記特殊状態の制御に対応した所定演出を異ならせることが可能であり(図11-3(A1)~(A3)に示すように、演出モードが曇りモードである場合には、第2特別図柄の変動表示結果が「小当り」となるときに、図柄表示エリア5Cに特殊図柄18TMO50(楕円形のオブジェクトに「OPEN」の文字が示された小当り図柄)を確定停止させており、図11-4(B1)~(B3)に示すように、演出モードが雨モードである場合には、第2特別図柄の変動表示結果が「小当り」となるときに、図柄表示エリア5L、5C、5Rに奇数図柄の順目となる飾り図柄の組み合わせ(本例では、「135」)を確定停止させており、図11-5(C1)~(C3)に示すように、演出モードが台風モードである場合には、第2特別図柄の変動表示結果が「小当り」となるときに、図柄表示エリア5L、5C、5Rにエフェクト画像18TMO60(本例では、音符型の画像)が重畳表示された飾り図柄の組み合わせを確定停止させている)、

前記第2装飾識別情報の可変表示の態様は、演出モードによらず共通であり(図11-2に示すように、第2小図柄は演出モードによらず「0」~「9」の数字図柄であり、第2小図柄が表示されている領域は演出モードによらず第2小図柄表示領域5l2、5c2、5r2である)、

さらに、

前記有利状態に制御することを決定可能な決定手段(例えば、CPU103が図14に示す特別図柄通常処理を実行する部分)と、

10

20

30

40

50

前記決定手段の決定結果にもとづいて、前記有利状態に制御されることを示唆する示唆演出（例えば、リーチ演出）を、特定演出（例えば、パターンＣＩ－３のカットイン演出）を含む態様と含まない態様にて実行可能な示唆演出実行手段（例えば、演出制御用ＣＰＵ１２０が図１５－１８に示すカットイン演出決定処理を実行した後に図７に示す可変表示中演出処理を実行する部分）と、

を備え、

前記示唆演出実行手段は、

前記不利設定値に設定されており、かつ前記決定手段によって前記有利状態に制御されることが決定されていないときには、前記特定演出を含む態様の前記示唆演出を実行不能であり（例えば、図１５－２１（Ｂ）に示すように、パチンコ遊技機１に設定されている設定値が１～３のいずれかであり、かつ可変表示結果がはずれである場合は、カットイン演出をパターンＣＩ－３で実行不能な部分）、

10

前記有利設定値に設定されており、かつ前記決定手段によって前記有利状態に制御されることが決定されていないときには、前記特定演出を含む態様の前記示唆演出を実行可能であり（例えば、図１５－２１（Ｃ）～図１５－２１（Ｅ）に示すように、パチンコ遊技機１に設定されている設定値が４～６のいずれかであり、かつ可変表示結果がはずれである場合は、カットイン演出をパターンＣＩ－３で実行可能な部分）、

前記示唆演出が実行されたときに、前記有利状態に制御されないことが一旦示唆された後に前記有利状態に制御されることが報知される特別パターン（図１５－６に示す復活演出を実行するスーパーリーチγ大当りの変動パターン（ＰＢ１－５））を有し、

20

前記特別パターンにて前記有利状態に制御される場合において、前記特定演出を含む態様の前記示唆演出が実行される割合は、前記特定演出を含まない態様の前記示唆演出が実行される割合よりも低い（例えば、図１５－２１（Ａ）～図１５－２１（Ｅ）に示すように、復活演出を実行するスーパーリーチγ大当りの変動パターンにて可変表示を実行する場合は、復活演出を実行しないスーパーリーチγ大当りの変動パターンにて可変表示を実行する場合よりもカットイン演出をパターンＣＩ－３で実行する割合が低く設定されている部分）

ことを特徴としている。

このような構成によれば、遊技者の動作により演出モードを選択可能となるため、特別状態における遊技の興趣を向上させることができる。また、第２装飾識別情報の可変表示の態様を演出モードによらず共通化できるので、遊技者は、演出モードが切り替わっても、第２装飾識別情報を正確に把握することが可能となる。また、特定演出を含む示唆演出が実行されて有利状態に制御されないことが示唆された場合に、有利設定値が設定されていると遊技者が認識したにもかかわらず特別パターンにて有利状態に制御されることが報知されることにより、該認識が誤りとなることによる遊技興趣の低下を軽減できる。

30

【００１１】

手段Ａ２の遊技機は、

手段Ａ１の遊技機であって、

可変表示（変動表示）を実行可能な可変表示手段（演出制御用ＣＰＵ１２０）を備え、

前記可変表示手段（演出制御用ＣＰＵ１２０）は、装飾識別情報の可変表示（飾り図柄の変動表示）を実行可能であり、

40

前記演出制御手段（演出制御用ＣＰＵ１２０）は、演出モードに応じて、装飾識別情報の可変表示の態様を異ならせることが可能である（図１１－３（Ａ２）に示すように、演出モードが曇りモードである場合には、飾り図柄として数字図柄（本例では、「０」～「９」）と、特殊図柄１８ＴＭ０５０（楕円形のオブジェクトに「OPEN」の文字が示された小当り図柄）との変動表示を行い、図１１－４（Ｂ２）及び図１１－５（Ｃ２）に示すように、演出モードが雨モード及び台風モードである場合には、飾り図柄として数字図柄（本例では、「０」～「９」）の変動表示を行っている）

ことを特徴とする遊技機。

演出モードに応じて、装飾識別情報の可変表示の態様を異ならせることが可能であり、

50

特別状態における遊技の興趣を向上させることができる。

【0012】

手段A3の遊技機は、

手段A1又は手段A2の遊技機であって、

可変表示（特別図柄の変動表示）を実行可能な可変表示手段（CPU103）と、

実行されていない可変表示（特別図柄の変動表示）の数に対応した保留表示の数（第1保留記憶数、第2保留記憶数）を表示可能な保留表示手段（演出制御用CPU120）とを備え、

前記保留表示の数の態様は、演出モードによらず共通である（図11-2に示すように、第1保留記憶数の表示態様及び第2保留記憶数の表示態様は、いずれの演出モードに制御されているかに関わらず共通であり、第1保留記憶数特別表示領域18TM015及び第2保留記憶数特別表示領域18TM025は、いずれの演出モードに制御されているかに関わらず共通である）

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、演出モードによらず、保留表示の数の態様を共通化できるので、遊技者は演出モードが切り替わっても、保留表示の数を正確に把握することが可能となる。

【0013】

手段A4の遊技機は、

手段A1から手段A3のいずれかに記載の遊技機であって、

可変表示（変動表示）を実行可能な可変表示手段（CPU103）を備え、

前記演出制御手段（演出制御用CPU120）は、可変表示中における（第2特別図柄の変動表示を実行している期間に）遊技者の動作（遊技者によりプッシュボタン31Bが操作されたこと）に基づいて、演出モードを変更することが可能である（図11-9及び図11-11に示すように、画像表示装置5の画面左下部に表示されている演出モード選択アイコン18TM300に示されている「曇りモード」が「台風モード」に切り替えられ、第2特別図柄の当該変動表示が終了したタイミングで、画像表示装置5の画面左下部における演出モード選択アイコン18TM300に示されている「台風モード」が現在制御されている演出モード（曇りモード）とは異なるので、演出モードを現在制御されている演出モード（曇りモード）から演出モード選択アイコン18TM300に示されている演出モード（台風モード）に変更されている）

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、可変表示中における、遊技者の動作に基づいて、演出モードを変更することが可能であり、演出モードに対する遊技の興趣を向上させることができる。

【0014】

手段A5の遊技機は、

手段A1から手段A4のいずれかに記載の遊技機であって、

前記演出制御手段（演出制御用CPU120）は、前記有利状態（大当たり遊技状態）における遊技者の動作（遊技者によりプッシュボタン31Bが操作されたこと）に基づいて、演出モードを変更することが可能である（図11-7に示すように、大当たりエンディング期間の演出モード選択期間（図11-6に示すT1～T4の期間）において、大当たり遊技状態終了後に制御される演出モードとして曇りモード、雨モード、及び台風モードのいずれかから選択可能となっている）

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、有利状態に制御されているときに、遊技者の動作により演出モードを選択可能となるため、遊技の興趣を向上させることができる。

【0015】

手段A6の遊技機は、

手段A1から手段A5のいずれかに記載の遊技機であって、

前記演出制御手段（演出制御用CPU120）は、演出モードによらず、前記特別状態

10

20

30

40

50

に対応した特別表示を表示可能である（演出モードとして曇りモードが選択されている場合には、図11-11（B1）～（B5）に示すように、遊技状態が高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されているときに、画像表示装置5の画面右上部及び画面左下部に、高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）であることに対応した「RUSH」の文字が示された特別表示18TM100が重畳表示されており、演出モードが変更されて、演出モードとして台風モードが選択されている場合には、図11-11（B7）～（B8）に示すように、遊技状態が高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されているときに、画像表示装置5の画面右上部及び画面左下部に、高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）であることに対応した「RUSH」の文字が示された特別表示18TM100が重畳表示されている）

10

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、演出モードによらず、特別状態であることを特定可能とすることができ、特別状態における遊技の興趣を向上させることができる。

【0016】

手段A7の遊技機は、

手段A1から手段A6のいずれかに記載の遊技機であって、

前記演出制御手段（演出制御用CPU120）は、演出モードによらず、付与された遊技価値に対応した遊技価値表示を表示可能である（図11-3、図11-4、及び図11-5に示すように、いずれの演出モードに制御されているかに関わらず、小当り連続中賞球数表示が共通の表示態様で画像表示装置5の画面右下部に表示されている）

20

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、各演出モードにおいて、遊技価値表示の表示態様及び表示領域を共通化できるので、遊技者は演出モードが切り替わっても遊技価値表示を正確に把握することが可能となる。

【0017】

手段A8の遊技機は、

手段A1から手段A7のいずれかに記載の遊技機であって、

第1特定識別情報の可変表示（第1特別図柄の変動表示）と第2特定識別情報の可変表示（第2特別図柄の変動表示）とを並行して実行可能な可変表示手段（CPU103）を備え、

30

前記演出制御手段（演出制御用CPU120）は、前記特別状態（高確／第2KT状態）において、前記有利状態（大当り遊技状態）に対応した第1特定識別情報の可変表示（第1特別図柄の変動表示）に対応した特定対応演出（大当りカウントダウン演出）を実行可能であり、

前記特定対応演出（大当りカウントダウン演出）の態様は演出モードによらず共通であることを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、特別状態において、有利状態に対応した第1特定識別情報の可変表示に対応した特定対応演出に関する遊技の興趣を向上させることができる。

【0018】

手段B1の遊技機は、

遊技状態を制御する遊技状態制御手段（CPU103）と、演出を制御する演出制御手段（演出制御用CPU120）とを備える遊技機（パチンコ遊技機1）であって、

40

前記遊技状態制御手段（CPU103）は、

遊技者にとって有利な有利状態（大当り遊技状態）と、前記有利状態とは異なる特殊状態（小当り遊技状態）と、前記特殊状態により遊技価値が付与されやすい特別状態（高確／第2KT状態）と、に制御可能であり、

前記演出制御手段（演出制御用CPU120）は、

可変表示（特別図柄の変動表示）に対応した対応演出（飾り図柄の変動表示）を実行可能であり、

前記特別状態（高確／第2KT状態）において遊技者の動作（遊技者によりプッシュボ

50

タン 3 1 B が操作されたこと) に基づいて、前記対応演出の態様が異なる複数種類の演出モード (図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R において、飾り図柄として数字図柄 (本例では、「0」～「9」) と特殊図柄 1 8 T M 0 5 0 (楕円形のオブジェクトに「OPEN」の文字が示された小当り図柄) との変動表示が行われる曇りモード、図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R において、飾り図柄として数字図柄 (本例では、「0」～「9」) の変動表示が行われる雨モード及び台風モード) のうちのいずれかの演出モードに制御可能であり、

演出モードを変化させるときに、前記対応演出の視認性を低下させる特別演出を実行可能である (図 1 1 - 1 1 (B 6) に示すように、演出モードを変更するとき、演出モード変更演出が実行され、画像表示装置 5 の全画面に「モード CHANGE」の文字が示されたモード変更画像 1 8 T M 3 1 0 を重畳表示させることによって、演出モード変更前と演出モード変更後において表示態様が異なる飾り図柄の変動表示の視認性を低下させている)

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、演出モードに変化させるときに、対応演出の態様が異なることによる遊技者の混乱を防ぐことができる。

【0019】

手段 B 2 の遊技機は、

手段 B 1 の遊技機であって、

前記演出制御手段 (演出制御用 CPU 1 2 0) は、

前記対応演出として、装飾識別情報の可変表示 (飾り図柄の変動表示) を実行可能であり、

演出モードに応じて、装飾識別情報の可変表示の態様が異なる (演出モードが曇りモードである場合には、図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R において、飾り図柄として数字図柄 (本例では、「0」～「9」) と特殊図柄 1 8 T M 0 5 0 (楕円形のオブジェクトに「OPEN」の文字が示された小当り図柄) との変動表示が行われ、演出モードが雨モード及び台風モードである場合には、図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R において、飾り図柄として数字図柄 (本例では、「0」～「9」) の変動表示が行われる)

ことを特徴とする遊技機。

【0020】

手段 B 3 の遊技機は、

手段 B 1 又は手段 B 2 の遊技機であって、

前記演出制御手段 (演出制御用 CPU 1 2 0) は、

前記対応演出として、第 1 装飾識別情報の可変表示 (飾り図柄の変動表示) と、第 1 装飾識別情報よりも視認性が低い第 2 装飾識別情報の可変表示 (小図柄の変動表示) とを実行可能であり、

第 2 装飾識別情報の可変表示の態様は、演出モードによらず共通である (図 1 1 - 2 に示すように、第 2 小図柄は演出モードによらず「0」～「9」の数字図柄であり、第 2 小図柄が表示されている領域は演出モードによらず第 2 小図柄表示領域 5 l 2、5 c 2、5 r 2 である)

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、第 2 装飾識別情報の可変表示の態様を演出モードによらず共通化できるので、遊技者は、演出モードが切り替わっても、第 2 装飾識別情報を正確に把握することが可能となる。

【0021】

手段 B 4 の遊技機は、

手段 B 1 から手段 B 3 のいずれかに記載の遊技機であって、

実行されていない可変表示 (変動表示) の数に対応した保留表示の数 (第 1 保留記憶数、第 2 保留記憶数) を表示可能な保留表示手段 (演出制御用 CPU 1 2 0) とを備え、

前記保留表示の数の態様は、演出モードによらず共通である (図 1 1 - 2 に示すように、第 1 保留記憶数の表示態様及び第 2 保留記憶数の表示態様は、いずれの演出モードに制

10

20

30

40

50

御されているかに関わらず共通であり、第1保留記憶数特別表示領域18TM015及び第2保留記憶数特別表示領域18TM025は、いずれの演出モードに制御されているかに関わらず共通である)

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、演出モードによらず、保留表示の数の態様を共通化できるので、遊技者は演出モードが切り替わっても、保留表示の数を正確に把握することが可能となる。

【0022】

手段B5の遊技機は、

手段B1から手段B4のいずれかに記載の遊技機であって、

前記演出制御手段(演出制御用CPU120)は、可変表示中における(第2特別図柄の変動表示を実行している期間に)遊技者の動作(遊技者によりプッシュボタン31Bが操作されたこと)に基づいて、演出モードを変更することが可能である(図11-9及び図11-11に示すように、画像表示装置5の画面左下部に表示されている演出モード選択アイコン18TM300に示されている[曇りモード]が[台風モード]に切り替えられ、第2特別図柄の当該変動表示が終了したタイミングで、画像表示装置5の画面左下部における演出モード選択アイコン18TM300に示されている[台風モード]が現在制御されている演出モード(曇りモード)とは異なるので、演出モードを現在制御されている演出モード(曇りモード)から演出モード選択アイコン18TM300に示されている演出モード(台風モード)に変更されている)

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、可変表示中における、遊技者の動作に基づいて、演出モードを変更することが可能であり、演出モードに対する遊技の興趣を向上させることができる。

【0023】

手段B6の遊技機は、

手段B1から手段B5のいずれかに記載の遊技機であって、

前記演出制御手段(演出制御用CPU120)は、前記有利状態(大当たり遊技状態)における遊技者の動作(遊技者によりプッシュボタン31Bが操作されたこと)に基づいて、演出モードを変更することが可能である(図11-7に示すように、大当たりエンディング期間の演出モード選択期間(図11-6に示すT1~T4の期間)において、大当たり遊技状態終了後に制御される演出モードとして曇りモード、雨モード、及び台風モードのいずれかから選択可能となっている)

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、有利状態に制御されているときに、遊技者の動作により演出モードを選択可能となるため、遊技の興趣を向上させることができる。

【0024】

手段B7の遊技機は、

手段B1から手段B6のいずれかに記載の遊技機であって、

前記演出制御手段(演出制御用CPU120)は、演出モードによらず、前記特別状態に対応した特別表示を表示可能である(演出モードとして曇りモードが選択されている場合には、図11-11(B1)~(B5)に示すように、遊技状態が高確/第2KT状態(小当たりRUSH状態)に制御されているときに、画像表示装置5の画面右上部及び画面左下部に、高確/第2KT状態(小当たりRUSH状態)であることに対応した「RUSH」の文字が示された特別表示18TM100が重畳表示されており、演出モードが変更されて、演出モードとして台風モードが選択されている場合には、図11-11(B7)~(B8)に示すように、遊技状態が高確/第2KT状態(小当たりRUSH状態)に制御されているときに、画像表示装置5の画面右上部及び画面左下部に、高確/第2KT状態(小当たりRUSH状態)であることに対応した「RUSH」の文字が示された特別表示18TM100が重畳表示されている)

ことを特徴とする遊技機。

10

20

30

40

50

このような構成によれば、演出モードによらず、特別状態であることを特定可能とすることができ、特別状態における遊技の興趣を向上させることができる。

【0025】

手段B8の遊技機は、

手段B1から手段B7のいずれかに記載の遊技機であって、

前記演出制御手段（演出制御用CPU120）は、演出モードによらず、付与された遊技価値に対応した遊技価値表示を表示可能である（図11-3、図11-4、及び図11-5に示すように、いずれの演出モードに制御されているかに関わらず、小当り連続中賞球数表示が共通の表示態様で画像表示装置5の画面右下部に表示されている）

ことを特徴とする遊技機。

10

このような構成によれば、各演出モードにおいて、遊技価値表示の表示態様及び表示領域を共通化できるので、遊技者は演出モードが切り替わっても遊技価値表示を正確に把握することが可能となる。

【0026】

手段B9の遊技機は、

手段B1から手段B8のいずれかに記載の遊技機であって、

前記遊技状態制御手段は、第1特定識別情報の可変表示（第1特別図柄の変動表示）と第2特定識別情報の可変表示（第2特別図柄の変動表示）とを並行して実行可能であり、

前記演出制御手段（演出制御用CPU120）は、前記特別状態（高確／第2KT状態）において、前記有利状態（大当り遊技状態）に対応した第1特定識別情報の可変表示（第1特別図柄の変動表示）に対応した特定対応演出（大当りカウントダウン演出）を実行可能であり、

20

前記特定対応演出（大当りカウントダウン演出）の態様は演出モードによらず共通であることを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、特別状態において、有利状態に対応した第1特定識別情報の可変表示に対応した特定対応演出に関する遊技の興趣を向上させることができる。

【0027】

手段C1の遊技機は、

遊技状態を制御する遊技状態制御手段（CPU103）と、演出を制御する演出制御手段（演出制御用CPU120）とを備える遊技機（パチンコ遊技機1）であって、

30

前記遊技状態制御手段（CPU103）は、

遊技者にとって有利な有利状態（大当り遊技状態）と、前記有利状態とは異なる特殊状態（小当り遊技状態）と、前記有利状態の終了後に制御される遊技状態であって前記特殊状態により遊技価値が付与されやすい特別状態（高確／第2KT状態）と、前記有利状態の終了後に制御される遊技状態であって前記特別状態とは異なる所定状態（高確／第1KT状態）とに制御可能であり、

前記演出制御手段（演出制御用CPU120）は、

前記特別状態（高確／第2KT状態）に制御されているときと、前記所定状態（高確／第1KT状態）に制御されているときとで、共通の所定表示（背景画像としての「曇り画像」、「雨画像」、及び「台風画像」）を表示可能であり、

40

前記特別状態（高確／第2KT状態）に制御されているときに、前記特別状態に対応した特別表示（「RUSH」の文字が示された特別表示18TM100）を表示可能であることを特徴とする遊技機。

特別状態と所定状態とで、所定表示を共通化できるとともに、特別表示により、特別状態と所定表示とを特定可能とすることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【0028】

手段C2の遊技機は、

手段C1の遊技機であって、

前記演出制御手段（演出制御用CPU120）は、

複数種類の演出モード（曇りモード、雨モード、及び台風モード）のうちのいずれかの

50

演出モードに制御可能であり、

前記特別状態（高確／第2KT状態）に制御されているときと、前記所定状態（高確／第1KT状態）に制御されているときとで、共通の演出モードに制御可能である（図11-2に示したように、高確／第1KT状態（確変状態）及び高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）のいずれの遊技状態に制御されているときでも、共通の演出モードとして曇りモードに制御可能であり、高確／第1KT状態（確変状態）及び高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）のいずれの遊技状態に制御されているときでも、共通の演出モードとして雨モードに制御可能であり、高確／第1KT状態（確変状態）及び高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）のいずれの遊技状態に制御されているときでも、共通の演出モードとして台風モードに制御可能である）

10

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、特別状態に制御されているときと、前記所定状態に制御されているときとで、共通の演出モードに制御可能であり、遊技状態によらず演出モードの素材共通化を図ることができ、開発コストを削減できる。

【0029】

手段C3の遊技機は、

手段C1又は手段C2の遊技機であって、

前記遊技状態制御手段（CPU103）は、

前記有利状態の種類（6R確変大当り、10R確変大当り、2R確変大当り）に応じて、前記特別状態と前記所定状態のいずれかの遊技状態に制御する（図10-29に示したように、[10R確変大当り]又は[2R確変大当り]が発生した場合には、その大当り遊技の終了後に高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に移行し、[6R確変大当り]が発生した場合には、その大当り遊技の終了後に高確／第1KT状態（確変状態）に移行する）

20

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、有利状態の種類に応じて、特別状態と所定状態のいずれかの遊技状態に制御するので、遊技者に有利状態の種類に注目させ、有利状態に関わる演出の興趣を向上させることができる。

【0030】

手段C4の遊技機は、

手段C1から手段C3のいずれかに記載の遊技機であって、

前記演出制御手段（演出制御用CPU120）は、

前記特別状態（高確／第2KT状態）に制御されているときと、前記所定状態（高確／第1KT状態）に制御されているときに、遊技者の動作（遊技者により押しボタン31Bが操作されたこと）に基づいて、複数種類の演出モードのうちのいずれかの演出モードに制御可能である（図11-9及び図11-11に示すように、画像表示装置5の画面左下部に表示されている演出モード選択アイコン18TM300に示されている[曇りモード]が[台風モード]に切り替えられ、第2特別図柄の当該変動表示が終了したタイミングで、画像表示装置5の画面左下部における演出モード選択アイコン18TM300に示されている[台風モード]が現在制御されている演出モード（曇りモード）とは異なるので、演出モードを現在制御されている演出モード（曇りモード）から演出モード選択アイコン18TM300に示されている演出モード（台風モード）に変更されている）

30

40

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、特別状態に制御されているときと、所定状態に制御されているときに、遊技者の動作に基づいて、演出モードを変更することが可能であり、演出モードに対する遊技の興趣を向上させることができる。

【0031】

手段C5の遊技機は、

手段C1から手段C4のいずれかに記載の遊技機であって、

前記演出制御手段（演出制御用CPU120）は、

50

前記有利状態（大当り遊技状態）に制御されているときに、遊技者の動作（遊技者によりプッシュボタン31Bが操作されたこと）に基づいて、複数種類の演出モードのうちのいずれかの演出モードに制御可能であり（図11-7（B1）～（B3）に示すように、大当りエンディング期間の演出モード選択期間（図11-6に示すT1～T4の期間）において、大当り遊技状態終了後に制御される演出モードとして曇りモード、雨モード、及び台風モードのいずれかから選択可能となっており）、

前記有利状態に制御されているときに、前記特別表示を表示可能である（図11-7（B4）に示すように、大当りエンディング期間の演出モード選択期間において、画像表示装置5の台風モード画像18TM200Cの右上部及び左下部に、高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されることに対応した「RUSH」の文字が示された特別表示18TM100を重畳表示させている）

10

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、有利状態に制御されているときに、特別状態に制御されることを特定容易とすることができる。

【0032】

手段C6の遊技機は、

手段C1から手段C5のいずれかに記載の遊技機であって、

前記演出制御手段（演出制御用CPU120）は、

前記特別状態に制御されるか否かを示唆する示唆演出を実行可能である（大当り終了後に高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されることを示唆するRUSH示唆演出を実行可能である）

20

ことを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、演出モードを選択するときの遊技の興趣を向上させることができる。

【0033】

手段C7の遊技機は、

手段C1から手段C6のいずれかに記載の遊技機であって、

前記遊技状態制御手段（CPU103）は、第1特定識別情報の可変表示（第1特別図柄の変動表示）と第2特定識別情報の可変表示（第2特別図柄の変動表示）とを並行して実行可能であり、

30

前記演出制御手段（演出制御用CPU120）は、前記特別状態（高確／第2KT状態）において、前記有利状態（大当り遊技状態）に制御される第1特定識別情報の可変表示（第1特別図柄の変動表示）に対応した特定対応演出（大当りカウントダウン演出）を実行可能であり、

前記特定対応演出（大当りカウントダウン演出）の態様は演出モードによらず共通であることを特徴とする遊技機。

このような構成によれば、特別状態において、有利状態に対応した第1特定識別情報の可変表示に対応した特定対応演出に関する遊技の興趣を向上させることができる。

【0034】

例えば、特開2018-033787号公報（段落0040，0088）には、第1特別図柄と第2特別図柄の変動表示を実行可能であり、第2特別図柄判定においてほぼ小当りと判定され、確変遊技状態で遊技者が右打ちを行うと、小当り遊技が繰り返し行われることが記載されている。また、遊技者にとって有利度が異なる複数の設定値のうちいずれかの設定値に設定可能に構成されたものがある。例えば、特開2010-200902号公報（段落0069，0085，0090、図12）には、設定値にもとづく演出の表示制御を行い、麒麟、ゾウ、ライオンの各キャラクタ画像を表示させる処理を所定のタイミングで実行することが記載されている。これら特開2018-033787号公報，特開2010-200902号公報に記載された遊技機を組み合わせれば、特別状態に制御可能に構成した遊技において設定示唆演出を実行可能に構成することができる。しかしながら、特別状態に制御可能に構成した遊技において設定示唆演出を実行するだけでは、遊

40

50

技の興趣を十分に向上させることはできない。そこで、手段D1～手段D7に係る発明は、設定示唆演出の興趣を向上させることができる遊技機を提供することを目的とする。

【0035】

(手段D1) 本発明による遊技機は、遊技を行うことが可能であり、遊技者にとって有利度が異なる複数の設定値(例えば、設定値「1」～「6」)のうちいずれかの設定値に設定可能な遊技機であって、遊技者にとって有利な有利状態(例えば、大当り遊技状態)に制御可能な有利状態制御手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS122～S125を実行する部分)と、有利状態とは異なる状態である特殊状態(例えば、小当り遊技状態)に制御可能な特殊状態制御手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS126～S128を実行する部分)と、特殊状態により遊技価値が付与されやすい特別状態(例えば、KT状態)に制御可能な特別状態制御手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100におけるステップ052IEWS2208, S2210, S2211, S2212, S2213を実行する部分)と、特定領域(例えば、特殊入賞口)を遊技媒体(例えば、遊技球)が通過したことに対応して、設定示唆演出(例えば、小当り入賞時示唆演出)を実行可能な設定示唆演出実行手段(例えば、演出制御用CPU120における052IEWS323, S324を実行する部分)とを備えたことを特徴とする。そのような構成によれば、設定示唆演出の興趣を向上させることができる。

10

【0036】

(手段D2) 手段D1において、有利状態制御手段は、可変表示の表示結果として特定表示結果(例えば、大当り図柄)が導出表示されたときに、有利状態(例えば、大当り遊技状態)に制御可能であり、特殊状態制御手段は、可変表示の表示結果として特定表示結果とは異なる特殊表示結果(例えば、小当り図柄)が導出表示されたときに、特殊状態(例えば、小当り遊技状態)に制御可能であり、可変表示の表示結果を決定するための判定値(例えば、大当り判定用の判定値、小当り判定用の判定値)を用いて、可変表示の表示結果を決定する表示結果決定手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100におけるステップ026IWS59A, S64A, S59B, S64Bを実行する部分)を備え、判定値には、可変表示の表示結果として特定表示結果を導出表示することを決定するための特定判定値(例えば、大当り判定用の判定値)と、可変表示の表示結果として特殊表示結果を導出表示することを決定するための特殊判定値(例えば、小当り判定用の判定値)とが含まれ、特定判定値の数が異なる複数の設定値(例えば、設定値「1」～「6」)のうちいずれかの設定値に設定可能な設定手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS21TM4530～S21TM4620を実行する部分)を備え、特殊判定値の数は、設定値によらず共通である(図10-3および図10-4参照)ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、適切な遊技性を実現することができる。

20

30

【0037】

(手段D3) 手段D1または手段D2において、設定示唆演出実行手段は、特殊状態への制御に対応して、設定示唆演出を実行可能である(例えば、高確率/第2KT状態中に小当りとなり特殊入賞口に遊技球が入賞したことにもとづいて、小当り入賞時示唆演出や賞球数表示示唆演出を実行可能である)ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、特殊状態への制御に関連させて設定示唆演出の興趣を向上させることができる。

40

【0038】

(手段D4) 手段D1から手段D3のうちいずれかにおいて、有利状態に制御されているときおよび特殊状態に制御されているときに、可変手段(例えば、特別可変入賞球装置7、特殊可変入賞球装置17)を遊技媒体(例えば、遊技球)が進入容易な進入容易状態(例えば、開状態)と進入困難または不可能な進入非容易状態(例えば、閉状態)とに制御可能な可変手段制御手段(例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS122～S124, S126, S127を実行する部分)を備え、設定示唆演出実行手段は、可変手段が進入容易状態に制御されたことに対応して、設定示唆演出を実行

50

可能である（例えば、特別可変入賞球装置 7 や特殊可変入賞球装置 1 7 が開状態となって、大入賞口や特殊入賞口への遊技球の入賞が発生したことにもとづいて、小当り入賞時示唆演出や賞球数表示示唆演出を実行可能である）ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、可変手段の制御に関連させて設定示唆演出の興趣を向上させることができる。

【0039】

（手段 D 5）手段 D 1 から手段 D 4 のうちのいずれかにおいて、設定示唆演出実行手段は、遊技状態の制御が切り替わるとき（例えば、大当り遊技の開始時や終了時、低確率／第 1 K T 状態から通常状態（低確率／低ベース状態）に移行するとき）に、設定示唆演出を実行可能である（例えば、ステップ 0 5 2 I W S 6 2 4 で右打ち表示の表示態様（例えば、表示色）を変化させる）ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、遊技状態の制御の切り替わりに関連させて設定示唆演出の興趣を向上させることができる。

【0040】

（手段 D 6）手段 D 1 から手段 D 5 のうちのいずれかにおいて、設定示唆演出実行手段は、特別状態中における特殊状態への制御回数、特別状態中における特殊状態により付与された遊技価値の合計、または特別状態中における可変表示の実行回数に応じて、異なる選択割合により設定示唆演出を実行可能である（例えば、賞球数が 4 5 6 個、5 5 5 個、6 6 6 個、2 4 5 6 個、2 5 5 5 個、または 2 6 6 6 個に到達したことに応じて、異なる選択割合で賞球数表示示唆演出 A ～ F を実行する。または、例えば、高確率／第 2 K T 状態中に発生した小当り回数や、高確率／第 2 K T 状態中に実行された変動表示の実行回数に応じて、異なる選択割合で賞球数表示示唆演出 A ～ F を実行するように構成してもよい。）ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、特殊状態への制御回数、遊技価値の合計、または可変表示の実行回数に関連させて設定示唆演出の興趣を向上させることができる。

【0041】

（手段 D 7）手段 D 1 から手段 D 6 のうちのいずれかにおいて、特別状態制御手段は、特別状態として、有利特別状態（例えば、第 2 K T 状態）と、該有利特別状態と比較して遊技者にとって不利な不利特別状態（例えば、第 1 K T 状態）とに制御可能であり、設定示唆演出実行手段は、有利特別状態中に特定領域を遊技媒体が通過したときと、不利特別状態中に特定領域を遊技媒体が通過したときとで、異なる選択割合により設定示唆演出を実行可能である（例えば、第 2 K T 状態中に小当りとなって特殊入賞口に遊技球が入賞した場合のみ、小当り入賞時示唆演出や賞球数表示示唆演出を実行可能である）ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、特別状態の種類に関連させて設定示唆演出の興趣を向上させることができる。

【0042】

また、後述する発明を実施するための形態には、以下の手段 A 9 から手段 A 1 7 の遊技機に係る発明が含まれる。従来より、遊技機において、特開 2 0 1 0 - 2 0 0 9 0 2 号公報に示されているような、遊技者にとって有利度が異なる複数の設定値のうちいずれかの設定値を設定可能であって、いずれの設定値が設定されているかを示唆する演出（特定演出）を実行可能なものがあった。このような遊技機にあっては、特定演出を実行して可変表示結果がはずれとなる（有利状態に制御されない）ことで、可変表示結果が大当たりとならなかった（有利状態に制御されなかった）代わりに遊技機に設定されている設定値が遊技者にとって有利な設定値（有利設定値）であることを報知し、遊技興趣の低下を抑えることが考えられる。しかしながら、遊技機の中には、一旦可変表示結果がはずれとなることを示唆した後に改めて可変表示結果が大当たりとなることを報知する演出（特別パターン）を実行可能なものが存在する。このため、このような遊技機においては、特定演出が実行され可変表示結果がはずれであると示唆されても、改めて可変表示結果が大当たりとなることが報知されると、遊技機に有利設定値が設定されていると遊技者が認識したにもかかわらず該認識が誤りであることにより遊技興趣が低下してしまうという問題があり、この点に鑑み、遊技興趣の低下を軽減できる遊技機の提供が求められている。

【0043】

手段A9の遊技機は、

遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当たり遊技状態）に制御可能であり、不利設定値（例えば、1～3）と該不利設定値よりも遊技者にとっての有利度が高い有利設定値（例えば、4～6）とを含む複数の設定値のうちからいずれかの設定値を設定可能な遊技機（例えば、パチンコ遊技機1）であって、

前記有利状態に制御することを決定可能な決定手段（例えば、CPU103が図14に示す特別図柄通常処理を実行する部分）と、

前記決定手段の決定結果にもとづいて、前記有利状態に制御されることを示唆する示唆演出（例えば、リーチ演出）を、特定演出（例えば、パターンC-E3のカットイン演出）を含む態様と含まない態様にて実行可能な示唆演出実行手段（例えば、演出制御用CPU120が図15-18に示すカットイン演出決定処理を実行した後に図7に示す可変表示中演出処理を実行する部分）と、

を備え、

前記示唆演出実行手段は、

前記不利設定値に設定されており、かつ前記決定手段によって前記有利状態に制御されることが決定されていないときには、前記特定演出を含む態様の前記示唆演出を実行不能であり（例えば、図15-21（B）に示すように、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が1～3のいずれかであり、かつ可変表示結果がはずれである場合は、カットイン演出をパターンC-E3で実行不能な部分）、

前記有利設定値に設定されており、かつ前記決定手段によって前記有利状態に制御されることが決定されていないときには、前記特定演出を含む態様の前記示唆演出を実行可能であり（例えば、図15-21（C）～図15-21（E）に示すように、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであり、かつ可変表示結果がはずれである場合は、カットイン演出をパターンC-E3で実行可能な部分）、

前記示唆演出が実行されたときに、前記有利状態に制御されないことが一旦示唆された後に前記有利状態に制御されることが報知される特別パターン（図15-6に示す復活演出を実行するスーパーリーチγ大当たりの変動パターン（PB1-5））を有し、

前記特別パターンにて前記有利状態に制御される場合において、前記特定演出を含む態様の前記示唆演出が実行される割合は、前記特定演出を含まない態様の前記示唆演出が実行される割合よりも低い（例えば、図15-21（A）～図15-21（E）に示すように、復活演出を実行するスーパーリーチγ大当たりの変動パターンにて可変表示を実行する場合は、復活演出を実行しないスーパーリーチγ大当たりの変動パターンにて可変表示を実行する場合よりもカットイン演出をパターンC-E3で実行する割合が低く設定されている部分）

ことを特徴としている。

この特徴によれば、特定演出を含む示唆演出が実行されて有利状態に制御されないことが示唆された場合に、有利設定値が設定されていると遊技者が認識したにもかかわらず特別パターンにて有利状態に制御されることが報知されることにより、該認識が誤りとなることによる遊技興趣の低下を軽減できる。

【0044】

手段A10の遊技機は、手段A9に記載の遊技機であって、

前記有利設定値は、第1有利設定値（例えば、4や5）と該第1有利設定値よりも遊技者にとって有利な第2有利設定値（例えば、6）とを含み、

前記示唆演出実行手段は、前記第2有利設定値が設定されているときに前記決定手段によって前記有利状態に制御されることが決定されていない場合には、前記第1有利設定値が設定されているときに前記決定手段によって前記有利状態に制御されることが決定されていない場合よりも高い割合で前記特定演出を含む態様の前記示唆演出を実行可能である（例えば、図15-21（C）～図15-21（E）に示すように、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであるときにスーパーリーチγはずれの変動パ

10

20

30

40

50

ターンにて可変表示が実行される場合には、パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値が 6 である場合が最もカットイン演出がパターン C I - 3 にて実行される割合が高く、パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値が 4 である場合が最もカットイン演出がパターン C I - 3 にて実行される割合が低く設定されている部分)

ことを特徴としている。

この特徴によれば、特定演出が高い頻度で実行されて有利状態に制御されないことにより第 2 有利設定値が設定されていることに対して遊技者を期待させることができるので、遊技興趣を向上できる。

【 0 0 4 5 】

手段 A 1 1 の遊技機は、手段 A 9 または手段 A 1 0 に記載の遊技機であって、

いずれの設定値が設定されている場合であっても、前記決定手段によって前記有利状態に制御されることが決定されているときに前記特別パターンが実行される割合は同一である（例えば、図 1 5 - 1 3 (A) に示すように、可変表示結果が大当たりとなる場合は、C P U 1 0 3 がパチンコ遊技機 1 に設定されている設定値にかかわらず 1 の大当たり変動パターン判定テーブルを用いて変動パターンを決定する部分)

ことを特徴としている。

この特徴によれば、特別パターンが実行される割合は、有利状態に制御されることが決定される割合を決める設定値に追従するため、特別パターンに遊技者を注目させることができるので、遊技興趣を向上できる。

【 0 0 4 6 】

手段 A 1 2 の遊技機は、手段 A 9 ~ 手段 A 1 1 のいずれかに記載の遊技機であって、

前記特定演出とは異なる演出であって前記有利状態に制御されることを報知する特別演出（例えば、パターン C I - 4 のカットイン演出）を実行可能な特別演出実行手段（例えば、演出制御用 C P U 1 2 0 が図 1 5 - 1 8 に示すカットイン演出決定処理を実行した後図 7 に示す可変表示中演出処理を実行する部分）を備え、

前記有利状態は、第 1 有利状態（例えば、大当たり A や大当たり B の大当たり遊技状態）と該第 1 有利状態よりも遊技者にとって有利な第 2 有利状態（例えば、大当たり C の大当たり遊技状態）とを含み、

前記特別演出が実行されて前記有利状態に制御される場合は、前記第 2 有利状態に制御され（例えば、図 1 5 - 2 1 及び図 1 5 - 2 2 に示すように、カットイン演出がパターン C I - 4 にて実行される場合は、必ず可変表示結果が大当たりとなり大当たり C の大当たり遊技状態に制御される部分）、

前記特定演出を含む態様の前記示唆演出が実行されて前記有利状態に制御される場合は、前記第 1 有利状態または前記第 2 有利状態に制御される（例えば、図 1 5 - 2 1 及び図 1 5 - 2 2 に示すように、カットイン演出がパターン C I - 3 にて実行される場合は、可変表示結果が大当たりとなると、大当たり A、大当たり B、大当たり C のいずれかの大当たり遊技状態に制御される部分）

ことを特徴としている。

この特徴によれば、特別演出が実行されるか否かに遊技者を注目させることができるとともに、特定演出を含む示唆演出が実行されて第 2 有利状態に制御される場合があるので、有利設定値が設定されている場合に特定演出を含む示唆演出が実行されて有利状態に制御されない場合の遊技興趣の低下を低減できる。

【 0 0 4 7 】

手段 A 1 3 の遊技機は、手段 A 9 ~ 手段 A 1 2 のいずれかに記載の遊技機であって、

前記示唆演出実行手段は、前記特定演出を含む態様と含まない態様にて実行可能な第 1 示唆演出（例えば、スーパーリーチ γ のリーチ演出）に加えて、前記特定演出と同様の態様である類似演出（例えば、味方キャラクタと敵キャラクタとが戦うバトル演出）を含む態様にて実行可能な第 2 示唆演出（例えば、スーパーリーチ δ のリーチ演出）を、前記示唆演出として実行可能であり、

前記第 2 示唆演出が実行される場合は、前記有利状態に制御される（例えば、図 1 5 -

10

20

30

40

50

２２に示すように、スーパーリーチδのリーチ演出中にカットイン演出がパターンＣＩ－３にて実行される場合は、必ず可変表示結果が大当たりとなる部分)

ことを特徴としている。

この特徴によれば、示唆演出のバリエーションが増えるとともに、実行される示唆演出が、特定演出と同様の類似演出が実行され、有利状態に制御される第２示唆演出であるか否かに注目させることができるので、遊技興趣を向上できる。

【００４８】

手段Ａ１４の遊技機は、手段Ａ９～手段Ａ１３のいずれかに記載の遊技機であって、

前記示唆演出実行手段は、前記特別パターンにて前記有利状態に制御される場合において、前記特定演出を含む態様の前記示唆演出を実行しない（例えば、変形例２０８ＳＧ－１として図１５－３３（Ａ）～図１５－３３（Ｅ）に示すように、復活演出を実行する変動パターン（ＰＢ１－５）にて可変表示を実行する場合は、カットイン演出をパターンＣＩ－３にて実行不可能な部分）

ことを特徴としている。

この特徴によれば、特定演出を含む示唆演出が実行されて有利状態に制御されないことが示唆された場合に、有利設定値が設定されていると遊技者が認識したにもかかわらず特別パターンとして有利状態に制御されることが報知されることによる遊技興趣の低下を防止できる。

【００４９】

手段Ａ１５の遊技機は、手段Ａ９～手段Ａ１４のいずれかに記載の遊技機であって、

前記特定演出とは異なる演出であって前記有利状態に制御されることを示唆する所定演出（例えば、予告演出）として、第１所定演出（例えば、パターンＹＥ－１とパターンＹＥ－２）と該第１所定演出よりも前記有利状態に制御されることを高い割合で示唆する第２所定演出（例えば、パターンＹＥ－３）とを実行可能な所定演出実行手段（例えば、演出制御用ＣＰＵ１２０が図１５－２５に示す予告演出決定処理を実行した後に図７に示す可変表示中演出処理を実行する部分）を備え、

前記所定演出実行手段は、前記有利設定値に設定されており、かつ前記決定手段によって前記有利状態に制御されることが決定されていないときに、前記特定演出を含む態様にて前記示唆演出が実行される場合には、前記第２所定演出の実行を制限する（例えば、図１５－２６に示すように、パチンコ遊技機１に設定値として４～６のいずれかが設定されており、カットイン演出が大当たり期待度の高い演出パターンであるパターンＣＩ－３での実行が決定している場合は、予告演出を実行する場合、大当たり期待度の高いパターンＹＥ－３とパターンＹＥ－４を除く演出パターン（パターンＹＥ－１とパターンＹＥ－２）から演出パターンを決定する）

ことを特徴としている。

この特徴によれば、有利状態に制御されないにもかかわらず、特定演出と第２所定演出とが実行されることにより有利状態に制御されることに対する遊技者の期待感を過度に高めてしまうことを防止できる。

【００５０】

手段Ａ１６の遊技機は、手段Ａ９～手段Ａ１５のいずれかに記載の遊技機であって、

前記特定演出とは異なる演出であって前記有利状態に制御されることを報知する特殊演出（例えば、パターンＹＥ－４の予告演出）を実行可能な特殊演出実行手段（例えば、演出制御用ＣＰＵ１２０が図１５－２５に示す予告演出決定処理を実行した後に図７に示す可変表示中演出処理を実行する部分）を備え、

前記特殊演出実行手段は、前記有利状態に制御される場合に前記特定演出を含む態様の前記示唆演出が実行されるときには、前記特殊演出の実行を制限する（例えば、図１５－２６（Ａ）に示すように、可変表示結果が大当たりであり、カットイン演出が大当たり期待度の高い演出パターンであるパターンＣＩ－３やパターンＣＩ－４での実行が決定しているときは、予告演出を実行する場合、大当たり期待度の高いパターンＹＥ－３とパターンＹＥ－４を除く演出パターン（パターンＹＥ－１とパターンＹＥ－２）から演出パターンを決

10

20

30

40

50

定する部分)

ことを特徴としている。

この特徴によれば、特定演出が実行される際に特殊演出が実行されることにより予め有利状態に制御されることが遊技者に認識されてしまうことを防ぐことができるので、有利状態に制御されるか否かに対して遊技者を注目させることができ、遊技興趣を向上できる。

【0051】

手段A17の遊技機は、手段A9～手段A16のいずれかに記載の遊技機であって、

前記有利状態とは異なる遊技状態として、第1遊技状態（例えば、低確低ベース状態と低確高ベース状態）と、該第1遊技状態よりも遊技者にとって有利な第2遊技状態（例えば、高確高ベース状態）と、に制御可能な遊技制御手段（例えば、CPU103が図14に示す特別図柄プロセス処理を実行する部分）を備え、

前記示唆演出実行手段は、前記第1遊技状態と前記第2遊技状態とで前記示唆演出を実行可能であり（例えば、図15-13及び図15-14に示すように、CPU103が遊技状態にかかわらずスーパーリーチの変動パターン選択可能な部分）、

前記有利設定値に設定されており、かつ前記決定手段によって前記有利状態に制御されることが決定されていないときに、前記第2遊技状態で前記特定演出を含む態様の前記示唆演出が実行される割合は、前記第1遊技状態で前記特定演出を含む態様の前記示唆演出が実行される割合よりも高い（例えば、図15-21に示すように、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであり、且つ変動パターンがスーパーリーチγはずれの変動パターン（PA2-4）である場合は、設定値が同一値であれば、高確高ベース状態においてカットイン演出がパターンCIE-3にて実行される割合が、低確低ベース状態や低確高ベース状態においてカットイン演出がパターンCIE-3にて実行される割合よりも高く設定されている部分）

ことを特徴としている。

この特徴によれば、第2遊技状態においては、有利設定値が設定されていることを示す有利状態に制御されない特定演出を含む態様の示唆演出が第1遊技状態よりも実行されやすくなるので、第2遊技状態の興趣を向上できる。

【0052】

尚、本発明は、本発明の請求項に記載された発明特定事項のみを有するものであって良いし、本発明の請求項に記載された発明特定事項とともに該発明特定事項以外の構成を有するものであっても良い。

【図面の簡単な説明】

【0053】

【図1】この実施の形態におけるパチンコ遊技機の正面図である。

【図2】パチンコ遊技機に搭載された各種の制御基板などを示す構成図である。

【図3】遊技制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。

【図4】遊技制御用タイマ割込み処理の一例を示すフローチャートである。

【図5】第1特別図柄プロセス処理の一例を示すフローチャートである。

【図6】役物制御プロセス処理の一例を示すフローチャートである。

【図7】演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。

【図8】演出制御プロセス処理の一例を示すフローチャートである。

【図9-1】パチンコ遊技機の回路構成例を示すブロック図である。

【図9-2】払出制御基板の回路構成を示すブロック図である。

【図9-3】パチンコ遊技機を示す背面図である。

【図9-4】表示結果判定テーブルを示す説明図である。

【図9-5】（1）～（3）は、設定示唆演出の演出態様を示す説明図、（4）は、設定示唆演出の演出態様を決定するためのテーブルを示す説明図である。

【図9-6】電源投入時処理の一例を示すフローチャートである。

【図9-7】電源投入時処理の一例を示すフローチャートである。

【図9-8】電源投入時処理の一例を示すフローチャートである。

【図 9-9】セキュリティ信号の出力期間を示すタイミング図である。

【図 9-10】電源投入時に設定変更中フラグがセットされているときの報知例を示す説明図である。

【図 9-11】電源投入時処理の一例を示すフローチャートである。

【図 9-12】(1)は、設定値確定前に電源断が発生した場合の制御、(2)は、設定値確定後に電源断が発生した場合の制御を示す説明図である。

【図 10-1】特徴部 052IWにおける特別可変入賞球装置の構成例を示す説明図である。

【図 10-2】特徴部 052IWにおける各種の制御基板などを示す構成図である。

【図 10-3】設定値ごとの大当たり確率および小当たり確率を説明するための説明図である。

10

【図 10-4】設定値ごとの大当たり確率および小当たり確率を説明するための説明図である。

【図 10-5】大当たり種別判定テーブルを示す説明図である。

【図 10-6】小当たり種別判定テーブルを示す説明図である。

【図 10-7】特別図柄および飾り図柄の変動パターン(変動時間)を示す説明図である。

【図 10-8】特別図柄および飾り図柄の変動パターン(変動時間)を示す説明図である。

【図 10-9】特別図柄および飾り図柄の変動パターン(変動時間)を示す説明図である。

【図 10-10】小当たり用変動パターンテーブルの具体例を示す説明図である。

【図 10-11】特別可変入賞球装置の開放パターンを説明するための説明図である。

【図 10-12】KT状態における可変入賞球装置および特殊可変入賞球装置の開放パターンを説明するための説明図である。

20

【図 10-13】KT状態における可変入賞球装置および特殊可変入賞球装置の開放パターンを説明するための説明図である。

【図 10-14】KT状態における可変入賞球装置および特殊可変入賞球装置の開放パターンを説明するための説明図である。

【図 10-15】演出制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。

【図 10-16】演出制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。

【図 10-17】第1特別図柄通常処理を示すフローチャートである。

【図 10-18】第1変動パターン設定処理を示すフローチャートである。

【図 10-19】第1特別図柄変動処理を示すフローチャートである。

【図 10-20】第1特別図柄停止処理を示すフローチャートである。

30

【図 10-21】第2特別図柄通常処理を示すフローチャートである。

【図 10-22】第2特別図柄変動処理を示すフローチャートである。

【図 10-23】第2特別図柄停止処理を示すフローチャートである。

【図 10-24】役物制御通常処理を示すフローチャートである。

【図 10-25】ゲート通過待ち処理を示すフローチャートである。

【図 10-26】大当たり開放中処理を示すフローチャートである。

【図 10-27】大当たり終了処理を示すフローチャートである。

【図 10-28】小当たり終了処理を示すフローチャートである。

【図 10-29】遊技状態の遷移の仕方を説明するための説明図である。

【図 10-30】普通図柄プロセス処理の一例を示すフローチャートである。

40

【図 10-31】普通図柄通常処理を示すフローチャートである。

【図 10-32】普通図柄停止処理を示すフローチャートである。

【図 10-33】普通電動役物開放前処理を示すフローチャートである。

【図 10-34】コマンド解析処理の具体例を示すフローチャートである。

【図 10-35】コマンド解析処理の具体例を示すフローチャートである。

【図 10-36】コマンド解析処理の具体例を示すフローチャートである。

【図 10-37】コマンド解析処理の具体例を示すフローチャートである。

【図 10-38】オーバー入賞時示唆演出処理を示すフローチャートである。

【図 10-39】オーバー入賞時示唆演出決定テーブルの具体例を示す説明図である。

【図 10-40】小当たり入賞時示唆演出処理を示すフローチャートである。

50

【図10-41】小当り入賞時示唆演出決定テーブルの具体例を示す説明図である。
【図10-42】賞球数表示示唆演出処理を示すフローチャートである。
【図10-43】賞球数表示示唆演出決定テーブルの具体例を示す説明図である。
【図10-44】賞球数強調演出処理を示すフローチャートである。
【図10-45】賞球数強調演出決定テーブルの具体例を示す説明図である。
【図10-46】可変表示開始待ち処理を示すフローチャートである。
【図10-47】可変表示開始設定処理を示すフローチャートである。
【図10-48】設定値示唆演出決定テーブルの具体例を説明するための説明図である。
【図10-49】小当りRUSH継続示唆演出決定テーブルの具体例を説明するための説明図である。

10

【図10-50】可変表示中演出処理を示すフローチャートである。
【図10-51】特図当り待ち処理を示すフローチャートである。
【図10-52】特図当り待ち処理を示すフローチャートである。
【図10-53】エンディング演出処理を示すフローチャートである。
【図10-54】設定値示唆演出の演出態様を説明するための説明図である。
【図10-55】小当りRUSH継続示唆演出の演出態様を説明するための説明図である。
【図10-56】右打ち報知の表示態様を説明するための説明図である。

【図10-57】オーバー入賞時示唆演出、小当り入賞時示唆演出、および賞球数表示示唆演出の演出態様を説明するための説明図である。

【図10-58】オーバー入賞時示唆演出、小当り入賞時示唆演出、および賞球数表示示唆演出の演出態様を説明するための説明図である。

20

【図10-59】一方の特別図柄の変動表示の実行中に他方の特別図柄の変動表示において小当りとなった場合の変動表示の制御を説明するための説明図である。

【図10-60】変形例1における第1特別図柄変動処理を示すフローチャートである。

【図10-61】変形例1における第2特別図柄変動処理を示すフローチャートである。

【図10-62】変形例1における一方の特別図柄の変動表示の実行中に他方の特別図柄の変動表示において小当りとなった場合の変動表示の制御を説明するための説明図である。

【図10-63】変形例2における第1特別図柄変動処理を示すフローチャートである。

【図10-64】変形例2における第2特別図柄変動処理を示すフローチャートである。

【図10-65】変形例2における一方の特別図柄の変動表示の実行中に他方の特別図柄の変動表示において小当りとなった場合の変動表示の制御を説明するための説明図である。

30

【図10-66】変形例3における第2特別図柄変動処理を示すフローチャートである。

【図10-67】変形例3における一方の特別図柄の変動表示の実行中に他方の特別図柄の変動表示において小当りとなった場合の変動表示の制御を説明するための説明図である。

【図10-68】変形例4における第1特別図柄変動処理を示すフローチャートである。

【図10-69】変形例4における第2特別図柄変動処理を示すフローチャートである。

【図11-1】低確率状態における保留表示及びアクティブ表示の具体例を示す説明図である。

【図11-2】高確率状態における保留表示及びアクティブ表示の具体例を示す説明図である。

40

【図11-3】曇りモードにおける各種演出に関する演出態様の具体例を示す説明図である。

【図11-4】雨モードにおける各種演出に関する演出態様の具体例を示す説明図である。

【図11-5】台風モードにおける各種演出に関する演出態様の具体例を示す説明図である。

【図11-6】大当り遊技状態における各種演出の実行タイミングを示すタイムチャートである。

【図11-7】大当り遊技状態における各種演出に関する演出態様の具体例を示す説明図である。

【図11-8】高確／第1KT状態における各種演出の実行タイミングを示すタイムチャ

50

ートである。

【図 1 1 - 9】高確／第 1 K T 状態における各種演出に関する演出態様の具体例を示す説明図である。

【図 1 1 - 1 0】高確／第 2 K T 状態における各種演出の実行タイミングを示すタイムチャートである。

【図 1 1 - 1 1】高確／第 2 K T 状態における各種演出に関する演出態様の具体例を示す説明図である。

【図 1 2】パチンコ遊技機に搭載された各種の制御基板などを示す構成図である。

【図 1 3】遊技制御用タイマ割込み処理の一例を示すフローチャートである。

【図 1 4】特別図柄プロセス処理の一例を示すフローチャートである。

10

【図 1 5 - 1】パチンコ遊技機の正面図である。

【図 1 5 - 2】パチンコ遊技機に搭載された各種の制御基板などを示す構成図である。

【図 1 5 - 3】パチンコ遊技機の背面斜視図である。

【図 1 5 - 4】(A)，(B)は、演出制御コマンドを例示する図である。

【図 1 5 - 5】各乱数を示す説明図である。

【図 1 5 - 6】変動パターンを例示する図である。

【図 1 5 - 7】表示結果判定テーブルを示す説明図である。

【図 1 5 - 8】表示結果判定テーブルを示す説明図である。

【図 1 5 - 9】表示結果判定テーブルを示す説明図である。

【図 1 5 - 1 0】表示結果判定テーブルを示す説明図である。

20

【図 1 5 - 1 1】大当たり種別判定テーブルを示す説明図である。

【図 1 5 - 1 2】各種大当たりの内容を示す説明図である。

【図 1 5 - 1 3】(A)は大当たり用変動パターン判定テーブルを示す説明図であり、(B)は小当たり用変動パターン判定テーブルを示す説明図である。

【図 1 5 - 1 4】はずれ用変動パターン判定テーブルを示す説明図である。

【図 1 5 - 1 5】始動入賞判定処理を示すフローチャートである。

【図 1 5 - 1 6】入賞時乱数値判定処理を示すフローチャートである。

【図 1 5 - 1 7】可変表示開始設定処理を示すフローチャートである。

【図 1 5 - 1 8】カットイン演出決定処理を示すフローチャートである。

【図 1 5 - 1 9】カットイン演出決定処理を示すフローチャートである。

30

【図 1 5 - 2 0】カットイン演出決定処理を示すフローチャートである。

【図 1 5 - 2 1】カットイン演出の実行決定割合及び演出パターンの決定割合を示す説明図である。

【図 1 5 - 2 2】カットイン演出の実行決定割合及び演出パターンの決定割合を示す説明図である。

【図 1 5 - 2 3】カットイン演出の演出パターンの説明図である。

【図 1 5 - 2 4】カットイン演出のパターン C I - 3 での実行決定割合を示す説明図である。

【図 1 5 - 2 5】予告演出決定処理を示すフローチャートである。

【図 1 5 - 2 6】予告演出の実行割合及び演出パターンの決定割合を示す説明図と、予告演出の演出パターンの説明図である。

40

【図 1 5 - 2 7】変動パターン毎の予告演出実行可能期間の説明図である。

【図 1 5 - 2 8】変動パターン毎の予告演出実行可能期間の説明図である。

【図 1 5 - 2 9】変動パターン毎の予告演出実行可能期間の説明図である。

【図 1 5 - 3 0】可変表示中における予告演出の演出態様を示す図である。

【図 1 5 - 3 1】可変表示中におけるカットイン演出の演出態様を示す図である。

【図 1 5 - 3 2】変動パターン毎の可変表示結果の報知態様を示す図である。

【図 1 5 - 3 3】変形例 2 0 8 S G - 1 におけるカットイン演出の実行決定割合及び演出パターンの決定割合を示す説明図である。

【図 1 5 - 3 4】変形例 2 0 8 S G - 2 におけるカットイン演出の実行決定割合及び演出

50

パターンの決定割合を示す説明図である。

【図 15-35】変形例 208SG-3 におけるカットイン演出の実行決定割合及び演出パターンの決定割合を示す説明図である。

【図 15-36】変形例 208SG-4 における予告演出の実行決定割合及び演出パターンの決定割合を示す説明図である。

【図 15-37】変形例 208SG-5 におけるカットイン演出の実行決定割合及び演出パターンの決定割合を示す説明図である。

【図 15-38】変形例 208SG-6 におけるカットイン演出の実行決定割合及び演出パターンの決定割合を示す説明図である。

【図 15-39】変形例 208SG-7 における設定値示唆演出の実行可能期間と設定値示唆演出の実行決定割合を示す図である。

10

【発明を実施するための形態】

【0054】

(基本説明)

まず、パチンコ遊技機 1 の基本的な構成及び制御（一般的なパチンコ遊技機の構成及び制御でもある。）について説明する。

【0055】

(パチンコ遊技機 1 の構成等)

図 1 は、パチンコ遊技機 1 の正面図であり、主要部材の配置レイアウトを示す。パチンコ遊技機（遊技機）1 は、大別して、遊技盤面を構成する遊技盤（ゲージ盤）2 と、遊技盤 2 を支持固定する遊技機用枠（台枠）3 とから構成されている。遊技盤 2 には、遊技領域が形成され、この遊技領域には、遊技媒体としての遊技球が、所定の打球発射装置から発射されて打ち込まれる。

20

【0056】

遊技盤 2 の所定位置（図 1 に示す例では、遊技領域の右側方）には、複数種類の特別識別情報としての特別図柄（特図ともいう）の可変表示（特図ゲームともいう）を行う第 1 特別図柄表示装置 4 A 及び第 2 特別図柄表示装置 4 B が設けられている。これらは、それぞれ、7 セグメントの LED などからなる。特別図柄は、「0」～「9」を示す数字や「ー」などの点灯パターンなどにより表される。特別図柄には、LED を全て消灯したパターンが含まれてもよい。

30

【0057】

なお、特別図柄の「可変表示」とは、例えば、複数種類の特別図柄を変動可能に表示することである（後述の他の図柄についても同じ）。変動としては、複数の図柄の更新表示、複数の図柄のスクロール表示、1 以上の図柄の変形、1 以上の図柄の拡大／縮小などがある。特別図柄や後述の普通図柄の変動では、複数種類の特別図柄又は普通図柄が更新表示される。後述の飾り図柄の変動では、複数種類の飾り図柄がスクロール表示又は更新表示されたり、1 以上の飾り図柄が変形や拡大／縮小されたりする。なお、変動には、ある図柄を点滅表示する態様も含まれる。可変表示の最後には、表示結果として所定の特別図柄が停止表示（導出又は導出表示などともいう）される（後述の他の図柄の可変表示についても同じ）。なお、可変表示を変動表示、変動と表現する場合がある。

40

【0058】

なお、第 1 特別図柄表示装置 4 A において可変表示される特別図柄を「第 1 特図」ともいい、第 2 特別図柄表示装置 4 B において可変表示される特別図柄を「第 2 特図」ともいう。また、第 1 特図を用いた特図ゲームを「第 1 特図ゲーム」といい、第 2 特図を用いた特図ゲームを「第 2 特図ゲーム」ともいう。なお、特別図柄の可変表示を行う特別図柄表示装置は 1 種類であってもよい。

【0059】

また、第 1 特別図柄表示装置 4 A 及び第 2 特別図柄表示装置 4 B の下方には、遊技領域の右方を狙って発射操作を行う右打ち操作を促すための右打ち表示器 26 が設けられている。なお、右打ち表示器 26 は、例えば、LED によって構成され、主基板 11 に搭載さ

50

れた遊技制御用マイクロコンピュータ１００（具体的には、ＣＰＵ１０３）によって点灯制御される（図２参照）。

【００６０】

遊技盤２における遊技領域の中央付近には画像表示装置５が設けられている。画像表示装置５は、例えばＬＣＤ（液晶表示装置）や有機ＥＬ（Electro Luminescence）等から構成され、各種の演出画像を表示する。画像表示装置５は、プロジェクタ及びスクリーンから構成されていてもよい。画像表示装置５には、各種の演出画像が表示される。

【００６１】

例えば、画像表示装置５の画面上では、第１特図ゲームや第２特図ゲームと同期して、特別図柄とは異なる複数種類の装飾識別情報としての飾り図柄（数字などを示す図柄など）の可変表示が行われる。ここでは、第１特図ゲーム又は第２特図ゲームに同期して、「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア５Ｌ、５Ｃ、５Ｒにおいて飾り図柄が可変表示（例えば上下方向のスクロール表示や更新表示）される。なお、同期して実行される特図ゲーム及び飾り図柄の可変表示を総称して単に可変表示ともいう。

10

【００６２】

また、例えば、画像表示装置５の画面上には、実行が保留されている可変表示に対応する保留表示を表示するための表示エリアが設けられている。本例では、第１特図の可変表示に対応する保留表示を表示するための第１保留表示領域５Ａと、第２特図の可変表示に対応する保留表示を表示するための第２保留表示領域５Ｂとが設けられている。なお、画像表示装置５の画面上には、実行中の可変表示に対応するアクティブ表示を表示するための表示エリアが設けられていてもよい。保留表示及びアクティブ表示を総称して可変表示に対応する可変表示対応表示ともいう。

20

【００６３】

また、画像表示装置５の右方には、右打ち操作を促すための右打ち報知用ＬＥＤ３７が設けられている。なお、右打ち報知用ＬＥＤ３７は、演出制御基板１２に搭載された演出制御用ＣＰＵ１２０によって点灯制御される（図２参照）。

【００６４】

保留されている可変表示の数は保留記憶数ともいう。第１特図ゲームに対応する保留記憶数を第１保留記憶数、第２特図ゲームに対応する保留記憶数を第２保留記憶数ともいう。また、第１保留記憶数と第２保留記憶数との合計を合計保留記憶数ともいう。

30

【００６５】

また、遊技盤２の所定位置には、複数のＬＥＤを含んで構成された第１保留表示器２５Ａと第２保留表示器２５Ｂとが設けられ、第１保留表示器２５Ａは、ＬＥＤの点灯個数によって、第１保留記憶数を表示し、第２保留表示器２５Ｂは、ＬＥＤの点灯個数によって、第２保留記憶数を表示する。

【００６６】

画像表示装置５の下方には、第１始動入賞口を有する入賞球装置６Ａが設けられている。第１始動入賞口に入賞した遊技球は、遊技盤２の背面に導かれ、第１始動口スイッチ２２Ａによって検出される。第１始動口スイッチ２２Ａによって遊技球が検出された場合には、この検出情報に基づき、所定個数（１個）の遊技球が賞球として払い出される。

40

【００６７】

また、第１始動入賞口の右方には、釘の列１９が設けられており、遊技領域の右方から流下した遊技球が第１始動入賞口が設けられた領域に進入しないように構成されている。このように、遊技領域の右方から流下した遊技球が進入することを防止する釘の列１９が設けられていることによって、遊技領域の左方を狙って遊技球を発射操作（いわゆる左打ち操作）した場合にのみ第１始動入賞口に遊技球が入賞可能に構成されている。

【００６８】

なお、本例では、釘の列１９が設けられていることにより左打ち操作した場合にのみ第１始動入賞口に遊技球が入賞可能に構成される場合を示しているが、そのような態様にかぎられない。例えば、第１始動入賞口が遊技領域の左方に設けられていることによって左

50

打ち操作した場合にのみ第1始動入賞口に遊技球が入賞可能に構成してもよいし、第1始動入賞口が遊技領域の左方に設けられているとともに釘の列19も設けることによって左打ち操作した場合にのみ第1始動入賞口に遊技球が入賞可能に構成してもよい。

【0069】

画像表示装置5の右方には、通過ゲート41が設けられている。通過ゲート41を通過した遊技球は、ゲートスイッチ21によって検出される。

【0070】

通過ゲート41の下方には、大入賞口を形成する特別可変入賞球装置7が設けられている。特別可変入賞球装置7は、やや傾斜した状態で左右方向に延在し、遊技球が流下する流路の底面として形成される板状の底面部材を、前後方向に進退移動させることにより、底面部材の下方に位置する大入賞口に遊技球が入賞可能な開状態（開放状態ともいう）と遊技球が入賞不能な閉状態（閉鎖状態ともいう）とに変化させる。特別可変入賞球装置7は、第1特別図柄表示装置4Aまたは第2特別図柄表示装置4Bに特定表示結果（大当り図柄）が導出表示されたときに生起する大当り遊技状態において、底面部材を前方に向けて前進移動させた閉状態から底面部材を後方に向けて後退移動させ、入賞領域となる大入賞口を開状態とする開放制御を実行する。

【0071】

特別可変入賞球装置7の下方には、小当り用の特殊入賞口を形成する特殊可変入賞球装置17と、第2始動入賞口を有する可変入賞球装置6Bとが設けられており、図1に示すように、左側に特殊可変入賞球装置17が配置され、その右側に隣り合うように可変入賞球装置6Bが配置されている。これら特殊可変入賞球装置17および可変入賞球装置6Bは、やや傾斜した状態で左右方向に延在し、遊技球が流下する流路の底面として形成される板状の底面部材を、前後方向に進退移動させることにより、底面部材の下方に位置する特殊入賞口や第2始動入賞口に遊技球が入賞可能な開状態（開放状態ともいう）と遊技球が入賞不能な閉状態（閉鎖状態ともいう）とに変化させる。特殊可変入賞球装置17は、第1特別図柄表示装置4Aまたは第2特別図柄表示装置4Bに所定表示結果（小当り図柄）が導出表示されたときに生起する小当り遊技状態において、底面部材を前方に向けて前進移動させた閉状態から底面部材を後方に向けて後退移動させ、入賞領域となる特殊入賞口を開状態とする開放制御を実行する。また、可変入賞球装置6Bは、普通図柄表示器20に当り図柄が導出表示されたときに、底面部材を前方に向けて前進移動させた閉状態から底面部材を後方に向けて後退移動させ、入賞領域となる第2始動入賞口を開状態とする開放制御を実行する。

【0072】

なお、本例では、特別可変入賞球装置7と特殊可変入賞球装置17と可変入賞球装置6Bとは、同様の構造を有するように形成されている。また、図1に示すように、特別可変入賞球装置7は底面部材が左上から右下に向けてやや傾斜する態様で形成されているので、特別可変入賞球装置7上に落下した遊技球は、特別可変入賞球装置7が閉状態であれば特別可変入賞球装置7上を左上から右下に向けて移動して行き、その下の可変入賞球装置6B上に落下する。

【0073】

また、本例では、可変入賞球装置6Bと比較して特殊可変入賞球装置17の方が若干大きい。また、図1に示すように、特殊可変入賞球装置17および可変入賞球装置6Bは底面部材が右上から左下に向けてやや傾斜する態様で形成されているので、特殊可変入賞球装置17や可変入賞球装置6B上の遊技球は、特殊可変入賞球装置17や可変入賞球装置6Bが閉状態であれば特殊可変入賞球装置17や可変入賞球装置6B上を右上から左下に向けて移動して行く。また、図1に示すように、特殊可変入賞球装置17と可変入賞球装置6Bとは隣り合うように配置されているので、特別可変入賞球装置7に入賞することなく可変入賞球装置6B上に落下した遊技球は、可変入賞球装置6Bの底面部材が後退移動されて第2始動入賞口が開状態となっていれば、遊技球は第2始動入賞口に入賞し、特殊可変入賞球装置17の方には遊技球は流れて行かない。一方、第2始動入賞口が開状態と

10

20

30

40

50

なっていないければ、遊技球は可変入賞球装置 6 B の底面部材の上を移動して特殊可変入賞球装置 1 7 の方に導かれる。この際に特殊可変入賞球装置 1 7 の底面部材が後退移動されて特殊入賞口が開状態となっていれば、遊技球は特殊入賞口に入賞する。さらに、特殊入賞口も開状態となっていないければ、遊技球は特殊可変入賞球装置 1 7 の底面部材の上を移動して、そのままアウト口の方へ落下することになる。

【0074】

また、本例では、特別可変入賞球装置 7、特殊可変入賞球装置 1 7 および可変入賞球装置 6 B には、底面部材上を流下する遊技球の流下速度を低下させる複数の規制片が形成されている。本例では、特別可変入賞球装置 7、特殊可変入賞球装置 1 7 および可変入賞球装置 6 B において規制片が設けられていることによって、左上から右下方向または右上から左下方向に向けて流下する遊技球を前後方向成分の動きをもって蛇行するように、遊技球の流下方向を変更させて、その流下にかかる時間を、規制片がない場合よりも遅延させる。

【0075】

なお、本例では、図 1 に示すように、特殊可変入賞球装置 1 7 が左側に配置され、可変入賞球装置 6 B が右側に配置されているのであるが、特殊可変入賞球装置 1 7 および可変入賞球装置 6 B の底面部材が右上方から左下方に緩やかに傾斜するように形成され、底面部材が後退しておらず閉状態である場合には可変入賞球装置 6 B の方から特殊可変入賞球装置 1 7 の方に向かって遊技球が流れるように構成されているので、この意味で、可変入賞球装置 6 B の方が上流側に設けられ、特殊可変入賞球装置 1 7 の方が下流側に設けられているといえる。

【0076】

大入賞口内には、大入賞口内に入賞した遊技球を検出可能なスイッチ（第 1 カウントスイッチ 2 3）が設けられている。第 1 カウントスイッチ 2 3 によって遊技球が検出された場合には、この検出情報に基づき、所定個数（例えば 1 5 個）の遊技球が賞球として払い出される。従って、特別可変入賞球装置 7 が開放制御されて大入賞口が開状態となれば、遊技者にとって有利な状態となる。その一方で、特別可変入賞球装置 7 が閉鎖制御されて大入賞口が閉状態となれば、大入賞口に遊技球を通過（進入）させて賞球を得ることができないため、遊技者にとって不利な状態となる。

【0077】

特殊入賞口内には、特殊入賞口内に入賞した遊技球を検出可能なスイッチ（第 2 カウントスイッチ 2 4）が設けられている。第 2 カウントスイッチ 2 4 によって遊技球が検出された場合には、この検出情報に基づき、所定個数（例えば 1 0 個）の遊技球が賞球として払い出される。ここで、特殊可変入賞球装置 1 7 において開状態となった特殊入賞口を遊技球が通過（進入）したときには、大入賞口に遊技球が入賞したときと比較すると賞球の数が少ないものの、例えば第 1 始動入賞口 1 や第 2 始動入賞口といった、他の入賞口を遊技球が通過（進入）したときよりも多くの賞球が払い出されるようになっている。従って、特殊可変入賞球装置 1 7 が開放制御されて特殊入賞口が開状態となれば、遊技者にとって有利な状態となる。その一方で、特殊可変入賞球装置 1 7 が閉鎖制御されて特殊入賞口が閉状態となれば、特殊入賞口に遊技球を通過（進入）させて賞球を得ることができないため、遊技者にとって不利な状態となる。

【0078】

また、第 2 始動入賞口内には、第 2 始動入賞口内に入賞した遊技球を検出可能な第 2 始動口スイッチ 2 2 B が設けられている。第 2 始動口スイッチ 2 2 B によって遊技球が検出された場合には、この検出情報に基づき、所定個数（1 個）の遊技球が賞球として払い出される。

【0079】

以下、第 1 始動入賞口と第 2 始動入賞口とを総称して始動入賞口または始動口ということがある。

【0080】

10

20

30

40

50

なお、このパチンコ遊技機 1 では、通過ゲート 4 1、特別可変入賞球装置 7（大入賞口）、可変入賞球装置 6 B（第 2 始動入賞口）、および特殊可変入賞球装置 1 7（特殊入賞口）が遊技領域の右方に設けられているので、大当たり遊技中や K T 状態（いわゆる小当たりタイム）中である場合には、遊技者は遊技領域の右方を狙って発射操作（いわゆる右打ち操作）を行う。

【0081】

遊技盤 2 の所定位置（図 1 に示す例では、遊技領域の左右下方 4 箇所）には、所定の玉受部材によって常に一定の開放状態に保たれる一般入賞口 1 0 が設けられる。この場合には、一般入賞口 1 0 のいずれかに進入したときには、所定個数（例えば 1 0 個）の遊技球が賞球として払い出される。

【0082】

一般入賞口 1 0 を含む各入賞口に遊技球が進入することを「入賞」ともいう。特に、始動口（第 1 始動入賞口、第 2 始動入賞口始動口）への入賞を始動入賞ともいう。

【0083】

遊技盤 2 の所定位置（図 1 に示す例では、遊技領域の左側方）には、普通図柄表示器 2 0 が設けられている。一例として、普通図柄表示器 2 0 は、7 セグメントの L E D などからなり、特別図柄とは異なる複数種類の普通識別情報としての普通図柄の可変表示を行う。普通図柄は、「0」～「9」を示す数字や「ー」などの点灯パターンなどにより表される。普通図柄には、L E D を全て消灯したパターンが含まれてもよい。このような普通図柄の可変表示は、普図ゲームともいう。

【0084】

普通図柄表示器 2 0 の上方には、普図保留表示器 2 5 C が設けられている。普図保留表示器 2 5 C は、例えば 4 個の L E D を含んで構成され、実行が保留されている普図ゲームの数である普図保留記憶数を L E D の点灯個数により表示する。

【0085】

なお、このパチンコ遊技機 1 では、通過ゲート 4 1 を遊技球が通過したことにもとづいて普通図柄の変動表示が実行されることから、通過ゲート 4 1 は普通始動領域としての役割を担っているのであるが、大当たり図柄が導出表示された場合にも通過ゲート 4 1 を遊技球が通過したことにもとづいて大当たり遊技状態に移行するので、通過ゲート 4 1 は作動領域としての役割も担っている。従って、通過ゲート 4 1 は、普通始動領域と作動領域との両方の役割を担う兼用ゲートとして構成されている。

【0086】

遊技盤 2 の表面には、上記の構成以外にも、遊技球の流下方向や速度を変化させる風車及び多数の障害釘が設けられている。遊技領域の最下方には、いずれの入賞口にも進入しなかった遊技球が取り込まれるアウト口が設けられている。

【0087】

遊技機用枠 3 の左右上部位置には、効果音等を再生出力するためのスピーカ 8 L、8 R が設けられており、さらに遊技領域周辺部には、遊技効果用の枠 L E D 9 が設けられている。

【0088】

遊技盤 2 の所定位置（図 1 では図示略）には、演出に応じて動作する可動体 3 2 が設けられている。

【0089】

遊技機用枠 3 の右下部位置には、遊技球を打球発射装置により遊技領域に向けて発射するために遊技者等によって操作される打球操作ハンドル（操作ノブ）3 0 が設けられている。

【0090】

遊技領域の下方における遊技機用枠 3 の所定位置には、賞球として払い出された遊技球や所定の球貸機により貸し出された遊技球を、打球発射装置へと供給可能に保持（貯留）する打球供給皿（上皿）が設けられている。上皿の下方には、上皿満タン時に賞球が払い

10

20

30

40

50

出される打球供給皿（下皿）が設けられている。

【0091】

遊技領域の下方における遊技機用枠3の所定位置には、遊技者が把持して傾倒操作が可能なスティックコントローラ31Aが取り付けられている。スティックコントローラ31Aには、遊技者が押下操作可能なトリガボタンが設けられている。スティックコントローラ31Aに対する操作は、コントローラセンサユニット35A（図2参照）により検出される。

【0092】

遊技領域の下方における遊技機用枠3の所定位置には、遊技者が押下操作などにより所定の指示操作を可能なプッシュボタン31Bが設けられている。プッシュボタン31Bに対する操作は、プッシュセンサ35B（図2参照）により検出される。

10

【0093】

パチンコ遊技機1では、遊技者の動作（操作等）を検出する検出手段として、スティックコントローラ31Aやプッシュボタン31Bが設けられるが、これら以外の検出手段が設けられていてもよい。

【0094】

（遊技の進行の概略）

このパチンコ遊技機1では、遊技状態が通常状態である場合には、遊技者は遊技領域の左方を狙って発射操作（いわゆる左打ち操作）を行うのが有利である。パチンコ遊技機1が備える打球操作ハンドル30への遊技者による回転操作により、左打ち操作を行い、入賞球装置6Aに形成された第1始動入賞口に遊技球が進入すると、第1特別図柄表示装置4Aによる第1特図ゲームが開始される。

20

【0095】

なお、特図ゲームの実行中の期間や、後述する大当たり遊技状態や小当たり遊技状態に制御されている期間に、遊技球が始動入賞口へ進入（入賞）した場合（始動入賞が発生したが当該始動入賞に基づく特図ゲームを直ちに実行できない場合）には、当該進入に基づく特図ゲームは所定の上限数（例えば4）までその実行が保留される。

【0096】

第1特図ゲームにおいて、確定特別図柄として特定の特別図柄（大当たり図柄、例えば「7」、後述の大当たり種別に応じて実際の図柄は異なる。）が停止表示されれば、「大当たり」となる。また、大当たり図柄とは異なる特別図柄（ハズレ図柄、例えば「-」）が停止表示されれば「ハズレ」となる。なお、第1特図ゲームであっても、極低い割合で小当たり図柄が停止表示され、「小当たり」となる場合があるように構成してもよい。

30

【0097】

第1特図ゲームでの表示結果が「大当たり」になった後には、遊技球が通過ゲート41を通過したことを条件として、遊技者にとって有利な有利状態として大当たり遊技状態に制御される。

【0098】

大当たり遊技状態では、特別可変入賞球装置7により形成される大入賞口が所定の態様で開放状態となる。当該開放状態は、所定期間（例えば29秒間や1.8秒間）の経過タイミングと、大入賞口に進入した遊技球の数が所定個数（例えば9個）に達するまでのタイミングと、のうちのいずれか早いタイミングまで継続される。前記所定期間は、1ラウンドにおいて大入賞口を開放することができる上限期間であり、以下、開放上限期間ともいう。このように大入賞口が開放状態となる1のサイクルをラウンド（ラウンド遊技）という。大当たり遊技状態では、当該ラウンドが所定の上限回数（15回や2回）に達するまで繰り返し実行可能となっている。

40

【0099】

大当たり遊技状態においては、遊技者は、遊技球を大入賞口に進入させることで、賞球を得ることができる。従って、大当たり遊技状態は、遊技者にとって有利な状態である。大当たり遊技状態におけるラウンド数が多い程、また、開放上限期間が長い程遊技者にとって有

50

利となる。

【0100】

なお、「大当り」には、大当り種別が設定されている。例えば、大入賞口の開放態様（ラウンド数や開放上限期間）や、大当り遊技状態後の遊技状態（通常状態、確変状態（高確率状態）、K T 状態、高ベース状態など）を複数種類用意し、これらに応じて大当り種別が設定されている。大当り種別として、多くの賞球を得ることができる大当り種別や、賞球の少ない又はほとんど賞球を得ることができない大当り種別が設けられていてもよい。

【0101】

大当り遊技状態が終了した後は、上記大当り種別に応じて、確変状態やK T 状態、高ベース状態に制御されることがある。

【0102】

確変状態（確率変動状態）では、表示結果が「大当り」となる確率が通常状態よりも高くなる確変制御が実行される。確変状態は、特別図柄の変動効率が向上することに加えて「大当り」となりやすい状態であるので、遊技者にとってさらに有利な状態である。

【0103】

K T 状態では、通常状態よりも小当りになりやすいK T 制御が実行される。このパチンコ遊技機1では、小当り遊技状態でもある程度の賞球を得ることができるので、大当り遊技状態と比べると得られる賞球が少ないが遊技者にとって有利な状態である。

【0104】

高ベース状態では、平均的な特図変動時間（特図を変動させる期間）を通常状態よりも短縮させる制御（時短制御）が実行され（時短状態）、普図ゲームで「普図当り」となる確率を通常状態よりも向上させる等により、第2始動入賞口に遊技球が進入しやすくなる制御（高開放制御、高ベース制御）も実行される。高ベース状態は、特別図柄（特に第2特別図柄）の変動効率が向上する状態であるので、遊技者にとって有利な状態である。

【0105】

確変状態やK T 状態、高ベース状態は、所定回数の特図ゲームが実行されたことと、次回の大当り遊技状態が開始されたこと等といった、いずれか1つの終了条件が先に成立するまで継続する。所定回数の特図ゲームが実行されたことが終了条件となるものを、回数切り（回数切り確変等）ともいう。

【0106】

通常状態とは、遊技者にとって有利な大当り遊技状態等の有利状態、確変状態、K T 状態、高ベース状態等の特別状態以外の遊技状態のことであり、特図ゲームにおける表示結果が「大当り」となる確率などのパチンコ遊技機1が、パチンコ遊技機1の初期設定状態（例えばシステムリセットが行われた場合のように、電源投入後に所定の復帰処理を実行しなかったとき）と同一に制御される状態である。

【0107】

大当り遊技を終了し、遊技状態が確変状態やK T 状態、高ベース状態に制御されると、遊技者は遊技領域の右方を狙って発射操作（右打ち操作）を行うのが有利である。パチンコ遊技機1が備える打球操作ハンドル30への遊技者による回転操作により、右打ち操作を行い、遊技球が通過ゲート41を通過すると、普通図柄表示器20による普図ゲームが開始される。なお、前回の普図ゲームの実行中の期間等に遊技球が通過ゲート41を通過した場合（遊技球が通過ゲート41を通過したが当該通過に基づく普図ゲームを直ちに実行できない場合）には、当該通過に基づく普図ゲームは所定の上限数（例えば4）まで保留される。

【0108】

この普図ゲームでは、特定の普通図柄（普図当り図柄）が停止表示されれば、普通図柄の表示結果が「普図当り」となる。その一方、確定普通図柄として、普図当り図柄以外の普通図柄（普図ハズレ図柄）が停止表示されれば、普通図柄の表示結果が「普図ハズレ」となる。「普図当り」となると、可変入賞球装置6Bを所定期間開放状態とする開放制御が行われる（第2始動入賞口が開放状態になる）。

10

20

30

40

50

【0109】

可変入賞球装置6Bに形成された第2始動入賞口に遊技球が進入すると、第2特別図柄表示装置4Bによる第2特図ゲームが開始される。

【0110】

第2特図ゲームにおいて、確定特別図柄として特定の特別図柄（大当り図柄、例えば「7」、後述の大当り種別に応じて実際の図柄は異なる。）が停止表示されれば、「大当り」となり、大当り図柄とは異なる所定の特別図柄（小当り図柄、例えば「2」）が停止表示されれば、「小当り」となる。また、大当り図柄や小当り図柄とは異なる特別図柄（ハズレ図柄、例えば「-」）が停止表示されれば「ハズレ」となる。

【0111】

第2特図ゲームでの表示結果が「大当り」になった後には、遊技球が通過ゲート41を通過したことを条件として、遊技者にとって有利な有利状態として大当り遊技状態に制御される。第2特図ゲームでの表示結果が「小当り」になった後には、小当り遊技状態に制御される。

【0112】

小当り遊技状態では、特殊可変入賞球装置17により形成される特殊入賞口が所定の開放態様で開放状態となる。なお、大当り種別と同様に、「小当り」にも小当り種別を設けてもよい。

【0113】

小当り遊技状態が終了した後は、遊技状態の変更が行われず、特図ゲームの表示結果が「小当り」となる以前の遊技状態に継続して制御される（但し、「小当り」発生時の特図ゲームが、上記回数切りにおける上記所定回数目の特図ゲームである場合には、当然遊技状態が変更される）。

【0114】

なお、遊技状態は、大当り遊技状態中に遊技球が特定領域（例えば、大入賞口内の特定領域）を通過したことに基づいて、変化してもよい。例えば、遊技球が特定領域を通過したとき、その大当り遊技状態後に確変状態に制御してもよい。

【0115】

（演出の進行など）

パチンコ遊技機1では、遊技の進行に応じて種々の演出（遊技の進行状況を報知したり、遊技を盛り上げたりする演出）が実行される。当該演出について以下説明する。なお、当該演出は、画像表示装置5に各種の演出画像を表示することによって行われるが、当該表示に加えて又は代えて、スピーカ8L、8Rからの音声出力、及び／又は、枠LED9の点等／消灯、可動体32の動作等により行われてもよい。

【0116】

遊技の進行に応じて実行される演出として、画像表示装置5に設けられた「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rでは、第1特図ゲーム又は第2特図ゲームが開始されることに対応して、飾り図柄の可変表示が開始される。第1特図ゲームや第2特図ゲームにおいて表示結果（確定特別図柄ともいう。）が停止表示されるタイミングでは、飾り図柄の可変表示の表示結果となる確定飾り図柄（3つの飾り図柄の組合せ）も停止表示（導出）される。

【0117】

飾り図柄の可変表示が開始されてから終了するまでの期間では、飾り図柄の可変表示の態様が所定のリーチ態様となる（リーチが成立する）ことがある。ここで、リーチ態様とは、画像表示装置5の画面上にて停止表示された飾り図柄が後述の大当り組合せの一部を構成しているときに未だ停止表示されていない飾り図柄については可変表示が継続している態様などのことである。

【0118】

また、飾り図柄の可変表示中に上記リーチ態様となったことに対応してリーチ演出が実行される。パチンコ遊技機1では、演出態様に応じて表示結果（特図ゲームの表示結果や

10

20

30

40

50

飾り図柄の可変表示の表示結果)が「大当り」となる割合(大当り信頼度、大当り期待度とも呼ばれる。)が異なる複数種類のリーチ演出が実行される。リーチ演出には、例えば、ノーマルリーチと、ノーマルリーチよりも大当り信頼度の高いスーパーリーチと、がある。

【0119】

特図ゲームの表示結果が「大当り」となるときには、画像表示装置5の画面上において、飾り図柄の可変表示の表示結果として、予め定められた大当り組合せとなる確定飾り図柄が導出される(飾り図柄の可変表示の表示結果が「大当り」となる)。一例として、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおける所定の有効ライン上に同一の飾り図柄(例えば、「7」等)が揃って停止表示される。

10

【0120】

大当り遊技状態の終了後に確変状態に制御される「確変大当り」である場合には、奇数の飾り図柄(例えば、「7」等)が揃って停止表示され、大当り遊技状態の終了後に確変状態に制御されない「非確変大当り(通常大当り)」である場合には、偶数の飾り図柄(例えば、「6」等)が揃って停止表示されるようにしてもよい。この場合、奇数の飾り図柄を確変図柄、偶数の飾り図柄を非確変図柄(通常図柄)ともいう。非確変図柄でリーチ態様となった後に、最終的に「確変大当り」となる昇格演出を実行するようにしてもよい。

【0121】

特図ゲームの表示結果が「小当り」となるときには、画像表示装置5の画面上において、飾り図柄の可変表示の表示結果として、予め定められた小当り組合せとなる確定飾り図柄(例えば、「1 3 5」等)が導出される(飾り図柄の可変表示の表示結果が「小当り」となる)。一例として、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおける所定の有効ライン上にチャンス目を構成する飾り図柄が停止表示される。なお、特図ゲームの表示結果が、一部の大当り種別(小当り遊技状態と同様の態様の大当り遊技状態の大当り種別)の「大当り」となるときと、「小当り」となるときとで、共通の確定飾り図柄が導出表示されてもよい。

20

【0122】

特図ゲームの表示結果が「ハズレ」となる場合には、飾り図柄の可変表示の態様がリーチ態様とならずに、飾り図柄の可変表示の表示結果として、非リーチ組合せの確定飾り図柄(「非リーチハズレ」ともいう。)が停止表示される(飾り図柄の可変表示の表示結果が「非リーチハズレ」となる)ことがある。また、表示結果が「ハズレ」となる場合には、飾り図柄の可変表示の態様がリーチ態様となった後に、飾り図柄の可変表示の表示結果として、大当り組合せでない所定のリーチ組合せ(「リーチハズレ」ともいう)の確定飾り図柄が停止表示される(飾り図柄の可変表示の表示結果が「リーチハズレ」となる)こともある。

30

【0123】

パチンコ遊技機1が実行可能な演出には、上記の可変表示対応表示(保留表示やアクティブ表示)を表示することも含まれる。また、他の演出として、例えば、大当り信頼度を予告する予告演出等が飾り図柄の可変表示中に実行される。予告演出には、実行中の可変表示における大当り信頼度を予告する予告演出や、実行前の可変表示(実行が保留されている可変表示)における大当り信頼度を予告する先読み予告演出がある。先読み予告演出として、可変表示対応表示(保留表示やアクティブ表示)の表示態様を通常とは異なる態様に変化させる演出が実行されるようにしてもよい。

40

【0124】

また、画像表示装置5において、飾り図柄の可変表示中に飾り図柄を一旦仮停止させた後に可変表示を再開させることで、1回の可変表示を擬似的に複数回の可変表示のように見せる疑似連演出を実行するようにしてもよい。

【0125】

大当り遊技状態中にも、大当り遊技状態を報知する大当り中演出が実行される。大当り中演出としては、ラウンド数を報知する演出や、大当り遊技状態の価値が向上することを

50

示す昇格演出が実行されてもよい。また、小当り遊技状態中にも、小当り遊技状態を報知する小当り中演出が実行される。なお、小当り遊技状態中と、一部の大当り種別（小当り遊技状態と同様の態様の大当り遊技状態の大当り種別で、例えばその後の遊技状態を高確状態とする大当り種別）での大当り遊技状態とで、共通の演出を実行することで、現在が小当り遊技状態中であるか、大当り遊技状態中であるかを遊技者に分からないようにしてもよい。そのような場合であれば、小当り遊技状態の終了後と大当り遊技状態の終了後とで共通の演出を実行することで、高確状態であるか低確状態であるかを識別できないようにしてもよい。

【0126】

また、例えば特図ゲーム等が実行されていないときには、画像表示装置5にデモ（デモンストレーション）画像が表示される（客待ちデモ演出が実行される）。

【0127】

（基板構成）

パチンコ遊技機1には、例えば図2に示すような主基板11、演出制御基板12、音声制御基板13、LED制御基板14、中継基板15などが搭載されている。その他にも、パチンコ遊技機1の背面には、例えば払出制御基板、情報端子基板、発射制御基板、電源基板などといった、各種の基板が配置されている。

【0128】

主基板11は、メイン側の制御基板であり、パチンコ遊技機1における上記遊技の進行（特図ゲームの実行（保留の管理を含む）、普図ゲームの実行（保留の管理を含む）、大当り遊技状態、小当り遊技状態、遊技状態など）を制御する機能を有する。主基板11は、遊技制御用マイクロコンピュータ100、スイッチ回路110、ソレノイド回路111などを有する。

【0129】

主基板11に搭載された遊技制御用マイクロコンピュータ100は、例えば1チップのマイクロコンピュータであり、ROM（Read Only Memory）101と、RAM（Random Access Memory）102と、CPU（Central Processing Unit）103と、乱数回路104と、I/O（Input/Output port）105とを備える。

【0130】

CPU103は、ROM101に記憶されたプログラムを実行することにより、遊技の進行を制御する処理（主基板11の機能を実現する処理）を行う。このとき、ROM101が記憶する各種データ（後述の変動パターン、後述の演出制御コマンド、後述の各種決定を行う際に参照される各種テーブルなどのデータ）が用いられ、RAM102がメインメモリとして使用される。RAM102は、その一部または全部がパチンコ遊技機1に対する電力供給が停止しても、所定期間記憶内容が保存されるバックアップRAMとなっている。なお、ROM101に記憶されたプログラムの全部又は一部をRAM102に展開して、RAM102上で実行するようにしてもよい。

【0131】

乱数回路104は、遊技の進行を制御するときに使用される各種の乱数値（遊技用乱数）を示す数値データを更新可能にカウントする。遊技用乱数は、CPU103が所定のコンピュータプログラムを実行することで更新されるもの（ソフトウェアで更新されるもの）であってもよい。

【0132】

I/O105は、例えば各種信号（後述の検出信号）が入力される入力ポートと、各種信号（第1特別図柄表示装置4A、第2特別図柄表示装置4B、普通図柄表示器20、第1保留表示器25A、第2保留表示器25B、普図保留表示器25Cなどを制御（駆動）する信号、ソレノイド駆動信号）を伝送するための出力ポートとを含んで構成される。

【0133】

スイッチ回路110は、遊技球検出用の各種スイッチ（ゲートスイッチ21、始動口スイッチ（第1始動口スイッチ22Aおよび第2始動口スイッチ22B）、カウントスイッ

10

20

30

40

50

チ（第1カウントスイッチ23および第2カウントスイッチ24）からの検出信号（遊技球が通過又は進入してスイッチがオンになったことを示す検出信号など）を取り込んで遊技制御用マイクロコンピュータ100に伝送する。検出信号の伝送により、遊技球の通過又は進入が検出されたことになる。

【0134】

ソレノイド回路111は、遊技制御用マイクロコンピュータ100からのソレノイド駆動信号（例えば、ソレノイド81やソレノイド82、ソレノイド83をオンする信号など）を、普通電動役物用のソレノイド81や大入賞口扉用のソレノイド82、特殊入賞口用のソレノイド83に伝送する。

【0135】

主基板11（遊技制御用マイクロコンピュータ100）は、遊技の進行の制御の一部として、遊技の進行に応じて演出制御コマンド（遊技の進行状況等を指定（通知）するコマンド）を演出制御基板12に供給する。主基板11から出力された演出制御コマンドは、中継基板15により中継され、演出制御基板12に供給される。当該演出制御コマンドには、例えば主基板11における各種の決定結果（例えば、特図ゲームの表示結果（大当たり種別を含む。）、特図ゲームを実行する際に使用される変動パターン（詳しくは後述））、遊技の状況（例えば、可変表示の開始や終了、大入賞口の開放状況、入賞の発生、保留記憶数、遊技状態）、エラーの発生等を指定するコマンド等が含まれる。

【0136】

演出制御基板12は、主基板11とは独立したサブ側の制御基板であり、演出制御コマンドを受信し、受信した演出制御コマンドに基づいて演出（遊技の進行に応じた種々の演出であり、可動体32の駆動、エラー報知、電断復旧の報知等の各種報知を含む）を実行する機能を有する。

【0137】

演出制御基板12には、演出制御用CPU120と、ROM121と、RAM122と、表示制御部123と、乱数回路124と、I/O125とが搭載されている。

【0138】

演出制御用CPU120は、ROM121に記憶されたプログラムを実行することにより、表示制御部123とともに演出を実行するための処理（演出制御基板12の上記機能を実現するための処理であり、実行する演出の決定等を含む）を行う。このとき、ROM121が記憶する各種データ（各種テーブルなどのデータ）が用いられ、RAM122がメインメモリとして使用される。

【0139】

演出制御用CPU120は、コントローラセンサユニット35Aやプッシュセンサ35Bからの検出信号（遊技者による操作を検出したときに出力される信号であり、操作内容を適宜示す信号）に基づいて演出の実行を表示制御部123に指示することもある。

【0140】

表示制御部123は、VDP（Video Display Processor）、CGROM（Character Generator ROM）、VRAM（Video RAM）などを備え、演出制御用CPU120からの演出の実行指示に基づき、演出を実行する。

【0141】

表示制御部123は、演出制御用CPU120からの演出の実行指示に基づき、実行する演出に応じた映像信号を画像表示装置5に供給することで、演出画像を画像表示装置5に表示させる。表示制御部123は、さらに、演出画像の表示に同期した音声出力や、枠LED9および右打ち報知用LED37の点灯／消灯を行うため、音指定信号（出力する音声を指定する信号）を音声制御基板13に供給したり、LED信号（LEDの点灯／消灯態様を指定する信号）をLED制御基板14に供給したりする。また、表示制御部123は、可動体32を動作させる信号を当該可動体32又は当該可動体32を駆動する駆動回路に供給する。

【0142】

10

20

30

40

50

音声制御基板 13 は、スピーカ 8 L、8 R を駆動する各種回路を搭載しており、当該音指定信号に基づきスピーカ 8 L、8 R を駆動し、当該音指定信号が指定する音声をスピーカ 8 L、8 R から出力させる。

【0143】

LED 制御基板 14 は、枠 LED 9 や右打ち報知用 LED 37 を駆動する各種回路を搭載しており、当該 LED 信号に基づき枠 LED 9 や右打ち報知用 LED 37 を駆動し、当該 LED 信号が指定する態様で枠 LED 9 や右打ち報知用 LED 37 を点灯／消灯する。このようにして、表示制御部 123 は、音声出力、LED の点灯／消灯を制御する。

【0144】

なお、音声出力、LED の点灯／消灯の制御（音指定信号や LED 信号の供給等）、可動体 32 の制御（可動体 32 を動作させる信号の供給等）は、演出制御用 CPU 120 が実行するようにしてもよい。

【0145】

乱数回路 124 は、各種演出を実行するために使用される各種の乱数値（演出用乱数）を示す数値データを更新可能にカウントする。演出用乱数は、演出制御用 CPU 120 が所定のコンピュータプログラムを実行することで更新されるもの（ソフトウェアで更新されるもの）であってもよい。

【0146】

演出制御基板 12 に搭載された I/O 125 は、例えば主基板 11 などから伝送された演出制御コマンドを取り込むための入力ポートと、各種信号（映像信号、音指定信号、LED 信号）を伝送するための出力ポートとを含んで構成される。

【0147】

演出制御基板 12、音声制御基板 13、LED 制御基板 14 といった、主基板 11 以外の基板をサブ基板ともいう。パチンコ遊技機 1 のようにサブ基板が機能別に複数設けられていてもよいし、1 のサブ基板が複数の機能を有するように構成してもよい。

【0148】

（動作）

次に、パチンコ遊技機 1 の動作（作用）を説明する。

【0149】

（主基板 11 の主要な動作）

まず、主基板 11 における主要な動作を説明する。パチンコ遊技機 1 に対して電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 が起動し、CPU 103 によって遊技制御メイン処理が実行される。図 3 は、主基板 11 における CPU 103 が実行する遊技制御メイン処理を示すフローチャートである。

【0150】

図 3 に示す遊技制御メイン処理では、CPU 103 は、まず、割込禁止に設定する（ステップ S1）。続いて、必要な初期設定を行う（ステップ S2）。初期設定には、スタックポインタの設定、内蔵デバイス（CTC（カウンタ／タイマ回路）、パラレル入出力ポート等）のレジスタ設定、RAM 102 をアクセス可能状態にする設定等が含まれる。

【0151】

次いで、クリアスイッチからの出力信号がオンであるか否かを判定する（ステップ S3）。クリアスイッチは、例えば電源基板に搭載されている。クリアスイッチがオンの状態で電源が投入されると、出力信号（クリア信号）が入力ポートを介して遊技制御用マイクロコンピュータ 100 に入力される。クリアスイッチからの出力信号がオンである場合（ステップ S3；Yes）、初期化处理（ステップ S8）を実行する。初期化处理では、CPU 103 は、RAM 102 に記憶されるフラグ、カウンタ、バッファをクリアする RAM クリア処理を行い、作業領域に初期値を設定する。

【0152】

また、CPU 103 は、初期化を指示する演出制御コマンドを演出制御基板 12 に送信する（ステップ S9）。演出制御用 CPU 120 は、当該演出制御コマンドを受信すると

10

20

30

40

50

、例えば画像表示装置 5 において、遊技機の制御の初期化がなされたことを報知するための画面表示を行う。

【0153】

クリアスイッチからの出力信号がオンでない場合には（ステップ S 3 ; N o）、R A M 1 0 2（バックアップ R A M）にバックアップデータが保存されているか否かを判定する（ステップ S 4）。不測の停電等（電断）によりパチンコ遊技機 1 への電力供給が停止したときには、C P U 1 0 3 は、当該電力供給の停止によって動作できなくなる直前に、電源供給停止時処理を実行する。この電源供給停止時処理では、R A M 1 0 2 にデータをバックアップすることを示すバックアップフラグをオンする処理、R A M 1 0 2 のデータ保護処理等が実行される。データ保護処理には、誤り検出符号（チェックサム、パリティビット等）の付加、各種データをバックアップする処理が含まれる。バックアップされるデータには、遊技を進行するための各種データ（各種フラグ、各種タイマの状態等を含む）の他、前記バックアップフラグの状態や誤り検出符号も含まれる。ステップ S 4 では、バックアップフラグがオンであるか否かを判定する。バックアップフラグがオフで R A M 1 0 2 にバックアップデータが記憶されていない場合（ステップ S 4 ; N o）、初期化処理（ステップ S 8）を実行する。

10

【0154】

R A M 1 0 2 にバックアップデータが記憶されている場合（ステップ S 4 ; Y e s）、C P U 1 0 3 は、バックアップしたデータのデータチェックを行い（誤り検出符号を用いて行われる）、データが正常か否かを判定する（ステップ S 5）。ステップ S 5 では、例えば、パリティビットやチェックサムにより、R A M 1 0 2 のデータが、電力供給停止時のデータと一致するか否かを判定する。これらが一致すると判定された場合、R A M 1 0 2 のデータが正常であると判定する。

20

【0155】

R A M 1 0 2 のデータが正常でないと判定された場合（ステップ S 5 ; N o）、内部状態を電力供給停止時の状態に戻すことができないので、初期化処理（ステップ S 8）を実行する。

【0156】

R A M 1 0 2 のデータが正常であると判定された場合（ステップ S 5 ; Y e s）、C P U 1 0 3 は、主基板 1 1 の内部状態を電力供給停止時の状態に戻すための復旧処理（ステップ S 6）を行う。復旧処理では、C P U 1 0 3 は、R A M 1 0 2 の記憶内容（バックアップしたデータの内容）に基づいて作業領域の設定を行う。これにより、電力供給停止時の遊技状態に復旧し、特別図柄の変動中であつた場合には、後述の遊技制御用タイマ割込み処理の実行によって、復旧前の状態から特別図柄の変動が再開されることになる。

30

【0157】

そして、C P U 1 0 3 は、電断からの復旧を指示する演出制御コマンドを演出制御基板 1 2 に送信する（ステップ S 7）。これに合わせて、バックアップされている電断前の遊技状態を指定する演出制御コマンドや、特図ゲームの実行中であつた場合には当該実行中の特図ゲームの表示結果を指定する演出制御コマンドを送信するようにしてもよい。これらコマンドは、後述の特別図柄プロセス処理で送信設定されるコマンドと同じコマンドを使用できる。演出制御用 C P U 1 2 0 は、電断からの復旧時を特定する演出制御コマンドを受信すると、例えば画像表示装置 5 において、電断からの復旧がなされたこと又は電断からの復旧中であることを報知するための画面表示を行う。演出制御用 C P U 1 2 0 は、前記演出制御コマンドに基づいて、適宜の画面表示を行うようにしてもよい。

40

【0158】

復旧処理または初期化処理を終了して演出制御基板 1 2 に演出制御コマンドを送信した後は、C P U 1 0 3 は、乱数回路 1 0 4 を初期設定する乱数回路設定処理を実行する（ステップ S 1 0）。そして、所定時間（例えば 2 m s）毎に定期的にタイマ割込がかかるように遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に内蔵されている C T C のレジスタの設定を行い（ステップ S 1 1）、割込みを許可する（ステップ S 1 2）。その後、ループ処理

50

に入る。以後、所定時間（例えば 2 m s）ごとに C T C から割込み要求信号が C P U 1 0 3 へ送出され、C P U 1 0 3 は定期的にタイマ割込み処理を実行することができる。

【0159】

こうした遊技制御メイン処理を実行した C P U 1 0 3 は、C T C からの割込み要求信号を受信して割込み要求を受け付けると、図 4 のフローチャートに示す遊技制御用タイマ割込み処理を実行する。図 4 に示す遊技制御用タイマ割込み処理を開始すると、C P U 1 0 3 は、まず、所定のスイッチ処理を実行することにより、スイッチ回路 1 1 0 を介してゲートスイッチ 2 1、第 1 始動口スイッチ 2 2 A、第 2 始動口スイッチ 2 2 B、第 1 カウントスイッチ 2 3、第 2 カウントスイッチ 2 4 といった各種スイッチからの検出信号の受信の有無を判定する（ステップ S 2 1）。続いて、所定のメイン側エラー処理を実行することにより、パチンコ遊技機 1 の異常診断を行い、その診断結果に応じて必要ならば警告を発生可能とする（ステップ S 2 2）。この後、所定の情報出力処理を実行することにより、例えばパチンコ遊技機 1 の外部に設置されたホール管理用コンピュータに供給される大当り情報（大当りの発生回数等を示す情報）、始動情報（始動入賞の回数等を示す情報）、確率変動情報（確変状態となった回数等を示す情報）などのデータを出力する（ステップ S 2 3）。

10

【0160】

情報出力処理に続いて、主基板 1 1 の側で用いられる遊技用乱数の少なくとも一部をソフトウェアにより更新するための遊技用乱数更新処理を実行する（ステップ S 2 4）。この後、C P U 1 0 3 は、第 1 特別図柄プロセス処理を実行する（ステップ S 2 5 A）。C P U 1 0 3 がタイマ割込み毎に第 1 特別図柄プロセス処理を実行することにより、第 1 特図ゲームの実行及び保留の管理などが実現される（詳しくは後述）。また、C P U 1 0 3 は、第 2 特別図柄プロセス処理を実行する（ステップ S 2 5 B）。C P U 1 0 3 がタイマ割込み毎に第 2 特別図柄プロセス処理を実行することにより、第 2 特図ゲームの実行及び保留の管理などが実現される。なお、このパチンコ遊技機 1 では、第 1 特別図柄の変動表示と第 2 特別図柄の変動表示とを同時に並行して実行することが可能である。

20

【0161】

第 1 特別図柄プロセス処理および第 2 特別図柄プロセス処理に続いて、C P U 1 0 3 は、役物制御プロセス処理を実行する（ステップ S 2 5 C）。C P U 1 0 3 がタイマ割込み毎に役物制御プロセス処理を実行することにより、大当り遊技状態や小当り遊技状態の制御、遊技状態の制御などが実現される（詳しくは後述）。

30

【0162】

役物制御プロセス処理に続いて、普通図柄プロセス処理が実行される（ステップ S 2 6）。C P U 1 0 3 がタイマ割込み毎に普通図柄プロセス処理を実行することにより、ゲートスイッチ 2 1 からの検出信号に基づく（通過ゲート 4 1 に遊技球が通過したことに基づく）普図ゲームの実行及び保留の管理や、「普図当り」に基づく可変入賞球装置 6 B の開放制御などを可能にする。普図ゲームの実行は、普通図柄表示器 2 0 を駆動することにより行われ、普図保留表示器 2 5 C を点灯させることにより普図保留数を表示する。

【0163】

普通図柄プロセス処理を実行した後、遊技制御用タイマ割込み処理の一部として、電断が発生したときの処理、賞球を払い出すための処理等などが行われてもよい。その後、C P U 1 0 3 は、コマンド制御処理を実行する（ステップ S 2 7）。C P U 1 0 3 は、上記各処理にて演出制御コマンドを送信設定することがある。ステップ S 2 7 のコマンド制御処理では、送信設定された演出制御コマンドを演出制御基板 1 2 などのサブ側の制御基板に対して伝送させる処理が行われる。コマンド制御処理を実行した後は、割込みを許可してから、遊技制御用タイマ割込み処理を終了する。

40

【0164】

また、図 4 では記載を省略しているが、遊技制御用タイマ割込み処理では、遊技機の制御状態を遊技機外部で確認できるようにするための試験信号を出力するための処理である試験端子処理も実行される。試験端子処理では、C P U 1 0 3 は、右打ち操作を行う期間

50

であることを特定可能な試験信号（右打ち試験信号）も出力する制御を行う。具体的には、試験端子処理において、CPU103は、大当り遊技中や、第2特別図柄の変動表示にもとづく小当り遊技中、KT状態中に右打ち試験信号を出力する制御を行う。一方、試験端子処理において、CPU103は、第1特別図柄の変動表示にもとづく小当り遊技中には右打ち試験信号を出力する制御を行わない。

【0165】

図5は、第1特別図柄プロセス処理として、図4に示すステップS25Aにて実行される処理の一例を示すフローチャートである。この第1特別図柄プロセス処理において、CPU103は、まず、第1始動入賞判定処理を実行する（ステップS101A）。

【0166】

第1始動入賞判定処理では、第1始動入賞口への始動入賞の発生を検出し、RAM102の所定領域に保留情報を格納し第1保留記憶数を更新する処理が実行される。第1始動入賞口への始動入賞が発生すると、表示結果（大当り種別を含む）や変動パターンを決定するための乱数値が抽出され、保留情報としてRAM102に設けられた第1保留記憶バッファに記憶される。また、抽出した乱数値に基づいて、表示結果や変動パターンを先読み判定する処理が実行されてもよい。保留情報や第1保留記憶数を記憶した後は、演出制御基板12に始動入賞の発生、第1保留記憶数、先読み判定等の判定結果を指定するための演出制御コマンドを送信するための送信設定が行われる。こうして送信設定された始動入賞時の演出制御コマンドは、例えば第1特別図柄プロセス処理が終了した後、図4に示すステップS27のコマンド制御処理が実行されることなどにより、主基板11から演出制御基板12に対して伝送される。

【0167】

S101にて第1始動入賞判定処理を実行した後、CPU103は、RAM102に設けられた第1特図プロセスフラグの値に応じて、ステップS110A～S113Aの処理のいずれかを選択して実行する。なお、第1特別図柄プロセス処理の各処理（ステップS110A～S113A）では、各処理に対応した演出制御コマンドを演出制御基板12に送信するための送信設定が行われる。

【0168】

ステップS110Aの第1特別図柄通常処理は、第1特図プロセスフラグの値が“0”（初期値）のときに実行される。この第1特別図柄通常処理では、保留情報の有無などに基づいて、第1特図ゲームを開始するか否かの判定が行われる。また、第1特別図柄通常処理では、表示結果決定用の乱数値に基づき、第1特別図柄や飾り図柄の表示結果を「大当り」または「小当り」とするか否かや「大当り」とする場合の大当り種別を、その表示結果が導出表示される以前に決定（事前決定）する。さらに、第1特別図柄通常処理では、決定された表示結果に対応して、第1特図ゲームにおいて停止表示させる確定特別図柄（大当り図柄や小当り図柄、ハズレ図柄のいずれか）が設定される。その後、第1特図プロセスフラグの値が“1”に更新され、第1特別図柄通常処理は終了する。

【0169】

乱数値に基づき各種の決定を行う場合には、ROM101に格納されている各種のテーブル（乱数値と比較される決定値が決定結果に割り当てられているテーブル）が参照される。主基板11における他の決定、演出制御基板12における各種の決定についても同じである。演出制御基板12においては、各種のテーブルがROM121に格納されている。

【0170】

ステップS111Aの第1変動パターン設定処理は、第1特図プロセスフラグの値が“1”のときに実行される。この第1変動パターン設定処理には、表示結果を「大当り」または「小当り」とするか否かの事前決定結果等に基づき、変動パターン決定用の乱数値を用いて変動パターンを複数種類のいずれかに決定する処理などが含まれている。第1変動パターン設定処理では、変動パターンを決定したときに、第1特図プロセスフラグの値が“2”に更新され、第1変動パターン設定処理は終了する。

【0171】

10

20

30

40

50

変動パターンは、特図ゲームの実行時間（特図変動時間）（飾り図柄の可変表示の実行時間でもある）や、飾り図柄の可変表示の態様（リーチの有無等）、飾り図柄の可変表示中の演出内容（リーチ演出の種類等）を指定するものであり、可変表示パターンとも呼ばれる。

【0172】

ステップS112Aの第1特別図柄変動処理は、第1特図プロセスフラグの値が“2”のときに実行される。この第1特別図柄変動処理には、第1特別図柄表示装置4Aにおいて第1特別図柄を変動させるための設定を行う処理や、その第1特別図柄が変動を開始してからの経過時間を計測する処理などが含まれている。また、計測された経過時間が変動パターンに対応する特図変動時間に達したか否かの判定も行われる。そして、第1特別図柄の変動を開始してからの経過時間が特図変動時間に達したときには、第1特図プロセスフラグの値が“3”に更新され、第1特別図柄変動処理は終了する。

【0173】

なお、本例では、第1特別図柄の変動表示と第2特別図柄の変動表示とは並行して実行可能であるので、例えば、第1特別図柄変動処理（ステップS112A）に移行して第1特別図柄の変動表示中であるときに、第2特別図柄の変動表示において小当たりとなり小当たり遊技に制御される場合がある。この場合、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）は、小当たり遊技中であるか否かを判定し（具体的には、第2特図プロセスフラグの値が小当たり開放前処理～小当たり終了処理に相当する値であるか否かを判定し）、小当たり遊技中であれば、第1特図プロセスフラグの値を第1特別図柄変動処理に相当する値から変更しないようにし、小当たり遊技中でなければ、第1特図プロセスフラグの値を次の第1特別図柄停止処理に相当する値に更新可能としている。そのような制御を行うことにより、第2特別図柄の変動表示にもとづく小当たり遊技中では第1特別図柄の変動表示を中断し、その小当たり遊技の終了後に第1特別図柄の変動表示を再開するように制御している。なお、そのような制御にかぎらず、例えば、第2特別図柄の変動表示にもとづく小当たり遊技中は、第1特別図柄が変動を開始してからの経過時間を計測する処理を中断（タイマの更新を中断）するように構成してもよい。

【0174】

また、例えば、小当たり終了処理期間としての小当たりエンディング期間を遊技状態によって異ならせるように構成してもよい。例えば、通常状態において、第1特別図柄の変動表示を中断するように構成すると、第1特別図柄の変動表示の中断期間が長くなり、第1特別図柄の変動表示の実行期間と中断期間との差が大きくなると飾り図柄の揺れ停止などにより中断期間を吸収する必要があり、遊技者に違和感を与える演出になってしまう。そのため、通常状態では、小当たりエンディング期間をKT状態（第1KT状態、第2KT状態）よりも短くすることが望ましい。この場合、例えば、通常状態では小当たりエンディング期間が0.5秒であるのに対して、KT状態では小当たりエンディング期間が3秒であるように構成してもよい。

【0175】

また、上記のように構成する場合、例えば、第1KT状態では、小当たり制御において実質的に遊技球が入賞困難であり特に演出を行わないので、第2KT状態に比べて小当たりエンディング期間を短くするように構成してもよい。一方、第2KT状態では、小当たり制御において遊技球が入賞容易であり小当たり制御を強調する演出を実行するので、第1KT状態に比べて小当たりエンディング期間を長くするように構成してもよい。この場合、例えば、第1KT状態では小当たりエンディング期間が0.5秒であるのに対して、第2KT状態では小当たりエンディング期間が3秒であるように構成してもよい。

【0176】

さらに、小当たり開放前処理期間としての小当たりファンファーレ期間についても、上記の小当たりエンディング期間と同様に、遊技状態によって期間の長さを異ならせてもよい。

【0177】

ステップS113Aの第1特別図柄停止処理は、第1特図プロセスフラグの値が“3”の

ときに実行される。この第1特別図柄停止処理には、第1特別図柄表示装置4Aにて第1特別図柄の変動を停止させ、第1特別図柄の表示結果となる確定特別図柄を停止表示（導出）させるための設定を行う処理が含まれている。そして、表示結果が「大当たり」である場合には、大当たり遊技を開始するための設定処理が行われる。その一方で、大当たりフラグがオフであり、表示結果が「小当たり」である場合には、小当たり遊技を開始するための処理が行われる。そして、第1特図プロセスフラグの値が“0”に更新される。表示結果が「小当たり」又は「ハズレ」である場合、確変状態やKT状態、高ベース状態に制御されているときであって、回数切りの終了成立する場合には、遊技状態も更新される。第1特図プロセスフラグの値が更新されると、第1特別図柄停止処理は終了する。

【0178】

なお、第2特別図柄プロセス処理（ステップS25B）において実行される処理は、第1特別図柄プロセス処理（ステップS25A）において実行される処理と同様である。すなわち、図5で説明した第1特別図柄プロセス処理において、「第1」を「第2」と読み替えれば、第2特別図柄プロセス処理が説明されることになる。また、第2特別図柄プロセス処理（ステップS25B）の第1始動入賞判定処理で抽出された各乱数値は、保留情報としてRAM102に設けられた第2保留記憶バッファに記憶される。

【0179】

なお、本例では、第1特別図柄の変動表示と第2特別図柄の変動表示とは並行して実行可能であるので、例えば、第2特別図柄変動処理に移行して第2特別図柄の変動表示中であるときに、第1特別図柄の変動表示において小当たりとなり小当たり遊技に制御される場合もある。この場合、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）は、小当たり遊技中であるか否かを判定し（具体的には、第1特図プロセスフラグの値が小当たり開放前処理～小当たり終了処理に相当する値であるか否かを判定し）、小当たり遊技中であれば、第2特図プロセスフラグの値を第2特別図柄変動処理に相当する値から変更しないようにし、小当たり遊技中でなければ、第2特図プロセスフラグの値を次の第2特別図柄停止処理に相当する値に更新可能としている。そのような制御を行うことにより、第1特別図柄の変動表示にもとづく小当たり遊技中では第2特別図柄の変動表示を中断し、その小当たり遊技の終了後に第2特別図柄の変動表示を再開するように制御している。なお、そのような制御にかぎらず、例えば、第1特別図柄の変動表示にもとづく小当たり遊技中は、第2特別図柄が変動を開始してからの経過時間を計測する処理を中断（タイマの更新を中断）するように構成してもよい。

【0180】

なお、第2特別図柄の変動表示にもとづく小当たり制御に関しても、遊技状態によって小当たりファンファーレ期間や小当たりエンディング期間の長さを異ならせるように構成してもよい。

【0181】

図6は、役物制御プロセス処理として、図4に示すステップS25Cにて実行される処理の一例を示すフローチャートである。この役物制御プロセス処理において、CPU103は、RAM102に設けられた役物制御プロセスフラグの値に応じて、ステップS120～S128の処理のいずれかを選択して実行する。なお、役物制御プロセス処理の各処理（ステップS120～S128）では、各処理に対応した演出制御コマンドを演出制御基板12に送信するための送信設定が行われる。

【0182】

ステップS120の役物制御通常処理は、役物制御プロセスフラグの値が“0”のときに実行される。この役物制御通常処理では、大当たり遊技を開始するための設定が行われたか否かを監視し、大当たり遊技を開始するための設定が行われれば、大当たり遊技を開始するための処理が行われ、役物制御プロセスフラグの値が“1”に更新される。

【0183】

ステップS121のゲート通過待ち処理は、役物制御プロセスフラグの値が“1”のときに実行される。このゲート通過待ち処理では、通過ゲート41への遊技球の通過を待機す

10

20

30

40

50

る制御を行う。通過ゲート 4 1 への遊技球の通過を検知したときには役物制御プロセスフラグの値が“ 2 ”に更新される。

【 0 1 8 4 】

ステップ S 1 2 2 の大当り開放前処理は、役物制御プロセスフラグが“ 2 ”のときに実行される。この大当り開放前処理には、表示結果が「大当り」となったことなどに基づき、大当り遊技状態においてラウンドの実行を開始して大入賞口を開放状態とするための設定を行う処理などが含まれている。大入賞口を開放状態とするときには、大入賞口扉用のソレノイド 8 2 に対してソレノイド駆動信号を供給する処理が実行される。このときには、例えば大当り種別がいずれであるかに対応して、大入賞口を開放状態とする開放上限期間や、ラウンドの上限実行回数を設定する。これらの設定が終了すると、役物制御プロセスフラグの値が“ 3 ”に更新され、大当り開放前処理は終了する。

10

【 0 1 8 5 】

ステップ S 1 2 3 の大当り開放中処理は、役物制御プロセスフラグの値が“ 3 ”のときに実行される。この大当り開放中処理には、大入賞口を開放状態としてからの経過時間を計測する処理や、その計測した経過時間や第 1 カウントスイッチ 2 3 によって検出された遊技球の個数などに基づいて、大入賞口を開放状態から閉鎖状態に戻すタイミングとなったか否かを判定する処理などが含まれている。そして、大入賞口を閉鎖状態に戻すときには、大入賞口扉用のソレノイド 8 2 に対するソレノイド駆動信号の供給を停止させる処理などを実行した後、役物制御プロセスフラグの値が“ 4 ”に更新し、大当り開放中処理を終了する。

20

【 0 1 8 6 】

ステップ S 1 2 4 の大当り開放後処理は、役物制御プロセスフラグの値が“ 4 ”のときに実行される。この大当り開放後処理には、大入賞口を開放状態とするラウンドの実行回数が設定された上限実行回数に達したか否かを判定する処理や、上限実行回数に達した場合に大当り遊技状態を終了させるための設定を行う処理などが含まれている。そして、ラウンドの実行回数が上限実行回数に達していないときには、役物制御プロセスフラグの値が“ 3 ”に更新される一方、ラウンドの実行回数が上限実行回数に達したときには、役物制御プロセスフラグの値が“ 5 ”に更新される。役物制御プロセスフラグの値が更新されると、大当り開放後処理は終了する。

【 0 1 8 7 】

ステップ S 1 2 5 の大当り終了処理は、役物制御プロセスフラグの値が“ 5 ”のときに実行される。この大当り終了処理には、大当り遊技状態の終了を報知する演出動作としてのエンディング演出が実行される期間に対応した待ち時間が経過するまで待機する処理や、大当り遊技状態の終了に対応して確変制御や K T 制御、高ベース制御を開始するための各種の設定を行う処理などが含まれている。こうした設定が行われたときには、役物制御プロセスフラグの値が“ 0 ”に更新され、大当り終了処理は終了する。

30

【 0 1 8 8 】

ステップ S 1 2 6 の小当り開放前処理は、役物制御プロセスフラグの値が“ 6 ”のときに実行される。この小当り開放前処理には、表示結果が「小当り」となったことに基づき、小当り遊技状態において特殊入賞口を開放状態とするための設定を行う処理などが含まれている。このときには、役物制御プロセスフラグの値が“ 7 ”に更新され、小当り開放前処理は終了する。

40

【 0 1 8 9 】

ステップ S 1 2 7 の小当り開放中処理は、役物制御プロセスフラグの値が“ 7 ”のときに実行される。この小当り開放中処理には、特殊入賞口を開放状態としてからの経過時間を計測する処理や、その計測した経過時間などに基づいて、特殊入賞口を開放状態から閉鎖状態に戻すタイミングとなったか否かを判定する処理などが含まれている。特殊入賞口を閉鎖状態に戻して小当り遊技状態の終了タイミングとなったときには、役物制御プロセスフラグの値が“ 8 ”に更新され、小当り開放中処理は終了する。

【 0 1 9 0 】

50

ステップ S 1 2 8 の小当り終了処理は、役物制御プロセスフラグの値が“ 8 ”のときに実行される。この小当り終了処理には、小当り遊技状態の終了を報知する演出動作が実行される期間に対応した待ち時間が経過するまで待機する処理などが含まれている。ここで、小当り遊技状態が終了するときには、小当り遊技状態となる以前のパチンコ遊技機 1 における遊技状態を継続させる。小当り遊技状態の終了時における待ち時間が経過したときには、役物制御プロセスフラグの値が“ 0 ”に更新され、小当り終了処理は終了する。

【 0 1 9 1 】

(演出制御基板 1 2 の主要な動作)

次に、演出制御基板 1 2 における主要な動作を説明する。演出制御基板 1 2 では、電源基板等から電源電圧の供給を受けると、演出制御用 C P U 1 2 0 が起動して、図 7 のフローチャートに示すような演出制御メイン処理を実行する。図 7 に示す演出制御メイン処理を開始すると、演出制御用 C P U 1 2 0 は、まず、所定の初期化処理を実行して(ステップ S 7 1)、R A M 1 2 2 のクリアや各種初期値の設定、また演出制御基板 1 2 に搭載された C T C (カウンタ/タイマ回路)のレジスタ設定等を行う。また、初期動作制御処理を実行する(ステップ S 7 2)。初期動作制御処理では、可動体 3 2 を駆動して初期位置に戻す制御、所定の動作確認を行う制御といった可動体 3 2 の初期動作を行う制御が実行される。

【 0 1 9 2 】

その後、タイマ割込みフラグがオンとなっているか否かの判定を行う(ステップ S 7 3)。タイマ割込みフラグは、例えば C T C のレジスタ設定に基づき、所定時間(例えば 2 ミリ秒)が経過するごとにオン状態にセットされる。このとき、タイマ割込みフラグがオフであれば(ステップ S 7 3 ; N o)、ステップ S 7 3 の処理を繰り返し実行して待機する。

【 0 1 9 3 】

また、演出制御基板 1 2 の側では、所定時間が経過するごとに発生するタイマ割込みとは別に、主基板 1 1 からの演出制御コマンドを受信するための割込みが発生する。この割込みは、例えば主基板 1 1 からの演出制御 I N T 信号がオン状態となることにより発生する割込みである。演出制御 I N T 信号がオン状態となることによる割込みが発生すると、演出制御用 C P U 1 2 0 は、自動的に割込み禁止に設定するが、自動的に割込み禁止状態にならない C P U を用いている場合には、割込み禁止命令(D I 命令)を発行することが望ましい。演出制御用 C P U 1 2 0 は、演出制御 I N T 信号がオン状態となることによる割込みに対応して、例えば所定のコマンド受信割込み処理を実行する。このコマンド受信割込み処理では、I / O 1 2 5 に含まれる入力ポートのうちで、中継基板 1 5 を介して主基板 1 1 から送信された制御信号を受信する所定の入力ポートより、演出制御コマンドを取り込む。このとき取り込まれた演出制御コマンドは、例えば R A M 1 2 2 に設けられた演出制御コマンド受信用バッファに格納する。その後、演出制御用 C P U 1 2 0 は、割込み許可に設定してから、コマンド受信割込み処理を終了する。

【 0 1 9 4 】

ステップ S 7 3 にてタイマ割込みフラグがオンである場合には(ステップ S 7 3 ; Y e s)、タイマ割込みフラグをクリアしてオフ状態にするとともに(ステップ S 7 4)、コマンド解析処理を実行する(ステップ S 7 5)。コマンド解析処理では、例えば主基板 1 1 の遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 から送信されて演出制御コマンド受信用バッファに格納されている各種の演出制御コマンドを読み出した後に、その読み出された演出制御コマンドに対応した設定や制御などが行われる。例えば、どの演出制御コマンドを受信したかや演出制御コマンドが特定する内容等を演出制御プロセス処理等で確認できるように、読み出された演出制御コマンドを R A M 1 2 2 の所定領域に格納したり、R A M 1 2 2 に設けられた受信フラグをオンしたりする。また、演出制御コマンドが遊技状態を特定する場合、遊技状態に応じた背景の表示を表示制御部 1 2 3 に指示してもよい。

【 0 1 9 5 】

ステップ S 7 5 にてコマンド解析処理を実行した後は、演出制御プロセス処理を実行

する（ステップ S 7 6）。演出制御プロセス処理では、例えば画像表示装置 5 の表示領域における演出画像の表示動作、スピーカ 8 L、8 R からの音声出力動作、枠 LED 9 及び装飾用 LED といった装飾発光体における点灯動作、可動体 3 2 の駆動動作といった、各種の演出装置を動作させる制御が行われる。また、各種の演出装置を用いた演出動作の制御内容について、主基板 1 1 から送信された演出制御コマンド等に応じた判定や決定、設定などが行われる。

【0196】

ステップ S 7 6 の演出制御プロセス処理に続いて、演出用乱数更新処理が実行され（ステップ S 7 7）、演出制御基板 1 2 の側で用いられる演出用乱数の少なくとも一部がソフトウェアにより更新される。その後、ステップ S 7 3 の処理に戻る。ステップ S 7 3 の処理に戻る前に、他の処理が実行されてもよい。

10

【0197】

図 8 は、演出制御プロセス処理として、図 7 のステップ S 7 6 にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。図 8 に示す演出制御プロセス処理において、演出制御用 CPU 1 2 0 は、まず、先読予告設定処理を実行する（ステップ S 1 6 1）。先読予告設定処理では、例えば、主基板 1 1 から送信された始動入賞時の演出制御コマンドに基づいて、先読み予告演出を実行するための判定や決定、設定などが行われる。また、当該演出制御コマンドから特定される保留記憶数に基づき保留表示を表示するための処理が実行される。

【0198】

ステップ S 1 6 1 の処理を実行した後、演出制御用 CPU 1 2 0 は、例えば RAM 1 2 2 に設けられた演出プロセスフラグの値に応じて、以下のようなステップ S 1 7 0 ～ S 1 7 7 の処理のいずれかを選択して実行する。

20

【0199】

ステップ S 1 7 0 の可変表示開始待ち処理は、演出プロセスフラグの値が“0”（初期値）のときに実行される処理である。この可変表示開始待ち処理は、主基板 1 1 から可変表示の開始を指定するコマンドなどを受信したか否かに基づき、画像表示装置 5 における飾り図柄の可変表示を開始するか否かを判定する処理などを含んでいる。画像表示装置 5 における飾り図柄の可変表示を開始すると判定された場合、演出プロセスフラグの値を“1”に更新し、可変表示開始待ち処理を終了する。

30

【0200】

ステップ S 1 7 1 の可変表示開始設定処理は、演出プロセスフラグの値が“1”のときに実行される処理である。この可変表示開始設定処理では、演出制御コマンドにより特定される表示結果や変動パターンに基づいて、飾り図柄の可変表示の表示結果（確定飾り図柄）、飾り図柄の可変表示の態様、リーチ演出や各種予告演出などの各種演出の実行の有無やその態様や実行開始タイミングなどを決定する。そして、その決定結果等を反映した演出制御パターン（表示制御部 1 2 3 に演出の実行を指示するための制御データの集まり）を設定する。その後、設定した演出制御パターンに基づいて、飾り図柄の可変表示の実行開始を表示制御部 1 2 3 に指示し、演出プロセスフラグの値を“2”に更新し、可変表示開始設定処理を終了する。表示制御部 1 2 3 は、飾り図柄の可変表示の実行開始の指示により、画像表示装置 5 において、飾り図柄の可変表示を開始させる。

40

【0201】

ステップ S 1 7 2 の可変表示中演出処理は、演出プロセスフラグの値が“2”のときに実行される処理である。この可変表示中演出処理において、演出制御用 CPU 1 2 0 は、表示制御部 1 2 3 を指示することで、ステップ S 1 7 1 にて設定された演出制御パターンに基づく演出画像を画像表示装置 5 の表示画面に表示させることや、可動体 3 2 を駆動させること、音声制御基板 1 3 に対する指令（効果音信号）の出力によりスピーカ 8 L、8 R から音声や効果音を出力させること、LED 制御基板 1 4 に対する指令（電飾信号）の出力により枠 LED 9 や装飾用 LED を点灯／消灯／点滅させることといった、飾り図柄の可変表示中における各種の演出制御を実行する。こうした演出制御を行った後、例えば演

50

出制御パターンから飾り図柄の可変表示終了を示す終了コードが読み出されたこと、あるいは、主基板 11 から確定飾り図柄を停止表示させることを指定するコマンドを受信したことなどに対応して、飾り図柄の表示結果となる確定飾り図柄を停止表示させる。確定飾り図柄を停止表示したときには、演出プロセスフラグの値が“ 3 ”に更新され、可変表示中演出処理は終了する。

【 0 2 0 2 】

ステップ S 1 7 3 の特図当り待ち処理は、演出プロセスフラグの値が“ 3 ”のときに実行される処理である。この特図当り待ち処理において、演出制御用 CPU 1 2 0 は、主基板 11 から大当り遊技状態又は小当り遊技状態を開始することを指定する演出制御コマンドの受信があったか否かを判定する。そして、大当り遊技状態又は小当り遊技状態を開始することを指定する演出制御コマンドを受信したきに、そのコマンドが大当り遊技状態の開始を指定するものであれば、演出プロセスフラグの値を“ 6 ”に更新する。これに対して、そのコマンドが小当り遊技状態の開始を指定するものであれば、演出プロセスフラグの値を小当り中演出処理に対応した値である“ 4 ”に更新する。また、大当り遊技状態又は小当り遊技状態を開始することを指定するコマンドを受信せずに、当該コマンドの受信待ち時間が経過したときには、特図ゲームにおける表示結果が「ハズレ」であったと判定して、演出プロセスフラグの値を初期値である“ 0 ”に更新する。演出プロセスフラグの値を更新すると、特図当り待ち処理を終了する。

【 0 2 0 3 】

ステップ S 1 7 4 の小当り中演出処理は、演出制御プロセスフラグの値が“ 4 ”のときに実行される処理である。この小当り中演出処理において、演出制御用 CPU 1 2 0 は、例えば小当り遊技状態における演出内容に対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく小当り遊技状態における各種の演出制御を実行する。また、小当り中演出処理では、例えば主基板 11 から小当り遊技状態を終了することを指定するコマンドを受信したことに対応して、演出プロセスフラグの値を小当り終了演出に対応した値である“ 5 ”に更新し、小当り中演出処理を終了する。

【 0 2 0 4 】

ステップ S 1 7 5 の小当り終了演出処理は、演出制御プロセスフラグの値が“ 5 ”のときに実行される処理である。この小当り終了演出処理において、演出制御用 CPU 1 2 0 は、例えば小当り遊技状態の終了などに対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく小当り遊技状態の終了時における各種の演出制御を実行する。その後、演出プロセスフラグの値を初期値である“ 0 ”に更新し、小当り終了演出処理を終了する。

【 0 2 0 5 】

ステップ S 1 7 6 の大当り中演出処理は、演出プロセスフラグの値が“ 6 ”のときに実行される処理である。この大当り中演出処理において、演出制御用 CPU 1 2 0 は、例えば大当り遊技状態における演出内容に対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく大当り遊技状態における各種の演出制御を実行する。また、大当り中演出処理では、例えば主基板 11 から大当り遊技状態を終了することを指定するコマンドを受信したことに対応して、演出制御プロセスフラグの値をエンディング演出処理に対応した値である“ 7 ”に更新し、大当り中演出処理を終了する。

【 0 2 0 6 】

ステップ S 1 7 7 のエンディング演出処理は、演出プロセスフラグの値が“ 7 ”のときに実行される処理である。このエンディング演出処理において、演出制御用 CPU 1 2 0 は、例えば大当り遊技状態の終了などに対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく大当り遊技状態の終了時におけるエンディング演出の各種の演出制御を実行する。その後、演出プロセスフラグの値を初期値である“ 0 ”に更新し、エンディング演出処理を終了する。

【 0 2 0 7 】

(基本説明の変形例)

この発明は、上記基本説明で説明したパチンコ遊技機 1 に限定されず、本発明の趣旨を

10

20

30

40

50

逸脱しない範囲で、様々な変形及び応用が可能である。

【0208】

上記基本説明のパチンコ遊技機1は、入賞の発生に基づいて所定数の遊技媒体を景品として払い出す払出式遊技機であったが、遊技媒体を封入し入賞の発生に基づいて得点を付与する封入式遊技機であってもよい。

【0209】

特別図柄の可変表示中に表示されるものは1種類の図柄（例えば、「ー」を示す記号）だけで、当該図柄の表示と消灯とを繰り返すことによって可変表示を行うようにしてもよい。さらに可変表示中に当該図柄が表示されるものも、可変表示の停止時には、当該図柄が表示されなくてもよい（表示結果としては「ー」を示す記号が表示されなくてもよい）。 10

【0210】

上記基本説明では、遊技機としてパチンコ遊技機1を示したが、メダルが投入されて所定の賭け数が設定され、遊技者による操作レバーの操作に応じて複数種類の図柄を回転させ、遊技者によるストップボタンの操作に応じて図柄を停止させたときに停止図柄の組合せが特定の図柄の組み合わせになると、所定数のメダルが遊技者に払い出されるゲームを実行可能なスロット機（例えば、ビッグボーナス、レギュラーボーナス、RT、AT、ART、CZ（以下、ボーナス等）のうち1以上を搭載するスロット機）にも本発明を適用可能である。

【0211】

本発明を実現するためのプログラム及びデータは、パチンコ遊技機1に含まれるコンピュータ装置などに対して、着脱自在の記録媒体により配布・提供される形態に限定されるものではなく、予めコンピュータ装置などの有する記憶装置にインストールしておくことで配布される形態を採っても構わない。さらに、本発明を実現するためのプログラム及びデータは、通信処理部を設けておくことにより、通信回線等を介して接続されたネットワーク上の、他の機器からダウンロードすることによって配布する形態を採っても構わない。 20

【0212】

そして、ゲームの実行形態も、着脱自在の記録媒体を装着することにより実行するものだけではなく、通信回線等を介してダウンロードしたプログラム及びデータを、内部メモリ等に一旦格納することにより実行可能とする形態、通信回線等を介して接続されたネットワーク上における、他の機器側のハードウェア資源を用いて直接実行する形態としてもよい。さらには、他のコンピュータ装置等とネットワークを介してデータの交換を行うことによりゲームを実行するような形態とすることもできる。 30

【0213】

なお、本明細書において、演出の実行割合などの各種割合の比較の表現（「高い」、「低い」、「異ならせる」などの表現）は、一方が「0%」の割合であることを含んでもよい。例えば、一方が「0%」の割合で、他方が「100%」の割合又は「100%」未満の割合であることも含む。

【0214】

〔特徴部21TMに関する説明〕

次に、特徴部21TMに関して説明する。パチンコ遊技機1には、例えば図9-1に示すような主基板11、演出制御基板12、ターミナル基板（情報出力基板）21TM016といった、各種の制御基板が搭載されている。また、パチンコ遊技機1には、主基板11と演出制御基板12との間で伝送される各種の制御信号を中継するための中継基板15なども搭載されている。その他にも、パチンコ遊技機1における遊技盤2などの背面には、例えば払出制御基板、発射制御基板、インタフェース基板などといった、各種の基板が配置されている。 40

【0215】

なお、前述した図2に示すように、主基板11には、第1始動口スイッチ22A及び第2始動口スイッチ22B、並びに、第1特別図柄表示装置4A及び第2特別図柄表示装置4B等の各種部品が接続されており、演出制御基板12には、スピーカ8L、8R、粹L 50

E D 9 等の各種演出装置が接続されているが、図 9 - 1 では、これらを省略している。

【 0 2 1 6 】

主基板 1 1 は、メイン側の制御基板であり、図 9 - 3 に示すように、基板ケース 2 1 T M 2 0 1 に収納された状態でパチンコ遊技機 1 の背面に搭載され、パチンコ遊技機 1 における遊技の進行を制御するための各種回路が搭載されている。主基板 1 1 は、主として、特図ゲームにおいて用いる乱数の設定機能、所定位置に配設されたスイッチ等からの信号の入力を行う機能、演出制御基板 1 2 などからなるサブ側の制御基板に宛てて、指令情報の一例となる制御コマンドを制御信号として出力して送信する機能、ホールの管理コンピュータに対して各種情報を出力する機能などを備えている。また、主基板 1 1 は、第 1 特別図柄表示装置 4 A と第 2 特別図柄表示装置 4 B を構成する各 L E D（例えばセグメント L E D）などの点灯／消灯制御を行って第 1 特図や第 2 特図の変動表示を制御することや、普通図柄表示器 2 0 の点灯／消灯／発色制御などを行って普通図柄表示器 2 0 による普通図柄の変動表示を制御することといった、所定の表示図柄の変動表示を制御する機能も備えている。

10

【 0 2 1 7 】

また、主基板 1 1 には、図 9 - 3 に示すように、パチンコ遊技機 1 の背面側から視認可能な表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 が設けられており、該表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に、入賞に関する各種の入賞情報を表示する機能も備えている。尚、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 の左側方には表示切替スイッチ 2 1 T M 0 3 0 が設けられており、該表示切替スイッチ 2 1 T M 0 3 0 の操作によって表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に表示されている情報を切り替えることが可能となっている。

20

【 0 2 1 8 】

主基板 1 1 には、例えば遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 や、遊技球検出用の各種スイッチからの検出信号の他、電源断信号、クリア信号、リセット信号等の各種信号を取り込んで遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に伝送するスイッチ回路 1 1 0、ターミナル基板 2 1 T M 0 1 6 からセキュリティ信号等の各種の信号の出力を行うための情報出力回路 1 1 2 が搭載されている。

【 0 2 1 9 】

また、図 9 - 1 に示す主基板 1 1 は、図 9 - 3 に示すように、透過性を有する合成樹脂材からなる基板ケース 2 1 T M 2 0 1 に封入されており、主基板 1 1 の中央には表示モニタ 2 1 T M 0 2 9（例えば、7 セグメント）が配置され、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 の右側には表示切替スイッチ 2 1 T M 0 3 0 が配置されている。表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 及び表示切替スイッチ 2 1 T M 0 3 0 は、主基板 1 1 を視認する際の正面に配置されている。主基板 1 1 の背面中央下部には、後述する設定変更モードまたは設定確認モードに切り替えるための錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1（図 9 - 1 参照）が設けられている。主基板 1 1 は、遊技機用枠 3 を開放していない状態では視認できないので、主基板 1 1 を視認する際の正面とは、遊技機用枠 3 を開放した状態における遊技盤 2 の裏面側を視認する際の正面であり、パチンコ遊技機 1 の正面とは異なる。ただし、主基板 1 1 を視認する際の正面とパチンコ遊技機 1 の正面とが共通するようにしてもよい。

30

【 0 2 2 0 】

また、主基板 1 1（遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）は、各入賞口（大入賞口、第 2 始動入賞口、第 1 始動入賞口、第 1 ～第 4 一般入賞口、以下、「進入領域」ともいう）への遊技球の進入数の集計を行い、該集計による連比、役比などの各種の入賞情報が表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に表示されるようになっており、これら入賞情報が表示されることで、遊技場に設置後における連比、役比などの各種の入賞情報を確認できる。つまり、パチンコ遊技機 1 のメーカ側においては、予め定められた頻度で一般入賞口に遊技球が進入するように（試験を通過するように）遊技盤面を設計することが通常である。また、試験を行う際には、あらかじめ定められた頻度で一般入賞口に遊技球が進入しているかが確認される。さらに、パチンコ遊技機 1 を設置した後においても、どのような調整が行われているか、その調整の結果、設計どおりの頻度で一般入賞口に遊技球が進入しているか

40

50

が確認される。そこで、本実施例のパチンコ遊技機 1 では、当該パチンコ遊技機 1 において、設置後にどのような調整を加えられたかを認識できるようになっている。

【0221】

また、電源基板は、透過性を有する合成樹脂材からなる基板ケースに封入されており、電源基板の背面右側下部には、後述する大当りの当選確率（出玉率）等の設定値を変更するための設定スイッチとして機能するクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052 と、電源スイッチ 21TM055 が設けられている。遊技場の店員等が、パチンコ遊技機 1 に電源電圧が供給されていない状態で、電源スイッチ 21TM055 を操作することで、主基板 11、演出制御基板 12、払出制御基板 21TM037 等の各基板に所定の動作電圧が供給される。さらに、電源スイッチ 21TM055 が操作されるタイミングで、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052 が操作されていれば、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 にクリア信号が入力され、後述する初期化処理（RAM クリア）が実行される。同じ電源基板上において、電源スイッチ 21TM055 とクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052 を近くに配置することで、電源投入操作及び初期化操作を行い易いようにしている。

【0222】

尚、錠スイッチ 21TM051 及びクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052 は、パチンコ遊技機 1 の背面側に設けられており、所定のキー操作により開放可能な遊技機用枠 3 を開放しない限り操作不可能とされており、所定のキーを所持する店員のみが操作可能となる。また、錠スイッチ 21TM051 はキー操作を要することから、遊技店の店員のなかでも、錠スイッチ 21TM051 の操作を行うキーを所持する店員のみ操作が可能とされている。また、錠スイッチ 21TM051 は、所定のキーによって ON と OFF の切替操作を実行可能なスイッチであるが、該切替操作を実行可能であると共に該切替操作とは異なる操作（例えば、押込み操作）を実行可能なスイッチであっても良い。

【0223】

なお、錠スイッチ 21TM051 は、ON 状態又は OFF 状態を維持可能である。即ち、遊技場の店員等により力を加えられなくても、錠スイッチ 21TM051 は、ON 状態又は OFF 状態を維持可能である。また、錠スイッチ 21TM051 は、OFF 状態でのみキーを挿抜可能な構成とする。このような構成によれば、遊技場の店員等は、キーを回収するために錠スイッチ 21TM051 を OFF 状態としなければならないので、遊技場の店員等が錠スイッチ 21TM051 を ON 状態としたまま放置してしまうことを防ぐことができる。

【0224】

尚、図 9-3 に示すように、パチンコ遊技機 1 の背面側の下部には、各入賞口に入賞した遊技球やアウト口に進入した遊技球をパチンコ遊技機 1 外に排出するためのノズル（排出口）が設けられており、該ノズル内には、パチンコ遊技機 1 内から排出される遊技球を検出する（発射された遊技球を検出する）ための排出口スイッチ 21TM070 が設けられている。該排出口スイッチ 21TM070 は、スイッチ回路 110 に接続されている。

【0225】

主基板 11 から演出制御基板 12 に向けて伝送される制御信号は、中継基板 15 によって中継される。中継基板 15 を介して主基板 11 から演出制御基板 12 に対して伝送される制御コマンドは、例えば電気信号として送受信される演出制御コマンドである。演出制御コマンドには、例えば画像表示装置 5 における画像表示動作を制御するために用いられる表示制御コマンドや、スピーカ 8L、8R からの音声出力を制御するために用いられる音声制御コマンド、枠 LED 9 や装飾用 LED の点灯動作などを制御するために用いられる LED 制御コマンドが含まれている。

【0226】

図 9-2 は、払出制御基板 21TM037 および球払出装置 21TM097 などの払出に関連する構成要素を示すブロック図である。図 9-2 に示すように、払出制御基板 21TM037 には、払出制御用 CPU 21TM371 を含む払出制御用マイクロコンピュー

タ 2 1 T M 3 7 0 が搭載されている。この実施の形態では、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、1 チップマイクロコンピュータであり、少なくとも R A M が内蔵されている。払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0、R A M（図示せず）、払出制御用プログラムを格納した R O M（図示せず）および I / O ポート等は、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 を構成する。すなわち、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 は、払出制御用 C P U 2 1 T M 3 7 1、R A M および R O M を有する払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 と、I / O ポートとで実現される。また、I / O ポートは、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 に内蔵されていてもよい。

【 0 2 2 7 】

球切れスイッチ 2 1 T M 1 8 7、満タンスイッチ 2 1 T M 0 4 8 および払出個数カウン
トスイッチ 2 1 T M 3 0 1 からの検出信号は、中継基板 2 1 T M 0 7 2 を介して払出制御
基板 2 1 T M 0 3 7 の I / O ポート 2 1 T M 3 7 2 f に入力される。なお、この実施の形
態では、払出個数カウンタスイッチ 2 1 T M 3 0 1 からの検出信号は、払出制御用マイク
ロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 に入力されたあと、I / O ポート 2 1 T M 3 7 2 a および
出力回路 2 1 T M 3 7 3 B を介して主基板 1 1 に出力される。

【 0 2 2 8 】

また、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 には、図 9 - 2 に示すように、遊技盤 2 を支持固定
する遊技機用枠 3 の開放を検知する遊技機枠開放センサと、遊技盤 2 の前面を開閉可能に
覆うガラス扉枠 3 a の開放を検知する扉枠開放センサと、を備える遊技機枠・扉枠開放セ
ンサ 2 1 T M 3 0 0 が接続されており、これらのセンサから出力される検知信号に基づい
て、各種の異常（エラー）の発生を判定する機能も備えている。なお、遊技機用枠 3 の開
放が検知されたときの検知信号と、ガラス扉枠 3 a の開放が検知されたときの検出信号と
は、異なる端子に入力されることにより、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7
0 は、遊技機用枠 3 の開放状態と、ガラス扉枠 3 a の開放状態とを、区別して認識可能と
なっている。

【 0 2 2 9 】

また、払出モータ位置センサ 2 1 T M 2 9 5 からの検出信号は、中継基板 2 1 T M 0 7
2 を介して払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 の I / O ポート 2 1 T M 3 7 2 e に入力される。
払出モータ位置センサ 2 1 T M 2 9 5 は、払出モータ 2 1 T M 2 8 9 の回転位置を検出す
るための発光素子（L E D）と受光素子とによるセンサであり、遊技球が詰まったこと、
すなわちいわゆる球噛みを検出するために用いられる。払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 に搭
載されている払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、球切れスイッチ 2 1 T
M 1 8 7 からの検出信号が球切れ状態を示していたり、満タンスイッチ 2 1 T M 0 4 8 か
らの検出信号が満タン状態を示している、と、球払出処理を停止する。

【 0 2 3 0 】

さらに、満タンスイッチ 2 1 T M 0 4 8 からの検出信号が満タン状態を示していると、
払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、打球発射装置からの球発射を停止さ
せるために、発射基板 2 1 T M 0 9 0 に対してローレベルの満タン信号を出力する。発射
基板 2 1 T M 0 9 0 の A N D 回路 2 1 T M 0 9 1 が出力する発射モータ 2 1 T M 0 9 4 へ
の発射モータ信号は、発射基板 2 1 T M 0 9 0 から発射モータ 2 1 T M 0 9 4 に伝えられ
る。払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 からの満タン信号は、発射基板 2 1
T M 0 9 0 に搭載された A N D 回路 2 1 T M 0 9 1 の入力側の一方に入力され、駆動信号
生成回路 2 1 T M 0 9 2 からの駆動信号（発射モータ 2 1 T M 0 9 4 を駆動するための信
号であって、電源基板からの電源を供給する役割を果たす信号である。）は、A N D 回路
2 1 T M 0 9 1 の入力側の他方に入力される。そして、A N D 回路 2 1 T M 0 9 1 の発射
モータ信号が発射モータ 2 1 T M 0 9 4 に入力される。すなわち、払出制御用マイクロコ
ンピュータ 2 1 T M 3 7 0 が満タン信号を出力している間は、発射モータ 2 1 T M 0 9 4
への発射モータ信号の出力が停止される。

【 0 2 3 1 】

払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 には、遊技制御用マイクロコンピュー

タ 1 0 0 とシリアル通信で信号を入出力（送受信）するためのシリアル通信回路 2 1 T M 3 8 0 が内蔵されている。この実施の形態では、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 と 払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 とは、シリアル通信回路 2 1 T M 5 0 5 , 2 1 T M 3 8 0 を介して、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 と 払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 との間の接続確認を行うために、一定の間隔（例えば 1 秒）で信号（賞球要求信号、受信 A C K 信号）をやり取り（送受信）している。すなわち、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、シリアル通信回路 2 1 T M 5 0 5 を介して、一定の間隔で接続確認を行うための信号（この実施の形態における賞球要求信号）を送信し、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 からの賞球要求信号を受信した場合、その旨を通知する信号（受信 A C K 信号）を遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に送信する。この実施の形態では、賞球要求信号や受信 A C K 信号に特定のデータを乗せることにより、賞球要求信号や受信 A C K 信号を送受信するタイミングにおいて、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 と払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 との間で特定のデータをやり取りするように構成している。例えば、入賞が発生した場合には、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、払い出すべき賞球個数を示すデータを、賞球要求信号の所定ビットを異ならせることにより設定し、当該設定がなされた賞球要求信号を払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 に送信する。そして、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、賞球払出動作が終了すると、賞球終了を示すデータを、受信 A C K 信号の所定ビットを異ならせることにより設定し、当該設定がなされた受信 A C K 信号を遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に送信する。また、所定のエラー（球貸し、満タン、球切れなどのエラー）が発生した場合には、エラーの内容を示すデータを、受信 A C K 信号の所定ビットを異ならせることにより設定し、当該設定がなされた受信 A C K 信号を遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 に送信する。

【 0 2 3 2 】

払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、出力ポート 2 1 T M 3 7 2 b を介して、賞球払出数を示す賞球情報信号および貸し球数を示す球貸し個数信号をターミナル基板（枠用外部端子基板と盤用外部端子基板とを含む） 2 1 T M 1 6 0 に出力する。なお、出力ポート 2 1 T M 3 7 2 b の外側に、ドライバ回路が設置されているが、図 9 - 2 では記載省略されている。

【 0 2 3 3 】

また、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 は、出力ポート 2 1 T M 3 7 2 c を介して、7 セグメント L E D によるエラー表示用 L E D 2 1 T M 3 7 4 にエラー信号を出力する。さらに、出力ポート 2 1 T M 3 7 2 b を介して、点灯／消灯を指示するための信号を賞球 L E D 2 1 T M 0 5 3 および球切れ L E D 2 1 T M 0 5 4 に出力する。なお、払出制御基板 2 1 T M 0 3 7 の入力ポート 2 1 T M 3 7 2 f には、エラー状態を解除するためのエラー解除スイッチ 2 1 T M 3 7 5 からの検出信号が入力される。エラー解除スイッチ 2 1 T M 3 7 5 は、ソフトウェアリセットによってエラー状態を解除するために用いられる。

【 0 2 3 4 】

さらに、払出制御用マイクロコンピュータ 2 1 T M 3 7 0 からの払出モータ 2 1 T M 2 8 9 への駆動信号は、出力ポート 2 1 T M 3 7 2 a および中継基板 2 1 T M 0 7 2 を介して球払出装置 2 1 T M 0 9 7 の払出機構部分における払出モータ 2 1 T M 2 8 9 に伝えられる。なお、出力ポート 2 1 T M 3 7 2 a の外側に、ドライバ回路（モータ駆動回路）が設置されているが、図 9 - 3 では記載省略されている。

【 0 2 3 5 】

遊技機に隣接して設置されているカードユニット 2 1 T M 0 5 0 には、カードユニット制御用マイクロコンピュータが搭載されている。また、カードユニット 2 1 T M 0 5 0 には、使用可表示ランプ、連結台方向表示器、カード投入表示ランプおよびカード挿入口が設けられている。インタフェース基板（中継基板） 2 1 T M 0 6 6 には、度数表示 L E D

21TM060、球貸し可LED21TM061、球貸スイッチ21TM062および返却スイッチ21TM063が接続される。

【0236】

インタフェース基板21TM066からカードユニット21TM050には、遊技者の操作に応じて、球貸スイッチ21TM062が操作されたことを示す球貸スイッチ信号および返却スイッチ21TM063が操作されたことを示す返却スイッチ信号が与えられる。また、カードユニット21TM050からインタフェース基板21TM066には、プリペイドカードの残高を示すカード残高表示信号および球貸し可表示信号が与えられる。カードユニット21TM050と払出制御基板21TM037の間では、接続信号（VL信号）、ユニット操作信号（BRDY信号）、球貸し要求信号（BRQ信号）、球貸し完了信号（EXS信号）およびパチンコ機動作信号（PRDY信号）が入力ポート21TM372fおよび出力ポート21TM372dを介して送受信される。カードユニット21TM050と払出制御基板21TM037の間には、インタフェース基板21TM066が介在している。よって、接続信号（VL信号）等の信号は、図9-2に示すように、インタフェース基板21TM066を介してカードユニット21TM050と払出制御基板21TM037の間で送受信されることになる。

【0237】

パチンコ遊技機1の電源が投入されると、払出制御基板21TM037に搭載されている払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、カードユニット21TM050にPRDY信号を出力する。また、カードユニット制御用マイクロコンピュータは、電源が投入されると、VL信号を出力する。払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、VL信号の入力状態によってカードユニット21TM050の接続状態／未接続状態を判定する。カードユニット21TM050においてカードが受け付けられ、球貸スイッチが操作され球貸スイッチ信号が入力されると、カードユニット制御用マイクロコンピュータは、払出制御基板21TM037にBRDY信号を出力する。この時点から所定の遅延時間が経過すると、カードユニット制御用マイクロコンピュータは、払出制御基板21TM037にBRQ信号を出力する。

【0238】

そして、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、カードユニット21TM050に対するEXS信号を立ち上げ、カードユニット21TM050からのBRQ信号の立ち下がりを検出すると、払出モータ21TM289を駆動し、所定個の貸し球を遊技者に払い出す。そして、払出が完了したら、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370は、カードユニット21TM050に対するEXS信号を立ち下げる。その後、カードユニット21TM050からのBRDY信号がオン状態でないことを条件に、遊技制御用マイクロコンピュータ100から払出指令信号を受けると賞球払出制御を実行する。

【0239】

カードユニット21TM050で用いられる電源電圧AC24Vは払出制御基板21TM037から供給される。すなわち、カードユニット21TM050に対する電源基板からの電力供給は、払出制御基板21TM037およびインタフェース基板21TM066を介して行われる。この例では、インタフェース基板21TM066内に配されているカードユニット21TM050に対するAC24Vの電源供給ラインに、カードユニット21TM050を保護するためのヒューズが設けられ、カードユニット21TM050に所定電圧以上の電圧が供給されることが防止される。

【0240】

本実施例のパチンコ遊技機1は、設定値に応じて大当りの当選確率（出玉率）が変わる構成とされている。詳しくは、後述する特別図柄プロセス処理の特別図柄通常処理において、設定値に応じた表示結果判定テーブル（当選確率）を用いることにより、大当りの当選確率（出玉率）が変わるようになっている。設定値は1～6の6段階からなり、6が最も出玉率が高く、6，5，4，3，2，1の順に値が小さくなるほど出玉率が低くなる。すなわち、設定値として6が設定されている場合には遊技者にとって最も有利度が高く、

10

20

30

40

50

5, 4, 3, 2, 1の順に値が小さくなるほど有利度が段階的に低くなる。

【0241】

図9-4(A)～(F)は、各設定値に対応する表示結果判定テーブルを示す説明図である。表示結果判定テーブルとは、ROM101に記憶されているデータの集まりであって、MR1と比較される当り判定値が設定されているテーブルである。各表示結果判定テーブルは、変動特図指定バッファが1(第1)である、つまり、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と、変動特図指定バッファが2(第2)である、つまり、第2特別図柄が変動表示の対象とされている場合のそれぞれについて、大当たりとする判定値が設定されている。

【0242】

図9-4(A)に示すように、設定値1に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第1である場合、つまり、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合には、設定値が「2」、「3」、「4」、「5」、「6」である場合よりも低い確率(1/300)で大当りに当選するようになっている。また、変動特図指定バッファが第2である場合には、大当たりに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第1である場合と同様の判定値が設定されており、第2特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率(1/300)で大当りに当選するようになっている。

【0243】

また、図9-4(B)に示すように、設定値2に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第1である場合には、設定値が「1」である場合よりも高い確率(1/280)で大当りに当選するようになっている。また、変動特図指定バッファが第2である場合には、大当たりに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第1である場合と同様の判定値が設定されており、第2特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率(1/280)で大当りに当選するようになっている。

【0244】

また、図9-4(C)に示すように、設定値3に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第1である場合には、設定値が「1」、「2」である場合よりも高い確率(1/280)で大当りに当選するようになっている。また、変動特図指定バッファが第2である場合には、大当たりに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第1である場合と同様の判定値が設定されており、第2特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率(1/280)で大当りに当選するようになっている。

【0245】

また、図9-4(D)に示すように、設定値4に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第1である場合には、設定値が「1」、「2」、「3」である場合よりも高い確率(1/250)で大当りに当選するようになっている。また、変動特図指定バッファが第2である場合には、大当たりに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第1である場合と同様の判定値が設定されており、第2特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率(1/250)で大当りに当選するようになっている。

【0246】

また、図9-4(E)に示すように、設定値5に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第1である場合には、設定値が「1」、「2」、「3」、「4」である場合よりも高い確率(1/235)で大当りに当選するようになっている。また、変動特図指定バッファが第2である場合には、大当たりに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第1である場合と同様の判定値が設定されており、第2特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率(1/235)で大当りに当選するようになっている。

10

20

30

40

50

【0247】

また、図9-4(F)に示すように、設定値5に対応する表示結果判定テーブルを用いるときに、変動特図指定バッファが第1である場合には、設定値が「1」、「2」、「3」、「4」、「5」である場合よりも高い確率(1/220)で大当りに当選するようになっている。また、変動特図指定バッファが第2である場合には、大当りに対応する判定値として、変動特図指定バッファが第1である場合と同様の判定値が設定されており、第2特別図柄が変動表示の対象とされている場合にも、第1特別図柄が変動表示の対象とされている場合と同じ確率(1/220)で大当りに当選するようになっている。

【0248】

つまり、CPU103は、その時点で設定されている設定値に対応する表示結果判定テーブルを参照して、MR1の値が図9-4(A)~(F)に示す大当りに対応するいずれかの当り判定値に一致すると、特別図柄に関して大当り(大当りA~大当りF)とすることを決定する。すなわち、設定値に応じた確率で大当りの当選を決定する。尚、図9-4(A)~(F)に示す「確率」は、大当りになる確率(割合)を示す。また、大当りにするか否か決定するということは、大当り遊技状態に制御するか否か決定するということであるが、第1特別図柄表示装置4Aまたは第2特別図柄表示装置4Bにおける停止図柄を大当り図柄にするか否か決定するということでもある。

【0249】

また、本実施例では、CPU103は、図9-4(A)~(F)に示す表示結果判定テーブルを用いて大当りとするか否かを判定するようになっているが、大当り判定テーブルを別個に設け、大当りの判定は、変動特図指定バッファによらず第1特別図柄の変動表示である場合と第2特別図柄の変動表示である場合とで共通のテーブルを用いて行うようにしてもよい。

【0250】

尚、本実施例では、パチンコ遊技機1に設定可能な設定値として1~6の計6個の設定値を設けているが、本発明はこれに限定されるものではなく、パチンコ遊技機1に設定可能な設定値は、2個、3個、4個、5個、または7個以上であってもよい。

【0251】

(設定示唆演出)

設定コマンドを受信した演出制御用CPU120は、設定コマンドが指定する設定値に応じた演出を実行することにより、設定値を示唆することが可能である。例えば、大当り遊技状態が終了したときに実行されるエンディング演出の態様を、指定された設定値に応じて異ならせることで、遊技者に設定値を示唆することが可能である。図9-5(1)、(2)、及び(3)は、設定示唆演出の例を示している。図9-5(1)は、大当り終了画面において「晴れ」態様のエンディング画像が選択された例、図9-5(2)は、大当り終了画面において「曇り」態様のエンディング画面が選択された例、図9-5(3)は、大当り終了画面において「雨」態様のエンディング画像が選択された例を示している。また、図9-5(4)は、設定示唆演出の態様を、設定コマンドが指定した設定値に基づいて決定するためのテーブルの具体例を示す説明図である。

【0252】

CPU103は、設定値を指定する設定コマンドを演出制御用CPU120に送信している。また、CPU103は、大当り遊技状態が終了したときに、画像表示装置5においてエンディング演出を実行するための演出制御用コマンドを演出制御用CPU120に送信する。演出制御用CPU120は、受信した設定コマンドにより指定された設定値をRAM102に記憶することにより、記憶した設定値に基づいてエンディング演出の態様を決定可能である。例えば、大当り遊技状態が終了したときに送信される演出制御用コマンドに基づいて、画像表示装置5に、大当り遊技状態が終了したことを報知する文字(「BONUS終了」の文字)と共に、記憶している設定値に基づいて決定された態様(晴れの態様、曇りの態様、雨の態様)のエンディング画像を表示することが可能となる。

【0253】

図9-5(4)に示すテーブルには、設定コマンドで指定された設定値が「1, 2」である場合、「3, 4」である場合、及び「5, 6」である場合について、それぞれ、設定示唆演出の態様を、図9-5(1)に示す「晴れ」態様に決定する場合、図9-5(2)に示す「曇り」態様に決定する場合、及び図9-5(3)に示す「雨」態様に決定する場合、の判定値が割り振られている。

【0254】

演出制御用CPU120は、受信した設定コマンドで指定された設定値が「1」又は「2」である場合には、低い割合（例えば20%）で（1）に示す「晴れ」態様の設定示唆演出（エンディング演出）を実行することに決定し、中程度の割合（例えば40%）で（2）に示す「曇り」態様の設定示唆演出（エンディング演出）を実行することに決定し、中程度の割合（例えば40%）で（3）に示す「雨」態様の設定示唆演出（エンディング演出）を実行することに決定する。また、演出制御用CPU120は、受信した設定コマンドで指定された設定値が「3」又は「4」である場合には、低い割合（例えば20%）で（1）に示す「晴れ」態様の設定示唆演出（エンディング演出）を実行することに決定し、高い割合（例えば50%）で（2）に示す「曇り」態様の設定示唆演出（エンディング演出）を実行することに決定し、中程度の割合（例えば30%）で（3）に示す「雨」態様の設定示唆演出（エンディング演出）を実行することに決定する。また、演出制御用CPU120は、受信した設定コマンドで指定された設定値が「5」又は「6」である場合には、高い割合（例えば50%）で（1）に示す「晴れ」態様の設定示唆演出（エンディング演出）を実行することに決定し、低い割合（例えば20%）で（2）に示す「曇り」態様の設定示唆演出（エンディング演出）を実行することに決定し、中程度の割合（例えば30%）で（3）に示す「雨」態様の設定示唆演出（エンディング演出）を実行することに決定する。

【0255】

このように、設定値に応じて設定示唆演出の各態様の決定割合を異ならせることにより、遊技者は設定示唆演出がどのような態様で実行されるかに関心を抱くことになり、設定示唆演出の興趣を向上させることができる。本例では、遊技者は、大当り遊技状態が終了したときに実行されるエンディング演出がどのような態様で実行されるかに関心を抱くことになり、特に、「晴れ」態様でエンディング演出が実行されることに期待することになる。

【0256】

（電源投入時処理）

次に、電源投入時処理について説明する。

図9-6～図9-8は、パチンコ遊技機1の電源投入時に遊技制御用マイクロコンピュータ100において実行される処理の一例を示す図である。

【0257】

図9-6に示すように、遊技制御用マイクロコンピュータ100のCPU103は、電源が投入された後に、バックアップRAM領域のデータチェックを行う（ステップS21TM4010）。この処理は、データチェックとしてパリティチェックを行う。

【0258】

チェック結果が正常であれば（ステップS21TM4010でYES）、CPU103は、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値が、正規の値、例えば、0～5の何れかに合致するか否かを確認する（ステップS21TM4020）。本例では設定値格納領域に格納されている設定値として、0、1、2、3、4、及び5の6つの数字を正規の値としており、大当り確率が異なる6段階の設定値を設けている。本例における設定値0は前述した図9-4等で示す設定値1に相当し、本例における設定値1は前述した図9-4等で示す設定値2に相当し、本例における設定値2は前述した図9-4等で示す設定値3に相当し、本例における設定値3は前述した図9-4等で示す設定値4に相当し、本例における設定値4は前述した図9-4等で示す設定値5に相当し、本例における設定値5は前述した図9-4等で示す設定値6に相当する。

【0259】

ここで、本例では、パチンコ遊技機1が遊技機メーカーから出荷される際（遊技場に設置される前）には、設定値格納領域に、上記正規の値のうち最も大当り確率が低い値（本例では0）が記憶されているものとする。なお、設定値格納領域のデータが壊れている場合には、正規の値となっていない場合がある。設定値が正規の値であれば（ステップS21TM4020でYES）、設定変更中フラグがセットされているか否かを確認する（ステップS21TM4030）。設定変更中フラグは、後述する設定変更モードに移行したときにセットされ（ステップS21TM4580）、錠スイッチ21TM051がOFF状態に切り替えられたときにクリアされる（ステップS21TM4720）。

【0260】

設定変更中フラグがセットされていなければ（ステップS21TM4030でNO）、CPU103は、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態であるか否かを確認する（ステップS21TM4040）。

【0261】

クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態であれば（ステップS21TM4040でYES）、CPU103は、RAMクリアフラグを1に設定する（ステップS21TM4050）。RAMクリアフラグの値は、RAMクリア（遊技状態の初期化）が実行されることに決定されたか否かを示す値であり、値が1である場合にはRAMクリアが実行されることに決定されたことを示している。本例では、RAMクリアフラグが1にセットされた時点では実際にRAMクリアは実行されておらず、設定変更モードに制御される場合には、設定変更モードに関する処理が終了した後にRAMクリアが実行されることになる。

【0262】

RAMクリアフラグの値が格納される領域は、バックアップRAM領域には含まれない。そのため電源断が発生した場合にはRAMクリアフラグの値は保持されず、電源復旧時のRAMクリアフラグの値は0（初期値が非セット状態）となっている。なお、遊技状態が初期化されることの報知は、設定変更モード又は設定確認モードに制御される前に行われるようにしても良く、後述するように、設定変更モード又は設定確認モードの終了後に行われるようにしても良い。

【0263】

一方、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がOFF状態であれば（ステップS21TM4040でNO）、CPU103は、ステップS21TM4060に移行する。

【0264】

次いで、CPU103は、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態となっているか否かを確認する（ステップS21TM4060）。ここで、前述したように、遊技機用枠3の開放状態、ガラス扉枠3aの開放状態は、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300により検出可能となっており、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300から払出制御用マイクロコンピュータ21TM370に、遊技機用枠3の開放状態が検出されたことを示す検出信号、ガラス扉枠3aの開放状態が検出されたことを示す検出信号が出力される。払出制御用マイクロコンピュータ21TM370が、遊技機用枠3の開放状態が検出されたことを認識すると、遊技制御用マイクロコンピュータ100に、遊技機用枠3の開放状態が検出された旨を通知し、ガラス扉枠3aの開放状態が検出されたことを認識すると、遊技制御用マイクロコンピュータ100に、ガラス扉枠3aの開放状態が検出された旨を通知することで、遊技制御用マイクロコンピュータ100側で、遊技機用枠3の開放状態と、ガラス扉枠3aの開放状態とを、個別に認識可能となっている。

【0265】

なお、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300から遊技制御用マイクロコンピュータ100に対して、遊技機用枠3の開放状態が検出されたことを示す検出信号、ガラス扉枠3aの開放状態が検出されたことを示す検出信号が出力される構成とした場合（即ち、遊

10

20

30

40

50

技制御用マイクロコンピュータ100が遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300を備える場合)には、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、これらの検出信号の入力によって、遊技機用枠3の開放状態と、ガラス扉枠3aの開放状態とを、個別に認識可能となる。

【0266】

CPU103が、遊技機用枠3の開放状態又はガラス扉枠3aの開放状態を認識した場合には(ステップS21TM4060でYES)、錠スイッチ21TM051がON状態であるか否かを確認する(ステップS21TM4070)。そして、錠スイッチ21TM051がON状態であれば(ステップS21TM4070でYES)、図9-7に示す、設定変更モード又は設定確認モードに関連したステップS21TM4510以降の処理、に移行する。設定変更モードに移行した場合には設定値の確認及び変更が可能となり、設定確認モードに移行した場合には設定値の確認が可能となる。

【0267】

即ち、バックアップRAM領域のデータチェック結果が正常であり(ステップS21TM4010でYES)、設定値が正規の値であり(ステップS21TM4020でYES)、設定変更中に電源断が発生していない場合には(ステップS21TM4030でNO)、遊技機用枠3が開放状態であり(ステップS21TM4060でYES)、且つ、錠スイッチ21TM051がON状態である(ステップS21TM4070でYES)ことを条件として、設定値の変更及び／又は確認が可能となる。一方、遊技機用枠3が閉鎖状態であるか(ステップS21TM4060でNO)、又は、錠スイッチ21TM051がOFF状態である(ステップS21TM4070でNO)場合には、設定変更モード及び設定確認モードの何れのモードにも制御されることなく、後述するステップS21TM4760(設定コマンドの送信)に移行する。

【0268】

本実施形態では、設定値の変更を許可しないものの設定値を確認することが可能な状態(設定確認モード)とするためには、(1)遊技機用枠3が開放状態であり、(2)錠スイッチ21TM051がON状態である、という2つの条件が必要となっている。CPU103は、ステップS21TM4060及びステップS21TM4070の判定処理によって、これら(1)及び(2)の条件が何れも成立していることを確認したときに、設定値を確認することが可能な状態(設定確認モード)に移行可能としている。また、これら(1)及び(2)の条件に加えて、さらに、(3)クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052がON状態である(YES)と判定されたことに基づいてRAMクリアフラグがセットされていることを条件として、後述するように、設定値を変更することが可能な状態(設定変更モード)に移行可能となっている。

【0269】

前述したように、設定値を確認又は変更するために操作しなければならない錠スイッチ21TM051は、遊技盤2の裏面側に設けられており、遊技機用枠3を開放状態としなければ操作することができない。仮に、遊技機用枠3が開放状態となっていないにもかかわらず、錠スイッチ21TM051が操作されたということは、遊技機枠・扉枠開放センサ21TM300に異常があるか、又は、何らかの不正な手段で設定値の確認又は変更が行われようとしている可能性がある。このような状態で、設定値の確認又は変更を許可することは不適切であるため、本実施形態では、遊技機用枠3が開放状態となっていないときには、パチンコ遊技機1を設定確認モード及び設定変更モードの何れにも制御させないようにしている。

【0270】

なお、本実施形態では、(1)の条件として、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの何れか一方が開放状態となっているときには、パチンコ遊技機1を設定確認モード又は設定変更モードに制御可能としているが、このような形態に限らず、仮に、ガラス扉枠3aが開放状態となっていない、遊技機用枠3が開放状態となっていない、設定確認モード及び設定変更モードの何れにも制御させないようにしても良い。

【0271】

一方、ステップS21TM4060で、遊技機用枠3の開放状態又はガラス扉枠3aの開放状態を認識しなかった場合（ステップS21TM4060でNO）、即ち、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが何れも閉鎖状態となっている場合には、設定変更モード及び設定確認モードの何れのモードにも制御されることなく、後述するステップS21TM4760（設定コマンドの送信）に移行する。また、ステップS21TM4070で、錠スイッチ21TM051がOFF状態であることが確認されると（ステップS21TM4070でNO）、設定変更モード及び設定確認モードの何れのモードにも制御されることなく、後述するステップS21TM4760（設定コマンドの送信）に移行する。

【0272】

バックアップRAM領域のデータチェックにおいて（ステップS21TM4010）、チェック結果が異常であれば（ステップS21TM4010でNO）、CPU103は、ステップS21TM4120に移行する。また、設定値格納領域に格納されている値のチェックにおいて（ステップS21TM4020）、設定値格納領域に正規の値（0～5）が格納されていない場合には（ステップS21TM4020でNO）、CPU103は、ステップS21TM4120に移行する。また、設定変更中フラグのチェックにおいて（ステップS21TM4030）、設定変更中フラグがセットされていることが確認された場合には（ステップS21TM4030でYES）、CPU103は、ステップS21TM4120に移行する。

【0273】

ここで、仮に、設定値格納領域に正規の値（0～5）が格納されている場合であっても、バックアップRAM領域の一部が壊れている場合には、ステップS21TM4010でNOと判定されて、ステップS21TM4120に移行する。即ち、設定値格納領域に格納されている値が不適切である可能性がある場合には、設定変更モード移行条件（後述するステップS21TM4120～ステップS21TM4140）が成立していることに基づいて設定変更モードに制御されることになる。また、仮に、バックアップRAM領域のデータチェックにおいて（ステップS21TM4010）、チェック結果が正常であっても（ステップS21TM4010でYES）、設定値格納領域に正規の値（0～5）が格納されていない場合には（ステップS21TM4020でNO）、設定変更モード移行条件（後述するステップS21TM4120～ステップS21TM4140）が成立していることに基づいて設定変更モードに制御されることになる。また、前回の電源断発生時に設定変更モードに制御されていた場合には、設定変更モード移行条件（後述するステップS21TM4120～ステップS21TM4140）が成立していることに基づいて設定変更モードに制御されることになる。

【0274】

ステップS21TM4120において、CPU103は、遊技機用枠3又はガラス扉枠3aが開放状態となっているか否かを確認する（ステップS21TM4120）。CPU103が、遊技機用枠3の開放状態又はガラス扉枠3aの開放状態を認識した場合には（ステップS21TM4120でYES）、錠スイッチ21TM051がON状態であるか否かを確認する（ステップS21TM4130）。

【0275】

錠スイッチ21TM051がON状態であれば（ステップS21TM4130でYES）、CPU103は、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態であるか否かを確認する（ステップS21TM4140）。

【0276】

クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態であれば（ステップS21TM4140でYES）、CPU103は、RAMクリアフラグを1に設定する（ステップS21TM4150）。そして、図9-7に示す、設定変更モードに関連したステップS21TM4510以降の処理が実行される。

【0277】

一方、ステップ S 2 1 T M 4 1 2 0 で、遊技機用枠 3 の開放状態又はガラス扉枠 3 a の開放状態を認識しなかった場合（ステップ S 2 1 T M 4 1 2 0 で N O）、即ち、遊技機用枠 3 及びガラス扉枠 3 a が何れも閉鎖状態となっている場合、ステップ S 2 1 T M 4 1 3 0 で、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O N 状態となっていない場合（ステップ S 2 1 T M 4 1 3 0 で N O）、ステップ S 2 1 T M 4 1 4 0 において、クリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 が O N 状態となっていない場合（ステップ S 2 1 T M 4 1 4 0 で N O）には、C P U 1 0 3 は、設定変更モードに関連したステップ S 2 1 T M 4 5 1 0 以降の処理を実行することなく、設定値格納領域に格納されている設定値が異常である可能性があることを示す設定値異常エラーコマンドを演出制御用 C P U 1 2 0 に送信する。

【 0 2 7 8 】

演出制御用 C P U 1 2 0 は、設定値異常エラーコマンドを受信すると、画像表示装置 5 において、設定値が異常である可能性があることを報知する。例えば「設定値が異常である可能性があります」というメッセージを表示する。さらに、演出制御用 C P U 1 2 0 は、画像表示装置 5 において、一旦は電源断の状態（電源スイッチ 2 1 T M 0 5 5 を O F F）にした後、電源再投入時（電源スイッチ 2 1 T M 0 5 5 を O N 時）に設定変更モードに移行させて設定値を変更するための操作を行う（設定値を確定させる）ように促す報知を行う。例えば「電源断後に電源を再投入して設定変更モードに移行させて下さい」というメッセージを表示する。なお、スピーカ 8 L、8 R からの音声出力により、同様の報知を行うようにしても良い。

【 0 2 7 9 】

次いで、演出制御用 C P U 1 2 0 は、電源断となるまで所定のループ処理（ステップ S 2 1 T M 4 2 0 0 ～ステップ S 2 1 T M 4 2 2 0 の繰り返し）を実行する。

【 0 2 8 0 】

このループ処理では、C P U 1 0 3 が、4 m s のウエイト（ステップ S 2 1 T M 4 2 0 0）を行った後に、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に「E」の文字を表示すること等により、「設定値が正規の値（0～5）ではない可能性があるにもかかわらず設定変更モードに制御するための移行条件（ステップ S 2 1 T M 4 1 2 0 ～ステップ S 2 1 T M 4 1 4 0 で全て Y E S と判定されること）が成立しておらず設定変更モードに移行していないこと」を報知する（ステップ S 2 1 T M 4 2 1 0）。そして、セキュリティ信号線の一端が接続されている出力端子（端子番号 1 0）からセキュリティ信号を出力する（ステップ S 2 1 T M 4 2 2 0）。セキュリティ信号はセキュリティ信号線他端が接続されている外部装置（例えば、複数の遊技機の情報管理するホールコンピュータ、当該遊技機に対応して設けられるカードユニット又は呼出ランプ装置等）に入力される。

【 0 2 8 1 】

ループ処理の期間は、表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 が備える 7 セグメント表示器に、4 m s 毎に「E」の文字が表示されることになる。4 m s のウエイトを設けることで 7 セグメント表示器に過度の熱が滞留して表示器にダメージを及ぼすことを防止するようにしている。また、ループ処理の期間はセキュリティ信号が継続して出力されている。セキュリティ信号を外部出力することで、ホールコンピュータ等の外部装置において、セキュリティ信号が入力されたことに基づいて当該パチンコ遊技機 1 で所定事象（本例では、設定値が正規の値（0～5）ではない可能性があるにもかかわらず設定変更モードに制御するための移行条件が成立しておらず設定変更モードに移行していないこと）が発生した可能性を特定可能となる。

【 0 2 8 2 】

ステップ S 2 1 T M 4 2 0 0 ～ステップ S 2 1 T M 4 2 2 0 のループ処理は、電力供給が停止するまで（電源スイッチ 2 1 T M 0 5 5 が O F F とされるまで）継続されることになる。

【 0 2 8 3 】

即ち、バックアップ R A M 領域のデータチェック結果が異常である場合（ステップ S 2 1 T M 4 0 1 0 で N O）、設定値が正規の値ではない場合（ステップ S 2 1 T M 4 0 2 0

10

20

30

40

50

でNO)、及び、設定変更中に電源断が発生した場合（即ち、電源投入時に設定変更中フラグがセットされていた場合であり、ステップS21TM4030でYESと判定される場合）、のいずれかに該当する場合には、この状態で遊技を行わせるべきではなく、通常遊技処理（例えば、賞球処理や特別図柄プロセス処理等を含む遊技制御用タイマ割込処理）に移行する前に、設定値格納領域の設定値を正規の値に確定させる必要がある。そのため、RAMクリアフラグをセットして設定変更モードに移行させるようにしている。

【0284】

本実施形態では、設定値の変更が可能な状態（設定変更モード）とするためには、（1）遊技機用枠3が開放状態であり、（2）錠スイッチ21TM051がON状態であり、（3）クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態である、という3つの条件が必要となっている。CPU103は、ステップS21TM4120、ステップS21TM4130、及びステップS21TM4140の判定処理によって、これら（1）～（3）の条件が何れも成立していることを確認したときに、設定値の変更が可能な状態（設定変更モード）に移行可能としている。

【0285】

仮に、（1）～（3）の条件のうち何れかの条件が成立していなければ、設定値の変更が許可されないため、設定値格納領域の設定値を正規の値に確定させることができず、通常遊技処理に移行させることができない。そのため、ステップS21TM4120、ステップS21TM4130、及びステップS21TM4140の判定処理のうち、何れかでNOと判定された場合には、前述したループ処理（ステップS21TM4200～ステップS21TM4220）に移行する。

【0286】

ループ処理（ステップS21TM4200～ステップS21TM4220）に移行してしまうと通常遊技処理に移行することができなくなるため、遊技場の店員等は、一旦パチンコ遊技機1を電源断として再度電源を投入しなければならない。このように、設定変更モードに移行するための条件が成立していない場合には、一旦は電源断を行わせて、次の電源投入時に（1）～（3）の条件を全て成立させるようにして、設定変更モードに移行させ、設定値格納領域の設定値を正規の値に確定させるようにしている。

【0287】

なお、CPU103は、（1）～（3）の条件のうち何れかの条件が成立していない場合には、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bを、予め定められた電源断指示態様で発光させることにより、電源をOFF状態とするように促すようにしても良い。

【0288】

本実施形態では、設定変更中フラグがセットされていない場合（ステップS21TM4030でNO）、設定値の変更を許可しないものの、設定値を確認することが可能な状態（設定確認モード）とするために、（1）遊技機用枠3が開放状態であり（ステップS21TM4060でYES）、（2）錠スイッチ21TM051がON状態である（ステップS21TM4070でYES）、という2つの条件が必要となっている。

【0289】

しかしながら、設定変更中フラグがセットされている場合には（ステップS21TM4030でYES）、（1）遊技機用枠3が開放状態であり（ステップS21TM4120でYES）、（2）錠スイッチ21TM051がON状態である（ステップS21TM4130でYES）、という2つの条件が成立している場合であっても、設定確認モードに制御されることはない。これら（1）及び（2）の条件が成立している場合であっても、（3）ステップS21TM4140でクリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態でない（NO）と判定された場合には、設定変更モード及び設定確認モードの何れのモードにも制御されることなく遊技停止状態（ステップS21TM4200～ステップS21TM4220のループ処理）に制御されることになる。

【0290】

次に、設定変更モード及び設定確認モードに関連する処理について、図9-7及び図9-8を用いて説明する。図9-7の処理において、CPU103は、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値が、正規の値（本例では0～5の何れか）に合致するか否かを確認する（ステップS21TM4510）。設定値格納領域に正規の値（0～5）が格納されている場合には（ステップS21TM4510でYES）、ステップS21TM4530に移行する。設定値格納領域に正規の値（0～5）が格納されていない場合には（ステップS21TM4510でNO）、CPU103は、設定値格納領域に、正規の値として、最も大当り確率が低い「0」を格納する（ステップS21TM4520）。そして、ステップS21TM4530に移行する。

【0291】

次いで、CPU103は、4msのウェイト（ステップS21TM4530）を行った後に、電源断用処理を実行する（ステップS21TM4540）。電源断用処理において、CPU103は、不測の停電等を含む電源断に基づく電源断信号が入力されているか否かを確認して、電源断信号が入力されている場合には、当該電力供給の停止によって動作できなくなる直前に、電源供給停止時処理を実行する。この電源供給停止時処理では、RAM102にデータをバックアップすることを示すバックアップフラグをオンする処理、RAM102のデータ保護処理等が実行される。データ保護処理には、誤り検出符号（チェックサム、パリティビット等）の付加、各種データをバックアップする処理が含まれる。バックアップされるデータには、遊技を進行するための各種データ（各種フラグ、各種タイマの状態等を含む）の他、前記バックアップフラグの状態や誤り検出符号も含まれる。即ち、電源断用処理では所定のバックアップ領域にチェックデータを格納する。

【0292】

これにより、設定変更モード又は設定確認モードに制御されているときに（ステップS21TM4530～ステップS21TM4620の繰返し処理、又は、ステップS21TM4530～ステップS21TM4570及びステップS21TM4650の繰返し処理が行われているときに）、電源断が発生した場合、電源復旧後のステップS21TM4010で適切にデータチェックが実行されることになる。

【0293】

次いで、CPU103は、設定値格納領域に格納されている設定値（本例では0～5）に対応した値を、表示モニタ21TM029に表示させる（ステップS21TM4550）。ここで、表示モニタ21TM029に表示される値は、設定値格納領域に格納されている値（0～5）に1を加算した値（1～6）である。遊技場の店員は通常、設定値の範囲を1～6と認識しているため、設定値格納領域に格納されている値をそのまま表示モニタ21TM029に表示させてしまうと、遊技場の店員が実際の設定値を誤って認識してしまうおそれがある。従って、本例では「設定値格納領域に格納されている値+1」を、設定値として表示モニタ21TM029に表示させるようにしている。次いで、CPU103は、セキュリティ信号を出力する（ステップS21TM4560）。

【0294】

次いで、CPU103は、RAMクリアフラグが0であるか否かを確認する（ステップS21TM4570）。RAMクリアフラグが0であれば（ステップS21TM4570でYES）、即ち、モード（ここでは設定確認モード）終了後にRAMクリアが実行されない場合には、CPU103は、設定確認モードに制御されたことを指定する設定確認モードコマンドを送信し（ステップS21TM4650）、ステップS21TM4680に移行する。演出制御用CPU120は、設定確認モードコマンドを受信したに基づいて、遊技制御用マイクロコンピュータ100が設定確認モードに移行したことを特定可能である。従って、画像表示装置5やスピーカ8L、8Rにより、当該遊技機が設定確認モードに制御されていることを報知することが可能となる。

【0295】

一方、RAMクリアフラグが1であれば（ステップS21TM4570でNO）、即ち、モード（ここでは設定変更モード）終了後にRAMクリアが実行される場合には、CP

10

20

30

40

50

U103は、設定値の変更が行われている可能性があることを示す設定変更中フラグをセットする（ステップS21TM4580）。設定変更中フラグの値が格納される領域は、バックアップRAM領域に含まれるため、電源断の状態となっても、設定変更中フラグの値は保持される。そのため設定変更モードに制御されているときに電源断が発生した場合には、次の電源投入時に設定変更中フラグの値が1の状態（セット状態）となっている。
【0296】

次いで、CPU103は、設定変更モードに制御されたことを指定する設定変更モードコマンドを送信する（ステップS21TM4590）。演出制御用CPU120は、設定変更モードコマンドを受信したことに基づいて、遊技制御用マイクロコンピュータ100が設定変更モードに移行したことを特定可能である。従って、画像表示装置5やスピーカ8L、8Rにより、当該遊技機が設定変更モードに制御されていることを報知することが可能となる。

10

【0297】

次いで、CPU103は、設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作されたか否かを示す設定切替スイッチ情報を入力し（ステップS21TM4600）、設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作されたか否かを確認する（ステップS21TM4610）。

【0298】

設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作されていなければ（ステップS21TM4610でNO）、CPU103は、ステップS21TM4680に移行する。設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作された場合には（ステップS21TM4610でYES）、CPU103は、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値を更新して（ステップS21TM4620）、ステップS21TM4680に移行する。更新された設定値は次のステップS21TM4550で表示モニタ21TM029に表示される。

20

【0299】

遊技場の店員が、設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052を操作する（ステップS21TM4610でYES）毎に、設定値格納領域に格納されている設定値が更新される（ステップS21TM4620）。例えば、正規の設定値が0～5の範囲であり、設定変更モードに制御されたとき（電源投入時、前回の電源断発生時）に設定値格納領域に格納されていた設定値が3であったとすると、設定変更操作毎に、設定値格納領域に格納される設定値が、3→4→5→0→1→2→3の順序で更新され、これに応じて、表示モニタ21TM029に表示される情報が、4→5→6→1→2→3→4の順序で更新されることになる。

30

【0300】

ここで、現在の設定値の表示（ステップS21TM4550）及びセキュリティ信号の出力（ステップS21TM4560）、並びに設定確認モードコマンドの送信（ステップS21TM4650）を実行可能であるが、設定変更モードコマンドの送信（ステップS21TM4590）及び設定値の更新（ステップS21TM4620）を実行できない状態は、設定値の確認は可能であるか設定値の変更はできない設定確認モードに相当する。設定確認モードに制御されている期間は、ステップS21TM4530～ステップS21TM4570及びステップS21TM4650の処理が繰り返し実行されることになる。

40

【0301】

設定確認モードには、錠スイッチ21TM051がON状態であり（ステップS21TM4070でYESと判定され）、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がOFF状態であること（ステップS21TM4040でNOと判定されてRAMクリアフラグが0のままであること）に基づいて制御される。

【0302】

また、現在の設定値の表示（ステップS21TM4550）及びセキュリティ信号の出力（ステップS21TM4560）を実行可能であると共に、設定変更モードコマンドの

50

送信（ステップS 2 1 T M 4 5 9 0）及び設定値の更新（ステップS 2 1 T M 4 6 2 0）を実行可能な状態は、設定値の確認及び変更が可能な設定変更モードに相当する。

【0303】

設定変更モードには、錠スイッチ2 1 T M 0 5 1がON状態であり（ステップS 2 1 T M 4 0 7 0又はステップS 2 1 T M 4 1 3 0でYESと判定され）、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2がON状態であること（ステップS 2 1 T M 4 0 4 0又はステップS 2 1 T M 4 1 4 0でYESと判定されて、ステップS 2 1 T M 4 0 5 0又はステップS 2 1 T M 4 1 5 0でRAMクリアフラグが1に設定されていること）に基づいて制御される。

【0304】

なお、設定確認モードコマンドに関しては、設定確認モード制御時に1回のみ送信されるコマンドである。そのため、CPU103は、設定確認モードコマンドを送信したときに、設定確認モードコマンドを送信したことを特定可能であり電源断時のバックアップ記憶が不要な設定確認モードコマンド送信フラグをセットするようにしておき、設定変更中フラグがクリアされたとき（ステップS 2 1 T M 4 7 2 0）に、設定確認モードコマンド送信フラグをクリアするようにしても良い。そして、設定確認モードコマンド送信フラグがセットされていない場合にのみ、設定確認モードコマンドを送信可能としても良い。同様に、設定変更モードコマンドに関しては、設定変更モード制御時に1回のみ送信されるコマンドである。そのため、CPU103は、設定変更モードコマンドを送信したときに、設定変更モードコマンドを送信したことを特定可能であり電源断時のバックアップ記憶が不要な設定変更モードコマンド送信フラグをセットするようにしておき、設定変更中フラグがクリアされたとき（ステップS 2 1 T M 4 7 2 0）に、設定変更モードコマンド送信フラグをクリアするようにしても良い。そして、設定変更モードコマンド送信フラグがセットされていない場合にのみ、設定変更モードコマンドを送信可能としても良い。

【0305】

CPU103は、ステップS 2 1 T M 4 6 8 0において、錠スイッチ2 1 T M 0 5 1がOFF状態であるか否かを確認する。そして、錠スイッチ2 1 T M 0 5 1がON状態であれば（ステップS 2 1 T M 4 6 8 0でNO）、再び4msのウェイト（ステップS 2 1 T M 4 5 3 0）を行った後にステップS 2 1 T M 4 5 4 0以降の処理を繰り返す。即ち、RAMクリアフラグの値が0であれば設定確認モードの制御を継続し、RAMクリアフラグの値が1であれば設定変更モードの制御を継続する。

【0306】

ステップS 2 1 T M 4 6 8 0において、錠スイッチ2 1 T M 0 5 1がOFF状態であれば（ステップS 2 1 T M 4 6 8 0でYES）、CPU103は、設定変更モード又は設定確認モードを終了させて、セキュリティ信号タイマの値として1000msを設定する（ステップS 2 1 T M 4 7 1 0）。セキュリティ信号タイマの値として所定時間が設定されることで、その後、通常遊技処理に移行した際の情報出力処理において、セキュリティ信号タイマの値が所定時間から0msになるまでセキュリティ信号が継続して出力されることになる。例えば、遊技制御用タイマ割込処理が2ms毎に実行される場合には、セキュリティ信号タイマの値が2msずつ減算され、0msになった時点でセキュリティ信号の出力が停止される。従って、ステップS 2 1 T M 4 7 1 0の時点では、設定変更モードが終了したのか、あるいは、設定確認モードが終了したのかにかかわらず、セキュリティ信号の残り出力期間が1000msに設定されていることになる。

【0307】

即ち、図9-9（1）に示すように、設定変更モード及び設定確認モードの何れかの制御の開始に対応してセキュリティ信号の出力を開始し（ステップS 2 1 T M 4 5 6 0）、設定変更モード及び設定確認モードの何れかの制御の終了に対応して、設定変更モード及び設定確認モードの何れかの制御の終了から少なくとも1secが経過するまでセキュリティ信号を継続して出力するようにセキュリティ信号タイマの値をセットする（ステップS 2 1 T M 4 7 1 0）。

【0308】

ここで、ステップS21TM4560でセキュリティ信号の出力を開始する処理は、設定変更モードに制御されるか、あるいは設定確認モードに制御されるかにかかわらず（何れのモードに制御されるかの判定を行うことなく）共通の処理として実行されている。また、ステップS21TM4710においてセキュリティ信号の残り出力期間をセットする処理も、設定変更モードに制御されたのか、あるいは設定確認モードに制御されたのかにかかわらず（何れのモードに制御されたかの判定を行うことなく）共通の処理として実行されている。このように、設定変更モードに制御される場合と、設定確認モードに制御される場合とで、セキュリティ信号の出力開始制御及び出力終了制御を共通化することにより、セキュリティ信号の出力制御を簡素化し、制御負担を軽減させることができる。

10

【0309】

また、設定変更モード及び設定確認モードの何れかの制御の開始に対応してセキュリティ信号の出力を開始し、設定変更モード及び設定確認モードの何れかの制御の終了に対応してセキュリティ信号の出力を停止することにより、ホールコンピュータ等の外部装置に対して、当該遊技機が設定変更モード又は設定確認モードに制御された可能性があることを適切に通知することができる。

【0310】

ここで、設定変更モード又は設定確認モードの制御が終了した直後のステップS21TM4710では、設定変更モードに制御された場合と、設定確認モードに制御された場合とで共通の値（1000ms）をセキュリティ信号タイマにセットしている。しかしながら、設定変更モードに制御された場合と、設定確認モードに制御された場合とで、セキュリティ信号の出力開始制御及び出力終了制御を両方とも共通化してしまうと、外部装置側で何れのモードに制御されたのかを把握することが困難となってしまう。

20

【0311】

そこで、本実施形態では、図9-9（2）に示すように、設定変更モードに制御された場合、即ちRAMクリアフラグが1にセットされている場合には、一旦はステップS21TM4710でセキュリティ信号タイマの値として1000msをセットした後に、後述するステップS21TM4770でNOと判定されたことに基づいて、RAMクリア後のステップS21TM1465でセキュリティ信号タイマの値として30000msを再セットする（上書きする）ようにしている。即ち、セキュリティ信号の残り出力期間を一旦は1secにセットした後に、セキュリティ信号の残り出力期間を30secに再セットする（上書きする）ようにしている。

30

【0312】

以上に示した信号出力制御を行った場合、セキュリティ信号の最終的な出力停止タイミングは、図9-9（2）に示すように、設定確認モードに制御されていた場合には設定確認モード終了から1secが経過したタイミングとなり、設定変更モードに制御されていた場合には設定変更モード終了から30secが経過したタイミングとなる。

【0313】

具体的には、設定確認モードに制御されていた場合（RAMクリアが行われず、セキュリティ信号タイマの値が1秒から変更されなかった場合）には、割込許可後の遊技制御用タイマ割込処理（例えば、情報出力処理）において、セキュリティ信号タイマの値が1000msから0msになるまでセキュリティ信号の出力を継続し、設定変更モードに制御されていた場合（RAMクリアが行われた場合であり、セキュリティ信号タイマの値が1秒から30秒に変更された場合）には、割込許可後の遊技制御用タイマ割込処理（例えば、情報出力処理）において、セキュリティ信号タイマの値が30000msから0msになるまでセキュリティ信号の出力を継続することになる。なお、設定確認モードに制御されていた場合、設定変更モードに制御されていた場合に、遊技制御用タイマ割込処理に移行する前のタイミングで、セキュリティ信号タイマの値が所定時間（1000ms又は30000ms）から0msになるまでセキュリティ信号の出力を継続するようにして、セキュリティ信号の出力終了後に遊技制御用タイマ割込処理に移行するようにしても良い。

40

50

【0314】

このように、設定確認モードの制御が終了した場合と、設定変更モードの制御が終了した場合とで、少なくとも1secはセキュリティ信号が継続して出力されることになり、設定変更モードに制御された場合には、設定変更モードの制御が終了してから30secが経過するまでセキュリティ信号が継続して出力されることになる。このような構成により、セキュリティ信号の出力制御を共通化しつつ、設定確認モードに制御された場合と、設定変更モードに制御された場合とで、セキュリティ信号の出力期間を異ならせることができる。

【0315】

その結果、外部装置においては、初期化処理が実行されずに設定確認モードに制御されたのか、又は、初期化処理が実行されて設定変更モードに制御されたのかを把握することも可能となる。例えば、セキュリティ信号の出力期間が30秒未満であれば初期化処理が実行されることなく設定確認モードに制御されたことを特定可能であり、セキュリティ信号の出力期間が30秒以上であれば初期化処理が実行されて設定変更モードに制御された可能性があることを推定可能となる。

10

【0316】

なお、磁気異常等の遊技停止対象エラーが異常検出センサにより検出された場合にも、セキュリティ信号が出力されることになる。この場合のセキュリティ信号は、遊技機の電源がOFFとなるまで継続して出力される。また、CPU103は、異常検出センサにより異常が検出されたことに基づいてRAM102のバックアップ領域（ただし初期化処理によりクリアされる領域）に異常検出フラグをセットする。そして、電源復旧時に異常検出フラグがセットされていることに基づいて、セキュリティ信号を4分間出力するものとする。

20

【0317】

ここで、電源復旧時に設定確認モードに制御された場合には、RAMクリアが実行されないため、信号出力処理において異常検出フラグの値が初期化されずにセットされたままの状態となっており、セキュリティ信号を電源ONから4分間継続して出力することが可能である。即ち、セキュリティ信号の出力期間を、設定確認モードの制御終了から1秒が経過するまでの期間に限定させないことが可能となる。一方で、電源復旧時に設定変更モードに制御された場合には、RAMクリアが実行されることになるため、その後の信号出力処理において異常検出フラグがクリアされた状態となっており（電源断発生時に異常が検出されていたか否かが不明な状態となっており）、結果として、セキュリティ信号の出力期間は、設定変更モードの終了から30秒が経過するまでの期間（RAMクリアの実行に応じた期間）となる。

30

【0318】

なお、図9-7のステップS21TM4710に示す例では、セキュリティ信号タイマの値として1秒を設定するようにしているが、このような形態に限らず、設定変更モード又は設定確認モードの終了後に最初に設定するセキュリティ信号タイマの値は、少なくともセキュリティ信号が出力されたことを外部装置側で認識可能な期間であれば良く、例えば50ms以上であれば良い。即ち、設定変更モードが終了した場合と設定確認モードが終了した場合とで、共通の50msをセキュリティ信号タイマの値として設定しても良い。

40

【0319】

ステップS21TM4710の処理の後、CPU103は、設定変更中フラグをクリアする（ステップS21TM4720）。ここで、設定変更中フラグがクリアされたことにより、これ以降に電源断が発生した場合には、電源復旧時に設定変更中フラグがセットされていない（ステップS21TM4030でNO）と判定されることになる。

【0320】

次いで、CPU103は、表示モニタ21TM029に表示している設定値を消去する（ステップS21TM4730）。そして、設定値格納領域に格納されている設定値（0～5の何れか）を設定コマンドにセットして、その設定コマンドを送信する（ステップS

50

2 1 T M 4 7 6 0)。なお、電源投入時に設定変更モード及び設定確認モードの何れのモードにも制御されない場合であっても、ステップ S 2 1 T M 4 7 6 0 の処理は実行されることになり、設定コマンドが送信される。

【0 3 2 1】

ここで、遊技者は通常、設定値の範囲を 1～6 と認識しており、演出制御用 C P U 1 2 0 側で、設定コマンドが指定する値（設定値格納領域に格納されている値）をそのまま画像表示装置 5 に表示してしまうと、遊技者が設定値を誤って理解してしまうおそれがある。そこで、本実施形態では、演出制御用 C P U 1 2 0 側で、設定コマンドにより指定される値（0～5）に 1 を加算した値を設定値（1～6）として認識し、設定値 1～6 の範囲で、設定値を示唆する演出を実行するようにしている。

10

【0 3 2 2】

なお、このような形態に限らず、C P U 1 0 3 が、設定値格納領域に格納されている設定値（0～5）に 1 を加算した値（1～6）を設定コマンドにセットして、演出制御用 C P U 1 2 0 に送信するようにしても良い。これにより、設定コマンドが指定する設定値の範囲は 1～6 となり、遊技者が通常認識している範囲と合致することになる。演出制御用 C P U 1 2 0 側では、設定コマンドが指定する設定値（1～6）をそのまま画像表示装置 5 に表示したり、あるいは、設定コマンドが指定する設定値（1～6）を示唆する演出を実行することで、適切に設定値を報知又は示唆することができる。また、演出制御用 C P U 1 2 0 側で、受信した設定コマンドが指定する設定値に対して加算処理を行うことも不要となり、演出制御用 C P U 1 2 0 側の制御負担を軽減できる。

20

【0 3 2 3】

前述したように、演出制御用 C P U 1 2 0 は、設定コマンドの受信により、設定確認モード又は設定変更モードが終了したことを特定可能である。また、設定コマンドが指定する設定値に応じた演出を実行することにより、設定値を示唆することが可能である。例えば、大当り遊技状態が終了したときに実行されるエンディング演出の態様を、指定された設定値に応じて異ならせることで、遊技者に設定値を示唆することが可能である。

【0 3 2 4】

次いで、C P U 1 0 3 は、R A M クリアフラグの値が 0 であるか否かを確認する（ステップ S 2 1 T M 4 7 7 0）。

【0 3 2 5】

ここで、R A M クリアフラグの値が 0 である（ステップ S 2 1 T M 4 7 7 0 で Y E S）ということは、バックアップ R A M 領域のデータチェック結果が正常であり（ステップ S 2 1 T M 4 0 1 0 で Y E S）、設定値が正規の値である（ステップ S 2 1 T M 4 0 2 0 で Y E S）、と判定され、且つ、設定変更中に電源断が発生しておらず（ステップ S 2 1 T M 4 0 3 0 で N O）、さらに、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）2 1 T M 0 5 2 が O F F 状態である（ステップ S 2 1 T M 4 0 4 0 で N O）ということであるから、R A M クリアを伴わない電源断復旧時の処理を実行すれば良い。

30

【0 3 2 6】

C P U 1 0 3 は、R A M クリアフラグの値が 0 である場合、電源投入時にバックアップ R A M 領域のデータチェック結果が正常であった場合の処理を実行して、割込許可後に遊技制御用タイマ割込処理（特別図柄プロセス処理等を含む）に移行すれば良い。即ち、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも制御されなかった場合、又は、設定確認モードの制御が終了した場合には、C P U 1 0 3 は、R A M クリアフラグの値が 0 であることに基づいて R A M クリアを実行することなく、電源断復旧時のコマンドとしてバックアップコマンドを送信して、通常遊技処理に移行することになる。

40

【0 3 2 7】

演出制御用 C P U 1 2 0 では、このバックアップコマンド（復旧時のコマンド）を受信したことに基づいて、電力供給停止時のデータに基づいて電源断からの復旧が行われたこと（R A M クリアは行われてないこと）を認識する。演出制御用 C P U 1 2 0 は、バックアップコマンドを受信すると、例えば画像表示装置 5、スピーカ 8 L、8 R、枠 L E D 9

50

等の演出装置において、電力供給停止時のデータに基づいて電源断からの復旧が行われたこと（RAMクリアは行われていないこと）を報知することが可能である。

【0328】

一方、RAMクリアフラグの値が1である（ステップS21TM4770でNO）ということは、ステップS21TM4050又はステップS21TM4150で、RAMクリアが1に設定されており、RAMクリアを実行することに決定されているということであるから、RAMクリアを伴う電源投入時の処理を実行すれば良い。

【0329】

CPU103は、RAMクリアフラグの値が1である場合、セキュリティ信号タイマの値として30秒を設定する処理、及び電源投入時にバックアップRAM領域のデータチェック結果が異常であった場合の処理を実行して、割込許可後に遊技制御用タイマ割込処理（特別図柄プロセス処理等を含む）に移行すれば良い。

【0330】

図9-8に示すように、CPU103は、RAMクリアフラグが1であることに基づいてRAMクリア処理を行う（ステップS21TM1410）。RAMクリア処理では、RAM102の遊技状態情報格納領域に格納されている電力供給停止前の遊技状態を示すデータ（特別図柄プロセスフラグ、確変フラグ、時短フラグ、保留記憶等）はクリアされて、初期値が設定されるが、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値はクリアされず、RAMクリア処理の前から変更されない。また、設定値毎に、連比、役比、及びベース等の各集計値（表示モニタ21TM029に表示可能な遊技情報）が記憶されている領域も、クリアされず、これら設定値毎の各集計値は、RAMクリア処理の前から変更されない。そして、表示モニタ21TM029に「C」の文字を表示すること等により、遊技状態が初期化されたことを報知する（ステップS21TM1420）。なお、RAMクリア処理によって、所定のデータ（例えば、普通図柄当り判定用乱数を生成するためのカウンタのカウント値のデータ）は0に初期化されるが、任意の値またはあらかじめ決められている値に初期化するようにしてもよい。また、RAM102の全領域を初期化せず、所定のデータ（例えば、普通図柄当り判定用乱数を生成するためのカウンタのカウント値のデータ）をそのままにしてもよい。

【0331】

このRAMクリア処理において設定値格納領域に格納されている設定値をクリアさせない理由は、（a）設定変更モードに制御されなかった場合には、電源投入時に設定値格納領域には正規の値が格納されていたことになり（ステップS21TM4020でYES）、（b）設定変更モードに制御された場合には、設定値格納領域の値が0に設定されたか（ステップS21TM4520）又は設定変更モード中の操作によって正規の値が格納されている（ステップS21TM4610及びステップS21TM4620）ためである。さらに、RAMクリア処理以降は、設定変更モードに制御することができず、設定値格納領域に格納されている値を変更する機会がないためである。

【0332】

次いで、CPU103は、ROM101に格納されている初期化時設定テーブルの先頭アドレスをポインタに設定し（ステップS21TM1430）、初期化時設定テーブルの内容を順次作業領域に設定する（ステップS21TM1440）。ステップS21TM1430およびステップS21TM1440の処理によって、例えば、普通図柄当り判定用乱数カウンタ、特別図柄バッファ、総賞球数格納バッファ、特別図柄プロセスフラグなど制御状態に応じて選択的に処理を行うためのフラグに初期値が設定される。

【0333】

ステップS21TM1430、ステップS21TM1440の実行後、CPU103は、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値を読み出す（ステップS21TM1450）。後述する遊技制御用タイマ割込処理では、ここで読み出された設定値に基づいて特別図柄プロセス処理における大当り判定が実行される。次いで、CPU103は、電源投入時（あるいは設定変更モードの終了時）に初期化処理が行われたことを指定す

る初期化コマンドを送信する（ステップS21TM1460）。演出制御用CPU120では、この初期化コマンドを受信したことに基づいて、初期化処理が行われたこと（電力供給停止時のデータに基づいて電源断からの復旧が行われずに、RAMクリアが行われたこと）を認識する。演出制御用CPU120は、初期化コマンドを受信すると、例えば画像表示装置5、スピーカ8L、8R、枠LED9等の演出装置において、遊技状態等の初期化が行われたこと（電力供給停止時のデータに基づいて電源断からの復旧が行われずに、RAMクリアが行われたこと）を報知することが可能である。

【0334】

次いで、CPU103は、セキュリティ信号タイマの値として30秒を設定する（ステップS21TM1465）。これにより、設定変更モード終了後のステップS21TM4710で設定されていたセキュリティ信号タイマの値（1秒）が、RAMクリアが実行されたことに対応した値（30秒）に変更（上書き）されることになる。また、設定変更モード及び設定確認モードの何れのモードにも制御されることなくRAMクリアが実行された場合には、ステップS21TM4710が実行されることなく（セキュリティ信号タイマの値として1秒が設定されることなく）、セキュリティ信号タイマの値が、RAMクリアが実行されたことに対応した30秒に設定される。一方、RAMクリアが実行されなかった場合（設定確認モードに制御された場合を含む）には、このステップS21TM1465の処理は実行されないため、セキュリティ信号タイマの値はステップS21TM4710で設定された1秒のままである。

【0335】

このステップS21TM1465又は前述したステップS21TM4710で、セキュリティ信号タイマの値が設定されたことにより、割込許可後の遊技制御用タイマ割込処理においてセキュリティ信号が出力されることになり（情報出力処理）、その後、割込許可により遊技制御用タイマ割込処理が実行される毎に、セキュリティ信号タイマの値が2msずつ減算され、セキュリティ信号タイマの値が0となったタイミングでセキュリティ信号の出力が停止されることになる。

【0336】

そして、CPU103は、シリアル通信回路21TM505の設定処理を実行する（ステップS21TM1480）。この設定処理では、主基板11の出力回路21TM067から払出制御基板21TM037の入力回路21TM373Aに接続確認信号が出力される。また、遊技制御用マイクロコンピュータ100のシリアル通信回路21TM505と、払出制御用マイクロコンピュータ21TM370のシリアル通信回路21TM380との通信を実行可能な状態に設定する。

【0337】

次に、CPU103は、乱数回路104を初期設定する乱数回路設定処理を実行する（ステップS21TM1490）。CPU103は、例えば、乱数回路設定プログラムに従って処理を実行することによって、乱数回路104に特図表示結果判定用の乱数値MR1の値を更新させるための設定を行う。

【0338】

そして、ステップS21TM1500において、CPU103は、所定時間（例えば2ms）毎に定期的にタイマ割込がかかるように遊技制御用マイクロコンピュータ100に内蔵されているCTCのレジスタの設定を行う。すなわち、初期値として例えば2msに相当する値が所定のレジスタ（時間定数レジスタ）に設定される。この実施例では、2ms毎に定期的にタイマ割込がかかるとする。

【0339】

次いで、CPU103は、表示用乱数更新処理（ステップS21TM1520）および初期値用乱数更新処理（ステップS21TM1530）を繰り返し実行する。表示用乱数更新処理および初期値用乱数更新処理を実行するときには割込禁止状態に設定し（ステップS21TM1510）、表示用乱数更新処理および初期値用乱数更新処理の実行が終了すると割込許可状態に設定する（ステップS21TM1540）。これにより、遊技制御用

10

20

30

40

50

タイマ割込み処理を実行可能な通常遊技処理に移行する。本実施例では、表示用乱数とは、大当たりとしない場合の特別図柄の停止図柄を決定するための乱数や大当たりとしない場合にリーチとするか否かを決定するための乱数であり、表示用乱数更新処理とは、表示用乱数を発生するためのカウンタのカウント値を更新する処理である。また、初期値用乱数更新処理とは、初期値用乱数を発生するためのカウンタのカウント値を更新する処理である。この実施例では、初期値用乱数とは、普通図柄に関して当たりとするか否か決定するための乱数を発生するためのカウンタ（普通図柄当たり判定用乱数発生カウンタ）のカウント値の初期値を決定するための乱数である。後述する遊技の進行を制御する遊技制御処理（遊技制御用マイクロコンピュータ100が、遊技機に設けられている演出表示装置、可変入賞球装置、球払出装置等の遊技用の装置を、自身で制御する処理、または他のマイクロコンピュータに制御させるために指令信号を送信する処理、遊技装置制御処理ともいう）において、普通図柄当たり判定用乱数のカウント値が1周（普通図柄当たり判定用乱数の取りうる値の最小値から最大値までの間の数値の個数分歩進したこと）すると、そのカウンタに初期値が設定される。

【0340】

なお、本例では、CPU103は、ステップS21TM4770でRAMクリアフラグが0である（YES）と判定された場合、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが何れも閉鎖状態となっているか否かを確認することなく（遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの状態によらず）、電源断復旧時の処理に移行しているが、このような形態に限らず、ステップS21TM4770でRAMクリアフラグが0である（YES）と判定された場合、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが何れも閉鎖状態となっていることを条件として（遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの状態に応じて）、電源断復旧時の処理に移行しても良い。

【0341】

また、本例では、CPU103は、ステップS21TM4770でRAMクリアフラグが1である（NO）と判定された場合、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが何れも閉鎖状態となっているか否かを確認することなく（遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの状態によらず）、電源投入時の処理（ステップS21TM1410（RAMクリア）以降の処理）に移行しているが、このような形態に限らず、ステップS21TM4770でRAMクリアフラグが1である（NO）と判定された場合、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが何れも閉鎖状態となっていることを条件として（遊技機用枠3又はガラス扉枠3aの状態に応じて）、電源投入時の処理（ステップS21TM1410（RAMクリア）以降の処理）に移行しても良い。

【0342】

以上に示したように、遊技場の店員等は、電源投入時に錠スイッチ21TM051をON状態とし、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052をON状態とすることで、パチンコ遊技機1を設定変更モードに制御させることが可能であると共に、遊技状態等を初期化させること（RAMクリアを実行させること）ことが可能となる。また、電源投入時に錠スイッチ21TM051をON状態とし、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052をOFF状態とすることで、パチンコ遊技機1を設定確認モードに制御させることが可能であると共に、遊技状態等を初期化させない（ステップS21TM4040又はステップS21TM4140でNOと判定させてRAMクリアフラグを1に設定させないこと）ことが可能となる。このように、遊技場の店員は、パチンコ遊技機1を設定変更モード及び設定確認モードの何れに制御させるのかを選択可能であると共に、遊技状態等を初期化させるか否かも選択可能となっている。

【0343】

前述したように、電源投入時に設定変更中フラグがセットされている場合には、電源断発生時に設定変更モードに制御されていたことになるため、設定値が不安定な状態となっており、遊技場側で確定させようとしている設定値が設定値格納領域に格納されていない可能性がある。図9-6～図9-8に示した例では、CPU103は、設定変更中フラグがセットされていること（ステップS21TM4030でYES）に基づいて、通常遊技

処理に移行させず遊技停止状態（ステップS21TM4200～ステップS21TM4220のループ処理）に制御可能なようにしており、遊技停止状態への制御に対応してセキュリティ信号を出力するようにしている（ステップS21TM4220）。

【0344】

このような構成とすることにより、設定値が不安定な状態で遊技が開始される（遊技制御用タイマ割込処理が実行される）ことを防止するとともに、電源が投入されたときに、電源断発生時に設定変更モードに制御されていたことを外部装置に通知可能としている。

【0345】

また、図9-6～図9-8に示した例では、CPU103は、設定変更中フラグがセットされていること（ステップS21TM4030でYES）に基づいて、設定変更モードに移行するための条件（ステップS21TM4120～ステップS21TM4140が全てYESであること）が成立していない場合に、設定値異常エラーコマンドを送信する（ステップS21TM4190）とともに、遊技停止状態（ステップS21TM4200～ステップS21TM4220のループ処理）において表示モニタ21TM029に「E」の文字を表示するエラー表示を行う（ステップS21TM4210）。

【0346】

図9-10に示す例では、表示モニタ21TM029を構成する各7セグメント表示器21TM029A～21TM029Dに、それぞれ「E」の文字を表示することで、遊技場の店員に異常の発生（設定変更モードに制御されていた状態で電源断が発生した可能性があること）を明確に報知するようにしている。また、設定値異常エラーコマンドを受信した演出制御用CPU120は、画像表示装置5に「電源断後に電源を再投入して設定変更モードに移行させて下さい」というメッセージを表示することにより、遊技場の店員等に、一旦は電源断の状態（電源スイッチ21TM055をOFF）にした後、電源再投入時（電源スイッチ21TM055をON時）に設定変更モードに移行させて設定値を変更するための操作を行う（設定値を確定させる）ように促す報知を行う。

【0347】

本例では、（a）電源投入時に設定変更中フラグがセットされていた場合において、設定変更モードに制御するための移行条件が成立している場合、即ち、（i）遊技機用枠3が開放状態であり（ステップS21TM4120でYES）、（ii）錠スイッチ21TM051がON状態であり（ステップS21TM4130でYES）、且つ、（iii）クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態である（ステップS21TM4140でYES）、と判定された場合には、設定変更モードに制御される。その結果、主基板11側でのエラー表示（ステップS21TM4210：表示モニタ21TM029における「E」の表示）は実行されず、演出制御基板12側でのメッセージ表示（「電源断後に電源を再投入して設定変更モードに移行させて下さい」）も行われなくなる。

【0348】

ここで、設定変更モードコマンド（ステップS21TM4590）を受信した演出制御用CPU120では、画像表示装置5に設定変更モードに制御されたこと、即ち、設定変更操作（設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052の操作）に応じて設定値の変更が可能であることを報知できる。例えば、「設定変更モード中です」というメッセージや、「設定変更操作を行って設定値を変更して下さい」というメッセージを画像表示装置5に表示させることができる。これにより、遊技場の店員等は、設定変更モードに制御されていることを把握可能であり、設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052を操作することで、設定値格納領域に格納されている設定値を、予定していた設定値に変更した後に、錠スイッチ21TM051をOFF状態に切り替えることで、設定値を確定させてパチンコ遊技機1を通常遊技処理に移行させることができる。

【0349】

一方で、（b）電源投入時に設定変更中フラグがセットされていた場合において、設定変更モードに制御するための移行条件が成立していない場合、即ち、上記（i）～（ii

10

20

30

40

50

i) のうちの何れかの条件が不成立の場合には、設定変更モードに制御されることなく、設定値異常エラーコマンド送信（ステップ S 2 1 T M 4 1 9 0）後に遊技停止状態（ステップ S 2 1 T M 4 2 0 0～ステップ S 2 1 T M 4 2 2 0 のループ処理）に制御される。その結果、主基板 1 1 側でのエラー表示（ステップ S 2 1 T M 4 2 1 0：表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 における「E」の表示）が実行されるとともに、演出制御基板 1 2 側でのメッセージ表示（「電源断後に電源を再投入して設定変更モードに移行させて下さい」）も行われることになる。

【0350】

このように、主基板 1 1 側でのエラー表示（ステップ S 2 1 T M 4 2 1 0：表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 における「E」の表示）が実行されるとともに、演出制御基板 1 2 側でのメッセージ表示（「電源断後に電源を再投入して設定変更モードに移行させて下さい」）も行われる場合には、遊技機の状態として、設定変更モード中に電源断が発生したにもかかわらず電源復旧後に設定変更モードへの移行条件が成立していない状態であることが報知されることになる。この場合には、遊技場の店員等は、設定変更モードに制御されておらず、遊技停止状態となっていること（電源を再投入して設定変更モードに制御させる必要があること）を把握可能である。従って、一端電源を OFF にした後に、設定変更モードへの移行条件 (i) ～ (i i i) が全て成立するように操作して電源を再投入する。そして、設定変更モードにおいて、設定切替スイッチ（クリアスイッチ） 2 1 T M 0 5 2 を操作することで、設定値格納領域に格納されている設定値を、予定していた設定値に変更した後に、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 を OFF 状態に切り替えることで、設定値を確定させてパチンコ遊技機 1 を通常遊技処理に移行させることができる。

【0351】

このように、設定変更モードにおいて電源断が発生した場合には、電源復旧時に遊技機の状態を適切に報知することができる。

【0352】

ここで、電源復旧時に設定変更モードへの移行条件が成立している (a) の場合には、主基板 1 1 側でのエラー表示（ステップ S 2 1 T M 4 2 1 0：表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 における「E」の表示）が行われることなく自動的に設定変更モードに移行されることになり、不要なエラー表示を回避して適切に設定値の変更を促すことができる。

【0353】

一方で、電源復旧時に設定変更モードへの移行条件が成立していない (b) の場合には、設定変更モード中に電源断が発生したにもかかわらず、電源復旧時に設定変更モードに移行できない状態となっているため、強制的に遊技停止状態（ステップ S 2 1 T M 4 2 0 0～ステップ S 2 1 T M 4 2 2 0 のループ処理）に制御され、主基板 1 1 側でのエラー表示（ステップ S 2 1 T M 4 2 1 0：表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 における「E」の表示）が行われることになる。これにより、設定値が確定していない不安定な状態での遊技の進行を制限することができ、適切な遊技制御を実現できる。

【0354】

なお、設定変更中フラグがセットされている場合に（ステップ S 2 1 T M 4 0 3 0 で Y E S）、設定変更モードに移行するための移行条件 (i) ～ (i i i) が全て成立している場合と、移行条件 (i) ～ (i i i) の何れかが成立していない場合とで、設定値が異常である可能性があることを示すコマンドとして異なるコマンドを送信するようにしても良い。

【0355】

例えば、移行条件が成立している場合には、設定値が異常である可能性があることを示すコマンドであり且つ設定変更モードに移行されたこと（あるいは移行する条件が成立していること）を示すコマンドを送信し、このコマンドを受信した演出制御用 CPU 1 2 0 では、「設定値が異常である可能性があります」というメッセージ及び「自動的に設定変更モードに制御されます」というメッセージを画像表示装置 5 に表示させるようにすると良い。一方、移行条件が成立していない場合には、前述したようにステップ S 2 1 T M 4

190の設定値異常エラーコマンドを送信すると良い。

【0356】

設定変更モード又は設定確認モードが終了して通常遊技処理へ移行した後は、遊技機用枠3及びガラス扉枠3aが何れも閉鎖状態となっているときに、(1)錠スイッチ21TM051が操作されたこと(OFF状態からON状態となったこと)に応じて、遊技制御用マイクロコンピュータ100から演出制御用CPU120に対して、錠スイッチ操作コマンドが送信され、(2)設定切替スイッチ(クリアスイッチ)21TM052が操作されたこと(OFF状態からON状態となったこと)に応じて、遊技制御用マイクロコンピュータ100から演出制御用CPU120に対して、設定切替スイッチ操作コマンドが送信されることになる。

10

【0357】

そして、演出制御基板12(演出制御用CPU120)は、錠スイッチ操作コマンド、及び／又は、設定切替スイッチ操作コマンドを受信したことに基づいて、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも制御されていないにもかかわらず、設定値を変更させるための操作が行われたことを特定して、その旨を報知可能である。例えば、錠スイッチ操作コマンドを受信したことに基づいて、画像表示装置5において「錠スイッチの操作を検出しました。」の文字を表示する異常操作警告報知を実行する。また、設定切替スイッチ操作コマンドを受信したことに基づいて、「設定切替スイッチの操作を検出しました。」の文字を表示する異常操作警告報知を実行する。これにより、遊技場の店員等は、設定変更モード及び設定確認モードの何れにも制御されていないにもかかわらず設定値を変更させるための操作が行われたことを明確に把握して、不正が行われていないか等を確認することができる。

20

【0358】

なお、このような形態に限らず、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、設定変更モード又は設定確認モードが終了して通常遊技処理へ移行した後は、錠スイッチ21TM051が操作されたか否か、及び、設定切替スイッチ(クリアスイッチ)21TM052が操作されたか否か、を確認することなく、錠スイッチ操作コマンド及び設定切替スイッチ操作コマンドを送信しないようにしても良い。このように、通常遊技処理(遊技制御用タイマ割込処理)が実行されている期間は、設定値を変更するための操作及び設定値を確認するための操作の実行状況を確認しないようにすることで、遊技制御用マイクロコンピュータ100の制御負担を軽減することが可能になる。

30

【0359】

(電源投入時処理の変形例)

図9-6に示した例では、電源投入時に設定変更中フラグがセットされていた場合には(ステップS21TM4030でYES)、(i)遊技機用枠3が開放状態であり(ステップS21TM4120でYES)、(ii)錠スイッチ21TM051がON状態であり(ステップS21TM4130でYES)、且つ、(iii)クリアスイッチ(設定切替スイッチ)21TM052がON状態である(ステップS21TM4140でYES)、という3条件が成立していることを確認した場合にのみ、RAMクリアフラグを1に設定して(ステップS21TM4150)、設定変更モードに移行した(ステップS21TM4570でNO)。

40

【0360】

このような形態に限らず、図9-11に示すように、電源投入時に設定変更中フラグがセットされていた場合には(ステップS21TM4030でYES)、(i)～(iii)の3条件が成立しているか否かを確認することなく、RAMクリアフラグを1に設定して(ステップS21TM4150)、設定変更モードに移行する(ステップS21TM4570でNO)ようにしても良い。

【0361】

図9-11に示す処理では、バックアップRAM領域のデータチェック結果が異常である場合(ステップS21TM4010でNO)、設定値が正規の値ではない場合(ステッ

50

プ S 2 1 T M 4 0 2 0 で N O) 、 設定変更中フラグがセットされている場合 (ステップ S 2 1 T M 4 0 3 0 で Y E S) に、 (i) ~ (i i i) の条件が成立しているか否かを判定することなく、 R A M クリアフラグを 1 に設定して (ステップ S 2 1 T M 4 1 5 0) 、 設定変更モードに制御され (ステップ S 2 1 T M 4 5 7 0 で N O) 、 遊技停止状態 (ステップ S 2 1 T M 4 2 0 0 ~ ステップ S 2 1 T M 4 2 2 0 のループ処理に相当する処理) には制御されない部分が、図 9 - 6 に示した処理と異なる。それ以外の部分は、図 9 - 6 ~ 図 9 - 8 に示した処理と同様である。

【 0 3 6 2 】

このような形態とした場合であっても、電源投入時に設定変更中フラグがセットされていることに基づいて、 R A M クリアフラグが 1 に設定されて設定変更モードに移行されることになり、設定変更中に電源断が発生した場合の遊技機の状態を適切に定めることができる。

10

【 0 3 6 3 】

図 9 - 1 1 に示す例では、設定変更中フラグがセットされていない場合には (ステップ S 2 1 T M 4 0 3 0 で N O) 、 (i) 遊技機用枠 3 が開放状態であり、 (i i) 錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O N 状態であり、且つ、 (i i i) クリアスイッチ (設定切替スイッチ) 2 1 T M 0 5 2 が O N 状態である、という 3 条件が成立していることに基づいて、設定変更モードに制御される (ステップ S 2 1 T M 4 5 7 0 で N O と判定されて、設定値格納領域の設定値を変更可能な状態となる) のに対して、設定変更中フラグがセットされている場合 (ステップ S 2 1 T M 4 0 3 0 で Y E S) には、 (i) ~ (i i i) の 3 条件が成立しているか否かにかかわらず、強制的に設定変更モードに制御されることになる。

20

【 0 3 6 4 】

このように、設定変更モードに制御されているときに電源断が発生した場合には、電源復旧時に設定変更中フラグが設定されていることに基づいて、 (i) ~ (i i i) の 3 条件が成立しているか否かにかかわらず自動的に設定変更モードに制御されることにより、設定値を確定させるための作業性を向上させることができる。

【 0 3 6 5 】

ここで、設定変更中フラグがセットされている場合 (ステップ S 2 1 T M 4 0 3 0 で Y E S) には、 (i i) 錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O N 状態である (ステップ S 2 1 T M 4 1 3 0 で Y E S) という条件が成立していない場合でも、設定変更モードに制御されることになる。その結果、設定変更モードにおいては、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O F F 状態のままで、設定切替スイッチ (クリアスイッチ) 2 1 T M 0 5 2 を操作することで、設定値格納領域に格納されている設定値が変更されることになる (図 9 - 7 のステップ S 2 1 T M 4 6 1 0 ~ ステップ S 2 1 T M 4 6 2 0) 。

30

【 0 3 6 6 】

前述したように、設定変更モードを終了させる条件は、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 を O N 状態から O F F 状態に切り替えることである (ステップ S 2 1 T M 4 6 8 0 で Y E S と判定させることである) 。そのため、設定値の変更操作を行った遊技場の店員は、設定値を確定して設定変更モードを終了させるために、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O F F 状態であれば、一旦、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 を O F F 状態から O N 状態に切り替えた後に、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 を O N 状態から O F F 状態に切り替える (ステップ S 2 1 T M 4 6 8 0 で Y E S と判定させる) ことになる。

40

【 0 3 6 7 】

このように、設定変更中フラグがセットされていない場合と (ステップ S 2 1 T M 4 0 3 0 で N O) 、設定変更中フラグがセットされている場合とで (ステップ S 2 1 T M 4 0 3 0 で Y E S) 、設定変更モードの制御を開始させる条件を異ならせる一方で、設定変更モードの制御を終了させる条件 (錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 を O N 状態から O F F 状態に切り替える操作) は共通化することで、設定変更モードの制御を終了させる条件を明確にして、適切に通常遊技処理に移行させるようにしている。

【 0 3 6 8 】

50

ここで、設定変更中フラグがセットされている（ステップ S 2 1 T M 4 0 3 0 で Y E S）ことに基づいて設定変更モードに制御された場合に、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 を ON 状態にするように促す報知を行うようにしても良い。例えば、C P U 1 0 3 は、設定変更中フラグがセットされている場合に（ステップ S 2 1 T M 4 0 3 0 で Y E S）、ステップ S 2 1 T M 4 1 5 0 で R A M クリアフラグを 1 に設定するとともに、設定値異常エラーコマンドを送信する（前述したステップ S 2 1 T M 4 1 9 0 に相当する処理を実行する）ようにしておき、設定値異常エラーコマンド（ステップ S 2 1 T M 4 1 1 0）を受信した演出制御用 C P U 1 2 0 が、「錠スイッチを一旦 ON にして、設定値変更後に O F F に切り替えて下さい」というメッセージを画像表示装置 5 に表示するようにしても良い。

【 0 3 6 9 】

なお、図 9 - 6 ~ 図 9 - 8、並びに図 9 - 1 1 に示した処理においては、設定変更中フラグがセットされている状態では通常遊技処理に移行できないようになっている。そのため、遊技機メーカーが、パチンコ遊技機 1 を出荷する際（遊技場への設置前）に、予め設定変更中フラグをセットさせておくことで、その後、遊技場側では、設定変更モードを経て設定値を変更し、設定変更モードを終了させなければ、当該パチンコ遊技機 1 での遊技を行わせることができなくなる。これにより、遊技場でパチンコ遊技機 1 を設置する際に、確実に設定変更モードに制御させて設定変更操作を行わせ、設定値を確定させる措置をとることができる。

【 0 3 7 0 】

（設定値変更中に電源断が発生した場合の設定値記憶制御）

次に、設定値変更中に電源断が発生した場合の設定値記憶制御に関して、図 9 - 1 2 を用いて説明する。図 9 - 7 に示した例では、設定変更モードにおいて、設定切替スイッチ（クリアスイッチ） 2 1 T M 0 5 2 が操作されることで、設定値格納領域に格納されている設定値自体が変更されることになる。

【 0 3 7 1 】

まず、設定変更モード中に設定値の変更操作が行われて、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が ON 状態から O F F 状態に切り替えられる前（設定変更モード終了前）に電源断が発生した場合の制御に関して、図 9 - 1 2 （ 1 ）を用いて説明する。

【 0 3 7 2 】

順番 1 に示すように、電源投入時に錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 を ON 状態として（クリアスイッチ 2 1 T M 0 5 2 も ON 状態として）設定変更モードに制御させるものとする。本例では、この電源投入時において、R A M 1 0 2 の設定値格納領域に設定値として「 0 」が格納されている。次いで、順番 2 に示すように、設定変更モードが開始されたことに伴い、R A M 1 0 2 の設定値格納領域に格納されている設定値「 0 」が読み出されて、読み出された設定値に 1 を加算した「 1 」が表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に表示されることになる。この時点で錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 は ON 状態のままである。

【 0 3 7 3 】

次いで、順番 3 に示すように、設定変更モードにおいて、1 回目の設定切替スイッチ（クリアスイッチ） 2 1 T M 0 5 2 の操作が行われたことに基づいて、設定値格納領域に格納される設定値が「 0 」から「 1 」に変更され、変更後の設定値に 1 を加算した「 2 」が表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に表示されることになる。この時点で錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 は ON 状態のままである。さらに、順番 4 に示すように、設定変更モードにおいて、2 回目の設定切替スイッチ（クリアスイッチ） 2 1 T M 0 5 2 の操作が行われたことに基づいて、設定値格納領域に格納される設定値が「 1 」から「 2 」に変更され、変更後の設定値に 1 を加算した「 3 」が表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に表示されることになる。この時点で錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 は ON 状態のままである。

【 0 3 7 4 】

次いで、順番 5 に示すように、設定変更モードにおいて、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が ON 状態のまま、即ち、設定変更モードを終了させる操作が行われる前に、電源断が発生したものとする。このとき、設定値格納領域には、2 回目の設定切替スイッチ（クリア

10

20

30

40

50

スイッチ) 2 1 T M 0 5 2 の操作が行われた後の設定値「2」が格納された状態である。電源断の状態では、R A M 1 0 2 のバックアップ領域に形成された設定値格納領域に格納されている設定値「2」がそのまま保持されることになる。

【0375】

次いで、順番6に示すように、電源投入時に錠スイッチ2 1 T M 0 5 1をON状態として(クリアスイッチ2 1 T M 0 5 2もON状態として)設定変更モードに制御させるものとする。この電源投入時において、R A M 1 0 2 の設定値格納領域に設定値として「2」が格納されている。この設定値「2」は、前回の設定変更モード中の電源断発生時に設定値格納領域に格納されていた値である。

【0376】

次いで、順番7に示すように、設定変更モードが開始されたことに伴い、R A M 1 0 2 の設定値格納領域に格納されている設定値「2」が読み出されて、読み出された設定値に1を加算した「3」が表示モニタ2 1 T M 0 2 9に表示されることになる。この時点で錠スイッチ2 1 T M 0 5 1はON状態のままである。

【0377】

なお、順番6の電源投入時には、設定変更中フラグがセットされた状態であるため、前述した図9-11に示した制御を適用する場合、錠スイッチ2 1 T M 0 5 1がOFF状態であっても(又はクリアスイッチ2 1 T M 0 5 2がOFF状態であっても)、自動的に設定変更モードに制御されることになる。そのため、順番6及び順番7における錠スイッチ2 1 T M 0 5 1の状態は、OFF状態である場合がある。

【0378】

このように、設定変更モードにおいて設定値の変更が行われて、錠スイッチ2 1 T M 0 5 1がOFF状態とされることなく(設定変更モードを終了させることなく)電源断が発生した場合には、電源復旧時に、前回の設定変更モードにおける変更後の設定値が設定値格納領域に保持された状態となっている。従って、電源復旧時には、既に予定していた設定値が設定されている場合もあり、この場合には、遊技場の店員は改めて設定値を変更する操作を行わずとも、設定変更モードを終了させて遊技機を通常遊技処理に移行させれば良いため、作業性を向上させることができる。

【0379】

次に、設定変更モード中に設定値の変更操作が行われて、錠スイッチ2 1 T M 0 5 1がON状態からOFF状態に切り替えられた後(設定変更モード終了後)に電源断が発生した場合の制御に関して、図9-12(2)を用いて説明する。

【0380】

順番1~順番4に関しては、図9-12(1)に示した例と同様であり、説明を省略する。次いで、順番5に示すように、設定変更モードにおいて、錠スイッチ2 1 T M 0 5 1がON状態からOFF状態に切り替えられたことにより、設定変更モードが終了する。これにより、2回目の設定切替スイッチ(クリアスイッチ)2 1 T M 0 5 2の操作が行われた後の設定値「2」が、最終的な設定値として確定する。このとき設定値格納領域には設定値として「2」が格納されており、表示モニタ2 1 T M 0 2 9には、確定した設定値に1を加算した「3」が表示されている。

【0381】

その後に、順番6に示すように、電源スイッチ2 1 T M 0 5 5をOFF状態とする操作が行われて、電力供給が停止された状態となったものとする。この電源断の状態では、R A M 1 0 2 のバックアップ領域に形成された設定値格納領域に格納されている設定値「2」がそのまま保持されることになる。

【0382】

次いで、順番7に示すように、電源投入時に錠スイッチ2 1 T M 0 5 1をON状態として(クリアスイッチ2 1 T M 0 5 2もON状態として)設定変更モードに制御させるものとする。この電源投入時において、R A M 1 0 2 の設定値格納領域に設定値として「2」が格納されている。この設定値「2」は、前回の設定変更モード終了時に最終的に設定値

10

20

30

40

50

格納領域に格納されていた値である。

【0383】

次いで、順番8に示すように、設定変更モードが開始されたことに伴い、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値「2」が読み出されて、読み出された設定値に1を加算した「3」が表示モニタ21TM029に表示されることになる。この時点で錠スイッチ21TM051はON状態のままである。

【0384】

図9-12(1)及び(2)に示すように、設定変更モードに制御されているときに電源断が発生した場合と、設定変更モードの制御が終了した後に電力供給が停止された場合とで、何れの場合にも、電源復旧時には、前回の設定変更モードにおける設定変更操作に
10 応じて変更された後の設定値、即ち電源断直前に設定値格納領域に格納されていた設定値が、有効な設定値（電源復旧時に設定格納領域に格納されている設定値）となっている。

【0385】

なお、図9-12に示した設定値の記憶制御に限られない。即ち、設定変更モードに制御されたときに設定値格納領域に格納されている設定値を設定情報一時記憶領域にコピーして、設定変更モードに制御されているときに設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作された場合には、設定値格納領域の設定値を変更せずに設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値を変更し、設定変更モードを終了させる操作（錠スイッチ21TM051をON状態からOFF状態に切り替える操作）が行われたことに基づいて、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値を設定値格納領域に格納して（上書きし
20 て）設定値を確定させるようにしても良い。なお、この場合に表示モニタ21TM029に表示させる設定値は、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値（0～5）に1を加算した値（1～6）となり、設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値が変更されることに
25 応じて、表示モニタ21TM029に表示される設定値も変化することになる。

【0386】

このような構成とすることで、電源投入に伴い設定変更モードに制御され、設定変更操作が行われた場合（表示モニタ21TM029に表示される設定値が変更された場合）であっても、設定変更モードを終了させる操作が完了することなく（錠スイッチ21TM051がOFF状態に切り替えられることなく）、電源断が発生した場合には、RAM102の設定値格納領域に格納されている設定値は、電源投入時（設定変更モードにおいて設定変更操作が行われる前）から変更されていないことになる。即ち、電力供給停止状態では、前回の電源投入時に設定値格納領域に格納されていた設定値が引き続き保持されていることになる。従って、電源復旧後に設定変更モード又は設定確認モードに制御されたときに表示モニタ21TM029（第1表示部21TM029A）に表示される設定値は、前回の電源投入時にRAM102の設定値格納領域に格納されていた設定値に応じた値となる。

【0387】

このように、設定変更モードに制御されているときに電源断が発生した場合の設定値を適切に定めることができる。また、設定変更モードが終了していない不安定な状態において電力供給が停止された場合に、設定値の変更を制限することができる。
40

【0388】

上記の実施形態に示した設定変更モード及び設定確認モードに関連した制御は、複数の設定値（例えば0～5）が設けられており、設定値に応じて大当たり確率が異なる遊技機に対して適用可能であるが、これに限らず、複数の設定値（例えば0～5）が設けられているものの、設定値によらず大当たり確率は共通である（例えば、設定値0～5の全てに関し
て大当たり確率が300分の1である）遊技機に対しても適用可能である。

【0389】

また、本特徴部21TMでは、以下に示す発明が開示されている。

【0390】

特開2010-200902号公報（段落0007）に示すように、複数段階の設定値
50

を外部からの設定変更操作に基づいて変更する設定変更手段を備える遊技機が提案されている。また、特開 2014-200506 号公報（段落 0102）に示すように、主制御基板の外部出力端子から、「大当たり信号」等が出力される遊技機が提案されている。特開 2010-200902 号公報（段落 0007）に記載されたような遊技機に関しては、設定値の変更等の際に、設定に関連する制御状態を外部装置側で把握することが必要となる場合があるが、特開 2014-200506 号公報（段落 0102）に記載されている従来の遊技機の信号出力技術を適用しても、外部装置側でこれを把握することが困難であるという課題がある。手段 01～手段 04 に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、設定に関連する制御状態を遊技機外部に適切に通知可能な遊技機を提供することにある。

10

【0391】

手段 01 の遊技機は、

設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値 0～5 の 6 段階）に応じた制御（特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等）を実行可能な遊技機（パチンコ遊技機 1）であって、

設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップ S21TM4530～ステップ S21TM4620 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、

設定値を確認可能な設定確認モードに制御可能な設定確認モード制御手段（ステップ S21TM4530～ステップ S21TM4570 及びステップ S21TM4650 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、

20

前記設定変更モード及び前記設定確認モードの何れかの制御の開始に対応して特定信号（セキュリティ信号）を出力する特定信号出力手段（ステップ S21TM4560 でセキュリティ信号を出力する遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、

特定信号が出力される期間に関する値（セキュリティ信号タイマの値）を設定する設定手段（セキュリティ信号タイマの値をセットする遊技制御用マイクロコンピュータ 100）と、を備え、

前記設定手段は、前記設定変更モードに制御される場合と前記設定確認モードに制御される場合とで共通の所定値を設定可能であり（ステップ S21TM4710 でセキュリティ信号タイマの値として 1 秒を設定し）、

30

前記特定信号出力手段は、前記設定変更モード及び前記設定確認モードの何れかの制御の終了に対応して、少なくとも前記所定値に対応した期間が経過するまで特定信号を出力する（設定確認モードの終了に伴い設定確認モードの終了から 1 秒が経過するまでセキュリティ信号を継続して出力し、設定変更モードの終了に伴い設定変更モードの終了から 30 秒が経過するまでセキュリティ信号を継続して出力する）

ことを特徴とする。

これによれば、設定に関連する遊技機の状態を外部装置に適切に通知できる。

【0392】

手段 02 の遊技機は、

手段 01 の遊技機であって、

40

遊技状態を初期化する初期化手段（ステップ S21TM4050、ステップ S21TM4150 で RAM クリアフラグがセットされていることに基づいて RAM クリア（ステップ S21TM1410）を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ 100）を備え、

前記初期化手段は前記設定変更モードの制御に伴い遊技状態を初期化し（設定変更モードに制御される場合には、設定変更モードに制御された後に RAM クリアが実行されており）、

前記設定手段は、前記所定値を設定した後（ステップ S21TM4710 でセキュリティ信号タイマの値として 1 秒を設定した後）に、前記所定値に対応した期間よりも長い期間に対応した特定値を設定可能であり（RAM クリアが実行される場合にはステップ S21TM1465 でセキュリティ信号タイマの値として 30 秒を設定可能であり）、

50

前記特定信号出力手段は、前記設定変更モードの制御の終了に対応して、前記特定値に対応した期間が経過するまで特定信号を出力する（設定変更モードの終了に伴い設定変更モードの終了から30秒が経過するまでセキュリティ信号を継続して出力する）

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モードの制御が終了した場合及び設定確認モードの制御が終了した場合の何れの場合にも少なくとも所定値に対応した期間は特定信号が出力されることになり、設定変更モードに制御された場合には所定値に対応した期間よりも長い期間、特定信号が出力されることになるため、設定手段による設定処理を共通化しつつ設定変更モードと設定確認モードとで異なる出力期間を設定することが可能となる。

【0393】

手段03の遊技機は、

手段01又は手段02の遊技機であって、

前記設定変更モードにおいて、前記設定変更モードを終了させるための特定操作（ステップS21TM4680で錠スイッチ21TM051がOFFとされたことの検出）が行われることなく当該遊技機への電力供給が停止された場合に特定情報（設定変更中フラグ）を記憶する特定情報記憶手段（RAM102のバックアップ領域において、設定変更モードに移行したことに基づいてステップS21TM4580で設定変更中フラグをセットし、設定変更モードが終了したことに基づいてステップS21TM4720で設定変更中フラグをクリアする遊技制御用マイクロコンピュータ100）を備え、

当該遊技機への電力供給が開始された場合に前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されているときに（電源復旧時のステップS21TM4030で設定変更中フラグがセットされていると判定された場合に）、遊技停止状態とするとともに特定信号を出力する（設定変更モードに移行するための条件が成立していないことに基づいてステップS21TM4200～ステップS21TM4220の処理を電源断まで繰り返し実行する）ことが可能である

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モードの制御中に電力供給が停止された場合に、電力供給再開時に遊技機の状態を外部装置に適切に通知することができる。

【0394】

手段04の遊技機は、

手段01～手段03から選択される何れかの遊技機であって、

遊技の進行を制御する遊技制御手段（遊技制御用タイマ割込処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

演出の実行を制御する演出制御手段（演出制御用CPU120）と、を備え、

前記遊技制御手段は、

表示手段（表示モニタ21TM029）と、

前記設定変更モード制御手段（ステップS21TM4530～ステップS21TM4620の処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

前記設定変更モードにおいて、前記設定変更モードを終了させるための特定操作が行われることなく（ステップS21TM4680で錠スイッチ21TM051がOFFとされる操作が検出されることなく）当該遊技機への電力供給が停止された場合に特定情報を記憶する特定情報記憶手段（RAM102のバックアップ領域において、設定変更モードに移行したことに基づいてステップS21TM4580で設定変更中フラグをセットし、設定変更モードが終了したことに基づいてステップS21TM4720で設定変更中フラグをクリアする遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、を有し、

当該遊技機への電力供給が開始された場合に前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されているときに（電源復旧時のステップS21TM4030で設定変更中フラグがセットされていると判定された場合に）、前記表示手段においてエラー報知を実行するとともに前記演出制御手段にエラーコマンドを送信することが可能であり（ステップS21TM4190で設定値異常エラーコマンドを送信し、ステップS21TM4210のエラー

10

20

30

40

50

表示において表示モニタ 2 1 T M 0 2 9 に「E」の文字を表示することが可能であり）、
前記演出制御手段は、前記エラーコマンドを受信したことに応じて、設定値を変更するための操作を促す報知を行う（画像表示装置 5 に「電源断後に電源を再投入して設定変更モードに移行させて下さい」というメッセージを表示する）

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員に対して遊技機の状態を適切に報知できるとともに、設定値を変更するための操作を促すことができる。

【0395】

また、特開 2 0 1 0 - 2 0 0 9 0 2 号公報（段落 0 0 0 7）に示すように、複数段階の設定値を外部からの設定変更操作に基づいて変更する設定変更手段を備える遊技機が提案されている。特開 2 0 1 0 - 2 0 0 9 0 2 号公報（段落 0 0 0 7）に記載されたような遊技機では、設定値を変更する際に電力供給が停止された場合に、遊技機の状態を適切に報知する必要がある。手段 P 1 ～手段 P 4 に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、設定値を変更する際に電力供給が停止された場合に、遊技機の状態を適切に報知する遊技機を提供することにある。

【0396】

手段 P 1 の遊技機は、

設定値（大当り判定用乱数の範囲が異なる設定値 0 ～ 5 の 6 段階）に応じた制御（特別図柄プロセス処理における大当り判定処理等）を実行可能な遊技機（パチンコ遊技機 1）であって、

設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップ S 2 1 T M 4 5 3 0 ～ステップ S 2 1 T M 4 6 2 0 を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）と、

前記設定変更モードに制御されたことを特定可能な特定情報を記憶する特定情報記憶手段（設定変更モードに移行したことに基づいてステップ S 2 1 T M 4 5 8 0 で設定変更中フラグをセットし、設定変更モードが終了したことに基づいてステップ S 2 1 T M 4 7 2 0 で設定変更中フラグをクリアする遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）と、を備え、

前記特定情報記憶手段は、当該遊技機への電力供給が停止された後も前記特定情報を記憶可能であり（設定変更中フラグの値は R A M 1 0 2 のバックアップ領域に格納されており）、

当該遊技機への電力供給が開始された場合に前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されているときに（電源復旧時のステップ S 2 1 T M 4 0 3 0 で設定変更中フラグがセットされていると判定された場合に）、エラー報知を実行可能なエラー報知手段（設定変更モードへの移行条件が成立していない場合にステップ S 2 1 T M 4 2 1 0 でエラー表示を行う遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0）をさらに備える

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モードにおいて電力供給が停止された場合に遊技機の状態を適切に報知することができる。

【0397】

手段 P 2 の遊技機は、

手段 P 1 の遊技機であって、

前記設定変更モード制御手段は、設定変更条件が成立していること（電源投入時に、遊技機用枠 3 が開放状態となっており、錠スイッチ 2 1 T M 0 5 1 が O N 状態であり、且つ、クリアスイッチ（設定切替スイッチ） 2 1 T M 0 5 2 が O N 状態であること）に基づいて前記設定変更モードに制御可能であり、

当該遊技機への電力供給が開始された場合に前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されているときに（電源復旧時のステップ S 2 1 T M 4 0 3 0 で設定変更中フラグがセットされていると判定された場合に）、前記設定変更条件が成立していることに基づいて、前記エラー報知を実行することなく前記設定変更モードに制御可能である（電源投入時に、ステップ S 2 1 T M 4 1 2 0、ステップ S 2 1 T M 4 1 3 0、ステップ S 2 1 T M 4

10

20

30

40

50

140ですべてYESと判定されたことに基づいて、ステップS21TM4200～ステップS21TM4220のループ処理に移行することなく設定変更モードに移行する)ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モードに制御される条件が成立しているときにはエラー報知を実行することなく設定変更モードに制御されることになり、不要なエラー報知を回避して適切に設定値の変更を促すことができる。

【0398】

手段P3の遊技機は、

手段P1又は手段P2の遊技機であって、

当該遊技機への電力供給が開始された場合に前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されているときに(電源復旧時のステップS21TM4030で設定変更中フラグがセットされていると判定された場合に)、前記エラー報知を実行するとともに遊技停止状態とすることが可能である(電源投入時に、設定変更モードへの移行条件が成立していない場合には(ステップS21TM4120～ステップS21TM4140の何れかでNOと判定された場合には)、設定変更モードに移行することなくステップS21TM4200～ステップS21TM4220のループ処理に移行する)

ことを特徴とする。

これによれば、設定値が不安定な状態での遊技の進行を制限することができ、適切な遊技制御を実現できる。

【0399】

手段P4の遊技機は、

手段P1～手段P3から選択される何れかの遊技機であって、

遊技の進行を制御する遊技制御手段(遊技制御用タイマ割込処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100)と、

演出の実行を制御する演出制御手段(演出制御用CPU120)と、を備え、

前記遊技制御手段は、

表示手段(表示モニタ21TM029)と、

前記設定変更モード制御手段(ステップS21TM4530～ステップS21TM4620の処理を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100)と、

前記特定情報記憶手段と、を有し、

当該遊技機への電力供給が開始された場合に前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されているときに(電源復旧時のステップS21TM4030で設定変更中フラグがセットされていると判定された場合に)、前記表示手段において前記エラー報知を実行するとともに前記演出制御手段にエラーコマンドを送信することが可能であり(ステップS21TM4190で設定値異常エラーコマンドを送信し、ステップS21TM4210のエラー表示において表示モニタ21TM029に「E」の文字を表示することが可能であり)、

前記演出制御手段は、前記エラーコマンドを受信したことに応じて、設定値を変更するための操作を促す報知を行う(画像表示装置5に「電源断後に電源を再投入して設定変更モードに移行させて下さい」というメッセージを表示する)

ことを特徴とする。

これによれば、遊技場の店員に対して遊技機の状態を適切に報知できるとともに、設定値を変更するための操作を促すことができる。

【0400】

また、特開2010-200902号公報(段落0007)に示すように、複数段階の設定値を外部からの設定変更操作に基づいて変更する設定変更手段を備える遊技機が提案されている。特開2010-200902号公報(段落0007)に記載されたような遊技機では、設定値を変更する際に電力供給が停止された場合に、遊技機の状態を適切に定める必要がある。手段Q1～手段Q5に係る発明は、上記の実状に鑑みてなされたものであり、設定値を変更する際に電力供給が停止された場合に、遊技機の状態を適切に定める

10

20

30

40

50

遊技機を提供することにある。

【0401】

手段Q1の遊技機は、

設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値0～5の6段階）に応じた制御（特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等）を実行可能な遊技機（パチンコ遊技機1）であって、

設定値を変更可能な設定変更モードに制御可能な設定変更モード制御手段（ステップS21TM4530～ステップS21TM4620を実行可能な遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、

前記設定変更モードに制御されたことを特定可能な特定情報を記憶する特定情報記憶手段（設定変更モードに移行したことに基づいてステップS21TM4580で設定変更中フラグをセットし、設定変更モードが終了したことに基づいてステップS21TM4720で設定変更中フラグをクリアする遊技制御用マイクロコンピュータ100）と、を備え、

前記特定情報記憶手段は、当該遊技機への電力供給が停止された後も前記特定情報を記憶可能であり（設定変更中フラグの値はRAM102のバックアップ領域に格納されており）、

前記設定変更モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始された場合に前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されているときに（電源復旧時のステップS21TM4030で設定変更中フラグがセットされていると判定された場合に）、前記設定変更モードに制御する（電源投入時に、遊技機用枠3が開放状態となっており、錠スイッチ21TM051がON状態であり、且つ、クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態である、という設定変更モードに移行するための条件が成立しているか否かにかかわらず、自動的に設定変更モードに制御する）

ことを特徴とする。

これによれば、遊技状態の初期化を伴う設定変更モードにおいて電力供給が停止された場合に遊技機の状態を適切に定めることができる。

なお、手段Q1の遊技機が、前記設定変更モードの制御に対応して遊技状態を初期化する初期化手段（例えば、ステップS21TM4050、ステップS21TM4150でRAMクリアフラグがセットされていることに基づいてRAMクリア（ステップS21TM1410）を実行する遊技制御用マイクロコンピュータ100）を更に備えていても良い。

【0402】

手段Q2の遊技機は、

手段Q1の遊技機であって、

前記設定変更モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始された場合に、前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されていないときには設定変更条件が成立していることに基づいて前記設定変更モードに制御し（電源投入時に、設定変更中フラグがセットされていない場合には（ステップS21TM4030でNO）、遊技機用枠3が開放状態となっており、錠スイッチ21TM051がON状態であり、且つ、RAMクリアフラグが1である（クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態であったことにより設定変更モード終了後にRAMクリアが実行される）、という設定変更モードに移行するための条件が成立していることに基づいて設定変更モードに移行し）、前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されている場合には前記設定変更条件が成立しているか否かにかかわらず前記設定変更モードに制御する（電源投入時に、設定変更中フラグがセットされている場合には（ステップS21TM4030でYES）、設定変更モードに移行するための条件が成立しているか否かにかかわらず、自動的に設定変更モードに制御する）ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モード制御中に電源断が発生した場合には、電源復旧時に特定情報が記憶されていることに基づいて、設定変更条件が成立していないときにも設定変更モードに制御されることになるため、作業性を向上させることができる。

【0403】

手段Q3の遊技機は、

手段Q1又は手段Q2の遊技機であって、

前記設定変更モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始された場合の移行操作（電源投入時に、設定変更中フラグがセットされていないときには（ステップS21TM4030でNO）、遊技機用枠3が開放状態となっており、錠スイッチ21TM051がON状態であり、且つ、RAMクリアフラグが1である（クリアスイッチ（設定切替スイッチ）21TM052がON状態であったことにより設定変更モード終了後にRAMクリアが実行される）、という設定変更モードに移行するための条件が成立していること）に基づいて前記設定変更モードに制御することが可能であり、前記設定変更モードに制御されているときの特定操作（ステップS21TM4680で錠スイッチ21TM051がOFFになったことが確認されたこと）に基づいて前記設定変更モードを終了させることが可能であり、

10

前記特定情報記憶手段は、前記設定変更モードに制御されるときに前記特定情報を記憶し（設定変更モードの制御が開始されたステップS21TM4580のタイミングで設定変更中フラグをセットし）、前記特定操作に基づいて前記設定変更モードが終了するときに前記特定情報を消去し（設定変更モードの制御が終了したステップS21TM4720のタイミングで設定変更中フラグをクリアし）、

前記設定変更モード制御手段は、当該遊技機への電力供給が開始された場合に、前記特定情報記憶手段に前記特定情報が記憶されているときには前記移行操作が行われたか否かにかかわらず前記設定変更モードに制御し（電源投入時に、設定変更中フラグがセットされている場合には（ステップS21TM4030でYES）、設定変更モードに移行するための条件が成立しているか否かにかかわらず、自動的に設定変更モードに制御し）、前記特定操作に基づいて前記設定変更モードを終了させる（ステップS21TM4680で錠スイッチ21TM051がOFFになったことが確認されたことに基づいて設定変更モードを終了させる）

20

ことを特徴とする。

これによれば設定変更モードの制御を終了させる条件を適切に定めることができる。

【0404】

手段Q4の遊技機は、

手段Q1～手段Q3から選択される何れかの遊技機であって、

設定値（大当たり判定用乱数の範囲が異なる設定値0～5の6段階）を記憶する設定値記憶手段（設定値が格納されるRAM102の設定値格納領域）を備え、

30

前記設定値記憶手段に記憶されている設定値に応じた制御（特別図柄プロセス処理における大当たり判定処理等）を実行可能であり、

前記設定変更モードに制御されているときの変更操作に基づいて前記設定値記憶手段に記憶されている設定値を変更し（ステップS21TM4610で設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作された場合には設定値格納領域に格納されている設定値を変更し）、

前記設定変更モード制御手段は、前記設定変更モードに制御されているときの特定操作に基づいて前記設定変更モードを終了させ（ステップS21TM4680で錠スイッチ21TM051がOFFになったことが確認されたことに基づいて設定変更モードを終了させ）、

40

前記設定値記憶手段は、前記設定変更モードに制御されている場合に前記特定操作が行われることなく当該遊技機への電力供給が停止されたときに、前記設定変更モードにおいて前記変更操作により変更された後の設定値を継続して記憶する（設定値格納領域はRAM102のバックアップ領域に形成されており、設定変更モード中に設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作されると設定値格納領域に格納されている設定値自体が変更されることになるため、設定変更モード中に電源断が発生した場合でも変更操作により変更された後の設定値が保持される）

ことを特徴とする。

50

これによれば、電力供給が再開されたときに、電源断発生前の設定変更モードにおいて変更操作により変更された後の設定値が設定値記憶手段に記憶されており、当該設定値に応じた制御が実行されることになるため作業性を向上できる。

【0405】

手段Q5の遊技機は、

手段Q1～手段Q3から選択される何れかの遊技機であって、

設定値（大当り判定用乱数の範囲が異なる設定値0～5の6段階）を記憶する設定値記憶手段（設定値が格納されるRAM102の設定値格納領域）を備え、

前記設定値記憶手段に記憶されている設定値に応じた制御（特別図柄プロセス処理における大当り判定処理等）を実行可能であり、

前記設定変更モード制御手段は、前記設定変更モードに制御されているときの変更操作と（設定変更モードにおいて設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作された場合には設定値格納領域に格納されている設定値ではなく設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値のみを変更し）、該変更操作後の特定操作とに基づいて前記設定値記憶手段に記憶されている設定値を変更するとともに前記設定変更モードを終了させ（設定変更モードにおいて錠スイッチ21TM051がOFFになったことが確認されたことに基づいてそのとき設定情報一時記憶領域に記憶されている設定値を設定値格納領域に格納して有効な設定値として確定させるとともに設定変更モードを終了させ）、

前記設定値記憶手段は、前記設定変更モードに制御されている場合に前記特定操作が行われることなく当該遊技機への電力供給が停止されたときに、前記設定変更モードにおいて前記変更操作が行われる前の設定値を記憶する（設定変更モード中に設定切替スイッチ（クリアスイッチ）21TM052が操作された場合でも錠スイッチ21TM051がOFFに切り替えられなければ設定値格納領域に格納されている設定値自体は変更されないため、設定変更モード中に電源断が発生した場合には設定変更モードに制御される前の設定値が保持される）

ことを特徴とする。

これによれば、設定変更モードが終了していない不安定な状態において電力供給が停止された場合に、設定値の変更を制限することができる。

【0406】

（特徴部052IWに関する説明）

次に、特徴部052IWについて説明する。まず、本特徴部052IWにおける遊技状態について説明する。まず、本特徴部052IWにおける遊技状態には、通常状態（低確率／非KT状態）と、通常状態よりも小当りになりやすいKT状態（いわゆる小当りタイム）とがある。さらに、KT状態には第1KT状態と第2KT状態との2種類があり、この特徴部052IWでは、遊技状態には、低確率状態且つ非KT状態（低確率／非KT状態：通常状態）に制御されている場合と、低確率且つ第1KT状態（低確率／第1KT状態）に制御されている場合と、高確率且つ第1KT状態（高確率／第1KT状態）に制御されている場合と、高確率且つ第2KT状態（高確率／第2KT状態）に制御されている場合とがある。

【0407】

KT状態のうち第1KT状態は、後述するように、小当りが発生しやすく特殊可変入賞球装置17が開状態となりやすいものの、上流側の可変入賞球装置6Bの開放時間が極めて長く、小当りが発生しても下流側の特殊可変入賞球装置17に遊技球が入賞するケースは極めて少ない（例えば、100変動するごとに1球程度）。具体的には、第1KT状態では、小当りが発生しやすい状態に制御されるとともに高ベース状態に制御されて可変入賞球装置6Bの開放時間が長くなるように制御される。また、KT状態のうち第2KT状態は、後述するように、上流側の可変入賞球装置6Bの開放時間が短く、小当りが発生した場合に下流側の特殊可変入賞球装置17に遊技球が入賞しやすい。具体的には、第2KT状態では、小当りが発生しやすい状態に制御されるとともに低ベース状態に制御されて可変入賞球装置6Bの開放時間が短くなるように制御される。

【0408】

また、K T状態は、通常状態（低確率／非K T状態）よりも小当りになりやすい遊技状態である。具体的には、この特徴部052IWでは、普図当りとなって可変入賞球装置6Bが開状態となる確率はK T状態の方が通常状態より高くなっている。そして、第1特別図柄の変動時には小当りと決定される割合が低いのにに対して、第2特別図柄の変動時には小当りと決定される割合が高くなるよう構成されている（ただし、後述する強制はずれの場合を除く）ため、K T状態を、通常状態よりも小当りになりやすい遊技状態としている。これにより、K T状態では、主に第2特別図柄の変動を行わせることにより小当りを頻繁に発生させ、遊技者に有利な遊技状態となっている。

【0409】

なお、K T状態を、通常状態よりも小当りになりやすい遊技状態とするための構成としては、これに限るものではない。例えば、K T状態であっても普図当りとなって可変入賞球装置6Bが開状態となる確率は通常状態と同じ（例えば、10%または100%）であるが、第2特別図柄の変動時に選択する変動パターンの有する変動時間が、K T状態の方が通常状態よりも短く構成することにより、K T状態の方が通常状態よりも一定時間に対する変動回数の割合が高くなり、K T状態を通常状態よりも小当りになりやすい遊技状態とするものであってもよい。

【0410】

また、本特徴部052IWでは、遊技球が通過ゲート41を通過してから可変入賞球装置6Bに到達するまでの所要時間が0.6秒以上になるよう構成されている。具体的には、通過ゲート41および可変入賞球装置6Bの設置位置や、遊技球の流下経路を形成する釘群により調整されている。詳しくは後述するが、本特徴部052IWでは遊技球が通過ゲート41を通過したことにもとづいて可変入賞球装置6Bが開放状態に制御され得る構成であり、後述する第1K T状態では遊技球が通過ゲート41を通過してから可変入賞球装置6Bが開放状態に制御されるまでの時間が0.5秒となっており、遊技球が通過ゲート41を通過してから可変入賞球装置6Bに到達するまでの所要時間である0.6秒よりも短いことから、第1K T状態において一の遊技球が通過ゲート41を通過した場合に可変入賞球装置6Bが開放状態に制御された場合、該一の遊技球がそのまま可変入賞球装置6Bに入賞可能となっている。

【0411】

（特別可変入賞球装置）

図10-1は、本特徴部052IWにおける特別可変入賞球装置7の構成例を示す説明図である。図10-1に示すように、特別可変入賞球装置7には、遊技球が流下する流路の底面として形成される板状の底面部材052IW108が設けられ、大当り遊技状態において、底面部材052IW108を前方に向けて前進移動させた閉状態から底面部材052IW108を後方に向けて後退移動させることにより、入賞領域となる大入賞口が開状態とされる。大入賞口内に入賞した遊技球は、第1カウントスイッチ23によって検出される。

【0412】

本特徴部052IWでは、図10-1に示すように、大入賞口内に入賞した遊技球は、さらに特別可変入賞球装置7の右方に設けられた誘導経路052IW100に導かれる。誘導経路052IW100は、さらに2つの経路052IW102, 103に分岐しており、誘導経路052IW100に導かれた遊技球は、左側経路052IW102または右側経路052IW103に導かれる。左側経路052IW102に導かれた場合には、遊技球はV領域052IW104に進入し、V領域スイッチ052IW106によって検出される。右側経路052IW103に導かれた場合には、遊技球は排出領域052IW105に進入し、排出領域スイッチ052IW107によって検出される。

【0413】

図10-1に示すように、左側経路052IW102の入口付近には、V領域開閉板052IW101が設けられており、V領域開閉板052IW101が開状態であるときに

10

20

30

40

50

、誘導経路 052IW100 に導かれた遊技球が左側経路 052IW102 に進入し、V 領域 052IW104 に進入可能である。また、V 領域開閉板 052IW101 が閉状態であるときには、誘導経路 052IW100 に導かれた遊技球が右側経路 052IW103 に進入し、排出領域 052IW105 から遊技領域の裏側に排出される。

【0414】

なお、V 領域開閉板 052IW101 は、遊技制御用マイクロコンピュータ 100（具体的には、CPU 103）によって、ソレノイド 052IW109 が駆動されることによって閉状態から開状態に制御される。

【0415】

また、本特徴部 052IW では、大当り遊技に制御されると、その大当り遊技中に遊技球が V 領域 052IW104 に進入し、V 領域スイッチ 052IW106 によって検出されたことを条件として、その大当り遊技の終了後に確変状態に制御される。

【0416】

なお、1 ラウンド中に V 領域スイッチ 052IW106 によって検出された遊技球数と排出領域スイッチ 052IW107 によって検出された遊技球数との合計数は、第 1 カウントスイッチ 23 によって検出された遊技球数と一致する筈である。そのため、1 ラウンド中に V 領域スイッチ 052IW106 によって検出された遊技球数と排出領域スイッチ 052IW107 によって検出された遊技球数との合計数が、第 1 カウントスイッチ 23 によって検出された遊技球数と一致しない場合には、大入賞口入排出不一致エラーと判定し、エラー報知するように構成してもよい。この場合、特別可変入賞球装置 7 が閉状態となる直前に入賞した遊技球が V 領域 052IW104 や排出領域 052IW105 に到達するまでにはある程度時間がかかることから、特別可変入賞球装置 7 が閉状態となってから所定時間（例えば、30 秒）が経過するまでに遊技球数が一致しなければ、大入賞口入排出不一致エラーと判定するように構成すればよい。

【0417】

（制御基板の構成）

図 10-2 は、本特徴部 052IW における各種の制御基板などを示す構成図である。本特徴部 052IW では、図 10-2 に示すように、スイッチ回路 110 は、ゲートスイッチ 21、始動口スイッチ（第 1 始動口スイッチ 22A および第 2 始動口スイッチ 22B）、カウントスイッチ（第 1 カウントスイッチ 23 および第 2 カウントスイッチ 24）からの検出信号に加えて、V 領域スイッチ 052IW106 および排出領域スイッチ 052IW107 からの検出信号を取り込んで遊技制御用マイクロコンピュータ 100 に伝送する。

【0418】

また、本特徴部 052IW では、図 10-2 に示すように、ソレノイド回路 111 は、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 からのソレノイド駆動信号を、普通電動役物用のソレノイド 81 や大入賞口扉用のソレノイド 82、特殊入賞口用のソレノイド 83 に加えて、V 領域開閉板 052IW101 用のソレノイド 052IW109 に伝送する。

【0419】

（大当り確率、小当り確率）

図 10-3 および図 10-4 は、設定値ごとの大当り確率および小当り確率を説明するための説明図である。このうち、図 10-3 は、第 1 特別図柄の変動表示が実行される場合の大当り確率および小当り確率を示している。また、図 10-4 は、第 2 特別図柄の変動表示が実行される場合の大当り確率および小当り確率を示している。また、図 10-3 および図 10-4 に示すように、本例では、設定値「1」～「6」の 6 段階に設定変更可能に構成する場合が示されている。なお、6 段階に設定変更可能である場合にかぎらず、例えば、2～5 段階に設定変更可能に構成したり、7 段階以上に設定変更可能に構成したりしてもよい。

【0420】

まず、図 10-3 を用いて、第 1 特別図柄の変動表示が実行される場合の大当り確率お

よび小当り確率について説明する。図10-3(A)に示す例では、非確変状態（低確率状態）では、設定値「1」の場合が大当り確率「205/65536」と最も低く、遊技者にとって最も不利な設定となっている。そして、設定値「2」、設定値「3」、設定値「4」、設定値「5」の順に大当り確率が高くなり、設定値「6」の場合が大当り確率「247/65536」と最も高く、遊技者にとって最も有利な設定となっている。また、図10-3(B)に示す例では、確変状態（高確率状態）では、非確変状態（低確率状態）と比較して全体に大当りの当選確率が10倍となっており、設定値「1」の場合が大当り確率「2050/65536」と最も低く、遊技者にとって最も不利な設定となっている。そして、設定値「2」、設定値「3」、設定値「4」、設定値「5」の順に大当り確率が高くなり、設定値「6」の場合が大当り確率「2470/65536」と最も高く、遊技者にとって最も有利な設定となっている。

10

【0421】

一方で、小当りに関しては、図10-3(A)，(B)に示すように、設定値「1」～「6」のいずれであるかに関係なく、また、非確変状態（低確率状態）と確変状態（高確率状態）とのいずれであるかに関係なく、小当り確率が「6298/65536」と一定である。すなわち、本例では、小当り判定用の判定値は、設定値によらず共通であり、かつ非確変状態と確変状態とで共通である。このように設定値に応じて大当り確率を異ならせる一方で小当り確率は一定となるように構成する場合であっても、図10-3(A)，(B)に示すように、はずれ確率を設定値「1」～「6」で異ならせることによって、設定値ごとの判定値数が整合するように構成すればよい。

20

【0422】

次に、図10-4を用いて、第2特別図柄の変動表示が実行される場合の大当り確率および小当り確率について説明する。図10-4(A)に示す例では、非確変状態（低確率状態）では、設定値「1」の場合が大当り確率「205/65536」と最も低く、遊技者にとって最も不利な設定となっている。そして、設定値「2」、設定値「3」、設定値「4」、設定値「5」の順に大当り確率が高くなり、設定値「6」の場合が大当り確率「247/65536」と最も高く、遊技者にとって最も有利な設定となっている。また、図10-4(B)に示す例では、確変状態（高確率状態）では、非確変状態（低確率状態）と比較して全体に大当りの当選確率が10倍となっており、設定値「1」の場合が大当り確率「2050/65536」と最も低く、遊技者にとって最も不利な設定となっている。そして、設定値「2」、設定値「3」、設定値「4」、設定値「5」の順に大当り確率が高くなり、設定値「6」の場合が大当り確率「2470/65536」と最も高く、遊技者にとって最も有利な設定となっている。

30

【0423】

一方で、小当りに関しては、図10-4(A)，(B)に示すように、設定値「1」～「6」のいずれであるかに関係なく、また、非確変状態（低確率状態）と確変状態（高確率状態）とのいずれであるかに関係なく、小当り確率が「62986/65536」と一定である。すなわち、本例では、小当り判定用の判定値は、設定値によらず共通であり、かつ非確変状態と確変状態とで共通である。ただし、本例では、第2特別図柄の変動表示の場合（図10-4参照）には、第1特別図柄の変動表示を実行する場合（図10-3参照）と比較すると、小当りの当選確率が約10倍になっている（すなわち、第2特別図柄の変動表示を実行する場合の小当り判定用の判定値の数は、第1特別図柄の変動表示を実行する場合の小当り判定用の判定値の数よりも多い）。このように設定値に応じて大当り確率を異ならせる一方で小当り確率は一定となるように構成する場合であっても、図10-4(A)，(B)に示すように、はずれ確率を設定値「1」～「6」で異ならせることによって、設定値ごとの判定値数が整合するように構成すればよい。

40

【0424】

なお、本例では、図10-3および図10-4に示すように、はずれに対応する判定値は、全ての設定値「1」～「6」に対応する判定値に含まれる（図10-3および図10-4に示すように、はずれ確率が0となる設定値はない）。そして、はずれに対応する判

50

定値は、設定値に応じて異なっている（図10-3および図10-4に示すように、設定値「1」～「6」のいずれであるかに応じて、はずれ確率が異なっている）。

【0425】

なお、本例で示した態様にかぎらず、例えば、はずれ確率が0となる場合（すなわち、はずれに対応する判定値が含まれない設定値）があるように構成してもよい。例えば、有利度が最も高い（大当り確率が最も高い）設定値「6」では、はずれ確率が0となり、はずれに対応する判定値が含まれないように構成してもよい。

【0426】

また、本例で示した態様にかぎらず、例えば、小当り確率が0となる場合（すなわち、小当りに対応する判定値が含まれない判定値）があるように構成してもよい。例えば、第1特別図柄の変動表示を実行する場合（図10-3）には、一律に小当り確率が0となるようにして、小当りに対する判定値が含まれないように構成してもよい。

【0427】

なお、図10-3（A）、（B）および図10-4（A）、（B）では、確変状態（高確率状態）と非確変状態（低確率状態）とで小当り確率を一致させはずれ確率を異ならせているが、確変状態（高確率状態）では非確変状態（低確率状態）に対して大当り確率が上昇した分、非確変状態（低確率状態）よりも小当り確率を低下させ、はずれ確率を一致させてもよい。さらに、設定値が例えば「1」及び「2」で異なる値であっても、大当り確率及び小当り確率のそれぞれを一致させてもよい。これにより、実質的な設定可能段階数が6段階未満の遊技機又は設定変更機能による有利度の差がない遊技機において、6段階の設定変更機能を有する種別の遊技機とハードウェア・ソフトウェア構成の共通化を図ることができ、製造コストを低減できる。

【0428】

（大当り種別判定テーブル）

図10-5（A）、（B）は、ROM101に記憶されている大当り種別判定テーブルを示す説明図である。大当り種別判定テーブルは、可変表示結果を大当り図柄にする旨の判定がなされたときに、当り種別判定用の乱数にもとづいて、大当りの種別を「2R通常大当り」、「2R確変大当り」、「6R通常大当り」、「6R確変大当り」、または「10R確変大当り」のいずれかに決定するために参照されるテーブルである。

【0429】

図10-5（A）に示すように、この特徴部052IWでは、設定値「1」～「6」のいずれであるかに関係なく、第1特別図柄の変動表示を実行する場合には、9%の確率で「10R確変大当り」と決定され、56%の確率で「6R確変大当り」と決定され、35%の確率で「6R通常大当り」と決定される。また、図10-5（B）に示すように、この特徴部052IWでは、設定値「1」～「6」のいずれであるかに関係なく、第2特別図柄の変動表示を実行する場合には、10%の確率で「10R確変大当り」と決定され、50%の確率で「6R確変大当り」と決定され、5%の確率で「2R確変大当り」と決定され、35%の確率で「2R通常大当り」と決定される。

【0430】

「10R確変大当り」とは、16ラウンドの大当り遊技状態に制御し、その大当り遊技状態の終了後に高確率状態に移行させる大当りである。また、「6R確変大当り」とは、6ラウンドの大当り遊技状態に制御し、その大当り遊技状態の終了後に高確率状態に移行させる大当りである。また、「2R確変大当り」とは、2ラウンドの大当り遊技状態に制御し、その大当り遊技状態の終了後に高確率状態に移行させる大当りである。

【0431】

「6R通常大当り」とは、6ラウンドの大当り遊技状態に制御し、その大当り遊技状態の終了後に低確率状態に移行させる大当りである。また、「2R通常大当り」とは、2ラウンドの大当り遊技状態に制御し、その大当り遊技状態の終了後に低確率状態に移行させる大当りである。

【0432】

この特徴部 052IWでは、「10R 確変大当り」、「6R 確変大当り」、および「6R 通常大当り」となる場合には、その大当り遊技の各ラウンドにおいて所定期間（本例では、30 秒間）が経過するか所定数（本例では、10 個）の遊技球が入賞するまで大入賞口が開放状態に制御され、ラウンドごとに最大で 10 個の大入賞口への入賞が可能である。これに対して、「2R 確変大当り」および「2R 通常大当り」となる場合には、その大当り遊技の各ラウンドにおいて短い期間（本例では、1.8 秒間）のみ大入賞口が開放状態に制御され、ラウンドごとに入賞可能な大入賞口への入賞数は 2～3 個程度である。

【0433】

また、この特徴部 052IWでは、大当り遊技を終了するとき、大当り遊技前の遊技状態および大当り種別に応じて第 1KT 状態、第 2KT 状態または非 KT 状態のいずれかに制御されるのであるが、大当り遊技後の遊技状態の遷移の仕方については後述する（図 10-29 参照）。

【0434】

（小当り種別判定テーブル）

図 10-6（A）、（B）は、ROM 101 に記憶されている小当り種別判定テーブルを示す説明図である。小当り種別判定テーブルは、可変表示結果を小当り図柄にする旨の判定がなされたときに、当り種別判定用の乱数にもとづいて、小当りの種別を「小当り A」、「小当り B」、または「小当り C」のいずれかに決定するために参照されるテーブルである。

【0435】

図 10-6（A）に示すように、この特徴部 052IWでは、設定値「1」～「6」のいずれであるかに関係なく、第 1 特別図柄の変動表示を実行する場合には、100%の確率で「小当り A」と決定される。また、図 10-6（B）に示すように、この特徴部 052IWでは、設定値「1」～「6」のいずれであるかに関係なく、第 2 特別図柄の変動表示を実行する場合には、70%の確率で「小当り B」と決定され、30%の確率で「小当り C」と決定される。

【0436】

本例では、後述するように、「小当り A」の場合には、その小当り遊技中に特殊入賞口が極めて短い 0.2 秒間しか開放されず（図 10-12 参照）、小当り遊技中に特殊入賞口への遊技球の入賞を殆ど期待できない。また、「小当り B」の場合には、その小当り遊技中に特殊入賞口が 0.8 秒間開放され（図 10-13 参照）、小当り遊技中に特殊入賞口への遊技球の入賞をある程度期待できる。また、「小当り C」の場合には、その小当り遊技中に特殊入賞口が 1.8 秒間開放され（図 10-14 参照）、小当り遊技中に特殊入賞口への遊技球の入賞を最も期待できる。

【0437】

（変動パターンテーブル）

図 10-7～図 10-9 は、この特徴部 052IWで用いられる特別図柄および飾り図柄の変動パターン（変動時間）を示す説明図である。図 10-7～図 10-9 に示す EXT とは、それぞれの変動パターンに対応した演出制御コマンド（2 バイト構成）の 2 バイト目のデータである。

【0438】

図 10-7～図 10-9 に示す例では、第 1 特別図柄および飾り図柄についての第 1 変動パターン #01～#09 の 9 種類と、第 2 特別図柄および飾り図柄についての第 2 変動パターン #01～#34 の 34 種類とが用いられる。以下、例えば変動パターン #n（n = 01～09 または 01～34）というときには、第 1 変動パターン #n と第 2 変動パターン #n の双方を意味する。

【0439】

第 1 特別図柄の変動表示を実行する場合、非 KT 状態（低確率／非 KT 状態）である場合には、図 10-7（A）に示す非 KT 時用の第 1 特別図柄用変動パターンテーブルが選択されて変動パターンが決定される。図 10-7（A）に示すように、非 KT 状態におい

10

20

30

40

50

て第1特別図柄の変動表示が実行される場合には、第1変動パターン#01～#06のいずれかに決定される。

【0440】

第1特別図柄の変動表示を実行する場合、KT状態（低確率／第1KT状態、高確率／第1KT状態、高確率／第2KT状態）である場合には、図10-7（B）に示すKT時用の第1特別図柄用変動パターンテーブルが選択されて変動パターンが決定される。図10-7（B）に示すように、KT状態において第1特別図柄の変動表示が実行される場合には、第1変動パターン#07～#09のいずれかに決定される。

【0441】

第2特別図柄の変動表示を実行する場合、非KT状態（低確率／非KT状態）である場合には、図10-8（C）に示す非KT時用の第2特別図柄用変動パターンテーブルが選択されて変動パターンが決定される。図10-8（C）に示すように、非KT状態において第2特別図柄の変動表示が実行される場合には、第2変動パターン#01～#03のいずれかに決定される。具体的には、はずれと決定する場合には第2変動パターン#01が決定されて、15分間の長期間にわたって第2特別図柄の変動表示が実行される。また、小当たりと決定する場合にも第2変動パターン#02が決定されて、15分間の長期間にわたって第2特別図柄の変動表示が実行される。また、大当たりと決定する場合にも第2変動パターン#03が決定されて、5分間というある程度長期間にわたって第2特別図柄の変動表示が実行される。

【0442】

この特徴部052IWでは、非KT状態中であっても第2特別図柄の変動表示が実行されて小当たりとなると、特殊入賞口への遊技球の入賞によりある程度の賞球を期待できる状況が生じてしまう。そこで、この特徴部052IWでは、図10-8（C）に示すように、非KT状態中に第2特別図柄の変動表示が実行されても、変動時間を極端に長くし変動表示の実行頻度を低下させることによって却って小当たりの発生頻度を低下させるようにし、非KT状態中であるにもかかわらず小当たりによる賞球の獲得を狙われてしまう事態を防止している。なお、この特徴部052IWにおいて、「小当たりの発生頻度」とは、例えば、単位時間（例えば、1分）あたりの小当たりの発生割合であり、KT状態では、例えば、単位時間あたりの小当たりの発生割合が通常状態よりも高い状態となっている。

【0443】

なお、この特徴部052IWでは、図10-8（C）に示すように、非KT状態中に第2特別図柄の変動表示が実行される場合には、大当たりとなる場合であっても変動時間を5分と比較的長くすることによって、非KT状態中に不当に特殊入賞口への入賞による賞球を狙う行為を防止するようにしている。ただし、大当たりとなる場合には、小当たりとなる場合と比較して第1保留記憶の消化を長くしなくてもよいので、小当たりとなる場合よりも短い変動時間となるように構成している。

【0444】

第2特別図柄の変動表示を実行する場合、低確率／第1KT状態である場合には、その低確率／第1KT状態の契機となった6R通常大当たりや2R通常大当たりにもとづく大当たり遊技を終了してからの変動回数に応じて、変動パターンテーブルを選択する。この場合、1変動目の変動表示を実行する場合であれば、図10-8（D）に示す低確率／第1KT時且つ1変動目用の第2特別図柄変動パターンテーブルが選択されて変動パターンが決定される。図10-8（D）に示すように、低確率／第1KT状態の1変動目として第2特別図柄の変動表示が実行される場合には、第2変動パターン#04～#06のいずれかに決定される。

【0445】

なお、図10-8（D）に示すように、低確率／第1KT状態の1変動目としてはずれと決定する場合には、変動時間が5秒と短い短縮変動の第2変動パターン#04に決定される。また、低確率／第1KT状態の1変動目として小当たりと決定する場合には、小当たりとしては比較的長めの7秒の変動時間である第2変動パターン#05（第2始動入賞口開

放準備用の変動パターン)に決定される。この特徴部052IWでは、既に説明したように、第1KT状態に制御される場合には、小当りの頻度が高くなるものの可変入賞球装置6Bの開放時間を長くすることによって実際には特殊可変入賞球装置17内の特殊入賞口には減多に入賞しないように設定されている。しかしながら、低確率/第1KT状態に移行した直後の状態では可変入賞球装置6Bや特殊可変入賞球装置17の底面部材上にある程度の遊技球が溜まっている可能性があり、直ちに特殊可変入賞球装置17を開状態に制御してしまったのでは、相当数の遊技球が特殊入賞口に入賞してしまう可能性がある。そこで、この特徴部052IWでは、第1KT状態の1変動目では、少なくとも7秒の変動時間を確保することによって、第1KT状態に移行する前から可変入賞球装置6Bや特殊可変入賞球装置17の底面部材上に溜まっている遊技球が全て落下するまでに十分な時間が経過してから特殊可変入賞球装置17を開状態に制御して特殊入賞口への入賞を可能とすることにより、第1KT状態において想定以上の賞球が得られるような事態が生じることを防止している。また、低確率/第1KT状態の1変動目として大当たりと決定する場合には第2変動パターン#06が決定されて、2分間にわたって第2特別図柄の変動表示が実行される。

【0446】

また、低確率/第1KT状態の契機となった6R通常大当たりや2R通常大当たりにもとづく大当たり遊技を終了してから2~49変動目の変動表示を実行する場合であれば、図10-8(E)に示す低確率/第1KT時且つ2~49変動目用の第2特別図柄変動パターンテーブルが選択されて変動パターンが決定される。図10-8(E)に示すように、低確率/第1KT状態の2~49変動目として第2特別図柄の変動表示が実行される場合には、第2変動パターン#07~#13のいずれかに決定される。また、図10-8(E)に示すように、低確率/第1KT状態の2~49変動目としてはずれと決定する場合には、変動時間が5秒と短い短縮変動の第2変動パターン#07や、変動時間が1秒とさらに短い短縮変動の第2変動パターン#08に決定される場合がある。一方で、低確率/第1KT状態の2~49変動目としてはずれと決定する場合には、リーチを伴う第2変動パターン#09に決定される場合がある。また、低確率/第1KT状態の2~49変動目として小当たりと決定する場合には、変動時間が5秒と短い短縮変動の第2変動パターン#10や、変動時間が1秒とさらに短い短縮変動の第2変動パターン#11に決定される場合がある。一方で、低確率/第1KT状態の2~49変動目として小当たりと決定する場合には、リーチを伴う第2変動パターン#12に決定される場合がある。第2変動パターン#07、#10は第2保留記憶が記憶されていないときのみ選択され得る変動パターンであり、第2変動パターン#08、#11は第2保留記憶が1個以上記憶されているときのみ選択され得る変動パターンである。これにより、保留記憶の消化を早め稼働率を高める構成としている。また、低確率/第1KT状態の2~49変動目として大当たりと決定する場合には、リーチを伴う第2変動パターン#13に決定される。

【0447】

また、低確率/第1KT状態の契機となった6R通常大当たりや2R通常大当たりにもとづく大当たり遊技を終了してから50変動目の変動表示(すなわち、低確率/第1KT状態における最終変動)を実行する場合であれば、図10-8(F)に示す低確率/第1KT時且つ50変動目用の第2特別図柄変動パターンテーブルが選択されて変動パターンが決定される。図10-8(F)に示すように、低確率/第1KT状態の50変動目として第2特別図柄の変動表示が実行される場合には、第2変動パターン#14~#16のいずれかに決定される。

【0448】

この特徴部052IWでは、低確率/第1KT状態に制御されている場合には、例えば、画像表示装置5において「チャンスタイム中」などの文字表示が表示される。図10-8(F)に示すように、低確率/第1KT状態の50変動目としてはずれや小当たりと決定する場合には、画像表示装置5において「チャンスタイム終了!!」などの文字表示を行う終了表示を伴う第2変動パターン#14や第2変動パターン#15に決定される。また

、図10-8(F)に示すように、低確率／第1KT状態の50変動目として大当たりと決定する場合には、画像表示装置5において「チャンスタイム終了!!」などの文字表示を行う終了表示の後に所定の復活表示を伴う第2変動パターン#16に決定される。

【0449】

なお、この特徴部052IWでは、図10-7に示すように、KT状態中に第1特別図柄の変動表示で大当たりとなった場合には、変動時間が10秒の第1変動パターン#07を決定するように構成されている。これは、第2KT状態に移行した直後に第1特別図柄の変動表示で直ちに大当たりが発生してしまったようなケースで、第1特別図柄の大当たり変動の変動時間を長い変動時間としてしまうと、該第1特別図柄の大当たり変動中に実行される第2特別図柄の変動は強制はずれとされる構成であるため、第2KT状態であるにもかかわらず強制はずれが頻発して遊技者が小当たりによる利益を一切受けられないこととなる。そのため、この特徴部052IWでは、第1特別図柄の大当たり変動の変動時間を短い変動時間とすることにより、強制はずれが頻発する前に第1特別図柄の変動にもとづく大当たり遊技状態に移行するように構成されている。

【0450】

なお、本特徴部052IWとは異なり、第1特別図柄の大当たり変動中に第2特別図柄の変動を開始した場合にも、該第2特別図柄の変動を強制はずれとしない構成（例えば、第1特別図柄の大当たり図柄停止時に第2特別図柄の変動中であるときは、第2特別図柄を強制はずれとする構成）の遊技機であれば、KT状態中の第1特別図柄の大当たりの変動時間を長い変動時間（例えば、1分）としてもよい。これは、第2KT状態に移行した直後に第1特別図柄の変動表示で直ちに大当たりが発生してしまったようなケースで、大当たりの変動時間はずれと同じ短い変動時間としてしまうと、遊技者が小当たりによる利益を一切受けられなくなる。そのため、KT状態中の第1特別図柄の大当たりの変動時間を長い変動時間（例えば、1分）とすれば、そのようなケースであっても、少なくとも複数回小当たりが発生可能な十分な時間（例えば、1分）が確保されるように構成される。

【0451】

第2特別図柄の変動表示を実行する場合、高確率／第1KT状態である場合には、その高確率／第1KT状態の契機となった6R確変大当たりにもとづく大当たり遊技を終了してからの変動回数に応じて、変動パターンテーブルを選択する。この場合、1変動目の変動表示を実行する場合であれば、図10-9(G)に示す高確率／第1KT時且つ1変動目用の第2特別図柄変動パターンテーブルが選択されて変動パターンが決定される。図10-9(G)に示すように、高確率／第1KT状態の1変動目として第2特別図柄の変動表示が実行される場合には、第2変動パターン#17～#21のいずれかに決定される。

【0452】

なお、低確率／第1KT状態の1変動目と同様に、図10-9(G)に示すように、高確率／第1KT状態の1変動目としてはずれと決定する場合にも、変動時間が5秒と短い短縮変動の第2変動パターン#17に決定される場合がある。一方で、高確率／第1KT状態の1変動目としてはずれと決定する場合にも、リーチを伴う第2変動パターン#18に決定される場合がある。また、高確率／第1KT状態の1変動目として小当たりと決定する場合にも、第2始動入賞口開放準備用の変動パターン（第2変動パターン#19）に決定される場合がある。一方で、高確率／第1KT状態の1変動目として小当たりと決定する場合にも、リーチを伴う第2変動パターン#20に決定される場合がある。また、図10-9(G)に示すように、高確率／第1KT状態の1変動目として大当たりと決定する場合には、リーチを伴う第2変動パターン#21に決定される。

【0453】

また、高確率／第1KT状態の契機となった6R確変大当たりにもとづく大当たり遊技を終了してから2変動目以降の変動表示を実行する場合であれば、図10-9(H)に示す高確率／第1KT時且つ2変動目以降用の第2特別図柄変動パターンテーブルが選択されて変動パターンが決定される。図10-9(H)に示すように、高確率／第1KT状態の2変動目以降として第2特別図柄の変動表示が実行される場合には、第2変動パターン#2

2～#28のいずれかに決定される。

【0454】

なお、低確率／第1KT状態の2～49変動目と同様に、図10-9(H)に示すように、高確率／第1KT状態の2変動目以降としてはずれと決定する場合には、変動時間が5秒と短い短縮変動の第2変動パターン#22や、変動時間が1秒とさらに短い短縮変動の第2変動パターン#23に決定される場合がある。一方で、高確率／第1KT状態の2変動目以降としてはずれと決定する場合には、リーチを伴う第2変動パターン#24に決定される場合がある。また、高確率／第1KT状態の2変動目以降として小当たりと決定する場合には、変動時間が5秒と短い短縮変動の第2変動パターン#25や、変動時間が1秒とさらに短い短縮変動の第2変動パターン#26に決定される場合がある。一方で、高確率／第1KT状態の2変動目以降として小当たりと決定する場合には、リーチを伴う第2変動パターン#27に決定される場合がある。第2変動パターン#22、#25は第2保留記憶が記憶されていないときのみ選択され得る変動パターンであり、第2変動パターン#23、#26は第2保留記憶が1個以上記憶されているときのみ選択され得る変動パターンである。これにより、保留記憶の消化を早め稼働率を高める構成としている。また、高確率／第1KT状態の2変動目以降として大当たりと決定する場合には、リーチを伴う第2変動パターン#28に決定される。

10

【0455】

第2特別図柄の変動表示を実行する場合、高確率／第2KT状態である場合には、図10-9(I)に示す高確率／第2KT時用の第2特別図柄用変動パターンテーブルが選択されて変動パターンが決定される。図10-9(I)に示すように、高確率／第2KT状態において第2特別図柄の変動表示が実行される場合には、第2変動パターン#29～#34のいずれかに決定される。

20

【0456】

なお、図10-9(I)に示すように、高確率／第2KT状態においてはずれと決定する場合には、変動時間が1.5秒と短い短縮変動の第2変動パターン#29に決定される場合や、変動時間が5秒の通常変動の第2変動パターン#30に決定される場合がある。一方で、高確率／第2KT状態においてはずれと決定する場合には、リーチを伴う第2変動パターン#31に決定される場合がある。また、高確率／第2KT状態において小当たりと決定する場合には、変動時間が1.5秒と短い短縮変動の第2変動パターン#32に決定される場合や、変動時間が5秒の通常変動の第2変動パターン#33に決定される場合がある。また、高確率／第2KT状態において大当たりと決定する場合には、リーチを伴う第2変動パターン#34に決定される。

30

【0457】

変動パターンを決定する場合には、より具体的には、第1特別図柄と第2特別図柄とのいずれの変動表示を実行する場合であるかや、現在の遊技状態、可変表示結果に応じた変動パターンテーブルを用いて、変動パターン判定用の乱数にもとづいて抽選処理を行い、いずれの変動パターンとするかが決定される。図10-10は、図10-9(I)に示す高確率／第2KT時用の第2特別図柄用変動パターンテーブルのうち、可変表示結果が小当たりとなる場合の変動パターンを決定するための小当たり用変動パターンテーブルの具体例を示す説明図である。

40

【0458】

図10-10に示すように、この特徴部052IWでは、高確率／第2KT状態中に第2特別図柄の変動表示を実行する場合であって、小当たりとなる変動表示を実行する場合には、設定値「1」～「6」のいずれであるかに関係なく、70%の確率で第2変動パターン#32と決定され、30%の確率で第2変動パターン#33と決定される。従って、本例では、第2KT状態の場合には、1.5秒の短縮変動の変動パターンが選択される確率が高い。

【0459】

なお、図10-10では、一例として、高確率／第2KT状態中に第2特別図柄の小当

50

り変動を実行する場合の変動パターンテーブルを示したが、図10-7～図10-9に示した他の変動パターンテーブルも同様に構成され、設定値「1」～「6」のいずれであるかに関係なく、同じ確率で各変動パターンが決定される。

【0460】

なお、図10-8～図10-10に示す例では、第1KT状態の場合に5秒または1秒の短縮変動を実行し、第2KT状態の場合に1.5秒の短縮変動を高い確率で実行するように構成する場合を示しているが、そのような態様にかぎられない。例えば、低確率状態の場合に5秒または1秒の短縮変動を実行し、高確率状態の場合に1.5秒の短縮変動を実行するように構成してもよい。

【0461】

(特別可変入賞球装置7の開放パターン)

次に、特別可変入賞球装置7の開放パターンについて説明する。図10-11は、特別可変入賞球装置7の開放パターンを説明するための説明図である。まず、図10-11(1)を用いて、10R確変大当り、6R確変大当り、および2R確変大当り(以下、単に「確変大当り」ともいう)にもとづく大当り遊技に制御される場合の特別可変入賞球装置7の開放パターンについて説明する。図10-11(1)に示すように、大当り遊技の第1ラウンドが開始されると、大入賞口扉用のソレノイド82が駆動され、特別可変入賞球装置7(大入賞口)が開状態に制御される。そして、大入賞口の開放中に遊技球が入賞すると、第1カウントスイッチ23によって検出される。

【0462】

また、確変大当りにもとづく大当り遊技では、図10-11(1)に示すように、第1ラウンドにおいて大入賞口への2つ目の遊技球の入賞を検出すると、ソレノイド052IW109が駆動され、V領域開閉板052IW101が開状態に制御され、V領域052IW104に遊技球が進入可能となる。そして、第1ラウンドにおいて所定期間(例えば、29秒)を経過するか所定数(例えば、10個)の大入賞口への入賞を検出すると、図10-11(1)に示すように、特別可変入賞球装置7(大入賞口)が再び閉状態に制御され、大入賞口が閉状態に制御されると、V領域開閉板052IW101も閉状態に制御される。

【0463】

V領域052IW104に遊技球が進入し、所定の検出有効期間内にV領域スイッチ052IW106によって検出されると、大当り遊技の終了後に遊技状態が確変状態に制御される。図10-11(1)に示すように、確変大当りにもとづく大当り遊技では、所定の検出有効期間は、V領域開閉板052IW101が開状態に制御されたタイミングで開始され、V領域開閉板052IW101が再び閉状態に制御された後、所定期間(本例では、500ms)を経過するまでの期間とされている。

【0464】

次に、図10-11(2)を用いて、6R通常大当りおよび2R通常大当り(以下、単に「通常大当り」ともいう)にもとづく大当り遊技に制御される場合の特別可変入賞球装置7の開放パターンについて説明する。図10-11(2)に示すように、大当り遊技の第1ラウンドが開始されると、大入賞口扉用のソレノイド82が駆動され、特別可変入賞球装置7(大入賞口)が開状態に制御される。そして、大入賞口の開放中に遊技球が入賞すると、第1カウントスイッチ23によって検出される。

【0465】

また、通常大当りにもとづく大当り遊技では、図10-11(2)に示すように、第1ラウンドにおいて大入賞口への1つ目の遊技球の入賞を検出すると、ソレノイド052IW109が駆動され、V領域開閉板052IW101が極めて短い期間(本例では、0.02秒間)開状態に制御される。そして、第1ラウンドにおいて所定期間(例えば、29秒)を経過するか所定数(例えば、10個)の大入賞口への入賞を検出すると、図10-11(2)に示すように、特別可変入賞球装置7(大入賞口)が再び閉状態に制御され、大入賞口が閉状態に制御される。

【0466】

図10-11(2)に示すように、通常大当りにもとづく大当り遊技では、所定の検出有効期間は、V領域開閉板052IW101の極めて短い開放期間(本例では、0.02秒間)の後、所定期間(本例では、500ms)を経過するまでの期間とされている。

【0467】

図10-11(1)に示すように、確変大当りにもとづく大当り遊技では、V領域開閉板052IW101の開放期間が長い。そのため、所定の検出有効期間中にV領域052IW104に遊技球が進入しやすく、大当り遊技の終了後に確変状態に制御されやすい。一方、図10-11(2)に示すように、通常大当りにもとづく大当り遊技では、V領域開閉板052IW101の開放期間が極めて短い。そのため、実質的に所定の検出有効期間中にV領域052IW104に遊技球が進入することは困難であり、大当り遊技の終了後に確変状態に制御されることは極めて稀である。従って、本例では、確変大当りにもとづく大当り遊技では、通常大当りにもとづく大当り遊技と比較して、大当り遊技中に高い割合によりV領域052IW104に遊技球が進入する。

【0468】

次に、KT状態における可変入賞球装置6Bおよび特殊可変入賞球装置17の開放パターンについて説明する。図10-12～図10-14は、KT状態における可変入賞球装置6Bおよび特殊可変入賞球装置17の開放パターンを説明するための説明図である。このうち、図10-12は、小当りAとなる場合の可変入賞球装置6Bおよび特殊可変入賞球装置17の開放パターンを示している。また、図10-13は、小当りBとなる場合の可変入賞球装置6Bおよび特殊可変入賞球装置17の開放パターンを示している。また、図10-14は、小当りCとなる場合の可変入賞球装置6Bおよび特殊可変入賞球装置17の開放パターンを示している。また、図10-12(1)～図10-14(1)は、それぞれ、第1KT状態における可変入賞球装置6Bおよび特殊可変入賞球装置17の開放パターンを示し、図10-12(2)～図10-14(2)は、それぞれ、第2KT状態における可変入賞球装置6Bおよび特殊可変入賞球装置17の開放パターンを示している。

【0469】

まず、図10-12(1)～図10-14(1)を用いて、第1KT状態における可変入賞球装置6Bおよび特殊可変入賞球装置17の開放パターンについて説明する。図10-12(1)～図10-14(1)に示すように、通過ゲート41を遊技球が通過してゲートスイッチ21にて遊技球が検出されると、普通図柄表示器20において普通図柄の変動表示が実行され、普図当りと決定された場合には普通図柄表示器20に当り図柄が導出表示され、はずれと決定された場合には普通図柄表示器20にはずれ図柄が導出表示される。この特徴部052IWでは、図10-12(1)～図10-14(1)に示すように、普通図柄の変動時間は0.2秒とされ、当り図柄やはずれ図柄を導出表示する図柄確定時間は0.2秒とされている。そして、当り図柄を導出表示した場合には、図10-12(1)～図10-14(1)に示すように、図柄確定時間0.2秒を経過した後、第2始動入賞口開放処理前時間0.1秒を経過してから、可変入賞球装置6Bが5.5秒間にわたって開状態とされ、第2始動入賞口に遊技球が入賞可能となる。

【0470】

可変入賞球装置6Bが開状態となっていてときに第2始動入賞口に遊技球が入賞すると、第2特別図柄の変動表示が実行され、小当りとするに決定された場合には、第2特別図柄表示装置4Bに小当り図柄が導出表示される。そして、小当り図柄を導出表示した場合には、小当りAである場合には、図10-12(1)に示すように、特殊可変入賞球装置17が0.2秒間にわたって開状態とされ、小当りBである場合には、図10-13(1)に示すように、特殊可変入賞球装置17が0.8秒間にわたって開状態とされ、小当りCである場合には、図10-14(1)に示すように、特殊可変入賞球装置17が1.8秒間にわたって開状態とされ、特殊入賞口に遊技球が入賞可能な状態となる(ただし、小当りAの場合には、特殊可変入賞球装置17が極めて短い0.2秒間しか開放しないので、殆ど入賞は期待できない)。しかしながら、第1KT状態では、図10-12(1)

）に示すように、下流側の特殊可変入賞球装置 17 の開放時間が 0.2 秒、0.8 秒または 1.8 秒と短いに対して、上流側の可変入賞球装置 6B の開放時間が 5.5 秒と長い。従って、第 1KT 状態では、小当りが発生しやすい状態ではあるものの、特殊入賞口に遊技球が入賞することは極めて稀である（例えば、100 変動表示ごとに 1 球程度）。

【0471】

なお、第 1KT 状態では、図 10-12（1）～図 10-14（1）に示すように、可変入賞球装置 6B の開放を終了した後、次の可変入賞球装置 6B の開放を行えるのは、次の普通図柄の変動時間 0.2 秒と図柄確定時間 0.2 秒と第 2 始動入賞口開放前処理時間 0.1 秒とを合計した少なくとも 0.5 秒を経過した後である。従って、この特徴部 052IW では、第 1KT 状態では、可変入賞球装置 6B の開放した後のインターバル期間として少なくとも 0.5 秒の閉鎖期間が設けられていることになる。

【0472】

また、本特徴部 052IW では、第 1KT 状態では、普通図柄の変動が行われていない状態で遊技球が通過ゲート 41 を通過した後、可変入賞球装置 6B が開放状態に制御されるのは、普通図柄の変動時間 0.2 秒と図柄確定時間 0.2 秒と第 2 始動入賞口開放前処理時間 0.1 秒とを合計した 0.5 秒を経過した後であるとともに、遊技球が通過ゲート 41 を通過してから可変入賞球装置 6B に到達するまでの所要時間が約 0.6 秒であるよう構成されている。このように、第 1KT 状態では、普通図柄の変動が行われていない状態で遊技球が通過ゲート 41 を通過してから可変入賞球装置 6B が開放状態に制御されるまでの時間の方が、普通図柄の変動が行われていない状態で遊技球が通過ゲート 41 を通過してから該遊技球が可変入賞球装置 6B に到達するまでの時間よりも短いため、可変入賞球装置 6B が既に開放状態に制御されているときに遊技球が該可変入賞球装置 6B に到達することとなる。従って、第 1KT 状態では、普通図柄の変動が行われていない状態で通過ゲート 41 を通過した遊技球は、可変入賞球装置 6B に入賞しやすくなっている。

【0473】

次に、図 10-12（2）～図 10-14（2）を用いて、第 2KT 状態における可変入賞球装置 6B および特殊可変入賞球装置 17 の開放パターンについて説明する。図 10-12（2）～図 10-14（2）に示すように、通過ゲート 41 を遊技球が通過してゲートスイッチ 21 にて遊技球が検出されると、普通図柄表示器 20 において普通図柄の変動表示が実行され、普図当りと決定された場合には普通図柄表示器 20 に当り図柄が導出表示され、はずれと決定された場合には普通図柄表示器 20 にはずれ図柄が導出表示される。この特徴部 052IW では、図 10-12（2）～図 10-14（2）に示すように、普通図柄の変動時間は 1.0 秒とされ、当り図柄やはずれ図柄を導出表示する図柄確定時間は 0.2 秒とされている。そして、当り図柄を導出表示した場合には、図 10-12（2）～図 10-14（2）に示すように、図柄確定時間 0.2 秒を経過した後、第 2 始動入賞口開放処理前時間 2.6 秒を経過してから、可変入賞球装置 6B が 0.2 秒間にわたって開状態とされ、第 2 始動入賞口に遊技球が入賞可能となる。

【0474】

可変入賞球装置 6B が開状態となっておりときに第 2 始動入賞口に遊技球が入賞すると、第 2 特別図柄の変動表示が実行され、小当りとするに決定された場合には、第 2 特別図柄表示装置 4B に小当り図柄が導出表示される。そして、小当り図柄を導出表示した場合には、小当り A である場合には、図 10-12（2）に示すように、特殊可変入賞球装置 17 が 0.2 秒間にわたって開状態とされ、小当り B である場合には、図 10-13（2）に示すように、特殊可変入賞球装置 17 が 0.8 秒間にわたって開状態とされ、小当り C である場合には、図 10-14（2）に示すように、特殊可変入賞球装置 17 が 1.8 秒間にわたって開状態とされ、特殊入賞口に遊技球が入賞可能となる。

【0475】

第 2KT 状態では、第 1KT 状態とは異なり可変入賞球装置 6B の開放時間が 0.2 秒と極めて短い。また、この特徴部 052IW では、第 2KT 状態では、可変入賞球装置 6B の開放した後のインターバル期間（閉鎖期間）として少なくとも 3.8 秒（普通図柄の

変動時間 1.0 秒 + 図柄確定時間 0.2 秒 + 第 2 始動入賞口開放処理前時間 2.6 秒) という比較的長い期間が確保されている。従って、第 2 K T 状態では、図 10-12 (2) ~ 図 10-14 (2) に示すように、上流側の可変入賞球装置 6 B の開放時間が短いとともにインターバル期間 (閉鎖期間) が長いので、第 1 K T 状態と比較して下流側の特殊可変入賞球装置 1 7 に遊技球が進入しやすく特殊入賞口に遊技球が入賞しやすい。ただし、小当り A の場合には、特殊可変入賞球装置 1 7 が極めて短い 0.2 秒間しか開放しないので、第 2 K T 状態であっても、特殊入賞口への遊技球の入賞は殆ど期待できない。

【0476】

なお、第 2 K T 状態では、特殊入賞口に遊技球が入賞しやすく賞球が得られやすいことから、本例では「小当り R U S H」ともいい、第 2 K T 状態中である場合には「小当り R U S H」などの文字表示が表示される。

10

【0477】

また、本例では、小当り種別が小当り A ~ C のいずれであるかに応じて特殊可変入賞球装置 1 7 (特殊入賞口) の開放時間を異ならせる場合を示したが、そのような態様にかぎられない。例えば、小当り種別が小当り A ~ C のいずれであるかに応じて特殊可変入賞球装置 1 7 の開放回数を異ならせるように構成してもよい。この場合、例えば、小当り A の場合には小当り遊技中に特殊可変入賞球装置 1 7 を 1 回のみ開放するのに対して、小当り B や小当り C の場合には小当り遊技中に特殊可変入賞球装置 1 7 を 2 回 ~ 11 回開放するように構成してもよい。また、例えば、特殊可変入賞球装置 1 7 の開放時間はある程度短くても、0.4 秒間の特殊可変入賞球装置 1 7 の開放を 4 回実行することにより、特殊可変入賞球装置 1 7 (特殊入賞口) にある程度遊技球が入賞可能な小当り種別を設けるように構成してもよく、様々な態様が考えられる。また、本例では、小当り種別が小当り A ~ C の 3 種類である場合を示したが、そのような態様にかぎらず、例えば、4 種類以上の小当り種別を設けるように構成してもよい。

20

【0478】

また、本特徴部 052 I W では、第 2 K T 状態では、普通図柄の変動が行われていない状態で遊技球が通過ゲート 4 1 を通過した後、可変入賞球装置 6 B が開放状態に制御されるのは、普通図柄の変動時間 1.0 秒と図柄確定時間 0.2 秒と第 2 始動入賞口開放処理前時間 2.6 秒とを合計した 3.8 秒を経過した後であるとともに、遊技球が通過ゲート 4 1 を通過してから可変入賞球装置 6 B に到達するまでの所要時間が約 0.6 秒であるよう構成されている。このように、第 2 K T 状態では、普通図柄の変動が行われていない状態で遊技球が通過ゲート 4 1 を通過してから可変入賞球装置 6 B が開放状態に制御されるまでの時間の方が、普通図柄の変動が行われていない状態で遊技球が通過ゲート 4 1 を通過してから該遊技球が可変入賞球装置 6 B に到達するまでの時間よりも長いため、可変入賞球装置 6 B が開放状態に制御される前に遊技球が該可変入賞球装置 6 B に到達することとなる。従って、第 2 K T 状態では、普通図柄の変動が行われていない状態で通過ゲート 4 1 を通過した遊技球は、可変入賞球装置 6 B に入賞しにくくなっている。

30

【0479】

なお、この特徴部 052 I W では、普通図柄の変動表示を実行したり可変入賞球装置 6 B を開放制御したりする処理は、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 (具体的には、C P U 103) によって普通図柄プロセス処理 (ステップ S 26 参照) が実行されることによって行われる。また、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 は、ステップ S 26 の普通図柄プロセス処理において、遊技状態が確変状態 (高確率状態) であるか否かや、非 K T 状態、第 1 K T 状態または第 2 K T 状態のいずれであるか、大当り遊技状態であるか否かに関係なく、同じ確率 (例えば、10% または 100%) により普図当りとするか否かを決定する。

40

【0480】

なお、この特徴部 052 I W では、第 1 K T 状態と第 2 K T 状態とで普通図柄の変動時間と図柄確定時間とはそれぞれ 0.2 秒ずつで同じであり、第 2 始動入賞口開放処理前時間が第 1 K T 状態では 0.1 秒と短く第 2 K T 状態では 2.6 秒と長くすることによって

50

、可変入賞球装置 6 B の閉鎖期間（インターバル期間）を異ならせる場合を示したが、そのような態様にかぎられない。例えば、第 1 K T 状態と第 2 K T 状態とで変動時間や図柄確定時間を異ならせることによって、可変入賞球装置 6 B の閉鎖期間（インターバル期間）を異ならせるように構成してもよい。また、例えば、可変入賞球装置 6 B を閉鎖した後の第 2 始動入賞口開放処理後時間を制御可能に構成し、第 1 K T 状態と第 2 K T 状態とで第 2 始動入賞口開放処理後時間を異ならせることによって、可変入賞球装置 6 B の閉鎖期間（インターバル期間）を異ならせるように構成してもよい。特に、上記のいずれかの方法により第 1 K T 状態における可変入賞球装置 6 B の閉鎖期間（インターバル期間）が短くなるように構成すれば、第 1 K T 状態における特殊入賞口への入賞を抑制することができる。

10

【0481】

この特徴部 052 IW では、後述するように、第 1 K T 状態では、高ベース状態であることを示す高ベースフラグをセットすることによって高ベース状態に制御することによって、図 10-12（1）～図 10-14（1）に示すように、可変入賞球装置 6 B の開放時間が長くなるように制御している。また、第 2 K T 状態では、高ベースフラグをセットせず低ベース状態に制御することによって、図 10-12（2）～図 10-14（2）に示すように、可変入賞球装置 6 B の開放時間が短くなるように制御している。

【0482】

なお、例えば、可変入賞球装置 6 B の開放時間を延長することを示す特殊フラグ（開放延長フラグ）を設けるようにし、その特殊フラグがセットされていれば図 10-12（1）～図 10-14（1）に示すような可変入賞球装置 6 B を長時間開放する第 1 開放パターン（ロング開放）で制御し、特殊フラグがセットされていなければ図 10-12（2）～図 10-14（2）に示す可変入賞球装置 6 B を短時間開放する第 2 開放パターン（ショート開放）で制御するように構成してもよい。つまり、第 1 K T 状態でのみ特殊フラグをセットし、大当り遊技状態を含む他の状態では、特殊フラグをセットしないように制御するように構成してもよい。

20

【0483】

また、第 1 K T 状態であっても、低確率／第 1 K T 状態中の最後の変動表示を実行する場合には、可変入賞球装置 6 B の開放時間を短くしてもよい。例えば、低確率／第 1 K T 状態の 50 回の特別図柄の短縮変動期間のうち、49 回目の特別図柄の変動停止に応じて、前述の特殊フラグを消去するように構成してもよい。そのように構成すれば、低確率／第 1 K T 状態の終了後に、左打ち報知を行うときに、可変入賞球装置 6 B がロング開放していることに対して遊技者に違和感を与えることを抑制することができる。

30

【0484】

なお、上記のように、可変入賞球装置 6 B の開放制御用のフラグ（特殊フラグ）を用いて可変入賞球装置 6 B を構成する場合、さらに、特別図柄の変動表示の短縮変動用のフラグを用いて特別図柄の変動表示を制御するようにしてもよく、この場合、特殊フラグと短縮変動用のフラグとを別々に管理して制御を行うように構成してもよい。

【0485】

また、低確率／非 K T 状態中においては可変入賞球装置 6 B をショート開放するように構成してもよい。そのように構成すれば、低確率／非 K T 状態（左打ち状態）である場合に可変入賞球装置 6 B の開放確率が高くなるように構成する場合には、遊技球を数個発射操作しただけでは可変入賞球装置 6 B に入賞しないようすることができ、低確率／非 K T 状態中に右打ち操作が行われてしまうことを防止することができる。

40

【0486】

なお、この特徴部 052 IW では、図 10-12～図 10-14 に示すように、普通図柄の変動時間が 0.2 秒と短い時間に設定されている。これは、例えば、第 1 K T 状態において比較的変動時間が長い第 2 特別図柄の変動表示が実行される場合に、普通図柄が変動停止中であり且つ普通図柄の保留記憶がない状態では可変入賞球装置 6 B が閉鎖状態となっており、第 2 特別図柄の変動停止タイミングを狙った攻略が可能となってしまうため

50

である（小当たりとなった場合に、普通図柄の変動時間が長いと通過ゲート 4 1 を通過した遊技球が可変入賞球装置 6 B や特殊可変入賞球装置 1 7 に到達するまでに可変入賞球装置 6 B が開放せず、特殊入賞口の入賞が可能となってしまう）。これに対して、この特徴部 0 5 2 I W では、普通図柄の変動時間を短くすることにより、遊技球が通過ゲート 4 1 を通過してから可変入賞球装置 6 B に到達する前に可変入賞球装置 6 B の開放が開始されるように設定されているので、第 1 K T 状態において第 2 特別図柄の変動表示にもとづく小当たり発生タイミングを狙った発射操作による攻略要素を排除することができる。

【 0 4 8 7 】

（演出制御コマンド）

図 1 0 - 1 5 および図 1 0 - 1 6 は、演出制御用 C P U 1 2 0 に送出される演出制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。図 1 0 - 1 5 に示す例において、コマンド 8 0 0 0 (H) ~ 8 0 0 9 (H) , 8 0 1 1 (H) ~ 8 0 3 2 (H) は、特別図柄の可変表示に対応して画像表示装置 5 において可変表示される飾り図柄の変動パターンを指定する演出制御コマンド（変動パターンコマンド）である。なお、変動パターンを指定する演出制御コマンドは、変動開始を指定するためのコマンドでもある。従って、演出制御用 C P U 1 2 0 は、コマンド 8 0 0 0 (H) ~ 8 0 0 9 (H) , 8 0 1 1 (H) ~ 8 0 3 2 (H) のいずれかを受信すると、画像表示装置 5 において飾り図柄の可変表示を開始するように制御する。

【 0 4 8 8 】

コマンド 9 0 0 1 (H) は、変動パターンコマンドで指定する飾り図柄の可変表示の表示結果をはずれとすることを指定する演出制御コマンド（表示結果 1 指定コマンド）（はずれ指定コマンド）である。コマンド 9 0 0 2 (H) は、変動パターンコマンドで指定する飾り図柄の可変表示の表示結果を 1 0 R 確変大当たりとすることを指定する演出制御コマンド（表示結果 2 指定コマンド（1 0 R 確変大当たり指定コマンド））である。コマンド 9 0 0 3 (H) は、変動パターンコマンドで指定する飾り図柄の可変表示の表示結果を 6 R 確変大当たりとすることを指定する演出制御コマンド（表示結果 3 指定コマンド（6 R 確変大当たり指定コマンド））である。コマンド 9 0 0 4 (H) は、変動パターンコマンドで指定する飾り図柄の可変表示の表示結果を 6 R 通常大当たりとすることを指定する演出制御コマンド（表示結果 4 指定コマンド（6 R 通常大当たり指定コマンド））である。コマンド 9 0 0 5 (H) は、変動パターンコマンドで指定する飾り図柄の可変表示の表示結果を 2 R 確変大当たりとすることを指定する演出制御コマンド（表示結果 5 指定コマンド（2 R 確変大当たり指定コマンド））である。コマンド 9 0 0 6 (H) は、変動パターンコマンドで指定する飾り図柄の可変表示の表示結果を 2 R 通常大当たりとすることを指定する演出制御コマンド（表示結果 6 指定コマンド（2 R 通常大当たり指定コマンド））である。コマンド 9 0 0 7 (H) は、変動パターンコマンドで指定する飾り図柄の可変表示の表示結果を小当たりとすることを指定する演出制御コマンド（表示結果 7 指定コマンド（小当たり指定コマンド））である。

【 0 4 8 9 】

以下、表示結果 1 指定コマンド～表示結果 7 指定コマンドを、表示結果指定コマンドとすることがある。なお、この特徴部 0 5 2 I W では、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は変動パターンコマンドの直前に表示結果指定コマンドを送信するので、演出制御用 C P U 1 2 0 が第 1 変動パターンコマンドの直前に受信した表示結果指定コマンドは第 1 特別図柄についての表示結果指定コマンドであると判定でき、第 2 変動パターンコマンドの直前に受信した表示結果指定コマンドは第 2 特別図柄についての表示結果指定コマンドであると判定できるので、表示結果指定コマンドを第 1 特別図柄と第 2 特別図柄とについて兼用できるが、第 1 特別図柄についての表示結果指定コマンドと第 2 特別図柄についての表示結果指定コマンドとを別にしてもよい。

【 0 4 9 0 】

また、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 が表示結果指定コマンドを送信するのではなく、1 0 R 確変大当たり／6 R 確変大当たり／6 R 通常大当たり／2 R 確変大当たり／2 R 通

10

20

30

40

50

常大当り／小当り／はずれのそれぞれに対応させて変動パターンコマンドを定め、演出制御用CPU120は、受信した変動パターンコマンドにもとづいて飾り図柄の停止図柄を決定するようにしてもよい。

【0491】

コマンド9C00(H)は、右打ち表示器26の点灯を終了したことを指定する演出制御コマンド(右打ち点灯終了指定コマンド)である。コマンド9C01(H)は、右打ち表示器26の点灯を開始したことを指定する演出制御コマンド(右打ち点灯開始指定コマンド)である。

【0492】

コマンドA000(H)は、第1特別図柄の可変表示の停止を特定可能な演出制御コマンド(第1図柄確定指定コマンド)である。コマンドA001(H)は、第2特別図柄の可変表示の停止を特定可能な演出制御コマンド(第2図柄確定指定コマンド)である。

【0493】

コマンドA002(H)は、第1特別図柄の可変表示を強制停止することを特定可能な演出制御コマンド(第1強制図柄確定指定コマンド)である。コマンドA003(H)は、第2特別図柄の可変表示を強制停止することを特定可能な演出制御コマンド(第2強制図柄確定指定コマンド)である。

【0494】

コマンドBXXXX(H)(X=任意の16進数)は、大当り遊技開始から大当り遊技終了までの間に送出される演出制御コマンドである。そのうち、B000(H)は、大当り遊技の開始を指定する演出制御コマンド(大当り開始指定コマンド：ファンファーレ指定コマンド)である。B001(H)は、大当り遊技の終了を指定する演出制御コマンド(大当り終了指定コマンド：エンディング指定コマンド)である。B004(H)は、小当り遊技の開始を指定する演出制御コマンド(小当り開始指定コマンド)である。B005(H)は、小当り遊技の終了を指定する演出制御コマンド(小当り終了指定コマンド)である。

【0495】

コマンドB1XX(H)は、大当り遊技中のラウンド中の表示を指定する演出制御コマンド(大入賞口開放中表示コマンド)である。なお、「XX」に表示するラウンド数が設定される。コマンドB2XX(H)は、大当り遊技中のラウンド後の表示(ラウンド間のインターバルの表示)を指定する演出制御コマンド(大入賞口開放後表示コマンド)である。

【0496】

コマンドB400(H)は、大入賞口に遊技球が入賞したことを指定する演出制御コマンド(大入賞口入賞指定コマンド)である。コマンドB401(H)は、特殊入賞口に遊技球が入賞したことを指定する演出制御コマンド(特殊入賞口入賞指定コマンド)である。

【0497】

コマンドC000(H)は、第1保留記憶数が4に達していない状態で第1始動入賞口に遊技球が入賞したことを示す演出制御コマンド(第1有効始動入賞指定コマンド)である。コマンドC001(H)は、第2保留記憶数が4に達していない状態で第2始動入賞口に遊技球が入賞したことを示す演出制御コマンド(第2有効始動入賞指定コマンド)である。なお、第1有効始動入賞指定コマンドとして第1保留記憶数を示すコマンドを送信し、第2有効始動入賞指定コマンドとして第2保留記憶数を示すコマンドを送信してもよいが、この特徴部052IWでは、第1有効始動入賞指定コマンドおよび第2有効始動入賞指定コマンドは、始動入賞があったことを示すコマンドである。

【0498】

コマンドC801(H)は、通過ゲート41を遊技球が通過したことを指定する演出制御コマンド(ゲート通過指定コマンド)である。

【0499】

コマンドD000(H)は、第1客待ち状態(第1特別図柄の変動が行われておらず、

10

20

30

40

50

第1保留記憶が記憶されていない状態)であることを指定する演出制御コマンド(第1客待ちデモ表示指定コマンド)である。コマンドD001(H)は、第2客待ち状態(第2特別図柄の変動が行われておらず、第2保留記憶が記憶されていない状態)であることを指定する演出制御コマンド(第2客待ちデモ表示指定コマンド)である。なお、第1客待ちデモ表示指定コマンドは通常状態においてのみ送信され得るコマンドとしてもよい。また、第2客待ちデモ表示指定コマンドはKT状態においてのみ送信され得るコマンドとしてもよい。

【0500】

コマンドE000(H)は、遊技状態が低確率/非KT状態であるときの背景表示を指定する演出制御コマンド(低確/非KT背景指定コマンド)である。コマンドE001(H)は、遊技状態が低確率/第1KT状態であるときの背景表示を指定する演出制御コマンド(低確/第1KT背景指定コマンド)である。コマンドE002(H)は、遊技状態が高確率/第1KT状態であるときの背景表示を指定する演出制御コマンド(高確/第1KT背景指定コマンド)である。コマンドE003(H)は、遊技状態が高確率/第2KT状態であるときの背景表示を指定する演出制御コマンド(高確/第2KT背景指定コマンド)である。

【0501】

コマンドE1XX(H)は、現在設定されている設定値を指定する演出制御コマンド(設定値コマンド)である。なお、「XX」に設定値が設定される。例えば、設定値「1」に設定されている場合には、設定値コマンドとしてコマンドE101(H)が送信される。また、例えば、設定値「6」に設定されている場合には、設定値コマンドとしてコマンドE106(H)が送信される。

【0502】

演出制御基板12に搭載されている演出制御用CPU120(具体的には、演出制御用CPU120)は、主基板11に搭載されている遊技制御用マイクロコンピュータ100から上述した演出制御コマンドを受信すると図10-15および図10-16に示された内容に応じて画像表示装置5の表示状態を変更するとともに、ランプの表示状態を変更し、音声制御基板13に対して音番号データを出力する。なお、図10-15および図10-16に示された演出制御コマンド以外の演出制御コマンドも主基板11から演出制御基板12に送信される。例えば、大当り遊技に関するより詳細な演出制御コマンドや遊技状態を示す演出制御コマンド(例えば、初期化コマンドを示す演出制御コマンド)も主基板11から演出制御基板12に送信される。

【0503】

(第1特別図柄通常処理)

図10-17は、第1特別図柄プロセス処理における第1特別図柄通常処理(ステップS110A)を示すフローチャートである。第1特別図柄通常処理が実行される状態は、第1特図プロセスフラグの値がステップS110Aを示す値となっている場合である。なお、第1特図プロセスフラグの値がステップS110Aを示す値となっている場合とは、第1特別図柄表示装置4Aにおいて第1特別図柄の変動表示がなされていない状態である。

【0504】

第1特別図柄通常処理において、遊技制御用マイクロコンピュータ100(具体的には、CPU103)は、まず、役物制御プロセスフラグの値が役物制御通常処理(ステップS120)を示す値となっているか否かを確認する(ステップ052IWS50A)。なお、役物制御プロセスフラグの値が役物制御通常処理(ステップS120)を示す値となっている場合とは、すなわち役物制御プロセスフラグの値がゲート通過待ち処理(ステップS121)~小当り終了処理(ステップS128)を示す値となっていない場合であり、大当り遊技(特別可変入賞球装置7を所定回開放)中でも小当り遊技中(特殊可変入賞球装置17を開放)中でもない場合である。

【0505】

役物制御プロセスフラグの値が役物制御通常処理(ステップS120)を示す値となっ

10

20

30

40

50

ていれば、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、第1保留記憶数の値を確認する（ステップ052IWS51A）。具体的には、第1保留記憶数カウンタのカウント値を確認する。第1保留記憶数が0であれば、第1客待ちデモ表示指定コマンドを演出制御用CPU120に送信する（ステップ052IWS52A）。

【0506】

第1保留記憶数が0でなければ、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、RAM102の第1保留記憶数バッファにおける保留記憶数=1に対応する保存領域に格納されている各乱数値を読み出してRAM102の第1乱数バッファ領域に格納するとともに（ステップ052IWS53A）、第1保留記憶数の値を1減らし（第1保留記憶数カウンタのカウント値を1減算し）、かつ、各保存領域の内容をシフトする（ステップ052IWS54A）。すなわち、RAM102の第1保留記憶数バッファにおいて第1保留記憶数=n（n=2, 3, 4）に対応する保存領域に格納されている各乱数値を、第1保留記憶数=n-1に対応する保存領域に格納する。よって、各第1保留記憶数に対応するそれぞれの保存領域に格納されている各乱数値が抽出された順番は、常に、第1保留記憶数=1, 2, 3, 4の順番と一致するようになっている。すなわち、この例では、可変表示の開始条件が成立する毎に、各保存領域の内容をシフトする構成としているので、各乱数値が抽出された順番を特定することができる。なお、本例では、第1保留記憶数に対応するそれぞれの保存領域に格納されている各乱数値と、第2保留記憶数に対応するそれぞれの保存領域に格納されている各乱数値とが抽出された順番についても特定可能に保存される。

【0507】

次いで、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、RAM102に設定されている設定値を示す設定値コマンドを演出制御基板12に送信する制御を行う（ステップ052IWS55A）。なお、本例では、ステップ052IWS55Aの処理が実行されることによって、変動表示が開始されるごとに設定値コマンドが送信されるのであるが、電源投入時に設定変更処理（設定値を変更する処理）を実行したときにも設定値コマンドが送信される。

【0508】

なお、設定値コマンドを送信するタイミングは、本例で示したものにかぎらず、例えば、変動表示の終了ごとに設定値コマンドを送信するように構成したり、変動表示中に設定値コマンドを送信するように構成したりしてもよい。

【0509】

その後、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、現在の遊技状態に応じた背景指定コマンドを演出制御用CPU120に送信する（ステップ052IWS56A）。具体的に、確変フラグおよび高ベースフラグがオフである場合には低確率／非KT状態であると判定して低確／非KT背景指定コマンドを、確変フラグがオフで高ベースフラグがオンである場合には低確率／第1KT状態であると判定して低確／第1KT背景指定コマンドを、確変フラグがオンおよび高ベースフラグがオンである場合には高確率／第1KT状態であると判定して高確／第1KT背景指定コマンドを、確変フラグがオンで高ベースフラグがオフである場合には高確率／第2KT状態であると判定して高確／第2KT背景指定コマンドを、送信する。

【0510】

次いで、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、第2特別図柄の大当たり変動中であるか否かを判定する（ステップ052IWS57A）。具体的に、第2特別図柄の変動表示にもとづいて大当たりとなることを示す第2大当たりフラグがセットされている場合には第2特別図柄の大当たり変動中であると判定する。第2特別図柄の大当たり変動中であると判定した場合には、ステップ052IWS58A以降の処理を行うことなくステップ052IWS69Aへ移行する。これにより、第2特別図柄の大当たり変動中に第1特別図柄の変動を開始する場合には、大当たり判定値が記憶されているか否かにかかわらず強制的にはずれとする構成になっている。

【0511】

なお、強制的にはずれとする方法については、上述したものに限られない。例えば、ステップ052IWS57Aにて第2特別図柄の大当り変動中である場合に、当り判定用乱数としてはずれの乱数値（固定値）を設定する処理を行い、ステップ052IWS59Aへ移行することにより、始動入賞時にいずれの当り判定用乱数が取得されていたかにかかわらず強制的にはずれとするものであってもよい。

【0512】

また、例えば、ステップ052IWS57Aにて第2特別図柄の大当り変動中である場合に、ステップ052IWS58A～S63Aの処理を行わずに、当り判定用乱数としてはずれの乱数値（固定値）を設定して小当り判定を行うことにより、始動入賞時にいずれの当り判定用乱数が取得されていたかにかかわらず強制的にはずれとするものであってもよい。

10

【0513】

第2特別図柄の大当り変動中でない場合には、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、第1乱数格納バッファから当り判定用乱数を読み出し（ステップ052IWS58A）、大当り判定モジュールを実行する（ステップ052IWS59A）。大当り判定モジュールは、当り判定用乱数が、あらかじめ決められている大当り判定値と一致したら大当りとすることに決定するプログラムである。大当りとすることに決定した場合には（ステップ052IWS60A）、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、第1特別図柄の変動表示にもとづいて大当りとなることを示す第1大当りフラグをセットする（ステップ052IWS61A）。そして、当り種別判定用乱数にもとづいて大当り種別が10R確変大当り、6R確変大当り、および6R通常大当りのいずれであるかを判定し（ステップ052IWS62A）、大当り種別を記憶し（ステップ052IWS63A）、ステップ052IWS69Aへ移行する。

20

【0514】

また、ステップ052IWS60Aにおいて大当りとしない場合には、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、小当り判定モジュールを実行する（ステップ052IWS64A）。小当り判定モジュールは、当り判定用乱数（小当り判定用の乱数でもよい）が、あらかじめ決められている小当り判定値と一致したら小当りとすることに決定するプログラムである。小当りとすることに決定した場合には（ステップ052IWS65A）、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、第1特別図柄の変動表示にもとづいて小当りとなることを示す第1小当りフラグをセットする（ステップ052IWS66A）。また、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、当り種別判定用乱数にもとづいて小当り種別を判定し（ステップ052IWS67A）、小当り種別を記憶する（ステップ052IWS68A）。なお、本例では、第1特別図柄の変動表示を実行する場合には、小当り種別として小当りAと決定される（図10-6（A）参照）。そして、ステップ052IWS69Aへ移行する。

30

【0515】

次いで、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、高ベース状態の残余回数を示す高ベース回数カウンタの値が「0」であるか否かを判定し（ステップ052IWS69A）、「0」である場合、ステップ052IWS75Aへ移行する。高ベース回数カウンタの値が「0」でない場合、すなわち、低確率／第1KT状態である場合、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、高ベース回数カウンタの値を「1」減算し（ステップ052IWS70A）、「0」になったか否かを判定する（ステップ052IWS71A）。高ベース回数カウンタの値が「0」にならない場合、ステップ052IWS75Aへ移行する。高ベース回数カウンタの値が「0」になった場合、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、高ベース状態であることを示す高ベースフラグをリセットする（ステップ052IWS72A）とともに、特別図柄の変動表示の短縮制御中であることを示す特図時短フラグをリセットする（ステップ052IWS73A）。また、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、右打ち表示器26の点灯を変動終了まで延長することを示す点灯延長フラグ（状態延長フラグ）をセットする（ステップ052IWS74A）。そして、ステッ

40

50

プロセス 052 IWS 75 A に移行する。

【0516】

この特徴部 052 IW では、後述するように、高ベースフラグがセットされて高ベース状態における変動表示の実行回数が管理されるのは、6 R 通常大当りや 2 R 通常大当りにもとづく大当り遊技の終了時に低確率／高ベース状態（低確率／第 1 KT 状態）に制御され 50 回の変動表示が実行される場合である。低確率／高ベース状態（低確率／第 1 KT 状態）である場合には、50 回目の変動表示を開始するときに、ステップ 052 IWS 71 A, S 71 B で Y と判定されてステップ 052 IWS 72 A, S 72 B で高ベースフラグがリセットされるとともに、ステップ 052 IWS 73 A, S 73 B で特図時短フラグもリセットされ、低確率／低ベース状態（通常状態（非 KT 状態））に移行することになる。

10

【0517】

なお、点灯延長フラグ（状態延長フラグ）は、右打ち報知を継続して右打ち状態を継続するものであり、遊技状態としては高ベース状態が終了しているものの第 1 KT 状態と共通の変動短縮状態としつつ、第 1 KT 状態と共通の演出背景とするためのフラグである。

【0518】

なお、本例では、ステップ 052 IWS 74 A の処理や後述するステップ 052 IWS 74 B の処理が実行されることによって、第 1 特別図柄の変動表示または第 2 特別図柄の変動表示のいずれか一方の変動開始により高ベース状態の最終変動（本例では、50 回目の変動表示）が開始されるときに、点灯延長フラグ（状態延長フラグ）がセットされ変動短縮状態が延長される。この場合、点灯延長フラグ（状態延長フラグ）がセットされているときに、その第 1 特別図柄の変動表示または第 2 特別図柄の変動表示（本例では、50 回目の変動表示）が終了するか、または他方の特別図柄の変動表示（本例では、51 回目の変動表示）の開始に応じて、点灯延長フラグ（状態延長フラグ）がリセットされ、変動短縮状態の延長が終了するように構成することが望ましい。

20

【0519】

そして、ステップ 052 IWS 75 A において、第 1 特図プロセスフラグの値を第 1 変動パターン設定処理に対応した値に更新する（ステップ 052 IWS 75 A）。なお、図示は省略したが、ステップ 052 IWS 75 A の直前において停止する図柄の確定をしている。

30

【0520】

なお、ステップ 052 IWS 59 A では、遊技状態を加味して、非確変時大当り判定テーブルおよび確変時大当り判定テーブルのいずれかをを用いて大当りとするか否かの判定を行う。

【0521】

（第 1 変動パターン設定処理）

図 10-18 は、第 1 特別図柄プロセス処理における第 1 変動パターン設定処理（ステップ S111 A）を示すフローチャートである。第 1 変動パターン設定処理において、遊技制御用マイクロコンピュータ 100（具体的には、CPU 103）は、まず、特別図柄の変動表示の短縮制御中であることを示す特図時短フラグがセットされているか否かを確認する（ステップ 052 IWS 1700 A）。なお、本例では、特図時短フラグがセットされ特別図柄の変動表示の短縮制御が行われることによって、第 2 特別図柄の変動表示を実行させた方が有利な状態になり（図 10-7～図 10-9 参照）、小当りが発生しやすい状態となるので、KT 状態に制御されている状態となる。特図時短フラグがセットされていなければ（すなわち、KT 状態でなければ）、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 は、変動パターンを決定するための変動パターンテーブルとして、図 10-7（A）に示す非 KT 時用の第 1 特別図柄用変動パターンテーブルを選択する（ステップ 052 IWS 1701 A）。特図時短フラグがセットされていれば（すなわち、KT 状態であれば）、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 は、変動パターンを決定するための変動パターンテーブルとして、図 10-7（B）に示す KT 時用の第 1 特別図柄用変動パターンテ

40

50

ブルを選択する（ステップ052IWS1702A）。

【0522】

次に、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、ステップ052IWS1701A、S1702Aにて使用することに決定した変動パターンテーブルと、第1特別図柄判定用バッファに格納されている変動パターン決定用乱数とにもとづいて、図10-7に示した変動パターンのいずれとするのかを決定する（ステップ052IWS1703A）。本例では、変動パターンを決定することによって、第1特別図柄の変動時間が決定される。また、変動時間を決定したあと、決定した変動時間が設定されている変動パターンを複数の変動パターンの中から選択するようにしてもよい。

【0523】

変動パターンを決定すると、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、決定した変動パターンを示す変動パターンコマンドを演出制御用CPU120に送信する制御を行う（ステップ052IWS1704A）。

【0524】

また、ステップ052IWS1703Aにて第1特別図柄の変動時間（変動パターン）を決定すると、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、決定した変動時間を示す変動時間データを第1変動時間タイマに設定して変動時間の計測を開始するとともに（ステップ052IWS1705A）、第1特別図柄表示装置4Aでの第1特別図柄の変動表示を開始する（ステップ052IWS1706A）。そして、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、第1特図プロセスフラグの値を第1特別図柄変動処理に対応した値に更新する（ステップ052IWS1707A）。

【0525】

（第1特別図柄変動処理） 図10-19は、第1特別図柄プロセス処理における第1特別図柄変動処理（ステップS112A）を示すフローチャートである。第1特別図柄変動処理において、CPU103は、まず、役物制御プロセスフラグの値が役物制御通常処理（ステップS120）を示す値となっているか否かを確認する（ステップ052IWS1120A）。なお、役物制御プロセスフラグの値が役物制御通常処理（ステップS120）を示す値となっている場合とは、すなわち役物制御プロセスフラグの値がゲート通過待ち処理（ステップS121）～小当り終了処理（ステップS128）を示す値となっていない場合であり、大当り遊技（特別可変入賞球装置7を所定回開放）中でも小当り遊技中（特殊可変入賞球装置17を開放）中でもない場合である。

【0526】

役物制御プロセスフラグの値が役物制御通常処理（ステップS120）を示す値となっていれば、CPU103は、まだ送信していなければ、大当りとするか否かの決定結果、および大当り種別の決定結果にもとづいて、いずれかの表示結果指定コマンド（表示結果1指定コマンド、表示結果2指定コマンド、表示結果3指定コマンド、表示結果4指定コマンド、表示結果7指定コマンド）を演出制御用CPU120に対して送信する制御を行う（ステップ052IWS1121A）。

【0527】

次いで、CPU103は、第1変動時間タイマを1減算し（ステップ052IWS1122A）、第1変動時間タイマがタイムアウトしたら（ステップ052IWS1123A）、演出制御用CPU120に第1図柄確定指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ052IWS1124A）。そして、CPU103は、第1特図プロセスフラグの値を第1特別図柄停止処理（ステップS113A）に対応した値に更新する（ステップ052IWS1130A）。

【0528】

第1変動時間タイマがタイムアウトしていない場合には、CPU103は、第2特別図柄表示装置4Bにて大当り図柄を導出表示しているか否かを確認する（ステップ052IWS1125A）。なお、第2特別図柄表示装置4Bにて大当り図柄を導出表示しているか否かは、例えば、第2特図プロセスフラグの値が第2特別図柄停止処理に対応した値と

10

20

30

40

50

なっているとともに、第2特別図柄の変動表示にもとづいて大当たりとなることを示す第2大当たりフラグがセットされているか否かを確認することにより判定できる。

【0529】

第2特別図柄表示装置4Bにて大当たり図柄を導出表示していなければ、CPU103は、第2特別図柄表示装置4Bにて小当たり図柄を導出表示しているか否かを確認する（ステップ052IWS1126A）。なお、第2特別図柄表示装置4Bにて小当たり図柄を導出表示しているか否かは、例えば、第2特図プロセスフラグの値が第2特別図柄停止処理に対応した値となっているとともに、第2特別図柄の変動表示にもとづいて小当たりとなることを示す第2小当たりフラグがセットされているか否かを確認することにより判定できる。第2特別図柄表示装置4Bにて小当たり図柄を導出表示していなければ、そのまま処理を終了する。

10

【0530】

第2特別図柄表示装置4Bにて小当たり図柄を導出表示していれば、CPU103は、実行中の第1特別図柄の変動表示が大当たりとなるものであるか否かを確認する（ステップ052IWS1127A）。なお、実行中の第1特別図柄の変動表示が大当たりとなるものであるか否かは、例えば、第1大当たりフラグがセットされているか否かを確認することにより判定できる。実行中の第1特別図柄の変動表示が大当たりとなるものでなければ、そのまま処理を終了する。

【0531】

実行中の第1特別図柄の変動表示が大当たりとなるものであれば、CPU103は、その大当たり種別が10R確変大当たりまたは6R確変大当たりであるか否かを確認する（ステップ052IWS1128A）。なお、10R確変大当たりまたは6R確変大当たりであるか否かは、例えば、ステップ052IWS63Aで記憶した大当たり種別を確認することにより判定できる。10R確変大当たりまたは6R確変大当たりであれば、そのまま処理を終了する。

20

【0532】

第2特別図柄表示装置4Bにて大当たり図柄を導出表示した場合（ステップ052IWS1125AのY）、または小当たり図柄を導出表示した場合（ステップ052IWS1126AのY）であって10R確変大当たりおよび6R確変大当たりのいずれともならない（すなわち、6R通常大当たりとなる）第1特別図柄の変動表示の実行中である場合（ステップ052IWS1127AのY、ステップ052IWS1128AのN）には、CPU103は、演出制御用CPU120に第1強制図柄確定指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ052IWS1129A）。なお、この場合、第1大当たりフラグや第1小当たりフラグがセットされていれば、CPU103は、それら第1大当たりフラグや第1小当たりフラグをリセットする。そして、CPU103は、第1特図プロセスフラグの値を第1特別図柄停止処理（ステップS113A）に対応した値に更新する（ステップ052IWS1130A）。

30

【0533】

ステップ052IWS1125A～S1129Aの処理が実行されることによって、この特徴部052IWでは、第1特別図柄の変動表示の実行中に第2特別図柄の変動表示が大当たりとなった場合や、小当たりとなった場合であって通常大当たり（本例では、6R通常大当たり）となる第1特別図柄の変動表示の実行中である場合に、第1特別図柄の変動表示は強制的に停止され、第1特別図柄と第2特別図柄とで同時に大当たりや小当たりが発生する事態が生じないようにしている。なお、この場合、演出制御用CPU120側では、第1特別図柄の変動表示が強制はずれとされた場合には、ステップ052IWS1129Aで送信された第2強制図柄確定指定コマンドにもとづいて、飾り図柄の変動表示結果として強制的にはずれ図柄を停止表示するように制御する。

40

【0534】

なお、本例では、第1特別図柄の変動表示の実行中に第2特別図柄の変動表示が小当たりとなった場合であって、確変大当たり（本例では、10R確変大当たりまたは6R確変大当たり）となる第1特別図柄の変動表示の実行中である場合には、そのまま第1特別図柄変動処

50

理を終了するのであるが（ステップ052 IWS 1128 AのY参照）、この場合、第2特別図柄の変動表示が小当たりとなったことにもとづいて、役物制御プロセスフラグの値が小当たり開放前処理（ステップS126）に対応した値に更新されて、小当たり遊技に移行する。そのため、次のタイマ割込以降では、ステップ052 IWS 1120 AでNと判定されてステップ052 IWS 1121 A～S1130 Aの処理はスキップされ、ステップ052 IWS 1122 Aの第1変動時間タイマの更新も行われない。従って、第2特別図柄の変動表示が小当たりとなった場合であって確変大当たりとなる第1特別図柄の変動表示の実行中である場合には、小当たり遊技中に、第1変動時間タイマの更新が中断され第1特別図柄の変動表示が継続して実行される状態となる。そして、小当たり遊技を終了すると、再び役物制御プロセスフラグの値が役物制御通常処理（ステップS120）に対応した値に更新され、第1変動時間タイマの更新が再開される。

10

【0535】

また、本例では、第1特別図柄の変動表示の実行中に第2特別図柄の変動表示が小当たりとなった場合であって、はずれや小当たりとなる第1特別図柄の変動表示中である場合にも、そのまま第1特別図柄変動処理を終了する（ステップ052 IWS 1127 AのN参照）。従って、第2特別図柄の変動表示が小当たりとなった場合であってはずれや小当たりとなる第1特別図柄の変動表示の実行中である場合にも、小当たり遊技中に、第1変動時間タイマの更新が中断され第1特別図柄の変動表示が継続して実行される状態となり、小当たり遊技を終了すると、第1変動時間タイマの更新が再開される。

20

【0536】

（第1特別図柄停止処理）

図10-20は、第1特別図柄停止処理を示すフローチャートである。第1特別図柄停止処理において、まず、CPU103は、点灯延長フラグがセットされているか否かを確認する（ステップ052 IWS 2010 A）。点灯延長フラグがセットされていれば、CPU103は、セットされていた点灯延長フラグをリセットする（ステップ052 IWS 2011 A）。また、CPU103は、右打ち表示器26の点灯を終了する制御を行う（ステップ052 IWS 2012 A）とともに、演出制御用CPU120に対して右打ち点灯終了指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ052 IWS 2013 A）。

【0537】

本例では、可変入賞球装置6B（第2始動入賞口）が遊技領域の右方に設けられているので、遊技状態がKT状態に制御されている場合には、右打ち操作を行った方が遊技者にとって有利であり、右打ち表示器26が点灯される。従って、本例では、低確率／第1KT状態中は右打ち表示器26が点灯されるのであるが、ステップ052 IWS 69 A～S74 A，S69 B～S74 Bの処理が実行されることによって、50回目の変動表示を開始するときに低確率／第1KT状態を終了して通常状態（非KT状態）に移行するとともに、ステップ052 IWS 2010 A～S2013 A，S2010 B～S2013 Bの処理が実行されることによって、50回目の変動表示を終了するときに右打ち表示器26が消灯される。

30

【0538】

次いで、CPU103は、第1特別図柄表示装置4Aにおいて第1特別図柄の停止図柄を導出表示させる（ステップ052 IWS 2014 A）。なお、この場合、第1特別図柄変動処理のステップ052 IWS 1129 Aで第1強制図柄確定指定コマンドを送信していた場合には、変動開始時の決定結果に関係なく、第1特別図柄の停止図柄として強制的にはずれ図柄を導出表示させる。

40

【0539】

次いで、CPU103は、第1大当たりフラグがセットされているか否かを判定する（ステップ052 IWS 2015 A）。第1大当たりフラグがセットされている場合、CPU103は、大当たりを開始することを示す大当たり開始フラグをセットする（ステップ052 IWS 2016 A）。また、CPU103は、第1大当たりフラグをクリアする（ステップ052 IWS 2017 A）。

50

【0540】

次いで、CPU103は、右打ち表示器26の点灯を開始する制御を行う（ステップ052 IWS2018A）とともに、演出制御用CPU120に対して右打ち点灯開始指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ052 IWS2019A）。そして、ステップ052 IWS2027Aに移行する。

【0541】

ステップ052 IWS2018A，S2019Aの処理が実行されることによって、本例では、第1特別図柄の変動表示において大当たりとなったときに右打ち表示器26の点灯が開始される。すなわち、本例では、特別可変入賞球装置7（大入賞口）が遊技領域の右方に設けられているので、大当たり遊技中は右打ち操作を行った方が遊技者にとって有利であり、右打ち表示器26が点灯される。

【0542】

なお、本例では、大当たり図柄が導出表示された後、さらに通過ゲート41を遊技球が通過したことにもとづいて大当たり遊技が開始されるので、通過ゲート41を遊技球が通過したタイミングで右打ち表示器26の点灯を開始するように構成してもよい。

【0543】

第1大当たりフラグがセットされていない場合には（ステップ052 IWS2015AのN）、CPU103は、第1小当たりフラグがセットされているか否かを判定する（ステップ052 IWS2020A）。第1小当たりフラグがセットされている場合、演出制御用CPU120に対して小当たり開始指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ052 IWS2021A）。また、CPU103は、第1小当たりフラグをクリアする（ステップ052 IWS2022A）。そして、CPU103は、役物制御プロセスフラグの値を小当たり開放前処理に対応した値に設定する（ステップ052 IWS2026A）。そして、ステップ052 IWS2027Aに移行する。

【0544】

なお、本例では、特殊可変入賞球装置17（特殊入賞口）が遊技領域の右方に設けられているので、小当たり遊技中は右打ち操作を行った方が遊技者にとって本来有利であるが、既に説明したように、第1特別図柄の変動表示において小当たりとなる場合には小当たり種別が小当たりAとなる場合しかなく、特殊入賞口への遊技球の入賞を殆ど期待できない。そのため、本例では、第1特別図柄の変動表示において小当たりとなる場合には、右打ち表示器26を点灯せず、右打ち点灯開始指定コマンドの送信も行わない。

【0545】

そして、CPU103は、第1特図プロセスフラグの値を第1特別図柄通常処理に対応した値に設定する（ステップ052 IWS2027A）。

【0546】

なお、本例では、第1特別図柄で大当たり図柄を停止表示したときに、遊技者に対して遊技領域の右方に遊技球を発射操作することを促す右打ち報知を実行可能に構成されている。また、第1特別図柄で大当たり図柄を停止表示したときに、右打ち報知として、遊技者に対して通過ゲート41を狙って遊技球を発射操作することを促す発射促進報知を実行可能に構成されていてもよい。

【0547】

また、第2特別図柄で大当たり図柄を停止表示した状態では右打ち報知や発射促進報知を実行せず、その状態で第1始動入賞口に遊技球が入賞した場合に右打ち報知や発射促進報知を実行する（この場合、ゲート通過待ち状態であるので、第1始動入賞口に遊技球が入賞しても直ちには第1特別図柄の変動表示は開始されず、第1保留記憶となる）ように構成してもよい。

【0548】

また、逆に、通常状態（低確率／非KT状態）で通過ゲート41での遊技球の通過を検出した場合には、認識度合いが低い態様（例えば、小音量の音出力や小画面表示）により、遊技者に対して遊技領域の左方に遊技球を発射操作することを促す左打ち報知を行うよ

10

20

30

40

50

うに構成してもよい。一方で、通常状態（低確率／非 K T 状態）で第 2 始動入賞口や特殊入賞口への遊技球の入賞を検出した場合には、認識度合いが高い態様（例えば、大音量の音出力や大画面表示）により左打ち報知を行うように構成してもよい。そのように構成すれば、的確に発射報知を行うことができる。特に、上記の構成により、偶発的に遊技領域の右方に遊技球を発射操作した遊技者に対しては、遊技機の周囲への認識度合いが低い態様により軽度な左打ち報知を行う一方で、右打ち操作を意図的に行う遊技者に対しては、遊技機の周囲への認識度合いが高い態様により左打ち報知を行うように構成してもよい。そのように構成すれば、意図的に右打ち操作を行う遊技者に対して、遊技店の店員から左打ち操作に戻すように促すことができる。

【0549】

また、上記の場合に、通過ゲート 4 1 や第 2 始動入賞口、特殊入賞口での遊技球の検出数が一定数に達した場合に左打ち報知を行うように構成してもよい。また、通過ゲート 4 1 では所定期間内（例えば、1 分間）に複数回（例えば、5 回）遊技球を検出した場合に左打ち報知を行い、第 2 始動入賞口や特殊入賞口では所定数よりも少ない特定数（例えば、1 個）以上遊技球を検出した場合に左打ち報知を行うように構成してもよい。

【0550】

なお、本特徴部 0 5 2 I W では特定の条件が満たされたときにデモ表示を行うものであるが、通常状態においてデモ表示を行っているときに通過ゲート 4 1、第 2 始動入賞口または特殊入賞口への遊技球の入賞を検出した場合には、実行していたデモ表示の実行を終了して左打ち報知を行うものであってもよい。

【0551】

（第 2 特別図柄通常処理）

図 1 0 - 2 1 は、第 2 特別図柄プロセス処理における第 2 特別図柄通常処理を示すフローチャートである。第 2 特別図柄通常処理が実行される状態は、第 2 特図プロセスフラグの値が第 2 特別図柄通常処理を示す値となっている場合である。なお、第 2 特図プロセスフラグの値が第 2 特別図柄通常処理を示す値となっている場合とは、第 2 特別図柄表示装置 4 B において第 2 特別図柄の変動表示がなされていない状態ある。

【0552】

第 2 特別図柄通常処理において、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0（具体的には、C P U 1 0 3）は、まず、役物制御プロセスフラグの値が役物制御通常処理（ステップ S 1 2 0）を示す値となっているか否かを確認する（ステップ 0 5 2 I W S 5 0 B）。なお、役物制御プロセスフラグの値が役物制御通常処理（ステップ S 1 2 0）を示す値となっている場合とは、すなわち役物制御プロセスフラグの値がゲート通過待ち処理（ステップ S 1 2 1）～小当り終了処理（ステップ S 1 2 8）を示す値となっていない場合であり、大当り遊技（特別可変入賞球装置 7 を所定回開放）中でも小当り遊技中（特殊可変入賞球装置 1 7 を開放）中でもない場合である。

【0553】

役物制御プロセスフラグの値が役物制御通常処理（ステップ S 1 2 0）を示す値となっていれば、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、第 2 保留記憶数の値を確認する（ステップ 0 5 2 I W S 5 1 B）。具体的には、第 2 保留記憶数カウンタのカウント値を確認する。第 2 保留記憶数が 0 であれば、第 2 客待ちデモ表示指定コマンドを演出制御用 C P U 1 2 0 に送信する（ステップ 0 5 2 I W S 5 2 B）。

【0554】

第 2 保留記憶数が 0 でなければ、遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 は、R A M 1 0 2 の第 2 保留記憶数バッファにおける保留記憶数 = 1 に対応する保存領域に格納されている各乱数値を読み出して R A M 1 0 2 の第 2 乱数バッファ領域に格納するとともに（ステップ 0 5 2 I W S 5 3 B）、第 2 保留記憶数の値を 1 減らし（第 2 保留記憶数カウンタのカウント値を 1 減算し）、かつ、各保存領域の内容をシフトする（ステップ 0 5 2 I W S 5 4 B）。すなわち、R A M 1 0 2 の第 2 保留記憶数バッファにおいて第 2 保留記憶数 = n（n = 2, 3, 4）に対応する保存領域に格納されている各乱数値を、第 2 保留記憶

10

20

30

40

50

数 = $n - 1$ に対応する保存領域に格納する。よって、各第 2 保留記憶数に対応するそれぞれの保存領域に格納されている各乱数値が抽出された順番は、常に、第 2 保留記憶数 = 1, 2, 3, 4 の順番と一致するようになっている。すなわち、この例では、可変表示の開始条件が成立する毎に、各保存領域の内容をシフトする構成としているので、各乱数値が抽出された順番を特定することができる。

【0555】

次いで、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 は、RAM 102 に設定されている設定値を示す設定値コマンドを演出制御基板 12 に送信する制御を行う（ステップ 052 IWS 55 B）。なお、本例では、ステップ 052 IWS 55 B の処理が実行されることによって、変動表示が開始されるごとに設定値コマンドが送信されるのであるが、電源投入時に設定変更処理（設定値を変更する処理）を実行したときにも設定値コマンドが送信される。

【0556】

その後、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 は、現在の遊技状態に応じた背景指定コマンドを演出制御用 CPU 120 に送信する（ステップ 052 IWS 56 B）。なお、具体的な背景指定コマンドの送信の仕方は、第 1 特別図柄通常処理のステップ 052 IWS 56 A で示した処理と同様である。

【0557】

次いで、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 は、第 1 特別図柄の大当たり変動中であるか否かを判定する（ステップ 052 IWS 57 B）。具体的に、第 1 特別図柄の変動表示にもとづいて大当たりとなることを示す第 1 大当たりフラグがセットされている場合には第 1 特別図柄の大当たり変動中であると判定する。第 1 特別図柄の大当たり変動中であると判定した場合には、ステップ 052 IWS 58 B 以降の処理を行うことなくステップ 052 IWS 69 B へ移行する。これにより、第 1 特別図柄の大当たり変動中に第 2 特別図柄の変動を開始する場合には、大当たり判定値が記憶されているか否かにかかわらず強制的にはずれとする構成になっている。

【0558】

なお、強制的にはずれとする方法については、上述したものに限られない。例えばステップ 052 IWS 57 B にて第 1 特別図柄の大当たり変動中である場合に、当り判定用乱数としてはずれの乱数値（固定値）を設定する処理を行い、ステップ 052 IWS 59 B へ移行することにより、始動入賞時にいずれの当り判定用乱数が取得されていたかにかかわらず強制的にはずれとするものであってもよい。

【0559】

また、例えば、ステップ 052 IWS 57 B にて第 1 特別図柄の大当たり変動中である場合に、ステップ 052 IWS 58 B ～ S 63 B の処理を行わずに、当り判定用乱数としてはずれの乱数値（固定値）を設定して小当り判定を行うことにより、始動入賞時にいずれの当り判定用乱数が取得されていたかにかかわらず強制的にはずれとするものであってもよい。

【0560】

第 1 特別図柄の大当たり変動中でない場合には、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 は、第 2 乱数格納バッファから当り判定用乱数を読み出し（ステップ 052 IWS 58 B）、大当たり判定モジュールを実行する（ステップ 052 IWS 59 B）。大当たり判定モジュールは、当り判定用乱数が、あらかじめ決められている大当たり判定値と一致したら大当たりとすることに決定するプログラムである。大当たりとすることに決定した場合には（ステップ 052 IWS 60 B）、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 は、第 2 特別図柄の変動表示にもとづいて大当たりとなることを示す第 2 大当たりフラグをセットする（ステップ 052 IWS 61 B）。そして、当り種別判定用乱数にもとづいて大当たり種別が 10 R 確変大当たり、6 R 確変大当たり、2 R 確変大当たり、および 2 R 通常大当たりのいずれであるかを判定し（ステップ 052 IWS 62 B）、大当たり種別を記憶し（ステップ 052 IWS 63 B）、ステップ 052 IWS 69 B へ移行する。

10

20

30

40

50

【0561】

また、ステップ052 IWS 60 Bにおいて大当たりとしない場合には、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、小当たり判定モジュールを実行する（ステップ052 IWS 64 B）。小当たり判定モジュールは、当たり判定用乱数（小当たり判定用の乱数でもよい）が、あらかじめ決められている小当たり判定値と一致したら小当たりとすることに決定するプログラムである。小当たりとすることに決定した場合には（ステップ052 IWS 65 B）、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、第2特別図柄の変動表示にもとづいて小当たりとなることを示す第2小当たりフラグをセットする（ステップ052 IWS 66 B）。また、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、当たり種別判定用乱数にもとづいて小当たり種別を判定し（ステップ052 IWS 67 B）、小当たり種別を記憶する（ステップ052 IWS 68 B）。なお、本例では、第2特別図柄の変動表示を実行する場合には、小当たり種別として小当たりBまたは小当たりCと決定される（図10-6（B）参照）。そして、ステップ052 IWS 69 Bへ移行する。

10

【0562】

次いで、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、高ベース回数カウンタの値が「0」であるか否かを判定し（ステップ052 IWS 69 B）、「0」である場合、ステップ052 IWS 75 Bへ移行する。高ベース回数カウンタの値が「0」でない場合、すなわち、低確率／第1KT状態である場合、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、高ベース回数カウンタの値を「1」減算し（ステップ052 IWS 70 B）、「0」になったか否かを判定する（ステップ052 IWS 71 B）。高ベース回数カウンタの値が「0」にならない場合、ステップ052 IWS 75 Bへ移行する。高ベース回数カウンタの値が「0」になった場合、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、高ベース状態であることを示す高ベースフラグをリセットする（ステップ052 IWS 72 B）とともに、特別図柄の変動表示の短縮制御中であることを示す特図時短フラグをリセットする（ステップ052 IWS 73 B）。また、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、点灯延長フラグ（状態延長フラグ）をセットする（ステップ052 IWS 74 B）。そして、ステップ052 IWS 75 Bに移行する。

20

【0563】

そして、ステップ052 IWS 75 Bにおいて、第2特図プロセスフラグの値を第2変動パターン設定処理に対応した値に更新する（ステップ052 IWS 75 B）。なお、図示は省略したが、ステップ052 IWS 75 Bの直前において停止する図柄の確定をしている。

30

【0564】

なお、ステップ052 IWS 59 Bでは、遊技状態を加味して、非確変時大当たり判定テーブルおよび確変時大当たり判定テーブルのいずれかをを用いて大当たりとするか否かの判定を行う。

【0565】

第2変動パターン設定処理は、図10-18に示した第1変動パターン設定処理（ステップS111 A）と同様である。すなわち、図10-18に示す第1変動パターン設定処理において、「第1」を「第2」に読み替えれば、第2変動パターン処理が説明されたことになる。ただし、第2変動パターン設定処理では、CPU103は、まず、ステップ052 IWS 1700 Aと同様の処理を行い、特図時短フラグがセットされているか否かを確認する。特図時短フラグがセットされていなければ（すなわち、KT状態でなければ）、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、変動パターンを決定するための変動パターンテーブルとして、図10-8（C）に示す非KT時用の第2特別図柄用変動パターンテーブルを選択する。特図時短フラグがセットされていれば（すなわち、KT状態であれば）、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、確変フラグおよび高ベースフラグがセットされているか否かや、変動回数に応じて、変動パターンを決定するための変動パターンテーブルとして、図10-8（D）～図10-9（I）に示すいずれかのKT時用の第2特別図柄用変動パターンテーブルを選択する。例えば、確変フラグがオフで高ベースフラ

40

50

グがオンであれば（低確率／第1KT状態であれば）、1変動目であれば図10-8（D）に示す第2特別図柄用変動パターンテーブルを選択し、2～49変動目であれば図10-8（E）に示す第2特別図柄用変動パターンテーブルを選択し、50変動目であれば図10-8（F）に示す第2特別図柄用変動パターンテーブルを選択する。また、例えば、確変フラグおよび高ベースフラグの両方がオンであれば（高確率／第1KT状態であれば）、1変動目であれば図10-9（G）に示す第2特別図柄用変動パターンテーブルを選択し、2変動目以降であれば図10-9（H）に示す第2特別図柄用変動パターンテーブルを選択する。また、例えば、確変フラグがオンで高ベースフラグがオフであれば（高確率／第2KT状態であれば）、図10-9（I）に示す第2特別図柄用変動パターンテーブルを選択する。

10

【0566】

（第2特別図柄変動処理）

図10-22は、第2特別図柄プロセス処理における第2特別図柄変動処理を示すフローチャートである。第2特別図柄変動処理において、CPU103は、まず、役物制御プロセスフラグの値が役物制御通常処理（ステップS120）を示す値となっているか否かを確認する（ステップ052IWS1120B）。なお、役物制御プロセスフラグの値が役物制御通常処理（ステップS120）を示す値となっている場合とは、すなわち役物制御プロセスフラグの値がゲート通過待ち処理（ステップS121）～小当り終了処理（ステップS128）を示す値となっていない場合であり、大当り遊技（特別可変入賞球装置7を所定回開放）中でも小当り遊技中（特殊可変入賞球装置17を開放）中でもない場合である。

20

【0567】

役物制御プロセスフラグの値が役物制御通常処理（ステップS120）を示す値となっていれば、CPU103は、まだ送信していなければ、大当りとするか否かの決定結果、および大当り種別の決定結果にもとづいて、いずれかの表示結果指定コマンド（表示結果1指定コマンド、表示結果2指定コマンド、表示結果3指定コマンド、表示結果5指定コマンド、表示結果6指定コマンド、表示結果7指定コマンド）を演出制御用CPU120に対して送信する制御を行う（ステップ052IWS1121B）。

【0568】

次いで、CPU103は、第2変動時間タイマを1減算し（ステップ052IWS1122B）、第2変動時間タイマがタイムアウトしたら（ステップ052IWS1123B）、演出制御用CPU120に第2図柄確定指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ052IWS1124B）。そして、CPU103は、第2特図プロセスフラグの値を第2特別図柄停止処理に対応した値に更新する（ステップ052IWS1130B）。

30

【0569】

第2変動時間タイマがタイムアウトしていない場合には、CPU103は、第1特別図柄表示装置4Aにて大当り図柄を導出表示しているか否かを確認する（ステップ052IWS1125B）。なお、第1特別図柄表示装置4Aにて大当り図柄を導出表示しているか否かは、例えば、第1特図プロセスフラグの値が第1特別図柄停止処理に対応した値となっていると同時に、第1特別図柄の変動表示にもとづいて大当りとなることを示す第1大当りフラグがセットされているか否かを確認することにより判定できる。

40

【0570】

第1特別図柄表示装置4Aにて大当り図柄を導出表示していなければ、CPU103は、第1特別図柄表示装置4Aにて小当り図柄を導出表示しているか否かを確認する（ステップ052IWS1126B）。なお、第1特別図柄表示装置4Aにて小当り図柄を導出表示しているか否かは、例えば、第1特図プロセスフラグの値が第1特別図柄停止処理に対応した値となっていると同時に、第1特別図柄の変動表示にもとづいて小当りとなることを示す第1小当りフラグがセットされているか否かを確認することにより判定できる。第1特別図柄表示装置4Aにて小当り図柄を導出表示していなければ、そのまま処理を終了する。

50

【0571】

第1特別図柄表示装置4Aにて小当り図柄を導出表示していれば、CPU103は、実行中の第2特別図柄の変動表示が大当りとなるものであるか否かを確認する（ステップ052IWS1127B）。なお、実行中の第2特別図柄の変動表示が大当りとなるものであるか否かは、例えば、第2大当りフラグがセットされているか否かを確認することにより判定できる。実行中の第2特別図柄の変動表示が大当りとなるものでなければ、そのまま処理を終了する。

【0572】

実行中の第2特別図柄の変動表示が大当りとなるものであれば、CPU103は、その大当り種別が10R確変大当り、6R確変大当り、または2R確変大当りであるか否かを確認する（ステップ052IWS1128B）。なお、10R確変大当り、6R確変大当り、または2R確変大当りであるか否かは、例えば、ステップ052IWS63Bで記憶した大当り種別を確認することにより判定できる。10R確変大当り、6R確変大当り、または2R確変大当りであれば、そのまま処理を終了する。

【0573】

第1特別図柄表示装置4Aにて大当り図柄を導出表示した場合（ステップ052IWS1125BのY）、または小当り図柄を導出表示した場合（ステップ052IWS1126BのY）であって10R確変大当り、6R確変大当り、および2R確変大当りのいずれともならない（すなわち、2R通常大当りとなる）第2特別図柄の変動表示の実行中である場合（ステップ052IWS1127BのY、ステップ052IWS1128BのN）には、CPU103は、演出制御用CPU120に第2強制図柄確定指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ052IWS1129B）。なお、この場合、第2大当りフラグや第2小当りフラグがセットされていれば、CPU103は、それら第2大当りフラグや第2小当りフラグをリセットする。そして、CPU103は、第2特図プロセスフラグの値を第2特別図柄停止処理に対応した値に更新する（ステップ052IWS1130B）。

【0574】

ステップ052IWS1125B～S1129Bの処理が実行されることによって、この特徴部052IWでは、第2特別図柄の変動表示の実行中に第1特別図柄の変動表示が大当りとなった場合や、小当りとなった場合であって通常大当り（本例では、2R通常大当り）となる第2特別図柄の変動表示の実行中である場合には、第2特別図柄の変動表示は強制的に停止され、第1特別図柄と第2特別図柄とで同時に大当りや小当りが発生する事態が生じないようにしている。なお、この場合、演出制御用CPU120側では、第2特別図柄の変動表示が強制はずれとされた場合には、ステップ052IWS1129Bで送信された第2強制図柄確定指定コマンドにもとづいて、飾り図柄の変動表示結果として強制的にはずれ図柄を停止表示するように制御する。

【0575】

なお、本例では、第2特別図柄の変動表示の実行中に第1特別図柄の変動表示が小当りとなった場合であって、確変大当り（本例では、10R確変大当り、6R確変大当り、または2R確変大当り）となる第2特別図柄の変動表示の実行中である場合には、そのまま第2特別図柄変動処理を終了するのであるが（ステップ052IWS1128BのY参照）、この場合、第1特別図柄の変動表示が小当りとなったことにもとづいて、役物制御プロセスフラグの値が小当り開放前処理（ステップS126）に対応した値に更新されて、小当り遊技に移行する。そのため、次のタイマ割込以降では、ステップ052IWS1120BでNと判定されてステップ052IWS1121B～S1130Bの処理はスキップされ、ステップ052IWS1122Bの第2変動時間タイマの更新も行われない。従って、第1特別図柄の変動表示が小当りとなった場合であって確変大当りとなる第2特別図柄の変動表示の実行中である場合には、小当り遊技中に、第2変動時間タイマの更新が中断され第2特別図柄の変動表示が継続して実行される状態となる。そして、小当り遊技を終了すると、再び役物制御プロセスフラグの値が役物制御通常処理（ステップS12

10

20

30

40

50

0) に対応した値に更新され、第2変動時間タイマの更新が再開される。

【0576】

また、本例では、第2特別図柄の変動表示の実行中に第1特別図柄の変動表示が小当たりとなった場合であって、はずれや小当たりとなる第2特別図柄の変動表示中である場合にも、そのまま第2特別図柄変動処理を終了する(ステップ052IWS1127BのN参照)。従って、第1特別図柄の変動表示が小当たりとなった場合であってはずれや小当たりとなる第2特別図柄の変動表示の実行中である場合にも、小当たり遊技中に、第2変動時間タイマの更新が中断され第2特別図柄の変動表示が継続して実行される状態となり、小当たり遊技を終了すると、第2変動時間タイマの更新が再開される。

【0577】

上記のように構成することによって、第1KT状態終了後(時短状態終了後)の通常状態において、残りの第2保留記憶を消化することができ、遊技者不在の意図しないタイミングでの大当りの発生を抑制することができる。

【0578】

また、入賞球装置6A(第1始動入賞口)の下方に第1特別図柄用の可変入賞球装置を設けるように構成するとともに、遊技領域の右方に第2特別図柄用の入賞球装置(可変入賞球装置ではない始動入賞口)を設けるように構成し、第2KT状態(小当たりRUSH)終了後に第1特別図柄の時短状態を経由して通常状態に移行するように構成した遊技機において、上記のように第2特別図柄の変動表示を強制はずれとする構成を適用してもよい。この場合、第1特別図柄の変動効率が高くなることにより第1特別図柄の変動表示にもとづく小当たり発生の頻度も高くなるのであるが、それに伴って第2特別図柄の変動表示を強制はずれとする頻度も高めて、通常状態での第2保留記憶にもとづく第2特別図柄の変動表示の発生を抑制することができ、遊技者不在の意図しないタイミングでの大当りの発生をより一層抑制することができる。

【0579】

(第2特別図柄停止処理)

図10-23は、第2特別図柄停止処理を示すフローチャートである。第2特別図柄停止処理において、まず、CPU103は、点灯延長フラグがセットされているか否かを確認する(ステップ052IWS2010B)。点灯延長フラグがセットされていれば、CPU103は、セットされていた点灯延長フラグをリセットする(ステップ052IWS2011B)。また、CPU103は、右打ち表示器26の点灯を終了する制御を行う(ステップ052IWS2012B)とともに、演出制御用CPU120に対して右打ち点灯終了指定コマンドを送信する制御を行う(ステップ052IWS2013B)。

【0580】

次いで、CPU103は、第2特別図柄表示装置4Bにおいて第2特別図柄の停止図柄を導出表示させる(ステップ052IWS2014B)。なお、この場合、第2特別図柄変動処理のステップ052IWS1129Bで第2強制図柄確定指定コマンドを送信していた場合には、変動開始時の決定結果に関係なく、第2特別図柄の停止図柄として強制的にはずれ図柄を導出表示させる。

【0581】

次いで、CPU103は、第2大当たりフラグがセットされているか否かを判定する(ステップ052IWS2015B)。第2大当たりフラグがセットされている場合、CPU103は、大当たり開始フラグをセットする(ステップ052IWS2016B)。また、CPU103は、第2大当たりフラグをクリアする(ステップ052IWS2017B)。

【0582】

次いで、CPU103は、右打ち表示器26の点灯を開始する制御を行う(ステップ052IWS2018B)とともに、演出制御用CPU120に対して右打ち点灯開始指定コマンドを送信する制御を行う(ステップ052IWS2019B)。そして、ステップ052IWS2027Bに移行する。

【0583】

10

20

30

40

50

ステップ052 IWS 2018 B, S 2019 Bの処理が実行されることによって、本例では、第2特別図柄の変動表示において大当たりとなったときに右打ち表示器26の点灯が開始される。すなわち、本例では、特別可変入賞球装置7（大入賞口）が遊技領域の右方に設けられているので、大当たり遊技中は右打ち操作を行った方が遊技者にとって有利であり、右打ち表示器26が点灯される。

【0584】

第2大当たりフラグがセットされていない場合には（ステップ052 IWS 2015 BのN）、CPU103は、第2小当たりフラグがセットされているか否かを判定する（ステップ052 IWS 2020 B）。第2小当たりフラグがセットされている場合、演出制御用CPU120に対して小当たり開始指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ052 IWS 2021 B）。また、CPU103は、第2小当たりフラグをクリアする（ステップ052 IWS 2022 B）。

10

【0585】

次いで、CPU103は、特図時短フラグがセットされているか否かを確認する（ステップ052 IWS 2023 B）。特図時短フラグがセットされていなければ（すなわち、KT状態でなければ）、CPU103は、右打ち表示器26の点灯を開始する制御を行う（ステップ052 IWS 2024 B）とともに、演出制御用CPU120に対して右打ち点灯開始指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ052 IWS 2025 B）。

【0586】

そして、CPU103は、役物制御プロセスフラグの値を小当たり開放前処理に対応した値に設定する（ステップ052 IWS 2026 B）。そして、ステップ052 IWS 2027 Bに移行する。

20

【0587】

ステップ052 IWS 2024 B, S 2025 Bの処理が実行されることによって、本例では、第2特別図柄の変動表示において小当たりとなったときに右打ち表示器26の点灯が開始される。すなわち、本例では、特殊可変入賞球装置17（特殊入賞口）が遊技領域の右方に設けられているので、小当たり遊技中は右打ち操作を行った方が遊技者にとって有利であり、右打ち表示器26が点灯される。

【0588】

ただし、本例では、第2特別図柄の変動表示において小当たりとなる場合であっても、KT状態中である場合には既に右打ち表示器26の点灯中である筈である。従って、本例では、ステップ052 IWS 2023 Bの判定処理を行うことによって、KT状態中に第2特別図柄の変動表示において小当たりとなった場合には、重複して右打ち表示器26の点灯を開始したり右打ち点灯開始指定コマンドを送信したりする処理を行わないようにしている。

30

【0589】

そして、CPU103は、第2特図プロセスフラグの値を第2特別図柄通常処理に対応した値に設定する（ステップ052 IWS 2027 B）。

【0590】

（役物制御通常処理）

40

図10-24は、役物制御プロセス処理における役物制御通常処理（ステップS120）を示すフローチャートである。役物制御通常処理において、CPU103は、まず、大当たり開始フラグがセットされているか否かを確認する（ステップ052 IWS 2101）。大当たり開始フラグがセットされていなければ、そのまま処理を終了する。

【0591】

大当たり開始フラグがセットされていれば、CPU103は、その大当たり開始フラグをリセットする（ステップ052 IWS 2102）。次いで、CPU103は、大入賞口開放前タイマを設定し（ステップ052 IWS 2103）、大当たり種別に応じたラウンド1用開放パターンデータをセットし（ステップ052 IWS 2104）、大当たりのラウンド数を示すラウンド数カウンタに「1」をセットする（ステップ052 IWS 2105）。

50

【0592】

そして、CPU103は、役物制御プロセスフラグの値をゲート通過待ち処理に対応した値に設定する（ステップ052IWS2106）。

【0593】

（ゲート通過待ち処理）

図10-25は、役物制御プロセス処理におけるゲート通過待ち処理（ステップS121）を示すフローチャートである。ゲート通過待ち処理において、CPU103は、ゲートスイッチ21からの検出信号を入力したか否かを確認する（ステップ052IWS2501）。ゲートスイッチ21からの検出信号を入力していなければ、そのまま処理を終了する。ゲートスイッチ21からの検出信号を入力していれば、CPU103は、セットされていれば、確変フラグや、高ベースフラグ、特図時短フラグをリセットし、高ベース回数カウンタの値を0クリアする（ステップ052IWS2502）。次いで、CPU103は、大当り開始指定コマンドを送信し（ステップ052IWS2503）、役物制御プロセスフラグの値を大当り開放前処理に対応した値に設定する（ステップ052IWS2504）。

10

【0594】

この特徴部052IWでは、ゲート通過待ち処理が実行されることによって、第2特別図柄の変動表示結果として大当り図柄が導出表示されると直ちに大当り遊技が開始されるのではなく、通過ゲート41を遊技球が通過し、ゲートスイッチ21で検出されたことを条件として、大当り遊技に移行するように構成されている。

20

【0595】

（大当り開放中処理）

図10-26は、役物制御プロセス処理における大当り開放中処理（ステップS123）を示すフローチャートである。大当り開放中処理において、CPU103は、第1カウントスイッチ23がオン状態となっているか否かを確認する（ステップ052IWS2401）。第1カウントスイッチ23がオン状態となっていれば、すなわち大入賞口に入賞した遊技球を検出していれば、CPU103は、大入賞口に入賞した遊技球の数をカウントするための入賞個数カウンタの値を1加算する（ステップ052IWS2402）。そして、CPU103は、大入賞口入賞指定コマンドを演出制御用CPU120に対して送信する制御を行う（ステップ052IWS2403）。

30

【0596】

次いで、CPU103は、V領域スイッチ052IW106がオン状態となっているか否かを確認する（ステップ052IWS2404）。V領域スイッチ052IW106がオン状態となっていれば、すなわちV領域052IW104に進入した遊技球を検出していれば、CPU103は、V領域052IW104に遊技球が進入したことを示すV入賞フラグをセットする（ステップ052IWS2405）。

【0597】

次いで、CPU103は、入賞個数カウンタの値が10となっているか否かを確認する（ステップ052IWS2406）。入賞個数カウンタの値が10となっていれば、ステップ052IWS2409に移行する。入賞個数カウンタの値が10となっていなければ、CPU103は、大入賞口の開放時間を計測するための開放時間タイマの値を1減算し（ステップ052IWS2407）、減算後の開放時間タイマがタイムアウトしたか否かを確認する（ステップ052IWS2408）。開放時間タイマがタイムアウトしていなければ、そのまま処理を終了する。

40

【0598】

入賞個数カウンタの値が10となっている場合（ステップ052IWS2406のY）、または開放時間タイマがタイムアウトした場合（ステップ052IWS2408のY）には、CPU103は、大入賞口扉用のソレノイド82の駆動を停止して、大入賞口を閉鎖状態に制御する（ステップ052IWS2409）。また、CPU103は、大入賞口開放後表示コマンドを演出制御用CPU120に対して送信する制御を行う（ステップ0

50

5 2 I W S 2 4 1 0)。また、C P U 1 0 3は、ラウンド数カウンタの値を1減算する（ステップ0 5 2 I W S 2 4 1 1）。

【0 5 9 9】

そして、C P U 1 0 3は、役物制御プロセスフラグの値を大当り開放後処理に対応した値に設定する（ステップ0 5 2 I W S 2 4 1 2）。

【0 6 0 0】

（大当り終了処理）

図1 0 - 2 7は、役物制御プロセス処理における大当り終了処理（ステップS 1 2 5）を示すフローチャートである。大当り終了処理において、C P U 1 0 3は、大当り終了表示タイマが設定されているか否かを確認し（ステップ0 5 2 I W S 2 2 0 0）、大当り終了表示タイマが設定されている場合には、ステップ0 5 2 I W S 2 2 0 2に移行する。大当り終了表示タイマが設定されていない場合には、C P U 1 0 3は、大当り終了表示タイマに、画像表示装置5において大当り終了表示が行われている時間（大当り終了表示時間）に対応する表示時間に相当する値を設定し（ステップ0 5 2 I W S 2 2 0 1）、処理を終了する。

【0 6 0 1】

ステップ0 5 2 I W S 2 2 0 2では、大当り終了表示タイマの値を1減算する（ステップ0 5 2 I W S 2 2 0 2）。そして、C P U 1 0 3は、大当り終了表示タイマの値が0になっているか否か、すなわち大当り終了表示時間が経過したか否かを確認する（ステップ0 5 2 I W S 2 2 0 3）。経過していなければ処理を終了する。

【0 6 0 2】

大当り終了表示時間を経過していれば（ステップ0 5 2 I W S 2 2 0 3のY）、C P U 1 0 3は、V入賞フラグがセットされているか否かを確認する（ステップ0 5 2 I W S 2 2 0 4）。V入賞フラグがセットされていれば、C P U 1 0 3は、そのV入賞フラグをクリアし（ステップ0 5 2 I W S 2 2 0 5）、確変フラグをセットして確変状態（高確率状態）に移行する（ステップ0 5 2 I W S 2 2 0 6）。

【0 6 0 3】

次いで、C P U 1 0 3は、今回終了した大当りの種別が1 0 R確変大当りまたは2 R確変大当りであるか否かを確認する（ステップ0 5 2 I W S 2 2 0 7）。なお、1 0 R確変大当りまたは2 R確変大当りであるか否かは、例えば、第1特別図柄通常処理のステップ0 5 2 I W S 6 3 Aや第2特別図柄通常処理のステップ0 5 2 I W S 6 3 Bで記憶した大当り種別を確認することにより判定できる。1 0 R確変大当りまたは2 R確変大当りであれば、C P U 1 0 3は、特図時短フラグをセットしてK T状態に移行する（ステップ0 5 2 I W S 2 2 0 8）。そして、ステップ0 5 2 I W S 2 2 1 5に移行する。なお、1 0 R確変大当りまたは2 R確変大当りであった場合には、高ベースフラグのセットは行われないので、大当り遊技中にV領域0 5 2 I W 1 0 4に遊技球が進入すれば、高確率／低ベース状態（高確率／第2 K T状態）に制御されることになる。

【0 6 0 4】

1 0 R確変大当りおよび2 R確変大当りのいずれでもなければ、C P U 1 0 3は、今回終了した大当りの種別が6 R確変大当りであるか否かを確認する（ステップ0 5 2 I W S 2 2 0 9）。なお、6 R確変大当りであるか否かは、例えば、第1特別図柄通常処理のステップ0 5 2 I W S 6 3 Aや第2特別図柄通常処理のステップ0 5 2 I W S 6 3 Bで記憶した大当り種別を確認することにより判定できる。6 R確変大当りであれば、C P U 1 0 3は、高ベースフラグをセットして高ベース状態に移行し（ステップ0 5 2 I W S 2 2 1 0）、さらに特図時短フラグをセットしてK T状態に移行する（ステップ0 5 2 I W S 2 2 1 1）。そして、ステップ0 5 2 I W S 2 2 1 5に移行する。従って、6 R確変大当りであった場合には、大当り遊技中にV領域0 5 2 I W 1 0 4に遊技球が進入すれば、高確率／高ベース状態（高確率／第1 K T状態）に制御されることになる。

【0 6 0 5】

なお、6 R確変大当りである場合には、高ベースフラグをセットするだけで高ベース回

10

20

30

40

50

数カウンタのセットは行わない。この場合、高ベース回数カウンタは大当り遊技を開始するときに0にリセットされているので（ゲート通過待ち処理のステップ052 IWS 2502参照）、高ベース回数カウンタの値は0のままである。従って、6R確変大当りにもとづく大当り遊技の終了後は、高確率／高ベース状態（高確率／第1KT状態）に制御され、その後の変動表示において高ベース回数カウンタの値が0であることから、第1特別図柄通常処理のステップ052 IWS 69Aや第2特別図柄通常処理のステップ052 IWS 69BでYと判定されてステップ052 IWS 70Aやステップ052 IWS 70Bの高ベース回数カウンタの減算処理は行われない。そして、次回の大当りが発生するまで高確率／高ベース状態（高確率／第1KT状態）が維持されることになる。

【0606】

6R確変大当りでもなければ（すなわち、6R通常大当りまたは2R通常大当りであれば）、CPU103は、高ベースフラグをセットして高ベース状態に移行する（ステップ052 IWS 2212）とともに、特図時短フラグをセットしてKT状態に移行する（ステップ052 IWS 2213）。また、CPU103は、高ベース回数カウンタに「50」をセットする（ステップ052 IWS 2214）。そして、ステップ052 IWS 2215に移行する。従って、6R通常大当りまたは2R通常大当りであった場合には、低確率／高ベース状態（低確率／第1KT状態）に制御されることになる。

【0607】

そして、CPU103は、役物制御プロセスフラグの値を役物制御通常処理に対応した値に更新する（ステップ052 IWS 2215）。

【0608】

（小当り終了処理）

図10-28は、役物制御プロセス処理における小当り終了処理（ステップS128）を示すフローチャートである。小当り終了処理において、CPU103は、小当り終了表示タイマが設定されているか否か確認し（ステップ052 IWS 2300）、小当り終了表示タイマが設定されている場合には、ステップ052 IWS 2302に移行する。小当り終了表示タイマが設定されていない場合には、CPU103は、小当り終了表示タイマに、画像表示装置5において小当り終了表示が行われている時間（小当り終了表示時間）に対応する表示時間に相当する値を設定し（ステップ052 IWS 2301）、処理を終了する。

【0609】

ステップ052 IWS 2302では、小当り終了表示タイマの値を1減算する（ステップ052 IWS 2302）。そして、CPU103は、小当り終了表示タイマの値が0になっているか否か、すなわち小当り終了表示時間が経過したか否か確認する（ステップ052 IWS 2303）。経過していなければ処理を終了する。

【0610】

小当り終了表示時間を経過していれば（ステップ052 IWS 2303のY）、CPU103は、特図時短フラグがセットされているか否かを確認する（ステップ052 IWS 2304）。特図時短フラグがセットされていないければ（すなわち、KT状態でなければ）、CPU103は、右打ち表示器26の点灯中であるか否かを確認する（ステップ052 IWS 2305）。右打ち表示器26の点灯中であれば、CPU103は、右打ち表示器26の点灯を終了する制御を行う（ステップ052 IWS 2306）とともに、演出制御用CPU120に対して右打ち点灯終了指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ052 IWS 2307）。

【0611】

本例では、非KT状態中に第2特別図柄の変動表示が小当りとなった場合には小当り遊技の開始時に右打ち表示器26の点灯が開始されるのであるが（ステップ052 IWS 2023B～S2025B参照）、ステップ052 IWS 2304～S2307の処理が実行されることによって、その小当り遊技の終了時に右打ち表示器26の点灯が終了する。

【0612】

そして、CPU103は、役物制御プロセスフラグの値を役物制御通常処理に対応した値に更新する（ステップ052IWS2308）。

【0613】

（遊技状態の遷移）

ここで、この特徴部052IWにおける遊技状態の遷移について説明する。図10-29は、この特徴部052IWにおける遊技状態の遷移の仕方を説明するための説明図である。まず、この特徴部052IWでは、低確率／低ベース状態（通常状態（非KT状態））では、遊技者は遊技領域の左方を狙って遊技球の発射操作（左打ち）を行う。そのため、通常状態では、主として第1始動入賞口への始動入賞が発生し、主として第1特別図柄の変動表示が実行される。また、主として第1特別図柄の変動表示が実行されることから、低確率／低ベース状態において大当たりが発生した場合には、主として10R確変大当たり、6R確変大当たり、または6R通常大当たりが発生する。

10

【0614】

図10-29に示すように、低確率／低ベース状態において10R確変大当たりが発生した場合には、大当たり遊技中にV領域052IW104に遊技球が進入すれば、その大当たり遊技の終了後に高確率／低ベース状態（高確率／第2KT状態）に移行し、次の大当たりが発生するまで高確率／低ベース状態が維持される（ステップ052IWS2204～S2208参照）。ただし、大当たり遊技中にV領域052IW104に遊技球が進入しなければ、高確率状態には制御されない場合もある。また、低確率／低ベース状態において6R確変大当たりが発生した場合には、大当たり遊技中にV領域052IW104に遊技球が進入すれば、その大当たり遊技の終了後に高確率／高ベース状態（高確率／第1KT状態）に移行し、次の大当たりが発生するまで高確率／高ベース状態が維持される（ステップ052IWS2204～S2206，S2209～S2211参照）。ただし、大当たり遊技中にV領域052IW104に遊技球が進入しなければ、高確率状態には制御されない場合もある。また、低確率／低ベース状態において6R通常大当たりが発生した場合には、その大当たり遊技の終了後に低確率／高ベース状態（低確率／第1KT状態）に移行し、次の大当たりが発生するか50回の変動表示を終了するまで低確率／高ベース状態が維持される（ステップ052IWS2212～S2214参照）。

20

【0615】

KT状態（高確率／高ベース状態、低確率／高ベース状態、高確率／低ベース状態）に移行した後である場合には、この特徴部052IWでは、遊技者は遊技領域の右方を狙って遊技球の発射操作（右打ち）を行う。そのため、KT状態では、主として第2始動入賞口への始動入賞が発生し、主として第2特別図柄の変動表示が実行される。また、主として第2特別図柄の変動表示が実行されることから、KT状態において大当たりが発生した場合には、主として10R確変大当たり、6R確変大当たり、2R確変大当たり、または2R通常大当たりが発生する。

30

【0616】

図10-29に示すように、高確率／高ベース状態（高確率／第1KT状態）において10R確変大当たりまたは2R確変大当たりが発生した場合には、大当たり遊技中にV領域052IW104に遊技球が進入すれば、その大当たり遊技の終了後に高確率／低ベース状態（高確率／第2KT状態）に移行し、次の大当たりが発生するまで高確率／低ベース状態が維持される（ステップ052IWS2204～S2208参照）。ただし、大当たり遊技中にV領域052IW104に遊技球が進入しなければ、高確率状態には制御されない場合もある。また、高確率／高ベース状態（高確率／第1KT状態）において6R確変大当たりが発生した場合には、大当たり遊技中にV領域052IW104に遊技球が進入すれば、その大当たり遊技の終了後に高確率／高ベース状態（高確率／第1KT状態）に移行し、次の大当たりが発生するまで高確率／高ベース状態が維持される（ステップ052IWS2204～S2206，S2209～S2211参照）。ただし、大当たり遊技中にV領域052IW104に遊技球が進入しなければ、高確率状態には制御されない場合もある。なお、この特徴部052IWでは、第2特別図柄の変動表示が実行される場合には、6R確変大当

40

50

りとなる確率が合計で50%であるので（図10-5参照）、一旦高確率／高ベース状態となると50%の割合で高確率／高ベース状態がループすることになる。また、高確率／高ベース状態（高確率／第1KT状態）において2R通常大当りが発生した場合には、その大当り遊技の終了後に低確率／高ベース状態（低確率／第1KT状態）に移行し、次の大当りが発生するか50回の変動表示を終了するまで低確率／高ベース状態が維持される（ステップ052IWS2212～S2214参照）。

【0617】

図10-29に示すように、低確率／高ベース状態（低確率／第1KT状態）において10R確変大当りまたは2R確変大当りが発生した場合には、大当り遊技中にV領域052IW104に遊技球が進入すれば、その大当り遊技の終了後に高確率／低ベース状態（高確率／第2KT状態）に移行し、次の大当りが発生するまで高確率／低ベース状態が維持される（ステップ052IWS2204～S2208参照）。ただし、大当り遊技中にV領域052IW104に遊技球が進入しなければ、高確率状態には制御されない場合もある。また、低確率／高ベース状態（低確率／第1KT状態）において6R確変大当りが発生した場合には、大当り遊技中にV領域052IW104に遊技球が進入すれば、その大当り遊技の終了後に高確率／高ベース状態（高確率／第1KT状態）に移行し、次の大当りが発生するまで高確率／高ベース状態が維持される（ステップ052IWS2204～S2206，S2209～S2211参照）。ただし、大当り遊技中にV領域052IW104に遊技球が進入しなければ、高確率状態には制御されない場合もある。また、低確率／高ベース状態（低確率／第1KT状態）において2R通常大当りが発生した場合には、その大当り遊技の終了後に低確率／高ベース状態（低確率／第1KT状態）に移行し、次の大当りが発生するか50回の変動表示を終了するまで低確率／高ベース状態が維持される（ステップ052IWS2212～S2214参照）。なお、この特徴部052IWでは、第2特別図柄の変動表示が実行される場合には、2R通常大当りとなる確率が35%であるので（図10-5（D），（E）参照）、一旦低確率／高ベース状態となると35%の割合で低確率／高ベース状態がループすることになる。なお、6R通常大当りや2R通常大当りが発生して低確率／高ベース状態となった後、次の大当りが発生することなく、50回の変動表示が終了した場合には、図10-29に示すように、低確率／低ベース状態（通常状態（非KT状態））に移行する（ステップ052IWS69A～S73A，S69B～S73B参照）。

【0618】

図10-29に示すように、高確率／低ベース状態（高確率／第2KT状態）において10R確変大当りまたは2R確変大当りが発生した場合には、大当り遊技中にV領域052IW104に遊技球が進入すれば、その大当り遊技の終了後に高確率／低ベース状態（高確率／第2KT状態）に移行し、次の大当りが発生するまで高確率／低ベース状態が維持される（ステップ052IWS2204～S2208参照）。ただし、大当り遊技中にV領域052IW104に遊技球が進入しなければ、高確率状態には制御されない場合もある。なお、この特徴部052IWでは、第2特別図柄の変動表示が実行される場合には、第2特別図柄の変動表示が実行される場合には、10R確変大当りまたは2R確変大当りとなる確率が15%であるので（図10-5（D），（E）参照）、一旦高確率／低ベース状態となると15%の割合で高確率／低ベース状態がループすることになる。また、高確率／低ベース状態（高確率／第2KT状態）において6R確変大当りが発生した場合には、大当り遊技中にV領域052IW104に遊技球が進入すれば、その大当り遊技の終了後に高確率／高ベース状態（高確率／第1KT状態）に移行し、次の大当りが発生するまで高確率／高ベース状態が維持される（ステップ052IWS2204～S2206，S2209～S2211参照）。ただし、大当り遊技中にV領域052IW104に遊技球が進入しなければ、高確率状態には制御されない場合もある。また、高確率／低ベース状態（高確率／第2KT状態）において2R通常大当りが発生した場合には、その大当り遊技の終了後に低確率／高ベース状態（低確率／第1KT状態）に移行し、次の大当りが発生するか50回の変動表示を終了するまで低確率／高ベース状態が維持される（ステ

10

20

30

40

50

アップ052 IWS 2212～S2214参照)。

【0619】

なお、図10-29では、低確率／低ベース状態（通常状態（非KT状態））では第1特別図柄の変動表示が実行される場合について説明したが、低い割合で第2特別図柄の変動表示が実行される可能性もありうる。この場合、10R確変大当たりまたは2R確変大当たりが発生した場合には、大当たり遊技中にV領域052 IW104に遊技球が進入すれば、高確率／低ベース状態（高確率／第2KT状態）に移行することになる。また、6R確変大当たりが発生した場合には、大当たり遊技中にV領域052 IW104に遊技球が進入すれば、高確率／高ベース状態（高確率／第1KT状態）に移行することになる。また、2R通常大当たりが発生した場合には、低確率／高ベース状態（低確率／第1KT状態）に移行し、次の大当たりが発生するか50回の変動表示を終了するまで低確率／高ベース状態が維持されることになる。

10

【0620】

また、図10-29では、高確率／高ベース状態（高確率／第1KT状態）では第2特別図柄の変動表示が実行される場合について説明したが、低い割合で第1特別図柄の変動表示が実行される可能性もありうる。この場合、10R確変大当たりが発生した場合には、大当たり遊技中にV領域052 IW104に遊技球が進入すれば、高確率／低ベース状態（高確率／第2KT状態）に移行することになる。また、6R確変大当たりが発生した場合には、大当たり遊技中にV領域052 IW104に遊技球が進入すれば、高確率／高ベース状態（高確率／第1KT状態）に移行することになる。また、6R通常大当たりが発生した場合には、低確率／高ベース状態（低確率／第1KT状態）に移行し、次の大当たりが発生するか50回の変動表示を終了するまで低確率／高ベース状態が維持されることになる。

20

【0621】

また、図10-29では、低確率／高ベース状態（低確率／第1KT状態）では第2特別図柄の変動表示が実行される場合について説明したが、低い割合で第1特別図柄の変動表示が実行される可能性もありうる。この場合、10R確変大当たりが発生した場合には、大当たり遊技中にV領域052 IW104に遊技球が進入すれば、高確率／低ベース状態（高確率／第2KT状態）に移行することになる。また、6R確変大当たりが発生した場合には、大当たり遊技中にV領域052 IW104に遊技球が進入すれば、高確率／高ベース状態（高確率／第1KT状態）に移行することになる。また、6R通常大当たりが発生した場合には、低確率／高ベース状態（低確率／第1KT状態）に移行し、次の大当たりが発生するか50回の変動表示を終了するまで低確率／高ベース状態が維持されることになる。

30

【0622】

また、図10-29では、高確率／低ベース状態（高確率／第2KT状態）では第2特別図柄の変動表示が実行される場合について説明したが、低い割合で第1特別図柄の変動表示が実行される可能性もありうる。この場合、10R確変大当たりが発生した場合には、大当たり遊技中にV領域052 IW104に遊技球が進入すれば、高確率／低ベース状態（高確率／第2KT状態）に移行することになる。また、6R確変大当たりが発生した場合には、大当たり遊技中にV領域052 IW104に遊技球が進入すれば、高確率／高ベース状態（高確率／第1KT状態）に移行することになる。また、6R通常大当たりが発生した場合には、低確率／高ベース状態（低確率／第1KT状態）に移行し、次の大当たりが発生するか50回の変動表示を終了するまで低確率／高ベース状態が維持されることになる。

40

【0623】

（普通図柄プロセス処理）

次に、遊技制御用マイクロコンピュータ100が実行する普通図柄プロセス処理（ステップS29）について説明する。図10-30は、普通図柄プロセス処理の一例を示すフローチャートである。普通図柄プロセス処理では、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）は、通過ゲート41を遊技球が通過してゲートスイッチ21がオン状態となったことを検出すると（ステップ052 IWS 5111）、ゲート通過指定コマンドを演出制御用CPU120に対して送信する制御を行う（ステップ052

50

IWS5112)。そして、CPU103は、ゲートスイッチ通過処理（ステップ052 IWS5113）を実行する。

【0624】

この特徴部052IWでは、ステップ052 IWS5111～S5113の処理が実行されることによって、通過ゲート41への遊技球の通過を検出した場合には、ゲート通過指定コマンドが送信される。なお、この特徴部052IWでは、通過ゲート41は兼用ゲートとして構成され作動領域の役割も担っているのであるが、大当り図柄を停止表示した後大当り遊技を開始する前のゲート通過待ち状態であるか否かには関係なく、ゲート通過指定コマンドが送信される。

【0625】

そして、CPU103は、普通図柄プロセスフラグの値に応じてステップ052 IWS5100～S5104に示された処理のうちのいずれかの処理を実行する。

【0626】

なお、この特徴部052IWでは、ゲート通過待ち状態であるか否かに関係なく、ステップ052 IWS5111で通過ゲート41への遊技球の通過を検出した場合にはステップ052 IWS5113のゲートスイッチ通過処理が実行されて普通図柄の変動表示が実行されるのであるが、そのような態様にかぎられない。例えば、ゲート通過待ち状態でないときに通過ゲート41を遊技球が通過した場合にのみ普通図柄の変動表示を実行するようにし、ゲート通過待ち状態では通過ゲート41を遊技球が通過しても普通図柄の変動表示を実行しないように構成してもよい。

【0627】

また、この特徴部052IWでは、通過ゲート41は普通始動領域と作動領域との兼用ゲートとして用いられているのであるが、タイマ割込処理内において特別図柄プロセス処理（ステップS25A，S25B参照）は普通図柄プロセス処理（ステップS26参照）よりも先に実行されるので、作動領域としての通過ゲート41の遊技球の通過の検出処理を行った後に普通始動領域としての通過ゲート41の遊技球の通過の検出処理が行われる。そのため、大当り遊技の開始のための処理を早く実行することができる。

【0628】

ゲートスイッチ通過処理（ステップ052 IWS5113）：CPU103は、ゲート通過記憶カウンタ（通過ゲート41を通過した遊技球数をカウントするためのカウンタ）のカウント値（ゲート通過記憶数）が最大値（この例では「4」）に達しているか否か確認する。最大値に達していなければ、ゲート通過記憶カウンタのカウント値を+1する。なお、ゲート通過記憶カウンタの値に応じて普図保留表示器25CのLEDが点灯される。そして、CPU103は、普通図柄当り判定用乱数の値を抽出し、ゲート通過記憶数の値に対応した保存領域（普通図柄判定用バッファ）に格納する処理を行う。

【0629】

普通図柄通常処理（ステップ052 IWS5100）：CPU103は、普通図柄の変動を開始することができる状態（例えば普通図柄プロセスフラグの値がステップ052 IWS5100を示す値となっている場合、具体的には、普通図柄表示器20において普通図柄の変動表示がなされておらず、かつ、普通図柄表示器20に当たり図柄が導出表示されたことにもとづく可変入賞球装置6Bの開閉動作中でもない場合）には、ゲート通過記憶数の値を確認する。具体的には、ゲート通過記憶数カウンタのカウント値を確認する。ゲート通過記憶数が0でなければ、当りとするか否か（普通図柄の停止図柄を当り図柄とするか否か）を決定する。そして、普通図柄プロセスタイマに普通図柄の変動時間をセットし、タイマをスタートさせる。そして、普通図柄プロセスフラグの値を普通図柄変動処理（ステップ052 IWS5101）を示す値（具体的には「1」）に更新する。

【0630】

普通図柄変動処理（ステップ052 IWS5101）：CPU103は、普通図柄プロセスタイマがタイムアウトしたか否か確認し、タイムアウトしていたら、普通図柄プロセスタイマに普通図柄停止図柄表示時間をセットし、タイマをスタートさせる。そして、普

10

20

30

40

50

通図柄プロセスフラグの値を普通図柄停止処理（ステップ052 IWS 5102）を示す値（具体的には「2」）に更新する。

【0631】

普通図柄停止処理（ステップ052 IWS 5102）：CPU103は、普通図柄プロセスタイマがタイムアウトしたか否かを確認し、タイムアウトしていたら、普通図柄の停止図柄が当り図柄であるかどうかを確認する。当り図柄でなければ（はずれ図柄であれば）、普通図柄プロセスフラグの値を普通図柄通常処理（ステップ052 IWS 5100）を示す値（具体的には「0」）に更新する。一方、普通図柄の停止図柄が当り図柄であれば、普通図柄プロセスタイマに普通電動役物開放前時間をセットし、タイマをスタートさせる。そして、普通図柄プロセスフラグの値を普通電動役物開放前処理（ステップ052 IWS 5103）を示す値（具体的には「3」）に更新する。

10

【0632】

普通電動役物開放前処理（ステップ052 IWS 5103）：CPU103は、普通図柄プロセスタイマがタイムアウトしたか否かを確認し、タイムアウトしていたら、普通図柄プロセスタイマに普通電動役物作動時間をセットし、タイマをスタートさせ、可変入賞球装置6Bの開放を開始する。そして、普通図柄プロセスフラグの値を普通電動役物作動処理（ステップ052 IWS 5104）を示す値（具体的には「4」）に更新する。

【0633】

普通電動役物作動処理（ステップ052 IWS 5104）：CPU103は、普通図柄プロセスタイマを計測し、普通図柄プロセスタイマがタイムアウトすると、可変入賞球装置6Bを閉鎖する。そして、普通図柄プロセスフラグの値を普通図柄通常処理（ステップ052 IWS 5100）を示す値（具体的には「0」）に更新する。

20

【0634】

（普通図柄通常処理）

図10-31は、普通図柄通常処理（ステップ052 IWS 5100）を示すフローチャートである。普通図柄通常処理において、CPU103は、ゲート通過記憶数カウンタのカウント値を確認することにより、ゲート通過記憶数が0であるか否かを確認する（ステップ052 IWS 5121）。ゲート通過記憶数が0であれば（ステップ052 IWS 5121のY）、そのまま処理を終了する。ゲート通過記憶数が0でなければ（ステップ052 IWS 5121のN）、CPU103は、ゲート通過記憶数=1に対応する保存領域に格納されている普通図柄当り判定用乱数値を読み出す（ステップ052 IWS 5122）。そして、CPU103は、ゲート通過記憶数カウンタの値を1減らし、かつ、各保存領域の内容をシフトする（ステップ052 IWS 5123）。すなわち、ゲート通過記憶数=n（n=2, 3, 4）に対応する保存領域に格納されている普通図柄当り判定用乱数値を、ゲート通過記憶数=n-1に対応する保存領域に格納する。よって、各ゲート通過記憶数に対応するそれぞれの保存領域に格納されている普通図柄当り判定用乱数値が抽出された順番は、常に、ゲート通過記憶数=1, 2, 3, 4の順番と一致するようになっている。

30

【0635】

次いで、CPU103は、普通図柄当りとするか否かを決定するための普通図柄判定テーブルを用いて、乱数（普通図柄当り判定用乱数値）にもとづく抽選処理を行い、普通図柄当りとするか否かを決定する（ステップ052 IWS 5127）。なお、この特徴部052 IWでは、ステップ052 IWS 5127において、CPU103は、確変状態であるか否かや、KT状態であるか否か、高ベース状態であるか否かに関係なく、一律に99/100の確率で普通図柄当りすることに決定する。

40

【0636】

ステップ052 IWS 5127において、読み出した普通図柄当り判定用乱数値が当りの範囲内である場合（当りである場合）、CPU103は、表示結果として当り図柄を設定し（ステップ052 IWS 5128）、ステップ052 IWS 5130へ移行する。また、ステップ052 IWS 5127において、読み出した普通図柄当り判定用乱数値が当

50

りの範囲内でない場合（はずれである場合）、CPU103は表示結果としてはずれ図柄を設定し（ステップ052IWS5129）、ステップ052IWS5130へ移行する。

【0637】

ステップ052IWS5130において、CPU103は、高ベースフラグがセットされていれば、普通図柄変動時間として0.2秒を普通図柄プロセスタイマにセットする（ステップ052IWS5130のY，S5131）。また、高ベースフラグがセットされていないければ、すなわち通常状態または第2KT状態であれば、普通図柄変動時間として1.0秒を普通図柄プロセスタイマにセットする（ステップ052IWS5130のN，S5132）。

【0638】

そして、遊技制御用マイクロコンピュータ100は、普通図柄プロセスフラグの値を普通図柄変動処理（ステップ052IWS5101）を示す値（具体的には「1」）に更新する（ステップ052IWS5133）。

【0639】

（普通図柄停止処理）

図10-32は、普通図柄停止処理（ステップ052IWS5102）を示すフローチャートである。普通図柄停止処理において、CPU103は、普通図柄プロセスタイマの値を-1する（ステップ052IWS3701）。そして、CPU103は、普通図柄プロセスタイマの値が0になったかどうか、すなわち、普通図柄プロセスタイマがタイムアウトしたかどうかを確認する（ステップ052IWS3702）。普通図柄プロセスタイマがタイムアウトしていなければ（ステップ052IWS3702のN）、そのまま処理を終了する。

【0640】

普通図柄プロセスタイマがタイムアウトしたとき、すなわち、普通図柄停止図柄表示時間が経過したときは（ステップ052IWS3702のY）、CPU103は、普通図柄の停止図柄が当り図柄であるかどうか（ステップ052IWS5127にて当りと判定されたかどうか）を確認する（ステップ052IWS3703）。なお、普通図柄の停止図柄が当り図柄かどうかは、例えば、ステップ052IWS5127にて当りと判定されたときに普通図柄当り判定フラグをセットすることとして、そのフラグがセットされているかどうかによって確認することができる。

【0641】

普通図柄の停止図柄が当り図柄でなく、はずれ図柄であると判定されたときは（ステップ052IWS3703のN）、CPU103は、普通図柄プロセスフラグの値を普通図柄通常処理（ステップ052IWS5100）を示す値（具体的には「0」）に更新する（ステップ052IWS3708）。

【0642】

ステップ052IWS3703において、普通図柄の停止図柄が当り図柄であるときは（ステップ052IWS3703のY）、CPU103は、高ベースフラグがセットされているか否かを判定し（ステップ052IWS3704）、セットされている場合、すなわち、第1KT状態である場合には、普通電動役物開放前時間として0.1秒を普通図柄プロセスタイマにセットする（ステップ052IWS3706）。また、高ベースフラグがセットされていない場合、すなわち、通常状態または第2KT状態である場合には、普通電動役物開放前時間として2.6秒を普通図柄プロセスタイマにセットする（ステップ052IWS3705）。

【0643】

次いで、CPU103は、特図プロセスフラグの値を、普通電動役物開放前処理（ステップ052IWS5103）に対応した値（具体的には「3」）に更新する（ステップ052IWS3707）

【0644】

（普通電動役物開放前処理）

図10-33は、普通電動役物開放前処理（ステップ052IWS5103）を示すフローチャートである。普通電動役物開放前処理において、CPU103は、普通図柄プロセスタイマの値を-1する（ステップ052IWS3801）。そして、CPU103は、普通図柄プロセスタイマの値が0になったかどうか、すなわち、普通図柄プロセスタイマがタイムアウトしたかどうかを確認する（ステップ052IWS3802）。普通図柄プロセスタイマがタイムアウトしていなければ（ステップ052IWS3802のN）、そのまま処理を終了する。

【0645】

普通図柄プロセスタイマがタイムアウトしたとき、すなわち、普通電動役物開放前時間が経過したときは（ステップ052IWS3802のY）、CPU103は、高ベースフラグがセットされているか否かを判定し（ステップ052IWS3803）、セットされている場合、すなわち、第1KT状態である場合には、普通電動役物開放時間として5.5秒を普通図柄プロセスタイマにセットする（ステップ052IWS3805）。また、高ベースフラグがセットされていない場合、すなわち、通常状態または第2KT状態である場合には、普通電動役物開放時間として0.2秒を普通図柄プロセスタイマにセットする（ステップ052IWS3804）。

【0646】

このように、本特徴部052IWでは、第1KT状態では普通電動役物開放時間として5.5秒をセットするとともに、通常状態または第2KT状態では普通電動役物開放時間として0.2秒をセットすることにより、第1KT状態は通常状態または第2KT状態よりも第2始動入賞口に始動入賞しやすい状態としている。したがって、第1KT状態は通常状態または第2KT状態よりも、可変入賞球装置6Bの下流に設けられている特殊可変入賞球装置17に遊技球が達しにくく構成されている。

【0647】

なお、遊技状態が第1KT状態である場合に第2始動入賞口に始動入賞しやすくなるようにする制御の仕方は、この特徴部052IWで示したものにかぎられない。例えば、第1KT状態である場合には、通常状態または第2KT状態である場合と比較して、可変入賞球装置6Bを多くの回数開放する（例えば、通常状態または第2KT状態では可変入賞球装置6Bの開放回数として1回をセットするのに対して、第1KT状態では可変入賞球装置6Bの開放回数として2回をセットする）ように制御してもよい。そのようにすれば、第1KT状態である場合には、可変入賞球装置6Bの開放回数を多くすることによって、第2始動入賞口に始動入賞しやすくなることができる。

【0648】

また、例えば、第1KT状態である場合には、通常状態または第2KT状態である場合と比較して、上記に示した可変入賞球装置6Bの開放時間を長くする制御と、可変入賞球装置6Bの開放回数を多くする制御とを組み合わせ実行してもよい。

【0649】

次いで、CPU103は、可変入賞球装置6Bを開放状態に制御する（ステップ052IWS3806）。具体的には、ソレノイド81を駆動して可変入賞球装置6Bを開状態にする。

【0650】

そして、CPU103は、特図プロセスフラグの値を、普通電動役物作動処理（ステップ052IWS5104）に対応した値（具体的には「4」）に更新する（ステップ052IWS3807）。

【0651】

（コマンド解析処理）

次に、演出制御手段の動作について説明する。図10-34～図10-37は、コマンド解析処理（ステップS75）の具体例を示すフローチャートである。主基板11から受信された演出制御コマンドは受信コマンドバッファに格納されるが、コマンド解析処理では、演出制御用CPU120は、コマンド受信バッファに格納されているコマンドの内容

10

20

30

40

50

を確認する。

【0652】

コマンド解析処理において、演出制御用CPU120は、まず、コマンド受信バッファに受信コマンドが格納されているか否か確認する（ステップ052IWS611）。格納されているか否かは、コマンド受信個数カウンタの値と読出ポインタとを比較することによって判定される。両者が一致している場合が、受信コマンドが格納されていない場合である。コマンド受信バッファに受信コマンドが格納されている場合には、演出制御用CPU120は、コマンド受信バッファから受信コマンドを読み出す（ステップ052IWS612）。なお、読み出したら読出ポインタの値を+2しておく（ステップ052IWS613）。+2するのは2バイト（1コマンド）ずつ読み出すからである。

10

【0653】

受信した演出制御コマンドが設定値コマンドであれば（ステップ052IWS614）、演出制御用CPU0120は、受信した設定値コマンドで示される設定値を、RAM122に形成されている設定値格納領域に格納する（ステップ052IWS615）。

【0654】

受信した演出制御コマンドが変動パターンコマンドであれば（ステップ052IWS616）、演出制御用CPU120は、受信した変動パターンコマンドを、RAM122に形成されている変動パターンコマンド格納領域に格納する（ステップ052IWS617）。そして、変動パターンコマンド受信フラグをセットする（ステップ052IWS618）。

20

【0655】

受信した演出制御コマンドが表示結果指定コマンドであれば（ステップ052IWS619）、演出制御用CPU120は、受信した表示結果指定コマンドを、RAM122に形成されている表示結果指定コマンド格納領域に格納する（ステップ052IWS620）。

【0656】

受信した演出制御コマンドがいずれかの図柄確定指定コマンド（第1図柄確定指定コマンド、第2図柄確定指定コマンド、第1強制図柄確定指定コマンド、第2強制図柄確定指定コマンド）であれば（ステップ052IWS621）、演出制御用CPU120は、受信した図柄確定指定コマンドに応じた確定コマンド受信フラグをセットする（ステップ052IWS622）。例えば、第1図柄確定指定コマンドを受信した場合には、第1確定コマンド受信フラグをセットする。また、例えば、第2図柄確定指定コマンドを受信した場合には、第2確定コマンド受信フラグをセットする。また、例えば、第1強制図柄確定指定コマンドを受信した場合には、第1強制確定コマンド受信フラグをセットする。また、例えば、第2強制図柄確定指定コマンドを受信した場合には、第2強制確定コマンド受信フラグをセットする。

30

【0657】

受信した演出制御コマンドが大当たり開始指定コマンドであれば（ステップ052IWS623）、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の表示画面において右打ち表示の表示を開始する制御を行う（ステップ052IWS624）。また、演出制御用CPU120は、大当たり開始指定コマンド受信フラグをセットする（ステップ052IWS625）。

40

【0658】

受信した演出制御コマンドが大当たり終了指定コマンドであれば（ステップ052IWS626）、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の表示画面において右打ち表示の表示を終了する制御を行う（ステップ052IWS627）。また、演出制御用CPU120は、大当たり終了指定コマンド受信フラグをセットする（ステップ052IWS628）。

【0659】

なお、本例では、ステップ052IWS624、S627の処理が実行されることによ

50

って、大当たり遊技中に画像表示装置 5 の表示画面において右打ち表示が表示される。

【0660】

なお、例えば、大当たり遊技中に表示する右打ち表示の表示態様（例えば、表示色）を変化させることによって、現在の設定値を示唆する設定値示唆演出を実行するように構成してもよい。例えば、ステップ052 IWS 624で右打ち表示を開始するときに、通常は白色の表示色の右打ち表示を開始するのに対して、設定値示唆演出の実行を決定した場合には、設定値「1」である場合には比較的高い割合で青色の表示色の右打ち表示を開始したり、設定値「2」である場合には比較的高い割合で緑色の表示色の右打ち表示を開始したり、設定値「3」である場合には比較的高い割合で黄色の表示色の右打ち表示を開始したり、設定値「4」である場合には比較的高い割合で橙色の表示色の右打ち表示を開始したり、設定値「5」である場合には比較的高い割合で赤色の表示色の右打ち表示を開始したり、設定値「6」である場合には比較的高い割合で虹色の表示色の右打ち表示を開始したりしてもよい。

10

【0661】

また、例えば、大当たり遊技終了後のKT状態中も右打ち表示を継続して実行するように構成し、大当たり遊技終了のタイミングで右打ち表示の表示態様（例えば、表示色）を変化させて設定値示唆演出を実行するように構成してもよい。

【0662】

また、例えば、低確率／第1KT状態において50回の変動表示を終了して通常状態（低確率／低ベース状態）に移行するときに、左打ち表示を開始するように構成し、その左打ち表示の表示態様（例えば、表示色）を変化させて設定値示唆演出を実行するように構成してもよい。そのように何らかの形式で遊技状態の制御が切り替わるときに、設定値示唆演出を実行可能に構成すればよい。

20

【0663】

受信した演出制御コマンドが小当たり開始指定コマンドであれば（ステップ052 IWS 629）、演出制御用CPU120は、小当たり開始指定コマンド受信フラグをセットする（ステップ052 IWS 630）。

【0664】

受信した演出制御コマンドが小当たり終了指定コマンドであれば（ステップ052 IWS 631）、演出制御用CPU120は、小当たり終了指定コマンド受信フラグをセットする（ステップ052 IWS 632）。

30

【0665】

受信した演出制御コマンドが大入賞口開放中表示コマンドであれば（ステップ052 IWS 633）、演出制御用CPU120は、大当たり遊技のラウンド中に大入賞口に入賞した遊技球の数をカウントするための入賞数カウンタの値をリセット（0にクリア）する（ステップ052 IWS 634）。また、演出制御用CPU120は、大入賞口の開放中であること（大当たり遊技中のラウンド期間であること）を指定する大入賞口開放中フラグをセットする（ステップ052 IWS 635）。

【0666】

なお、本例では、ステップ052 IWS 634の処理が実行されることによって、大入賞口開放中表示コマンドを受信するタイミング（ラウンドを開始するタイミング）で入賞数カウンタの値が0にクリアされるので、極まれにラウンド期間終了後のインターバル期間にオーバー入賞を検出した場合にも、入賞数カウンタに値がカウントされる。

40

【0667】

受信した演出制御コマンドが大入賞口開放後表示コマンドであれば（ステップ052 IWS 636）、演出制御用CPU120は、大入賞口の開放後のインターバル期間であることを指定する大入賞口開放後フラグをセットする（ステップ052 IWS 637）。

【0668】

受信した演出制御コマンドが右打ち点灯開始指定コマンドであれば（ステップ052 IWS 638）、演出制御用CPU120は、右打ち報知用LED37の点灯を開始する制

50

御を行う（ステップ052 IWS 639）。

【0669】

受信した演出制御コマンドが右打ち点灯終了指定コマンドであれば（ステップ052 IWS 640）、演出制御用CPU120は、右打ち報知用LED37の点灯を終了する制御を行う（ステップ052 IWS 641）。

【0670】

受信した演出制御コマンドが低確／非KT背景指定コマンドであれば（ステップ052 IWS 642）、演出制御用CPU120は、画像表示装置5における背景画像を低確率／非KT状態に応じた背景画像（例えば、青色の背景画像）で表示する制御を行う（ステップ052 IWS 643）。また、演出制御用CPU120は、セットされていれば、第1KT状態であることを示す第1KT状態フラグをリセットする（ステップ052 IWS 644）。また、演出制御用CPU120は、大当り遊技中および高確率／第2KT状態中に大入賞口および特殊入賞口に入賞したことにもとづいて払い出された賞球数の累積数をカウントするための賞球数カウンタがセットされていれば、その賞球数カウンタの値をリセット（0にクリア）する（ステップ052 IWS 645）。

【0671】

本例では、大当り遊技中（ただし、2R確変大当りや2R通常大当りにもとづく大当り遊技中を除く）に大入賞口に遊技球が入賞したり、高確率／第2KT状態中に特殊入賞口に遊技球が入賞したりした場合に賞球数カウンタの値が累積的に更新されていくのであるが（ステップ052 IWS 660，S667参照）、ステップ052 IWS 645の処理が実行されることによって、遊技状態が低確率／高ベース状態（低確率／第1KT状態）となった後50回の変動表示を終了して低確率／低ベース状態となったときに、賞球数カウンタの値が0にクリアされる。

【0672】

受信した演出制御コマンドが低確／第1KT背景指定コマンドであれば（ステップ052 IWS 646）、演出制御用CPU120は、画像表示装置5における背景画像を低確率／第1KT状態に応じた背景画像（例えば、緑色の背景画像）で表示する制御を行う（ステップ052 IWS 647）。また、演出制御用CPU120は、第1KT状態フラグをセットする（ステップ052 IWS 648）とともに、セットされていれば、高確率状態であることを示す高確率状態フラグや、第2KT状態であることを示す第2KT状態フラグをリセットする（ステップ052 IWS 649）。

【0673】

受信した演出制御コマンドが高確／第1KT背景指定コマンドであれば（ステップ052 IWS 650）、演出制御用CPU120は、画像表示装置5における背景画像を高確率／第1KT状態に応じた背景画像（例えば、黄色の背景画像）で表示する制御を行う（ステップ052 IWS 651）。また、演出制御用CPU120は、高確率状態フラグおよび第1KT状態フラグをセットする（ステップ052 IWS 652）とともに、セットされていれば、第2KT状態フラグをリセットする（ステップ052 IWS 653）。

【0674】

受信した演出制御コマンドが高確／第2KT背景指定コマンドであれば（ステップ052 IWS 654）、演出制御用CPU120は、画像表示装置5における背景画像を高確率／第2KT状態に応じた背景画像（例えば、赤色の背景画像）で表示する制御を行う（ステップ052 IWS 655）。また、演出制御用CPU120は、高確率状態フラグおよび第2KT状態フラグをセットする（ステップ052 IWS 656）とともに、セットされていれば、第1KT状態フラグをリセットする（ステップ052 IWS 657）。

【0675】

受信した演出制御コマンドが大入賞口入賞指定コマンドであれば（ステップ052 IWS 658）、演出制御用CPU120は、10R確変大当り、6R確変大当り、または6R通常大当りにもとづく大当り遊技中であるか否かを確認する（ステップ052 IWS 659）。なお、10R確変大当り、6R確変大当り、または6R通常大当りにもとづく大

10

20

30

40

50

当り遊技中であるか否かは、例えば、演出制御プロセスフラグの値が大当り中演出処理（ステップS176）～エンディング演出処理（ステップS177）を示す値となっているか否かを確認するとともに、表示結果指定コマンド格納領域に格納されている表示結果指定コマンドが表示結果2指定コマンド～表示結果4指定コマンドであるか否かを確認することにより判定できる。

【0676】

10R確変大当り、6R確変大当り、または6R通常大当りにもとづく大当り遊技中であれば、演出制御用CPU120は、賞球数カウンタの値に15を加算する（ステップ052IWS660）。また、演出制御用CPU120は、加算後の賞球数カウンタの値にもとづいて、画像表示装置5に表示されている賞球数表示を更新する（ステップ052IWS661）。なお、賞球数表示は、大当り遊技中および高確率／第2KT状態中に大入賞口および特殊入賞口に入賞したことにもとづいて払い出された賞球数の累積数の表示である。

10

【0677】

ステップ052IWS658～S661の処理が実行されることによって、本例では、10R確変大当り、6R確変大当り、または6R通常大当りにもとづく大当り遊技中に大入賞口への入賞が発生したことにもとづいて賞球数カウンタの値および賞球数表示が更新される。一方で、大当り遊技中であっても、2R確変大当りまたは2R通常大当りにもとづく大当り遊技中に大入賞口への入賞が発生した場合には、賞球数カウンタの値は更新されず、賞球数表示も更新されない。

20

【0678】

次いで、演出制御用CPU120は、オーバー入賞時示唆演出の決定および実行を行うためのオーバー入賞時示唆演出処理を実行する（ステップ052IWS662）。なお、「オーバー入賞時示唆演出」は、大入賞口へのオーバー入賞が発生したタイミングで実行され、現在設定されている設定値を示唆する演出である。

【0679】

次いで、演出制御用CPU120は、賞球数表示示唆演出の決定および実行を行うための賞球数表示示唆演出処理を実行する（ステップ052IWS663）。なお、「賞球数表示示唆演出」は、大当り遊技中や高確率／第2KT状態中に大入賞口や特殊入賞口に入賞したことにもとづいて払い出された賞球数の累積数が所定数（本例では、456個、555個、666個、2456個、2555個、2666個）に達したタイミングで実行され、現在設定されている設定値を示唆する演出である。

30

【0680】

次いで、演出制御用CPU120は、賞球数強調演出の決定および実行を行うための賞球数強調演出処理を実行する（ステップ052IWS664）。なお、「賞球数強調演出」は、大当り遊技中や高確率／第2KT状態中に大入賞口や特殊入賞口に入賞したことにもとづいて払い出された賞球数の累積数が所定数（本例では、1000個、2000個、3000個、4000個、5000個）に達したことを強調表示する演出である。

【0681】

受信した演出制御コマンドが特殊入賞口入賞指定コマンドであれば（ステップ052IWS665）、演出制御用CPU120は、第2KT状態フラグがセットされているか否かを確認する（ステップ052IWS666）。第2KT状態フラグがセットされていれば（すなわち、高確率／第2KT状態中であれば）、演出制御用CPU120は、賞球数カウンタの値に10を加算する（ステップ052IWS667）。また、演出制御用CPU120は、加算後の賞球数カウンタの値にもとづいて、画像表示装置5に表示されている賞球数表示を更新する（ステップ052IWS668）。

40

【0682】

ステップ052IWS665～S668の処理が実行されることによって、本例では、高確率／第2KT状態中に小当たりとなり特殊入賞口への入賞が発生したことにもとづいて賞球数カウンタの値および賞球数表示が更新される。一方で、KT状態中であっても、高

50

確率／第1KT状態中や低確率／第1KT状態中に特殊入賞への入賞が発生した場合には、賞球数カウンタの値は更新されず、賞球数表示も更新されない（ただし、賞球数カウンタの値の更新が行われないだけで、賞球数カウンタの値のリセットまでは行われない）。

【0683】

次いで、演出制御用CPU120は、小当り入賞時示唆演出の決定および実行を行うための小当り入賞時示唆演出処理を実行する（ステップ052IWS669）。なお、「小当り入賞時示唆演出」は、高確率／第2KT状態中に小当りとなり特殊入賞口への入賞が発生したタイミングで実行され、現在設定されている設定値を示唆する演出である。

【0684】

次いで、演出制御用CPU120は、ステップ052IWS663に移行し、賞球数表示示唆演出処理を実行する（ステップ052IWS663）。次いで、演出制御用CPU120は、賞球数強調演出処理を実行する（ステップ052IWS664）。

【0685】

受信した演出制御コマンドがその他のコマンドであれば、演出制御用CPU120は、受信した演出制御コマンドを記憶したり、受信した演出制御コマンドに応じたフラグをセットしたりする処理を実行する（ステップ052IWS670）。そして、ステップ052IWS611に移行する。

【0686】

（オーバー入賞時示唆演出処理）

図10-38は、オーバー入賞時示唆演出処理（ステップ052IWS662）を示すフローチャートである。オーバー入賞時示唆演出処理において、演出制御用CPU120は、まず、入賞数カウンタの値に1を加算する（ステップ052IWS301）。次いで、演出制御用CPU120は、加算後の入賞数カウンタの値が11以上となっているか否かを確認する（ステップ052IWS302）。入賞数カウンタの値が11以上となっていれば（すなわち、大入賞口へのオーバー入賞が発生していれば）、演出制御用CPU120は、オーバー入賞時示唆演出の有無および種類を決定するためのオーバー入賞時示唆演出決定テーブルを用いて、乱数にもとづく抽選処理を行い、オーバー入賞時示唆演出の有無および種類を決定する（ステップ052IWS303）。

【0687】

図10-39は、オーバー入賞時示唆演出決定テーブルの具体例を示す説明図である。図10-39に示すように、オーバー入賞時示唆演出決定テーブルには、オーバー入賞時示唆演出なし、オーバー入賞時示唆演出A、オーバー入賞時示唆演出B、オーバー入賞時示唆演出C、オーバー入賞時示唆演出D、オーバー入賞時示唆演出E、およびオーバー入賞時示唆演出Fに対して、それぞれ判定値が割り振られている。

【0688】

図10-39に示すように、本例では、大入賞口に遊技球が入賞したときには、画像表示装置5において通常の表示色（本例では、白色）で入賞表示（本例では、「+15」の文字表示）が表示されるとともに、スピーカ8L、8Rから通常音の入賞音が出力される。

【0689】

これに対して、図10-39に示すように、「オーバー入賞時示唆演出A」が実行される場合には、画像表示装置5において青色の表示色で入賞表示が表示されるとともに、スピーカ8L、8Rから通常音とは異なる音Aの入賞音出力される。また、「オーバー入賞時示唆演出B」が実行される場合には、画像表示装置5において緑色の表示色で入賞表示が表示されるとともに、スピーカ8L、8Rから通常音とは異なる音Bの入賞音出力される。また、「オーバー入賞時示唆演出C」が実行される場合には、画像表示装置5において黄色の表示色で入賞表示が表示されるとともに、スピーカ8L、8Rから通常音とは異なる音Cの入賞音出力される。また、「オーバー入賞時示唆演出D」が実行される場合には、画像表示装置5において橙色の表示色で入賞表示が表示されるとともに、スピーカ8L、8Rから通常音とは異なる音Dの入賞音出力される。また、「オーバー入賞時示唆演出E」が実行される場合には、画像表示装置5において赤色の表示色で入賞表示

10

20

30

40

50

が表示されるとともに、スピーカ 8 L, 8 R から通常音とは異なる音 E の入賞音出力される。また、「オーバー入賞時示唆演出 F」が実行される場合には、画像表示装置 5 において虹色の表示色で入賞表示が表示されるとともに、スピーカ 8 L, 8 R から通常音とは異なる音 F の入賞音出力される。

【0690】

図 10-39 に示すように、オーバー入賞時示唆演出決定テーブルには、現在の設定値が設定値「1」～「6」のいずれであるかに応じて異なる判定値が割り振られている。ステップ 052 IWS 303 では、演出制御用 CPU 120 は、設定値格納領域（ステップ 052 IWS 615 参照）の記憶内容を確認し、現在の設定値を特定する。そして、特定した設定値に対応した判定値にもとづいてオーバー入賞時示唆演出の有無および種類を決定する。

10

【0691】

図 10-39 に示すように、本例では、設定値「1」である場合には、オーバー入賞時示唆演出 A の実行が決定される割合が比較的高い。また、本例では、設定値「2」である場合には、オーバー入賞時示唆演出 B の実行が決定される割合が比較的高い。また、本例では、設定値「3」である場合には、オーバー入賞時示唆演出 C の実行が決定される割合が比較的高い。また、本例では、設定値「4」である場合には、オーバー入賞時示唆演出 D の実行が決定される割合が比較的高い。また、本例では、設定値「5」である場合には、オーバー入賞時示唆演出 E の実行が決定される割合が比較的高い。また、本例では、設定値「6」である場合には、オーバー入賞時示唆演出 F の実行が決定される割合が比較的高い。

20

【0692】

また、図 10-39 に示すように、本例では、設定値「1」である場合には、オーバー入賞時示唆演出 A～F を合計したオーバー入賞時示唆演出の実行を決定する割合は、 $10\% + 8\% + 7\% + 5\% + 5\% + 5\% = 40\%$ であり、設定値「2」である場合には 45% であり、設定値「3」である場合には 50% であり、設定値「4」である場合には 55% であり、設定値「5」である場合には 60% であり、設定値「6」である場合には 65% である。このように、本例では、オーバー入賞は比較的に稀にしか発生しないことから、後述する小当り入賞時示唆演出と比較すると、オーバー入賞時示唆演出の実行を決定する割合が比較的高くなっている。

30

【0693】

次いで、演出制御用 CPU 120 は、ステップ 052 IWS 303 でオーバー入賞時示唆演出の実行を決定したか否かを確認する（ステップ 052 IWS 304）。オーバー入賞時示唆演出の実行を決定していれば、演出制御用 CPU 120 は、画像表示装置 5 において、決定したオーバー入賞時示唆演出の種類に応じた入賞表示を表示する制御を行う（ステップ 052 IWS 305）。例えば、オーバー入賞時示唆演出 A の実行を決定した場合であれば、画像表示装置 5 において青色の表示色で入賞表示を表示する制御を行う。また、演出制御用 CPU 120 は、スピーカ 8 L, 8 R から、決定したオーバー入賞時示唆演出の種類に応じた入賞音を出力する制御を行う（ステップ 052 IWS 306）。例えば、オーバー入賞時示唆演出 A の実行を決定した場合であれば、スピーカ 8 L, 8 R から音 A の入賞音を出力する制御を行う。

40

【0694】

一方、入賞数カウンタの値が 10 以下である場合（ステップ 052 IWS 302 の N）、またはオーバー入賞時示唆演出なしと決定した場合（ステップ 052 IWS 304 の N）には、演出制御用 CPU 120 は、画像表示装置 5 において、通常の表示色（本例では、白色）で入賞表示を表示する制御を行う（ステップ 052 IWS 307）。また、演出制御用 CPU 120 は、スピーカ 8 L, 8 R から、通常音の入賞音を出力する制御を行う（ステップ 052 IWS 308）。

【0695】

（小当り入賞時示唆演出処理）

50

図10-40は、小当り入賞時示唆演出処理（ステップ052 IWS 669）を示すフローチャートである。小当り入賞時示唆演出処理において、演出制御用CPU120は、まず、小当り入賞時示唆演出の有無および種類を決定するための小当り入賞時示唆演出決定テーブルを用いて、乱数にもとづく抽選処理を行い、小当り入賞時示唆演出の有無および種類を決定する（ステップ052 IWS 321）。

【0696】

図10-41は、小当り入賞時示唆演出決定テーブルの具体例を示す説明図である。図10-41に示すように、小当り入賞時示唆演出決定テーブルには、小当り入賞時示唆演出なし、小当り入賞時示唆演出A、小当り入賞時示唆演出B、小当り入賞時示唆演出C、小当り入賞時示唆演出D、小当り入賞時示唆演出E、および小当り入賞時示唆演出Fに対して、それぞれ判定値が割り振られている。

【0697】

図10-41に示すように、本例では、特殊入賞口に遊技球が入賞したときには、画像表示装置5において通常の表示色（本例では、白色）で入賞表示（本例では、「+10」の文字表示）が表示されるとともに、スピーカ8L、8Rから通常音の入賞音が出力される。

【0698】

これに対して、図10-41に示すように、「小当り入賞時示唆演出A」が実行される場合には、画像表示装置5において青色の表示色で入賞表示が表示されるとともに、スピーカ8L、8Rから通常音とは異なる音Aの入賞音出力される。また、「小当り入賞時示唆演出B」が実行される場合には、画像表示装置5において緑色の表示色で入賞表示が表示されるとともに、スピーカ8L、8Rから通常音とは異なる音Bの入賞音出力される。また、「小当り入賞時示唆演出C」が実行される場合には、画像表示装置5において黄色の表示色で入賞表示が表示されるとともに、スピーカ8L、8Rから通常音とは異なる音Cの入賞音出力される。また、「小当り入賞時示唆演出D」が実行される場合には、画像表示装置5において橙色の表示色で入賞表示が表示されるとともに、スピーカ8L、8Rから通常音とは異なる音Dの入賞音出力される。また、「小当り入賞時示唆演出E」が実行される場合には、画像表示装置5において赤色の表示色で入賞表示が表示されるとともに、スピーカ8L、8Rから通常音とは異なる音Eの入賞音出力される。また、「小当り入賞時示唆演出F」が実行される場合には、画像表示装置5において虹色の表示色で入賞表示が表示されるとともに、スピーカ8L、8Rから通常音とは異なる音Fの入賞音出力される。

【0699】

図10-41に示すように、小当り入賞時示唆演出決定テーブルには、現在の設定値が設定値「1」～「6」のいずれであるかに応じて異なる判定値が割り振られている。ステップ052 IWS 321では、演出制御用CPU120は、設定値格納領域（ステップ052 IWS 615参照）の記憶内容を確認し、現在の設定値を特定する。そして、特定した設定値に対応した判定値にもとづいて小当り入賞時示唆演出の有無および種類を決定する。

【0700】

図10-41に示すように、本例では、設定値「1」である場合には、小当り入賞時示唆演出Aの実行が決定される割合が比較的高い。また、本例では、設定値「2」である場合には、小当り入賞時示唆演出Bの実行が決定される割合が比較的高い。また、本例では、設定値「3」である場合には、小当り入賞時示唆演出Cの実行が決定される割合が比較的高い。また、本例では、設定値「4」である場合には、小当り入賞時示唆演出Dの実行が決定される割合が比較的高い。また、本例では、設定値「5」である場合には、小当り入賞時示唆演出Eの実行が決定される割合が比較的高い。また、本例では、設定値「6」である場合には、小当り入賞時示唆演出Fの実行が決定される割合が比較的高い。

【0701】

また、図10-41に示すように、本例では、設定値「1」である場合には、小当り入

10

20

30

40

50

賞時示唆演出 A～F を合計した小当り入賞時示唆演出の実行を決定する割合は、 $2\% + 1\% + 1\% + 1\% = 5\%$ であり、設定値「2」である場合には 6% であり、設定値「3」である場合には 7% であり、設定値「4」である場合には 8% であり、設定値「5」である場合には 9% であり、設定値「6」である場合には 10% である。このように、本例では、既に説明したオーバー入賞時示唆演出と比較すると、小当り入賞時示唆演出の実行を決定する割合が比較的低くなっている。

【0702】

次いで、演出制御用 CPU 120 は、ステップ 052 IWS 321 で小当り入賞時示唆演出の実行を決定したか否かを確認する（ステップ 052 IWS 322）。小当り入賞時示唆演出の実行を決定していれば、演出制御用 CPU 120 は、画像表示装置 5 において、決定した小当り入賞時示唆演出の種類に応じた入賞表示を表示する制御を行う（ステップ 052 IWS 323）。例えば、小当り入賞時示唆演出 A の実行を決定した場合であれば、画像表示装置 5 において青色の表示色で入賞表示を表示する制御を行う。また、演出制御用 CPU 120 は、スピーカ 8L, 8R から、決定した小当り入賞時示唆演出の種類に応じた入賞音を出力する制御を行う（ステップ 052 IWS 324）。例えば、小当り入賞時示唆演出 A の実行を決定した場合であれば、スピーカ 8L, 8R から音 A の入賞音を出力する制御を行う。

【0703】

一方、小当り入賞時示唆演出なしと決定した場合（ステップ 052 IWS 322 の N）には、演出制御用 CPU 120 は、画像表示装置 5 において、通常の色（本例では、白色）で入賞表示を表示する制御を行う（ステップ 052 IWS 325）。また、演出制御用 CPU 120 は、スピーカ 8L, 8R から、通常音の入賞音を出力する制御を行う（ステップ 052 IWS 326）。

【0704】

なお、オーバー入賞時示唆演出を実行する場合と小当り入賞時示唆演出を実行する場合とで、設定値示唆の信頼度を異ならせてもよい。例えば、オーバー入賞時示唆演出 F は設定値「1」～「6」のいずれでも実行可能であるものの設定値「6」であるときに比較的高い割合で実行されるのに対して、小当り入賞時示唆演出 F が実行されれば設定値「6」であることが確定するように構成してもよい。また、逆に、例えば、小当り入賞時示唆演出 F は設定値「1」～「6」のいずれでも実行可能であるものの設定値「6」であるときに比較的高い割合で実行されるのに対して、オーバー入賞時示唆演出 F が実行されれば設定値「6」であることが確定するように構成してもよい。

【0705】

また、本例では、オーバー入賞時示唆演出および小当り入賞時示唆演出は、入賞表示の表示態様（本例では、表示色）を通常とは異ならせるとともに、通常とは異なる入賞音を出力する態様により実行する場合を示したが、そのような態様にかぎられない。例えば、入賞表示の表示態様（本例では、表示色）と入賞音とのいずれか一方のみを通常とは異なる態様とすることにより、オーバー入賞時示唆演出や小当り入賞時示唆演出を実行するように構成してもよい。また、例えば、オーバー入賞の発生や特殊入賞口への入賞の発生のタイミングでエフェクト表示を表示したり、ランプや LED の表示色を変化させたりする態様により、オーバー入賞時示唆演出や小当り入賞時示唆演出を実行するように構成してもよい。

【0706】

（賞球数表示示唆演出処理）

図 10-42 は、賞球数表示示唆演出処理（ステップ 052 IWS 663）を示すフローチャートである。賞球数表示示唆演出処理において、演出制御用 CPU 120 は、まず、賞球数カウンタの値が 456 に最初に到達したか否かを確認する（ステップ 052 IWS 341）。本例では、大当り遊技中に大入賞口に遊技球が入賞すれば 15 個の賞球が得られ、賞球数カウンタの値が 15 ずつ加算されていくことから、ステップ 052 IWS 341 では、演出制御用 CPU 120 は、賞球数カウンタの値が 465 となっていれば、賞

10

20

30

40

50

球数カウンタの値が456に最初に到達したと判定する。

【0707】

賞球数カウンタの値が456に最初に到達していれば、演出制御用CPU120は、現在の設定値が設定値「4」以上であるか否かを確認する（ステップ052IWS342）。なお、現在の設定値が設定値「4」以上であるか否かは、具体的には、設定値格納領域（ステップ052IWS615参照）の記憶内容を確認することにより判定できる。現在の設定値が設定値「4」以上であれば、演出制御用CPU120は、賞球数表示唆演出の有無を決定するための賞球数表示唆演出決定テーブルを用いて、乱数にもとづく抽選処理を行い、賞球数表示唆演出Aの有無を決定する（ステップ052IWS343）。そして、ステップ052IWS359に移行する。

10

【0708】

図10-43は、賞球数表示唆演出決定テーブルの具体例を示す説明図である。図10-43に示すように、本例では、賞球数表示唆演出Aが実行される場合には、画像表示装置5において「456 OVER」などの文字表示が表示され、現在の設定値が設定値「4」以上であることが示唆される。図10-43に示すように、本例では、3%の確率で賞球数表示唆演出Aの実行が決定される。なお、本例では、賞球数表示唆演出Aは設定値が設定値「4」以上であるときにしか実行されないの、賞球数表示唆演出Aが実行されれば、少なくとも設定値「4」以上であることが確定することになる。

【0709】

賞球数カウンタの値が456に最初に到達した場合でなければ（ステップ052IWS341のN）、演出制御用CPU120は、賞球数カウンタの値が555に最初に到達したか否かを確認する（ステップ052IWS344）。本例では、大当たり遊技中に大入賞口に遊技球が入賞すれば15個の賞球が得られ、賞球数カウンタの値が15ずつ加算されていくことから、ステップ052IWS344では、演出制御用CPU120は、賞球数カウンタの値が555となっていれば、賞球数カウンタの値が555に最初に到達したと判定する。

20

【0710】

賞球数カウンタの値が555に最初に到達していれば、演出制御用CPU120は、現在の設定値が設定値「5」以上であるか否かを確認する（ステップ052IWS345）。なお、現在の設定値が設定値「5」以上であるか否かは、具体的には、設定値格納領域（ステップ052IWS615参照）の記憶内容を確認することにより判定できる。現在の設定値が設定値「5」以上であれば、演出制御用CPU120は、賞球数表示唆演出決定テーブルを用いて、乱数にもとづく抽選処理を行い、賞球数表示唆演出Bの有無を決定する（ステップ052IWS346）。そして、ステップ052IWS359に移行する。

30

【0711】

図10-43に示すように、本例では、賞球数表示唆演出Bが実行される場合には、画像表示装置5において「555 OVER」などの文字表示が表示され、現在の設定値が設定値「5」以上であることが示唆される。図10-43に示すように、本例では、2%の確率で賞球数表示唆演出Bの実行が決定される。なお、本例では、賞球数表示唆演出Bは設定値が設定値「5」以上であるときにしか実行されないの、賞球数表示唆演出Bが実行されれば、少なくとも設定値「5」以上であることが確定することになる。

40

【0712】

賞球数カウンタの値が555に最初に到達した場合でなければ（ステップ052IWS344のN）、演出制御用CPU120は、賞球数カウンタの値が666に最初に到達したか否かを確認する（ステップ052IWS347）。本例では、大当たり遊技中に大入賞口に遊技球が入賞すれば15個の賞球が得られ、賞球数カウンタの値が15ずつ加算されていくことから、ステップ052IWS347では、演出制御用CPU120は、賞球数カウンタの値が675となっていれば、賞球数カウンタの値が666に最初に到達したと判定する。

50

【0713】

賞球数カウンタの値が666に最初に到達していれば、演出制御用CPU120は、現在の設定値が設定値「6」であるか否かを確認する（ステップ052 IWS348）。なお、現在の設定値が設定値「6」であるか否かは、具体的には、設定値格納領域（ステップ052 IWS615参照）の記憶内容を確認することにより判定できる。現在の設定値が設定値「6」であれば、演出制御用CPU120は、賞球数表示唆演出決定テーブルを用いて、乱数にもとづく抽選処理を行い、賞球数表示唆演出Cの有無を決定する（ステップ052 IWS349）。そして、ステップ052 IWS359に移行する。

【0714】

図10-43に示すように、本例では、賞球数表示唆演出Cが実行される場合には、画像表示装置5において「666 OVER」などの文字表示が表示され、現在の設定値が設定値「6」であることが示唆される。図10-43に示すように、本例では、1%の確率で賞球数表示唆演出Cの実行が決定される。なお、本例では、賞球数表示唆演出Cは設定値が設定値「6」であるときにしか実行されないの、賞球数表示唆演出Cが実行されれば、設定値「6」であることが確定することになる。

【0715】

賞球数カウンタの値が666に最初に到達した場合でなければ（ステップ052 IWS347のN）、演出制御用CPU120は、賞球数カウンタの値が2456に最初に到達したか否かを確認する（ステップ052 IWS350）。本例では、大当り遊技中に大入賞口に遊技球が入賞すれば15個の賞球が得られ、高確率／第2KT状態中に特殊入賞口に遊技球が入賞すれば10個の賞球が得られ、賞球数カウンタの値が15または10ずつ加算されていくことから、ステップ052 IWS350では、演出制御用CPU120は、賞球数カウンタの値が2460または2465となっていれば、賞球数カウンタの値が2456に最初に到達したと判定する。

【0716】

賞球数カウンタの値が2456に最初に到達していれば、演出制御用CPU120は、現在の設定値が設定値「4」以上であるか否かを確認する（ステップ052 IWS351）。なお、現在の設定値が設定値「4」以上であるか否かは、具体的には、設定値格納領域（ステップ052 IWS615参照）の記憶内容を確認することにより判定できる。現在の設定値が設定値「4」以上であれば、演出制御用CPU120は、賞球数表示唆演出決定テーブルを用いて、乱数にもとづく抽選処理を行い、賞球数表示唆演出Dの有無を決定する（ステップ052 IWS352）。そして、ステップ052 IWS359に移行する。

【0717】

図10-43に示すように、本例では、賞球数表示唆演出Dが実行される場合には、画像表示装置5において「2456 OVER」などの文字表示が表示され、現在の設定値が設定値「4」以上であることが示唆される。図10-43に示すように、本例では、5%の確率で賞球数表示唆演出Dの実行が決定される。なお、本例では、賞球数表示唆演出Dは設定値が設定値「4」以上であるときにしか実行されないの、賞球数表示唆演出Dが実行されれば、設定値「4」以上であることが確定することになる。

【0718】

賞球数カウンタの値が2456に最初に到達した場合でなければ（ステップ052 IWS350のN）、演出制御用CPU120は、賞球数カウンタの値が2555に最初に到達したか否かを確認する（ステップ052 IWS353）。本例では、大当り遊技中に大入賞口に遊技球が入賞すれば15個の賞球が得られ、高確率／第2KT状態中に特殊入賞口に遊技球が入賞すれば10個の賞球が得られ、賞球数カウンタの値が15または10ずつ加算されていくことから、ステップ052 IWS353では、演出制御用CPU120は、賞球数カウンタの値が2555または2560となっていれば、賞球数カウンタの値が2555に最初に到達したと判定する。

【0719】

賞球数カウンタの値が2555に最初に到達していれば、演出制御用CPU120は、現在の設定値が設定値「5」以上であるか否かを確認する（ステップ052IWS354）。なお、現在の設定値が設定値「5」以上であるか否かは、具体的には、設定値格納領域（ステップ052IWS615参照）の記憶内容を確認することにより判定できる。現在の設定値が設定値「5」以上であれば、演出制御用CPU120は、賞球数表示示唆演出決定テーブルを用いて、乱数にもとづく抽選処理を行い、賞球数表示示唆演出Eの有無を決定する（ステップ052IWS355）。そして、ステップ052IWS359に移行する。

【0720】

図10-43に示すように、本例では、賞球数表示示唆演出Eが実行される場合には、画像表示装置5において「2555 OVER」などの文字表示が表示され、現在の設定値が設定値「5」以上であることが示唆される。図10-43に示すように、本例では、3%の確率で賞球数表示示唆演出Eの実行が決定される。なお、本例では、賞球数表示示唆演出Eは設定値が設定値「5」以上であるときにしか実行されないの、賞球数表示示唆演出Eが実行されれば、設定値「5」以上であることが確定することになる。

【0721】

賞球数カウンタの値が2555に最初に到達した場合でなければ（ステップ052IWS353のN）、演出制御用CPU120は、賞球数カウンタの値が2666に最初に到達したか否かを確認する（ステップ052IWS356）。本例では、大当たり遊技中に大入賞口に遊技球が入賞すれば15個の賞球が得られ、高確率／第2KT状態中に特殊入賞口に遊技球が入賞すれば10個の賞球が得られ、賞球数カウンタの値が15または10ずつ加算されていくことから、ステップ052IWS356では、演出制御用CPU120は、賞球数カウンタの値が2670または2675となっていれば、賞球数カウンタの値が2666に最初に到達したと判定する。

【0722】

賞球数カウンタの値が2666に最初に到達していれば、演出制御用CPU120は、現在の設定値が設定値「6」であるか否かを確認する（ステップ052IWS357）。なお、現在の設定値が設定値「6」であるか否かは、具体的には、設定値格納領域（ステップ052IWS615参照）の記憶内容を確認することにより判定できる。現在の設定値が設定値「6」であれば、演出制御用CPU120は、賞球数表示示唆演出決定テーブルを用いて、乱数にもとづく抽選処理を行い、賞球数表示示唆演出Fの有無を決定する（ステップ052IWS358）。そして、ステップ052IWS359に移行する。

【0723】

図10-43に示すように、本例では、賞球数表示示唆演出Fが実行される場合には、画像表示装置5において「2666 OVER」などの文字表示が表示され、現在の設定値が設定値「6」であることが示唆される。図10-43に示すように、本例では、2%の確率で賞球数表示示唆演出Fの実行が決定される。なお、本例では、賞球数表示示唆演出Fは設定値が設定値「6」であるときにしか実行されないの、賞球数表示示唆演出Fが実行されれば、設定値「6」であることが確定することになる。

【0724】

次いで、演出制御用CPU120は、ステップ052IWS343，S346，S349，S352，S355，S358で賞球数表示示唆演出の実行を決定したか否かを確認する（ステップ052IWS359）。賞球数表示示唆演出の実行を決定していれば、演出制御用CPU120は、画像表示装置5において、決定した種類の賞球数表示示唆演出を実行する制御を行う（ステップ052IWS360）。例えば、賞球数表示示唆演出Aの実行を決定した場合であれば、画像表示装置5において「456 OVER」などの文字表示を表示する制御を行う。

【0725】

なお、本例では、図10-43に示すように、大当たり遊技中の期間に実行される賞球数表示示唆演出A～Cで見ると、大当たり遊技中の期間が長くなり賞球数が増加するに従って

10

20

30

40

50

、賞球数表示示唆演出の実行確率が3%、2%、および1%と低くなっていく一方で、設定値「4」以上確定、設定値「5」以上確定、および設定値「6」確定と設定値の示唆の精度が上昇している。また、本例では、図10-43に示すように、高確率／第2KT状態（小当りRUSH）中の期間に実行される賞球数表示示唆演出D～Fで見ると、小当りRUSH中の期間が長くなり賞球数が増加するに従って、賞球数表示示唆演出の実行確率が5%、3%、および2%と低くなっていく一方で、設定値「4」以上確定、設定値「5」以上確定、および設定値「6」確定と設定値の示唆の精度が上昇している。

【0726】

なお、本例で示した態様にかぎらず、例えば、大当り遊技中の期間や小当りRUSH中の期間が長くなり賞球数が増加するに従って、賞球数表示示唆演出の実行確率が高くなっていくように構成してもよい。また、例えば、大当り遊技中の期間や小当りRUSH中の期間が長くなり賞球数が増加するに従って、設定値の示唆の精度が低くなっていくように構成してもよい。

【0727】

また、本例では、図10-43に示すように、大当り遊技中の期間に実行される賞球数表示示唆演出A～Cと、小当りRUSH中の期間に実行される賞球数表示示唆演出D～Fとで、賞球数表示示唆演出の実行確率が異なる場合を示しているが、そのような態様にかぎらず、同じ実行確率で賞球数表示示唆演出を実行するように構成してもよい。

【0728】

（賞球数強調演出処理）

図10-44は、賞球数強調演出処理（ステップ052IWS664）を示すフローチャートである。賞球数強調演出処理において、演出制御用CPU120は、まず、賞球数カウンタの値が1000毎の閾値（本例では、1000、2000、3000、4000、5000）に最初に到達したか否かを確認する（ステップ052IWS371）。本例では、大当り遊技中に大入賞口に遊技球が入賞すれば15個の賞球が得られ、賞球数カウンタの値が15ずつ加算されていくことから、ステップ052IWS371では、演出制御用CPU120は、例えば、賞球数カウンタの値が1000または1005となっていれば、賞球数カウンタの値が1000に最初に到達したと判定する。また、例えば、賞球数カウンタの値が2000または2005となっていれば、賞球数カウンタの値が2000に最初に到達したと判定する。また、例えば、賞球数カウンタの値が3000または3005となっていれば、賞球数カウンタの値が3000に最初に到達したと判定する。また、例えば、賞球数カウンタの値が4000または4005となっていれば、賞球数カウンタの値が4000に最初に到達したと判定する。また、例えば、賞球数カウンタの値が5000または5005となっていれば、賞球数カウンタの値が5000に最初に到達したと判定する。

【0729】

賞球数カウンタの値が1000毎の閾値に最初に到達していれば、演出制御用CPU120は、賞球数強調演出の有無を決定するための賞球数強調演出決定テーブルを用いて、乱数にもとづく抽選処理を行い、賞球数強調演出の有無を決定する（ステップ052IWS372）。

【0730】

図10-45は、賞球数強調演出決定テーブルの具体例を示す説明図である。図10-45に示すように、本例では、賞球数カウンタの値が1000に到達している場合には、50%の確率で賞球数強調演出Aの実行が決定される。賞球数強調演出Aが実行される場合には、画像表示装置5において「1000 OVER」などの文字表示が表示される。また、本例では、賞球数カウンタの値が2000に到達している場合には、60%の確率で賞球数強調演出Bの実行が決定される。賞球数強調演出Bが実行される場合には、画像表示装置5において「2000 OVER」などの文字表示が表示される。また、本例では、賞球数カウンタの値が3000に到達している場合には、70%の確率で賞球数強調演出Cの実行が決定される。賞球数強調演出Cが実行される場合には、画像表示装置5に

10

20

30

40

50

において「3000 OVER」などの文字表示が表示される。また、本例では、賞球数カウンタの値が4000に到達している場合には、80%の確率で賞球数強調演出Dの実行が決定される。賞球数強調演出Dが実行される場合には、画像表示装置5において「4000 OVER」などの文字表示が表示される。また、本例では、賞球数カウンタの値が5000に到達している場合には、90%の確率で賞球数強調演出Eの実行が決定される。賞球数強調演出Eが実行される場合には、画像表示装置5において「5000 OVER」などの文字表示が表示される。

【0731】

次いで、演出制御用CPU120は、ステップ052 IWS372で賞球数強調演出の実行を決定したか否かを確認する（ステップ052 IWS373）。賞球数強調演出の実行を決定していれば、演出制御用CPU120は、画像表示装置5において、決定した種類の賞球数強調演出を実行する制御を行う（ステップ052 IWS374）。例えば、賞球数強調演出Aの実行を決定した場合であれば、画像表示装置5において「1000 OVER」などの文字表示を表示する制御を行う。

【0732】

なお、本例では、賞球数が1000個、2000個、3000個、4000個、および5000個に到達したときに賞球数強調演出を実行可能に構成する場合を示したが、そのような態様にかぎられない。例えば、必ずしもこれら全ての場合に賞球数強調演出を実行可能とする場合にかぎらず、賞球数が1000個、2000個、および3000個に到達したときに賞球数強調演出を実行可能に構成してもよい。また、例えば、賞球数が6000個や7000個に到達したときにも賞球数強調演出を実行可能に構成したりしてもよく、様々な態様が考えられる。

【0733】

図10-44および図10-45に示すように、賞球数強調演出は、図10-42および図10-43に示した賞球数表示示唆演出とは異なり、現在の設定値とは無関係に決定され実行される演出である。なお、そのような態様にかぎらず、例えば、賞球数強調演出の表示態様を変化させることにより、現在の設定値を示唆する態様で賞球数強調演出を実行可能に構成してもよい。例えば、通常とは異なる表示色で「1000 OVER」や「2000 OVER」などの文字表示を表示させることにより、現在の設定値を示唆可能に構成してもよい。

【0734】

（可変表示開始待ち処理）

図10-46は、可変表示開始待ち処理（ステップS170）を示すフローチャートである。可変表示開始待ち処理において、演出制御用CPU120は、変動パターンコマンドを受信しているか否かを確認する（ステップ052 IWS811）。なお、変動パターンコマンドを受信しているか否かは、例えば、コマンド解析処理（ステップS75）において、変動パターンコマンドを受信した場合に、変動パターンコマンドを受信したことを示す変動パターンコマンド受信フラグをセットするようにし、ステップ052 IWS811では、その変動パターンコマンド受信フラグがセットされているか否かを確認するようにすればよい。

【0735】

変動パターンコマンドを受信していれば、演出制御用CPU120は、第1KT状態フラグまたは第2KT状態フラグがセットされているか否かを確認する（ステップ052 IWS812）。第1KT状態フラグおよび第2KT状態フラグのいずれもセットされていなければ（すなわち、非KT状態であれば）、演出制御用CPU120は、第1特別図柄の変動表示を実行する場合であるか否かを確認する（ステップ052 IWS813）。なお、第1特別図柄の変動表示を実行する場合であるか否かは、例えば、受信した変動パターンコマンドで示される変動パターンが第1変動パターン#01～#09を指定するものであるか否かを確認することにより判定できる。第1特別図柄の変動表示を実行する場合でなければ（すなわち、第2特別図柄の変動表示を実行する場合であれば）、そのまま処

10

20

30

40

50

理を終了する。第1特別図柄の変動表示を実行する場合であれば、演出制御用CPU120は、演出制御プロセスフラグの値を可変表示開始設定処理（ステップS171）に対応した値に更新する（ステップ052IWS815）。

【0736】

第1KT状態フラグまたは第2KT状態フラグがセットされていなければ（すなわち、KT状態であれば）、演出制御用CPU120は、第2特別図柄の変動表示を実行する場合であるか否かを確認する（ステップ052IWS814）。なお、第2特別図柄の変動表示を実行する場合であるか否かは、例えば、受信した変動パターンコマンドで示される変動パターンが第2変動パターン#01～#34を指定するものであるか否かを確認することにより判定できる。第2特別図柄の変動表示を実行する場合でなければ（すなわち、第1特別図柄の変動表示を実行する場合であれば）、そのまま処理を終了する。第2特別図柄の変動表示を実行する場合であれば、演出制御用CPU120は、演出制御プロセスフラグの値を可変表示開始設定処理（ステップS171）に対応した値に更新する（ステップ052IWS815）。

【0737】

ステップ052IWS812～S815の処理が実行されることによって、この特徴部052IWでは、非KT状態である場合には、第1特別図柄の変動表示に対応して画像表示装置5において飾り図柄の変動表示が実行され、KT状態である場合には、第2特別図柄の変動表示に対応して画像表示装置5において飾り図柄の変動表示が実行される。言い換えれば、第1特別図柄の変動表示が実行される場合であってもKT状態である場合や、第2特別図柄の変動表示が実行される場合であっても非KT状態である場合には、飾り図柄の変動表示は実行されない。

【0738】

（可変表示開始設定処理）

図10-47は、可変表示開始設定処理（ステップS171）を示すフローチャートである。可変表示開始設定処理において、演出制御用CPU120は、第1特別図柄の変動表示を実行する場合であるか否かを確認する（ステップ052IWS920）。なお、第1特別図柄の変動表示を実行する場合であるか否かは、例えば、変動パターンコマンド格納領域に格納されている変動パターンコマンドが第1変動パターン#01～#09を指定するものであるか否かを確認することにより判定できる。第1特別図柄の変動表示を実行する場合であれば、演出制御用CPU120は、今回の変動表示が小当たりとなるものであるか否かを確認する（ステップ052IWS921）。なお、今回の変動表示が小当たりとなるものであるか否かは、例えば、表示結果指定コマンド格納領域に格納されている表示結果指定コマンドが表示結果7指定コマンドであるか否かを確認することにより判定できる。小当たり変動であれば、演出制御用CPU120は、飾り図柄の停止図柄として非リーチはずれ図柄を決定する（ステップ052IWS922）。

【0739】

既に説明したように、本例では、第1特別図柄の変動表示が実行されて小当たりとなる場合には、小当たりAとなる場合しかなく、小当たり遊技中に特殊入賞口への遊技球の入賞を殆ど期待できない。そのため、ステップ052IWS920～S922の処理が実行されることによって、本例では、第1特別図柄の変動表示が実行されて小当たりとなる場合には、強制的に非リーチはずれ図柄を停止表示することにより、遊技者に過度の期待を抱かせないようにしている。

【0740】

第2特別図柄の変動表示を実行する場合（ステップ052IWS920のN）や、小当たり変動でない場合（ステップ052IWS921のN）には、演出制御用CPU120は、変動表示結果に応じた飾り図柄の停止図柄を決定する（ステップ052IWS923）。ステップ052IWS923では、演出制御用CPU120は、表示結果1指定コマンドを受信した場合（はずれと決定されている場合）には、左中右の飾り図柄が全く不一致のはずれ図柄または左右の飾り図柄のみが一致したリーチはずれ図柄の組み合わせを決定

する。また、表示結果 2 指定コマンドを受信した場合（10R 確変大当りと決定されている場合）には、左中右の飾り図柄が奇数図柄のうち図柄「7」で揃った図柄の組み合わせを決定する。また、表示結果 3 指定コマンドを受信した場合（6R 確変大当りと決定されている場合）には、左中右の飾り図柄が「7」以外の奇数図柄で揃った図柄の組み合わせを決定する。また、表示結果 5 指定コマンドを受信した場合（2R 確変大当りと決定されている場合）には、中の飾り図柄が特殊図柄（本例では、図柄「R」）を含む図柄の組み合わせを決定する。また、表示結果 4 指定コマンドや表示結果 6 指定コマンドを受信した場合（6R 通常大当りや 2R 通常大当りと決定されている場合）には、左中右の飾り図柄が偶数図柄で揃った図柄の組み合わせを決定する。また、表示結果 7 指定コマンドを受信した場合（小当りと決定されている場合）には、小当り図柄（例えば、「135」）の飾り図柄の組み合わせを決定する。

10

【0741】

次いで、演出制御用 CPU120 は、今回の変動表示がはずれとなるものであるか否かを確認する（ステップ 052 IWS924）。なお、今回の変動表示がはずれとなるものであるか否かは、例えば、表示結果指定コマンド格納領域に格納されている表示結果指定コマンドが表示結果 1 指定コマンドであるか否かを確認することにより判定できる。はずれ変動でなければ、そのままステップ 052 IWS928 に移行する。はずれ変動であれば（ステップ 052 IWS924 の Y）、演出制御用 CPU120 は、現在設定されている設定値を示唆する設定値示唆演出の有無および種類を決定するための設定値示唆演出設定処理を実行する（ステップ 052 IWS925）。

20

【0742】

ステップ 052 IWS925 では、演出制御用 CPU120 は、設定値格納領域（ステップ 052 IWS615 参照）に格納されている設定値を特定する。そして、演出制御用 CPU120 は、設定値示唆演出の有無および種類を決定するための設定値示唆演出決定テーブルとして、特定した設定値に対応するテーブルを用いて、乱数にもとづく抽選処理を行い、設定値示唆演出の有無および種類を決定する。

【0743】

図 10-48 は、設定値示唆演出決定テーブルの具体例を説明するための説明図である。図 10-48 に示すように、設定値示唆演出決定テーブルには、設定値示唆演出なし、設定値示唆演出 A、設定値示唆演出 B、設定値示唆演出 C、設定値示唆演出 D、設定値示唆演出 E、および設定値示唆演出 F に対して、それぞれ判定値が割り振られている。

30

【0744】

設定値示唆演出 A は、例えば、画像表示装置 5 において青色の表示色で所定のキャラクタ画像を表示する態様により実行される演出であり、図 10-48 に示すように、設定値「1」である場合に最も実行割合が高い。また、設定値示唆演出 B は、例えば、画像表示装置 5 において緑色の表示色で所定のキャラクタ画像を表示する態様により実行される演出であり、図 10-48 に示すように、設定値「2」である場合に最も実行割合が高い。また、設定値示唆演出 C は、例えば、画像表示装置 5 において黄色の表示色で所定のキャラクタ画像を表示する態様により実行される演出であり、図 10-48 に示すように、設定値「3」である場合に最も実行割合が高い。また、設定値示唆演出 D は、例えば、画像表示装置 5 において橙色の表示色で所定のキャラクタ画像を表示する態様により実行される演出であり、図 10-48 に示すように、設定値「4」である場合に最も実行割合が高い。また、設定値示唆演出 E は、例えば、画像表示装置 5 において赤色の表示色で所定のキャラクタ画像を表示する態様により実行される演出であり、図 10-48 に示すように、設定値「5」である場合に最も実行割合が高い。また、設定値示唆演出 F は、例えば、画像表示装置 5 において虹色の表示色で所定のキャラクタ画像を表示する態様により実行される演出であり、図 10-48 に示すように、設定値「6」である場合に最も実行割合が高い。

40

【0745】

次いで、演出制御用 CPU120 は、第 2KT 状態フラグがセットされているか否かを

50

確認する（ステップ052 IWS926）。第2KT状態フラグがセットされていなければ（すなわち、第2KT状態でなければ）、そのままステップ052 IWS928に移行する。第2KT状態フラグがセットされていれば（ステップ052 IWS926のY）、すなわち、第2KT状態であれば、演出制御用CPU120は、第2KT状態（小当りRUSH）が継続することを示唆する小当りRUSH継続示唆演出の有無および種類を決定するための小当りRUSH継続示唆演出設定処理を実行する（ステップ052 IWS927）。

【0746】

図10-49は、小当りRUSH継続示唆演出決定テーブルの具体例を説明するための説明図である。図10-49に示すように、小当りRUSH継続示唆演出決定テーブルには、小当りRUSH継続示唆演出なし、小当りRUSH継続示唆演出A、および小当りRUSH継続示唆演出Bに対して、それぞれ判定値が割り振られている。小当りRUSH継続示唆演出Aは、例えば、画像表示装置5において青色の表示色で所定の演出画像を表示する態様により実行される演出である。また、小当りRUSH継続示唆演出Bは、例えば、画像表示装置5において赤色の表示色で所定の演出画像を表示する態様により実行される演出である。

10

【0747】

図10-49に示すように、本例では、設定値「1」である場合に小当りRUSH継続示唆演出の実行割合が最も高く、設定値「2」である場合に小当りRUSH継続示唆演出の実行割合が次に高く、設定値「3」である場合に小当りRUSH継続示唆演出の実行割合がさらに次に高く、設定値「4」である場合に小当りRUSH継続示唆演出の実行割合がさらに次に高く、設定値「5」である場合に小当りRUSH継続示唆演出の実行割合がさらに次に高く、設定値「6」である場合に小当りRUSH継続示唆演出の実行割合が最も低くなっている。

20

【0748】

また、図10-49に示すように、設定値「1」である場合に小当りRUSH継続示唆演出Aの実行割合が最も高く、設定値「6」である場合に小当りRUSH継続示唆演出Bの実行割合が最も高くなっている。

【0749】

本例では、設定値「1」の場合に大当り確率が最も低く設定値「6」の場合に大当り確率が最も高くなっているのであるが、第2KT状態中である場合には大当りの発生を契機として第2KT状態が終了する場合があるのであるから、設定値「1」である場合が最も第2KT状態が継続しやすい（継続期待度が高い）設定状態であり、設定値「6」である場合が最も第2KT状態が継続しにくい（継続期待度が低い）設定状態であるといえる。従って、本例では、設定値「1」である場合に小当りRUSH継続示唆演出の実行割合が最も高く、設定値「6」である場合に小当りRUSH継続示唆演出の実行割合が最も低くなっているのであるから、小当りRUSH継続示唆演出が実行されることによって、第2KT状態（小当りRUSH）が継続することに対する期待感を高めることができる。

30

【0750】

なお、上記に説明したように、第2KT状態（小当りRUSH）の継続期待度とは、大当りが発生せずに第2KT状態への制御期間が長くなることに対する期待度である。

40

【0751】

また、本例では、設定値「1」である場合に小当りRUSH継続示唆演出Aの実行割合が最も高くなっているのであるから、特に小当りRUSH継続示唆演出Aが実行されることによって、第2KT状態（小当りRUSH）が継続することに対する期待感をさらに高めることができる。

【0752】

次いで、演出制御用CPU120は、受信した変動パターンコマンドで示される変動パターンにもとづいて、使用する飾り図柄の変動パターン、および設定値示唆演出や小当りRUSH継続示唆演出の実行を決定している場合には、設定値示唆演出や小当りRUSH

50

継続示唆演出に応じたプロセステーブルを選択する（ステップ052 IWS 928）。

【0753】

次いで、演出制御用CPU120は、ステップ052 IWS 928で選択したプロセステーブルにおけるプロセスタイマ1のプロセスタイマ設定値をプロセスタイマに設定してプロセスタイマをスタートさせる（ステップ052 IWS 929）。次いで、演出制御用CPU120は、プロセスタイマ1の内容（表示制御実行データ1、ランプ制御実行データ1、音番号データ1）に従って演出装置（画像表示装置5、各種ランプ、スピーカ8L、8R）の制御を実行する（ステップ052 IWS 930）。例えば、画像表示装置5において変動パターンに応じた画像を表示させるために、VDPに制御信号（表示制御実行データ）を出力する。また、各種ランプを点灯／消灯制御を行わせるために、LED制御基板14に対して制御信号（ランプ制御実行データ）を出力する。また、スピーカ8L、8Rからの音声出力を行わせるために、音声制御基板13に対して制御信号（音番号データ）を出力する。

10

【0754】

なお、設定値示唆演出の実行を決定した場合には、ステップ052 IWS 928で選択した設定値示唆演出を含むプロセステーブルに従ってステップ052 IWS 930および可変表示中演出処理（ステップS172）が実行されることによって、飾り図柄の変動表示中（はずれ変動中）に設定値示唆演出が実行される。

【0755】

また、小当りRUSH継続示唆演出の実行を決定した場合には、ステップ052 IWS 928で選択した小当りRUSH継続示唆演出を含むプロセステーブルに従ってステップ052 IWS 930および可変表示中演出処理（ステップS172）が実行されることによって、飾り図柄の変動表示中（第2KT状態中のはずれ変動中）に小当りRUSH継続示唆演出が実行される。

20

【0756】

次いで、演出制御用CPU120は、変動時間に応じた値を飾り図柄変動時間タイマに設定して飾り図柄変動時間タイマをスタートさせる（ステップ052 IWS 931）。そして、演出制御プロセスフラグを、可変表示中演出処理（ステップS172）に応じた値に更新する（ステップ052 IWS 932）。

【0757】

（可変表示中演出処理）

図10-50は、演出制御プロセス処理における可変表示中演出処理（ステップS172）を示すフローチャートである。可変表示中演出処理において、演出制御用CPU120は、まず、プロセスタイマの値を1減算するとともに（ステップ052 IWS 8101）、飾り図柄変動時間タイマの値を1減算する（ステップ052 IWS 8102）。プロセスタイマがタイムアウトしたら（ステップ052 IWS 8103）、プロセスタイマの切替を行う。すなわち、プロセステーブルにおける次に設定されているプロセスタイマ設定値をプロセスタイマに設定する（ステップ052 IWS 8104）。また、その次に設定されている表示制御実行データ、ランプ制御実行データおよび音番号データにもとづいて演出装置に対する制御状態を変更する（ステップ052 IWS 8105）。

30

40

【0758】

次いで、演出制御用CPU120は、第1KT状態フラグまたは第2KT状態フラグがセットされているか否かを確認する（ステップ052 IWS 8106）。第1KT状態フラグおよび第2KT状態フラグのいずれもセットされていなければ（すなわち、非KT状態であれば）、演出制御用CPU120は、第1図柄確定指定コマンドを受信したか否か（例えば、第1確定コマンド受信フラグがセットされているか否か）を確認する（ステップ052 IWS 8107）。第1図柄確定指定コマンドを受信していれば、演出制御用CPU120は、演出制御プロセスフラグの値を特図当り待ち処理（ステップS173）に応じた値に更新する（ステップ052 IWS 8110）。

【0759】

50

第1図柄確定指定コマンドを受信していなければ、演出制御用CPU120は、第1強制図柄確定指定コマンドを受信したか否か（例えば、第1強制確定コマンド受信フラグがセットされているか否か）を確認する（ステップ052IWS8108）。第1強制図柄確定指定コマンドを受信していれば、演出制御用CPU120は、可変表示開始設定処理のステップ052IWS923で決定した飾り図柄の停止図柄を、はずれ図柄に差し替える処理を行う（ステップ052IWS8109）。そして、演出制御用CPU120は、演出制御プロセスフラグの値を特図当り待ち処理（ステップS173）に応じた値に更新する（ステップ052IWS8110）。

【0760】

ステップ052IWS8106で第1KT状態フラグまたは第2KT状態フラグがセットされていれば（すなわち、KT状態であれば）、演出制御用CPU120は、第2図柄確定指定コマンドを受信したか否か（例えば、第2確定コマンド受信フラグがセットされているか否か）を確認する（ステップ052IWS8111）。第2図柄確定指定コマンドを受信していれば、演出制御用CPU120は、演出制御プロセスフラグの値を特図当り待ち処理（ステップS173）に応じた値に更新する（ステップ052IWS8114）。

【0761】

第2図柄確定指定コマンドを受信していなければ、演出制御用CPU120は、第2強制図柄確定指定コマンドを受信したか否か（例えば、第2強制確定コマンド受信フラグがセットされているか否か）を確認する（ステップ052IWS8112）。第2強制図柄確定指定コマンドを受信していれば、演出制御用CPU120は、可変表示開始設定処理のステップ052IWS923で決定した飾り図柄の停止図柄を、はずれ図柄に差し替える処理を行う（ステップ052IWS8113）。そして、演出制御用CPU120は、演出制御プロセスフラグの値を特図当り待ち処理（ステップS173）に応じた値に更新する（ステップ052IWS8114）。

【0762】

ステップ052IWS8108で第1強制図柄確定指定コマンドも受信していなかった場合、またはステップ052IWS8112で第2強制図柄確定指定コマンドも受信していなかった場合には、演出制御用CPU120は、飾り図柄変動時間タイマがタイムアウトしたか否かを確認する（ステップ052IWS8115）。飾り図柄変動時間タイマがタイムアウトしていれば、演出制御用CPU120は、待機演出用のプロセスデータに切り替える（ステップ052IWS8116）。そして、演出制御用CPU120は、プロセスタイマを再スタートさせる（ステップ052IWS8117）。

【0763】

本例では、既に説明したように、第2特別図柄の変動表示が小当りとなった場合であって、はずれや小当り、確変大当りとなる第1特別図柄の変動表示の実行中である場合には、小当り遊技中に、第1変動時間タイマの更新が中断され第1特別図柄の変動表示が継続して実行される状態となる。また、第1特別図柄の変動表示が小当りとなった場合であって、はずれや小当り、確変大当りとなる第2特別図柄の変動表示の実行中である場合には、小当り遊技中に、第2変動時間タイマの更新が中断され第2特別図柄の変動表示が継続して実行される状態となる。いずれかの図柄確定指定コマンドを受信することなく、ステップ052IWS8115で飾り図柄変動時間タイマがタイムアウトしたということは、このように第1変動時間タイマまたは第2変動時間タイマの更新が中断され、第1特別図柄または第2特別図柄の変動表示が継続して実行されている場合である。この場合、本例では、ステップ052IWS8116、S8117の処理が実行されることによって、待機演出に切り替えられ、その後、第1変動時間タイマまたは第2変動時間タイマの更新が再開され、最終的に1特別図柄または第2特別図柄の変動表示が終了するまで、待機演出が継続される。なお、「待機演出」は、例えば、画像表示装置5において左中右の飾り図柄を揺れ変動または微変動させた状態で仮停止状態とする演出である。

【0764】

なお、例えば、画像表示装置 5 において、例えば、システム小図柄や第 4 図柄などの変動表示も実行する場合には、第 1 変動時間タイマまたは第 2 変動時間タイマの更新が中断され、第 1 特別図柄または第 2 特別図柄の変動表示が継続して実行されている場合において、これらシステム小図柄や第 4 図柄の変動表示も継続して実行される。そして、第 1 変動時間タイマまたは第 2 変動時間タイマの更新が再開され、第 1 特別図柄または第 2 特別図柄の変動表示が最終的に停止表示されると、これらシステム小図柄や第 4 図柄の変動表示も停止表示される。

【0765】

(特図当り待ち処理)

図 10-51 および図 10-52 は、演出制御プロセス処理における特図当り待ち処理(ステップ S173)を示すフローチャートである。特図当り待ち処理において、演出制御用 CPU120 は、まず、飾り図柄の停止図柄として大当り図柄を表示していることを示す停止図柄表示フラグ 1 がセットされているか否かを確認する(ステップ 052 IWS9701)。停止図柄表示フラグ 1 がセットされていれば、ステップ 052 IWS9706 に移行する。この特徴部 052 IW では、飾り図柄の停止図柄として大当り図柄を表示した場合には、ステップ 052 IWS9705 で停止図柄表示フラグ 1 がセットされる。そして、大当り中演出を実行するときに停止図柄表示フラグ 1 がリセットされる。従って、停止図柄表示フラグ 1 がセットされているということは、大当り図柄を確定表示したが大当り中演出をまだ実行していない段階であるので、ステップ 052 IWS9703 の飾り図柄の停止図柄を表示する処理を実行することなく、ステップ 052 IWS9706 に移行する。

【0766】

停止図柄表示フラグ 1 がセットされていなければ、演出制御用 CPU120 は、飾り図柄の停止図柄として小当り図柄を表示していることを示す停止図柄表示フラグ 2 がセットされているか否かを確認する(ステップ 052 IWS9702)。停止図柄表示フラグ 2 がセットされていれば、ステップ 052 IWS9717 に移行する。この特徴部 052 IW では、飾り図柄の停止図柄として小当り図柄を表示した場合には、ステップ 052 IWS9716 で停止図柄表示フラグ 2 がセットされる。そして、小当り中演出を実行するときに停止図柄表示フラグ 2 がリセットされる。従って、停止図柄表示フラグ 2 がセットされているということは、小当り図柄を確定表示したが小当り中演出をまだ実行していない段階であるので、ステップ 052 IWS9703 の飾り図柄の停止図柄を表示する処理を実行することなく、ステップ 052 IWS9717 に移行する。

【0767】

停止図柄表示フラグ 1 および停止図柄表示フラグ 2 のいずれもセットされていなければ、演出制御用 CPU120 は、画像表示装置 5 において停止表示中の左中右の飾り図柄の停止図柄(はずれ図柄、大当り図柄、小当り図柄)を確定表示させる制御を行う(ステップ 052 IWS9703)。なお、第 1 強制図柄確定指定コマンドや第 2 強制図柄確定指定コマンドを受信し、ステップ 052 IWS8109, S8113 ではずれ図柄に差し替える処理を実行した場合には、ステップ 052 IWS9703 において、演出制御用 CPU120 は、はずれ図柄を確定表示させる制御を行う。

【0768】

ステップ 052 IWS9703 の処理で大当り図柄を確定表示した場合には(ステップ 052 IWS9704 の Y)、演出制御用 CPU120 は、停止図柄表示フラグ 1 をセットする(ステップ 052 IWS9705)。

【0769】

次いで、演出制御用 CPU120 は、大当り開始指定コマンドを受信したか否かを確認する(ステップ 052 IWS9706)。大当り開始指定コマンドを受信している場合には、演出制御用 CPU120 は、停止図柄表示フラグ 1 をリセットする(ステップ 052 IWS9707)。

【0770】

次いで、演出制御用CPU120は、画像表示装置5において賞球数表示の表示中であるか否かを確認する（ステップ052IWS9708）。賞球数表示の表示中でなければ、演出制御用CPU120は、今回発生した大当りの大当り種別が10R確変大当り、6R確変大当り、または6R通常大当りであるか否かを確認する（ステップ052IWS9709）。なお、大当り種別が10R確変大当り、6R確変大当り、または6R通常大当りであるか否かは、例えば、受信した表示結果指定コマンドが表示結果2指定コマンド～表示結果4指定コマンドであるか否かを確認することにより判定できる。10R確変大当り、6R確変大当り、または6R通常大当りであれば、演出制御用CPU120は、画像表示装置5において賞球数表示の表示を開始する制御を行う（ステップ052IWS9710）。

10

【0771】

ステップ052IWS9708～S9710の処理が実行されることによって、本例では、10R確変大当り、6R確変大当り、または6R通常大当りにもとづく大当り遊技を開始するときに賞球数表示の表示が開始される。一方、大当りであっても2R確変大当りまたは2R通常大当りにもとづく大当り遊技を開始する場合には賞球数表示の表示は開始されない。

【0772】

次いで、演出制御用CPU120は、大当り中演出に応じたプロセステーブルを選択する（ステップ052IWS9711）。次いで、演出制御用CPU120は、プロセスタイマ設定値をプロセスタイマに設定することによってプロセスタイマをスタートさせ（ステップ052IWS9712）、プロセスデータ1の内容（表示制御実行データ1、ランプ制御実行データ1、音番号データ1）に従って演出装置（演出用部品としての画像表示装置5、演出用部品としての各種ランプ、および演出用部品としてのスピーカ8L、8R）の制御を実行する（ステップ052IWS9713）。

20

【0773】

その後、演出制御用CPU120は、演出制御プロセスフラグの値を大当り中演出処理（ステップS176）に応じた値に更新する（ステップ052IWS9714）。

【0774】

ステップ052IWS9703の処理で大当り図柄を確定表示していなければ（ステップ052IWS9704のN）、ステップ052IWS9703の処理で小当り図柄を確定表示した場合には（ステップ052IWS9715のY）、演出制御用CPU120は、停止図柄表示フラグ2をセットする（ステップ052IWS9716）。

30

【0775】

次いで、演出制御用CPU120は、小当り開始指定コマンドを受信したか否かを確認する（ステップ052IWS9717）。小当り開始指定コマンドを受信している場合には、演出制御用CPU120は、停止図柄表示フラグ2をリセットする（ステップ052IWS9718）。

【0776】

次いで、演出制御用CPU120は、小当り中演出に応じたプロセステーブルを選択する（ステップ052IWS9719）。次いで、演出制御用CPU120は、プロセスタイマ設定値をプロセスタイマに設定することによってプロセスタイマをスタートさせ（ステップ052IWS9720）、プロセスデータ1の内容（表示制御実行データ1、ランプ制御実行データ1、音番号データ1）に従って演出装置（演出用部品としての画像表示装置5、演出用部品としての各種ランプ、および演出用部品としてのスピーカ8L、8R）の制御を実行する（ステップ052IWS9721）。

40

【0777】

そして、演出制御用CPU120は、演出制御プロセスフラグの値を小当り中演出処理（ステップS174）に応じた値に更新する（ステップ052IWS9722）。

【0778】

ステップ052IWS9703の処理で大当り図柄や小当り図柄を表示しなかった場合

50

（すなわち、はずれ図柄を表示した場合）には（ステップ052 IWS 9704のN、且つステップ052 IWS 9715のN）、演出制御用CPU120は、演出制御プロセスフラグの値を可変表示開始待ち処理（ステップS170）に応じた値に更新する（ステップ052 IWS 9723）。

【0779】

（エンディング演出処理）

図10-53は、図8に示された演出制御プロセス処理におけるエンディング演出処理（ステップS177）を示すフローチャートである。エンディング演出処理において、演出制御用CPU120は、まず、演出期間計測タイマの値を1減算する（ステップ052 IWS 951）。なお、演出期間計測タイマは、大当たり中演出処理（ステップS176参照）において、大当たり遊技の全てのラウンドを終了したことにもとづいてセットされる。次いで、演出制御用CPU120は、演出期間計測タイマがタイムアウトしたか否かを確認する（ステップ052 IWS 952）。

【0780】

演出期間計測タイマがタイムアウトしていないときは（ステップ052 IWS 952のN）、演出制御用CPU120は、プロセスタイマの値を1減算し（ステップ052 IWS 953）、プロセスデータnの内容に従って演出装置（画像表示装置5、遊技効果ランプ9、スピーカ8L、8R等）を制御する処理を実行する（ステップ052 IWS 954）。例えば、大当たりが終了することを表示したり、所定のキャラクタを表示させたりする演出を実行する。

【0781】

そして、演出制御用CPU120は、プロセスタイマがタイムアウトしていないかどうかを確認し（ステップ052 IWS 955）、プロセスタイマがタイムアウトしていれば、プロセスデータの切替を行う（ステップ052 IWS 956）。そして、次のプロセスデータにおけるプロセスタイマ設定値をプロセスタイマに設定してプロセスタイマをスタートさせる（ステップ052 IWS 957）。

【0782】

演出期間計測タイマがタイムアウトしていれば（ステップ052 IWS 952のY）、演出制御用CPU120は、今回終了する大当たり遊技が6R確変大当たりまたは6R通常大当たりにもとづく大当たり遊技であるか否かを確認する（ステップ052 IWS 958）。なお、6R確変大当たりまたは6R通常大当たりであるか否かは、例えば、表示結果指定コマンド格納領域に格納されている表示結果指定コマンドが表示結果3指定コマンドまたは表示結果4指定コマンドであるか否かを確認することにより判定できる。6R確変大当たりまたは6R通常大当たりであれば、演出制御用CPU120は、画像表示装置5において賞球数表示の表示を終了する制御を行う（ステップ052 IWS 959）。

【0783】

ステップ052 IWS 958～S959の処理が実行されることによって、本例では、6R確変大当たりや6R通常大当たりにもとづく大当たり遊技を実行する場合には、その大当たり遊技中に賞球数表示が表示され、その大当たり遊技を終了するときに賞球数表示が消去されて、大当たり遊技終了後の高確率／第1KT状態や低確率／第1KT状態中には賞球数表示は表示されない。

【0784】

次いで、演出制御用CPU120は、今回終了する大当たり遊技が2R確変大当たりにもとづく大当たり遊技であるか否かを確認する（ステップ052 IWS 960）。なお、2R確変大当たりであるか否かは、例えば、表示結果指定コマンド格納領域に格納されている表示結果指定コマンドが表示結果5指定コマンドであるか否かを確認することにより判定できる。2R確変大当たりであれば、演出制御用CPU120は、画像表示装置5において賞球数表示の表示中であるか否かを確認する（ステップ052 IWS 961）。賞球数表示の表示中でなければ、演出制御用CPU120は、画像表示装置5において賞球数表示の表示を開始する制御を行う（ステップ052 IWS 962）。

【0785】

ステップ052 IWS960～S962の処理が実行されることによって、本例では、2R確変大当りにもとづく大当り遊技を実行する場合には、その大当り遊技中には賞球数表示が表示されないののであるが（ただし、本例では、2R確変大当りとなる前から賞球数表示が表示されていた場合には、賞球数表示は継続して表示されるが表示の更新はされない）、大当り遊技終了後の高確率／第2KT状態中には賞球数表示が表示される。

【0786】

その後、演出制御用CPU120は、演出制御用CPU120は、演出制御プロセスフラグの値を可変表示開始待ち処理（ステップS170）に応じた値に更新する（ステップ052 IWS963）。

【0787】

（演出例）

次に、本特徴部052IWにおいて実行される演出の演出態様について説明する。まず、設定値示唆演出の演出態様について説明する。図10-54は、設定値示唆演出の演出態様を説明するための説明図である。本例では、はずれとなる飾り図柄の変動表示において設定値示唆演出を実行可能である。図10-54（A）に示すように、画像表示装置5において左中右の飾り図柄の変動表示を実行しているときに、設定値示唆演出の実行タイミングとなると、図10-54（B1）～（B3）に示すように、飾り図柄の変動表示中に設定値示唆演出が実行される。

【0788】

本例では、図10-54（B1）～（B3）に示すように、画像表示装置5において所定のキャラクタ画像052IW001，052IW002，052IW003を表示する態様により設定値示唆演出が実行される。この場合、例えば、設定値示唆演出Aを実行する場合には、図10-54（B1）に示すように、画像表示装置5において青色の表示色で所定のキャラクタ画像052IW001を表示する態様により設定値示唆演出が実行される。また、例えば、設定値示唆演出Cを実行する場合には、図10-54（B2）に示すように、画像表示装置5において黄色の表示色で所定のキャラクタ画像052IW002を表示する態様により設定値示唆演出が実行される。また、例えば、設定値示唆演出Eを実行する場合には、図10-54（B3）に示すように、画像表示装置5において赤色の表示色で所定のキャラクタ画像052IW003を表示する態様により設定値示唆演出が実行される。

【0789】

なお、図10-54に示す例では、設定値示唆演出Aや、設定値示唆演出C、設定値示唆演出Eを実行する場合を示したが、例えば、設定値示唆演出Bを実行する場合には緑色の表示色で所定のキャラクタ画像が表示され、設定値示唆演出Dを実行する場合には橙色の表示色で所定のキャラクタ画像が表示され、設定値示唆演出Fを実行する場合には虹色の表示色で所定のキャラクタ画像が表示される。

【0790】

本例では、はずれとなる飾り図柄の変動表示中に異なる表示色のキャラクタ画像が表示されて設定値示唆演出が実行されるかによって、遊技者に対して現在いずれの設定値に設定されているかに対して期待感をもたせることができる。

【0791】

次に、小当りRUSH継続示唆演出の演出態様について説明する。図10-55は、小当りRUSH継続示唆演出の演出態様を説明するための説明図である。本例では、第2KT状態中（小当りRUSH中）のはずれとなる飾り図柄の変動表示において小当りRUSH継続示唆演出を実行可能である。

【0792】

本例では、第2KT状態中である場合には、図10-55（A）に示すように、例えば、画像表示装置5において「小当りRUSH」などの文字表示052IW004が表示され、第2KT状態中であることが認識可能に表示される。そして、図10-55（A）に

10

20

30

40

50

示すように、第2 K T 状態中に画像表示装置5において左中右の飾り図柄の変動表示を実行しているときに、小当り R U S H 継続示唆演出の実行タイミングとなると、図10-55 (B1) ~ (B3) に示すように、飾り図柄の変動表示中に小当り R U S H 継続示唆演出が実行される。

【0793】

本例では、図10-55 (B1) , (B2) に示すように、画像表示装置5において所定の演出画像052IW005, 052IW006を表示する態様により小当り R U S H 継続示唆演出が実行される。なお、本例では、所定の演出画像052IW005, 052IW006として、レーシングカーの画像が表示される場合が示されている。この場合、例えば、小当り R U S H 継続示唆演出Aを実行する場合には、図10-55 (B1) に示すように、画像表示装置5において青色の表示色で所定の演出画像052IW005を表示する態様により小当り R U S H 継続示唆演出が実行される。また、例えば、小当り R U S H 継続示唆演出Bを実行する場合には、図10-55 (B2) に示すように、画像表示装置5において赤色の表示色で所定の演出画像052IW005を表示する態様により小当り R U S H 継続示唆演出が実行される。

【0794】

本例では、第2 K T 状態中のはずれとなる飾り図柄の変動表示中に、小当り R U S H 継続示唆演出が実行されることによって、あるいはいずれの表示色の演出画像が表示されて小当り R U S H 継続示唆演出が実行されるかによって、遊技者に対して第2 K T 状態 (小当り R U S H) が継続することに対して期待感をもたせることができる。

【0795】

次に、右打ち報知の表示態様について説明する。図10-56は、右打ち報知の表示態様を説明するための説明図である。本例では、第1特別図柄の変動表示で大当りとなった場合であるか第2特別図柄の変動表示が実行されて大当りとなった場合であるかに関係なく、大当り遊技中である場合には、図10-56 (1) に示すように、遊技制御用マイクロコンピュータ100 (具体的には、CPU103) によって、右打ち表示器26が点灯される (ステップ052IWS2018A, S2018B参照)。また、右打ち点灯開始指定コマンドを受信したことにもとづいて、図10-56 (1) に示すように、演出制御用CPU120によって、右打ち報知用LED37が点灯される (ステップ052IWS2019A, S2019B, S639参照)。さらに、図10-56 (1) に示すように、演出制御用CPU120によって、画像表示装置5の表示画面において右打ち表示052IW007が表示される (ステップ052IWS624参照)。

【0796】

また、本例では、第2特別図柄の変動表示で小当りとなった場合には、小当り遊技中に、図10-56 (2) に示すように、遊技制御用マイクロコンピュータ100 (具体的には、CPU103) によって、右打ち表示器26が点灯される (ステップ052IWS2024B参照)。また、右打ち点灯開始指定コマンドを受信したことにもとづいて、図10-56 (2) に示すように、演出制御用CPU120によって、右打ち報知用LED37が点灯される (ステップ052IWS2025B, S639参照)。ただし、大当り遊技中とは異なり、図10-56 (2) に示すように、画像表示装置5の表示画面における右打ち表示052IW007の表示は行われない。

【0797】

一方、本例では、第1特別図柄の変動表示で小当りとなった場合には、図10-56 (3) に示すように、小当り遊技中に、右打ち表示器26の点灯および右打ち報知用LED37の点灯は行われず、画像表示装置5の表示画面における右打ち表示052IW007の表示も行われない。

【0798】

次に、オーバー入賞時示唆演出、小当り入賞時示唆演出、および賞球数表示示唆演出の演出態様について説明する。図10-57および図10-58は、オーバー入賞時示唆演出、小当り入賞時示唆演出、および賞球数表示示唆演出の演出態様を説明するための説明

図である。なお、図10-57および図10-58では、(A) (B) (C)・・・の順に表示画面が遷移する。また、図10-57および図10-58に示す例では、10R確変大当たりとなったことにもとづいて大当たり遊技状態に制御される場合が示されている。

【0799】

図10-57 (A) に示すように、大当たり遊技中においては、画像表示装置5において、「大当たり中!」などの文字表示や、「ラウンド2」などのラウンド数表示が表示されるとともに、賞球数表示052IW008が表示される。また、大当たり遊技中に大入賞口への通常の入賞（オーバー入賞でない入賞）が発生すると、図10-57 (B) に示すように、通常を表示色（本例では、白色）で入賞表示052IW009（本例では、「+15」の文字表示）が表示されるとともに、スピーカ8L, 8Rから通常音の入賞音出力される（ステップ052IWS307, S308参照）。

10

【0800】

次いで、大当たり遊技中にオーバー入賞が発生し、オーバー入賞が発生したことにもとづいてオーバー入賞時示唆演出の実行が決定されたものとする。この場合、図10-57 (C) に示すように、決定したオーバー入賞時示唆演出の種類に応じた入賞表示052IW010（本例では、「+15」の文字表示）が表示されるとともに、スピーカ8L, 8Rから、決定したオーバー入賞時示唆演出の種類に応じた入賞音出力される（ステップ052IWS305, S306参照）。例えば、オーバー入賞時示唆演出Aを実行する場合には、画像表示装置5において青色の表示色で入賞表示が表示されるとともに、スピーカ8L, 8Rから音Aの入賞音出力される。

20

【0801】

次いで、賞球数が456個に到達し、賞球数が456個に到達したことにもとづいて賞球数表示示唆演出Aの実行が決定されたものとする。この場合、図10-57 (D) に示すように、画像表示装置5において「456 OVER」などの文字表示052IW011が表示され、賞球数表示示唆演出Aが実行される（ステップ052IWS360参照）。

【0802】

なお、本例では、賞球数表示示唆演出Aを実行する場合が示されているが、例えば、賞球数表示示唆演出Bの実行が決定された場合には、画像表示装置5において「555 OVER」などの文字表示が表示され、賞球数表示示唆演出Bが実行される。また、例えば、賞球数表示示唆演出Cの実行が決定された場合には、画像表示装置5において「666 OVER」などの文字表示が表示され、賞球数表示示唆演出Cが実行される。

30

【0803】

次いで、図10-58 (E) に示すように、大当たり遊技を終了すると、大当たり遊技終了後に遊技状態が高確率/第2KT状態に制御される。また、高確率/第2KT状態に制御されると、図10-58 (F) に示すように、「小当たりRUSH中!」などの文字表示が表示されるとともに、賞球数表示052IW008が継続して表示される。

【0804】

次いで、高確率/第2KT状態中に小当たりとなって特殊入賞口への遊技球の入賞が発生したが、小当たり入賞時示唆演出の実行を決定しなかった場合には、図10-58 (F) に示すように、通常を表示色（本例では、白色）で入賞表示052IW012（本例では、「+10」の文字表示）が表示されるとともに、スピーカ8L, 8Rから通常音の入賞音出力される（ステップ052IWS325, S326参照）。

40

【0805】

次いで、高確率/第2KT状態中に小当たりとなって特殊入賞口への遊技球の入賞が発生し、特殊入賞口への遊技球の入賞が発生したことにもとづいて小当たり入賞時示唆演出の実行が決定されたものとする。この場合、図10-58 (G) に示すように、決定した小当たり入賞時示唆演出の種類に応じた入賞表示052IW013（本例では、「+10」の文字表示）が表示されるとともに、スピーカ8L, 8Rから、決定した小当たり入賞時示唆演出の種類に応じた入賞音出力される（ステップ052IWS323, S324参照）。例えば、小当たり入賞時示唆演出Aを実行する場合には、画像表示装置5において青色の表

50

示色で入賞表示が表示されるとともに、スピーカ 8 L , 8 R から音 A の入賞音が出力される。

【0806】

次いで、高確率／第 2 K T 状態中に賞球数が 2 6 6 6 個に到達し、賞球数が 2 6 6 6 個に到達したことにもとづいて賞球数表示示唆演出 F の実行が決定されたものとする。この場合、図 1 0 - 5 8 (H) に示すように、画像表示装置 5 において「2 6 6 6 O V E R」などの文字表示 0 5 2 I W 0 1 4 が表示され、賞球数表示示唆演出 F が実行される（ステップ 0 5 2 I W S 3 6 0 参照）。

【0807】

なお、本例では、賞球数表示示唆演出 F を実行する場合が示されているが、例えば、賞球数表示示唆演出 D の実行が決定された場合には、画像表示装置 5 において「2 4 5 6 O V E R」などの文字表示が表示され、賞球数表示示唆演出 D が実行される。また、例えば、賞球数表示示唆演出 E の実行が決定された場合には、画像表示装置 5 において「2 5 5 5 O V E R」などの文字表示が表示され、賞球数表示示唆演出 E が実行される。

【0808】

また、図 1 0 - 5 7 および図 1 0 - 5 8 に示す例では、図示を省略しているが、例えば、賞球数が 1 0 0 0 個に到達したことにもとづいて賞球数強調演出 A の実行が決定された場合には、画像表示装置 5 において、「1 0 0 0 O V E R」などの文字表示が表示され、賞球数強調演出 A が実行される。また、例えば、賞球数が 2 0 0 0 個に到達したことにもとづいて賞球数強調演出 B の実行が決定された場合には、画像表示装置 5 において、「2 0 0 0 O V E R」などの文字表示が表示され、賞球数強調演出 B が実行される。また、例えば、賞球数が 3 0 0 0 個に到達したことにもとづいて賞球数強調演出 C の実行が決定された場合には、画像表示装置 5 において、「3 0 0 0 O V E R」などの文字表示が表示され、賞球数強調演出 C が実行される。また、例えば、賞球数が 4 0 0 0 個に到達したことにもとづいて賞球数強調演出 D の実行が決定された場合には、画像表示装置 5 において、「4 0 0 0 O V E R」などの文字表示が表示され、賞球数強調演出 D が実行される。また、例えば、賞球数が 5 0 0 0 個に到達したことにもとづいて賞球数強調演出 E の実行が決定された場合には、画像表示装置 5 において、「5 0 0 0 O V E R」などの文字表示が表示され、賞球数強調演出 E が実行される。

【0809】

なお、本例では、賞球数が 4 5 6 個、5 5 5 個、6 6 6 個、2 4 5 6 個、2 5 5 5 個、または 2 6 6 6 個に到達したこと（言い換えれば、大当り遊技中や高確率／第 2 K T 状態中の小当りにより付与された遊技価値の合計）に応じて、異なる選択割合で賞球数表示示唆演出 A ~ F を実行する場合を示しているが、そのような態様にかぎられない。例えば、高確率／第 2 K T 状態中に発生した小当り回数や、高確率／第 2 K T 状態中に実行された変動表示の実行回数に応じて、異なる選択割合で賞球数表示示唆演出 A ~ F を実行するように構成してもよく、様々な態様が考えられる。

【0810】

次に、一方の特別図柄の変動表示の実行中に他方の特別図柄の変動表示において小当りとなった場合の変動表示の制御について説明する。図 1 0 - 5 9 は、一方の特別図柄の変動表示の実行中に他方の特別図柄の変動表示において小当りとなった場合の変動表示の制御を説明するための説明図である。

【0811】

大当りとなる第 1 特別図柄の変動表示中に、第 2 特別図柄の変動表示において小当り図柄が停止表示された場合には、第 1 特別図柄の変動表示が確変大当り（本例では、1 0 R 確変大当りまたは 6 R 確変大当り）となる大当り変動であった場合には、図 1 0 - 5 9 (A) に示すように、小当り図柄が停止表示されても第 1 特別図柄の変動表示が継続される。具体的には、小当り遊技中に、第 1 変動時間タイマの更新が中断され第 1 特別図柄の変動表示が継続して実行される状態となる。そして、小当り遊技を終了すると、再び役物制御プロセスフラグの値が役物制御通常処理（ステップ S 1 2 0）に対応した値に更新され

10

20

30

40

50

、第1変動時間タイマの更新が再開される（ステップ052IWS1120A、ステップ052IWS1128AのY参照）。

【0812】

一方、第1特別図柄の変動表示が通常大当り（本例では、6R通常大当り）となる大当り変動であった場合には、図10-59（B）に示すように、小当り図柄が停止表示されたときに、第1特別図柄の変動表示もはずれ図柄で強制的に停止表示される（ステップ052IWS1128AのN、ステップ052IWS1129A参照）。

【0813】

なお、はずれや小当りとなる第1特別図柄の変動表示中に、第2特別図柄の変動表示において小当り図柄が停止表示された場合には、図10-59（C）に示すように、小当り図柄が停止表示されても第1特別図柄の変動表示が継続される。具体的には、小当り遊技中に、第1変動時間タイマの更新が中断され第1特別図柄の変動表示が継続して実行される状態となる。そして、小当り遊技を終了すると、再び役物制御プロセスフラグの値が役物制御通常処理（ステップS120）に対応した値に更新され、第1変動時間タイマの更新が再開される（ステップ052IWS1120A、ステップ052IWS1127AのN参照）。

【0814】

大当りとなる第2特別図柄の変動表示中に、第1特別図柄の変動表示において小当り図柄が停止表示された場合には、第2特別図柄の変動表示が確変大当り（本例では、10R確変大当り、6R確変大当り、または2R確変大当り）となる大当り変動であった場合には、図10-59（D）に示すように、小当り図柄が停止表示されても第2特別図柄の変動表示が継続される。具体的には、小当り遊技中に、第2変動時間タイマの更新が中断され第2特別図柄の変動表示が継続して実行される状態となる。そして、小当り遊技を終了すると、再び役物制御プロセスフラグの値が役物制御通常処理（ステップS120）に対応した値に更新され、第2変動時間タイマの更新が再開される（ステップ052IWS1120B、ステップ052IWS1128BのY参照）。

【0815】

一方、第2特別図柄の変動表示が通常大当り（本例では、2R通常大当り）となる大当り変動であった場合には、図10-59（E）に示すように、小当り図柄が停止表示されたときに、第2特別図柄の変動表示もはずれ図柄で強制的に停止表示される（ステップ052IWS1128BのN、ステップ052IWS1129B参照）。

【0816】

なお、はずれや小当りとなる第2特別図柄の変動表示中に、第1特別図柄の変動表示において小当り図柄が停止表示された場合には、図10-59（F）に示すように、小当り図柄が停止表示されても第2特別図柄の変動表示が継続される。具体的には、小当り遊技中に、第2変動時間タイマの更新が中断され第2特別図柄の変動表示が継続して実行される状態となる。そして、小当り遊技を終了すると、再び役物制御プロセスフラグの値が役物制御通常処理（ステップS120）に対応した値に更新され、第2変動時間タイマの更新が再開される（ステップ052IWS1120B、ステップ052IWS1127BのN参照）。

【0817】

一方の特別図柄の変動表示の実行中に他方の特別図柄の変動表示において小当りとなった場合の制御方法は、本例で示した態様にかぎられない。以下、一方の特別図柄の変動表示の実行中に他方の特別図柄の変動表示において小当りとなった場合の制御方法の変形例について説明する。

【0818】

（変形例1）

図10-60は、変形例1における第1特別図柄変動処理（ステップS112A）を示すフローチャートである。図10-60において、ステップ052IWS1120A～S1127Aの処理は、図10-19に示したそれらの処理と同様であるが、変形例1では

10

20

30

40

50

、図10-19に示したステップ052 IWS 1128Aの判定処理が存在しない。

【0819】

変形例1では、実行中の第1特別図柄の変動表示が大当たりとなるものであれば、CPU 103は、そのままステップS1129Aの処理に移行し、演出制御用CPU120に第1強制図柄確定指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ052 IWS 1129A）。なお、図10-60において、ステップ052 IWS 1130Aの処理は、図10-19に示した処理と同様である。

【0820】

図10-61は、変形例1における第2特別図柄変動処理を示すフローチャートである。図10-61において、ステップ052 IWS 1120B～S1127Bの処理は、図10-22に示したそれらの処理と同様であるが、変形例1では、図10-22に示したステップ052 IWS 1128Bの判定処理が存在しない。

10

【0821】

変形例1では、実行中の第2特別図柄の変動表示が大当たりとなるものであれば、CPU 103は、そのままステップS1129Bの処理に移行し、演出制御用CPU120に第2強制図柄確定指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ052 IWS 1129B）。なお、図10-61において、ステップ052 IWS 1130Bの処理は、図10-22に示した処理と同様である。

【0822】

図10-62は、変形例1における一方の特別図柄の変動表示の実行中に他方の特別図柄の変動表示において小当たりとなった場合の変動表示の制御を説明するための説明図である。

20

【0823】

大当たりとなる第1特別図柄の変動表示中に、第2特別図柄の変動表示において小当たり図柄が停止表示された場合には、第1特別図柄の変動表示が確定大当たりとなる大当たり変動であるか通常大当たりとなる大当たり変動であるかに関係なく、図10-62（A）に示すように、小当たり図柄が停止表示されたときに、第1特別図柄の変動表示もはずれ図柄で強制的に停止表示される（ステップ052 IWS 1127AのN、ステップ052 IWS 1129A参照）。

【0824】

一方、はずれや小当たりとなる第1特別図柄の変動表示中に、第2特別図柄の変動表示において小当たり図柄が停止表示された場合には、図10-62（B）に示すように、小当たり図柄が停止表示されても第1特別図柄の変動表示が継続される。具体的には、小当たり遊技中に、第1変動時間タイマの更新が中断され第1特別図柄の変動表示が継続して実行される状態となる。そして、小当たり遊技を終了すると、再び役物制御プロセスフラグの値が役物制御通常処理（ステップS120）に対応した値に更新され、第1変動時間タイマの更新が再開される（ステップ052 IWS 1120A、ステップ052 IWS 1127AのN参照）。

30

【0825】

大当たりとなる第2特別図柄の変動表示中に、第1特別図柄の変動表示において小当たり図柄が停止表示された場合には、第2特別図柄の変動表示が確定大当たりとなる大当たり変動であるか通常大当たりとなる大当たり変動であるかに関係なく、図10-62（C）に示すように、小当たり図柄が停止表示されたときに、第2特別図柄の変動表示もはずれ図柄で強制的に停止表示される（ステップ052 IWS 1127BのN、ステップ052 IWS 1129B参照）。

40

【0826】

一方、はずれや小当たりとなる第2特別図柄の変動表示中に、第1特別図柄の変動表示において小当たり図柄が停止表示された場合には、図10-62（D）に示すように、小当たり図柄が停止表示されても第2特別図柄の変動表示が継続される。具体的には、小当たり遊技中に、第2変動時間タイマの更新が中断され第2特別図柄の変動表示が継続して実行され

50

る状態となる。そして、小当り遊技を終了すると、再び役物制御プロセスフラグの値が役物制御通常処理（ステップS120）に対応した値に更新され、第2変動時間タイマの更新が再開される（ステップ052IWS1120B、ステップ052IWS1127BのN参照）。

【0827】

（変形例2）

図10-63は、変形例2における第1特別図柄変動処理（ステップS112A）を示すフローチャートである。図10-63において、ステップ052IWS1120A～S1126Aの処理は、図10-19に示したそれらの処理と同様であるが、変形例2では、図10-19に示したステップ052IWS1127A、S1128Aの判定処理に代えて、ステップ052IWS1127Cの処理を含む。

10

【0828】

変形例2では、実行中の第1特別図柄の変動表示が大当たりとなるものであれば、そのまま処理を終了する。一方、実行中の第1特別図柄の変動表示が大当たりとなるものでなければ、CPU103は、演出制御用CPU120に第1強制図柄確定指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ052IWS1129A）。なお、図10-63において、ステップ052IWS1130Aの処理は、図10-19に示した処理と同様である。

【0829】

図10-64は、変形例2における第2特別図柄変動処理を示すフローチャートである。図10-64において、ステップ052IWS1120B～S1126Bの処理は、図10-22に示したそれらの処理と同様であるが、変形例2では、図10-22に示したステップ052IWS1127B、S1128Bの判定処理に代えて、ステップ052IWS1127Dの処理を含む。

20

【0830】

変形例2では、実行中の第2特別図柄の変動表示が大当たりとなるものであれば、そのまま処理を終了する。一方、実行中の第2特別図柄の変動表示が大当たりとなるものでなければ、CPU103は、演出制御用CPU120に第2強制図柄確定指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ052IWS1129B）。なお、図10-64において、ステップ052IWS1130Bの処理は、図10-22に示した処理と同様である。

【0831】

図10-65は、変形例2における一方の特別図柄の変動表示の実行中に他方の特別図柄の変動表示において小当たりとなった場合の変動表示の制御を説明するための説明図である。

30

【0832】

大当たりとなる第1特別図柄の変動表示中に、第2特別図柄の変動表示において小当たり図柄が停止表示された場合には、第1特別図柄の変動表示が確変大当たりとなる大当たり変動であるか通常大当たりとなる大当たり変動であるかに関係なく、図10-65（A）に示すように、小当たり図柄が停止表示されても第1特別図柄の変動表示が継続される。具体的には、小当り遊技中に、第1変動時間タイマの更新が中断され第1特別図柄の変動表示が継続して実行される状態となる。そして、小当り遊技を終了すると、再び役物制御プロセスフラグの値が役物制御通常処理（ステップS120）に対応した値に更新され、第1変動時間タイマの更新が再開される（ステップ052IWS1120A、ステップ052IWS1127CのY参照）。

40

【0833】

一方、はずれや小当たりとなる第1特別図柄の変動表示中に、第2特別図柄の変動表示において小当たり図柄が停止表示された場合には、図10-65（B）に示すように、小当たり図柄が停止表示されたときに、第1特別図柄の変動表示もはずれ図柄で強制的に停止表示される（ステップ052IWS1127CのN、ステップ052IWS1129A参照）。

【0834】

大当たりとなる第2特別図柄の変動表示中に、第1特別図柄の変動表示において小当たり図

50

柄が停止表示された場合には、第2特別図柄の変動表示が確変大当たりとなる大当たり変動であるか通常大当たりとなる大当たり変動であるかに関係なく、図10-65(C)に示すように、小当たり図柄が停止表示されても第2特別図柄の変動表示が継続される。具体的には、小当たり遊技中に、第2変動時間タイマの更新が中断され第2特別図柄の変動表示が継続して実行される状態となる。そして、小当たり遊技を終了すると、再び役物制御プロセスフラグの値が役物制御通常処理(ステップS120)に対応した値に更新され、第2変動時間タイマの更新が再開される(ステップ052IWS1120B、ステップ052IWS1127DのY参照)。

【0835】

一方、はずれや小当たりとなる第2特別図柄の変動表示中に、第1特別図柄の変動表示において小当たり図柄が停止表示された場合には、図10-65(D)に示すように、小当たり図柄が停止表示されたときに、第2特別図柄の変動表示もはずれ図柄で強制的に停止表示される(ステップ052IWS1127DのN、ステップ052IWS1129B参照)。

【0836】

また、一方の特別図柄の変動表示の実行中に他方の特別図柄の変動表示において小当たりとなった場合の制御方法として、変形例1や変形例2で示したもの以外にも、例えば、はずれとなる第1特別図柄の変動表示中に第2特別図柄の変動表示において小当たり図柄が停止表示された場合には強制はずれ停止する一方で、小当たりとなる第1特別図柄の変動表示中に第2特別図柄の変動表示において小当たり図柄が停止表示された場合には変動継続するように構成してもよい。

【0837】

また、例えば、10R確変大当たりとなる第1特別図柄の変動表示中に第2特別図柄の変動表示において小当たり図柄が停止表示された場合には強制はずれ停止する一方で、2R確変大当たりとなる第1特別図柄の変動表示中に第2特別図柄の変動表示において小当たり図柄が停止表示された場合には変動継続するように構成してもよい。

【0838】

また、例えば、通常状態(低確率/低ベース状態)中に、第1特別図柄の変動表示において小当たり図柄が停止表示されたときに、実行中の第2特別図柄の変動表示がはずれ変動、小当たり変動、または大当たり変動のいずれであっても強制はずれ停止するように構成してもよい。そのように構成すれば、本例では、低確率/高ベース状態において50回の変動表示を終了すれば低確率/低ベース状態に移行するのであるが(図10-29参照)、50回の変動表示を終了して低確率/低ベース状態に移行したときに第2保留記憶が1~4個溜まっており、その中に大当たりとなる第2保留記憶がある場合に、強制はずれ停止とすることによって、意図しないタイミングで大当たりとなることを防止することができる。また、特に、本例のようにKT状態に制御可能に構成した遊技機では、通常状態(低確率/低ベース状態)において右打ち操作を行うことにより、始動入賞しやすい第2始動入賞口に始動入賞させて第2特別図柄の変動表示を行わせながら、第1始動入賞口に始動入賞させて第1特別図柄の変動表示を行わせるような攻略方法も可能であるところ、そのような攻略方法の防止対策として有効である。

【0839】

上記のように、一方の特別図柄の変動表示の実行中に他方の特別図柄の変動表示において小当たりとなった場合の制御方法として様々な態様が考えられる。

【0840】

(変形例3)

また、本特徴部052IWでは、第1特別図柄の変動表示を実行する場合と第2特別図柄の変動表示を実行する場合とで、同様の制御により強制的にはずれ図柄を停止表示させる制御を行う場合(図10-59参照)を示したが、異なる制御としてもよい。図10-66は、変形例3における第2特別図柄変動処理を示すフローチャートである。なお、変形例3において、第1特別図柄変動処理は、図10-19に示した処理と同様である。図10-66において、ステップ052IWS1120B~S1125Bの処理は、図10

10

20

30

40

50

ー 2 2 に示したそれらの処理と同様であるが、変形例 3 では、図 1 0 - 2 2 に示したステップ 0 5 2 I W S 1 1 2 6 B ~ S 1 1 2 8 B の判定処理が存在しない。従って、変形例 3 では、第 1 特別図柄表示装置 4 A にて大当り図柄を導出表示していなければ（ステップ 0 5 2 I W S 1 1 2 5 B の N）、C P U 1 0 3 は、そのまま処理を終了する。

【 0 8 4 1 】

図 1 0 - 6 7 は、変形例 3 における一方の特別図柄の変動表示の実行中に他方の特別図柄の変動表示において小当りとなった場合の変動表示の制御を説明するための説明図である。

【 0 8 4 2 】

図 1 0 - 6 7 (A) , (C) に示すように、変形例 3 では、はずれや小当り、確変大当りとなる第 1 特別図柄の変動表示中に、第 2 特別図柄の変動表示において小当り図柄が停止表示された場合には、図 1 0 - 5 9 (A) , (C) と同様に、小当り図柄が停止表示されても第 1 特別図柄の変動表示が継続される。また、図 1 0 - 6 7 (D) , (F) に示すように、はずれや小当り、確変大当りとなる第 2 特別図柄の変動表示中に、第 1 特別図柄の変動表示において小当り図柄が停止表示された場合には、図 1 0 - 5 9 (D) , (F) と同様に、小当り図柄が停止表示されても第 2 特別図柄の変動表示が継続される。

【 0 8 4 3 】

また、図 1 0 - 6 7 (B) に示すように、変形例 3 では、通常大当りとなる第 1 特別図柄の変動表示中に、第 2 特別図柄の変動表示において小当り図柄が停止表示された場合には、図 1 0 - 5 9 (B) と同様に、小当り図柄が停止表示されたときに、第 1 特別図柄の変動表示もはずれ図柄で強制的に停止表示される。

【 0 8 4 4 】

一方、図 1 0 - 6 7 (E) に示すように、変形例 3 では、通常大当りとなる第 2 特別図柄の変動表示中に、第 1 特別図柄の変動表示において小当り図柄が停止表示された場合には、図 1 0 - 5 9 (E) とは異なり、小当り図柄が停止表示されても第 2 特別図柄の変動表示が継続される。

【 0 8 4 5 】

図 1 0 - 6 7 に示すように、変形例 3 では、第 1 特別図柄の変動表示を実行する場合と第 2 特別図柄の変動表示を実行する場合とで、特別図柄の変動表示をはずれ図柄で強制的に停止表示する制御が異なっている。

【 0 8 4 6 】

なお、変形例 3 では、通常大当りとなる第 1 特別図柄の変動表示の実行中に第 2 特別図柄の変動表示で小当り図柄が停止表示された場合には強制はずれ停止する一方で、通常大当りとなる第 2 特別図柄の変動表示の実行中に第 1 特別図柄の変動表示で小当り図柄が停止表示された場合には変動表示を継続する場合を示したが、そのような態様にかぎられない。例えば、逆に、通常大当りとなる第 1 特別図柄の変動表示の実行中に第 2 特別図柄の変動表示で小当り図柄が停止表示された場合には変動表示を継続する一方で、通常大当りとなる第 2 特別図柄の変動表示の実行中に第 1 特別図柄の変動表示で小当り図柄が停止表示された場合には強制はずれ停止するように構成してもよい。また、例えば、（確変大当りか通常大当りかは関係なく）大当りとなる第 1 特別図柄の変動表示の実行中に第 2 特別図柄の変動表示で小当り図柄が停止表示された場合には強制はずれ停止する一方で、（確変大当りか通常大当りかは関係なく）大当りとなる第 2 特別図柄の変動表示の実行中に第 1 特別図柄の変動表示で小当り図柄が停止表示された場合には変動表示を継続するように構成してもよい。そのように何らかの形式で、第 1 特別図柄の変動表示を実行する場合と第 2 特別図柄の変動表示を実行する場合とで、強制はずれ停止とする制御を異ならせてもよい。

【 0 8 4 7 】

（変形例 4）

図 1 0 - 6 8 は、変形例 4 における第 1 特別図柄変動処理（ステップ S 1 1 2 A）を示すフローチャートである。図 1 0 - 6 8 において、ステップ 0 5 2 I W S 1 1 2 0 A ~ S

1128Aの処理は、図10-19に示したそれらの処理と同様である。

【0848】

変形例4では、ステップ052IWS1128Aで10R確変大当りおよび6R確変大当りのいずれともならない（すなわち、6R通常大当りとなる）第1特別図柄の変動表示の実行中である場合には、CPU103は、確変フラグがセットされているか否かを確認する（ステップ052IWS1131A）。確変フラグがセットされていなければ（すなわち、確変状態でなければ）、そのまま処理を終了する。確変フラグがセットされていれば（すなわち、確変状態であれば）、CPU103は、演出制御用CPU120に第1強制図柄確定指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ052IWS1129A）。なお、ステップ052IWS1130Aの処理は、図10-19に示した処理と同様である。

10

【0849】

変形例4では、ステップ052IWS1131Aの判定処理が実行されることによって、通常大当りとなる第1特別図柄の変動表示中に、第2特別図柄の変動表示において小当り図柄が停止表示された場合に、一律に第1特別図柄の変動表示がはずれ図柄で強制的に停止表示されるのではなく、確変状態中である場合に第1特別図柄の変動表示がはずれ図柄で強制的に停止表示される。一方、通常大当りとなる第1特別図柄の変動表示中であっても、確変状態中でなければ、小当り図柄が停止表示されても第2特別図柄の変動表示が継続される。

【0850】

図10-69は、変形例4における第2特別図柄変動処理を示すフローチャートである。図10-69において、ステップ052IWS1120B～S1128Bの処理は、図10-22に示したそれらの処理と同様である。

20

【0851】

変形例4では、ステップ052IWS1128Bで10R確変大当り、6R確変大当り、および2R確変大当りのいずれともならない（すなわち、2R通常大当りとなる）第1特別図柄の変動表示の実行中である場合には、CPU103は、確変フラグがセットされているか否かを確認する（ステップ052IWS1131B）。確変フラグがセットされていなければ（すなわち、確変状態でなければ）、そのまま処理を終了する。確変フラグがセットされていれば（すなわち、確変状態であれば）、CPU103は、演出制御用CPU120に第2強制図柄確定指定コマンドを送信する制御を行う（ステップ052IWS1129B）。なお、ステップ052IWS1130Bの処理は、図10-22に示した処理と同様である。

30

【0852】

変形例4では、ステップ052IWS1131Bの判定処理が実行されることによって、通常大当りとなる第2特別図柄の変動表示中に、第1特別図柄の変動表示において小当り図柄が停止表示された場合に、一律に第2特別図柄の変動表示がはずれ図柄で強制的に停止表示されるのではなく、確変状態中である場合に第2特別図柄の変動表示がはずれ図柄で強制的に停止表示される。一方、通常大当りとなる第2特別図柄の変動表示中であっても、確変状態中でなければ、小当り図柄が停止表示されても第1特別図柄の変動表示が継続される。

40

【0853】

なお、変形例4では、確変フラグがセットされているか否か（確変状態であるか否か）によって強制的にはずれ図柄で停止表示させる制御を行う場合を示したが、そのような態様にかぎられない。例えば、特図時短フラグがセットされているか否かによって強制的にはずれ図柄で停止表示させる制御を行うように構成してもよい。また、例えば、高確率／低ベース状態（高確率フラグがオン、高ベースフラグがオフ）のときだけ、強制的にはずれ図柄で停止表示させる制御を行うように構成してもよい。そのように何らかの形式で、現在の遊技状態に応じて強制的にはずれ図柄で停止表示させる制御を行うように構成されたものであればよい。

【0854】

50

なお、上記のように高確率／低ベース状態のときだけ強制的にはずれ図柄で停止表示させる制御を行うように構成した場合、一方の識別情報の変動表示で通常大当たりとなることを防止し、第2KT状態（小当りRUSH）が途切れることを防止することができる。

【0855】

以上に説明したように、本特徴部052IWによれば、遊技者にとって有利度が異なる複数の設定値（例えば、設定値「1」～「6」）のうちいずれかの設定値に設定可能である。また、遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当り遊技状態）に制御可能であり、有利状態とは異なる状態である特殊状態（例えば、小当り遊技状態）に制御可能であり、特殊状態により遊技価値が付与されやすい特別状態（例えば、KT状態）に制御可能である。そして、特定領域（例えば、特殊入賞口）を遊技媒体（例えば、遊技球）が通過したことに伴って、設定示唆演出（例えば、小当り入賞時示唆演出）を実行可能である。そのため、設定示唆演出の興趣を向上させることができる。

10

【0856】

具体的には、本例では、高確率／第2KT状態（小当りRUSH）中に特殊入賞口に遊技球が入賞したことにもとづいて小当り入賞時示唆演出を実行可能に構成しているのであるが、小当りRUSH中は特に特殊入賞口への入賞頻度が高いので、設定示唆演出（本例では、小当り入賞時示唆演出）に注目させることができ、設定示唆演出の興趣を向上させることができる。

【0857】

なお、本例では、特定領域として特殊入賞口に遊技球が入賞したことにもとづいて設定示唆演出（本例では、小当り入賞時示唆演出）を実行する場合を示したが、そのような態様にかぎられない。例えば、特定領域として始動入賞口（入賞球装置6A、可変入賞球装置6B）や、一般入賞口10、大入賞口への遊技球の入賞にもとづいて設定示唆演出を実行可能に構成してもよい。また、特定領域としてアウト口への遊技球の進入にもとづいて設定示唆演出を実行可能に構成してもよい。また、例えば、特定領域として通過ゲート41などゲート類を遊技球が通過したことにもとづいて設定示唆演出を実行可能に構成してもよい。

20

【0858】

また、本特徴部052IWによれば、遊技者にとって有利度が異なる複数の設定値（例えば、設定値「1」～「6」）のうちいずれかの設定値に設定可能である。また、遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当り遊技状態）に制御可能であり、有利状態とは異なる状態である特殊状態（例えば、小当り遊技状態）に制御可能であり、特殊状態により遊技価値が付与されやすい特別状態（例えば、KT状態）に制御可能である。また、設定示唆演出（例えば、賞球数表示示唆演出）を実行可能であり、特別状態に制御される期間の長さによって、設定示唆演出の実行されやすさが異なる（例えば、図10-43に示すように、賞球数が456個に達したときには3%の確率で賞球数表示示唆演出Aを実行可能であり、賞球数が555個に達したときには2%の確率で賞球数表示示唆演出Bを実行可能であり、賞球数が666個に達したときには1%の確率で賞球数表示示唆演出Cを実行可能であり、賞球数が2456個に達したときには5%の確率で賞球数表示示唆演出Dを実行可能であり、賞球数が2555個に達したときには3%の確率で賞球数表示示唆演出Eを実行可能であり、賞球数が2666個に達したときには2%の確率で賞球数表示示唆演出Fを実行可能である）。そのため、設定示唆演出の興趣を向上させることができる。

30

40

【0859】

なお、本例では、「特別状態に制御される期間の長さ」として、賞球数が456個や、555個、666個、2456個、2555個、2666個に到達したタイミング（言い換えれば、ある特定の遊技価値が付与されるまでの期間）で賞球数表示示唆演出を実行する場合を示しているが、そのような態様にかぎられない。例えば、「特別状態に制御される期間の長さ」は、有利状態（本例では、大当り遊技状態）に制御される期間の長さや、特殊状態（本例では、小当り遊技状態）に制御される期間の長さであってもよいし、これらの合計期間の長さであってもよい。

50

【0860】

また、「特別状態に制御される期間の長さ」として有利状態（例えば、大当り遊技状態）に制御される期間の長さを用いる場合、大当り遊技のファンファーレからエンディングまでの期間の長さを用いてもよいし、大当り遊技中のラウンド遊技のみの期間の長さを用いてもよい。この場合、例えば、大当り遊技のファンファーレからエンディングまでの期間が長い大当りほど、高い割合で賞球数表示示唆演出を実行するように構成してもよい。また、例えば、大当り遊技中のラウンド数が少ない大当りの場合には、ラウンド数が多い大当りと比較して、高い割合で賞球数表示示唆演出を実行するように構成してもよい。

【0861】

また、例えば、「特別状態に制御される期間の長さ」として、高確率／第2KT状態中に発生した小当り回数や、高確率／第2KT状態中に実行された変動表示の実行回数に応じて、賞球数表示示唆演出を実行するように構成してもよい。この場合、例えば、小当り回数が多いほど高い割合で賞球数表示示唆演出を実行したり、変動表示の実行回数が多いほど高い割合で賞球数表示示唆演出を実行したりしてもよい。また、例えば、高確率／第2KT状態（小当りRUSH）が終了するタイミングで高い割合で賞球数表示示唆演出を実行してもよく、「特別状態に制御される期間の長さ」として様々な態様が考えられる。

【0862】

なお、一般に遊技機において、賞球数がある特定の数に達して「×××× OVER」などの表示を行う場合には、本例で示した賞球数強調演出の「1000 OVER」や「2000 OVER」などの表示のように賞球1000個単位で表示するなど、ある程度限がよい単位で表示される。これに対して、本例で示した賞球数表示示唆演出は、賞球数が456個や、555個、666個、2456個、2555個、2666個に到達したタイミングという通常とは異なるタイミングで実行されるので、賞球数表示示唆演出の発生タイミングに違和感を与えつつ、高設定を期待させることができ、遊技に対する興味を向上させることができる。

【0863】

また、本特徴部052IWによれば、可変表示の表示結果として特定表示結果（例えば、大当り図柄）が導出表示されたときに、有利状態（例えば、大当り遊技状態）に制御可能である。また、可変表示の表示結果として特定表示結果とは異なる特殊表示結果（例えば、小当り図柄）が導出表示されたときに、特殊状態（例えば、小当り遊技状態）に制御可能である。また、可変表示の表示結果を決定するための判定値（例えば、大当り判定用の判定値、小当り判定用の判定値）を用いて、可変表示の表示結果を決定する。また、判定値には、可変表示の表示結果として特定表示結果を導出表示することを決定するための特定判定値（例えば、大当り判定用の判定値）と、可変表示の表示結果として特殊表示結果を導出表示することを決定するための特殊判定値（例えば、小当り判定用の判定値）が含まれる。また、特定判定値の数が異なる複数の設定値（例えば、設定値「1」～「6」）のうちのいずれかの設定値に設定可能である。また、特殊判定値の数は、設定値によらず共通である（図10-3および図10-4参照）。そのため、適切な遊技性を実現することができる。

【0864】

また、本特徴部052IWによれば、特殊状態への制御に対応して、設定示唆演出を実行可能である（例えば、高確率／第2KT状態中に小当りとなり特殊入賞口に遊技球が入賞したことにもとづいて、小当り入賞時示唆演出や賞球数表示示唆演出を実行可能である）。そのため、特殊状態への制御に関連させて設定示唆演出の興味を向上させることができる。

【0865】

なお、本例では、特殊入賞口に遊技球が入賞したことにもとづいて設定示唆演出（本例では、小当り入賞時示唆演出、賞球数表示示唆演出）を実行する場合を示しているが、そのような態様にかぎられない。例えば、小当り変動中や、特殊可変入賞球装置17を開状態に制御したとき、小当り遊技の開始時に設定示唆演出を実行するように構成してもよい

。また、例えば、小当りが発生したときの小当り報知態様を変化させることにより、設定示唆演出を実行するように構成してもよい。そのように何らかの形式で、小当りへの制御に対応して設定示唆演出を実行するものであればよい。

【0866】

また、本特徴部052IWによれば、有利状態に制御されているときおよび特殊状態に制御されているときに、可変手段（例えば、特別可変入賞球装置7、特殊可変入賞球装置17）を遊技媒体（例えば、遊技球）が進入容易な進入容易状態（例えば、開状態）と進入困難または不可能な進入非容易状態（例えば、閉状態）とに制御可能である。また、可変手段が進入容易状態に制御されたことに対応して、設定示唆演出を実行可能である（例えば、特別可変入賞球装置7や特殊可変入賞球装置17が開状態となって、大入賞口や特殊入賞口への遊技球の入賞が発生したことにもとづいて、小当り入賞時示唆演出や賞球数表示示唆演出を実行可能である）。そのため、可変手段の制御に関連させて設定示唆演出の興趣を向上させることができる。

10

【0867】

なお、本例では、大入賞口や、特殊入賞口に遊技球が入賞したことにもとづいて設定示唆演出（本例では、小当り入賞時示唆演出、賞球数表示示唆演出）を実行する場合を示しているが、そのような態様にかぎられない。例えば、特別可変入賞球装置7や特殊可変入賞球装置17が開状態に制御されたときに開放演出を実行する場合に、その開放演出の演出態様を変化させることにより、設定示唆演出を実行するように構成してもよい。そのように何らかの形式で、可変手段が進入容易状態に制御されたことに対応して、設定示唆演出を実行するものであればよい。

20

【0868】

また、本特徴部052IWによれば、遊技状態の制御が切り替わる時（例えば、大当り遊技の開始時や終了時、低確率／第1KT状態から通常状態（低確率／低ベース状態）に移行するとき）に、設定示唆演出を実行可能である（例えば、ステップ052IWS624で右打ち表示の表示態様（例えば、表示色）を変化させる）。そのため、遊技状態の制御の切り替わりに関連させて設定示唆演出の興趣を向上させることができる。

【0869】

なお、本例では、「遊技状態の制御が切り替わる時」として、大当り遊技の開始時や終了時、低確率／第1KT状態から通常状態（低確率／低ベース状態）に移行するとき、設定示唆演出を実行可能に構成する場合を示しているが、そのような態様にかぎられない。例えば、高確率／第2KT状態（小当りRUSH）中に大当り遊技に移行するときの演出期間や、大当り遊技から高ベース状態（高確率／第1KT状態や低確率／第1KT状態）に移行するときの演出期間において、設定示唆演出を実行可能に構成してもよい。また、例えば、高ベース状態中に所定回数の変動表示を実行したり所定回数の小当りが発生したことにもとづいて高確率／第2KT状態（小当りRUSH）に移行するように構成した遊技機において、高ベース状態から高確率／第2KT状態（小当りRUSH）に移行するときの演出期間において、設定示唆演出を実行可能に構成してもよく、「遊技状態の制御が切り替わる時」として様々な態様が考えられる。

30

【0870】

また、本例では、右打ち表示や左打ち表示の表示態様を変化させることによって、設定示唆演出を実行する場合を示しているが、そのような態様にかぎられない。例えば、大当り開始時のファンファーレ演出や、大当り終了時のエンディング演出の演出態様を変化させることにより、設定示唆演出を実行するように構成してもよく、様々な態様が考えられる。

40

【0871】

また、本特徴部052IWによれば、特別状態中における特殊状態への制御回数、特別状態中における特殊状態により付与された遊技価値の合計、または特別状態中における可変表示の実行回数に応じて、異なる選択割合により設定示唆演出を実行可能である（例えば、賞球数が456個、555個、666個、2456個、2555個、または2666

50

個に到達したことに応じて、異なる選択割合で賞球数表示示唆演出A～Fを実行する。または、例えば、高確率／第2KT状態中に発生した小当たり回数や、高確率／第2KT状態中に実行された変動表示の実行回数に応じて、異なる選択割合で賞球数表示示唆演出A～Fを実行するように構成してもよい。）。そのため、特殊状態への制御回数、遊技価値の合計、または可変表示の実行回数に関連させて設定示唆演出の興趣を向上させることができる。

【0872】

また、本特徴部052IWによれば、特別状態として、有利特別状態（例えば、第2KT状態）と、該有利特別状態と比較して遊技者にとって不利な不利特別状態（例えば、第1KT状態）とに制御可能である。また、有利特別状態中に特定領域を遊技媒体が通過したときと、不利特別状態中に特定領域を遊技媒体が通過したときとで、異なる選択割合により設定示唆演出を実行可能である（例えば、第2KT状態中に小当たりとなって特殊入賞口に遊技球が入賞した場合のみ、小当たり入賞時示唆演出や賞球数表示示唆演出を実行可能である）。そのため、特別状態の種類に関連させて設定示唆演出の興趣を向上させることができる。

【0873】

なお、本例では、第2KT状態中に特殊入賞口に遊技球が入賞した場合のみ小当たり入賞時示唆演出や賞球数表示示唆演出を実行可能に構成する場合を示しているが、そのような態様にかぎられない。例えば、第1KT状態中に特殊入賞口に遊技球が入賞した場合にも小当たり入賞時示唆演出や賞球数表示示唆演出を実行可能に構成し、第2KT状態中に特殊入賞口に遊技球が入賞した場合であるか、第1KT状態中に特殊入賞口に遊技球が入賞した場合であるかに応じて、異なる割合で小当たり入賞時示唆演出や賞球数表示示唆演出を実行可能に構成してもよい。また、例えば、非KT状態中に特殊入賞口へのイレギュラーな遊技球の入賞が発生した場合にも、小当たり入賞時示唆演出や賞球数表示示唆演出を実行可能に構成してもよい。

【0874】

上記のように構成した場合、第1KT状態（高ベース状態）中の特殊入賞口への入賞やイレギュラー入賞が発生した場合には、第2KT状態中に特殊入賞口への入賞が発生した場合と比較して、高い割合で小当たり入賞時示唆演出や賞球数表示示唆演出を実行するように構成してもよいし、低い割合で小当たり入賞時示唆演出や賞球数表示示唆演出を実行するように構成してもよい。

【0875】

なお、本特徴部052IWでは、10R確変大当たり、6R確変大当たり、および6R通常大当たりにもとづく大当たり遊技中と高確率／第2KT状態（小当たりRUSH）中に賞球数カウンタの値および賞球数表示を更新し、2R確変お当たりおよび2R通常大当たりにもとづく大当たり遊技中と高ベース状態（高確率／第1KT状態、低確率／第1KT状態）中は賞球数カウンタの値を更新しない（ただし、賞球数カウンタのリセットまではしない）とともに、原則として賞球数表示を非表示とし、低確率／第1KT状態において50回の変動表示を終了して通常状態（低確率／低ベース状態）に移行したときに賞球数カウンタの値をリセットするように制御する場合を示したが、そのような態様にかぎられない。2R確変大当たりや2R通常大当たりにもとづく大当たり遊技中も賞球数カウンタの値を更新するように構成してもよい。

【0876】

なお、本例では、上記のように構成されていることによって、例えば、高確率／第2KT状態（小当たりRUSH）を終了して高ベース状態（高確率／第1KT状態、低確率／第1KT状態）に移行した後、その高ベース状態中に10R確変大当たりや2R確変大当たりが発生して再び高確率／第2KT状態（小当たりRUSH）に移行した場合に、前回の小当たりRUSH中の賞球数を引き継いだ状態で賞球数カウンタの値を更新するとともに賞球数表示を表示することができる。

【0877】

また、本例で示したような賞球数表示の態様にかぎらず、例えば、10R確変大当たりとなって高確率／第2KT状態（小当たりRUSH）に移行する場合に、高確率／第2KT状態（小当たりRUSH）中とその直前の大当たり遊技中とを一区間として、その区間中の賞球数を集計して集計値を表示するように構成してもよい。また、例えば、その集計値の表示態様（本例では、表示色）を変化させることによって、現在の設定値を示唆する設定示唆演出を実行するように構成してもよい。

【0878】

また、本特徴部052IWでは、「設定示唆演出」として、現在の設定値が設定値「1」～「6」のいずれかを示唆する態様で小当たり入賞時示唆演出や賞球数表示示唆演出を実行する場合を示したが、そのような態様にかぎられない。例えば、現在の設定値を示唆するのではなく、遊技機への電源投入時に設定値を変更する設定変更が行われたか否かを示唆する態様により設定示唆演出を実行するように構成してもよい。そのように、「設定示唆演出」とは、何らかの形式で設定に関する示唆を行うものであればよい。

【0879】

また、本特徴部052IWによれば、第1識別情報（例えば、第1特別図柄）の可変表示と第2識別情報（例えば、第2特別図柄）の可変表示とを並行して実行可能であり、可変表示の表示結果として特定表示結果（例えば、大当たり図柄）が導出表示されたときに遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当たり遊技状態）に制御可能であり、可変表示の表示結果として特殊表示結果（例えば、小当たり図柄）が導出表示されたときに有利状態とは異なる特殊状態（例えば、小当たり遊技状態）に制御可能である。また、特定表示結果には、第1特定表示結果（例えば、確変大当たり図柄）と第2特定表示結果（例えば、通常大当たり図柄）とがあり、第1特定表示結果が導出表示される方が、第2特定表示結果が導出表示されるよりも、遊技者にとっての有利度が高い（例えば、大当たり遊技終了後に確変状態に制御される）。また、第1識別情報および第2識別情報のうちの一方の識別情報の可変表示であって第1特定表示結果に対応する可変表示の実行中に、他方の識別情報の可変表示において特殊表示結果を導出表示したことにもとづいて、該一方の識別情報の可変表示の表示結果を導出表示しない（例えば、第1変動時間タイマまたは第2変動時間タイマの更新が中断され、第1特別図柄または第2特別図柄の変動表示が継続して実行される）。また、第1識別情報および第2識別情報のうちの一方の識別情報の可変表示であって第2特定表示結果に対応する可変表示の実行中に、他方の識別情報の可変表示において特殊表示結果を導出表示したことにもとづいて、該一方の識別情報の可変表示を所定表示結果（例えば、はずれ図柄）で導出表示する（例えば、第1特別図柄または第2特別図柄の変動表示がはずれ図柄で強制的に停止表示される）。そのため、可変表示の表示結果の有利度合いを考慮した制御を実現できる。

【0880】

具体的には、第2KT状態（小当たりRUSH）または確変状態に移行したにもかかわらず、一方の識別情報の残り保留に対応する変動表示で通常大当たり（非確変大当たり）となる場合には、第2KT状態（小当たりRUSH）または確変状態が直ぐに終了してしまうことになり、遊技に対する興味が低下してしまうおそれがある。一方で、その一方の識別情報の残り保留に対応する変動表示で一律に強制的にはずれ図柄を停止表示（強制はずれ）させてしまうと、確変大当たりとなる変動表示であっても強制はずれとすることになり、有利状態（大当たり遊技状態）において遊技者に付与される遊技価値が減少してしまい好ましくない。そこで、本特徴部052IWでは、通常大当たり（非確変大当たり）となる変動表示を対象に強制はずれとする一方で、確変大当たりとなる変動表示については変動延長（変動時間の計測を中断）することにより、遊技者に付与される遊技価値の減少を抑えつつ、遊技に対する興趣を向上できるようにしている。

【0881】

なお、本例では、「一方の識別情報の可変表示を停止しない」態様として、第1変動時間タイマまたは第2変動時間タイマの更新を中断し、第1特別図柄または第2特別図柄の変動表示を継続して実行する場合を示したが、そのような態様にかぎられない。例えば、

第1特別図柄や第2特別図柄の変動表示を中断（一時停止）し、小当り遊技終了後に中断していた第1特別図柄や第2特別図柄の変動表示を再開するように構成してもよい。そのように何らかの形式で可変表示を完全には停止しないものであればよい。

【0882】

また、本特徴部052IWによれば、特殊状態による遊技価値（例えば、賞球）が付与されやすい特別状態（例えば、第2KT状態）に制御可能である。そのため、特殊状態による遊技価値が付与されやすい状況を設けることにより、遊技に対する興趣を向上させることができる。

【0883】

また、本特徴部052IWによれば、有利状態とは異なる状態であって、非特定状態（例えば、低確率状態）と比較して有利状態に制御されやすい特定状態（例えば、高確率状態（確変状態））に制御可能である。また、第1特定表示結果が導出表示されたことにもとづいて特定状態に制御し（例えば、確変大当りにもとづく大当り遊技の終了後に確変状態に制御する）、第2特定表示結果が導出表示されたことにもとづいて非特定状態に制御する（例えば、通常大当りにもとづく大当り遊技の終了後に確変状態に制御しない）。そのため、特定状態に制御されるか否かを考慮した制御を実現できる。

【0884】

また、本特徴部052IWによれば、有利状態とは異なる状態であって、非特定状態（例えば、低確率状態）と比較して有利状態に制御されやすい特定状態（例えば、高確率状態（確変状態））に制御可能である。また、有利状態に制御されているときに特定領域（例えば、V領域052IW104）を遊技媒体（例えば、遊技球）が通過したことにもとづいて、特定状態に制御可能である。そして、第1特定表示結果が導出表示された場合に、第2特定表示結果が導出表示された場合と比較して、有利状態に制御されているときに高い割合により特定領域を遊技媒体が通過する（図10-11参照）。そのため、特定領域を遊技媒体が通過しやすいか否かを考慮した制御を実現できる。

【0885】

また、本特徴部052IWによれば、第1識別情報の可変表示を実行する場合と第2識別情報の可変表示を実行する場合のいずれであっても、特殊表示結果を導出表示可能である（図10-3、図10-4参照）。また、第1識別情報の可変表示であって第2特定表示結果に対応する可変表示の実行中に、第2識別情報の可変表示において特殊表示結果を導出表示したことにもとづいて、第1識別情報の可変表示を所定表示結果で導出表示する（図10-67（B）参照）。また、第2識別情報の可変表示であって第2特定表示結果に対応する可変表示の実行中に、第1識別情報の可変表示において特殊表示結果を導出表示した場合には、第2識別情報の可変表示を所定表示結果で導出表示する制御を行わない（図10-67（E）参照）。そのため、可変表示の表示結果の有利度合いに加えて、第1識別情報の可変表示であるか第2識別情報の可変表示であるかを考慮した制御を実現できる。

【0886】

また、本特徴部052IWによれば、有利状態とは異なる状態であって、非特定状態（例えば、低確率状態）と比較して有利状態に制御されやすい特定状態（例えば、高確率状態（確変状態））に制御可能である。また、可変表示実行手段は、特定状態に制御されているときに、第1識別情報および第2識別情報のうちの一方の識別情報の可変表示であって第2特定表示結果に対応する可変表示の実行中に、他方の識別情報の可変表示において特殊表示結果を導出表示したことにもとづいて、該一方の識別情報の可変表示を所定表示結果で導出表示する（図10-68、図10-69参照）。また、非特定状態に制御されているときに、第1識別情報および第2識別情報のうちの一方の識別情報の可変表示であって第2特定表示結果に対応する可変表示の実行中に、他方の識別情報の可変表示において特殊表示結果を導出表示した場合には、該一方の識別情報の可変表示を所定表示結果で導出表示する制御を行わない（図10-68、図10-69参照）。そのため、可変表示の表示結果の有利度合いに加えて、特定状態に制御されているか否かを考慮した制御を実

10

20

30

40

50

現できる。

【0887】

また、本特徴部052IWによれば、第1始動領域（例えば、第1始動入賞口）を遊技媒体（例えば、遊技球）が進入したことにもとづいて第1識別情報（例えば、第1特別図柄）の可変表示を実行可能であり、第2始動領域（例えば、第2始動入賞口）を遊技媒体が進入したことにもとづいて第2識別情報（例えば、第2特別図柄）の可変表示を実行可能である。また、遊技媒体が進入可能な第1状態（例えば、開状態）と遊技媒体が進入困難または進入不可能な第2状態（例えば、閉状態）とに変化可能な可変手段（例えば、特殊可変入賞球装置17）を備える。また、第1識別情報および第2識別情報のいずれかの可変表示が実行された後に、遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当り遊技状態）と該有利状態よりも有利度が低い特殊状態（例えば、小当り遊技状態）とのいずれかに制御可能であり、特殊状態に制御されているときに可変手段を第1状態に制御する。また、第1始動領域は、遊技媒体が移動可能な移動経路のうち所定経路（例えば、遊技領域の左方領域）を移動する遊技媒体が進入可能に設けられ、可変手段は、移動経路のうち特定経路（例えば、遊技領域の右方領域）を移動する遊技媒体が進入可能に設けられている。また、特定経路への遊技媒体の発射を促進するための特定報知（例えば、図10-56（1）、（2）に示す右打ち報知）を実行可能であり、第1識別情報の可変表示が実行された後に特殊状態に制御されるときには、特定報知を実行しない（例えば、図10-56（3）参照）。そのため、遊技媒体の発射の促進について適切な報知を行うことができる。

【0888】

具体的には、本特徴部052IWに示したように、第1特別図柄の変動表示と第2特別図柄の変動表示とが並行して実行可能であり、第1特別図柄側の小当り種別の方が第2特別図柄側の小当り種別よりも特殊入賞口への入賞割合（有利度）が低くなるように構成され、第1特別図柄の変動表示において小当りとなったときに第2特別図柄の変動表示を強制的にはずれ停止させるように構成した場合に、入賞割合（有利度）が低い第1特別図柄側の小当りに対して右打ち報知を実行してしまうと、実質的に殆ど特殊入賞口への入賞が期待できないのに遊技者が遊技球を無駄打ちすることになり、却って不利な発射促進報知を行うことになってしまい好ましくない。そこで、本例では、第2特別図柄側の小当りに対しては右打ち報知を実行する一方で、第1特別図柄側の小当りに対しては右打ち報知を実行しないようにすることにより、遊技者の無駄打ちによる不利益の発生を抑制することができ、適切な報知を実現することができる。

【0889】

また、本特徴部052IWによれば、第1識別情報の可変表示に関する情報を、保留記憶として記憶可能な第1保留記憶手段（例えば、第1保留記憶バッファ）と、第2識別情報の可変表示に関する情報を、保留記憶として記憶可能な第2保留記憶手段（例えば、第2保留記憶バッファ）とを備える。また、第1識別情報の可変表示の表示結果または第2識別情報の可変表示の表示結果として特定表示結果（例えば、大当り図柄）が導出表示されたときに有利状態（例えば、大当り遊技状態）に制御可能であるとともに、第1識別情報の可変表示の表示結果または第2識別情報の可変表示の表示結果として特殊表示結果（例えば、小当り図柄）が導出表示されたときに特殊状態（例えば、小当り遊技状態）に制御可能である。また、第2識別情報の可変表示の表示結果が特殊表示結果となる頻度を高めた特別状態（例えば、KT状態）に制御可能である。また、第1識別情報の可変表示と第2識別情報の可変表示とを並行して実行しているときに、一方の可変表示の表示結果として特殊表示結果を導出表示させたことにもとづいて、他方の可変表示の表示結果として特定表示結果および特殊表示結果とは異なる所定表示結果（例えば、はずれ図柄）を導出表示させる。そのため、可変表示を強制的に終了させることができ、保留記憶を円滑に消化することができる。

【0890】

また、本特徴部052IWによれば、特殊状態に制御されたときに所定価値を付与可能（例えば、特殊入賞口への遊技球の入賞にもとづき10個の賞球を払い出す）であると

もに、有利状態に制御されたときに所定価値よりも高い価値を付与可能（例えば、大入賞口への遊技球の入賞にもとづき15個の賞球を払い出す）である。また、特定報知として、第1特定報知（例えば、図10-56（1），（2）に示す右打ち表示器26および右打ち報知用LED37の点灯）と、該第1特定報知よりも視認性が高い第2特定報知（例えば、図10-56（1）に示す右打ち表示052IW007の表示）とを実行可能である。また、有利状態に制御されるときには、第1特定報知および第2特定報知を実行し（図10-56（1）参照）、第2識別情報の可変表示が実行された後に特殊状態に制御されるときには、第1特定報知を実行し、第2特定報知を実行しない（図10-56（2）参照）。そのため、付与可能な価値に対応した報知を実現することができる。

【0891】

また、本特徴部052IWによれば、複数種類の特殊状態（例えば、小当りA～C）に制御可能である。また、第1識別情報の可変表示が実行された後に特殊状態に制御されるときには、第2識別情報の可変表示が実行された後に特殊状態に制御されるときと比較して、高い割合により有利度が低い種類の特殊状態（例えば、小当りA）に制御する。また、第2識別情報の可変表示が実行された後に特殊状態に制御されるときに、特定報知を実行する（図10-56（2），（3）参照）。そのため、遊技者の有利度を考慮した適切な報知を実現することができる。

【0892】

また、本特徴部052IWによれば、少なくとも第1識別情報の可変表示に対応して可変表示演出（例えば、飾り図柄の変動表示）を実行可能である。また、特殊状態に制御されるときと特殊状態に制御されないときとで共通態様の可変表示演出を実行可能である（例えば、第1特別図柄の変動表示が実行されて小当りとなる場合には、強制的に非リーチはずれ図柄を停止表示する）。そのため、第1識別情報の可変表示が実行された後に特殊状態に制御されることに対する遊技者への認識性を低下させることができる。また、その上で、第2保留記憶手段が記憶する保留記憶を円滑に消化することができる。

【0893】

また、本特徴部052IWによれば、特定経路における可変手段の上流側に、遊技媒体の移動を遅延させるための遅延手段（例えば、可変入賞球装置6Bに設けられた規制片）を備える。そのため、通常時に第2識別情報の可変表示が実行された後の特殊状態への制御が実行されるタイミングに対して狙い打ちされることを防止することができる。従って、遊技機に対する攻略対策を強化することができる。

【0894】

なお、遅延手段は、本例で示した態様にかぎられない。例えば、遊技領域の右方に設けられた可変入賞球装置6Bや特殊可変入賞球装置17の上流側に、遅延手段として、遊技球が左右に蛇行するように移動させる通路部材を設けるように構成してもよい。

【0895】

また、本特徴部052IWによれば、遊技の進行を制御する遊技制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103））と、遊技制御手段からの情報にもとづいて演出を制御する演出制御手段（例えば、演出制御用CPU120）とを備える。また、遊技制御手段は、所定の報知を行う報知手段（例えば、右打ち表示器26）による報知の実行を制御する。また、演出制御手段は、報知手段による報知に対応して特定報知（例えば、右打ち報知用LED37の点灯）を実行する。そのため、演出制御手段の処理負担を軽減しつつ、適切な報知を実現することができる。

【0896】

なお、本例では、第1特別図柄の変動表示が実行された場合であるか第2特別図柄の変動表示が実行された場合であるかに関係なく、大当り遊技中に右打ち報知を実行する場合を示しているが、そのような態様にかぎられない。例えば、遊技領域の左方に特別可変入賞球装置（左大入賞口）が設けられているとともに遊技領域の右方にも特別可変入賞球装置（右大入賞口）が設けられ、第1特別図柄の変動表示で大当りとなった場合には大当り遊技中に左大入賞口を開放し、第2特別図柄の変動表示で大当りとなった場合には大当り

10

20

30

40

50

遊技中に右大入賞口を開放するように構成された遊技機に適用する場合には、第2特別図柄の変動表示で大当たりとなった場合には大当たり遊技中に右打ち報知を実行する一方で、第1特別図柄の変動表示で大当たりとなった場合には大当たり遊技中に右打ち報知を実行しないように構成してもよい。また、このように構成した場合には、第1特別図柄の変動表示で大当たりとなった場合には大当たり遊技中に左打ち報知を実行するように構成してもよい。すなわち、特定報知実行手段は、可変手段（この例では、右大入賞口）を制御対象とした種別の有利状態に制御されるときに、特定報知を実行するように構成してもよい。そのように構成すれば、第1特別図柄の変動表示で大当たりとなった場合には大当たり遊技中に左打ち報知を実行することにより、遊技者が誤って右打ち操作を行うことを抑制することができ、遊技者の不利益の発生を抑えることができる。

10

【0897】

また、本例では、可変入賞球装置6B（第2始動入賞口）が遊技領域の右方に設けられていることから、KT状態中も右打ち報知を実行する場合を示したが、そのような態様にかぎられない。例えば、第2始動入賞口が遊技領域の左方に設けられた遊技機に適用する場合には、KT状態中や高ベース状態中、時短状態中に右打ち報知を実行しないように構成してもよい。

【0898】

また、本例では、大当たり遊技中のみ右打ち表示器26および右打ち報知用LED37の点灯の点灯に加えて画像表示装置5の表示画面において右打ち表示052IW007を表示することにより右打ち報知を実行する場合を示したが、そのような態様にかぎられない。例えば、第2KT状態中（小当りRUSH中）であっても、大当たり遊技終了後の最初の変動表示を実行する場合には、右打ち表示器26および右打ち報知用LED37の点灯の点灯に加えて画像表示装置5の表示画面において右打ち表示052IW007を表示することにより右打ち報知を実行するように構成してもよい。または、この場合、例えば、大当たり遊技終了時のエンディング期間において、右打ち表示器26および右打ち報知用LED37の点灯の点灯に加えて画像表示装置5の表示画面において右打ち表示052IW007を表示することにより右打ち報知を実行するように構成してもよい。

20

【0899】

また、本例では、画像表示装置5の表示画面において表示する右打ち表示は、本例で示した態様にかぎられない。例えば、図10-56（1）で示したような比較的大きなサイズの右打ち表示052IW007とは別に、画像表示装置5において右打ちを示す記号表示（例えば、右向きの三角形表示）を表示することにより、右打ち報知を実行可能に構成してもよい。

30

【0900】

また、小当り制御の仕方は、本例で示した態様にかぎられない。例えば、複数の特殊可変入賞球装置を備え、小当り種別に応じて開放対象となる特殊可変入賞球装置（特殊入賞口）が異なるように構成し、第1特別図柄の変動表示で小当りとなる場合と第2特別図柄の変動表示で小当りとなる場合とで小当り種別の選択割合が異なるように構成してもよい。この場合、第1特別図柄の変動表示を実行する場合には、賞球数が少ない特殊可変入賞球装置が開放する小当り種別（または入賞率が低い開放態様の小当り種別）が選択されやすく、第2特別図柄の変動表示を実行する場合には、賞球数が多い特殊可変入賞球装置が開放する小当り種別（または入賞率が高い開放態様の小当り種別）が選択されやすくなるように構成してもよい。

40

【0901】

また、本例では、第2特別図柄の変動表示において小当りが発生した場合には小当り遊技中に右打ち報知を行い（図10-56（2）参照）、第1特別図柄の変動表示において小当りが発生した場合には小当り遊技中に右打ち報知を行わない（図10-56（3）参照）場合を示したが、第2特別図柄の変動表示において小当りが発生した場合にも右打ち報知を行わない場合があるように構成してもよい。例えば、通常状態中であり左打ち操作を行うべき状況において第2特別図柄の変動表示が実行されて小当りが発生した場合には

50

、その小当り遊技中に右打ち報知を行わないように構成してもよい。

【0902】

また、本特徴部052IWによれば、可変表示の表示結果として特定表示結果（例えば、大当り図柄）が導出表示されたときに、遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当り遊技状態）に制御可能である。また、可変表示の表示結果として特定表示結果とは異なる特殊表示結果（例えば、小当り図柄）が導出表示されたときに、有利状態とは異なる特殊状態（例えば、小当り遊技状態）に制御可能である。また、可変表示の表示結果を決定するための判定値（例えば、大当り判定用の判定値、小当り判定用の判定値）を用いて、可変表示の表示結果を決定する。また、非特定状態（例えば、非確変状態）と該非特定状態よりも有利状態に制御されやすい特定状態（例えば、確変状態）とに制御可能である。また、判定値には、可変表示の表示結果として特定表示結果を導出表示することを決定するための特定判定値（例えば、大当り判定用の判定値）と、可変表示の表示結果として特殊表示結果を導出表示することを決定するための特殊判定値（例えば、小当り判定用の判定値）とが含まれる。また、特定判定値の数が異なる複数の設定値（例えば、設定値「1」～「6」）のうちのいずれかの設定値に設定可能である。また、特殊判定値の数は、設定値によらず共通であり、かつ非特定状態に制御されているときと特定状態に制御されているときとで共通である（図10-3および図10-4参照）。そのため、適切な遊技性を実現することができる。

10

【0903】

具体的には、設定値によって大当り当選確率以外の抽選確率や種別振り分けが変化すると、設定値によって有利度合いの差（出玉性能の差）が顕著になりすぎ、射幸性が過度に高くなるおそれがある。そこで、本特徴部052IWでは、特殊判定値の数を設定値によらず共通とする（小当り当選確率を共通とする）ことにより、設定値によって有利度合いの差が過度に大きくなることを防止し、射幸性が過度に高くなることを防止している。

20

【0904】

また、本特徴部052IWによれば、第1識別情報の可変表示と第2識別情報の可変表示とを並行して実行可能（例えば、第1特別図柄の変動表示と第2特別図柄の変動表示とを並行して実行可能である）である。また、第2識別情報の可変表示の表示結果が特殊表示結果（例えば、小当り図柄）となる頻度を高めた特別状態（例えば、KT状態）に制御可能である。そのため、特別状態に制御可能な遊技機において、適切な遊技性を実現することができる。

30

【0905】

また、本特徴部052IWによれば、特別状態として、第1特別状態（例えば、第1KT状態）と該第1特別状態よりも有利度が高い第2特別状態（例えば、第2KT状態）とに制御可能である。そのため、第2特別状態に制御可能な遊技機において、適切な遊技性を実現することができる。

【0906】

また、本特徴部052IWによれば、特別状態の有利度に対応した特別示唆演出（例えば、図10-55に示す小当りRUSH継続示唆演出）を実行可能である。そのため、特別状態の有利度が示唆されることにより、遊技に対する興趣を向上させることができる。

40

【0907】

また、本特徴部052IWによれば、可変表示の表示結果として特定表示結果（例えば、大当り図柄）および特殊表示結果（例えば、小当り図柄）とは異なる所定表示結果（例えば、はずれ図柄）が導出表示される可変表示が実行されるときに、設定値を示唆する設定値示唆演出（例えば、図10-54に示す設定値示唆演出）を実行可能である。そのため、設定値示唆演出を実行することにより、遊技に対する興趣を向上させることができる。

【0908】

なお、本例では、はずれとなる変動表示において小当りRUSH継続示唆演出や設定値示唆演出を実行する場合を示したが、そのような態様にかぎられない。例えば、大当り遊技中や小当り遊技中に小当りRUSH継続示唆演出や設定値示唆演出を実行するように構

50

成してもよく、様々な態様が考えられる。

【0909】

また、本特徴部052IWによれば、複数種類の特殊状態（例えば、小当りA～C）に制御可能である。また、特殊状態の種類を決定するための特殊種類判定値（例えば、小当り種別判定値）を用いて、特殊状態の種類を決定する。また、特殊種類判定値の数は、設定値によらず共通である（図10-6参照）。そのため、より適切な遊技性を実現することができる。

【0910】

具体的には、本特徴部052IWでは、特殊種類判定値の数を設定値によらず共通とする（小当り種別の振り分けを共通とする）ことにより、設定値によって有利度合いの差が過度に大きくなることを防止し、射幸性が過度に高くなることを防止している。

10

【0911】

なお、本例では、図10-6に示すように、設定値「1」～「6」のいずれであるかに関係なく、小当り種別の割り振りが同じである場合を示したが、そのような態様にかぎられない。例えば、設定値「1」～「6」のいずれであるかに応じて小当り種別の決定割合を異ならせて、設定値によって有利度に差が出るように構成してもよい。

【0912】

また、本特徴部052IWによれば、複数種類の有利状態（例えば、10R確変大当り、6R確変大当り、6R通常大当り、2R確変大当り、2R通常大当り）に制御可能である。また、有利状態の種類を決定するための有利種類判定値（例えば、大当り種別判定値）を用いて、有利状態の種類を決定する。また、有利種類判定値の数は、設定値によらず共通である（図10-5参照）。そのため、より適切な遊技性を実現することができる。

20

【0913】

具体的には、本特徴部052IWでは、有利種類判定値の数を設定値によらず共通とする（大当り種別の振り分けを共通とする）ことにより、設定値によって有利度合いの差が過度に大きくなることを防止し、射幸性が過度に高くなることを防止している。

【0914】

なお、本例では、図10-5に示すように、設定値「1」～「6」のいずれであるかに関係なく、大当り種別の割り振りが同じである場合を示したが、そのような態様にかぎられない。例えば、設定値「1」～「6」のいずれであるかに応じて大当り種別の決定割合を異ならせて、設定値によって有利度に差が出るように構成してもよい。

30

【0915】

また、本特徴部052IWによれば、可変表示態様を決定するための可変表示態様判定値（例えば、変動パターン判定値）を用いて、可変表示態様を決定する。また、可変表示態様判定値の数は、設定値によらず共通である（図10-10参照）。そのため、より適切な遊技性を実現することができる。

【0916】

具体的には、本特徴部052IWでは、可変表示態様判定値の数を設定値によらず共通とする（変動パターンの振り分けを共通とする）ことにより、設定値によって有利度合いの差が過度に大きくなることを防止し、射幸性が過度に高くなることを防止している。

40

【0917】

特に、変動パターンの選択割合が設定値によって異なると、1の小当り制御から次の小当り制御までの期間が変化することになり、小当り当選確率を共通としても大当り抽選以外の要素で有利度合い（出玉性能の差）が大きく異なってしまう、好ましくないが、本特徴部052IWでは、設定値によらず変動パターンの選択割合を共通とすることにより、そのような問題が生じないようにしている。

【0918】

なお、本例では、図10-10に示すように、設定値「1」～「6」のいずれであるかに関係なく、変動パターンの割り振りが同じである場合を示したが、そのような態様にかぎられない。例えば、設定値「1」～「6」のいずれであるかに応じて変動パターンの決

50

定割合を異ならせて、変動時間の差を設けることにより、設定値によって変動効率を異ならせるようにし、設定値によって有利度に差が出るように構成してもよい。

【0919】

また、本特徴部052IWによれば、可変表示の表示結果として特定表示結果（例えば、大当り図柄）が導出表示されたときに、遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当り遊技状態）に制御可能である。また、可変表示の表示結果として特定表示結果とは異なる特殊表示結果（例えば、小当り図柄）が導出表示されたときに、有利状態とは異なる特殊状態（例えば、小当り遊技状態）に制御可能である。また、可変表示の表示結果を決定するための判定値（例えば、大当り判定用の判定値、小当り判定用の判定値）を用いて、可変表示の表示結果を決定する。また、判定値には、可変表示の表示結果として特定表示結果を導出表示することを決定するための特定判定値（例えば、大当り判定用の判定値）と、可変表示の表示結果として特殊表示結果を導出表示することを決定するための特殊判定値（例えば、小当り判定用の判定値）と、可変表示の表示結果として特定表示結果および特殊表示結果とは異なる所定表示結果とすることを決定するための所定判定値（例えば、はずれ判定用の判定値）とが含まれる。また、特定判定値の数が異なる複数の設定値（例えば、設定値「1」～「6」）のうちのいずれかの設定値に設定可能である。また、特殊判定値の数は、設定値によらず共通である（図10-3および図10-4参照）。また、所定判定値は、全ての設定値に対応する判定値に含まれ、所定判定値の数は、設定値に応じて異なる（図10-3および図10-4参照）。そのため、設定値の推測の困難性を高めて、遊技に対する興趣を向上させることができる。

10

20

【0920】

また、本特徴部052IWによれば、非特定状態（例えば、非確変状態）と該非特定状態よりも有利状態に制御されやすい特定状態（例えば、確変状態）とに制御可能である。また、所定判定値は、全ての設定値の特定状態に対応する判定値に含まれる（図10-3および図10-4参照）。そのため、特定状態中における設定値の推測の困難性を高めることができる。

【0921】

また、本特徴部052IWによれば、第1識別情報の可変表示と第2識別情報の可変表示とを並行して実行可能である（例えば、第1特別図柄の変動表示と第2特別図柄の変動表示とを並行して実行可能である）。また、第2識別情報の可変表示に対応する特殊判定値の数は、第1識別情報の可変表示に対応する特殊判定値の数よりも多く、特定状態中の第2識別情報の可変表示に対応する判定値には、所定判定値が含まれる（図10-3および図10-4参照）。そのため、特定状態中の第2識別情報の可変表示の表示結果を用いた設定値の推測の困難性を高めることができる。

30

【0922】

また、本特徴部052IWによれば、第2識別情報の可変表示の表示結果が特殊表示結果となる頻度を高めた特別状態（例えば、KT状態）に制御可能である。また、特別状態に制御され、所定表示結果（例えば、はずれ図柄）が導出表示される可変表示が実行されるときに、設定値を示唆する設定値示唆演出（例えば、図10-54に示す設定値示唆演出）を実行可能である。そのため、設定値示唆演出を実行することにより、遊技に対する興趣を向上させることができる。

40

【0923】

また、本特徴部052IWによれば、第1識別情報（例えば、第1特別図柄）の可変表示および第2識別情報（例えば、第2特別図柄）の可変表示を行うことが可能である。また、可変表示の表示結果として特定表示結果（例えば、大当り図柄）が導出表示されたときに、遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当り遊技状態）に制御可能である。また、可変表示の表示結果として特定表示結果とは異なる特殊表示結果（例えば、小当り図柄）が導出表示されたときに、有利状態とは異なる特殊状態（例えば、小当り遊技状態）に制御可能である。また、可変表示の表示結果を決定するための判定値（例えば、大当り判定用の判定値、小当り判定用の判定値）を用いて、可変表示の表示結果を決定する。ま

50

た、判定値には、可変表示の表示結果として特定表示結果を導出表示することを決定するための特定判定値（例えば、大当たり判定用の判定値）と、可変表示の表示結果として特殊表示結果を導出表示することを決定するための特殊判定値（例えば、小当たり判定用の判定値）とが含まれる。また、特定判定値の数が異なる複数の設定値（例えば、設定値「1」～「6」）のうちのいずれかの設定値に設定可能である。また、第2識別情報の可変表示に対応する判定値のうち特殊判定値の数は、設定値によらず共通であり（図10-4参照）、第1識別情報の可変表示に対応する判定値と第2識別情報の可変表示に対応する判定値とで、特殊判定値の数が異なる（図10-3および図10-4参照）。そのため、適切な遊技性を実現しつつ、遊技の単調さを解消することができる。

【0924】

なお、特許文献1（特開2017-148127号公報）に記載された遊技機では、識別情報の可変表示を所定表示結果で導出表示（強制はずれ停止）する制御に関して、可変表示の表示結果の有利度合いを考慮した制御を実現できなかった。そこで、本特徴部052IWには、可変表示の表示結果の有利度合いを考慮した制御を実現できる遊技機を提供することを目的として、以下に示す（手段A1）～（手段A6）に示す遊技機の特徴的構成も開示されている。

【0925】

（手段A1）本発明による遊技機は、遊技を行うことが可能な遊技機であって、第1識別情報（例えば、第1特別図柄）の可変表示と第2識別情報（例えば、第2特別図柄）の可変表示とを並行して実行可能な可変表示実行手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）におけるステップS25A，S25Bを実行する部分）と、可変表示の表示結果として特定表示結果（例えば、大当たり図柄）が導出表示されたときに遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当たり遊技状態）に制御可能な有利状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）におけるステップS122～S125を実行する部分）と、可変表示の表示結果として特殊表示結果（例えば、小当たり図柄）が導出表示されたときに有利状態とは異なる特殊状態（例えば、小当たり遊技状態）に制御可能な特殊状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）におけるステップS126～S128を実行する部分）とを備え、可変表示実行手段は、第1識別情報および第2識別情報のうちの一方の識別情報の可変表示の実行中に、他方の識別情報の可変表示において特殊表示結果を導出表示したことにもとづいて、該一方の識別情報の可変表示の表示結果を導出表示しない第1制御（例えば、第1変動時間タイマまたは第2変動時間タイマの更新が中断され、第1特別図柄または第2特別図柄の変動表示が継続して実行される）と、該一方の識別情報の可変表示を所定表示結果（例えば、はずれ図柄）で導出表示する第2制御（例えば、はずれ図柄を表示して停止する（例えば、第1特別図柄または第2特別図柄の変動表示がはずれ図柄で強制的に停止表示される））とを実行可能であり、一方の識別情報の可変表示において導出表示される表示結果によって第1制御と第2制御とのいずれが実行されるかが異なる（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）は、ステップ052IWS1128A，S1128Bの判定結果によってステップ052IWS1129A，S1130A，S1129B，S1130Bを実行する。例えば、変形例1において、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）は、ステップ052IWS1127A，S1127Bの判定結果によってステップ052IWS1129A，S1130A，S1129B，S1130Bを実行する。例えば、変形例2において、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）は、ステップ052IWS1130C，S1130Dの判定結果によってステップ052IWS1129A，S1130A，S1129B，S1130Bを実行する。）ことを特徴とする。そのような構成によれば、可変表示の表示結果の有利度合いを考慮した制御を実現できる。

【0926】

（手段A2）手段A1において、特殊状態による遊技価値（例えば、賞球）が付与されや

10

20

30

40

50

すい特別状態（例えば、第2KT状態）に制御可能な特別状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）におけるステップ052 IWS2208を実行する部分）を備えるように構成されていてもよい。そのような構成によれば、特殊状態による遊技価値が付与されやすい状況を設けることにより、遊技に対する興趣を向上させることができる。

【0927】

（手段A3）手段A1または手段A2において、特定表示結果には、第1特定表示結果（例えば、確変大当り図柄）と第2特定表示結果（例えば、通常大当り図柄）とがあり、有利状態とは異なる状態であって、非特定状態（例えば、低確率状態）と比較して有利状態に制御されやすい特定状態（例えば、高確率状態（確変状態））に制御可能な特定状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）におけるステップ052 IWS2206を実行する部分）を備え、特定状態制御手段は、第1特定表示結果が導出表示されたことにもとづいて特定状態に制御し（例えば、確変大当りにもとづく大当り遊技の終了後に確変状態に制御する）、第2特定表示結果が導出表示されたことにもとづいて非特定状態に制御する（例えば、通常大当りにもとづく大当り遊技の終了後に確変状態に制御しない）ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、特定状態に制御されるか否かを考慮した制御を実現できる。

【0928】

（手段A4）手段A1から手段A3のうちのいずれかにおいて、特定表示結果には、第1特定表示結果（例えば、確変大当り図柄）と第2特定表示結果（例えば、通常大当り図柄）とがあり、有利状態とは異なる状態であって、非特定状態（例えば、低確率状態）と比較して有利状態に制御されやすい特定状態（例えば、高確率状態（確変状態））に制御可能な特定状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）におけるステップ052 IWS2206を実行する部分）を備え、特定状態制御手段は、有利状態に制御されているときに特定領域（例えば、V領域052 IW104）を遊技媒体（例えば、遊技球）が通過したことにもとづいて、特定状態に制御可能であり（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）は、ステップ052 IWS2404，S2405，S2204～S2206を実行する）、第1特定表示結果が導出表示された場合に、第2特定表示結果が導出表示された場合と比較して、有利状態に制御されているときに高い割合により特定領域を遊技媒体が通過する（図10-11（1）に示すように、確変大当りにもとづく大当り遊技では、V領域開閉板052 IW101の開放期間が長い。一方、図10-11（2）に示すように、通常大当りにもとづく大当り遊技では、V領域開閉板052 IW101の開放期間が極めて短い。）ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、特定領域を遊技媒体が通過しやすいか否かを考慮した制御を実現できる。

【0929】

（手段A5）手段A1から手段A4のうちのいずれかにおいて、特定表示結果には、第1特定表示結果（例えば、確変大当り図柄）と第2特定表示結果（例えば、通常大当り図柄）とがあり、第1特定表示結果が導出表示される方が、第2特定表示結果が導出表示されるよりも、遊技者にとっての有利度が高く（例えば、大当り遊技終了後に確変状態に制御される）、可変表示実行手段は、第1識別情報の可変表示を実行する場合と第2識別情報の可変表示を実行する場合のいずれであっても、特殊表示結果を導出表示可能であり（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）は、ステップ052 IWS64A，S64Bを実行する。図10-3、図10-4参照。）、第1識別情報の可変表示であって第2特定表示結果に対応する可変表示の実行中に、第2識別情報の可変表示において特殊表示結果を導出表示したことにもとづいて、第1識別情報の可変表示を所定表示結果で導出表示し（例えば、変形例3において、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）は、ステップ052 IWS1128AでNのときステップ052 IWS1129A，S1130Aを実行する。図10-67（B）参照。）、第2識別情報の可変表示であって第2特定表示結果に対応する可変表示の実

10

20

30

40

50

行中に、第1識別情報の可変表示において特殊表示結果を導出表示した場合には、第2識別情報の可変表示を所定表示結果で導出表示する制御を行わない（例えば、変形例3において、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）は、ステップ052 IWS1126B～S1128Bの処理を行わない。図10-66、図10-67（E）参照。）ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、可変表示の表示結果の有利度合いに加えて、第1識別情報の可変表示であるか第2識別情報の可変表示であるかを考慮した制御を実現できる。

【0930】

（手段A6）手段A1から手段A5のうちのいずれかにおいて、特定表示結果には、第1特定表示結果（例えば、確変大当り図柄）と第2特定表示結果（例えば、通常大当り図柄）とがあり、第1特定表示結果が導出表示される方が、第2特定表示結果が導出表示されるよりも、遊技者にとっての有利度が高く（例えば、大当り遊技終了後に確変状態に制御される）、有利状態とは異なる状態であって、非特定状態（例えば、低確率状態）と比較して有利状態に制御されやすい特定状態（例えば、高確率状態（確変状態））に制御可能な特定状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）におけるステップ052 IWS2206を実行する部分）を備え、可変表示実行手段は、特定状態に制御されているときに、第1識別情報および第2識別情報のうちの一方の識別情報の可変表示であって第2特定表示結果に対応する可変表示の実行中に、他方の識別情報の可変表示において特殊表示結果を導出表示したことにもとづいて、該一方の識別情報の可変表示を所定表示結果で導出表示し（例えば、変形例4において、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）は、ステップ052 IWS1131A，S1131BでYのときステップ052 IWS1129A，S1130Aを実行する。図10-68、図10-69参照。）、非特定状態に制御されているときに、第1識別情報および第2識別情報のうちの一方の識別情報の可変表示であって第2特定表示結果に対応する可変表示の実行中に、他方の識別情報の可変表示において特殊表示結果を導出表示した場合には、該一方の識別情報の可変表示を所定表示結果で導出表示する制御を行わない（例えば、変形例4において、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）は、ステップ052 IWS1131A，S1131BでNのときステップ052 IWS1129A，S1129Bに移行しない。図10-68、図10-69参照。）ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、可変表示の表示結果の有利度合いに加えて、特定状態に制御されているか否かを考慮した制御を実現できる。

【0931】

なお、特許文献1（特開2017-148127号公報）に記載された遊技機では、識別情報の可変表示を所定表示結果で導出表示（強制はずれ停止）する制御に関して、可変表示の表示結果の有利度合いを考慮した制御を実現できなかった。そこで、本特徴部052 IWには、可変表示の表示結果の有利度合いを考慮した制御を実現できる遊技機を提供することを目的として、以下に示す（手段B1）～（手段B6）に示す遊技機の特徴的構成も開示されている。

【0932】

（手段B1）本発明による遊技機は、遊技を行うことが可能な遊技機であって、第1識別情報（例えば、第1特別図柄）の可変表示と第2識別情報（例えば、第2特別図柄）の可変表示とを並行して実行可能な可変表示実行手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）におけるステップS25A，S25Bを実行する部分）と、可変表示の表示結果として特定表示結果（例えば、大当り図柄）が導出表示されたときに遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当り遊技状態）に制御可能な有利状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）におけるステップS122～S125を実行する部分）と、可変表示の表示結果として特殊表示結果（例えば、小当り図柄）が導出表示されたときに有利状態とは異なる特殊状態（例えば、小当り遊技状態）に制御可能な特殊状態制御手段（例えば、遊技制御

用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）におけるステップS126～S128を実行する部分）とを備え、可変表示実行手段は、第1識別情報の可変表示を実行する場合と第2識別情報の可変表示を実行する場合のいずれであっても、特殊表示結果を導出表示可能であり（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）は、ステップ052 IWS64A、S64Bを実行する。図10-3、図10-4参照。）、第1識別情報および第2識別情報のうちの一方の識別情報の可変表示の実行中に、他方の識別情報の可変表示において特殊表示結果を導出表示したことにもとづいて、該一方の識別情報の可変表示の表示結果を導出表示しない第1制御（例えば、第1変動時間タイマまたは第2変動時間タイマの更新が中断され、第1特別図柄または第2特別図柄の変動表示が継続して実行される）と、該一方の識別情報の可変表示を所定表示結果（例えば、はずれ図柄）で導出表示する第2制御（例えば、はずれ図柄を表示して停止する（例えば、第1特別図柄または第2特別図柄の変動表示がはずれ図柄で強制的に停止表示される）とを実行可能であり、一方の識別情報の可変表示において導出表示される表示結果によって第1制御と第2制御とのいずれが実行されるかが異なる（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）は、ステップ052 IWS1128A、S1128Bの判定結果によってステップ052 IWS1129A、S1130A、S1129B、S1130Bを実行する。例えば、変形例1において、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）は、ステップ052 IWS1127A、S1127Bの判定結果によってステップ052 IWS1129A、S1130A、S1129B、S1130Bを実行する。例えば、変形例2において、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）は、ステップ052 IWS1130C、S1130Dの判定結果によってステップ052 IWS1129A、S1130A、S1129B、S1130Bを実行する。）ことを特徴とする。そのような構成によれば、可変表示の表示結果の有利度合いを考慮した制御を実現できる。

【0933】

（手段B2）手段B1において、特殊状態による遊技価値（例えば、賞球）が付与されやすい特別状態（例えば、第2KT状態）に制御可能な特別状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）におけるステップ052 IWS2208を実行する部分）を備えるように構成されていてもよい。そのような構成によれば、特殊状態による遊技価値が付与されやすい状況を設けることにより、遊技に対する興趣を向上させることができる。

【0934】

（手段B3）手段B1または手段B2において、特定表示結果には、第1特定表示結果（例えば、確変大当り図柄）と第2特定表示結果（例えば、通常大当り図柄）とがあり、有利状態とは異なる状態であって、非特定状態（例えば、低確率状態）と比較して有利状態に制御されやすい特定状態（例えば、高確率状態（確変状態））に制御可能な特定状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）におけるステップ052 IWS2206を実行する部分）を備え、特定状態制御手段は、第1特定表示結果が導出表示されたことにもとづいて特定状態に制御し（例えば、確変大当りにもとづく大当り遊技の終了後に確変状態に制御する）、第2特定表示結果が導出表示されたことにもとづいて非特定状態に制御する（例えば、通常大当りにもとづく大当り遊技の終了後に確変状態に制御しない）ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、特定状態に制御されるか否かを考慮した制御を実現できる。

【0935】

（手段B4）手段B1から手段B3のうちのいずれかにおいて、特定表示結果には、第1特定表示結果（例えば、確変大当り図柄）と第2特定表示結果（例えば、通常大当り図柄）とがあり、有利状態とは異なる状態であって、非特定状態（例えば、低確率状態）と比較して有利状態に制御されやすい特定状態（例えば、高確率状態（確変状態））に制御可能な特定状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）におけるステップ052 IWS2206を実行する部分）を備え、特定状

10

20

30

40

50

態制御手段は、有利状態に制御されているときに特定領域（例えば、V領域052IW104）を遊技媒体（例えば、遊技球）が通過したことにもとづいて、特定状態に制御可能であり（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）は、ステップ052IWS2404，S2405，S2204～S2206を実行する）、第1特定表示結果が導出表示された場合に、第2特定表示結果が導出表示された場合と比較して、有利状態に制御されているときに高い割合により特定領域を遊技媒体が通過する（図10-11（1）に示すように、確変大当りにもとづく大当り遊技では、V領域開閉板052IW101の開放期間が長い。一方、図10-11（2）に示すように、通常大当りにもとづく大当り遊技では、V領域開閉板052IW101の開放期間が極めて短い。）ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、特定領域を遊技媒体が通過しやすいか否かを考慮した制御を実現できる。

10

【0936】

（手段B5）手段B1から手段B4のうちのいずれかにおいて、特定表示結果には、第1特定表示結果（例えば、確変大当り図柄）と第2特定表示結果（例えば、通常大当り図柄）とがあり、第1特定表示結果が導出表示される方が、第2特定表示結果が導出表示されるよりも、遊技者にとっての有利度が高く（例えば、大当り遊技終了後に確変状態に制御される）、可変表示実行手段は、第1識別情報の可変表示であって第2特定表示結果に対応する可変表示の実行中に、第2識別情報の可変表示において特殊表示結果を導出表示したことにもとづいて、第1識別情報の可変表示を所定表示結果で導出表示し（例えば、変形例3において、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）は、ステップ052IWS1128AでNのときステップ052IWS1129A，S1130Aを実行する。図10-67（B）参照。）、第2識別情報の可変表示であって第2特定表示結果に対応する可変表示の実行中に、第1識別情報の可変表示において特殊表示結果を導出表示した場合には、第2識別情報の可変表示を所定表示結果で導出表示する制御を行わない（例えば、変形例3において、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）は、ステップ052IWS1126B～S1128Bの処理を行わない。図10-66、図10-67（E）参照。）ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、可変表示の表示結果の有利度合いに加えて、第1識別情報の可変表示であるか第2識別情報の可変表示であるかを考慮した制御を実現できる。

20

【0937】

（手段B6）手段B1から手段B5のうちのいずれかにおいて、特定表示結果には、第1特定表示結果（例えば、確変大当り図柄）と第2特定表示結果（例えば、通常大当り図柄）とがあり、第1特定表示結果が導出表示される方が、第2特定表示結果が導出表示されるよりも、遊技者にとっての有利度が高く（例えば、大当り遊技終了後に確変状態に制御される）、有利状態とは異なる状態であって、非特定状態（例えば、低確率状態）と比較して有利状態に制御されやすい特定状態（例えば、高確率状態（確変状態））に制御可能な特定状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）におけるステップ052IWS2206を実行する部分）を備え、可変表示実行手段は、特定状態に制御されているときに、第1識別情報および第2識別情報のうちの一方の識別情報の可変表示であって第2特定表示結果に対応する可変表示の実行中に、他方の識別情報の可変表示において特殊表示結果を導出表示したことにもとづいて、該一方の識別情報の可変表示を所定表示結果で導出表示し（例えば、変形例4において、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）は、ステップ052IWS1131A，S1131BでYのときステップ052IWS1129A，S1130Aを実行する。図10-68、図10-69参照。）、非特定状態に制御されているときに、第1識別情報および第2識別情報のうちの一方の識別情報の可変表示であって第2特定表示結果に対応する可変表示の実行中に、他方の識別情報の可変表示において特殊表示結果を導出表示した場合には、該一方の識別情報の可変表示を所定表示結果で導出表示する制御を行わない（例えば、変形例4において、遊技制御用マイクロコンピュータ100（具体的には、CPU103）は、ステップ052IWS1131A，S1131BでN

30

40

50

のときステップ052 IWS1129A, S1129Bに移行しない。図10-68、図10-69参照。)ように構成されていてもよい。そのような構成によれば、可変表示の表示結果の有利度合いに加えて、特定状態に制御されているか否かを考慮した制御を実現できる。

【0938】

なお、この特徴部052 IWで示した構成は、特徴部21 TMで示した構成と適宜組み合わせ、遊技機を構成することが可能である。例えば、特徴部21 TMで示した設定値を変更可能とする構成を本特徴部052 IWに適用し、設定値示唆演出を実行可能に構成したり、小当りRUSH継続示唆演出を実行可能に構成したり、右打ち報知を実行可能に構成したり、オーバー入賞時示唆演出を実行可能に構成したり、小当り入賞時示唆演出を実行可能に構成したり、賞球数表示示唆演出を実行可能に構成したりしてもよい。また、例えば、特徴部21 TMで示した設定値を変更可能とする構成を本特徴部052 IWに適用し、一方の特別図柄の変動表示の実行中に他方の特別図柄の変動表示において小当りとなった場合に、その一方の特別図柄の変動表示をはずれ図柄で強制的に停止表示させたり変動表示を継続させたりするように構成してもよい。

【0939】

また、特徴部021 TMで示した構成を適用する場合、図9-5に示すように、エンディング演出の態様を異ならせることによって、設定値を示唆するように構成してもよい。この場合、例えば、エンディング演出において、小当りRUSHやチャンスモードなどを含むモード移行報知を実行したり、プリペイドカードなどのカード取り忘れ防止報知を実行したり、メーカーロゴ表示を表示したりするように構成し、それらのモード移行報知や、カード取り忘れ防止報知、メーカーロゴ表示の表示態様を変化させたり、同時に表示する画像の表示態様を変化させたりすることにより、設定値を示唆するように構成してもよい。

【0940】

〔特徴部18 TMに関する説明〕

次に、特徴部18 TMに関して説明する。本実施形態では、前述した(特徴部052 IWに関する説明)において示したように、第1特別図柄の変動表示と第2特別図柄の変動表示とを同時に並行して実行することが可能である。

【0941】

また、本実施形態では、遊技状態として、通常状態(低確率/非KT状態)と、通常状態よりも小当りになりやすいKT状態がある。さらに、KT状態として、第1KT状態と第2KT状態の2種類がある。この特徴部18 TMでは、遊技状態が、低確率状態且つ非KT状態(低確率/非KT状態:通常状態)に制御される場合と、低確率且つ第1KT状態(低確率/第1KT状態:時短状態)に制御される場合と、高確率且つ第1KT状態(高確率/第1KT状態;確変状態)に制御される場合と、高確率且つ第2KT状態(高確率/第2KT状態:小当りRUSH状態)に制御される場合がある。

【0942】

(遊技状態と演出用図柄及び演出モードの関係)

まず、各遊技状態(低確/非KT状態:通常状態、低確/第1KT状態:時短状態、高確/第1KT状態:確変状態、及び高確/第2KT状態:小当りRUSH状態)と、各演出用図柄(飾り図柄、第1小図柄、及び第2小図柄)及び各演出モード(昼モード、夜モード、曇りモード、雨モード、及び台風モード)の関係に関して詳細に説明する。この実施の形態では、画像表示装置5の右上部及び左上部に表示される、飾り図柄よりも小さな図柄であって、特別図柄が変動表示されているか否か及び特別図柄の表示結果を示す図柄を小図柄と称する。小図柄の変動表示は、特別図柄の変動表示と並行して実行可能であり、小図柄の停止表示も、特別図柄の停止表示と並行して実行可能である。そして、第1特別図柄に対応した第1小図柄が変動表示及び停止表示される画像表示装置5の画面左上部のエリアを左から第1小図柄表示エリア5 l 1、第1小図柄表示エリア5 c 1、及び第1小図柄表示エリア5 r 1とし、第2特別図柄に対応した第2小図柄が変動表示及び停止表

示される画像表示装置 5 の画面右上部のエリアを左から第 2 小図柄表示エリア 5 l 2、第 2 小図柄表示エリア 5 c 2、及び第 2 小図柄表示エリア 5 r 2 とする。

【0943】

第 1 小図柄表示エリア 5 l 1、5 c 1、5 r 1 は、図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R よりも表示領域が小さい。また、第 2 小図柄表示エリア 5 l 2、5 c 2、5 r 2 は、図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R よりも表示領域が小さい。従って、第 1 小図柄の視認性は飾り図柄の視認性より低く、第 2 小図柄の視認性は飾り図柄の視認性より低くなっている。

【0944】

図 11-1 及び図 11-2 は、遊技状態に対応した飾り図柄、小図柄、及び背景画像の具体例を示す説明図である。本実施形態では、図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R において飾り図柄の変動表示が実行される。ここで、第 1 特別図柄の変動表示に対応して飾り図柄の変動表示が実行される場合と、第 2 特別図柄の変動表示に対応して飾り図柄の変動表示が実行される場合とがあり、第 1 特別図柄の変動表示及び第 2 特別図柄の変動表示のうち何れの特別図柄の変動表示に対応して飾り図柄の変動表示が実行されるのかは、遊技状態に応じて異なる。以下の説明においては、第 1 特別図柄及び第 2 特別図柄のうち、飾り図柄に対応した特別図柄をメイン図柄と称し、第 1 特別図柄及び第 2 特別図柄のうち、飾り図柄に対応していない特別図柄をサブ図柄と称している。

【0945】

すなわち、メイン図柄が第 1 特別図柄であり、サブ図柄が第 2 特別図柄である状態とは、第 1 小図柄表示エリア 5 l 1、5 c 1、5 r 1 において、第 1 特別図柄の変動表示に対応して第 1 小図柄の変動表示が実行されるとともに、図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R において、第 1 特別図柄の変動表示に対応して飾り図柄の変動表示が実行され、第 2 小図柄表示エリア 5 l 2、5 c 2、5 r 2 において、第 2 特別図柄の変動表示に対応して第 2 小図柄の変動表示が実行される状態である。

【0946】

一方、メイン図柄が第 2 特別図柄であり、サブ図柄が第 1 特別図柄である状態とは、第 2 小図柄表示エリア 5 l 2、5 c 2、5 r 2 において、第 2 特別図柄の変動表示に対応して第 2 小図柄の変動表示が実行されるとともに、図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R において、第 2 特別図柄の変動表示に対応して飾り図柄の変動表示が実行され、第 1 小図柄表示エリア 5 l 1、5 c 1、5 r 1 において、第 1 特別図柄の変動表示に対応して第 1 小図柄の変動表示が実行される状態である。

【0947】

本実施形態における遊技状態として、前述したように、低確低ベース状態に対応した「低確／非 K T 状態」（通常状態と称する場合がある）と、低確高ベース状態に対応した「低確／第 1 K T 状態」（時短状態と称する場合がある）と、高確高ベース状態に対応した「高確／第 1 K T 状態」（確変状態と称する場合がある）と、高確低ベース状態に対応した「高確／第 2 K T 状態」（小当り R U S H 状態と称する場合がある）と、がある。そして、遊技状態が、(i) 低確／非 K T 状態（通常状態）に制御されている場合には、メイン図柄は第 1 特別図柄であり、サブ図柄は第 2 特別図柄である。一方、遊技状態が、(i i) 低確／第 1 K T 状態に制御されている場合、(i i i) 高確／第 1 K T 状態に制御されている場合、(i v) 高確／第 2 K T 状態に制御されている場合は、何れの場合も、メイン図柄は第 2 特別図柄であり、サブ図柄は第 1 特別図柄である。

【0948】

即ち、(i) の場合には、飾り図柄及び第 1 小図柄が、第 1 特別図柄の変動表示に対応した情報であり、第 2 小図柄が、第 2 特別図柄の変動表示に対応した情報となるが、(i i) ~ (i v) の場合には、飾り図柄及び第 2 小図柄が、第 2 特別図柄の変動表示に対応した情報であり、第 1 小図柄が、第 1 特別図柄の変動表示に対応した情報となる。なお、以下の説明において、図中の「特図 1」とは第 1 特別図柄を示しており、図中の「特図 2」とは第 2 特別図柄を示している。

【0949】

図 1 1 - 1 (A) は、遊技状態が低確／非 K T 状態（通常状態）であり、メイン図柄が第 1 特別図柄であり、サブ図柄が第 2 特別図柄であるときに画像表示装置 5 に表示される画像の例を示す図である。また、図 1 1 - 1 (B) は、遊技状態が低確／第 1 K T 状態（時短状態）であり、メイン図柄が第 2 特別図柄であり、サブ図柄が第 1 特別図柄であるときに画像表示装置 5 に表示される画像の例を示す図である。また、図 1 1 - 2 (C 1) ~ (C 3) は、遊技状態が高確／第 1 K T 状態（確変状態）であり、メイン図柄が第 2 特別図柄であり、サブ図柄が第 1 特別図柄であるときに画像表示装置 5 に表示される画像の例を示す図である。また、図 1 1 - 2 (D 1) ~ (D 3) は、遊技状態が高確／第 2 K T 状態（小当り R U S H 状態）であり、メイン図柄が第 2 特別図柄であり、サブ図柄が第 1 特別図柄であるときに画像表示装置 5 に表示される画像の例を示す図である。

10

【 0 9 5 0 】

図 1 1 - 1 及び図 1 1 - 2 に示すように、画像表示装置 5 の画面左下部には、第 1 保留記憶数（0 ~ 4 個の第 1 保留表示 1 8 T M 0 1 0）を表示する第 1 保留表示領域 1 8 T M 0 1 1 が設けられており、画像表示装置 5 の画面右下部には、第 2 保留記憶数（0 ~ 4 個の第 2 保留表示 1 8 T M 0 2 0）を表示する第 2 保留表示領域 1 8 T M 0 2 1 が設けられている。また、画像表示装置 5 の画面中央下部には、実行されている飾り図柄の変動表示に対応した情報であり、実行されているメイン図柄としての特別図柄の変動表示に対応した情報でもあるアクティブ表示 1 8 T M 0 3 0 を表示するアクティブ表示領域 1 8 T M 0 3 1 が設けられている。

【 0 9 5 1 】

20

さらに、画像表示装置 5 の画面左部（第 1 保留表示領域 1 8 T M 0 1 1 の上部）には第 1 保留記憶数を表示する第 1 保留記憶数特別表示領域 1 8 T M 0 1 5 が設けられており、画像表示装置 5 の画面右部（第 2 保留表示領域 1 8 T M 0 2 1 の上部）には第 2 保留記憶数を表示する第 2 保留記憶数特別表示領域 1 8 T M 0 2 5 が設けられている。そして、前述したように、画像表示装置 5 の画面左上部には、第 1 特別図柄に対応した第 1 小図柄を表示する第 1 小図柄表示エリア 5 l 1、5 c 1、5 r 1 が設けられており、画像表示装置 5 の画面右上部には、第 2 特別図柄に対応した第 2 小図柄を表示する第 2 小図柄表示エリア 5 l 2、5 c 2、5 r 2 が設けられている。

【 0 9 5 2 】

ここで、第 1 保留表示領域 1 8 T M 0 1 1 には、第 1 保留記憶数に対応した数のオブジェクト（丸形の画像）が表示され、第 2 保留表示領域 1 8 T M 0 2 1 には、第 2 保留記憶数に対応した数のオブジェクト（丸形の画像）が表示される。これに対して、第 1 保留記憶数特別表示領域 1 8 T M 0 1 5 には、第 1 保留記憶数が数値により表示され、第 2 保留記憶数特別表示領域 1 8 T M 0 2 5 には、第 2 保留記憶数が数値により表示される。第 1 保留表示領域 1 8 T M 0 1 1 におけるオブジェクトの表示範囲は、第 1 保留記憶数特別表示領域 1 8 T M 0 1 5 における数値の表示範囲よりも広く、第 1 保留表示領域 1 8 T M 0 1 1 には、第 1 保留記憶数が、第 1 保留記憶数特別表示領域 1 8 T M 0 1 5 よりも高い視認性で表示されることになる。また、第 2 保留表示領域 1 8 T M 0 2 1 におけるオブジェクトの表示範囲は、第 2 保留記憶数特別表示領域 1 8 T M 0 2 5 における数値の表示範囲よりも広く、第 2 保留表示領域 1 8 T M 0 2 1 には、第 2 保留記憶数が、第 2 保留記憶数特別表示領域 1 8 T M 0 2 5 よりも高い視認性で表示されることになる。

30

40

【 0 9 5 3 】

また、第 1 保留表示領域 1 8 T M 0 1 1 には、メイン図柄が第 1 特別図柄でありサブ図柄が第 2 特別図柄となっているときには（即ち、遊技状態が（i）低確／非 K T 状態（通常状態）であるときには）、第 1 保留記憶数に対応した数のオブジェクトが表示されるが、メイン図柄が第 2 特別図柄でありサブ図柄が第 1 特別図柄となっているときには（即ち、遊技状態が（i i）低確／第 1 K T 状態（時短状態）、（i i i）高確／第 1 K T 状態（確変状態）、及び（i v）高確／第 2 K T 状態（小当り R U S H 状態）、の何れかの状態であるときには）、オブジェクト自体が表示されないようになっている。このように、第 1 保留表示領域 1 8 T M 0 1 1 には、遊技状態に応じて第 1 保留記憶数相当のオブジェ

50

クトが表示される。一方で、第1保留記憶数特別表示領域18TM015には、遊技状態にかかわらず（遊技状態が（ii）～（iv）の何れかのときにも）第1保留記憶数が表示される。そのため遊技者は、第1保留表示領域18TM011にオブジェクトが表示されない遊技状態（（ii）～（iv）の何れか）のときにも、第1保留記憶数特別表示領域18TM015を確認することにより、第1保留記憶数を把握することができる。

【0954】

また、第2保留表示領域18TM021には、メイン図柄が第2特別図柄でありサブ図柄が第1特別図柄となっているときには（即ち、遊技状態が（ii）低確／第1KT状態（時短状態）、（iii）高確／第1KT状態（確変状態）、及び（iv）高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）、の何れかの状態であるときには）、第2保留記憶数に対応した数のオブジェクトが表示されるが、メイン図柄が第1特別図柄でありサブ図柄が第2特別図柄となっているときには（即ち、遊技状態が（i）低確／非KT状態（通常状態）であるときには）、オブジェクト自体が表示されないようになっている。このように、第2保留表示領域18TM021には、遊技状態に応じて第2保留記憶数相当のオブジェクトが表示される。一方で、第2保留記憶数特別表示領域18TM025には、遊技状態にかかわらず（遊技状態が（i）のときにも）第2保留記憶数が表示される。そのため遊技者は、第2保留表示領域18TM021にオブジェクトが表示されない遊技状態（i）のときにも、第2保留記憶数特別表示領域18TM025を確認することにより、第2保留記憶数を把握することができる。

【0955】

また、アクティブ表示領域18TM031には、遊技状態にかかわらず、第1特別図柄及び第2特別図柄のうち、メイン図柄となっている特別図柄の変動表示に対応したオブジェクトが表示され、サブ図柄となっている特別図柄の変動表示に対応したオブジェクトは表示されないようになっている。

【0956】

図11-1（A）に示す例は、遊技状態が低確／非KT状態（通常状態）に制御されているときの画像表示装置5の画面を示している。遊技状態が低確／非KT状態に制御されているときには、演出制御用CPU120により、演出モードが昼モードに制御される。演出モードが昼モードのときには、飾り図柄の背景画像として、太陽と山とを含む昼の風景をあらわした「昼画像」が表示されることになる。

【0957】

本例では、第1保留記憶数が4であり、第2保留記憶数が2の状態であるときに、メイン図柄となっている第1特別図柄の変動表示とサブ図柄となっている第2特別図柄の変動表示とが同時に並行して実行されている。また、第1保留記憶数特別表示領域18TM015には「4」と表示され、第2保留記憶数特別表示領域18TM025には「2」と表示され、第1保留表示領域18TM011には4つの第1保留表示18TM010が表示されている。また、アクティブ表示領域18TM031には、飾り図柄の変動表示（メイン図柄である第1特別図柄の変動表示）に対応したアクティブ表示18TM030が表示されている。また、図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて飾り図柄（メイン図柄である第1特別図柄に対応した情報）の変動表示が実行されており、第1小図柄表示エリア5l1、5c1、5r1において第1小図柄（第1特別図柄に対応した情報）の変動表示が実行されており、第2小図柄表示エリア5l2、5c2、5r2において第2小図柄（サブ図柄である第2特別図柄に対応した情報）の変動表示が実行されている。

【0958】

図11-1（B）に示す例は、遊技状態が低確／第1KT状態（時短状態）に制御されているときの画像表示装置5の画面を示している。遊技状態が低確／第1KT状態に制御されているときには、演出制御用CPU120により、演出モードが夜モードに制御される。演出モードが夜モードのときには、飾り図柄の背景画像として、夜空と山とを含む夜の風景をあらわした「夜画像」が表示されることになる。

【0959】

10

20

30

40

50

本例では、第1保留記憶数が2であり、第2保留記憶数が4の状態であるときに、サブ図柄となっている第1特別図柄の変動表示とメイン図柄となっている第2特別図柄の変動表示とが同時に並行して実行されている。また、第1保留記憶数特別表示領域18TM015には「2」と表示され、第2保留記憶数特別表示領域18TM025には「4」と表示され、第2保留表示領域18TM021には4つの第2保留表示18TM020が表示されている。また、アクティブ表示領域18TM031には、飾り図柄の変動表示（メイン図柄である第2特別図柄の変動表示）に対応したアクティブ表示18TM030が表示されている。また、図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて飾り図柄（メイン図柄である第2特別図柄に対応した情報）の変動表示が実行されており、第1小図柄表示エリア5l1、5c1、5r1において第1小図柄（サブ図柄である第1特別図柄に対応した情報）の変動表示が実行されており、第2小図柄表示エリア5l2、5c2、5r2において第2小図柄（第2特別図柄に対応した情報）の変動表示が実行されている。

10

【0960】

図11-2（C1）～（C3）は、遊技状態が高確／第1KT状態（確変状態）に制御されているときの画像表示装置5の画面を示す図である。遊技状態が高確／第1KT状態に制御されているときには、遊技者は、曇りモード、雨モード、及び台風モードからいずれかの演出モードを選択可能である。そして、演出制御用CPU120により、演出モードが、選択されたいずれかの演出モードに制御される。

【0961】

図11-2（C1）に示す例では、演出モードが曇りモードであることに対応して、飾り図柄の背景画像として、雲を含む曇りの風景をあらわした「曇り画像」が表示されている。また、図11-2（C2）に示す例では、演出モードが雨モードであることに対応して、飾り図柄の背景画像として、雲と雨とを含む雨の風景をあらわした「雨画像」が表示されている。また、図11-2（C3）に示す例では、演出モードが台風モードであることに対応して、飾り図柄の背景画像として、雲と風と雨とを含む台風の風景をあらわした「台風画像」が表示されている。

20

【0962】

図11-2（C1）～（C3）に示す例では、第1保留記憶数が2であり、第2保留記憶数が4の状態であるときに、サブ図柄となっている第1特別図柄の変動表示とメイン図柄となっている第2特別図柄の変動表示とが同時に並行して実行されている。また、第1保留記憶数特別表示領域18TM015には「2」と表示され、第2保留記憶数特別表示領域18TM025には「4」と表示され、第2保留表示領域18TM021には4つの第2保留表示18TM020が表示されている。また、アクティブ表示領域18TM031には、飾り図柄の変動表示（メイン図柄である第2特別図柄の変動表示）に対応したアクティブ表示18TM030が表示されている。また、図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて飾り図柄（メイン図柄である第2特別図柄に対応した情報）の変動表示が実行されており、第1小図柄表示エリア5l1、5c1、5r1において第1小図柄（サブ図柄である第1特別図柄に対応した情報）の変動表示が実行されており、第2小図柄表示エリア5l2、5c2、5r2において第2小図柄（第2特別図柄に対応した情報）の変動表示が実行されている。

30

【0963】

図11-2（D1）～（D3）は、遊技状態が高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されているときの画像表示装置5の画面を示す図である。遊技状態が高確／第2KT状態に制御されているときには、遊技者は、曇りモード、雨モード、及び台風モードからいずれかの演出モードを選択可能である。そして、演出制御用CPU120により、演出モードが、選択されたいずれかの演出モードに制御される。

【0964】

図11-2（D1）に示す例では、演出モードが曇りモードであることに対応して、飾り図柄の背景画像として、雲を含む曇りの風景をあらわした「曇り画像」が表示されている。また、図11-2（D2）に示す例では、演出モードが雨モードであることに対応し

40

50

て、飾り図柄の背景画像として、雲と雨とを含む雨の風景をあらわした「雨画像」が表示されている。また、図11-2(D3)に示す例では、演出モードが台風モードであることに対応して、飾り図柄の背景画像として、雲と風と雨とを含む台風の風景をあらわした「台風画像」が表示されている。

【0965】

図11-2(D1)～(D3)に示す例では、第1保留記憶数が2であり、第2保留記憶数が4の状態であるときに、サブ図柄となっている第1特別図柄の変動表示とメイン図柄となっている第2特別図柄の変動表示とが同時に並行して実行されている。また、第1保留記憶数特別表示領域18TM015には「2」と表示され、第2保留記憶数特別表示領域18TM025には「4」と表示され、第2保留表示領域18TM021には4つの第2保留表示18TM020が表示されている。また、アクティブ表示領域18TM031には、飾り図柄の変動表示（メイン図柄である第2特別図柄の変動表示）に対応したアクティブ表示18TM030が表示されている。また、図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて飾り図柄（メイン図柄である第2特別図柄に対応した情報）の変動表示が実行されており、第1小図柄表示エリア5l1、5c1、5r1において第1小図柄（サブ図柄である第1特別図柄に対応した情報）の変動表示が実行されており、第2小図柄表示エリア5l2、5c2、5r2において第2小図柄（第2特別図柄に対応した情報）の変動表示が実行されている。

10

【0966】

本実施形態では、図11-2(C1)及び(D1)に示すように、演出モードが曇りモードに制御されているときには、図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、数字図柄（本例では、「0」～「9」）と、特殊図柄18TM050（本例では、楕円形のオブジェクトに「OPEN」の文字が示された飾り図柄であり、小当りの発生を報知する飾り図柄）とを含む飾り図柄の変動表示が行われ、第2小図柄表示エリア5l2、5c2、5r2において、数字図柄（本例では、「0」～「9」）のみからなる第2小図柄の変動表示が行われる。

20

【0967】

一方、図11-2(C2)及び(D2)に示すように、演出モードが雨モードに制御されているときには、図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、数字図柄（本例では、「0」～「9」）のみからなる飾り図柄の変動表示が行われ、第2小図柄表示エリア5l2、5c2、5r2において、数字図柄（本例では、「0」～「9」）のみからなる第2小図柄の変動表示が行われる。

30

【0968】

同様に、図11-2(C3)及び(D3)に示すように、演出モードが台風モードに制御されているときには、図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、数字図柄（本例では、「0」～「9」）のみからなる飾り図柄の変動表示が行われ、第2小図柄表示エリア5l2、5c2、5r2において、数字図柄（本例では、「0」～「9」）のみからなる第2小図柄の変動表示が行われる。

【0969】

本実施形態では、遊技状態にかかわらず、また、演出モードにかかわらず、第2小図柄を構成する図柄は「0」～「9」の数字図柄であり、第2小図柄が変動表示、停止表示される領域は、第2小図柄表示エリア5l2、5c2、5r2である。即ち、本実施形態では、遊技状態にかかわらず、また、演出モードにかかわらず、変動表示される第2小図柄は共通であり、変動表示が行われる領域も共通である。

40

【0970】

従って、図11-2に示すように、遊技状態が高確／第1KT状態（確変状態）に制御されているときと、遊技状態が高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されているときとで、第2小図柄の変動表示態様は共通であり、第2小図柄の変動表示領域も共通である。また、演出モードによらず、第2小図柄の変動表示態様は共通であり、第2小図柄の変動表示領域も共通である。このような構成によれば、遊技状態が高確／第1KT

50

状態（確変状態）に制御されている期間と、遊技状態が高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されている期間とで、いずれの演出モードに制御されているかによらず、第2小図柄の表示態様及び表示領域を共通化できるので、遊技者は、演出モードが切り替わっても、第2小図柄を正確に把握することが可能となる。

【0971】

図11-2（C1）に示すように、遊技状態が高確／第1KT状態（確変状態）に制御されている場合と、図11-2（D1）に示すように、遊技状態が高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されている場合とで、何れの場合にも、飾り図柄の背景画像として共通の「曇り画像」を表示可能となっている。また、図11-2（C2）に示すように、遊技状態が高確／第1KT状態（確変状態）に制御されている場合と、図11-2（D2）に示すように、遊技状態が高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されている場合とで、何れの場合にも、飾り図柄の背景画像として共通の「雨画像」を表示可能となっている。また、図11-2（C3）に示すように、遊技状態が高確／第1KT状態（確変状態）に制御されている場合と、図11-2（D3）に示すように、遊技状態が高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されている場合とで、何れの場合にも、飾り図柄の背景画像として共通の「台風画像」を表示可能となっている。

【0972】

一方で、図11-2（D1）～（D3）に示すように、遊技状態が高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されている場合には、遊技状態が高確／第1KT状態（確変状態）に制御されている場合とは異なり、画像表示装置5の画面右上部及び画面左下部に、高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されることに対応した特別表示18TM100が表示される。特別表示18TM100は、小当りRUSH状態であることを報知する「RUSH」の文字を含み、そのときの演出モード（曇りモード、雨モード、台風モードの何れか）に対応した背景画像（曇り画像、雨画像、台風画像のいずれか）に重畳表示される。

【0973】

ここで、特別表示18TM100は、背景画像よりも高い優先度（背景画像よりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様）で表示される。なお、この特別表示18TM100に含まれる「RUSH」の文字が、特別表示18TM100の領域内を移動するアニメーション動作を実行させてもよい。例えば、「RUSH」の文字が、特別表示18TM100の領域内を左上方向から右下方向に移動するアニメーション動作を実行させてもよい。このようなアニメーション動作により、小当りRUSH状態における演出効果をさらに高めることができる。

【0974】

また、図11-2（D1）～（D3）に示すように、何れの演出モードであっても、画面右上部の特別表示18TM100が表示される領域は、第2小図柄表示エリア5l2、5c2、5r2と重複せず、第2保留記憶数特別表示領域18TM025とも重複しない。同様に、画面左下部の特別表示18TM100が表示される領域は、アクティブ表示領域18TM031と重複せず、第1保留記憶数特別表示領域18TM015とも重複しない。

【0975】

図11-2に示したように、高確／第1KT状態（確変状態）及び高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）のいずれの遊技状態に制御されているときも、曇りモードに制御可能であり、背景画像を「曇り画像」とすることが可能である。また、高確／第1KT状態（確変状態）及び高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）のいずれの遊技状態に制御されているときも、雨モードに制御可能であり、背景画像を「雨画像」とすることが可能である。また、高確／第1KT状態（確変状態）及び高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）のいずれの遊技状態に制御されているときも、台風モードに制御可能であり、背景画像を「台風画像」とすることが可能である。

【0976】

このように、高確／第1KT状態（確変状態）に制御されているときと、高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されているときとで、共通の演出モードに制御可能であり、共通の演出モードに制御可能であることにより背景画像等の演出用データを共通化することが可能となる。高確／第1KT状態（確変状態）と高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）とで共通の演出モードに制御可能であり、共通の演出用データ（例えば背景画像）に基づく演出を実行可能とすることで、高確／第1KT状態（確変状態）と高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）とで個別の（その遊技状態特有の）演出モードを設ける場合と比較して、演出用データの記憶容量を抑制し、演出用データの開発負担を低減することができる。

【0977】

また、本実施形態では、図11-2に示すように、第1保留表示領域18TM011における第1保留記憶数の表示態様（第1保留表示の態様）は、高確／第1KT状態（確変状態）と高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）のいずれの演出モードに制御されているかにかかわらず共通である。また、第2保留表示領域18TM021における第2保留記憶数の表示態様（第2保留表示の態様）も、高確／第1KT状態（確変状態）と高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）のいずれの演出モードに制御されているかにかかわらず共通である。さらに、アクティブ表示領域18TM031におけるアクティブ表示の表示態様も、高確／第1KT状態（確変状態）と高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）のいずれの演出モードに制御されているかにかかわらず共通である。

【0978】

また、本実施形態では、第1保留表示領域18TM011は、高確／第1KT状態（確変状態）と高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）のいずれの演出モードに制御されているかにかかわらず共通であり、第2保留表示領域18TM021も、高確／第1KT状態（確変状態）と高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）のいずれの演出モードに制御されているかにかかわらず共通であり、アクティブ表示領域18TM031も、高確／第1KT状態（確変状態）と高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）のいずれの演出モードに制御されているかにかかわらず共通である。

【0979】

このように、少なくとも、遊技状態が高確／第1KT状態（確変状態）に制御されている期間と、遊技状態が高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されている期間とで、いずれの演出モードに制御されているかによらず、特別図柄の変動表示に対応した対応表示（第1保留表示、第2保留表示、アクティブ表示）の表示態様を共通化するとともに、対応表示（第1保留表示、第2保留表示、アクティブ表示）が表示される領域を共通化している。これにより、遊技者は、遊技状態が高確／第1KT状態（確変状態）に制御されている期間と、遊技状態が高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されている期間とで、演出モードが変化した場合にも、保留記憶数（第1保留記憶数、第2保留記憶数）を容易に把握することができ、また、特別図柄の変動表示が実行されているか否かを容易に把握することができる。

【0980】

なお、本実施形態では、図11-1及び図11-2に示すように、非KT状態（通常状態）と、低確／第1KT状態（時短状態）と、高確／第1KT状態（確変状態）と、高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）とで、対応表示（第1保留表示、第2保留表示、アクティブ表示）の表示態様を共通化するとともに、対応表示（第1保留表示、第2保留表示、アクティブ表示）が表示される領域を共通化している。このような形態に限らず、非KT状態（通常状態）と低確／第1KT状態（時短状態）の一方または両方の状態に関して、高確／第1KT状態（確変状態）や高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）とは異なる態様で対応表示が表示されるようにしてもよく、高確／第1KT状態（確変状態）や高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）とは異なる領域に対応表示が表示されるようにしてもよい。

【0981】

即ち、高確状態（高確／第1 K T 状態、高確／第2 K T 状態）では、第1 K T 状態と第2 K T 状態とで演出モードが共通化されているのに対して、低確状態（非 K T 状態、低確／第1 K T 状態）では、高確状態とは異なる演出モード（昼モード、夜モード）に制御されることに対応させて、低確状態における対応表示の表示態様を、高確状態における対応表示の表示態様と異ならせてもよく、低確状態における対応表示の表示領域を、高確状態における対応表示の表示領域と異ならせてもよい。

【0982】

このように、少なくとも、遊技状態が高確／第1 K T 状態（確変状態）に制御されている期間と、遊技状態が高確／第2 K T 状態（小当り R U S H 状態）に制御されている期間とで、いずれの演出モードに制御されているかによらず対応表示の表示態様を共通化するとともに、対応表示が表示される領域を共通化するとよい。

10

【0983】

なお、このような形態に限らず、いずれの演出モードに制御されているかに応じて、対応表示の表示態様（あるいは表示領域）を異ならせてもよい。但し、遊技状態が高確／第1 K T 状態（確変状態）に制御されている期間と、遊技状態が高確／第2 K T 状態（小当り R U S H 状態）に制御されている期間とで、共通の演出モードに制御されている場合には、対応表示の表示態様（および表示領域）を共通化するものとする。

【0984】

例えば、演出モードが曇りモードに制御されている場合には、対応表示（アクティブ表示、保留表示）を、丸形のオブジェクトに「雲」の文字が示された態様とし、演出モードが雨モードに制御されている場合には、対応表示（アクティブ表示、保留表示）を、丸形のオブジェクトに「雨」の文字が示された態様とし、演出モードが台風モードに制御されている場合には、対応表示（アクティブ表示、保留表示）を、丸形のオブジェクトに「台」の文字が示された態様とする。このようにして、各演出モードについて対応表示の表示態様を異ならせた場合、遊技状態が高確／第1 K T 状態（確変状態）に制御されている期間と、遊技状態が高確／第2 K T 状態（小当り R U S H 状態）に制御されている期間とで、同じ演出モードに制御されている場合（例えば、演出モードが曇りモードに制御されている場合）には、対応表示の表示態様は同じである（例えば、対応表示は丸形のオブジェクトに「雲」の文字が示された画像である）ものとする。

20

【0985】

一方、本実施形態では、第1保留記憶数特別表示領域18 T M 0 1 5における第1保留記憶数の表示態様は、非 K T 状態（通常状態）、低確／第1 K T 状態（時短状態）、高確／第1 K T 状態（確変状態）、及び高確／第2 K T 状態（小当り R U S H 状態）の何れの遊技状態に制御されているかにかかわらず共通であるものとする。また、第2保留記憶数特別表示領域18 T M 0 2 5における第2保留記憶数の表示態様も、非 K T 状態（通常状態）、低確／第1 K T 状態（時短状態）、高確／第1 K T 状態（確変状態）、及び高確／第2 K T 状態（小当り R U S H 状態）の何れの遊技状態に制御されているかにかかわらず共通であるものとする。

30

【0986】

また、本実施形態では、第1保留記憶数特別表示領域18 T M 0 1 5は、非 K T 状態（通常状態）、低確／第1 K T 状態（時短状態）、高確／第1 K T 状態（確変状態）、及び高確／第2 K T 状態（小当り R U S H 状態）の何れの遊技状態に制御されているかにかかわらず共通である。また、第2保留記憶数特別表示領域18 T M 0 2 5も、非 K T 状態（通常状態）、低確／第1 K T 状態（時短状態）、高確／第1 K T 状態（確変状態）、及び高確／第2 K T 状態（小当り R U S H 状態）の何れの遊技状態に制御されているかにかかわらず共通である。

40

【0987】

このように、第1保留記憶数特別表示領域18 T M 0 1 5の画面内における位置、及び、該第1保留記憶数特別表示領域18 T M 0 1 5に表示される第1保留記憶数の表示態様に関しては、遊技状態によらず、また、演出モードによらず共通である。また、第2保留

50

記憶数特別表示領域 18 T M 0 2 5 の画面内における位置、及び、該第 2 保留記憶数特別表示領域 18 T M 0 2 5 に表示される第 2 保留記憶数の表示態様に関しては、遊技状態によらず、また、演出モードによらず共通である。これにより、画像表示装置 5 で各演出モードに対応した演出が実行される場合にも、遊技者は、保留記憶数（第 1 保留記憶数、第 2 保留記憶数）を正確に把握することが可能となる。

【0988】

（遊技状態の遷移）

本実施形態では、低確／非 K T 状態（通常状態）において、遊技者は遊技領域の左方を狙って遊技球の発射操作（左打ち）を行う。そのため、通常状態では、主として第 1 始動入賞口への始動入賞が発生し、主として第 1 特別図柄の変動表示が実行される。また、図 10-29 に示したように、主として第 1 特別図柄の変動表示が実行されることから、低確／非 K T 状態（通常状態）において大当たりが発生した場合には、主として 9 % の割合で [10 R 確変大当たり]、56 % の割合で [6 R 確変大当たり]、35 % の割合で [6 R 通常大当たり] が発生する。

【0989】

図 10-29 に示したように、低確／非 K T 状態（通常状態）において [10 R 確変大当たり] が発生した場合には、その大当たり遊技の終了後に高確／第 2 K T 状態（小当り R U S H 状態）に移行する。また、低確／非 K T 状態（通常状態）において [6 R 確変大当たり] が発生した場合には、その大当たり遊技の終了後に高確／第 1 K T 状態（確変状態）に移行し、次の大当たりが発生するまで高確／第 1 K T 状態（確変状態）が維持される。また、低確／非 K T 状態（通常状態）において [6 R 通常大当たり] が発生した場合には、その大当たり遊技の終了後に低確／第 1 K T 状態（時短状態）に移行し、次の大当たりが発生するか 50 回の変動表示を終了するまで低確／第 1 K T 状態（時短状態）が維持される。

【0990】

また、本実施形態では、K T 状態（高確／第 1 K T 状態（確変状態）、低確／第 1 K T 状態（時短状態）、高確／第 2 K T 状態（小当り R U S H 状態））において、遊技者は遊技領域の右方を狙って遊技球の発射操作（右打ち）を行う。そのため、K T 状態では、主として第 2 始動入賞口への始動入賞が発生し、主として第 2 特別図柄の変動表示が実行される。また、図 10-29 に示したように、主として第 2 特別図柄の変動表示が実行されることから、K T 状態において大当たりが発生した場合には、主として 15 % の割合で [10 R 確変大当たり] 又は [2 R 確変大当たり]、50 % の割合で [6 R 確変大当たり]、35 % の割合で [2 R 通常大当たり] が発生する。

【0991】

図 10-29 に示したように、高確／第 1 K T 状態（確変状態）において 10 R 確変大当たりまたは [2 R 確変大当たり] が発生した場合には、その大当たり遊技の終了後に高確／第 2 K T 状態（小当り R U S H 状態）に移行し、次の大当たりが発生するまで高確／第 2 K T 状態（小当り R U S H 状態）が維持される。また、高確／第 1 K T 状態（確変状態）において [6 R 確変大当たり] が発生した場合には、その大当たり遊技の終了後に高確／第 1 K T 状態（確変状態）に移行し、次の大当たりが発生するまで高確／第 1 K T 状態（確変状態）が維持される。なお、本実施形態では、第 2 特別図柄の変動表示が実行される場合には、[6 R 確変大当たり] となる確率が合計で 50 % であるので（図 10-5 参照）、一旦高確／第 1 K T 状態（確変状態）となると 50 % の割合で高確／第 1 K T 状態（確変状態）がループすることになる。また、高確／第 1 K T 状態（確変状態）において [2 R 通常大当たり] が発生した場合には、その大当たり遊技の終了後に低確／第 1 K T 状態（時短状態）に移行し、次の大当たりが発生するか 50 回の変動表示を終了するまで低確／第 1 K T 状態（時短状態）が維持される。

【0992】

図 10-29 に示したように、低確／第 1 K T 状態（時短状態）において [10 R 確変大当たり] または [2 R 確変大当たり] が発生した場合には、その大当たり遊技の終了後に高確／第 2 K T 状態（小当り R U S H 状態）に移行し、次の大当たりが発生するまで高確／第 2

K T 状態（小当り R U S H 状態）が維持される。また、低確／第 1 K T 状態（時短状態）において〔6 R 確変大当り〕が発生した場合には、その大当り遊技の終了後に高確／第 1 K T 状態（確変状態）に移行し、次の大当りが発生するまで高確／第 1 K T 状態（確変状態）が維持される。また、低確／第 1 K T 状態（時短状態）において〔2 R 通常大当り〕が発生した場合には、その大当り遊技の終了後に低確／第 1 K T 状態（時短状態）に移行し、次の大当りが発生するか 50 回の変動表示を終了するまで低確／第 1 K T 状態（時短状態）が維持される。なお、本実施形態では、第 2 特別図柄の変動表示が実行される場合には、〔2 R 通常大当り〕となる確率が 35% であるので（図 10-5（D）,（E）参照）、一旦低確／第 1 K T 状態（時短状態）となると 35% の割合で低確／第 1 K T 状態（時短状態）がループすることになる。なお、〔6 R 通常大当り〕や〔2 R 通常大当り〕が発生して低確／第 1 K T 状態（時短状態）となった後、次の大当りが発生することなく、50 回の変動表示が終了した場合には、図 10-29 に示したように、低確／非 K T 状態（通常状態）に移行する。

10

【0993】

図 10-29 に示したように、高確／第 2 K T 状態（小当り R U S H 状態）において〔10 R 確変大当り〕または〔2 R 確変大当り〕が発生した場合には、その大当り遊技の終了後に高確／第 2 K T 状態（小当り R U S H 状態）に移行し、次の大当りが発生するまで高確／第 2 K T 状態（小当り R U S H 状態）が維持される。なお、本実施形態では、第 2 特別図柄の変動表示が実行される場合には、〔10 R 確変大当り〕または〔2 R 確変大当り〕となる確率が 15% であるので（図 10-5（D）,（E）参照）、一旦高確／第 2 K T 状態（小当り R U S H 状態）となると 15% の割合で高確／第 2 K T 状態（小当り R U S H 状態）がループすることになる。また、高確／第 2 K T 状態（小当り R U S H 状態）において〔6 R 確変大当り〕が発生した場合には、その大当り遊技の終了後に高確／第 1 K T 状態（確変状態）に移行し、次の大当りが発生するまで高確／第 1 K T 状態（確変状態）が維持される。また、高確／第 2 K T 状態（小当り R U S H 状態）において〔2 R 通常大当り〕が発生した場合には、その大当り遊技の終了後に低確／第 1 K T 状態（時短状態）に移行し、次の大当りが発生するか 50 回の変動表示を終了するまで低確／第 1 K T 状態（時短状態）が維持される。

20

【0994】

このように、本実施形態では、大当り種別に応じて、高確／第 1 K T 状態（確変状態）及び高確／第 2 K T 状態（小当り R U S H 状態）のいずれの遊技状態に制御されるかの割合が異なっており、いずれの遊技状態に制御されるかに応じて、最終的に遊技者に付与される遊技価値（賞球数）が大きく異なる。そのため、遊技者は、大当りが発生したときの大当り種別に注目することになる。

30

【0995】

（各演出モードにおける演出例）

図 11-3、図 11-4、及び図 11-5 は、遊技状態が高確／第 2 K T 状態（小当り R U S H 状態）に制御されているときの、各演出モードにおける演出例を示している。図 11-3（A1）～（A3）は、演出モードが曇りモードである場合に、第 2 特別図柄の変動表示結果が「小当り」となるときの演出画像の一例を示す説明図であり、図 11-4（B1）～（B3）は、演出モードが雨モードである場合に、第 2 特別図柄の変動表示結果が「小当り」となるときの演出画像の一例を示す説明図であり、図 11-5（C1）～（C3）は、演出モードが台風モードである場合に、第 2 特別図柄の変動表示結果が「小当り」となるときの演出画像の一例を示す説明図である。

40

【0996】

（曇りモード中の小当り）

図 11-3（A1）に示すように、遊技状態が高確／第 2 K T 状態に制御されているときに、遊技者が演出モードとして曇りモードを選択すると、演出制御用 CPU 120 により、演出モードが曇りモードに制御される。演出モードが曇りモードの場合であって、遊技状態が高確／第 2 K T 状態に制御されているときには、飾り図柄の背景画像として「曇

50

り画像」が表示されるとともに、画像表示装置5の画面右上部及び画面左下部に、高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されることに対応した特別表示18TM100が表示されることになる。

【0997】

特別表示18TM100は、背景画像よりも高い優先度（背景画像よりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様）で背景画像と重畳表示されている。CPU103が、第1特別図柄の変動表示と第2特別図柄の変動表示とを同時に実行しているとき、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、飾り図柄（メイン図柄である第2特別図柄に対応した情報）の変動表示を実行しており、画像表示装置5の第2小図柄表示エリア5l2、5c2、5r2において、第2小図柄（第2特別図柄に対応した情報）の変動表示を実行しており、画像表示装置5の第1小図柄表示エリア5l1、5c1、5r1において、第1小図柄（サブ図柄である第1特別図柄に対応した情報）の変動表示を実行している。

【0998】

演出制御用CPU120は、第1保留記憶数が2であるので、画像表示装置5の第1保留記憶数特別表示領域18TM015に「2」を表示させており、第2保留記憶数が4であるので、画像表示装置5の第2保留記憶数特別表示領域18TM025に「4」を表示させている。また、アクティブ表示領域18TM031には、現在実行中の変動表示に対応したアクティブ表示18TM030を表示させており、第2保留表示領域18TM021には、第2保留表示18TM020を4つ表示させている。

【0999】

第2KT状態中である場合には、図11-3（A1）に示すように、画像表示装置5において、第2KT状態中における小当りの連続回数を示す小当り連続数表示が表示されるとともに、第2KT状態中で小当りが連続して発生している期間に付与された賞球数を示す小当り連続中賞球数表示が表示される。本例では、10R確変大当りが発生して第2KT状態に移行された後、現時点までに小当りが3回発生しているものとし、図11-3（A1）に示すように、小当り連続数表示として「3回目」などの文字が表示されている場合が示されている。また、最初の10R確変大当りにもとづく大当り遊技中に15個×10球×10ラウンド＝1500個の賞球が得られ、その後の小当り毎に10個×3球＝30個の賞球が得られ、3回の小当り発生により30個×3＝90個の賞球が得られたことにより、合計で1590個の賞球が得られていることにもとづいて、図11-3（A1）に示すように、小当り連続中賞球数表示として「1590pt」などの文字が表示されている場合が示されている。

【1000】

次いで、図11-3（A2）に示すように、演出制御用CPU120は、第2特別図柄の変動表示の表示結果が「小当り」図柄となることに対応して、図柄表示エリア5Lに何れかの数字図柄（本例では「1」）を停止させるとともに、図柄表示エリア5Rに何れかの数字図柄（本例では「8」）を停止させ、図柄表示エリア5Cには特殊図柄18TM050（楕円形のオブジェクトに「OPEN」の文字が示された飾り図柄であり、小当りの発生を報知する飾り図柄）を停止させる。このように、本実施形態では、演出モードが曇りモードに制御されている場合、第2特別図柄の変動表示の表示結果が「小当り」となることに対応して、図柄表示エリア5L、5Rに、それぞれ数字図柄を確定停止させるとともに、図柄表示エリア5Cには特殊図柄18TM050を確定停止させる。これにより、図柄表示エリア5L、5Rにリーチとはならない数字図柄の組み合わせが停止した後も、遊技者は小当りの発生（図柄表示エリア5Cに特殊図柄18TM050が停止すること）を期待することができる。

【1001】

また、演出制御用CPU120は、曇りモードにおいては、小当りとなるときに確定停止させる特殊図柄18TM050に対応する小図柄を「0」としていることに基づいて、第2小図柄表示エリア5l2に、飾り図柄（数字図柄）の「1」に対応した第2小図柄の

「1」、第2小図柄表示エリア5c2に、特殊図柄18TM050に対応した第2小図柄の「0」、第2小図柄表示エリア5r2に、飾り図柄（数字図柄）の「8」に対応した第2小図柄の「8」を、それぞれ確定停止させる。さらに、画像表示装置5の上部に「小当り！！」の文字を表示させることにより小当りの発生を報知している。そして、演出制御用CPU120は、遊技状態が小当り遊技状態に制御されることから、小当り連続数表示を「4回目」に更新させている。

【1002】

次いで、遊技状態が小当り遊技状態に制御され、特殊可変入賞球装置17が開放中である期間には、図11-3（A3）に示すように、演出制御用CPU120は、アクティブ表示領域18TM031に表示されていたアクティブ表示18TM030と、第2保留表示領域18TM021に表示されていた4つの第2保留表示18TM020を消去し、画像表示装置5にキャラクタ、及び、「小当りアタッカー開放中！」の台詞を表示させる。

【1003】

また、特殊可変入賞球装置17が開放中である期間に特殊入賞口に遊技球が3個入賞し、賞球数がさらに10個×3球＝30個増加して合計で1620個になったものとする。この場合、図11-3（A3）に示すように、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の画面下部に「+10」の画像を3つ表示させ、小当り連続中賞球数表示を「1620pt」に更新させる。

【1004】

（雨モード中の小当り）

図11-4（B1）に示すように、遊技状態が高確／第2KT状態に制御されているときに、遊技者が演出モードとして雨モードを選択すると、演出制御用CPU120により、演出モードが雨モードに制御される。演出モードが雨モードの場合であって、遊技状態が高確／第2KT状態に制御されているときには、飾り図柄の背景画像として「雨画像」が表示されるとともに、画像表示装置5の画面右上部及び画面左下部に、高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されることに対応した特別表示18TM100が表示されることになる。

【1005】

特別表示18TM100は、背景画像よりも高い優先度（背景画像よりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様）で背景画像と重畳表示されている。CPU103が、第1特別図柄の変動表示と第2特別図柄の変動表示とを同時に実行しているとき、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、飾り図柄（メイン図柄である第2特別図柄に対応した情報）の変動表示を実行しており、画像表示装置5の第2小図柄表示エリア5l2、5c2、5r2において、第2小図柄（第2特別図柄に対応した情報）の変動表示を実行しており、画像表示装置5の第1小図柄表示エリア5l1、5c1、5r1において、第1小図柄（サブ図柄である第1特別図柄に対応した情報）の変動表示を実行している。

【1006】

演出制御用CPU120は、第1保留記憶数が2であるので、画像表示装置5の第1保留記憶数特別表示領域18TM015に「2」を表示させており、第2保留記憶数が4であるので、画像表示装置5の第2保留記憶数特別表示領域18TM025に「4」を表示させている。また、アクティブ表示領域18TM031には、現在実行中の変動表示に対応したアクティブ表示18TM030を表示させており、第2保留表示領域18TM021には、第2保留表示18TM020を4つ表示させている。

【1007】

第2KT状態中である場合には、図11-4（B1）に示すように、画像表示装置5において、第2KT状態中における小当りの連続回数を示す小当り連続数表示が表示されるとともに、第2KT状態中で小当りが連続して発生している期間に付与された賞球数を示す小当り連続中賞球数表示が表示される。本例では、10R確変大当りが発生して第2KT状態に移行された後、現時点までに小当りが3回発生しているものとし、図11-4（

10

20

30

40

50

B 1) に示すように、小当り連続数表示として「3 回目」などの文字が表示されている場合が示されている。また、最初の 10 R 確変大当りにもとづく大当り遊技中に 15 個×10 球×10 ラウンド=1500 個の賞球が得られ、その後の小当り毎に 10 個×3 球=30 個の賞球が得られ、3 回の小当り発生により 30 個×3=90 個の賞球が得られたことにより、合計で 1590 個の賞球が得られていることにもとづいて、図 11-4 (B 1) に示すように、小当り連続中賞球数表示として「1590 pt」などの文字が表示されている場合が示されている。

【1008】

次いで、図 11-4 (B 2) に示すように、演出制御用 CPU 120 は、第 2 特別図柄の変動表示の表示結果が「小当り」図柄となることに対応して、図柄表示エリア 5 L に数字図柄の「1」、図柄表示エリア 5 C に数字図柄の「3」、図柄表示エリア 5 R に数字図柄の「5」を、それぞれ確定停止させる。このように、本実施形態では、演出モードが雨モードに制御されている場合、第 2 特別図柄の変動表示の表示結果が「小当り」となることに対応して、図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R に、予め定められた数字図柄の組み合わせ（本例では、奇数図柄の順目「135」）を確定停止させる。これにより、図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R に、大当り図柄とは異なる飾り図柄（数字図柄）の組み合わせが停止したときにも、遊技者は小当りの発生を期待することができる。

【1009】

また、演出制御用 CPU 120 は、雨モードにおいては、小当りとなるときに図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R に確定停止させる飾り図柄（数字図柄）の組み合わせを「135」としていることに基づいて、第 2 小図柄表示エリア 5 l 2 に、飾り図柄（数字図柄）の「1」に対応した第 2 小図柄の「1」、第 2 小図柄表示エリア 5 c 2 に、飾り図柄（数字図柄）の「3」に対応した第 2 小図柄の「3」、第 2 小図柄表示エリア 5 r 2 に、飾り図柄（数字図柄）の「5」に対応した第 2 小図柄の「5」を、それぞれ確定停止させる。さらに、画像表示装置 5 の上部に「小当り！！」の文字を表示させることにより小当りの発生を報知している。そして、演出制御用 CPU 120 は、遊技状態が小当り遊技状態に制御されることから、小当り連続数表示を「4 回目」に更新させている。

【1010】

次いで、遊技状態が小当り遊技状態に制御され、特殊可変入賞球装置 17 が開放中である期間には、図 11-4 (B 3) に示すように、演出制御用 CPU 120 は、アクティブ表示領域 18 TM 031 に表示されていたアクティブ表示 18 TM 030 と、第 2 保留表示領域 18 TM 021 に表示されていた 4 つの第 2 保留表示 18 TM 020 を消去し、画像表示装置 5 にキャラクタ、及び、「小当りアタッカー開放中！」の台詞を表示させる。

【1011】

また、特殊可変入賞球装置 17 が開放中である期間に特殊入賞口に遊技球が 3 個入賞し、賞球数がさらに 10 個×3 球=30 個増加して合計で 1620 個になったものとする。この場合、図 11-4 (B 3) に示すように、演出制御用 CPU 120 は、画像表示装置 5 画面下部に「+10」の画像を 3 つ表示させ、小当り連続中賞球数表示を「1620 pt」に更新させる。

【1012】

（台風モード中の小当り）

図 11-5 (C 1) に示すように、遊技状態が高確／第 2 KT 状態に制御されているときに、遊技者が演出モードとして台風モードを選択すると、演出制御用 CPU 120 により、演出モードが台風モードに制御される。演出モードが台風モードの場合であって、遊技状態が高確／第 2 KT 状態に制御されているときには、飾り図柄の背景画像として「台風画像」が表示されるとともに、画像表示装置 5 の画面右上部及び画面左下部に、高確／第 2 KT 状態（小当り RUSH 状態）に制御されることに対応した特別表示 18 TM 100 が表示されることになる。

【1013】

特別表示 18 TM 100 は、背景画像よりも高い優先度（背景画像よりも表示レイヤが

10

20

30

40

50

上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様)で背景画像と重畳表示されている。CPU103が、第1特別図柄の変動表示と第2特別図柄の変動表示とを同時に実行しているとき、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、飾り図柄(メイン図柄である第2特別図柄に対応した情報)の変動表示を実行しており、画像表示装置5の第2小図柄表示エリア5l2、5c2、5r2において、第2小図柄(第2特別図柄に対応した情報)の変動表示を実行しており、画像表示装置5の第1小図柄表示エリア5l1、5c1、5r1において、第1小図柄(サブ図柄である第1特別図柄に対応した情報)の変動表示を実行している。

【1014】

演出制御用CPU120は、第1保留記憶数が2であるので、画像表示装置5の第1保留記憶数特別表示領域18TM015に「2」を表示させており、第2保留記憶数が4であるので、画像表示装置5の第2保留記憶数特別表示領域18TM025に「4」を表示させている。また、アクティブ表示領域18TM031には、現在実行中の変動表示に対応したアクティブ表示18TM030を表示させており、第2保留表示領域18TM021には、第2保留表示18TM020を4つ表示させている。

【1015】

第2KT状態中である場合には、図11-5(C1)に示すように、画像表示装置5において、第2KT状態中における小当りの連続回数を示す小当り連続数表示が表示されるとともに、第2KT状態中で小当りが連続して発生している期間に付与された賞球数を示す小当り連続中賞球数表示が表示される。本例では、10R確変大当りが発生して第2KT状態に移行された後、現時点までに小当りが3回発生しているものとし、図11-5(C1)に示すように、小当り連続数表示として「3回目」などの文字が表示されている場合が示されている。また、最初の10R確変大当りにもとづく大当り遊技中に15個×10球×10ラウンド=1500個の賞球が得られ、その後の小当り毎に10個×3球=30個の賞球が得られ、3回の小当り発生により30個×3=90個の賞球が得られたことにより、合計で1590個の賞球が得られていることにもとづいて、図11-5(C1)に示すように、小当り連続中賞球数表示として「1590pt」などの文字が表示されている場合が示されている。

【1016】

次いで、図11-5(C2)に示すように、演出制御用CPU120は、第2特別図柄の変動表示の表示結果が「小当り」図柄となることに対応して、図柄表示エリア5Lに何れかの数字図柄(本例では「2」)、図柄表示エリア5Cに何れかの数字図柄(本例では「4」)、図柄表示エリア5Rに何れかの数字図柄(本例では「7」)を、それぞれ停止させる。さらに、図柄表示エリア5L、5C、5Rに停止された数字図柄(本例では「2」、「4」、「7」)のそれぞれに、エフェクト画像18TM060(本例では、音符型の画像)を重畳表示させる。エフェクト画像18TM060は、飾り図柄よりも高い優先度(飾り図柄よりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様)で表示されている。このように、本実施形態では、演出モードが台風モードに制御されている場合、第2特別図柄の変動表示の表示結果が「小当り」となることに対応して、図柄表示エリア5L、5C、5Rに、大当り図柄とは異なる飾り図柄(数字図柄)の組み合わせを停止させるとともに、停止させた飾り図柄(数字図柄)のそれぞれに、エフェクト画像18TM060を重畳表示させる。これにより、図柄表示エリア5L、5C、5Rに、大当り図柄とは異なる飾り図柄(数字図柄)の組み合わせが停止したときにも、遊技者は小当りの発生を期待することができる。

【1017】

また、演出制御用CPU120は、図柄表示エリア5L、5C、5Rに確定停止させる飾り図柄(数字図柄)の組み合わせに基づいて、第2小図柄表示エリア5l2に、飾り図柄(数字図柄)の「2」に対応した第2小図柄の「2」、第2小図柄表示エリア5c2に、飾り図柄(数字図柄)の「4」に対応した第2小図柄の「4」、第2小図柄表示エリア5r2に、飾り図柄(数字図柄)の「7」に対応した第2小図柄の「7」を、それぞれ確

10

20

30

40

50

定停止させる。さらに、画像表示装置 5 の上部に「小当り！！」の文字を表示させることにより小当りの発生を報知している。そして、演出制御用 CPU 120 は、遊技状態が小当り遊技状態に制御されることから、小当り連続数表示を「4 回目」に更新させている。

【1018】

次いで、遊技状態が小当り遊技状態に制御され、特殊可変入賞球装置 17 が開放中である期間には、図 11-5 (C3) に示すように、演出制御用 CPU 120 は、アクティブ表示領域 18 T M 0 3 1 に表示されていたアクティブ表示 18 T M 0 3 0 と、第 2 保留表示領域 18 T M 0 2 1 に表示されていた 4 つの第 2 保留表示 18 T M 0 2 0 を消去し、画像表示装置 5 にキャラクタ、及び、「小当りアタッカー開放中！」の台詞を表示させる。

【1019】

また、特殊可変入賞球装置 17 が開放中である期間に特殊入賞口に遊技球が 3 個入賞し、賞球数がさらに 10 個×3 球=30 個増加して合計で 1620 個になったものとする。この場合、図 11-5 (C3) に示すように、演出制御用 CPU 120 は、画像表示装置 5 画面下部に「+10」の画像を 3 つ表示させ、小当り連続中賞球数表示を「1620 pt」に更新させる。

【1020】

図 11-2 に示すように、遊技状態が高確／第 2 K T 状態（小当り R U S H 状態）に制御されているときに、遊技者は、曇りモード、雨モード、及び台風モードのいずれかの演出モードを選択可能である。そして、図 11-3 (A1) ~ (A3) に示すように、演出モードが曇りモードである場合には、第 2 特別図柄の変動表示結果が「小当り」となるときに、図柄表示エリア 5 L、図柄表示エリア 5 R に数字図柄を確定停止させるとともに、図柄表示エリア 5 C に特殊図柄 18 T M 0 5 0 を確定停止させることによって、小当りの発生を報知している。これに対して、図 11-4 (B1) ~ (B3) に示すように、演出モードが雨モードである場合には、第 2 特別図柄の変動表示結果が「小当り」となるときに、図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R に奇数図柄の順目となる飾り図柄の組み合わせ（本例では、「135」）を確定停止させることによって、小当りの発生を報知している。また、図 11-5 (C1) ~ (C3) に示すように、演出モードが台風モードである場合には、第 2 特別図柄の変動表示結果が「小当り」となるときに、図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R にエフェクト画像 18 T M 0 6 0（本例では、音符型の画像）が重畳表示された飾り図柄の組み合わせを確定停止させることによって、小当りの発生を報知している。

【1021】

このように、小当りの発生を報知する演出（飾り図柄を確定停止させる際の演出）が演出モードに応じて異なり、遊技者は、演出モードを選択することで、いずれの演出によって小当りの発生が報知されるようにするかも選択可能となる。これにより、高確／第 2 K T 状態（小当り R U S H 状態）において小当りが発生する際の演出を、遊技者の所望の演出とすることが可能となり、遊技の興趣を向上させることができる。

【1022】

図 11-3 (A2) に示すように、演出モードが曇りモードである場合には、数字図柄（本例では、「0」~「9」）と、特殊図柄 18 T M 0 5 0（楕円形のオブジェクトに「OPEN」の文字が示された小当り図柄）とを含む飾り図柄の変動表示を行う。一方、図 11-4 (B2) に示すように、演出モードが雨モードである場合には、数字図柄（本例では、「0」~「9」）のみを含む飾り図柄の変動表示を行う。また、図 11-5 (C2) に示すように、演出モードが台風モードである場合には、数字図柄（本例では、「0」~「9」）のみを含む飾り図柄の変動表示を行うと共に、表示結果が「小当り」となるときには、飾り図柄が確定停止する際にエフェクト画像 18 T M 0 6 0 を重畳表示させている。このように、演出モードに応じて、飾り図柄の変動表示の態様を異ならせることが可能であり、遊技状態が高確状態（高確／第 1 K T 状態、高確／第 2 K T 状態）に制御されているときの遊技の興趣を向上させることができる。

【1023】

また、図 11-3、図 11-4、及び図 11-5 に示すように、遊技状態が高確／第 2

10

20

30

40

50

K T 状態（小当り R U S H 状態）に制御されているときには、いずれの演出モードに制御されているかにかかわらず、小当り連続数表示が共通の表示態様で画面右下部に表示されており、また、いずれの演出モードに制御されているかにかかわらず、小当り連続中賞球数表示が共通の表示態様で画面右下部に表示されている。このような構成によれば、各演出モードにおいて、小当り連続数表示の表示態様及び表示領域を共通化できるので、遊技者は、遊技モードが切り替わっても、第 2 K T 状態中における小当りの連続回数を正確に把握することができる。また、各演出モードにおいて、小当り連続中賞球数表示の表示態様及び表示領域を共通化できるので、遊技者は、演出モードが切り替わっても、第 2 K T 状態中で小当りが連続して発生している期間に付与された賞球数を正確に把握することが可能となる。

10

【1024】

（演出モードの選択期間）

本実施形態では、（1）遊技状態が高確率状態（高確／第 1 K T 状態（確変状態）、高確／第 2 K T 状態（小当り R U S H 状態））に制御されており且つ第 2 特別図柄の変動表示（メイン図柄である第 2 特別図柄の変動表示に対応した第 2 小図柄の変動表示）が実行されている期間と、（2）確変大当りの大当り遊技状態終了に対応して実行される大当りエンディングの期間とにおいて、遊技者による演出モードの選択が可能であり、（1）及び（2）の何れにも該当しない期間は、遊技者による演出モードの選択が不能となっている。即ち、（1）及び（2）の何れかの期間においてのみ、遊技者は、曇りモード、雨モード、及び台風モードのいずれかの演出モードを選択可能である。

20

【1025】

従って、本実施形態では、低確状態（低確／低ベース状態（通常状態）、低確／高ベース状態（低確／第 1 K T 状態））で特別図柄（第 1 特別図柄、第 2 特別図柄）の変動表示が実行されているときには、演出モードの選択ができないようになっている。

【1026】

本実施形態における確変大当りとして、（i）大当り遊技状態終了後に高確／第 1 K T 状態に制御される〔6 R 確変大当り〕と、（i i）大当り遊技状態終了後に高確／第 2 K T 状態に制御される〔10 R 確変大当り〕と、（i i i）大当り遊技状態終了後に高確／第 2 K T 状態に制御される〔2 R 確変大当り〕と、があり、（i）～（i i i）の大当り種別の大当り遊技状態終了に対応して実行される大当りエンディングの期間において、遊技者は演出モードを選択可能となる。一方で、大当り遊技状態終了後に低確／高ベース状態に制御される通常大当り（6 R 通常大当り、2 R 通常大当り）の大当り遊技状態終了に対応して実行される大当りエンディングの期間は、演出モードの選択ができないようになっている。

30

【1027】

（大当りエンディング期間の演出モード選択）

次に、確変大当りの大当りエンディング期間に演出モードを選択する場合の演出例に関して、図 11-6 及び図 11-7 を用いて説明する。図 11-6 は、確変大当りの大当りエンディング期間に演出モードを選択する場合の各演出の実行タイミングを示すタイムチャートであり、図 11-7（A1）～（A4）は、大当り終了後に高確／第 1 K T 状態に制御される〔6 R 確変大当り〕の大当りエンディング期間に演出モードを選択する場合の演出画像の一例を示す説明図であり、図 11-7（B1）～（B4）は、大当り終了後に高確／第 2 K T 状態に制御される〔10 R 確変大当り〕又は〔2 R 確変大当り〕の大当りエンディング期間に演出モードを選択する場合の演出画像の一例を示す説明図である。

40

【1028】

（高確／第 1 K T 状態に制御される場合の演出モード選択）

大当り終了後に高確／第 1 K T 状態（確変状態）に制御される〔6 R 確変大当り〕の大当りエンディング期間に演出モードを選択する場合の演出例に関して、図 11-6 及び図 11-7（A1）～（A4）を用いて説明する。

【1029】

50

まず、図11-7(A1)に示すように、大当たり種別が「6R確変大当たり」であった場合において、遊技状態が大当たり遊技状態に制御されているときに、大当たりエンディング期間の開始に対応して、演出モードを選択可能な演出モード選択期間が開始される(図11-6に示すT1のタイミング)。具体的には、演出制御用CPU120が、画像表示装置5に演出モード選択画面を表示させることにより、演出モード選択期間が開始される。

【1030】

演出モード選択画面には、選択可能な各演出モードに対応した画像(曇りモード画像18TM200A、雨モード画像18TM200B、台風モード画像18TM200C)が表示される演出モード画像表示領域18TM250と、プッシュボタン31Bの操作により演出モードの選択が可能であることを報知するとともにプッシュボタン31Bの操作により演出モードを選択するよう遊技者に促す操作促進表示18TM210と、プッシュボタン31Bの操作が有効となる残り期間(演出モード選択期間の残り期間)を報知するタイムバー18TM220と、が含まれる。

【1031】

演出モード画像表示領域18TM250は画面中央にあり、操作促進表示18TM210は画面左下部に表示され、タイムバー18TM220は画面右下部に表示される。操作促進表示18TM210は、プッシュボタン210の形状を模した画像であり、操作促進表示18TM210の左側には「PUSH」という文字が表示され、操作促進表示18TM210の右側には「で選択」という文字が表示されることにより、プッシュボタン210の操作により演出モードの選択を行うよう遊技者に促す態様となっている。また、タイムバー18TM220は、表示された当初、即ち、演出モード選択期間が開始されたタイミングでは残り時間が100%の表示となっており、時間経過に応じて徐々に残り時間の割合が減少し、演出モード選択期間が終了するタイミングで残り時間が0%の表示となる。

【1032】

演出モード画像表示領域18TM250には、現在選択中の演出モードに対応した演出モード画像が表示されている。本例では、演出モード画像として曇りモード画像18TM200Aが表示されているので、演出モードとして曇りモードを選択していることになる。ここで、プッシュボタン31Bが操作されたことをプッシュセンサが検出すると、演出制御用CPU120が、画面中央の演出モード画像表示領域18TM250に表示されていた演出モード画像を画像表示装置5の画面右端に移動させるとともに、画面左端に表示されていた演出モード画像を画面中央の演出モード画像表示領域18TM250に移動させる。演出モード画像表示領域18TM250に表示される演出モード画像は、プッシュボタン31Bが操作される毎に、曇りモード画像18TM200A、雨モード画像18TM200B、台風モード画像18TM200C、以下繰り返し、の順序で切り替わる。

【1033】

また、画像表示装置5の画面右下部にタイムバー18TM220が表示されており、タイムバー18TM220の幅全体に対しての白い部分の範囲の割合(0~100%)によって、大当たりエンディング期間における演出モードを選択可能な期間である演出モード選択期間を報知するようにしている。タイムバー18TM220により示される演出モード選択期間は、初期値(100%)が示されてから時間が経過する毎に減算更新されて、最終的には最終値(0%)に達する。そして、タイムバー18TM220が最終値(0%)となったときに、演出モード画像表示領域18TM250に表示されている演出モード画像に対応した演出モードに制御される。遊技者は、タイムバー18TM220の表示が最終値(0%)に達するまでに、プッシュボタン31Bを操作して、演出モード画像表示領域18TM250に表示させる演出モード画像を、所望の演出モードに対応した演出モード画像に切り替える。

【1034】

図11-7(A2)に示す例では、プッシュボタン31Bが操作されたことに応じて(図11-6に示すT2のタイミングで)、演出制御用CPU120が、画面左端に表示されていた雨モード画像18TM200Bを画面中央の演出モード画像表示領域18TM2

50に移動させるとともに、画面中央の演出モード画像表示領域18TM250に表示されていた曇りモード画像18TM200Aを画面右端に移動させる。このとき、演出モード画像表示領域18TM250には、雨モード画像18TM200Bが表示されているので、演出モードとして雨モードが選択されていることになる。また、タイムバー18TM220の表示は残り75%に更新されており、演出モード選択期間全体の25%が経過したことになる。

【1035】

次いで、図11-7(A3)に示すように、プッシュボタン31Bが操作されたことに応じて(図11-6に示すT3のタイミングで)、演出制御用CPU120は、画面左端に表示されていた台風モード画像18TM200Cを画面中央の演出モード画像表示領域18TM250に移動させるとともに、画面中央の演出モード画像表示領域18TM250に表示されていた雨モード画像18TM200Bを画面右端に移動させる。このとき、演出モード画像表示領域18TM250には、台風モード画像18TM200Cが表示されているので、演出モードとして台風モードが選択されていることになる。また、タイムバー18TM220の表示は残り25%に更新されており、演出モード選択期間全体の75%が経過したことになる。

【1036】

次いで、図11-7(A4)に示すように、タイムバー18TM220の表示が残り0%まで更新され、演出モード選択期間が終了したタイミングで(図11-6に示すT4のタイミングで)、演出モード画像表示領域18TM250に台風モード画像18TM200Cが表示されていたことに基づいて、演出制御用CPU120は、演出モードを台風モードに決定する。演出モードが台風モードに決定されたことに伴い、演出制御用CPU120は、画面中央部に台風モード画像18TM200Cを拡大表示させることにより、演出モードが台風モードに制御されることを報知する。

【1037】

(高確／第2KT状態に制御される場合の演出モード選択)

大当り終了後に高確／第2KT状態(小当りRUSH状態)に制御される[10R確変大当り]又は[2R確変大当り]の大当りエンディング期間に演出モードを選択する場合の演出例に関して、図11-6及び図11-7(B1)～(B4)を用いて説明する。

【1038】

まず、図11-7(B1)に示すように、大当り種別が[10R確変大当り]又は[2R確変大当り]であった場合において、遊技状態が大当り遊技状態に制御されているときに、大当りエンディング期間の開始に対応して、演出モードを選択可能な演出モード選択期間が開始される(図11-6に示すT1のタイミング)。具体的には、演出制御用CPU120が、画像表示装置5に演出モード選択画面を表示させることにより、演出モード選択期間が開始される。

【1039】

ここで、大当り終了後に高確／第1KT状態(確変状態)に制御される場合とは異なり、大当り終了後に高確／第2KT状態(小当りRUSH状態)に制御されることに基づいて、演出制御用CPU120は、画面上部(演出モード画像表示領域18TM250の上方)に「RUSH」という文字を点滅表示させる。「RUSH」という文字を点滅表示させることにより、高確／第2KT状態(小当りRUSH状態)に制御されることを遊技者に報知することができる。

【1040】

図11-7(B2)に示す例では、プッシュボタン31Bが操作されたことに応じて(図11-6に示すT2のタイミングで)、演出制御用CPU120が、画面左端に表示されていた雨モード画像18TM200Bを画面中央の演出モード画像表示領域18TM250に移動させるとともに、画面中央の演出モード画像表示領域18TM250に表示されていた曇りモード画像18TM200Aを画面右端に移動させる。このとき、演出モード画像表示領域18TM250には、雨モード画像18TM200Bが表示されているの

10

20

30

40

50

で、演出モードとして雨モードが選択されていることになる。ここでも画面上部に「RUSH」という文字が点滅表示されることにより、雨モード画像18TM200Bに対応した雨モードが、高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に対応した演出モードであることを遊技者は把握することができる。また、タイムバー18TM220の表示は残り75%に更新されており、演出モード選択期間全体の25%が経過したことになる。

【1041】

次いで、図11-7（B3）に示すように、プッシュボタン31Bが操作されたことに応じて（図11-6に示すT3のタイミングで）、演出制御用CPU120は、画面左端に表示されていた台風モード画像18TM200Cを画面中央の演出モード画像表示領域18TM250に移動させるとともに、画面中央の演出モード画像表示領域18TM250に表示されていた雨モード画像18TM200Bを画面右側に移動させる。このとき、演出モード画像表示領域18TM250には、台風モード画像18TM200Cが表示されているので、演出モードとして台風モードが選択されていることになる。ここでも画面上部に「RUSH」という文字が点滅表示されることにより、台風モード画像18TM200Cに対応した台風モードが、高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に対応した演出モードであることを遊技者は把握することができる。また、タイムバー18TM220の表示は残り25%に更新されており、演出モード選択期間全体の75%が経過したことになる。

【1042】

次いで、図11-7（B4）に示すように、タイムバー18TM220の表示が残り0%まで更新され、演出モード選択期間が終了したタイミングで（図11-6に示すT4のタイミングで）、演出モード画像表示領域18TM250に台風モード画像18TM200Cが表示されていたことに基づいて、演出制御用CPU120は、演出モードを台風モードに決定する。演出モードが台風モードに決定されたことに伴い、演出制御用CPU120は、画面中央部に台風モード画像18TM200Cを拡大表示させることにより、演出モードが台風モードに制御されることを報知する。

【1043】

このとき、大当り終了後に高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されることに基づいて、演出制御用CPU120は、拡大表示した台風モード画像18TM200Cの右上部及び左下部に、それぞれ、高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されることに対応した「RUSH」の文字が示された特別表示18TM100を重畳表示させる。また、拡大表示した台風モード画像18TM200Cの中央部には、「RUSH」の文字が示されたスタンプを模した画像18TM230を重畳表示させている。特別表示18TM100は、台風モード画像18TM200C内の背景画像よりも高い優先度（台風モード画像18TM200C内の背景画像よりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様）で表示されており、さらに、画像18TM230は、台風モード画像18TM200C内の背景画像及び特別表示18TM100よりも高い優先度（台風モード画像18TM200C内の背景画像及び特別表示18TM100よりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様）で表示されている。即ち、台風モード画像18TM200C内の表示優先度は、台風モード画像18TM200C内の背景画像＜特別表示18TM100＜画像18TM230の順で高くなっている。

【1044】

なお、本実施形態では、図11-7（B1）～（B3）に示すように、演出モード選択期間（大当りエンディング期間）において、「RUSH」という文字を点滅表示させることにより、大当り終了後（大当りエンディング期間終了後）に高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されることを報知する演出が実行されているが、このような形態に限らず、演出モード選択期間（大当りエンディング期間）において、高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されることを報知する演出が実行されず、高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されるか否かを遊技者が認識困難であるようにして

10

20

30

40

50

もよい。

【1045】

例えば、演出モード選択期間（大当りエンディング期間）において、示唆演出が実行されることにより、大当り終了後（大当りエンディング期間終了後）に高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されることが示唆されるようにしてもよい。そして、実行された示唆演出（RUSH示唆演出）が成功態様で終了した場合には、大当り終了後（大当りエンディング期間終了後）に高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御される。一方、実行された示唆演出（RUSH示唆演出）が失敗態様で終了した場合には、大当り終了後（大当りエンディング期間終了後）に高確／第1KT状態（確変状態）に制御されるものとする。

10

【1046】

例えば、演出制御用CPU120は、成功態様のRUSH示唆演出において、「RUSH」という文字を表示させた後に、ブラックアウト演出（画像表示装置5の表示画面の全域を覆う被覆画像として暗転画像を表示することにより、背景画像及び飾り図柄の視認性を低下させて視認困難状態とする演出）を実行する。次いで、プッシュボタン31Bを操作するように促す操作促進表示18TM210を暗転画像に重畳表示させる。そして、プッシュボタン31Bが操作されたことをプッシュセンサが検出すると、ブラックアウト演出を終了させて（画像表示装置5の表示画面の全域を覆う被覆画像として暗転画像を非表示することにより、背景画像及び飾り図柄の視認性を向上させて視認容易状態とし）、画面中央部に「RUSH」の文字が示された画像18TM230を表示させることにより、高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に移行することを報知する。

20

【1047】

一方、演出制御用CPU120は、失敗態様のRUSH示唆演出において、成功態様の場合と同様に、「RUSH」という文字を表示させた後に、ブラックアウト演出を実行する。次いで、成功態様の場合と同様に、プッシュボタン31Bを操作するように促す操作促進表示18TM210を暗転画像に重畳表示させる。そして、プッシュボタン31Bが操作されたことをプッシュセンサが検出すると、ブラックアウト演出を終了させて、画面中央部に「失敗」の文字が示された画像を表示させることにより、高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に移行しないこと（この場合は、高確／第1KT状態（確変状態）に移行すること）を報知する。

30

【1048】

上述したように、大当りエンディング期間の演出モード選択期間において、大当り終了後に高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御される場合には、成功態様のRUSH示唆演出を実行し、大当り終了後に高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されない場合には、失敗態様のRUSH示唆演出を実行することが可能となっている。このような構成によれば、演出モードを選択する際の遊技の興趣を向上させることができる。

【1049】

ここで、成功態様のRUSH示唆演出と、失敗態様のRUSH示唆演出とでは、演出の前半部分の演出態様が共通であり、遊技者は、RUSH示唆演出の前半部分では、成功態様であるか失敗態様であるかを把握できないようになっている。そして、RUSH示唆演出の後半部分において、成功態様であるか（大当り終了後に高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されるか）または失敗態様であるか（大当り終了後に高確／第1KT状態（確変状態）に制御されるか）が報知されるようになっている。

40

【1050】

なお、本例では、第1態様（成功態様）のRUSH示唆演出が実行された場合には、大当り終了後に必ず高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御され、第2態様（失敗態様）のRUSH示唆演出が実行された場合には、大当り終了後に必ず高確／第1KT状態（確変状態）に制御される例を示したが、これに限らず、第1態様のRUSH示唆演出が実行された場合であっても大当り終了後に高確／第1KT状態（確変状態）に制御される演出パターンを設けても良く、第2態様のRUSH示唆演出が実行された場合であっ

50

ても大当り終了後に高確／第2 K T 状態（小当り R U S H 状態）に制御される演出パターンを設けてもよい。ただし、第1 態様の R U S H 示唆演出が実行された場合には、第2 態様の R U S H 示唆演出が実行された場合よりも、大当り終了後に高確／第2 K T 状態（小当り R U S H 状態）に制御される割合が高く、第2 態様の R U S H 示唆演出が実行された場合には、第1 態様の R U S H 示唆演出が実行された場合よりも、大当り終了後に高確／第1 K T 状態（確変状態）に制御される割合が高いものとする。

【1051】

図11-6及び図11-7に示したように、大当りエンディング期間の演出モード選択期間（図11-6に示すT1～T4の期間）において、遊技者は、押しボタン31Bの操作によって、大当り遊技状態終了後に制御される演出モードを、曇りモード、雨モード、及び台風モードのいずれの演出モードとするかを選択可能となっている。このような構成によれば、大当り遊技状態に制御されているときに、遊技者が所望の演出モードを選択可能となるため、遊技の興趣を向上させることができる。

【1052】

また、図11-7（B4）に示したように、大当りエンディング期間の演出モード選択期間において、大当り終了後に高確／第2 K T 状態（小当り R U S H 状態）に制御されることに基づいて、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の台風モード画像18TM200Cの右上部及び左下部に、高確／第2 K T 状態（小当り R U S H 状態）に制御されることに対応した特別表示18TM100を重畳表示させ、台風モード画像18TM200Cの中央部には、「R U S H」の文字が示されたスタンプを模した画像18TM230を重畳表示させている。

【1053】

このように、大当り終了後の遊技状態が高確／第1 K T 状態（確変状態）に制御される場合と、大当り終了後の遊技状態が高確／第2 K T 状態（小当り R U S H 状態）に制御される場合とで、共通の演出モードにより演出を実行可能であることに対応して、大当りエンディング期間の演出モード選択期間において、演出モード画像表示領域18TM250に表示させる演出モード画像も共通化している。即ち、いずれの遊技状態に制御される場合であっても、曇りモードが選択されているときには曇りモードに対応した曇りモード画像18TM200Aを表示させ、雨モードが選択されているときには雨モードに対応した雨モード画像18TM200Bを表示させ、台風モードが選択されているときには台風モードに対応した台風モード画像18TM200Cを表示させている。

【1054】

但し、演出制御用CPU120は、大当り終了後の遊技状態が高確／第2 K T 状態（小当り R U S H 状態）に制御される場合、大当り終了後の遊技状態が高確／第1 K T 状態（確変状態）に制御される場合とは異なり、大当り終了後の遊技状態が高確／第2 K T 状態（小当り R U S H 状態）に制御されることを示す付加情報を表示させる。具体的には、付加情報として、選択中の演出モード画像の上方に「R U S H」という文字（図11-7（B1）～（B3）を参照）を表示させる。また、付加情報として、決定された演出モード画像の左下部及び右上部に特別表示18TM100を重畳表示させるとともに中央部には「R U S H」の文字が示されたスタンプを模した画像18TM230（図11-7（B4）を参照）を重畳表示させる。これにより、選択中の演出モードに対応した演出モード画像を共通化しつつ、大当り終了後の遊技状態が、高確／第1 K T 状態（確変状態）と高確／第2 K T 状態（小当り R U S H 状態）のいずれの遊技状態に制御されるかを遊技者が把握できるようにしている。

【1055】

（変動表示を実行している期間の演出モード選択）

前述したように、本実施形態の遊技機では、高確／第1 K T 状態において第2 特別図柄の変動表示が実行されている期間、また、高確／第2 K T 状態において第2 特別図柄の変動表示が実行されている期間に、演出モードを選択することが可能である。第2 特別図柄の変動表示が実行されている期間において演出モードが選択される場合の演出例に関して

、図 11-8～図 11-11 を用いて説明する。

【1056】

図 11-8 は、高確／第 1 K T 状態において第 2 特別図柄の変動表示が実行されている期間に演出モードを選択する場合の各演出の実行タイミングを示すタイムチャートであり、図 11-9 は、高確／第 1 K T 状態において第 2 特別図柄の変動表示が実行されている期間に演出モードを選択する場合の演出画像の一例を示す説明図である。また、図 11-10 は、高確／第 2 K T 状態において第 2 特別図柄の変動表示が実行されている期間に演出モードを選択する場合の各演出の実行タイミングを示すタイムチャートであり、図 11-11 は、高確／第 2 K T 状態において第 2 特別図柄の変動表示が実行されている期間に演出モードを選択する場合の演出画像の一例を示す説明図である。

10

【1057】

（高確／第 1 K T 状態の演出モード選択）

遊技状態が高確／第 1 K T 状態（確変状態）である場合に、第 2 特別図柄の変動表示が実行されている期間に演出モードを選択する際の、各演出の実行タイミング及び演出画像の一例を図 11-8 及び図 11-9 を用いて説明する。

【1058】

図 11-9（A1）に示すように、遊技状態が高確／第 1 K T 状態（確変状態）に制御されているときに、演出モードとして曇りモードが選択されているときには、演出制御用 CPU 120 により、飾り図柄の背景画像として「曇り画像」が表示されることになる。CPU 103 が、第 1 特別図柄及び第 2 特別図柄の変動表示を同時に実行しているとき、演出制御用 CPU 120 は、画像表示装置 5 の図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R において、飾り図柄（メイン図柄である第 2 特別図柄に対応した情報）の変動表示を実行しており、画像表示装置 5 の第 2 小図柄表示エリア 5 l 2、5 c 2、5 r 2 において、第 2 小図柄（第 2 特別図柄に対応した情報）の変動表示を実行しており、画像表示装置 5 の第 1 小図柄表示エリア 5 l 1、5 c 1、5 r 1 において、第 1 小図柄（サブ図柄である第 1 特別図柄に対応した情報）の変動表示を実行している。

20

【1059】

演出制御用 CPU 120 は、第 1 保留記憶数が 2 であるので、画像表示装置 5 の第 1 保留記憶数特別表示領域 18 T M 0 1 5 に「2」を表示させており、第 2 保留記憶数が 4 であるので、画像表示装置 5 の第 2 保留記憶数特別表示領域 18 T M 0 2 5 に「4」を表示させている。また、アクティブ表示領域 18 T M 0 3 1 には、現在実行中の変動表示に対応したアクティブ表示 18 T M 0 3 0 を表示させており、第 2 保留表示領域 18 T M 0 2 1 には、第 2 保留表示 18 T M 0 2 0 を 4 つ表示させている。

30

【1060】

演出制御用 CPU 120 は、演出モードを選択可能であることに対応して、画像表示装置 5 の画面左下部に、現在選択されている演出モード（本例では「曇りモード」）を示す演出モード選択アイコン 18 T M 3 0 0 を表示するとともに、その下方に押しボタン 31 B を操作するように促す操作促進表示 18 T M 2 1 0 を表示する。操作促進表示 18 T M 2 1 0 は押しボタン 31 B を模した画像であり、操作促進表示 18 T M 2 1 0 の右側には「で選択」という文字が表示されていることにより、遊技者に対して、押しボタン 31 B の操作により演出モードを変更することが可能であることが報知されている。

40

【1061】

本実施形態では、第 2 特別図柄の変動表示が実行されている期間において、押しボタン 31 B が操作されると、画面左下部の演出モード選択アイコン 18 T M 3 0 0 に示されている「（演出モード）」が切り替わり、演出モード選択アイコン 18 T M 3 0 0 に示されている「（演出モード）」が切り替わったことに対応して、第 2 特別図柄の変動表示が終了したときに実際の演出モードが変更されることになる。

【1062】

具体的には、演出制御用 CPU 120 は、押しボタン 31 B が操作される毎に、演出モード選択アイコン 18 T M 3 0 0 に示されている演出モードを、「曇りモード」→「

50

雨モード] → [台風モード] の順に切り替える。そして、実行されていた第2特別図柄の変動表示が終了したタイミングで、画面左下部の演出モード選択アイコン18TM300に示されている[演出モード]が、現在制御されている演出モード（即ち、実行されていた第2特別図柄の変動表示に対応した演出モード）と異なるか否かを確認する。

【1063】

そして、第2特別図柄の変動表示が終了したタイミングで、演出モード選択アイコン18TM300に示されている[演出モード]が、現在制御されている演出モードと異なる場合には、演出モード変更演出を実行して、演出モードを、現在の演出モードから演出モード選択アイコン18TM300に示されている演出モードに変更する。一方、演出モード選択アイコン18TM300に示されている[演出モード]が、現在制御されている演出モードと同一である場合（即ち、プッシュボタン31Bが操作されなかったか、または、プッシュボタン31Bが操作されて現在の演出モードと同じ演出モードが選択された場合）には、演出モード変更演出を実行することなく、演出モードを変更しない。

10

【1064】

例えば、第2特別図柄の変動表示が終了したタイミングで、実際の演出モードが曇りモードである場合に、演出モード選択アイコン18TM300に示されている演出モードが[雨モード]又は[台風モード]であったときには、演出モード変更演出を実行し、演出モード選択アイコン18TM300に示されている演出モードが[曇りモード]であった場合には、演出モード変更演出を実行しない。

【1065】

次いで、図11-9（A2）に示すように、プッシュボタン31Bが操作されると（図11-8に示すT1のタイミング）、演出制御用CPU120は、画面左下部の演出モード選択アイコン18TM300に示されている演出モードを[雨モード]に切り替える。そして、演出モード選択アイコン18TM300に示されている演出モードが[雨モード]に切り替えられた後も、プッシュボタン31Bを操作するように促す操作促進表示18TM210と、その右側の「で選択」という文字を継続して表示させることにより、さらなる操作によって演出モードの選択（変更）が可能であることを遊技者に報知している。

20

【1066】

次いで、図11-9（A3）に示すように、プッシュボタン31Bが操作されると（図11-8に示すT2のタイミング）、演出制御用CPU120は、画面左下部の演出モード選択アイコン18TM300に示されている演出モードを[台風モード]に切り替える。そして、演出モード選択アイコン18TM300に示されている演出モードが[台風モード]に切り替えられた後も、プッシュボタン31Bを操作するように促す操作促進表示18TM210と、その右側の「で選択」という文字を継続して表示させることにより、さらなる操作によって演出モードの選択（変更）が可能であることを遊技者に報知している。

30

【1067】

次いで、図11-9（A4）に示すように、第2特別図柄の変動表示が終了するタイミングで（図11-9に示すT3のタイミングで）、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5Lに飾り図柄の「1」、図柄表示エリア5Cに飾り図柄の「4」、図柄表示エリア5Rに飾り図柄の「8」を確定停止させ、画像表示装置5の第2小図柄表示エリア5L2に第2小図柄の「1」、第2小図柄表示エリア5C2に第2小図柄の「4」、及び第2小図柄表示エリア5R2に第2小図柄の「8」を確定停止させる。

40

【1068】

なお、本例では、第2特別図柄の変動表示結果が「小当たり」となる例を示しているが、遊技状態が高確／第1KT状態（確変状態）である場合には、変動表示結果が「小当たり」となっていることを報知しない（遊技者が認識困難とする）ために、変動表示結果が「はずれ」であることを示唆する飾り図柄の組み合わせを確定停止させるとともに、変動表示結果が「はずれ」であることを示唆する第2小図柄の組み合わせを確定停止させている。同様に、遊技状態が低確／第1KT状態（時短状態）である場合には、変動表示結果が「

50

小当り」となっていることを報知しない（遊技者が認識困難とする）ために、変動表示結果が「はずれ」であることを示唆する飾り図柄の組み合わせを確定停止させるとともに、変動表示結果が「はずれ」であることを示唆する第2小図柄の組み合わせを確定停止させる。

【1069】

このとき、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の画面左下部に「台風モード」を示す演出モード選択アイコン18TM300を継続して表示させる一方で、押しボタン31Bを操作するように促す操作促進表示18TM210と、その右側に表示されていた「で選択」という文字を消去させている。これにより、演出モードの選択（変更）ができない状態であることを遊技者に報知している。

10

【1070】

次いで、図11-9（A5）に示すように、演出制御用CPU120は、演出モード変更演出を実行し（図11-8に示すT3～T4の期間）、画像表示装置5の全画面に「モードCHANGE」の文字が示されたモード変更画像18TM310を表示させる。モード変更画像18TM310は、背景画像及び飾り図柄よりも高い優先度（背景画像及び飾り図柄よりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様）で表示されている。また、モード変更画像18TM310は、アクティブ表示領域18TM031のアクティブ表示18TM030、第1保留表示領域18TM011の第1保留表示18TM010、及び、第2保留表示領域18TM021の第2保留表示18TM020、すなわち特別図柄の変動表示に対応したオブジェクトよりも高い優先度で表示されている。

20

【1071】

ここで、モード変更画像18TM310は、背景画像及び飾り図柄、並びに、保留表示及びアクティブ表示よりも高い優先度で表示されているが、第1小図柄表示エリア5L1、5C1、5R1に表示されている第1小図柄、及び第2小図柄表示エリア5L2、5C2、5R2に表示されている第2小図柄、並びに、第1保留記憶数特別表示領域18TM015に表示されている第1保留記憶数、及び第2保留記憶数特別表示領域18TM025に表示されている第2保留記憶数の方が、モード変更画像18TM310よりも高い優先度（モード変更画像18TM310よりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様）で表示されている。従って、モード変更画像18TM310が表示されている期間は、第1保留表示領域18TM011の第1保留表示18TM010、及び第2保留表示領域18TM021の第2保留表示18TM020を視認困難となる一方で、第1保留記憶数特別表示領域18TM015に表示されている第1保留記憶数、及び第2保留記憶数特別表示領域18TM025に表示されている第2保留記憶数は継続して視認可能な状態である。

30

【1072】

このとき（図11-8に示すT3のタイミングで）、次回実行される第2特別図柄の変動表示から演出モードが台風モードに変更されることに伴って、飾り図柄の背景画像として「台風画像」が表示されることになる。ただし、演出モード変更演出が実行される期間は、背景画像よりも表示優先度が高いモード変更画像18TM310が画面全体に表示されているため、変更後の背景画像である「台風画像」を視認困難な状態となっている。

40

【1073】

また、演出制御用CPU120は、前回実行された（直前に実行された）第2特別図柄の変動表示結果が「小当り」であったことに伴って、前述したように、変動表示結果が「小当り」となっていることを報知しない（遊技者が認識困難とする）ために、変動表示結果が「はずれ」であることを示唆する飾り図柄の組み合わせ（本例では「148」）を継続して確定停止させており、変動表示結果が「はずれ」であることを示唆する第2小図柄の組み合わせ（本例では「148」）を継続して確定停止させている。ここで、各演出画像の表示優先度は、背景画像＜「飾り図柄、第1保留表示18TM010、第2保留表示18TM020、アクティブ表示18TM030」＞モード変更画像18TM310＜

50

〔第1小図柄、第2小図柄、第1保留記憶数特別表示領域18TM015の第1保留記憶数、第2保留記憶数特別表示領域18TM025の第2保留記憶数〕、の順で高くなっている。

【1074】

モード変更画像18TM310は、背景画像及び飾り図柄よりも高い優先度（背景画像及び飾り図柄よりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様）で表示されている。そのため、モード変更画像18TM310が表示されている期間は、遊技者は、背景画像および飾り図柄を視認困難となる。また、背景画像が「曇り画像」から「台風画像」に変更されたこと（背景画像が「曇り画像」から「台風画像」に変更されたタイミング）を、遊技者は認識できないようになっている。一方で、第2小図柄は、モード変更画像18TM310よりも高い優先度（モード変更画像18TM310よりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様）で表示されているので、演出モード変更演出の実行期間であっても明確に視認可能となっている。

10

【1075】

次いで、図11-9（A6）に示すように、演出制御用CPU120は、演出モード変更演出を終了させる（図11-8に示すT4のタイミング）。演出モード変更演出の終了に対応して、「モードCHANGE」の文字が示されたモード変更画像18TM310の表示が終了する。演出モードとして台風モードが選択されているときには、演出制御用CPU120により、飾り図柄の背景画像として「台風画像」が継続して表示されているため、表示優先度が上位のモード変更画像18TM310の表示が終了したことに伴い、飾り図柄とともに、飾り図柄の背景画像としての「台風画像」が視認可能な状態となる。

20

【1076】

また、演出制御用CPU120は、前回実行された（直近に実行された）第2特別図柄の変動表示結果が「小当たり」であったことに対応して、前述したように、変動表示結果が「小当たり」となっていることを報知しない（遊技者が認識困難とする）ために、変動表示結果が「はずれ」であることを示唆する飾り図柄の組み合わせ（本例では「148」）を継続して確定停止させており、変動表示結果が「はずれ」であることを示唆する第2小図柄の組み合わせ（本例では「148」）を継続して確定停止させている。図11-9（A6）では、表示優先度が上位のモード変更画像18TM310の表示が終了したことに伴い、一旦は視認困難となっていた、飾り図柄、並びに、第1保留表示18TM010、第2保留表示18TM020、及びアクティブ表示18TM030が、再び明確に視認可能な状態に戻っている。

30

【1077】

演出制御用CPU120は、第1保留記憶数が2であるので、画像表示装置5の第1保留記憶数特別表示領域18TM015に「2」を継続して表示させており、第2保留記憶数が4であるので、画像表示装置5の第2保留記憶数特別表示領域18TM025に「4」を継続して表示させている。また、アクティブ表示領域18TM031には、前回実行された（直近に実行された）変動表示に対応したアクティブ表示18TM030を継続して表示させており、第2保留表示領域18TM021には、第2保留表示18TM020を4つ表示させている。また、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の画面左下部に〔台風モード〕を示す演出モード選択アイコン18TM300を継続して表示させている。

40

【1078】

次いで、図11-9（A7）に示すように、CUP103が、第2特別図柄の変動表示を開始したときに、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、飾り図柄（メイン図柄である第2特別図柄に対応した情報）の変動表示を開始させるとともに、画像表示装置5の第2小図柄表示エリア5l2、5c2、5r2において、第2小図柄（第2特別図柄に対応した情報）の変動表示を開始させる（図11-8に示すT5のタイミング）。このとき、演出制御用CPU120は、画像表示装

50

置5の画面左下部に、プッシュボタン31Bを操作するように促す操作促進表示18TM210を表示させるとともに、その右側に「で選択」という文字を表示させることにより、再び演出モードを選択可能となったことを報知する。

【1079】

(高確／第2KT状態の演出モード選択)

遊技状態が高確／第2KT状態(小当りRUSH状態)である場合に、第2特別図柄の変動表示が実行されている期間に演出モードを選択する際の、各演出の実行タイミング及び演出画像の一例を図11-10及び図11-11を用いて説明する。

【1080】

図11-11(B1)に示すように、遊技状態が高確／第2KT状態(小当りRUSH状態)に制御されているときに、演出モードとして曇りモードが選択されているときには、演出制御用CPU120により、飾り図柄の背景画像として「曇り画像」が表示されることになる。CPU103が、第1特別図柄及び第2特別図柄の変動表示を同時に実行しているとき、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、飾り図柄(メイン図柄である第2特別図柄に対応した情報)の変動表示を実行しており、画像表示装置5の第2小図柄表示エリア5l2、5c2、5r2において、第2小図柄(第2特別図柄に対応した情報)の変動表示を実行しており、画像表示装置5の第1小図柄表示エリア5l1、5c1、5r1において、第1小図柄(サブ図柄である第1特別図柄に対応した情報)の変動表示を実行している。

【1081】

演出制御用CPU120は、第1保留記憶数が2であるので、画像表示装置5の第1保留記憶数特別表示領域18TM015に「2」を表示させており、第2保留記憶数が4であるので、画像表示装置5の第2保留記憶数特別表示領域18TM025に「4」を表示させている。また、アクティブ表示領域18TM031には、現在実行中の変動表示に対応したアクティブ表示18TM030を表示させており、第2保留表示領域18TM021には、第2保留表示18TM020を4つ表示させている。

【1082】

演出制御用CPU120は、演出モードを選択可能であることに対応して、画像表示装置5の画面左下部に、現在選択されている演出モード(本例では[曇りモード])を示す演出モード選択アイコン18TM300を表示するとともに、その下方にプッシュボタン31Bを操作するように促す操作促進表示18TM210を表示させるとともに、その右側に「で選択」という文字を表示させる。

【1083】

ここで、遊技状態が高確／第2KT状態に制御されているときには、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の画面右上部及び画面左下部に、高確／第2KT状態(小当りRUSH状態)に制御されることに対応した「RUSH」の文字が示された特別表示18TM100を表示させている。特別表示18TM100は、背景画像よりも高い優先度(背景画像よりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様)で表示されている。

【1084】

なお、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の画面左下部に、高確／第2KT状態(小当りRUSH状態)に制御されることに対応した「RUSH」の文字が示された特別表示18TM100を表示させている一方で、演出モード選択アイコン18TM300を表示させるとともに、その下方に操作促進表示18TM210を表示させ、その右側には「で選択」という文字を表示させている。このとき、演出モード選択アイコン18TM300、操作促進表示18TM210、及び「で選択」という文字は、特別表示18TM100よりも高い優先度(特別画像18TM100よりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様)で表示されている。即ち、各演出画像の表示優先度は、背景画像<特別表示18TM100<[演出モード選択アイコン18TM300、操作促進表示18TM210、「で選択」という文字]、の順で高くなっている。

【1085】

第2KT状態中である場合には、図11-11(B1)に示すように、画像表示装置5において、第2KT状態中における小当りの連続回数を示す小当り連続数表示が表示されるとともに、第2KT状態中で小当りが連続して発生している期間に発生した賞球数を示す小当り連続中賞球数表示が表示される。本例では、[10R確変大当り]が発生して第2KT状態に移行された後、現時点までに小当りが3回発生しているものとし、図11-11(B1)に示すように、小当り連続数表示として「3回目」などの文字が表示されている場合が示されている。また、最初の[10R確変大当り]にもとづく大当り遊技中に15個×10球×10ラウンド=1500個の賞球が得られ、その後の小当り毎に10個×3球=30個の賞球が得られ、3回の小当り発生により30個×3=90個の賞球が得られたことにより、合計で1590個の賞球が得られていることにもとづいて、図11-10(B1)に示すように、小当り連続中賞球数表示として「1590pt」などの文字が表示されている場合が示されている。

10

【1086】

次いで、図11-11(B2)に示すように、プッシュボタン31Bが操作されると(図11-10に示すT1のタイミング)、演出制御用CPU120は、画面左下部の演出モード選択アイコン18TM300に示されている演出モードを[雨モード]に切り替える。そして、演出モード選択アイコン18TM300に示されている演出モードが「雨モード」に切り替えられた後も、プッシュボタン31Bを操作するように促す操作促進表示18TM210と、その右側の「で選択」という文字を継続して表示させる。

20

【1087】

次いで、図11-11(B3)に示すように、プッシュボタン31Bが操作されると(図11-10に示すT2のタイミング)、演出制御用CPU120は、画面左下部の演出モード選択アイコン18TM300に示されている演出モードを[台風モード]に切り替える。そして、演出モード選択アイコン18TM300に示されている演出モードが「台風モード」に切り替えられた後も、プッシュボタン31Bを操作するように促す操作促進表示18TM210と、その右側の「で選択」という文字を継続して表示させる。

【1088】

そして、図11-11(B4)に示すように、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5Lに飾り図柄の「1」、図柄表示エリア5Cに特殊図柄18TM050(楕円形のオブジェクトに「OPEN」の文字が示された小当り図柄)、図柄表示エリア5Rに飾り図柄の「8」を確定停止させ、画像表示装置5の第2小図柄表示エリア5L2に第2小図柄の「1」、第2小図柄表示エリア5C2に第2小図柄の「0」、及び第2小図柄表示エリア5R2に第2小図柄の「8」を確定停止させる(図11-10に示すT3のタイミング)。

30

【1089】

即ち、第2特別図柄の変動表示結果が「小当り」となることに対応して、飾り図柄の組み合わせとして表示結果が「小当り」となることを報知する飾り図柄の組み合わせを確定停止させるとともに、当該飾り図柄の組み合わせに対応した第2小図柄の組み合わせを確定停止させる。また、小当り遊技状態に制御されることに対応して、画面上部に「小当り!!」の文字を表示させることにより小当りの発生を報知している。そして、演出制御用CPU120は、遊技状態が小当り遊技状態に制御されることから、小当り連続数表示を「4回目」に更新させている。

40

【1090】

このとき、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の画面左下部に[台風モード]を示す演出モード選択アイコン18TM300を継続して表示させている一方で、プッシュボタン31Bを操作するように促す操作促進表示18TM210と、その右側に表示されていた「で選択」という文字を消去させている。

【1091】

次いで、図11-11(B5)に示すように、遊技状態が小当り遊技状態に制御され、

50

特殊可変入賞球装置 17 が開放中である期間には、演出制御用 CPU 120 は、アクティブ表示領域 18 T M 0 3 1 に表示されていたアクティブ表示 18 T M 0 3 0 と、第 2 保留表示領域 18 T M 0 2 1 に表示されていた 4 つの第 2 保留表示 18 T M 0 2 0 を消去し、画像表示装置 5 にキャラクタ、及び、「小当りアタッカー開放中！」の台詞を表示させる。
【1092】

また、特殊可変入賞球装置 17 が開放中である期間に特殊入賞口に遊技球が 3 個入賞し、賞球数がさらに 10 個×3 球＝30 個増加して合計で 1620 個になったものとする。この場合、図 11-11 (B5) に示すように、演出制御用 CPU 120 は、画面下部に「+10」の画像を 3 つ表示させ、小当り連続中賞球数表示を「1620 pt」に更新させる。

10

【1093】

次いで、図 11-11 (B6) に示すように、演出制御用 CPU 120 は、演出モード変更演出を実行し（図 11-10 に示す T4～T5 の期間）、画像表示装置 5 の全画面に「モード CHANGE」の文字が示されたモード変更画像 18 T M 3 1 0 を表示させる。モード変更画像 18 T M 3 1 0 は、背景画像及び飾り図柄よりも高い優先度（背景画像及び飾り図柄よりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様）で表示されている。また、モード変更画像 18 T M 3 1 0 は、アクティブ表示領域 18 T M 0 3 1 のアクティブ表示 18 T M 0 3 0、第 1 保留表示領域 18 T M 0 1 1 の第 1 保留表示 18 T M 0 1 0、及び、第 2 保留表示領域 18 T M 0 2 1 の第 2 保留表示 18 T M 0 2 0、すなわち特別図柄の変動表示に対応したオブジェクトよりも高い優先度で表示されている。

20

【1094】

ここで、モード変更画像 18 T M 3 1 0 は、背景画像及び飾り図柄、並びに、保留表示及びアクティブ表示よりも高い優先度で表示されているが、第 1 小図柄表示エリア 5 l 1、5 c 1、5 r 1 に表示されている第 1 小図柄、及び第 2 小図柄表示エリア 5 l 2、5 c 2、5 r 2 に表示されている第 2 小図柄、並びに、第 1 保留記憶数特別表示領域 18 T M 0 1 5 に表示されている第 1 保留記憶数、及び第 2 保留記憶数特別表示領域 18 T M 0 2 5 に表示されている第 2 保留記憶数の方が、モード変更画像 18 T M 3 1 0 よりも高い優先度（モード変更画像 18 T M 3 1 0 よりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様）で表示されている。従って、モード変更画像 18 T M 3 1 0 が表示されている期間は、第 1 保留表示領域 18 T M 0 1 1 の第 1 保留表示 18 T M 0 1 0、及び第 2 保留表示領域 18 T M 0 2 1 の第 2 保留表示 18 T M 0 2 0 を視認困難となる一方で、第 1 保留記憶数特別表示領域 18 T M 0 1 5 に表示されている第 1 保留記憶数、及び第 2 保留記憶数特別表示領域 18 T M 0 2 5 に表示されている第 2 保留記憶数は継続して視認可能な状態である。

30

【1095】

このとき（図 11-10 に示す T4 のタイミングで）、次回実行される第 2 特別図柄の変動表示から演出モードが台風モードに変更されることに対応して、飾り図柄の背景画像として「台風画像」が表示されることになる。ただし、演出モード変更演出が実行される期間は、背景画像よりも表示優先度が高いモード変更画像 18 T M 3 1 0 が画面全体に表示されているため、変更後の背景画像である「台風画像」を視認困難な状態となっている。

40

【1096】

また、演出制御用 CPU 120 は、前回実行された（直近に実行された）第 2 特別図柄の変動表示結果が「小当り」であったことに対応して、演出モードが台風モードである場合の飾り図柄の組み合わせとして、図柄表示エリア 5 L に飾り図柄の「2」、図柄表示エリア 5 C に飾り図柄の「4」、図柄表示エリア 5 R に飾り図柄の「7」を表示させるとともに、図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R に表示された各数字図柄に、それぞれエフェクト画像 18 T M 0 6 0（本例では、音符型の画像）を重畳表示させる。また、第 2 小図柄の組み合わせとして、第 2 小図柄表示エリア 5 l 2 に第 2 小図柄の「2」、第 2 小図柄表示エリア 5 c 2 に第 2 小図柄の「4」、第 2 小図柄表示エリア 5 r 2 に第 2 小図柄の「7」

50

を停止表示させる。ここで、各演出画像の表示優先度は、背景画像<[飾り図柄、第1保留表示18TM010、第2保留表示18TM020、アクティブ表示18TM030]<エフェクト画像18TM060<モード変更画像18TM310<[第1小図柄、第2小図柄、第1保留記憶数特別表示領域18TM015の第1保留記憶数、第2保留記憶数特別表示領域18TM025の第2保留記憶数]、の順で高くなっている。

【1097】

モード変更画像18TM310は、背景画像及び飾り図柄（エフェクト画像18TM060を含む）よりも高い優先度（背景画像及び飾り図柄（エフェクト画像18TM060を含む）よりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様）で表示されている。そのため、モード変更画像18TM310が表示されている期間中は、遊技者は、背景画像および飾り図柄（エフェクト画像18TM060を含む）を視認困難となる。また、背景画像が「曇り画像」から「台風画像」に変更されたこと（背景画像が「曇り画像」から「台風画像」に変更されたタイミング）を、遊技者は認識できないようになっている。一方で、第2小図柄は、モード変更画像18TM310よりも高い優先度（モード変更画像18TM310よりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様）で表示されているので、演出モード変更の実行期間であっても明確に視認可能となっている。

【1098】

ここで、モード変更画像18TM310が表示されたときに、表示中の第2小図柄（小当りに対応した図柄）が、曇りモードに対応した小当り図柄「108」から台風モードに対応した小当り図柄（大当り図柄とは異なる数字図柄の組み合わせ）に変更されることになる。

【1099】

次いで、図11-11（B7）に示すように、演出制御用CPU120は、演出モード変更演出を終了させる（図11-10に示すT5のタイミング）。演出モード変更演出の終了に対応して、「モードCHANGE」の文字が示されたモード変更画像18TM310の表示が終了する。演出モードとして台風モードが選択されているときには、演出制御用CPU120により、飾り図柄の背景画像として「台風画像」が継続して表示されているため、表示優先度が上位のモード変更画像18TM310の表示が終了したことに伴い、飾り図柄とともに、飾り図柄の背景画像としての「台風画像」が視認可能な状態となる。

【1100】

また、演出制御用CPU120は、前回実行された（直近に実行された）第2特別図柄の変動表示結果が「小当り」であったことに基づいて、演出モードが台風モードである場合の飾り図柄の組み合わせとして、図柄表示エリア5Lに飾り図柄の「2」、図柄表示エリア5Cに飾り図柄の「4」、図柄表示エリア5Rに飾り図柄の「7」を継続して表示させているとともに、図柄表示エリア5L、5C、5Rの各数字図柄に、それぞれエフェクト画像18TM060（本例では、音符型の画像）を継続して重畳表示させており、第2小図柄の組み合わせとして、第2小図柄表示エリア5l2に第2小図柄の「2」、第2小図柄表示エリア5c2に第2小図柄の「4」、第2小図柄表示エリア5r2に第2小図柄の「7」を継続して表示させている。図11-11（B7）では、表示優先度が上位のモード変更画像18TM310の表示が終了したことに伴い、一旦は視認困難となっていた、飾り図柄（エフェクト画像18TM060を含む）、並びに、第1保留表示18TM010、第2保留表示18TM020、及びアクティブ表示18TM030が、再び明確に視認可能な状態に戻っている。

【1101】

演出制御用CPU120は、第1保留記憶数が2であるので、画像表示装置5の第1保留記憶数特別表示領域18TM015に「2」を継続して表示させており、第2保留記憶数が4であるので、画像表示装置5の第2保留記憶数特別表示領域18TM025に「4」を継続して表示させている。また、アクティブ表示領域18TM031には、前回実行された（直近に実行された）変動表示に対応したアクティブ表示18TM030を継続し

10

20

30

40

50

て表示させており、第2保留表示領域18TM021には、第2保留表示18TM020を4つ表示させている。また、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の画面左下部に「台風モード」を示す演出モード選択アイコン18TM300を継続して表示させている。

【1102】

次いで、図11-11(B8)に示すように、CUP103が、第2特別図柄の変動表示を開始したときに、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて、飾り図柄（メイン図柄である第2特別図柄に対応した情報）の変動表示を開始させるとともに、画像表示装置5の第2小図柄表示エリア5L2、5C2、5R2において、第2小図柄（第2特別図柄に対応した情報）の変動表示を開始している（図11-8に示すT5のタイミング）。このとき、演出制御用CPU120は、画像表示装置5の画面左下部に、押しボタン31Bを操作するように促す操作促進表示18TM210を表示させるとともに、その右側に「で選択」という文字を表示させる。

【1103】

このように、本実施形態では、高確率状態（高確／第1KT状態、高確／第2KT状態）において、第2特別図柄の変動表示中における遊技者の動作に応じて、演出モードの選択（演出モードの変更）が可能となっている。遊技状態が低確率状態（低確／低ベース状態、低確／第1KT状態）のときには、第2特別図柄の変動表示中において、演出モード選択用のアイコンは表示されず、遊技者は演出モードの選択（演出モードの変更）を行うことができない。また、遊技状態が高確率状態（高確／第1KT状態、高確／第2KT状態）であるときにも、第2特別図柄の変動表示が実行されていない期間（第2特別図柄の変動表示が実行されておらず第1特別図柄の変動表示のみが実行されている期間、第2特別図柄の変動表示が実行されておらず第1特別図柄の変動表示も実行されていない期間）は、演出モード選択用のアイコンは表示されず、遊技者は演出モードの選択（演出モードの変更）を行うことができない。

【1104】

図11-3～図11-5に示したように、本実施形態では、第2特別図柄の変動表示結果が「小当り」となるとときに、飾り図柄が確定停止する態様によって小当りの発生を報知する演出を、いずれの演出モードに制御されているかに応じて異ならせている。また、図11-11(B1)～(B3)に示すように、第2特別図柄の変動表示を実行している期間に、遊技者により押しボタン31Bが操作されたことに応じて演出モードを切り替えることができる。そして、図11-11(B6)に示すように、演出モードを変更するときに、演出モード変更演出が実行され、画像表示装置5の全画面に「モードCHANGE」の文字が示されたモード変更画像18TM310を表示させている。

【1105】

このように、小当りが発生するときに確定停止させる飾り図柄の組み合わせが演出モードに応じて異なる構成の本実施形態において、仮に、演出モードを変更する際に、モード変更画像18TM310を表示させない演出構成（即ち、背景画像や飾り図柄の視認性を低下させない構成）を採用したとする。この場合には、図11-11(B1)～(B5)に示すように、演出モードが曇りモードに制御されているときに、第2特別図柄の変動表示結果が「小当り」となり、画像表示装置5の図柄表示エリア5Cに特殊図柄18TM050（楕円形のオブジェクトに「OPEN」の文字が示された小当り図柄）が確定停止して、小当り遊技終了後に、背景画像及び飾り図柄等の視認性が低下していない状態のまま（背景画像及び飾り図柄等を継続して明確に視認することが可能な状態のまま）で、図11-11(B7)に示すように、演出モードが台風モードに変更されることになる。その結果、背景画像の変更とともに、停止状態にある飾り図柄も変更される（エフェクト画像18TM060が重畳表示された数字図柄の組み合わせが表示される）ことで、急な画面（飾り図柄、背景画像）の切り替わりによって、遊技者を混乱させてしまう。

【1106】

ここで、図11-11(B6)に示すように、演出モードを変更する際に、画像表示装

10

20

30

40

50

置5の全画面にモード変更画像18TM310を重畳表示させることによって、画像表示装置5の図柄表示エリア5L、5C、5Rを含む全画面の視認性を低下させることにより、一旦、変更前の演出モードにおける飾り図柄の視認性を低下させてから、変更後の演出モードにおける飾り図柄の視認性を向上させることが可能となるので、変更前の演出モードと変更後の演出モードとで飾り図柄が異なってしまう本実施形態においても、画面（飾り図柄、背景画像）の切り替わりによる、遊技者の混乱を防ぐことができる。

【1107】

図11-9（A1）～（A4）に示すように、遊技状態が高確／第1KT状態（確変状態）に制御されているとき、演出モードとして曇りモードが選択されているときには、演出制御用CPU120により、飾り図柄の背景画像として「曇り画像」が表示されており、図11-11（B1）～（B5）に示すように、遊技状態が高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されているとき、演出モードとして曇りモードが選択されているときには、演出制御用CPU120により、飾り図柄の背景画像として「曇り画像」が表示されている。この背景画像としての「曇り画像」は、高確／第1KT状態（確変状態）と、高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）とで共通の背景画像となっている。

【1108】

一方で、図11-9（A1）～（A4）に示すように、遊技状態が高確／第1KT状態（確変状態）に制御されているときには、画像表示装置5の画面右上部及び画面左下部に、高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）であることに対応した「RUSH」の文字が示された特別表示18TM100が重畳表示されていないが、図11-11（B1）～（B5）に示すように、遊技状態が高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されているときには、画像表示装置5の画面右上部及び画面左下部に、高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）であることに対応した「RUSH」の文字が示された特別表示18TM100が重畳表示されている。このような構成によれば、高確／第1KT状態と高確／第2KT状態とで、背景画像を共通化できるとともに、高確／第1KT状態と高確／第2KT状態とを特定可能とすることができ、遊技の興趣を向上させることができる。

【1109】

なお、図11-11（B1）～（B5）に示すように、遊技状態が高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されており、演出モードとして曇りモードが選択されている場合には、画像表示装置5の画面右上部及び画面左下部に、高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）であることに対応した「RUSH」の文字が示された特別表示18TM100が表示されている。そして、演出モードが変更された後にも、図11-11（B7）～（B8）に示すように、遊技状態が高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されており、演出モードとして台風モードが選択されている場合には、画像表示装置5の画面右上部及び画面左下部に、高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）であることに対応した「RUSH」の文字が示された特別表示18TM100が表示されている。即ち、この特別表示18TM100は、演出モードによらず共通であるので、複数種類の演出モードに制御可能な本実施形態において、遊技状態が高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されていることをより明確にすることができる。

【1110】

図11-9に示すように、遊技状態が高確／第1KT状態（確変状態）に制御されている場合、図11-11に示すように、遊技状態が高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されている場合に、第2特別図柄の変動表示を実行している期間に、遊技者によりプッシュボタン31Bが操作されたことをプッシュセンサが検出すると、画面左下部の演出モード選択アイコン18TM300に示されている「曇りモード」の表示を、「雨モード」の表示→「台風モード」の表示、の順で切り替えている。そして、第2特別図柄の変動表示が終了したタイミングで、画面左下部の演出モード選択アイコン18TM300に示されている「台風モード」が、現在制御されている演出モード（曇りモード）とは異なることに基づいて、演出モードを、現在制御されている演出モード（曇りモード）から演出モード選択アイコン18TM300に示されている演出モード（台風モード）に変

10

20

30

40

50

更している。このように、遊技状態が高確／第1KT状態（確変状態）に制御されている場合、遊技状態が高確／第2KT状態（小当りRUSH状態）に制御されている場合に、第2特別図柄の変動表示を実行している期間において、遊技者の動作に基づいて、複数種類の演出モードのうちのいずれかの演出モードに制御可能であるため、遊技の興趣を向上させることができる。

【1111】

（大当りカウントダウン演出）

前述したように、本実施形態では、第1特別図柄の変動表示と第2特別図柄の変動表示とを同時に並行して実行することが可能である。また、遊技状態が高確／第2KT状態であるときに、メイン図柄は第2特別図柄であり、サブ図柄は第1特別図柄である。このような本実施形態において、CPU103が、表示結果が「大当り」となる第1特別図柄の変動表示を実行しているときに、表示結果が「はずれ」又は「小当り」となる第2特別図柄の変動表示を開始すると、演出制御用CPU120は、表示結果が「大当り」となる第1特別図柄の変動表示に対応した大当りカウントダウン演出を実行しても良い。なお、表示結果が「大当り」となる第1特別図柄の変動表示を実行しているときに、開始される第2特別図柄の変動表示結果は「はずれ」又は「小当り」となるものとする。

【1112】

大当りカウントダウン演出が実行されると、画像表示装置5の全画面に、表示結果が「大当り」となる第1特別図柄の変動表示が終了するまでのカウントダウン表示が表示される。カウントダウン表示は、背景画像及び飾り図柄（メイン図柄である第2特別図柄に対応した飾り図柄）よりも高い優先度（背景画像及び飾り図柄よりも表示レイヤが上位であり遊技者から見て手前に見えるよう重畳表示された態様）で表示されている。即ち、大当りカウントダウン演出が実行されることによって、画像表示装置5の全画面にカウントダウン表示が表示されるので、メイン図柄である第2特別図柄に対応した飾り図柄の視認性を低下させ、サブ図柄である第1特別図柄の変動表示結果が「大当り」となることに注目させることができる。また、本実施形態では、遊技状態が高確／第2KT状態であるときに、複数種類の演出モードから選択されたいずれかの演出モードに制御可能であるが、大当りカウントダウン演出は、いずれの演出モードに制御されているときにも共通して実行可能である。このような構成によれば、第1特別図柄の変動表示と第2特別図柄の変動表示とを同時に並行して実行する本実施形態において、サブ図柄である特別図柄に対応した大当り報知に関する演出の興趣を向上させることができる。

【1113】

なお、本実施形態では、CPU103が、表示結果が「大当り」となる第1特別図柄の変動表示を実行しているときに、表示結果が「はずれ」又は「小当り」となる第2特別図柄の変動表示を開始するタイミングで、演出制御用CPU120が、大当りカウントダウン演出を実行する例を示したが、大当りカウントダウン演出を他のタイミングで実行可能としてもよい。例えば、CPU103が、(i)表示結果が「はずれ」又は「小当り」となる第2特別図柄の変動表示を実行しているときに、(ii)表示結果が「大当り」となる第1特別図柄の変動表示を開始した場合、演出制御用CPU120は、(ii)表示結果が「大当り」となる第1特別図柄の変動表示が実行されているときに、(i)表示結果が「はずれ」又は「小当り」となる第2特別図柄の変動表示が終了し、(iii)表示結果が「はずれ」又は「小当り」となる次の第2特別図柄の変動表示が開始されたタイミングで、大当りカウントダウン演出を実行してもよい。

【1114】

以上に示したように、上記の実施形態では、演出モード切替の効果として、各遊技者の嗜好に合った演出モードにて小当りRUSHを遊技でき、興趣を向上させることができる。また、大当り遊技状態に制御されている期間のみならず、特別図柄の変動表示中にも演出モードを切り替え可能となるため、遊技者の利便性を向上させることができる。さらに、比較的長時間小当りRUSHが継続しているような状況において、演出モードに変化がなければ、有利価値が付与される期間であっても遊技が単調となり興趣が低下してしまう

10

20

30

40

50

ところ、演出モードを切り替え可能となっているため、小当りRUSH中における遊技の単調さを解消でき有利価値が付与される期間による興趣をより一層高めることができる。

【1115】

(他の特徴および変形例)

(1) 上記の実施形態では、図10-29に示したように、KT状態(高確/第1KT状態(確変状態)、低確/第1KT状態(時短状態)、高確/第2KT状態(小当りRUSH状態))に移行した後である場合には、主として第2特別図柄の変動表示が実行されることから、主として[10R確変大当り]、[2R確変大当り]、[6R確変大当り]、及び[2R通常大当り]が発生し、[2R確変大当り]が発生した場合には、その大当り遊技の終了後に高確/第2KT状態(小当りRUSH状態)に移行し、次の大当りが発生するまで高確/第2KT状態(小当りRUSH状態)が維持される例を示したが、このような形態に限らず、[2R確変大当り]が発生した場合に、他の遊技状態に移行してもよい。

10

【1116】

例えば、KT状態に制御されているときに、[2R確変大当り]が発生した場合には、その大当り遊技の終了後に高確/第1KT状態(確変状態)に移行し、次の大当りが発生するか50回の変動表示を終了するまで高確/第1KT状態(確変状態)が維持される。そして、次の大当りが発生せず50回の変動表示を終了した場合には、51回目の変動表示から高確/第2KT状態(小当りRUSH状態)に移行し、次の大当りが発生するまで高確/第2KT状態(小当りRUSH状態)が維持される遊技状態としてもよい。また、[2R確変大当り]が発生した場合には、遊技状態は高確/第1KT状態(確変状態)に移行するが、背景画像として、夜空と山とを含む夜の風景をあらわした「夜画像」、即ち、低確/第1KT状態(時短状態)である場合と共通の背景画像とするようにしてもよい。

20

【1117】

このとき、[2R確変大当り]が発生した場合には、その大当り遊技の終了後に高確/第1KT状態(確変状態)に移行し、50回の変動表示で次の大当りが発生しなかった場合には、50回目の変動表示で前述した成功態様のRUSH示唆演出を実行し、51回目の変動表示から高確/第2KT状態(小当りRUSH状態)に移行してもよい。また、[2R通常大当り]が発生した場合には、その大当り遊技の終了後に低確/第1KT状態(時短状態)に移行し、50回の変動表示で次の大当りが発生しなかった場合には、50回目の変動表示で前述した失敗態様のRUSH示唆演出を実行し、51回目の変動表示から低確/非KT状態(通常状態)に移行してもよい。

30

【1118】

このように、KT状態に制御されているときに、[2R確変大当り]が発生した場合と、[2R通常大当り]が発生した場合とでは、大当り遊技状態のラウンド数が共通(ともに2ラウンド)であり、その大当り遊技の終了後に移行するいずれの遊技状態においても背景画像として共通の「夜画像」が表示されているので、遊技者はいずれの遊技状態に制御されているかを把握することが困難となっている。そして、50回の変動表示で次の大当りが発生しなかったときに、前回の大当りが[2R確変大当り]であった場合には、50回目の変動表示で成功態様のRUSH示唆演出が実行され、前回の大当りが[2R通常大当り]であった場合には、50回目の変動表示で失敗態様のRUSH示唆演出が実行されることになる。このような構成によれば、[2R確変大当り]又は[2R通常大当り]が発生した場合には、50回目の変動表示が実行されるまで、いずれの遊技状態に制御されているかを把握することが困難となり、大当り遊技状態のラウンド数が2ラウンドであった場合の興趣の低下を防ぐことができる。また、50回目の変動表示のときにRUSH示唆演出が実行されることにより、KT状態(低確/第1KT状態、高確/第1KT状態)における遊技の興趣を向上させることができる。

40

【1119】

(2) 上記の実施形態では、図11-3~図11-5に示したように、高確/第2KT状態(小当り遊技状態)に制御されているときに、小当りの発生に対応する演出として、

50

飾り図柄を確定停止させるときの態様が演出モードによって異なる例を示したが、このような形態に限らず、小当りの発生に対応した演出として、小当り遊技中の演出（小当り遊技状態の特殊可変入賞球装置 17 が開放中である期間に特殊入賞口に遊技球が入賞したときの入賞音演出、入賞エフェクト演出、加算演出等）を演出モードによって異ならせてもよい。

【1120】

例えば、入賞音演出は、小当り遊技状態の特殊可変入賞球装置 17 が開放中である期間に、特殊入賞口に遊技球が入賞したタイミングで効果音を再生出力させることにより、特殊入賞口に遊技球が入賞したことを報知する演出である。このとき、演出モードが曇りモードである場合には、効果音として効果音 A を再生出力させ、演出モードが雨モードである場合には、効果音として効果音 B を再生出力させ、演出モードが台風モードである場合には、効果音として効果音 C を再生出力させてもよい。

【1121】

また、例えば、特殊可変入賞球装置 17 が、導光板と、導光板の前方に設けられ透明性を有する前方装飾板とにより構成される導光板装置を備え、導光板に光を入射させることにより、前方装飾板の装飾部を発光させることが可能である構成にしてもよい。例えば、入賞エフェクト演出は、小当り遊技状態の特殊可変入賞球装置 17 が開放中である期間に特殊入賞口に遊技球が入賞したときに、導光板に光を入射させ、前方装飾板の装飾部を発光させることにより、あたかも特殊可変入賞球装置 17 が発光しているかのように見せて、特殊入賞口に遊技球が入賞したことを報知する演出である。このような入賞エフェクト演出において、導光板に入射させる光の色を演出モードに応じて異ならせることにより、特殊可変入賞球装置 17 の態様を演出モードに応じて異ならせるようにしてもよい。例えば、演出モードが曇りモードである場合には、導光板に入射させる光の色を白色とし、演出モードが雨モードである場合には、導光板に入射させる光の色を青色とし、演出モードが台風モードである場合には、導光板に入射させる光の色を赤色としてもよい。

【1122】

前述の図 11-3 (A3) では、小当り遊技状態の特殊可変入賞球装置 17 が開放中である期間に特殊入賞口に遊技球が入賞したときに、画像表示装置 5 の画面下部に「+10」の画像を表示させる加算演出を実行する例を示した。この加算演出の態様を、演出モードに応じて異ならせるようにしてもよい。例えば、演出モードが曇りモードである場合には、「+10」の画像を画像表示装置 5 の画面上部に表示させ、演出モードが雨モードである場合には、「+10」の画像を画像表示装置 5 の画面上部から画面下部に向かって移動させる態様（背景画像の「雨画像」に関連した態様）で表示させ、演出モードが台風モードである場合には、「+10」の画像を画像表示装置 5 の画面全域にランダムに移動させる態様（背景画像の「台風画像」に関連した態様）で表示させてもよい。また、画像表示装置 5 の画面に表示される「+10」の画像の態様（色、書体、エフェクト等）を演出モードに応じて異ならせてもよい。

【1123】

(3) 上記の実施形態では、演出モードに応じて、飾り図柄の種類、飾り図柄が確定停止するときの飾り図柄の組み合わせ、及び、飾り図柄が確定停止するときのエフェクト画像の有無によって、飾り図柄の変動表示の態様を異ならせる例を示したが、このような形態に限らず、他の演出要素によって飾り図柄の変動表示の態様を異ならせてもよい。

【1124】

例えば、演出モードに応じて、飾り図柄の変動表示の速度を異ならせてもよい。例えば、演出モードが曇りモードである場合には、飾り図柄の変動表示の速度が遅く、演出モードが雨モードである場合には、飾り図柄の変動表示の速度が、曇りモードである場合よりも速く、演出モードが台風モードである場合には、飾り図柄の変動表示の速度が、雨モードである場合よりも速くなるようにしてもよい。飾り図柄の変動表示の速度は、曇りモード<雨モード<台風モードの順で速くなっている。

【1125】

また、例えば、演出モードに応じて、変動表示される飾り図柄自体の態様を異ならせてもよい。例えば、演出モードが曇りモードである場合には、白色態様の飾り図柄（白色の数字が示された図柄）の変動表示を行い、演出モードが雨モードである場合には、青色態様の飾り図柄（青色の数字が示された図柄）の変動表示を行い、演出モードが台風モードである場合には、赤色態様の飾り図柄（赤色の数字が示された図柄）の変動表示を行ってもよい。

【1126】

このような構成によれば、演出モードに応じて、飾り図柄の変動表示の態様を異ならせることが可能であり、遊技状態が高確率状態（高確／第1 K T状態、高確／第2 K T状態）であるときの遊技の興趣を向上させることができる。

【1127】

（4）上記の実施形態では、遊技状態が高確／第2 K T状態（小当り R U S H状態）に制御されているときに、図11-3、図11-4、及び図11-5に示すように、いずれの演出モードに制御されているかに関わらず、小当り連続中賞球数表示が共通の表示態様で画像表示装置5の画面右下部に表示されている例を示したが、これと同様に、いずれの演出モードに制御されているかに関わらず、小当り連続数表示が共通の表示態様で画像表示装置5の共通の領域に表示されても良い。

【1128】

（5）上記の実施形態では、図11-6に示すように、（i）大当り終了後に高確／第1 K T状態に制御される〔6 R 確変大当り〕の大当りエンディング期間と、（i i）大当り終了後に高確／第2 K T状態に制御される〔10 R 確変大当り〕又は〔2 R 確変大当り〕の大当りエンディング期間とが共通の期間である例を示したが、このような形態に限らず、（i）に示す大当りエンディング期間と、（i i）に示す大当りエンディング期間とが異なる期間であってもよい。例えば、演出モード選択期間が共通（例えば、t秒）であるとする、（i）の場合には、演出モード選択期間が終了した後に、高確／第2 K T状態（小当り R U S H状態）に制御されることに対応した「R U S H」の文字が示された特別表示18 T M 100が表示される演出が実行されない、演出モード選択期間が終了してから大当りエンディング期間が終了するまでの期間を短くしてもよく（例えば、10秒）、（i i）の場合には、演出モード選択期間が終了した後に、高確／第2 K T状態（小当り R U S H状態）に制御されることに対応した「R U S H」の文字が示された特別表示18 T M 100が表示される演出が実行されるので、演出モード選択期間が終了してから大当りエンディング期間が終了するまでの期間を（i）の場合よりも長くしてもよい（例えば、30秒）。このように、（i）に示す大当りエンディング期間〔（t+10）秒〕と、（i i）に示す大当りエンディング期間〔（t+30）秒〕とを異ならせることにより、制御される遊技状態に対応した適切な演出期間を設けるようにしてもよい。

【1129】

（6）上記の実施形態では、大当りエンディング期間において、遊技者の操作により演出モードを選択可能である例を示したが、これに限らず、大当り開始期間（ファンファーレ演出期間）において、遊技者の操作により演出モードを選択可能としてもよく、ラウンド期間（ラウンド演出期間）において、遊技者の操作により演出モードを選択可能としてもよい。

【1130】

（7）上記の実施形態では、遊技者の操作により背景画像等の表示情報を変更可能である例を示したが、このような形態に限らず、遊技者の操作により小当り R U S H中に再生される楽曲を選択可能としてもよい。例えば、大当り遊技状態終了後に小当り R U S H状態に制御される場合の当該大当り遊技状態中（ファンファーレ演出期間、ラウンド演出期間、エンディング演出期間）に、遊技者の操作に応じて、その後の小当り R U S H中に再生される楽曲を選択可能としてもよい。また、小当り R U S H中においても、遊技者の操作に応じて、その後の小当り R U S H中に再生される楽曲を変更可能としてもよい。比較的長時間小当り R U S Hが継続しているような状況において、楽曲に変化がなければ、有

10

20

30

40

50

利価値が付与される期間であっても遊技が単調となり興味が低下してしまうところ、再生される楽曲を切り替え可能となっているため、小当り R U S H 中における遊技の単調さを解消でき有利価値が付与される期間による興趣をより一層高めることができる。

【1131】

(8) 上記の実施形態では、高確率状態（高確／第1 K T 状態、高確／第2 K T 状態）且つ第2特別図柄の変動期間内において遊技者の選択操作が行われた場合には、当該第2特別図柄の変動期間が終了してから次の変動表示（第2特別図柄の変動表示）が開始されるまでの期間内に演出モード変更演出を実行した後、次の変動表示（第2特別図柄の変動表示）が開始される前（または開始されると同時に）実際の演出モード（背景画像）の変更を行うようにしている。ここで、高確率状態（高確／第1 K T 状態、高確／第2 K T 状態）であっても、第2特別図柄の変動表示が実行されていない期間は、遊技者は演出モードの選択を行うことができない。

10

【1132】

(8-1) そして、図11-9及び図11-11に示すように、高確率状態（高確／第1 K T 状態、高確／第2 K T 状態）且つ第2特別図柄の変動期間内において、遊技者の選択操作が行われた場合には、当該第2特別図柄の変動期間が終了する前に、選択操作に応じて、実際の演出モード（背景画像）は変更することなく、演出モード名の表示を、変更予定の演出モード名の表示に変更している。このとき、さらに「選択された演出モードには次の変動表示から制御されること」を遊技者に報知してもよい。例えば、図11-9（A3）の画面において、「次の変動から台風モードに変更されます。」というメッセージを画面中表示してもよく、図11-11（B3）～（B5）の画面において、「次の変動から台風モードに変更されます。」というメッセージを画面中表示してもよい。そして、次の変動表示（第2特別図柄の変動表示）が実行されるまでの期間内に演出モード変更演出を実行するようにして、次の変動表示（第2特別図柄の変動表示）が開始される前（または開始されると同時に）、実際の演出モード（背景画像）の変更を行うようにしてもよい。

20

【1133】

(8-2) また、上記の例とは異なり、高確率状態（高確／第1 K T 状態、高確／第2 K T 状態）且つ第2特別図柄の変動期間内において遊技者の選択操作が行われた場合に、当該第2特別図柄の変動期間が終了する前に、選択操作に応じて（例えば、選択操作がされた直後のタイミングで）、演出モード名の表示が変更されるとともに実際の演出モード（背景画像）も変更されるようにしてもよい。このような演出構成において、選択操作に応じて演出モード名の表示とともに実際の演出モード（背景画像）を変更可能な期間は、例えば、飾り図柄の変動開始（第2特別図柄の変動開始）から1つ目の飾り図柄が停止する（例えば、左飾り図柄が図柄表示エリア5 L に停止する）までの期間としてもよく、また、飾り図柄の変動開始（第2特別図柄の変動開始）から2秒経過するまでの期間としてもよい。

30

【1134】

(9) 上記の実施形態では、図11-11に示すように、高確／第2 K T 状態において、表示結果が小当り図柄となる第2特別図柄の変動表示中に、演出モードの変更操作が行われた場合には、小当り遊技状態における背景画像は、変更前の演出モードに対応した背景画像となっている。即ち、小当り遊技状態において演出モードの変更は行われておらず（小当り発生前の演出モードが維持されており）、小当り遊技状態が終了した後に演出モードが変更されている。ここで、小当り遊技状態が終了したときの第2保留記憶数が0である場合でも（演出モード変更演出が終了したときの第2保留記憶数が0である場合でも）、小当り遊技状態が終了した後の演出モードは、選択された演出モードに変更されるものとする。即ち、小当り遊技状態が終了したときの第2保留記憶数が0である場合には（演出モード変更演出が終了したときの第2保留記憶数が0である場合には）、小当り遊技状態が終了した後の背景画像（演出モード変更演出が終了した後の背景画像）が、選択された演出モードに対応した背景画像に変更されるものの、第2特別図柄に対応した飾り図

40

50

柄の変動表示は実行されない。

【1135】

(10) 上記の実施形態において、演出モードに応じて、先読み予告演出の実行割合を異ならせてもよい。例えば、始動入賞時の判定結果に基づいて保留表示（実行されていない可変表示に対応した対応表示）の表示態様を変化させる保留変化演出の実行割合に関して、曇りモードが最も高く、雨モードが2番目に高く、台風モードが最も低くなるようにしてもよい。また、上記の実施形態において、演出モードに応じて、設定示唆演出の実行割合を異ならせてもよい。例えば、設定示唆演出として、特別可変入賞球装置7や特殊可変入賞球装置17が開状態となって、大入賞口や特殊入賞口への遊技球の入賞が発生したことにもとづいて、小当り入賞時示唆演出や賞球数表示示唆演出を実行可能であるように構成した場合、これらの設定示唆演出の実行割合に関して、曇りモードが最も高く、雨モードが2番目に高く、台風モードが最も低くなるようにしてもよい。

10

【1136】

また、実行される設定示唆演出の種類に応じて、演出モード毎に実行割合が異なるようにしてもよい。例えば、小当り入賞時示唆演出の実行割合に関しては、曇りモードが最も高く、雨モードが2番目に高く、台風モードが最も低くなるが、賞球数表示示唆演出の実行割合に関しては、台風モードが最も高く、雨モードが2番目に高く、曇りモードが最も低くなるようにしてもよい。

【1137】

本発明は、以上に説明したものに限られるものではない。また、その具体的な構成は、上述の実施形態や後述の他の形態例に加えて、本発明の要旨を逸脱しない範囲における変更や追加があってもこの発明に含まれる。

20

【1138】

また、上述した実施の形態及び各変形例に示した構成、後述の形態例及び各変形例に示した構成のうち、全部又は一部の構成を任意に組み合わせることとしてもよい。

【1139】

なお、今回開示された上述の実施形態及び後述の形態はすべての点で例示であって制限的なものではないと考えられるべきである。この発明の範囲は上述の説明及び後述の説明ではなく特許請求の範囲によって示され、特許請求の範囲と均等な意味および範囲内でのすべての変更が含まれることが意図される。

30

【1140】

本発明の遊技機としては、他にも、遊技状態を制御する遊技状態制御手段（CPU103）と、演出を制御する演出制御手段（演出制御用CPU120）とを備え、不利設定値（例えば、1～3）と該不利設定値よりも遊技者にとっての有利度が高い有利設定値（例えば、4～6）とを含む複数の設定値のうちからいずれかの設定値を設定可能な遊技機（パチンコ遊技機1）であって、可変表示（飾り図柄の変動表示、小図柄の変動表示）を実行可能な可変表示手段（演出制御用CPU120）を備え、前記可変表示手段（演出制御用CPU120）は、第1装飾識別情報の可変表示（飾り図柄の変動表示）と、第1装飾識別情報よりも視認性が低い第2装飾識別情報の可変表示（小図柄の変動表示）とを実行可能であり、前記遊技状態制御手段（CPU103）は、遊技者にとって有利な有利状態（大当り遊技状態）と、前記有利状態とは異なる特殊状態（小当り遊技状態）と、前記特殊状態により遊技価値が付与されやすい特別状態（高確／第2KT状態）と、に制御可能であり、前記演出制御手段（演出制御用CPU120）は、前記特別状態（高確／第2KT状態）において遊技者の動作（遊技者によりプッシュボタン31Bを操作されたこと）に基づいて、複数種類の演出モード（曇りモード、雨モード、及び台風モード）のうちのいずれかの演出モードに制御可能であり、演出モードに応じて、前記特殊状態の制御に対応した所定演出を異ならせることが可能であり（図11-3（A1）～（A3）に示すように、演出モードが曇りモードである場合には、第2特別図柄の変動表示結果が「小当り」となるときに、図柄表示エリア5Cに特殊図柄18TM050（楕円形のオブジェクトに「OPEN」の文字が示された小当り図柄）を確定停止させており、図11-4（B1

40

50

）～（Ｂ３）に示すように、演出モードが雨モードである場合には、第２特別図柄の変動表示結果が「小当り」となるときに、図柄表示エリア５Ｌ、５Ｃ、５Ｒに奇数図柄の順目となる飾り図柄の組み合わせ（本例では、「１３５」）を確定停止させており、図１１－５（Ｃ１）～（Ｃ３）に示すように、演出モードが台風モードである場合には、第２特別図柄の変動表示結果が「小当り」となるときに、図柄表示エリア５Ｌ、５Ｃ、５Ｒにエフェクト画像１８ＴＭ０６０（本例では、音符型の画像）が重畳表示された飾り図柄の組み合わせを確定停止させている）、前記第２装飾識別情報の可変表示の態様は、演出モードによらず共通であり（図１１－２に示すように、第２小図柄は演出モードによらず「０」～「９」の数字図柄であり、第２小図柄が表示されている領域は演出モードによらず第２小図柄表示領域５ｌ２、５ｃ２、５ｒ２である）、さらに、前記有利状態に制御することを決定可能な決定手段（例えば、ＣＰＵ１０３が図１４に示す特別図柄通常処理を実行する部分）と、前記決定手段の決定結果にもとづいて、前記有利状態に制御されることを示唆する示唆演出（例えば、リーチ演出）を、特定演出（例えば、パターンＣＩ－３のカットイン演出）を含む態様と含まない態様にて実行可能な示唆演出実行手段（例えば、演出制御用ＣＰＵ１２０が図１５－１８に示すカットイン演出決定処理を実行した後に図７に示す可変表示中演出処理を実行する部分）と、を備え、前記示唆演出実行手段は、前記不利設定値に設定されており、かつ前記決定手段によって前記有利状態に制御されることが決定されていないときには、前記特定演出を含む態様の前記示唆演出を実行不能であり（例えば、図１５－２１（Ｂ）に示すように、パチンコ遊技機１に設定されている設定値が１～３のいずれかであり、かつ可変表示結果がはずれである場合は、カットイン演出をパターンＣＩ－３で実行不能な部分）、前記有利設定値に設定されており、かつ前記決定手段によって前記有利状態に制御されることが決定されていないときには、前記特定演出を含む態様の前記示唆演出を実行可能であり（例えば、図１５－２１（Ｃ）～図１５－２１（Ｅ）に示すように、パチンコ遊技機１に設定されている設定値が４～６のいずれかであり、かつ可変表示結果がはずれである場合は、カットイン演出をパターンＣＩ－３で実行可能な部分）、前記示唆演出が実行されたときに、前記有利状態に制御されないことが一旦示唆された後に前記有利状態に制御されることが報知される特別パターン（図１５－６に示す復活演出を実行するスーパーリーチγ大当りの変動パターン（ＰＢ１－５））を有し、前記特別パターンにて前記有利状態に制御される場合において、前記特定演出を含む態様の前記示唆演出が実行される割合は、前記特定演出を含まない態様の前記示唆演出が実行される割合よりも低い（例えば、図１５－２１（Ａ）～図１５－２１（Ｅ）に示すように、復活演出を実行するスーパーリーチγ大当りの変動パターンにて可変表示を実行する場合は、復活演出を実行しないスーパーリーチγ大当りの変動パターンにて可変表示を実行する場合よりもカットイン演出をパターンＣＩ－３で実行する割合が低く設定されている部分）遊技機が挙げられる。

【１１４１】

このような構成によれば、遊技者の動作により演出モードを選択可能となるため、特別状態における遊技の興趣を向上させることができる。また、第２装飾識別情報の可変表示の態様を演出モードによらず共通化できるので、遊技者は、演出モードが切り替わっても、第２装飾識別情報を正確に把握することが可能となる。また、特定演出を含む示唆演出が実行されて有利状態に制御されないことが示唆された場合に、有利設定値が設定されていると遊技者が認識したにもかかわらず特別パターンにて有利状態に制御されることが報知されることにより、該認識が誤りとなることによる遊技興趣の低下を軽減できる。

【１１４２】

なお、特定演出を含む態様の示唆演出に加えて、特別状態における遊技者の動作に基づいて複数種類のうちのいずれかに制御される演出モードの種類に応じて、特殊状態の制御に対応して実行される所定演出の態様によって設定値の示唆を行うようにしてもよい。例えば、特殊状態（小当り遊技状態）の制御に対応して実行される所定演出の態様を各演出モードにおいて複数種類用意しておき（例えば、曇りモードにおいて「小当り」となるときに、図柄表示エリア５Ｃに確定停止される特殊図柄として特殊図柄Ａ・Ｂ・Ｃの３種類

10

20

30

40

50

を用意しておき）、所定演出を実行可能なタイミング毎に所定演出の態様を複数種類の中から抽選等により選択するとともに、設定されている設定値によって所定演出の各態様の選択割合を異ならせることにより、設定されている設定値が遊技者にとって有利であるほど、所定演出が特定種類の態様で実行されやすくなる（例えば、曇りモードにおいて、「小当り」となるときに特殊図柄Cが確定停止しやすくなる）ようにしてもよい。そのようにすれば、所定演出の態様の種類がさらに豊富になるとともに、特定種類の態様による所定演出が実行された場合には設定されている設定値が遊技者にとって有利であることへの期待感が向上するため、遊技興趣を向上させることができる。

また、設定値の示唆を複数の要素（例えば特定演出を含む態様の示唆演出と、特殊状態の制御に対応して実行される所定演出の態様の種類との2つの要素）により行うようにすれば、複数の要素で遊技者に有利な設定値が示唆された場合には、遊技者は遊技者に有利な設定値であることをより確信することができ、或る要素で遊技者に有利な設定値が示唆されなかった場合でも、他の要素で有利な設定値が示唆されれば、遊技者は遊技者に有利な設定値であることへの期待感を持続できるので、遊技興趣を向上させることができる。

【1143】

さらに、特別状態における遊技の興趣を向上させることができ、また、認識が誤りとなることによる遊技興趣の低下を軽減できる遊技機の形態の一例として、遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当り遊技状態）に制御可能であり、不利設定値（例えば、1～3）と該不利設定値よりも遊技者にとっての有利度が高い有利設定値（例えば、4～6）とを含む複数の設定値のうちからいずれかの設定値を設定可能な遊技機（例えば、パチンコ遊技機1）であって、前記有利状態に制御することを決定可能な決定手段（例えば、CPU103が図14に示す特別図柄通常処理を実行する部分）と、前記決定手段の決定結果にもとづいて、前記有利状態に制御されることを示唆する示唆演出（例えば、リーチ演出）を、特定演出（例えば、パターンC-E-3のカットイン演出）を含む態様と含まない態様にて実行可能な示唆演出実行手段（例えば、演出制御用CPU120が図15-18に示すカットイン演出決定処理を実行した後に図7に示す可変表示中演出処理を実行する部分）と、を備え、前記示唆演出実行手段は、前記不利設定値に設定されており、かつ前記決定手段によって前記有利状態に制御されることが決定されていないときには、前記特定演出を含む態様の前記示唆演出を実行不能であり（例えば、図15-21（B）に示すように、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が1～3のいずれかであり、かつ可変表示結果がはずれである場合は、カットイン演出をパターンC-E-3で実行不能な部分）、前記有利設定値に設定されており、かつ前記決定手段によって前記有利状態に制御されることが決定されていないときには、前記特定演出を含む態様の前記示唆演出を実行可能であり（例えば、図15-21（C）～図15-21（E）に示すように、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであり、かつ可変表示結果がはずれである場合は、カットイン演出をパターンC-E-3で実行可能な部分）、前記示唆演出が実行されたときに、前記有利状態に制御されないことが一旦示唆された後に前記有利状態に制御されることが報知される特別パターン（図15-6に示す復活演出を実行するスーパーリーチγ大当りの変動パターン（PB1-5））を有し、前記特別パターンにて前記有利状態に制御される場合において、前記特定演出を含む態様の前記示唆演出が実行される割合は、前記特定演出を含まない態様の前記示唆演出が実行される割合よりも低い（例えば、図15-21（A）～図15-21（E）に示すように、復活演出を実行するスーパーリーチγ大当りの変動パターンにて可変表示を実行する場合は、復活演出を実行しないスーパーリーチγ大当りの変動パターンにて可変表示を実行する場合よりもカットイン演出をパターンC-E-3で実行する割合が低く設定されている部分）遊技機が挙げられる。以下に、これらの遊技機の形態例の一例を他の形態例として説明する。

【1144】

（本実施の形態の特徴部208SGの前提となる基本説明）

まず、図12～図14を用いて、後述する特徴部208SGの前提となるパチンコ遊技機1の基本的な構成及び制御のうち、前述した図2、図4、図5と相違する点について説

10

20

30

40

50

明する。これら相違点以外については、特徴部 208SG の前提となるパチンコ遊技機 1 の基本的な構成及び制御は、図 1 ～図 7 を用いて説明した前述のパチンコ遊技機 1 の構成及び制御と基本的に同様である。

【1145】

図 12 は、パチンコ遊技機に搭載された各種の制御基板などを示す構成図であり、演出制御基板 12 には、LED 制御基板 14 を介して枠 LED 9 が接続されることに代えて、ランプ制御基板 9014 を介して遊技効果ランプ 909 が接続される点が図 2 との主な相違点である。また、遊技効果ランプ 909 は、図 1 の遊技領域周辺部の枠 LED 9 が設けられている箇所に設けられ、遊技効果ランプ 909 は、LED を含んで構成されている。

【1146】

(基板構成)

パチンコ遊技機 1 には、例えば図 12 に示すような主基板 11、演出制御基板 12、音声制御基板 13、ランプ制御基板 9014、中継基板 15 などが搭載されている。その他にも、パチンコ遊技機 1 の背面には、例えば払出制御基板、情報端子基板、発射制御基板、電源基板などといった、各種の基板が配置されている。

【1147】

表示制御部 123 は、演出制御用 CPU 120 からの演出の実行指示に基づき、実行する演出に応じた映像信号を画像表示装置 5 に供給することで、演出画像を画像表示装置 5 に表示させる。表示制御部 123 は、さらに、演出画像の表示に同期した音声出力や、遊技効果ランプ 909 の点灯／消灯を行うため、音指定信号（出力する音声を指定する信号）を音声制御基板 13 に供給したり、ランプ信号（ランプの点灯／消灯態様を指定する信号）をランプ制御基板 9014 に供給したりする。また、表示制御部 123 は、可動体 32 を動作させる信号を当該可動体 32 又は当該可動体 32 を駆動する駆動回路に供給する。

【1148】

ランプ制御基板 9014 は、遊技効果ランプ 909 を駆動する各種回路を搭載しており、当該ランプ信号に基づき遊技効果ランプ 909 を駆動し、当該ランプ信号が指定する態様で遊技効果ランプ 909 を点灯／消灯する。このようにして、表示制御部 123 は、音声出力、ランプの点灯／消灯を制御する。

【1149】

演出制御基板 12、音声制御基板 13、ランプ制御基板 9014 といった、主基板 11 以外の基板をサブ基板ともいう。パチンコ遊技機 1 のようにサブ基板が機能別に複数設けられていてもよいし、1 のサブ基板が複数の機能を有するように構成してもよい。

【1150】

前述した図 3 と同様の遊技制御メイン処理を実行した CPU 103 は、CTC からの割込み要求信号を受信して割込み要求を受け付けると、図 13 のフローチャートに示す遊技制御用タイマ割込み処理を実行する。図 13 に示す遊技制御用タイマ割込み処理を開始すると、CPU 103 は、まず、所定のスイッチ処理を実行することにより、スイッチ回路 110 を介してゲートスイッチ 21、第 1 始動口スイッチ 22A、第 2 始動口スイッチ 22B、カウントスイッチ 23 といった各種スイッチからの検出信号の受信の有無を判定する（ステップ S9021）。続いて、所定のメイン側エラー処理を実行することにより、パチンコ遊技機 1 の異常診断を行い、その診断結果に応じて必要ならば警告を発生可能とする（ステップ S9022）。この後、所定の情報出力処理を実行することにより、例えばパチンコ遊技機 1 の外部に設置されたホール管理用コンピュータに供給される大当たり情報（大当たりの発生回数等を示す情報）、始動情報（始動入賞の回数等を示す情報）、確率変動情報（確変状態となった回数等を示す情報）などのデータを出力する（ステップ S9023）。

【1151】

情報出力処理に続いて、主基板 11 の側で用いられる遊技用乱数の少なくとも一部をソフトウェアにより更新するための遊技用乱数更新処理を実行する（ステップ S9024）。この後、CPU 103 は、特別図柄プロセス処理を実行する（ステップ S9025）。

10

20

30

40

50

CPU103がタイマ割込み毎に特別図柄プロセス処理を実行することにより、特図ゲームの実行及び保留の管理や、大当り遊技状態や小当り遊技状態の制御、遊技状態の制御などが実現される（詳しくは後述）。

【1152】

特別図柄プロセス処理に続いて、普通図柄プロセス処理が実行される（ステップS9026）。CPU103がタイマ割込み毎に普通図柄プロセス処理を実行することにより、ゲートスイッチ21からの検出信号に基づく（通過ゲート41に遊技球が通過したことに基づく）普図ゲームの実行及び保留の管理や、「普図当り」に基づく可変入賞球装置6Bの開放制御などを可能にする。普図ゲームの実行は、普通図柄表示器20を駆動することにより行われ、普図保留表示器25Cを点灯させることにより普図保留数を表示する。

10

【1153】

普通図柄プロセス処理を実行した後、遊技制御用タイマ割込み処理の一部として、電断が発生したときの処理、賞球を払い出すための処理等などが行われてもよい。その後、CPU103は、コマンド制御処理を実行する（ステップS9027）。CPU103は、上記各処理にて演出制御コマンドを送信設定することがある。ステップS9027のコマンド制御処理では、送信設定された演出制御コマンドを演出制御基板12などのサブ側の制御基板に対して伝送させる処理が行われる。コマンド制御処理を実行した後は、割込みを許可してから、遊技制御用タイマ割込み処理を終了する。

【1154】

図14は、特別図柄プロセス処理として、図13に示すステップS9025にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。この特別図柄プロセス処理において、CPU103は、まず、始動入賞判定処理を実行する（ステップS90101）。

20

【1155】

始動入賞判定処理では、始動入賞の発生を検出し、RAM102の所定領域に保留情報を格納し保留記憶数を更新する処理が実行される。始動入賞が発生すると、表示結果（大当り種別を含む）や変動パターンを決定するための乱数値が抽出され、保留情報として記憶される。また、抽出した乱数値に基づいて、表示結果や変動パターンを先読み判定する処理が実行されてもよい。保留情報や保留記憶数を記憶した後は、演出制御基板12に始動入賞の発生、保留記憶数、先読み判定等の判定結果を指定するための演出制御コマンドを送信するための送信設定が行われる。こうして送信設定された始動入賞時の演出制御コマンドは、例えば特別図柄プロセス処理が終了した後、図13に示すステップS9027のコマンド制御処理が実行されることなどにより、主基板11から演出制御基板12に対して伝送される。

30

【1156】

S90101にて始動入賞判定処理を実行した後、CPU103は、RAM102に設けられた特図プロセスフラグの値に応じて、ステップS90110～S90120の処理のいずれかを選択して実行する。なお、特別図柄プロセス処理の各処理（ステップS90110～S90120）では、各処理に対応した演出制御コマンドを演出制御基板12に送信するための送信設定が行われる。

【1157】

40

ステップS90110の特別図柄通常処理は、特図プロセスフラグの値が“0”（初期値）のときに実行される。この特別図柄通常処理では、保留情報の有無などに基づいて、第1特図ゲーム又は第2特図ゲームを開始するか否かの判定が行われる。また、特別図柄通常処理では、表示結果決定用の乱数値に基づき、特別図柄や飾り図柄の表示結果を「大当り」または「小当り」とするか否かや「大当り」とする場合の大当り種別を、その表示結果が導出表示される以前に決定（事前決定）する。さらに、特別図柄通常処理では、決定された表示結果に対応して、特図ゲームにおいて停止表示させる確定特別図柄（大当り図柄や小当り図柄、はずれ図柄のいずれか）が設定される。その後、特図プロセスフラグの値が“1”に更新され、特別図柄通常処理は終了する。なお、第2特図を用いた特図ゲームが第1特図を用いた特図ゲームよりも優先して実行されるようにしてもよい（特図2優先

50

消化ともいう)。また、第1始動入賞口及び第2始動入賞口への遊技球の入賞順序を記憶し、入賞順に特図ゲームの開始条件を成立させるようにしてもよい(入賞順消化ともいう)。

【1158】

乱数値に基づき各種の決定を行う場合には、ROM101に格納されている各種のテーブル(乱数値と比較される決定値が決定結果に割り当てられているテーブル)が参照される。主基板11における他の決定、演出制御基板12における各種の決定についても同じである。演出制御基板12においては、各種のテーブルがROM121に格納されている。

【1159】

ステップS90111の変動パターン設定処理は、特図プロセスフラグの値が“1”のときに実行される。この変動パターン設定処理には、表示結果を「大当たり」または「小当たり」とするか否かの事前決定結果等に基づき、変動パターン決定用の乱数値を用いて変動パターンを複数種類のいずれかに決定する処理などが含まれている。変動パターン設定処理では、変動パターンを決定したときに、特図プロセスフラグの値が“2”に更新され、変動パターン設定処理は終了する。

【1160】

変動パターンは、特図ゲームの実行時間(特図変動時間)(飾り図柄の可変表示の実行時間でもある)や、飾り図柄の可変表示の態様(リーチの有無等)、飾り図柄の可変表示中の演出内容(リーチ演出の種類等)を指定するものであり、可変表示パターンとも呼ばれる。

【1161】

ステップS90112の特別図柄変動処理は、特図プロセスフラグの値が“2”のときに実行される。この特別図柄変動処理には、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bにおいて特別図柄を変動させるための設定を行う処理や、その特別図柄が変動を開始してから経過時間を計測する処理などが含まれている。また、計測された経過時間が変動パターンに対応する特図変動時間に達したか否かの判定も行われる。そして、特別図柄の変動を開始してから経過時間が特図変動時間に達したときには、特図プロセスフラグの値が“3”に更新され、特別図柄変動処理は終了する。

【1162】

ステップS90113の特別図柄停止処理は、特図プロセスフラグの値が“3”のときに実行される。この特別図柄停止処理には、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bにて特別図柄の変動を停止させ、特別図柄の表示結果となる確定特別図柄を停止表示(導出)させるための設定を行う処理が含まれている。そして、表示結果が「大当たり」である場合には特図プロセスフラグの値が“4”に更新される。その一方で、大当たりフラグがオフであり、表示結果が「小当たり」である場合には、特図プロセスフラグの値が“8”に更新される。また、表示結果が「はずれ」である場合には、特図プロセスフラグの値が“0”に更新される。表示結果が「小当たり」又は「はずれ」である場合、時短状態や確変状態に制御されているときであって、回数切りの終了成立する場合には、遊技状態も更新される。特図プロセスフラグの値が更新されると、特別図柄停止処理は終了する。

【1163】

ステップS90114の大当たり開放前処理は、特図プロセスフラグの値が“4”のときに実行される。この大当たり開放前処理には、表示結果が「大当たり」となったことなどに基づき、大当たり遊技状態においてラウンドの実行を開始して大入賞口を開放状態とするための設定を行う処理などが含まれている。大入賞口を開放状態とするときには、大入賞口扉用のソレノイド82に対してソレノイド駆動信号を供給する処理が実行される。このときには、例えば大当たり種別がいずれであるかに対応して、大入賞口を開放状態とする開放上限期間や、ラウンドの上限実行回数を設定する。これらの設定が終了すると、特図プロセスフラグの値が“5”に更新され、大当たり開放前処理は終了する。

【1164】

ステップS90115の大当たり開放中処理は、特図プロセスフラグの値が“5”のときに

10

20

30

40

50

実行される。この大当たり開放中処理には、大入賞口を開放状態としてからの経過時間を計測する処理や、その計測した経過時間やカウントスイッチ23によって検出された遊技球の個数などに基づいて、大入賞口を開放状態から閉鎖状態に戻すタイミングとなったか否かを判定する処理などが含まれている。そして、大入賞口を閉鎖状態に戻すときには、大入賞口扉用のソレノイド82に対するソレノイド駆動信号の供給を停止させる処理などを実行した後、特図プロセスフラグの値が“6”に更新し、大当たり開放中処理を終了する。

【1165】

ステップS90116の大当たり開放後処理は、特図プロセスフラグの値が“6”のときに実行される。この大当たり開放後処理には、大入賞口を開放状態とするラウンドの実行回数が設定された上限実行回数に達したか否かを判定する処理や、上限実行回数に達した場合に大当たり遊技状態を終了させるための設定を行う処理などが含まれている。そして、ラウンドの実行回数が上限実行回数に達していないときには、特図プロセスフラグの値が“5”に更新される一方、ラウンドの実行回数が上限実行回数に達したときには、特図プロセスフラグの値が“7”に更新される。特図プロセスフラグの値が更新されると、大当たり解放後処理は終了する。

10

【1166】

ステップS90117の大当たり終了処理は、特図プロセスフラグの値が“7”のときに実行される。この大当たり終了処理には、大当たり遊技状態の終了を報知する演出動作としてのエンディング演出が実行される期間に対応した待ち時間が経過するまで待機する処理や、大当たり遊技状態の終了に対応して確変制御や時短制御を開始するための各種の設定を行う処理などが含まれている。こうした設定が行われたときには、特図プロセスフラグの値が“0”に更新され、大当たり終了処理は終了する。

20

【1167】

ステップS90118の小当たり開放前処理は、特図プロセスフラグの値が“8”のときに実行される。この小当たり開放前処理には、表示結果が「小当たり」となったことに基づき、小当たり遊技状態において大入賞口を開放状態とするための設定を行う処理などが含まれている。このときには、特図プロセスフラグの値が“9”に更新され、小当たり開放前処理は終了する。

【1168】

ステップS90119の小当たり開放中処理は、特図プロセスフラグの値が“9”のときに実行される。この小当たり開放中処理には、大入賞口を開放状態としてからの経過時間を計測する処理や、その計測した経過時間などに基づいて、大入賞口を開放状態から閉鎖状態に戻すタイミングとなったか否かを判定する処理などが含まれている。大入賞口を閉鎖状態に戻して小当たり遊技状態の終了タイミングとなったときには、特図プロセスフラグの値が“10”に更新され、小当たり開放中処理は終了する。

30

【1169】

ステップS90120の小当たり終了処理は、特図プロセスフラグの値が“10”のときに実行される。この小当たり終了処理には、小当たり遊技状態の終了を報知する演出動作が実行される期間に対応した待ち時間が経過するまで待機する処理などが含まれている。ここで、小当たり遊技状態が終了するときには、小当たり遊技状態となる以前のパチンコ遊技機1における遊技状態を継続させる。小当たり遊技状態の終了時における待ち時間が経過したときには、特図プロセスフラグの値が“0”に更新され、小当たり終了処理は終了する。

40

【1170】

(特徴部208SGに関する説明)

次に、本実施の形態の特徴部208SGにおける遊技機につき、図15-1～図15-39を参照して説明する。

【1171】

まず、図15-1は、本実施の形態の特徴部208SGにおけるパチンコ遊技機1の正面図であり、主要部材の配置レイアウトを示す。図15-1及び図15-3に示すように、パチンコ遊技機(遊技機)1は、大別して、縦長の方形枠状に形成された外枠208S

50

G 0 0 1 a と、遊技盤面を構成する遊技盤（ゲージ盤）2 と、遊技盤 2 を支持固定する遊技機用枠（台枠）2 0 8 S G 0 0 3 とから構成されている。遊技盤 2 には、遊技領域が形成され、この遊技領域には、遊技媒体としての遊技球が所定の打球発射装置から発射されて打ち込まれる。また、遊技機用枠 2 0 8 S G 0 0 3 には、ガラス窓を有するガラス扉枠 2 0 8 S G 0 0 3 a が左側辺を中心として遊技機用枠 2 0 8 S G 0 0 3 の前面を開放する扉開放位置と該前面を閉鎖する扉閉鎖位置との間で回動可能に設けられ、該ガラス扉枠 2 0 8 S G 0 0 3 a により遊技領域を開閉できるようになっており、ガラス扉枠 2 0 8 S G 0 0 3 a を閉鎖したときにガラス窓を通して遊技領域を透視できるようになっている。

【1172】

また、遊技機用枠 2 0 8 S G 0 0 3 は、遊技場の店員等が所有する扉キーを図示しない錠前に挿入して解錠することで開放可能となり、店員以外の遊技者等は遊技機用枠 2 0 8 S G 0 0 3 及びガラス扉枠 2 0 8 S G 0 0 3 a を開放することはできないようになっている。

【1173】

左遊技領域 2 0 8 S G 0 0 2 L は、打球操作ハンドル 3 0 の操作によって比較的弱く打ち出された（左打ち）遊技球が流下する遊技領域であり、右遊技領域 2 0 8 S G 0 0 2 R は、打球操作ハンドル 3 0 の操作によって左遊技領域 2 0 8 S G 0 0 2 L を流下する遊技球よりも強く打ち出された（右打ち）遊技球が、画像表示装置 5 の上方経路 2 0 8 S G 0 0 2 C を通過して流下する遊技領域である。

【1174】

また、左遊技領域 2 0 8 S G 0 0 2 L には、一般入賞口 1 0 が配置されており、右遊技領域 2 0 8 S G 0 0 2 R には、該右遊技領域 2 0 8 S G 0 0 2 R の上流方から下流側にかけて、通過ゲート 4 1、可変入賞球装置 6 B、一般入賞口 1 0、特別可変入賞球装置 7 が配置されている。つまり、左遊技領域 2 0 8 S G 0 0 2 L を流下する遊技球は、一般入賞口 1 0 と入賞球装置 6 A が形成する第 1 始動入賞口に入賞可能となっており、右遊技領域 2 0 8 S G 0 0 2 R を流下する遊技球は、可変入賞球装置 6 B が形成する第 2 始動入賞口、一般入賞口 1 0 及び特別可変入賞球装置 7 が形成する大入賞口に入賞可能となっているとともに、通過ゲート 4 1 を通過可能となっている。

【1175】

図 1 5 - 1 に示すように、入賞球装置 6 A と可変入賞球装置 6 B 及び特別可変入賞球装置 7 の間には、複数の障害釘 2 0 8 S G K 1 が配設されている。このため、左遊技領域 2 0 8 S G 0 0 2 L を流下する遊技球は、第 2 始動入賞口や大入賞口に入賞不能であるとともに、右遊技領域 2 0 8 S G 0 0 2 R を流下する遊技球は、第 1 始動入賞口に入賞不能となっている。

【1176】

図 1 5 - 2 及び図 1 5 - 3 に示すように、本実施の形態の特徴部 2 0 8 S G における主基板 1 1 は、第 1 部材と第 2 部材とにより開放可能に構成された基板ケース 2 0 8 S G 2 0 1 に収納された状態でパチンコ遊技機 1 の背面に搭載されている。また、主基板 1 1 には、パチンコ遊技機 1 の設定値を変更可能な設定値変更状態に切り替えるための錠スイッチ 2 0 8 S G 0 5 1 と、設定値変更状態において後述する大当りの当選確率（出玉率）等の設定値を変更するための設定スイッチとして機能する設定切替スイッチ 2 0 8 S G 0 5 2 と、遊技機用枠 2 0 8 S G 0 0 3 の開放を検知する開放センサ 2 0 8 S G 0 9 0 と、が設けられている。尚、本実施の形態の特徴部 2 0 8 S G における設定値変更状態は、遊技場の店員等がパチンコ遊技機 1 に設定されている設定値を確認可能な状態（設定値確認状態）でもある。

【1177】

これら錠スイッチ 2 0 8 S G 0 5 1 及び設定切替スイッチ 2 0 8 S G 0 5 2 といった遊技者が操作可能な操作部が設けられた設定切替本体部は、主基板 1 1 とともに基板ケース 2 0 8 S G 2 0 1 内に收容されており、錠スイッチ 2 0 8 S G 0 5 1 及び設定切替スイッチ 2 0 8 S G 0 5 2 は、基板ケース 2 0 8 S G 2 0 1 を開放しなくても操作可能となるよ

10

20

30

40

50

うに基板ケース２０８ＳＧ２０１の背面に形成された開口を介して背面側に露出している。
【１１７８】

錠スイッチ２０８ＳＧ０５１及び設定切替スイッチ２０８ＳＧ０５２を有する基板ケース２０８ＳＧ２０１は、パチンコ遊技機１の背面に設けられているため、遊技機用枠２０８ＳＧ００３を閉鎖した状態では操作が極めて困難であり、所定の扉キーを用いて遊技機用枠２０８ＳＧ００３を開放することで操作が可能となる。また、錠スイッチ２０８ＳＧ０５１は、遊技場の店員等が所有する設定キーの操作を要することから、設定キーを所持する店員のみ操作が可能とされている。また、錠スイッチ２０８ＳＧ０５１は、設定キーによって、後述するＯＮとＯＦＦの切替操作を実行可能なスイッチでもある。尚、本実施の形態の特徴部２０８ＳＧでは、扉キーと設定キーとが別個のキーである形態を例示しているが、これらは１のキーにて兼用されていてもよい。

10

【１１７９】

また、基板ケース２０８ＳＧ２０１には、設定値や後述するベース値を表示可能な表示モニタ２０８ＳＧ０２９が配置されている。該表示モニタ２０８ＳＧ０２９は、主基板１１に接続されているとともに、基板ケース２０８ＳＧ２０１の上部に配置されている。つまり、表示モニタ２０８ＳＧ０２９は、基板ケース２０８ＳＧ２０１における主基板１１を視認する際の正面に配置されている。主基板１１は、遊技機用枠２０８ＳＧ００３を開放していない状態では視認できないので、主基板１１を視認する際の正面とは、遊技機用枠２０８ＳＧ００３を開放した状態における遊技盤２の裏面側を視認する際の正面であり、パチンコ遊技機１の正面とは異なる。ただし、主基板１１を視認する際の正面とパチンコ遊技機１の正面とが共通するようにしてもよい。

20

【１１８０】

尚、本特徴部２０８ＳＧにおけるパチンコ遊技機１では、電源の投入時に錠スイッチ２０８ＳＧ０５１と開放センサ２０８ＳＧ００９とがＯＮとなっていれば、設定値変更状態として、セットされている設定値が表示モニタ２０８ＳＧ０２９に表示される。このとき、設定切替スイッチ２０８ＳＧ０５２を操作することによって表示モニタ２０８ＳＧ０２９に表示されている数値（設定値）を更新表示させることができる。

【１１８１】

そして、表示モニタ２０８ＳＧ０２９に１～６のうちの任意の数値が表示されている状態で錠スイッチ２０８ＳＧ０５１をＯＦＦにすることで、該表示モニタ２０８ＳＧ０２９に表示されている数値が新たな設定値としてセットされる。尚、ＣＰＵ１０３は、パチンコ遊技機１が起動した際に、新たな設定値がセット（設定）されたか否かにかかわらず後述の設定値指定コマンドを演出制御基板１２に対して送出する。このようにすることで、演出制御用ＣＰＵ１２０は、パチンコ遊技機１に設定されている設定値を設定値指定コマンドから特定可能となっている。

30

【１１８２】

また、図１５－１及び図１５－２に示すように、本実施の形態の特徴部２０８ＳＧにおけるパチンコ遊技機１の遊技盤２の所定位置（例えば、遊技領域の左下方位置）には、第１特図の可変表示を実行可能な第１特別図柄表示装置２０８ＳＧ００４Ａ、第２特図の可変表示を実行可能な第２特別図柄表示装置２０８ＳＧ００４Ｂ、第１保留記憶数を表示可能な第１保留表示器２０８ＳＧ０２５Ａ、第２保留記憶数を表示可能な第２保留表示器２０８ＳＧ０２５Ｂ、普通図柄の可変表示を実行可能な普通図柄表示器２０８ＳＧ０２０、普図保留記憶数を表示可能な普図保留表示器２０８ＳＧ０２５Ｃ、大当り遊技中に当該大当り遊技のラウンド数（大当り種別）を表示可能なラウンド表示器２０８ＳＧ１３１、高ベース状態（時短状態）や大当り遊技状態等の遊技球を右遊技領域２０８ＳＧ００２Ｒに向けて打ち出す遊技状態において点灯する右打ちランプ２０８ＳＧ１３２、確変状態であるとき点灯する確変ランプ２０８ＳＧ１３３、高ベース状態（時短状態）において点灯する時短ランプ２０８ＳＧ１３４が纏めて配置されている遊技情報表示部２０８ＳＧ２００が設けられている。

40

【１１８３】

50

第1特別図柄表示装置208SG004Aと第2特別図柄表示装置208SG004Bとは、それぞれ8セグメントのLEDから構成されている。また、第1特別図柄表示装置208SG004Aと第2特別図柄表示装置208SG004Bとでは、特別図柄の変表示結果がはずれや小当りである場合は、共通の組合せで該可変表示結果を導出表示可能となっている。

【1184】

第1特別図柄の変表示において該可変表示結果が大当りとなる場合について、第1特別図柄表示装置208SG004Aは、大当り種別毎に2種類の大当り図柄（点灯するLEDの組合せ）にて可変表示結果と導出表示可能となっている。また、第2特別図柄の変表示において該可変表示結果が大当りとなる場合について、第2特別図柄表示装置208SG004Bは、大当り種別毎に2種類の大当り図柄（点灯するLEDの組合せ）にて可変表示結果を導出表示可能となっている。

10

【1185】

尚、本実施の形態の特徴部208SGにおいては、第1特別図柄表示装置208SG004Aと第2特別図柄表示装置208SG004Bとで導出表示可能な大当り図柄は全て異なっているが、第1特別図柄表示装置208SG004Aで導出表示可能な大当り図柄と第2特別図柄表示装置208SG004Bで導出表示可能な大当り図柄は少なくとも一部が重複していてもよい。

【1186】

第1保留表示器208SG025Aと第2保留表示器208SG025Bとは、それぞれ4セグメントのLEDが左右方向に並列して配置されている。これら第1保留表示器208SG025Aと第2保留表示器208SG025Bとでは、保留記憶数が1個であれば左端部のLEDのみが点灯し、保留記憶数が増加していく毎に左から2番目、左から3番目、左から4番目のLEDが順次点灯する。そして、可変表示が実行される毎に、保留記憶が減少する（消費される）ことに応じて、該可変表示に対応する保留表示器でのLEDが所定のシフト方向（本実施の形態の特徴部208SGでは左方向）に向けて消灯していく。

20

【1187】

尚、本実施の形態の特徴部208SGでは、第1特図保留記憶と第2特図保留記憶とが両方存在する場合は、第2特図保留記憶にもとづく可変表示が優先して実行される様になっている。このため例えば第1特図保留記憶が1個存在するとともに第2特図保留記憶が2個存在する場合（第1保留表示器208SG025Aの左端部のLEDのみが点灯していると同時に、第2保留表示器208SG25Bの左2個のLEDが点灯している場合）は、第2特図保留記憶にもとづく可変表示の実行によって第2特図保留記憶が0個となった後に、第1特図保留記憶にもとづく可変表示が実行される。

30

【1188】

また、ラウンド表示器208SG131は5個のセグメント（LED）から構成されている。尚、本実施の形態の特徴部208SGにおける大当り種別としては、5ラウンド大当りである大当りA、10ラウンド大当りである大当りB、15ラウンド大当りである大当りCの計3個の大当り種別が設けられており、これら大当り種別に応じてラウンド表示器208SG131を構成するセグメントのうちいずれのセグメントが点灯するかが異なっている。

40

【1189】

主基板11から演出制御基板12に向けて伝送される制御信号は、中継基板15によって中継される。中継基板15を介して主基板11から演出制御基板12に対して伝送される制御コマンドは、例えば電気信号として送受信される演出制御コマンドである。演出制御コマンドには、例えば画像表示装置5における画像表示動作を制御するために用いられる表示制御コマンドや、スピーカ8L、8Rからの音声出力を制御するために用いられる音声制御コマンド、遊技効果ランプ9や装飾用LEDの点灯動作などを制御するために用いられるLED制御コマンドが含まれている。

50

【1190】

尚、本実施の形態の特徴部208SGにおける演出制御基板12には、可変表示中等にそれぞれの原点位置と演出位置との間で動作可能な第1可動体208SG321及び第2可動体208SG322と、第1可動体208SG321が該第1可動体208SG321の原点位置に位置していることを検出可能な原点検出センサ208SG331と、第2可動体208SG322が該第2可動体208SG322の原点位置に位置していることを検出可能な原点検出センサ208SG332と、が接続されている。

【1191】

図15-4(A)は、本実施の形態における特徴部208SGで用いられる演出制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。演出制御コマンドは、例えば2バイト構成であり、1バイト目はMODE(コマンドの分類)を示し、2バイト目はEXT(コマンドの種類)を表す。MODEデータの先頭ビット(ビット7)は必ず「1」とされ、EXTデータの先頭ビットは「0」とされる。尚、図15-4(A)に示されたコマンド形態は一例であって、他のコマンド形態を用いてもよい。また、この例では、制御コマンドが2つの制御信号で構成されることになるが、制御コマンドを構成する制御信号数は、1であってもよいし、3以上の複数であってもよい。

【1192】

図15-4(A)に示す例において、コマンド8001Hは、第1特別図柄表示装置208SG004Aにおける第1特図を用いた特図ゲームにおける可変表示の開始を指定する第1可変表示開始コマンドである。コマンド8002Hは、第2特別図柄表示装置208SG004Bにおける第2特図を用いた特図ゲームにおける可変表示の開始を指定する第2可変表示開始コマンドである。コマンド81XXHは、特図ゲームにおける特別図柄の可変表示に対応して画像表示装置5における「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア5L, 5C, 5Rで可変表示される飾り図柄などの変動パターン(変動時間)を指定する変動パターン指定コマンドである。ここで、XXHは不特定の16進数であることを示し、演出制御コマンドによる指示内容に応じて任意に設定される値であればよい。尚、変動パターン指定コマンドでは、指定する変動パターンなどに応じて、異なるEXTデータが設定される。

【1193】

コマンド8CXXHは、可変表示結果通知コマンドであり、特別図柄や飾り図柄などの可変表示結果を指定する演出制御コマンドである。可変表示結果通知コマンドでは、例えば図15-4(B)に示すように、可変表示結果が「はずれ」であるか「大当たり」であるか「小当たり」であるかの決定結果(事前決定結果)や、可変表示結果が「大当たり」となる場合の大当たり種別を複数種類のいずれとするかの決定結果(大当たり種別決定結果)に応じて、異なるEXTデータが設定される。

【1194】

可変表示結果通知コマンドでは、例えば図15-4(B)に示すように、コマンド8C00Hは、可変表示結果が「はずれ」となる旨の事前決定結果を示す第1可変表示結果指定コマンドである。コマンド8C01Hは、可変表示結果が「大当たり」で大当たり種別が「大当たりA」となる旨の事前決定結果及び大当たり種別決定結果を通知する第2可変表示結果指定コマンドである。コマンド8C02Hは、可変表示結果が「大当たり」で大当たり種別が「大当たりB」となる旨の事前決定結果及び大当たり種別決定結果を通知する第3可変表示結果指定コマンドである。コマンド8C03Hは、可変表示結果が「大当たり」で大当たり種別が「大当たりC」となる旨の事前決定結果及び大当たり種別決定結果を通知する第4可変表示結果指定コマンドである。コマンド8C04Hは、可変表示結果が「小当たり」となる旨の事前決定結果を通知する第5可変表示結果指定コマンドである。

【1195】

コマンド8F00Hは、画像表示装置5における「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア5L, 5C, 5Rで飾り図柄の変動停止(確定)を指定する図柄確定コマンドである。コマンド95XXHは、パチンコ遊技機1における現在の遊技状態を指定する遊

10

20

30

40

50

技状態指定コマンドである。遊技状態指定コマンドでは、例えばパチンコ遊技機 1 における現在の遊技状態に応じて、異なる E X T データが設定される。具体的な一例として、コマンド 9 5 0 0 H を時短制御が行われない遊技状態（低ベース状態、通常状態）に対応した第 1 遊技状態指定コマンドとし、コマンド 9 5 0 1 H を時短制御が行われる遊技状態（高ベース状態、時短状態）に対応した第 2 遊技状態指定コマンドとする。

【1196】

コマンド 9 6 X X H は、パチンコ遊技機 1 においてエラー（異常）の発生および発生したエラー（異常）の種別を指定するエラー（異常）指定コマンドである。エラー（異常）指定コマンドでは、例えば、各エラー（異常）に対応する E X T データが設定されることにより、演出制御基板 1 2 側において、いずれのエラー（異常）の発生が判定されたのかを特定することができ、特定したエラー（異常）の発生が、後述するエラー報知処理によって報知される。

【1197】

コマンド A 0 X X H は、大当り遊技状態または小当り遊技状態の開始を示す演出画像の表示を指定する当り開始指定コマンド（「ファンファーレコマンド」ともいう）である。コマンド A 1 X X H は、大当り遊技状態または小当り遊技状態において、大入賞口が開放状態となっている期間であることを通知する大入賞口開放中通知コマンドである。コマンド A 2 X X H は、大当り遊技状態または小当り遊技状態において、大入賞口が開放状態から閉鎖状態に変化した期間であることを通知する大入賞口開放後通知コマンドである。コマンド A 3 X X H は、大当り遊技状態または小当り遊技状態の終了時における演出画像の表示を指定する当り終了指定コマンドである。

【1198】

当り開始指定コマンドや当り終了指定コマンドでは、例えば可変表示結果通知コマンドと同様の E X T データが設定されることなどにより、事前決定結果や大当り種別決定結果に応じて異なる E X T データが設定されてもよい。あるいは、当り開始指定コマンドや当り終了指定コマンドでは、事前決定結果及び大当り種別決定結果と設定される E X T データとの対応関係を、可変表示結果通知コマンドにおける対応関係とは異ならせるようにしてもよい。大入賞口開放中通知コマンドや大入賞口開放後通知コマンドでは、大当り遊技状態または小当り遊技状態におけるラウンドの実行回数（例えば「1」～「15」）に対応して、異なる E X T データが設定される。

【1199】

コマンド B 1 0 0 H は、入賞球装置 6 A が形成する第 1 始動入賞口を通過（進入）した遊技球が第 1 始動口スイッチ 2 2 A により検出されて始動入賞（第 1 始動入賞）が発生したことに基つき、第 1 特別図柄表示装置 2 0 8 S G 0 0 4 A における第 1 特図を用いた特図ゲームを実行するための第 1 始動条件が成立したことを通知する第 1 始動口入賞指定コマンドである。コマンド B 2 0 0 H は、可変入賞球装置 6 B が形成する第 2 始動入賞口を通過（進入）した遊技球が第 2 始動口スイッチ 2 2 B により検出されて始動入賞（第 2 始動入賞）が発生したことに基つき、第 2 特別図柄表示装置 2 0 8 S G 0 0 4 B における第 2 特図を用いた特図ゲームを実行するための第 2 始動条件が成立したことを通知する第 2 始動口入賞指定コマンドである。

【1200】

コマンド C 1 X X H は、画像表示装置 5 などにて特図保留記憶数を特定可能に表示するために、第 1 特図保留記憶数を通知する第 1 保留記憶数通知コマンドである。コマンド C 2 X X H は、画像表示装置 5 などにて特図保留記憶数を特定可能に表示するために、第 2 特図保留記憶数を通知する第 2 保留記憶数通知コマンドである。第 1 保留記憶数通知コマンドは、例えば第 1 始動入賞口を遊技球が通過（進入）して第 1 始動条件が成立したことに基ついて、第 1 始動口入賞指定コマンドが送信されるときに、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して送信される。第 2 保留記憶数通知コマンドは、例えば第 2 始動入賞口を遊技球が通過（進入）して第 2 始動条件が成立したことに基ついて、第 2 始動口入賞指定コマンドが送信されるときに、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して送信される。ま

た、第1保留記憶数通知コマンドや第2保留記憶数通知コマンドは、第1開始条件と第2開始条件のいずれかが成立したとき（保留記憶数が減少したとき）に、特図ゲームの実行が開始されることなどに対応して送信されるようにしてもよい。

【1201】

第1保留記憶数通知コマンドや第2保留記憶数通知コマンドに代えて、合計保留記憶数を通知する合計保留記憶数通知コマンドを送信するようにしてもよい。すなわち、合計保留記憶数の増加（または減少）を通知するための合計保留記憶数通知コマンドが用いられてもよい。

【1202】

コマンドC4XXH及びコマンドC6XXHは、入賞時判定結果の内容を示す演出制御コマンド（入賞時判定結果指定コマンド）である。このうち、コマンドC4XXHは、入賞時判定結果として、可変表示結果が「大当り」となるか否か及び大当り種別（確変や非確変や突確）の判定結果を示す図柄指定コマンドである。また、コマンドC6XXHは、入賞時判定結果として、変動パターン判定用の乱数値MR3が、「非リーチ」、「スーパリーチ」、「その他」のいずれの変動パターンとなるかの判定結果を示す変動カテゴリコマンドである。

【1203】

コマンドD0XXHは、新たに設定された設定値を主基板11から演出制御基板12（演出制御用CPU120）に指定するための設定値指定コマンドである。

【1204】

主基板11に搭載された遊技制御用マイクロコンピュータ100は、例えば1チップのマイクロコンピュータであり、遊技制御用のプログラムや固定データ等を記憶するROM（Read Only Memory）101と、遊技制御用のワークエリアを提供するRAM（Random Access Memory）102と、遊技制御用のプログラムを実行して制御動作を行うCPU（Central Processing Unit）103と、CPU103とは独立して乱数値を示す数値データの更新を行う乱数回路104と、I/O（Input/Output port）105と、時刻情報を出力可能なリアルタイムクロック（RTC）106とを備えて構成される。

【1205】

一例として、遊技制御用マイクロコンピュータ100では、CPU103がROM101から読み出したプログラムを実行することにより、パチンコ遊技機1における遊技の進行を制御するための処理が実行される。このときには、CPU103がROM101から固定データを読み出す固定データ読出動作や、CPU103がRAM102に各種の変動データを書き込んで一時記憶させる変動データ書込動作、CPU103がRAM102に一時記憶されている各種の変動データを読み出す変動データ読出動作、CPU103がI/O105を介して遊技制御用マイクロコンピュータ100の外部から各種信号の入力を受け付ける受信動作、CPU103がI/O105を介して遊技制御用マイクロコンピュータ100の外部へと各種信号を出力する送信動作なども行われる。

【1206】

図15-5は、主基板11の側においてカウントされる乱数値を例示する説明図である。図15-5に示すように、この実施の形態の特徴部208SGでは、主基板11の側において、特図表示結果判定用の乱数値MR1の他、大当り種別判定用の乱数値MR2、変動パターン判定用の乱数値MR3、普図表示結果判定用の乱数値MR4、MR4の初期値決定用の乱数値MR5のそれぞれを示す数値データが、カウント可能に制御される。尚、遊技効果を高めるために、これら以外の乱数値が用いられてもよい。これらの乱数値MR1～MR5は、CPU103にて、異なるランダムカウンタを用いて、ソフトウェアによる更新によってカウントするようにしてもよいし、乱数回路104によって更新されてもよい。乱数回路104は、遊技制御用マイクロコンピュータ100に内蔵されるものであってもよいし、遊技制御用マイクロコンピュータ100とは異なる乱数回路チップとして構成されるものであってもよい。こうした遊技の進行を制御するために用いられる乱数は、遊技用乱数ともいう。

10

20

30

40

50

【1207】

尚、本実施の形態では各乱数値MR1～MR5をそれぞれ図15-5に示す範囲の値として用いる形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、これら各乱数値MR1～MR5の範囲は、パチンコ遊技機1に設定されている設定値に応じて異ならせてもよい。

【1208】

図15-6は、本実施の形態における変動パターンを示している。本実施の形態では、可変表示結果が「はずれ」となる場合のうち、飾り図柄の可変表示態様が「非リーチ」である場合と「リーチ」である場合のそれぞれに対応して、また、可変表示結果が「大当たり」となる場合などに対応して、複数の変動パターンが予め用意されている。また、可変表示結果が「小当たり」となる場合などに対応して、1の変動パターンが予め用意されている。尚、可変表示結果が「はずれ」で飾り図柄の可変表示態様が「非リーチ」である場合に対応した変動パターンは、非リーチ変動パターン（「非リーチはずれ変動パターン」ともいう）と称され、可変表示結果が「はずれ」で飾り図柄の可変表示態様が「リーチ」である場合に対応した変動パターンは、リーチ変動パターン（「リーチはずれ変動パターン」ともいう）と称される。また、非リーチ変動パターンとリーチ変動パターンは、可変表示結果が「はずれ」となる場合に対応したはずれ変動パターンに含まれる。可変表示結果が「大当たり」である場合に対応した変動パターンは、大当たり変動パターンと称される。可変表示結果が「小当たり」である場合に対応した変動パターンは、小当たり変動パターンと称される。

【1209】

大当たり変動パターンやリーチ変動パターンには、ノーマルリーチのリーチ演出が実行されるノーマルリーチ変動パターンと、スーパーリーチα、スーパーリーチβ、スーパーリーチγ、スーパーリーチδといったスーパーリーチのリーチ演出が実行されるスーパーリーチ変動パターンとがある。尚、本実施の形態では、ノーマルリーチ変動パターンを1種類のみしか設けていないが、本発明はこれに限定されるものではなく、スーパーリーチと同様に、ノーマルリーチα、ノーマルリーチβ、…のように、複数のノーマルリーチ変動パターンを設けてもよい。また、スーパーリーチ変動パターンでも、5以上のスーパーリーチ変動パターンを設けてもよい。

【1210】

図15-6に示すように、本実施の形態の特徴部208SGにおけるノーマルリーチのリーチ演出が実行されるノーマルリーチ変動パターンの特図変動時間については、スーパーリーチ変動パターンであるスーパーリーチα、スーパーリーチβ、スーパーリーチγ、スーパーリーチδよりも短く設定されている。また、本実施の形態の特徴部208SGにおけるスーパーリーチα、スーパーリーチβ、スーパーリーチγ、スーパーリーチδといったスーパーリーチのリーチ演出が実行されるスーパーリーチ変動パターンの特図変動時間については、スーパーリーチδ、スーパーリーチγ、スーパーリーチβ、スーパーリーチαの順で特図変動パターンが長く設定されている。

【1211】

尚、本実施の形態では、前述したようにスーパーリーチβ、スーパーリーチα、ノーマルリーチの順に可変表示結果が「大当たり」となる大当たり期待度が高くなるように設定されているため、ノーマルリーチ変動パターン及びスーパーリーチ変動パターンにおいては変動時間が長いほど大当たり期待度が高くなっている。

【1212】

ただし、本実施の形態の特徴部208SGでは、スーパーリーチγの変動パターンとして、スーパーリーチγのリーチ演出として可変表示結果がはずれであることを一旦報知した後、可変表示結果が大当たりであることを報知する復活演出を実行する変動パターン（図15-6に示すPB1-5）が設けられている。このため、該復活演出を実行するスーパーリーチγの変動パターンは、通常のスーパーリーチγの変動パターンよりも特図変動時間が長く且つスーパーリーチδの変動パターンよりも特図変動時間が短く設定されている

が、例外的に大当たり期待度が最も高い（１００％）変動パターンである。

【１２１３】

尚、本実施の形態の特徴部２０８ＳＧにおいては、後述するように、これら変動パターンを、例えば、非リーチの種別や、ノーマルリーチの種別や、スーパーリーチの種別等のように、変動パターンの種別を先に決定してから、該決定した種別に属する変動パターンに属する変動パターンから実行する変動パターンを決定するのではなく、これらの種別を決定することなしに変動パターン判定用の乱数値ＭＲ３のみを用いて決定するようにしているが、本発明はこれに限定されるものではなく、たとえば、変動パターン判定用の乱数値ＭＲ３に加えて、変動パターン種別判定用の乱数値を設けて、これら変動パターン種別判定用の乱数値から変動パターンの種別を先に決定してから、該決定した種別に属する変動パターンに属する変動パターンから実行する変動パターンを決定するようにしてもよい。

10

【１２１４】

また、本実施の形態の特徴部２０８ＳＧでは、図１５－６に示すように、変動パターン毎に変動内容（演出内容）が予め決定されている形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、設定されている設定値に応じて同じ変動パターンであっても変動内容（演出内容）が異なるようにしてもよい。例えば、ノーマルリーチはずれの変動パターンＰＡ２－１の場合は、設定されている設定値が１の場合は、ノーマルリーチはずれとなる変動パターンとし、設定されている設定値が２の場合は、擬似連演出を２回実行して非リーチはずれとなる変動パターンとして、設定されている設定値が３の場合は、擬似連演出を３回実行してスーパーリーチはずれとなる変動パターン…等とすればよい。

20

【１２１５】

遊技制御用マイクロコンピュータ１００では、ＣＰＵ１０３がＲＯＭ１０１から読み出したプログラムを実行し、ＲＡＭ１０２をワークエリアとして用いることで、パチンコ遊技機１における遊技の進行を制御するための各種の処理が実行される。また、ＣＰＵ１０３は、乱数生成プログラムを実行することで、主基板１１の側において用いられる各種の乱数の全てを生成可能とされている。

【１２１６】

遊技制御用マイクロコンピュータ１００が備えるＲＯＭ１０１には、ゲーム制御用のプログラムの他にも、遊技の進行を制御するために用いられる各種のテーブルデータなどが記憶されている。例えば、ＲＯＭ１０１には、ＣＰＵ１０３が各種の判定や決定を行うために用意された、図１５－７～図１５－１４などに示す複数の判定テーブルを構成するテーブルデータが記憶されている。また、ＲＯＭ１０１には、ＣＰＵ１０３が主基板１１から各種の制御信号を出力させるために用いられる複数の制御パターンテーブルを構成するテーブルデータや、特別図柄や普通図柄などの可変表示における各図柄の変動態様となる変動パターンを複数種類格納する変動パターンテーブルなどが記憶されている。

30

【１２１７】

ＲＯＭ１０１が記憶する判定テーブルには、例えば図１５－７及び図１５－８に示す第１特図用表示結果判定テーブル、図１５－９及び図１５－１０に示す第２特図用表示結果判定テーブル、図１５－１１（Ａ）に示す大当たり種別判定テーブル（第１特別図柄用）、図１５－１１（Ｂ）に示す大当たり種別判定テーブル（第２特別図柄用）の他、大当たり変動パターン判定テーブル、小当たり変動パターン判定テーブル、はずれ変動パターン判定テーブル、普図表示結果判定テーブル（図示略）、普図変動パターン決定テーブル（図示略）などが含まれている。

40

【１２１８】

本実施の形態の特徴部２０８ＳＧのパチンコ遊技機１は、設定値に応じて大当たりの当選確率（出玉率）が変わる構成とされている。詳しくは、後述する特別図柄プロセス処理の特別図柄通常処理において、設定値に応じた表示結果判定テーブル（当選確率）を用いることにより、大当たりの当選確率（出玉率）が変わるようになっている。設定値は１～６の６段階からなり、６が最も出玉率が高く、６、５、４、３、２、１の順に値が小さくなるほど出玉率が低くなる。すなわち、設定値として６が設定されている場合には遊技者にと

50

って最も有利度が高く、5、4、3、2、1の順に値が小さくなるほど有利度が段階的に低くなる。換言すれば、設定値とは、最も大きい値である6が最も遊技場側にとって不利な値であり、5、4、3、2、1の順に値が小さくなるほど遊技場側にとって有利な値となる。

【1219】

図15-7～図15-10は、表示結果判定テーブルを示す説明図である。表示結果判定テーブルとは、ROM101に記憶されているデータの集まりであって、MR1と比較される当り判定値が設定値毎に設定されているテーブルである。本実施の形態の特徴部208SGでは、表示結果判定テーブルとして、第1特図と第2特図とで個別の表示結果判定テーブルを用いているが、本発明はこれに限定されるものではなく、第1特図と第2特図とで共通の表示結果判定テーブルを用いるようにしても良い。

10

【1220】

図15-7(A)は、変動特図が第1特図であるとともに、設定値が1であり遊技状態が通常状態（低確低ベース状態）または時短状態（低確高ベース状態）である場合に選択される第1特図用表示結果判定テーブルである。該第1特図用表示結果判定テーブルでは、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1237までが「大当り」に割り当てられており、32767～33094までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

20

【1221】

図15-7(B)は、変動特図が第1特図であるとともに、設定値が1であり遊技状態が確変状態（高確高ベース状態）である場合に選択される第1特図用表示結果判定テーブルである。該第1特図用表示結果判定テーブルでは、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1346までが「大当り」に割り当てられており、32767～33094までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1222】

図15-7(C)は、変動特図が第1特図であるとともに、設定値が2であり遊技状態が通常状態（低確低ベース状態）または時短状態（低確高ベース状態）である場合に選択される第1特図用表示結果判定テーブルである。該第1特図用表示結果判定テーブルでは、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1253までが「大当り」に割り当てられており、32767～33094までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

30

【1223】

図15-7(D)は、変動特図が第1特図であるとともに、設定値が2であり遊技状態が確変状態（高確高ベース状態）である場合に選択される第1特図用表示結果判定テーブルである。該第1特図用表示結果判定テーブルでは、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1383までが「大当り」に割り当てられており、32767～33094までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

40

【1224】

図15-7(E)は、変動特図が第1特図であるとともに、設定値が3であり遊技状態が通常状態（低確低ベース状態）または時短状態（低確高ベース状態）である場合に選択される第1特図用表示結果判定テーブルである。該第1特図用表示結果判定テーブルでは、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1272までが「大当り」に割り当てられており、32767～33094までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1225】

50

図15-7(F)は、変動特図が第1特図であるとともに、設定値が3であり遊技状態が確変状態（高確高ベース状態）である場合に選択される第1特図用表示結果判定テーブルである。該第1特図用表示結果判定テーブルでは、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1429までが「大当り」に割り当てられており、32767～33094までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1226】

図15-8(A)は、変動特図が第1特図であるとともに、設定値が4であり遊技状態が通常状態（低確低ベース状態）または時短状態（低確高ベース状態）である場合に選択される第1特図用表示結果判定テーブルである。該第1特図用表示結果判定テーブルでは、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1292までが「大当り」に割り当てられており、32767～33094までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1227】

図15-8(B)は、変動特図が第1特図であるとともに、設定値が4であり遊技状態が確変状態（高確高ベース状態）である場合に選択される第1特図用表示結果判定テーブルである。該第1特図用表示結果判定テーブルでは、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1487までが「大当り」に割り当てられており、32767～33049までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1228】

図15-8(C)は、変動特図が第1特図であるとともに、設定値が5であり遊技状態が通常状態（低確低ベース状態）または時短状態（低確高ベース状態）である場合に選択される第1特図用表示結果判定テーブルである。該第1特図用表示結果判定テーブルでは、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1317までが「大当り」に割り当てられており、32767～33094までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1229】

図15-8(D)は、変動特図が第1特図であるとともに、設定値が5であり遊技状態が確変状態（高確高ベース状態）である場合に選択される第1特図用表示結果判定テーブルである。該第1特図用表示結果判定テーブルでは、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1556までが「大当り」に割り当てられており、32767～33094までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1230】

図15-8(E)は、変動特図が第1特図であるとともに、設定値が6であり遊技状態が通常状態（低確低ベース状態）または時短状態（低確高ベース状態）である場合に選択される第1特図用表示結果判定テーブルである。該第1特図用表示結果判定テーブルでは、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1346までが「大当り」に割り当てられており、32767～33094までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1231】

図15-8(F)は、変動特図が第1特図であるとともに、設定値が6であり遊技状態が確変状態（高確高ベース状態）である場合に選択される第1特図用表示結果判定テーブルである。該第1特図用表示結果判定テーブルでは、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1674までが「大当り」に割り当てられており、32767～33094までが「

小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1232】

図15-9(A)は、変動特図が第2特図であるとともに、設定値が1であり遊技状態が通常状態(低確低ベース状態)または時短状態(低確高ベース状態)である場合に選択される第2特図用表示結果判定テーブルである。該第2特図用表示結果判定テーブルでは、0~65535の範囲で値を取り得る数値であり特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020~1237までが「大当り」に割り当てられており、32767~33421までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1233】

図15-9(B)は、変動特図が第2特図であるとともに、設定値が1であり遊技状態が確変状態(高確高ベース状態)である場合に選択される第2特図用表示結果判定テーブルである。該第2特図用表示結果判定テーブルでは、0~65535の範囲で値を取り得る数値であり特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020~1346までが「大当り」に割り当てられており、32767~33421までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1234】

図15-9(C)は、変動特図が第2特図であるとともに、設定値が2であり遊技状態が通常状態(低確低ベース状態)または時短状態(低確高ベース状態)である場合に選択される第1特図用表示結果判定テーブルである。該第2特図用表示結果判定テーブルでは、0~65535の範囲で値を取り得る数値であり特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020~1253までが「大当り」に割り当てられており、32767~33421までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1235】

図15-9(D)は、変動特図が第2特図であるとともに、設定値が2であり遊技状態が確変状態(高確高ベース状態)である場合に選択される第2特図用表示結果判定テーブルである。該第2特図用表示結果判定テーブルでは、0~65535の範囲で値を取り得る数値であり特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020~1383までが「大当り」に割り当てられており、32767~33421までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1236】

図15-9(E)は、変動特図が第2特図であるとともに、設定値が3であり遊技状態が通常状態(低確低ベース状態)または時短状態(低確高ベース状態)である場合に選択される第2特図用表示結果判定テーブルである。該第2特図用表示結果判定テーブルでは、0~65535の範囲で値を取り得る数値であり特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020~1272までが「大当り」に割り当てられており、32767~33421までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1237】

図15-9(F)は、変動特図が第2特図であるとともに、設定値が3であり遊技状態が確変状態(高確高ベース状態)である場合に選択される第2特図用表示結果判定テーブルである。該第2特図用表示結果判定テーブルでは、0~65535の範囲で値を取り得る数値であり特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020~1429までが「大当り」に割り当てられており、32767~33421までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1238】

図15-10(A)は、変動特図が第2特図であるとともに、設定値が4であり遊技状態が通常状態(低確低ベース状態)または時短状態(低確高ベース状態)である場合に選択される第2特図用表示結果判定テーブルである。該第2特図用表示結果判定テーブルで

10

20

30

40

50

は、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1292までが「大当り」に割り当てられており、32767～33421までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1239】

図15-10(B)は、変動特図が第2特図であるとともに、設定値が4であり遊技状態が確変状態（高確高ベース状態）である場合に選択される第2特図用表示結果判定テーブルである。該第2特図用表示結果判定テーブルでは、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1487までが「大当り」に割り当てられており、32767～33421までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

10

【1240】

図15-10(C)は、変動特図が第2特図であるとともに、設定値が5であり遊技状態が通常状態（低確低ベース状態）または時短状態（低確高ベース状態）である場合に選択される第2特図用表示結果判定テーブルである。該第2特図用表示結果判定テーブルでは、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1317までが「大当り」に割り当てられており、32767～33421までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1241】

20

図15-10(D)は、変動特図が第2特図であるとともに、設定値が5であり遊技状態が確変状態（高確高ベース状態）である場合に選択される第2特図用表示結果判定テーブルである。該第2特図用表示結果判定テーブルでは、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1556までが「大当り」に割り当てられており、32767～33421までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

【1242】

図15-10(E)は、変動特図が第2特図であるとともに、設定値が6であり遊技状態が通常状態（低確低ベース状態）または時短状態（低確高ベース状態）である場合に選択される第2特図用表示結果判定テーブルである。該第2特図用表示結果判定テーブルでは、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1346までが「大当り」に割り当てられており、32767～33421までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

30

【1243】

図15-10(F)は、変動特図が第1特図であるとともに、設定値が6であり遊技状態が確変状態（高確高ベース状態）である場合に選択される第1特図用表示結果判定テーブルである。該第1特図用表示結果判定テーブルでは、0～65535の範囲で値を取り得る数値であり特図表示結果判定用の乱数値MR1と比較される当り判定値のうち、1020～1674までが「大当り」に割り当てられており、32767～33421までが「小当り」に割り当てられており、その他の数値範囲が「はずれ」に割り当てられている。

40

【1244】

以上のように、各表示結果判定テーブルにおいては、遊技状態が確変状態（高確状態）であるときに、通常状態または時短状態であるときよりも多くの判定値が、「大当り」の特図表示結果に割り当てられている。これにより、パチンコ遊技機1において確変制御が行われる確変状態では、通常状態または時短状態であるときに特図表示結果を「大当り」として大当り遊技状態に制御すると決定される確率（本実施の形態の特徴部208SGでは、設定値が1の場合は1/300、設定値が2の場合は1/280、設定値が3の場合は1/260、設定値が4の場合は1/240、設定値が5の場合は1/220、設定値が6の場合は1/200）に比べて、特図表示結果を「大当り」として大当り遊技状態に

50

制御すると決定される確率が高くなる（本実施の形態の特徴部 208SG では、設定値が 1 の場合は $1/200$ 、設定値が 2 の場合は $1/180$ 、設定値が 3 の場合は $1/160$ 、設定値が 4 の場合は $1/140$ 、設定値が 5 の場合は $1/120$ 、設定値が 6 の場合は $1/100$ ）。即ち、各表示結果判定テーブルでは、パチンコ遊技機 1 における遊技状態が確変状態であるときに、通常状態や時短状態であるときに比べて大当り遊技状態に制御すると決定される確率が高くなるように、判定値が大当り遊技状態に制御するか否かの決定結果に割り当てられている。

【1245】

尚、本実施の形態の特徴部 208SG では、図 15-7～図 15-10 に示すように、各設定値に応じて通常状態や時短状態における大当り確率に対する確変状態における大当り確率の倍率がそれぞれ異なる（例えば、設定値 1 であれば通常状態や時短状態における大当り確率に対する確変状態における大当り確率の倍率は 1.5 倍であり、設定値 2 であれば通常状態や時短状態における大当り確率に対する確変状態における大当り確率の倍率は約 1.56 倍であり、設定値 3 であれば通常状態や時短状態における大当り確率に対する確変状態における大当り確率の倍率は 1.625 倍である）ように設定されている形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、各設定値での通常状態や時短状態における大当り確率に対する確変状態における大当り確率の倍率は全て一定（例えば、5 倍）に設定してもよい。

【1246】

また、各第 1 特図用表示結果判定テーブルにおいては、遊技状態や設定値にかかわらず、特図表示結果を「小当り」として小当り遊技状態に制御すると決定される確率が同一値となるように判定値が割り当てられている。具体的には、図 15-7 及び図 15-8 に示すように、第 1 特図用表示結果判定テーブルにおいては、遊技状態や設定値にかかわらず、特図表示結果を「小当り」として小当り遊技状態に制御すると決定される確率が $1/200$ に設定されている。

【1247】

一方で、各第 2 特図用表示結果判定テーブルにおいては、遊技状態や設定値にかかわらず、特図表示結果を「小当り」として小当り遊技状態に制御すると決定される確率が第 1 特図用表示結果判定テーブルとは異なる同一値となるように判定値が割り当てられている。具体的には、図 15-9 及び図 15-10 に示すように、第 2 特図用表示結果判定テーブルにおいては、遊技状態や設定値にかかわらず、特図表示結果を「小当り」として小当り遊技状態に制御すると決定される確率が $1/100$ に設定されている。

【1248】

尚、本実施の形態の特徴部 208SG では、設定値にかかわらず特図表示結果を「小当り」として小当り遊技状態に制御すると決定される確率が同一確率である形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、設定値に応じて特図表示結果を「小当り」として小当り遊技状態に制御すると決定される確率を異ならせてもよい。更に、本実施の形態の特徴部 208SG では、変動特図に応じて特図表示結果を「小当り」として小当り遊技状態に制御すると決定される確率が異なる形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、変動特図にかかわらず特図表示結果を「小当り」として小当り遊技状態に制御すると決定される確率を同一確率としてもよい。

【1249】

ここで、各表示結果判定テーブルにおいて「大当り」や「小当り」に割り当てられている当り判定値の数値範囲に着目すると、遊技状態が通常状態または時短状態の場合における第 1 特図用表示結果判定テーブルにおいては、当り判定値のうち 1020～1237 までの範囲が、設定値にかかわらず大当りを判定するための大当り判定値の共通数値範囲に設定されている。

【1250】

尚、設定値が 1 の場合は、大当りを判定するための大当り判定値の共通数値範囲のみが設定されている（1020～1237 までが「大当り」に割り当てられている）一方で、

10

20

30

40

50

設定値 2～設定値 6 の場合は、該大当り判定値の共通数値範囲から連続するように、1 2 3 8 から各設定値に応じた数値範囲が大当り判定値の非共通数値範囲に設定されている。この大当り判定値の非共通数値範囲は、設定値 2 では 1 2 3 8～1 2 5 3 の範囲、設定値 3 では 1 2 3 8～1 2 7 2 の範囲、設定値 4 では 1 2 3 8～1 2 9 2 の範囲、設定値 5 では 1 2 3 8～1 3 1 7 の範囲、設定値 6 では 1 2 3 8～1 3 4 6 の範囲にそれぞれ設定されている。

【1 2 5 1】

つまり、本実施の形態の特徴部 2 0 8 S G では、遊技状態が通常状態または時短状態である場合における第 1 特図用表示結果判定テーブルにおいては、設定値が 1 の場合は 0～6 5 5 3 5 の範囲で値を取り得る当り判定値のうち、共通数値範囲（1 0 2 0～1 2 3 7）内の数値のみが「大当り」に割り当てられている一方で、設定値が 2 以上である場合は、大当り判定値のうち、共通数値範囲に非共通数値範囲を加えた範囲内の数値が「大当り」に割り当てられている。更に、非共通数値範囲は、設定値の値が大きくなるに連れて 1 2 3 8 を基準として増加していく。

10

【1 2 5 2】

このため、大当り確率は、1 0 2 0 を大当り判定値の基準値（大当り基準値）として、設定値が大きくなるに連れて共通数値範囲に連続する非共通数値範囲が増加していくことによって高くなっていく。

【1 2 5 3】

尚、遊技状態が通常状態または時短状態である場合における第 1 特図用表示結果判定テーブルにおいては、当り判定値のうち 3 2 7 6 7～3 3 0 9 4 までの範囲が、設定値にかかわらず小当りを判定するための小当り判定値の共通数値範囲に設定されている。ここで設定値が 6 の場合に注目すると、該設定値が 6 の場合は、前述したように当り判定値のうち 1 0 2 0～1 3 4 6 までが大当り判定値の数値範囲に設定されている一方で、小当り判定値は、前記設定値 6 の場合の大当り判定値の範囲（1 0 2 0～1 3 4 6）とは異なる数値範囲において、3 2 7 6 7 を小当り判定値の基準値（小当り基準値）として、3 2 7 6 7～3 3 0 9 4 の範囲に設定されているので、小当り判定値の数値範囲が各設定値に応じて変化する大当り判定値の範囲に重複することが防止されている。

20

【1 2 5 4】

次に、遊技状態が確変状態の場合における第 1 特図用表示結果判定テーブルにおいては、当り判定値のうち 1 0 2 0～1 3 4 6 までの範囲が、設定値にかかわらず大当りを判定するための大当り判定値の共通数値範囲に設定されている。

30

【1 2 5 5】

尚、設定値が 1 の場合は、大当りを判定するための大当り判定値の共通数値範囲のみが設定されている（1 0 2 0～1 3 4 6 までが「大当り」に割り当てられている）一方で、設定値 2～設定値 6 の場合は、該大当り判定値の共通数値範囲から連続するように、1 3 4 7 から各設定値に応じた数値範囲が大当り判定値の非共通数値範囲に設定されている。この大当り判定値の非共通数値範囲は、設定値 2 では 1 3 4 7～1 3 8 3 の範囲、設定値 3 では 1 3 4 7～1 4 2 9 の範囲、設定値 4 では 1 3 4 7～1 4 8 7 の範囲、設定値 5 では 1 3 4 7～1 5 5 6 の範囲、設定値 6 では 1 3 4 7～1 6 7 4 の範囲にそれぞれ設定されている。

40

【1 2 5 6】

つまり、本実施の形態の特徴部 2 0 8 S G では、遊技状態が確変状態である場合における第 1 特図用表示結果判定テーブルにおいては、設定値が 1 の場合は 0～6 5 5 3 5 の範囲で値を取り得る当り判定値のうち、共通数値範囲（1 0 2 0～1 3 4 6）内の数値のみが「大当り」に割り当てられている一方で、設定値が 2 以上である場合は、大当り判定値のうち、共通数値範囲に非共通数値範囲を加えた範囲内の数値が「大当り」に割り当てられている。更に、非共通数値範囲は、設定値の値が大きくなるに連れて 1 3 4 7 を基準として増加していく。

【1 2 5 7】

50

このため、大当たり確率は、1020を大当たり判定値の基準値（大当たり基準値）として、設定値が大きくなるに連れて共通数値範囲に連続する非共通数値範囲が増加していくことによって高くなっていく。

【1258】

尚、遊技状態が確変状態である場合における第1特図用表示結果判定テーブルにおいては、遊技状態が通常状態または時短状態である場合における第1特図用表示結果判定テーブルと同じく、当り判定値のうち32767～33094までの範囲が、設定値にかかわらず小当りを判定するための小当り判定値の共通数値範囲に設定されている。ここで設定値が6の場合に注目すると、該設定値が6の場合は、前述したように当り判定値のうち1020～1674までが大当たり判定値の数値範囲に設定されている一方で、小当り判定値は、前記設定値6の場合の大当たり判定値の範囲（1020～1674）とは異なる数値範囲において、32767を小当り判定値の基準値（小当り基準値）として、32767～33094の範囲に設定されているので、小当り判定値の数値範囲が各設定値に応じて変化する大当たり判定値の範囲に重複することが防止されている。

10

【1259】

遊技状態が通常状態または時短状態の場合における第2特図用表示結果判定テーブルにおいては、当り判定値のうち1020～1237までの範囲が、設定値にかかわらず大当りを判定するための大当たり判定値の共通数値範囲に設定されている。

【1260】

尚、設定値が1の場合は、大当りを判定するための大当たり判定値の共通数値範囲のみが設定されている（1020～1237までが「大当たり」に割り当てられている）一方で、設定値2～設定値6の場合は、該大当たり判定値の共通数値範囲から連続するように、1238から各設定値に応じた数値範囲が大当たり判定値の非共通数値範囲に設定されている。この大当たり判定値の非共通数値範囲は、設定値2では1238～1253の範囲、設定値3では1238～1272の範囲、設定値4では1238～1292の範囲、設定値5では1238～1317の範囲、設定値6では1238～1346の範囲にそれぞれ設定されている。

20

【1261】

つまり、本実施の形態の特徴部208SGでは、遊技状態が通常状態または時短状態である場合における第2特図用表示結果判定テーブルにおいては、設定値が1の場合は0～65535の範囲で値を取り得る当り判定値のうち、共通数値範囲（1020～1237）内の数値のみが「大当たり」に割り当てられている一方で、設定値が2以上である場合は、大当たり判定値のうち、共通数値範囲に非共通数値範囲を加えた範囲内の数値が「大当たり」に割り当てられている。更に、非共通数値範囲は、設定値の値が大きくなるに連れて1238を基準として増加していく。

30

【1262】

このため、大当たり確率は、1020を大当たり判定値の基準値（大当たり基準値）として、設定値が大きくなるに連れて共通数値範囲に連続する非共通数値範囲が増加していくことによって高くなっていく。

【1263】

尚、遊技状態が通常状態または時短状態である場合における第2特図用表示結果判定テーブルにおいては、当り判定値のうち32767～33421までの範囲が、設定値にかかわらず小当りを判定するための小当り判定値の共通数値範囲に設定されている。ここで設定値が6の場合に注目すると、該設定値が6の場合は、前述したように当り判定値のうち1020～1346までが大当たり判定値の数値範囲に設定されている一方で、小当り判定値は、前記設定値6の場合の大当たり判定値の範囲（1020～1346）とは異なる数値範囲において、32767を小当り判定値の基準値（小当り基準値）として、32767～33421の範囲に設定されているので、小当り判定値の数値範囲が各設定値に応じて変化する大当たり判定値の範囲に重複することが防止されている。

40

【1264】

50

次に、遊技状態が確変状態の場合における第2特図用表示結果判定テーブルにおいては、当り判定値のうち1020～1346までの範囲が、設定値にかかわらず大当りを判定するための大当り判定値の共通数値範囲に設定されている。

【1265】

尚、設定値が1の場合は、大当りを判定するための大当り判定値の共通数値範囲のみが設定されている（1020～1346までが「大当り」に割り当てられている）一方で、設定値2～設定値6の場合は、該大当り判定値の共通数値範囲から連続するように、1347から各設定値に応じた数値範囲が大当り判定値の非共通数値範囲に設定されている。この大当り判定値の非共通数値範囲は、設定値2では1347～1383の範囲、設定値3では1347～1429の範囲、設定値4では1347～1487の範囲、設定値5では1347～1556の範囲、設定値6では1347～1674の範囲にそれぞれ設定されている。

10

【1266】

つまり、本実施の形態の特徴部208SGでは、遊技状態が確変状態である場合における第2特図用表示結果判定テーブルにおいては、設定値が1の場合は0～65535の範囲で値を取り得る当り判定値のうち、共通数値範囲（1020～1346）内の数値のみが「大当り」に割り当てられている一方で、設定値が2以上である場合は、大当り判定値のうち、共通数値範囲に非共通数値範囲を加えた範囲内の数値が「大当り」に割り当てられている。更に、非共通数値範囲は、設定値の値が大きくなるに連れて1347を基準として増加していく。

20

【1267】

このため、大当り確率は、1020を大当り判定値の基準値（大当り基準値）として、設定値が大きくなるに連れて共通数値範囲に連続する非共通数値範囲が増加していくことによって高くなっていく。

【1268】

尚、遊技状態が確変状態である場合における第2特図用表示結果判定テーブルにおいては、遊技状態が通常状態または時短状態である場合における第2特図用表示結果判定テーブルと同じく、当り判定値のうち32767～33421までの範囲が、設定値にかかわらず小当りを判定するための小当り判定値の共通数値範囲に設定されている。ここで設定値が6の場合に注目すると、該設定値が6の場合は、前述したように当り判定値のうち1020～1674までが大当り判定値の数値範囲に設定されている一方で、小当り判定値は、前記設定値6の場合の大当り判定値の範囲（1020～1674）とは異なる数値範囲において、32767を小当り判定値の基準値（小当り基準値）として、32767～33421の範囲に設定されているので、小当り判定値の数値範囲が各設定値に応じて変化する大当り判定値の範囲に重複することが防止されている。

30

【1269】

以上、本実施の形態の特徴部208SGにおいては、各表示結果判定テーブルにおいて、遊技状態及び設定値にかかわらず、当り判定値の1020を基準として共通数値範囲または共通数値範囲と非共通数値範囲とからなる連続した1の数値範囲内に含まれる判定値を大当り判定値の数値範囲とするとともに、遊技状態及び設定値にかかわらず、当り判定値の32767を基準として連続した1の数値範囲（共通数値範囲）内に含まれる判定値を小当り判定値の数値範囲として可変表示結果を判定するようになっている。

40

【1270】

更に、これら各表示結果判定テーブルにおいては、変動特図が同一である場合は、遊技状態にかかわらず小当り判定値の数値範囲は同一（小当り判定値の数値範囲に含まれる判定値数が同一）である。また、変動特図が第1特図であるか第2特図であるかに応じて小当り判定値の数値範囲に含まれる判定値数が異なる（第1特図用表示結果判定テーブルにおける小当り判定値の数値範囲に含まれる判定値数は328個であるのに対して、第2特図用表示結果判定テーブルにおける小当り判定値の数値範囲に含まれる判定値数は655個と約2倍である）一方で、小当り判定値の数値範囲自体は、32767を基準値（小当

50

り基準値)として設定されている。

【1271】

更に、前述したように、各遊技状態においては、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が1の場合が最も特図表示結果を「大当り」として大当り遊技状態に制御すると決定される確率が低く、設定値の値が大きくなるほど特図表示結果を「大当り」として大当り遊技状態に制御すると決定される確率が高くなるように判定値が割り当てられている(大当り確率:設定値6>設定値5>設定値4>設定値3>設定値2>設定値1)。

【1272】

つまり、CPU103は、その時点で設定されている設定値に対応する表示結果判定テーブルを参照して、MR1の値が大当りに対応するいずれかの当り判定値に一致すると、特別図柄に関して大当り(大当りA~大当りC)とすることを決定する。また、MR1が小当りに対応するいずれかの当り判定値に一致すると、特別図柄に関して小当りとすることを決定する。すなわち、設定値に応じた確率で大当り及び小当りの当選を決定する。尚、図15-7~図15-10に示す「確率」は、大当りになる確率(割合)並びに小当りになる確率(割合)を示す。また、大当りにするか否か決定するということは、大当り遊技状態に制御するか否か決定するということであるが、第1特別図柄表示装置208SG004Aまたは第2特別図柄表示装置208SG004Bにおける停止図柄を大当り図柄にするか否か決定するということでもある。また、小当りにするか否か決定するということでは、小当り遊技状態に制御するか否か決定するということであるが、第1特別図柄表示装置208SG004Aまたは第2特別図柄表示装置208SG004Bにおける停止図柄を小当り図柄にするか否か決定するということでもある。

【1273】

尚、本実施の形態の特徴部208SGでは、パチンコ遊技機1に設定可能な設定値として1~6の計6個の設定値を設けているが、本発明はこれに限定されるものではなく、パチンコ遊技機1に設定可能な設定値は、5個以下や7個以上であってもよい。

【1274】

図15-11(A)及び図15-11(B)は、ROM101に記憶されている大当り種別判定テーブル(第1特別図柄用)、大当り種別判定テーブル(第2特別図柄用)を示す説明図である。このうち、図15-11(A)は、遊技球が第1始動入賞口に入賞したことに基づく保留記憶を用いて(すなわち、第1特別図柄の可変表示が行われるとき)大当り種別を決定する場合のテーブルである。また、図15-11(B)は、遊技球が第2始動入賞口に入賞したことに基づく保留記憶を用いて(すなわち、第2特別図柄の可変表示が行われるとき)大当り種別を決定する場合のテーブルである。

【1275】

大当り種別判定テーブルは、可変表示結果を大当り図柄にする旨の判定がなされたときに、当り種別判定用の乱数(MR2)に基づいて、大当りの種別を大当りA~大当りCのうちのいずれかに決定するために参照されるテーブルである。

【1276】

ここで、本実施の形態の特徴部208SGにおける大当り種別について、図15-12を用いて説明する。本実施の形態の特徴部208SGでは、大当り種別として、大当り遊技状態の終了後において時短制御のみが実行されて低確高ベース状態に移行する大当りA(非確変大当りともいう)と、大当り遊技の終了後において高確制御と時短制御とが実行されて高確高ベース状態に移行する大当りBや大当りC(確変大当りともいう)が設定されている。

【1277】

「大当りA」による大当り遊技状態は、特別可変入賞球装置7を遊技者にとって有利な第1状態に変化させるラウンドが5回(いわゆる5ラウンド)、繰返し実行される通常開放大当りであり、「大当りB」による大当り遊技状態は、特別可変入賞球装置7を遊技者にとって有利な第1状態に変化させるラウンドが10回(いわゆる10ラウンド)、繰返し実行される通常開放大当りである。更に、「大当りC」による大当り遊技状態は、特別

可変入賞球装置 7 を遊技者にとって有利な第 1 状態に変化させるラウンドが 15 回（いわゆる 15 ラウンド）、繰返し実行される通常開放大当たりである。

【1278】

「大当たり A」による大当たり遊技状態の終了後において実行される時短制御は、所定回数（本実施の形態の特徴部 208 SG では 100 回）の特図ゲームが実行されること、或いは該所定回数の特図ゲームが実行される前に大当たり遊技状態となることにより終了する。

【1279】

一方、大当たり B や大当たり C の大当たり遊技状態の終了後において実行される高確制御と時短制御は、該大当たり遊技状態の終了後において再度大当たりが発生するまで継続して実行される。よって、再度発生した大当たりが大当たり B や大当たり C である場合には、大当たり遊技状態の終了後に再度、高確制御と時短制御が実行されるので、大当たり遊技状態が通常状態を介することなく連続的に発生する、いわゆる連荘状態となる。

【1280】

尚、本実施の形態の特徴部 208 SG においては、大当たり種別として大当たり A ～大当たり C の 3 種類を設ける形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、大当たり種別は 2 種類以下、または 4 種類以上設けてもよい。

【1281】

また、図 15-11 (A) に示すように、大当たり種別判定テーブル（第 1 特別図柄用）においては、MR 2 の判定値の範囲 0 ～ 299 のうち、0 ～ 99 までは大当たり A に割り当てられており、100 ～ 249 までは大当たり B に割り当てられており、250 ～ 299 までは大当たり C に割り当てられている。一方で、図 15-11 (B) に示すように、大当たり種別判定テーブル（第 2 特別図柄用）においては、MR 2 の判定値の範囲 0 ～ 299 のうち、0 ～ 99 までは大当たり A に割り当てられており、100 ～ 199 までは大当たり B に割り当てられており、200 ～ 299 までは大当たり C に割り当てられている。つまり、本実施の形態の特徴部 208 SG では、遊技球が入賞した入賞口が第 1 始動入賞口であるか第 2 始動入賞口であるかに応じて大当たり種別の決定割合が異なっている一方で、パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値にかかわらず共通の割合にて大当たり種別を決定するようになっている。

【1282】

尚、本実施の形態の特徴部 208 SG では、大当たり種別を大当たり種別判定用の乱数値である MR 2 を用いて決定しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、大当たり種別は、特図表示結果判定用の乱数値である MR 1 を用いて決定してもよい。

【1283】

また、ROM 101 には、変動パターン判定用の乱数値 MR 3 に基づいて変動パターンを決定するための変動パターン判定テーブルも記憶されており、変動パターンを、事前決定結果に応じて前述した複数種類のうちのいずれかの変動パターンに決定する。

【1284】

具体的には、変動パターン判定テーブルとしては、可変表示結果を「大当たり」にすることが事前決定されたときに使用される大当たり用変動パターン判定テーブルと、可変表示結果を「小当たり」にすることが事前決定されたときに使用される大当たり用変動パターン判定テーブルと、可変表示結果を「はずれ」にすることが事前決定されたときに使用されるはずれ用変動パターン判定テーブルとが予め用意されている。

【1285】

大当たり用変動パターン判定テーブルにおいては、ノーマルリーチ大当たりの変動パターン（PB1-1）、スーパーリーチ α 大当たりの変動パターン（PB1-2）、スーパーリーチ β 大当たりの変動パターン（PB1-3）、復活演出を実行しないスーパーリーチ γ 大当たりの変動パターン（PB1-4）、復活演出を実行するのスーパーリーチ γ 大当たりの変動パターン（PB1-5）、スーパーリーチ δ 大当たりの変動パターン（PB1-6）の各変動パターンに対して、変動パターン判定用の乱数値 MR 3 がとりうる範囲のうち所定の乱数値が判定値として割り当てられている。

【1286】

具体的には、図15-13(A)に示すように、大当り用変動パターン判定テーブルにおいては、MR3の判定値の範囲1~997のうち、1~50までがノーマルリーチ大当りの変動パターン(PB1-1)に割り当てられており、51~200までがスーパーリーチα大当りの変動パターン(PB1-2)に割り当てられており、201~400までがスーパーリーチβ大当りの変動パターン(PB1-3)に割り当てられており、401~650までが復活演出を実行しないスーパーリーチγ大当りの変動パターン(PB1-4)に割り当てられており、651~700までが復活演出を実行するスーパーリーチγ大当りの変動パターン(PB1-5)に割り当てられており、701~997までがスーパーリーチδ大当りの変動パターン(PB1-6)に割り当てられている。

10

【1287】

また、本実施の形態の特徴部208SGでは、パチンコ遊技機1に設定されている設定値にかかわらず、大当り用の変動パターンを1の変動パターン判定テーブルを用いて決定している、つまり、パチンコ遊技機1に設定されている設定値にかかわらず可変表示結果が大当りとなる場合の変動パターンの決定割合が同一である形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、パチンコ遊技機1に設定されている設定値毎に各変動パターンの決定割合を異ならせるようにしてもよい。

【1288】

また、小当り用変動パターン判定テーブルにおいては、小当りの変動パターン(PC1-1)の変動パターンに対して、変動パターン判定用の乱数値MR3がとりうる範囲のうち所定の乱数値が判定値として割り当てられている。具体的には、図15-13(B)に示すように、小当り用変動パターン判定テーブルにおいては、MR3の判定値の範囲0~997のうち、0~997までが小当りの変動パターン(PC1-1)に割り当てられている。尚、本実施の形態の特徴部208SGにおける小当りの変動パターンとしてはPC1-1のみが設けられているが、本発明はこれに限定されるものではなく、小当りの変動パターンとしては2以上の変動パターンを設けてもよい。

20

【1289】

また、はずれ用変動パターン判定テーブルには、遊技状態が時短制御の実施されていない低ベース状態において保留記憶数が1個以下である場合に使用されるはずれ用変動パターン判定テーブルAと、低ベース状態において合計保留記憶数が2~4個である場合に使用されるはずれ用変動パターン判定テーブルBと、低ベース状態において合計保留記憶数が5~8個である場合に使用されるはずれ用変動パターン判定テーブルCと、遊技状態が時短制御の実施されている高ベース状態である場合に使用されるはずれ用変動パターン判定テーブルDとが予め用意されている。

30

【1290】

はずれ用変動パターン判定テーブルAにおいては、短縮なしの非リーチはずれの変動パターン(PA1-1)、ノーマルリーチはずれの変動パターン(PA2-1)、スーパーリーチαはずれの変動パターン(PA2-2)、スーパーリーチβはずれの変動パターン(PA2-3)、スーパーリーチγはずれの変動パターン(PA2-4)、スーパーリーチδはずれの変動パターン(PA2-5)に対して変動パターン判定用の乱数値MR3がとりうる範囲のうち所定の乱数値が判定値として割り当てられている。

40

【1291】

図15-14(A)に示すように、はずれ用変動パターン判定テーブルA(低ベース中合算保留記憶数1個以下用)においては、MR3の判定値の範囲1~997のうち、1~450までが非リーチはずれの変動パターン(PA1-1)に割り当てられており、451~700までがノーマルリーチはずれの変動パターン(PA2-1)に割り当てられており、701~850までがスーパーリーチαはずれの変動パターン(PA2-2)に割り当てられており、851~930までがスーパーリーチβはずれの変動パターン(PA2-3)に割り当てられており、931~970までがスーパーリーチγはずれの変動パターン(PA2-4)に割り当てられており、971~997までがスーパーリーチδは

50

ずれの変動パターン（PA2-5）に割り当てられている。

【1292】

また、はずれ用変動パターン判定テーブルBにおいては、合計保留記憶数が2～4個に対応する短縮の非リーチはずれの変動パターン（PA1-2）、ノーマルリーチはずれの変動パターン（PA2-1）、スーパーリーチαはずれの変動パターン（PA2-2）、スーパーリーチβはずれの変動パターン（PA2-3）スーパーリーチγはずれの変動パターン（PA2-4）、スーパーリーチδはずれの変動パターン（PA2-5）に対して変動パターン判定用の乱数値MR3がとりうる範囲のうち所定の乱数値が判定値として割り当てられている。

【1293】

図15-14（B）に示すように、はずれ用変動パターン判定テーブルB（低ベース中合算保留記憶数2～4個用）においては、MR3の判定値の範囲1～997のうち、1～500までが非リーチはずれの変動パターン（PA1-2）に割り当てられており、501～700までがノーマルリーチはずれの変動パターン（PA2-1）に割り当てられており、701～850までがスーパーリーチαはずれの変動パターン（PA2-2）に割り当てられており、851～930までがスーパーリーチβはずれの変動パターン（PA2-3）に割り当てられており、931～970までがスーパーリーチγはずれの変動パターン（PA2-4）に割り当てられており、971～997までがスーパーリーチδはずれの変動パターン（PA2-5）に割り当てられている。

【1294】

また、はずれ用変動パターン判定テーブルCにおいては、合計保留記憶数が5～8個に対応する短縮の非リーチはずれの変動パターン（PA1-3）、ノーマルリーチはずれの変動パターン（PA2-1）、スーパーリーチαはずれの変動パターン（PA2-2）、スーパーリーチβはずれの変動パターン（PA2-3）、スーパーリーチγはずれの変動パターン（PA2-4）、スーパーリーチδはずれの変動パターン（PS2-5）に対して変動パターン判定用の乱数値MR3がとりうる範囲のうち所定の乱数値が判定値として割り当てられている。

【1295】

図15-14（C）に示すように、はずれ用変動パターン判定テーブルC（低ベース中合算保留記憶数5個以上用）においては、MR3の判定値の範囲1～997のうち、1～550までが非リーチはずれの変動パターン（PA1-3）に割り当てられており、551～700までがノーマルリーチはずれの変動パターン（PA2-1）に割り当てられており、701～850までがスーパーリーチαはずれの変動パターン（PA2-2）に割り当てられており、851～930までがスーパーリーチβはずれの変動パターン（PA2-3）に割り当てられており、931～970までがスーパーリーチγはずれの変動パターン（PA2-4）に割り当てられており、971～997までがスーパーリーチδはずれの変動パターン（PA2-5）に割り当てられている。

【1296】

また、はずれ用変動パターン判定テーブルDにおいては、時短制御中に対応する短縮の非リーチはずれの変動パターン（PA1-4）、ノーマルリーチはずれの変動パターン（PA2-1）、スーパーリーチαはずれの変動パターン（PA2-2）、スーパーリーチβはずれの変動パターン（PA2-3）、スーパーリーチγはずれの変動パターン（PA2-4）、スーパーリーチδはずれの変動パターン（PA2-5）に対して変動パターン判定用の乱数値MR3がとりうる範囲のうち所定の乱数値が判定値として割り当てられている。

【1297】

図15-14（D）に示すように、はずれ用変動パターン判定テーブルD（高ベース中用）においては、MR3の判定値の範囲1～997のうち、1～550までが非リーチはずれの変動パターン（PA1-4）に割り当てられており、551～700までがノーマルリーチはずれの変動パターン（PA2-1）に割り当てられており、701～850ま

10

20

30

40

50

でがスーパーリーチ α はずれの変動パターン（PA2-2）に割り当てられており、851～930までがスーパーリーチ β はずれの変動パターン（PA2-3）に割り当てられており、931～970までがスーパーリーチ γ はずれの変動パターン（PA2-4）に割り当てられており、971～997までがスーパーリーチ δ はずれの変動パターン（PA2-5）に割り当てられている。

【1298】

このように、はずれ用変動パターン判定テーブルA～Dを用いる場合、非リーチ変動パターンやノーマルリーチ変動パターンを決定する割合は、スーパーリーチ変動パターンを決定する割合よりも高設定されている。また、はずれ用変動パターン判定テーブルA～Dを用いる場合は、変動パターン判定テーブルにかかわらず判定値のうち701～850までがスーパーリーチ α はずれの変動パターン、851～930までがスーパーリーチ β はずれの変動パターン、931～970までがスーパーリーチ γ はずれの変動パターン、971～997までがスーパーリーチ δ はずれの変動パターンにそれぞれ割り当てられている、つまり、可変表示結果がはずれである場合は、スーパーリーチの変動パターンを共通の決定割合で決定するので、スーパーリーチの変動パターンによる可変表示が実行されないことにより演出効果が低下してしまうことを防ぐことができる。

【1299】

尚、本実施の形態の特徴部208SGにおいては、はずれ用変動パターンとしてスーパーリーチ α はずれの変動パターン、スーパーリーチ β はずれの変動パターン、スーパーリーチ γ はずれの変動パターン、スーパーリーチ δ はずれの変動パターンのそれぞれの決定割合が各設定値間にて完全に同一の形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、これらスーパーリーチ α はずれの変動パターン、スーパーリーチ β はずれの変動パターン、スーパーリーチ γ はずれの変動パターン、スーパーリーチ δ はずれの変動パターンの決定割合は各設定値において異なってもよい。

【1300】

尚、本実施の形態の特徴部208SGでは、可変表示結果がはずれである場合は、スーパーリーチの変動パターンの決定割合が同一である形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、可変表示結果がはずれである場合は、非リーチ、ノーマルリーチ、スーパーリーチの全ての変動パターンの決定割合が同一であってもよいし、また、非リーチとノーマルリーチとのいずれかの変動パターンの決定割合のみが同一であってもよい。

【1301】

尚、短縮なしの非リーチはずれの変動パターン（PA1-1）よりも非リーチはずれの変動パターン（PA1-2）の方が変動時間は短く、さらに、変動パターン（PA1-2）よりも非リーチはずれの変動パターン（PA1-3）の方が変動時間は短い（図15-6参照）。よって、保留記憶数が増加した場合には、変動時間が短い非リーチはずれの変動パターンが決定されることにより、保留記憶が消化されやすくなって、保留記憶数が上限数である4に達しているときに始動入賞することで、保留記憶がなされない無駄な始動入賞が発生し難くなるようになるとともに、保留記憶数が減少した場合には、変動時間が長い短縮なしの非リーチはずれの変動パターン（PA1-1）が決定されることによって、可変表示の時間が長くなることにより、可変表示が実行されないことによる遊技の興趣低下を防ぐことができるようになる。

【1302】

また、本実施の形態の特徴部208SGでは、図15-14（A）～図15-14（C）に示すように、合算保留記憶数に応じて異なるはずれ用変動パターン判定テーブルを用いて変動パターンを決定する形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、変動対象の特別図柄における保留記憶数（例えば、第1特別図柄の可変表示を実行する場合は第1特別図柄の保留記憶数、第2特別図柄の可変表示を実行する場合は第2特別図柄の保留記憶数）に応じて異なるはずれ用変動パターン判定テーブルを用いて変動パターンを決定してもよい。

【1303】

また、本実施の形態の特徴部208SGでは、決定した変動パターン毎にリーチ演出を実行するか否かといずれのリーチ演出を実行するかが1対1で対応付いている形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、演出制御用CPU120が、変動パターンの特図変動時間や可変表示結果等にもとづいてリーチ演出を実行するか否かや、いずれのリーチ演出を実行するかを抽選して決定してもよい。

【1304】

図15-1に示す遊技制御用マイクロコンピュータ100が備えるRAM102は、その一部または全部が所定の電源基板において作成されるバックアップ電源によってバックアップされているバックアップRAMであればよい。すなわち、パチンコ遊技機1に対する電力供給が停止しても、所定期間（バックアップ電源としてのコンデンサが放電してバックアップ電源が電力供給不能になるまで）は、RAM102の一部または全部の内容は保存される。特に、少なくとも、遊技状態すなわち遊技制御手段の制御状態に応じたデータ（特図プロセスフラグなど）と未払出賞球数を示すデータとは、バックアップRAMに保存されるようにすればよい。遊技制御手段の制御状態に応じたデータとは、停電等が生じた後に復旧した場合に、そのデータにもとづいて、制御状態を停電等の発生前に復旧させるために必要なデータである。また、制御状態に応じたデータと未払出賞球数を示すデータとを遊技の進行状態を示すデータと定義する。

【1305】

このようなRAM102には、パチンコ遊技機1における遊技の進行などを制御するために用いられる各種のデータを保持する領域として、図示しない遊技制御用データ保持エリアが設けられている。遊技制御用データ保持エリアは、第1特図保留記憶部と、第2特図保留記憶部と、普図保留記憶部と、遊技制御フラグ設定部と、遊技制御タイマ設定部と、遊技制御カウンタ設定部と、遊技制御バッファ設定部とを備えている。

【1306】

第1特図保留記憶部は、入賞球装置6Aが形成する第1始動入賞口を遊技球が通過（進入）して始動入賞（第1始動入賞）が発生したものの未だ開始されていない特図ゲーム（第1特別図柄表示装置208SG004Aにおける第1特図を用いた特図ゲーム）の保留データを記憶する。一例として、第1特図保留記憶部は、第1始動入賞口への入賞順（遊技球の検出順）に保留番号と関連付けて、その遊技球の通過（進入）における第1始動条件の成立に基づいてCPU103により乱数回路104等から抽出された特図表示結果判定用の乱数値MR1や大当たり種別判定用の乱数値MR2、変動パターン判定用の乱数値MR3を示す数値データなどを保留データとして、その記憶数が所定の上限値（例えば「4」）に達するまで記憶する。こうして第1特図保留記憶部に記憶された保留データは、第1特図を用いた特図ゲームの実行が保留されていることを示し、この特図ゲームにおける可変表示結果（特図表示結果）に基づき大当たりとなるか否かなどを判定可能にする保留情報となる。

【1307】

第2特図保留記憶部は、可変入賞球装置6Bが形成する第2始動入賞口を遊技球が通過（進入）して始動入賞（第2始動入賞）が発生したものの未だ開始されていない特図ゲーム（第2特別図柄表示装置208SG004Bにおける第2特図を用いた特図ゲーム）の保留データを記憶する。一例として、第2特図保留記憶部は、第2始動入賞口への入賞順（遊技球の検出順）に保留番号と関連付けて、その遊技球の通過（進入）における第2始動条件の成立に基づいてCPU103により乱数回路104等から抽出された特図表示結果判定用の乱数値MR1や大当たり種別判定用の乱数値MR2、変動パターン判定用の乱数値MR3を示す数値データなどを保留データとして、その数が所定の上限値（例えば「4」）に達するまで記憶する。こうして第2特図保留記憶部に記憶された保留データは、第2特図を用いた特図ゲームの実行が保留されていることを示し、この特図ゲームにおける可変表示結果（特図表示結果）に基づき大当たりとなるか否かなどを判定可能にする保留情報となる。

【1308】

尚、第1始動入賞口を遊技球が通過（進入）したことによる第1始動条件の成立に基づく保留情報（第1保留情報）と、第2始動入賞口を遊技球が通過（進入）したことによる第2始動入賞の成立に基づく保留情報（第2保留情報）とを、共通の保留記憶部にて保留番号と対応付けて記憶するようにしてもよい。この場合には、第1始動入賞口と第2始動入賞口のいずれを遊技球が通過（進入）したかを示す始動口データを保留情報に含め、保留番号と対応付けて記憶させればよい。

【1309】

普図保留記憶部は、通過ゲート41を通過した遊技球がゲートスイッチ21によって検出されたにもかかわらず、未だ普通図柄表示器208SG020により開始されていない普図ゲームの保留情報を記憶する。例えば、普図保留記憶部は、遊技球が通過ゲート41を通過した順に保留番号と対応付けて、その遊技球の通過に基づいてCPU103により乱数回路104等から抽出された普図表示結果判定用の乱数値MR4を示す数値データなどを保留データとして、その数が所定の上限値（例えば「4」）に達するまで記憶する。

【1310】

遊技制御フラグ設定部には、パチンコ遊技機1における遊技の進行状況などに応じて状態を更新可能な複数種類のフラグが設けられている。例えば、遊技制御フラグ設定部には、複数種類のフラグそれぞれについて、フラグの値を示すデータや、オン状態あるいはオフ状態を示すデータが記憶される。

【1311】

遊技制御タイマ設定部には、パチンコ遊技機1における遊技の進行を制御するために用いられる各種のタイマが設けられている。例えば、遊技制御タイマ設定部には、複数種類のタイマそれぞれにおけるタイマ値を示すデータが記憶される。

【1312】

遊技制御カウンタ設定部には、パチンコ遊技機1における遊技の進行を制御するために用いられるカウント値を計数するための複数種類のカウンタが設けられている。例えば、遊技制御カウンタ設定部には、複数種類のカウンタそれぞれにおけるカウント値を示すデータが記憶される。ここで、遊技制御カウンタ設定部には、遊技用乱数の一部または全部をCPU103がソフトウェアにより更新可能にカウントするためのランダムカウンタが設けられてもよい。

【1313】

遊技制御カウンタ設定部のランダムカウンタには、乱数回路104で生成されない乱数値、例えば、乱数値MR2～MR4を示す数値データが、ランダムカウント値として記憶され、CPU103によるソフトウェアの実行に応じて、定期的あるいは不定期に、各乱数値を示す数値データが更新される。CPU103がランダムカウント値を更新するために実行するソフトウェアは、ランダムカウント値を乱数回路104における数値データの更新動作とは別個に更新するためのものであってもよいし、乱数回路104から抽出された数値データの全部または一部にスクランブル処理や演算処理といった所定の処理を施すことによりランダムカウント値を更新するためのものであってもよい。

【1314】

遊技制御バッファ設定部には、パチンコ遊技機1における遊技の進行を制御するために用いられるデータを一時的に記憶する各種のバッファが設けられている。例えば、遊技制御バッファ設定部には、複数種類のバッファそれぞれにおけるバッファ値を示すデータが記憶される。

【1315】

また、演出制御基板12に搭載されたRAM122には、演出動作を制御するために用いられる各種データを保持する領域として、演出制御用データ保持エリアが設けられている。演出制御用データ保持エリアは、演出制御フラグ設定部と、演出制御タイマ設定部と、演出制御カウンタ設定部と、演出制御バッファ設定部とを備えている。

【1316】

演出制御フラグ設定部には、例えば画像表示装置 5 の画面上における演出画像の表示状態などといった演出動作状態や主基板 11 から送信された演出制御コマンド等に応じて状態を更新可能な複数種類のフラグが設けられている。例えば、演出制御フラグ設定部には、複数種類のフラグそれぞれについて、フラグの値を示すデータや、オン状態あるいはオフ状態を示すデータが記憶される。

【1317】

演出制御タイマ設定部には、例えば画像表示装置 5 の画面上における演出画像の表示動作などといった各種演出動作の進行を制御するために用いられる複数種類のタイマが設けられている。例えば、演出制御タイマ設定部には、複数種類のタイマそれぞれにおけるタイマ値を示すデータが記憶される。

【1318】

演出制御カウンタ設定部には、各種演出動作の進行を制御するために用いられる複数種類のカウンタが設けられている。例えば、演出制御カウンタ設定部には、複数種類のカウンタそれぞれにおけるカウント値を示すデータが記憶される。

【1319】

演出制御バッファ設定部には、各種演出動作の進行を制御するために用いられるデータを一時的に記憶する各種のバッファが設けられている。例えば、演出制御バッファ設定部には、複数種類のバッファそれぞれにおけるバッファ値を示すデータが記憶される。

【1320】

また、演出制御バッファ設定部の所定領域には、始動入賞時受信コマンドバッファを構成するデータが記憶されている。始動入賞時受信コマンドバッファには、第 1 特図保留記憶の合計保留記憶数の最大値（例えば「4」）に対応した格納領域（バッファ番号「1-1」～「1-4」に対応した領域）と可変表示中の第 1 特図に対応した格納領域（バッファ番号「1-0」に対応した領域）とが設けられている。また、始動入賞時受信コマンドバッファには、第 2 特図保留記憶の合計保留記憶数の最大値（例えば「4」）に対応した格納領域（バッファ番号「2-1」～「2-4」に対応した領域）と可変表示中の第 2 特図に対応した格納領域（バッファ番号「2-0」に対応した領域）とが設けられている。第 1 始動入賞口や第 2 始動入賞口への始動入賞があったときには、始動口入賞指定コマンド（第 1 始動口入賞指定コマンドまたは第 2 始動口入賞指定コマンド）、や保留記憶数通知コマンド（第 1 保留記憶数通知コマンドまたは第 2 保留記憶数通知コマンド）といったコマンドが 1 セットとして、主基板 11 から演出制御基板 12 へと送信される。始動入賞時受信コマンドバッファにおける第 1 特図保留記憶に対応した格納領域と第 2 特図保留記憶に対応した格納領域は、これらのコマンドを対応付けて、第 1 特図保留記憶と第 2 特図保留記憶とに分けて格納するための格納領域（エントリ）が確保されている。

【1321】

これら格納領域（エントリ）の記憶内容は、開始条件が成立して最上位の保留記憶（バッファ番号「1-1」またはバッファ番号「2-1」）の可変表示が開始されるときに、後述するように 1 つずつ上位にシフトされていく。

【1322】

演出制御用 CPU 120 は、第 1 始動入賞口への始動入賞時には、コマンドを始動入賞時受信コマンドバッファの第 1 特図保留記憶に対応する空きエントリにおける先頭（バッファ番号の最も若いエントリ）から格納していき、第 2 始動入賞口への始動入賞時には、コマンドを始動入賞時受信コマンドバッファの第 2 特図保留記憶に対応する空きエントリにおける先頭（バッファ番号の最も若いエントリ）から格納していく。始動入賞時には、始動口入賞指定コマンドから保留記憶数通知コマンドまでが順次送信される。従って、コマンド受信が行われれば、第 1 特図保留記憶または第 2 特図保留記憶に対応するバッファ番号の末尾「1」～「4」のそれぞれに対応する格納領域に、各コマンドが格納されていくことになる。

【1323】

次に、本実施の形態の特徴部 208 SG において CPU 103 が実行する処理について

10

20

30

40

50

説明する。図15-15は、図14に示す始動入賞判定処理（S101）を示すフローチャートである。始動入賞判定処理では、図15-15に示すように、CPU103は、まず、入賞球装置6Aが形成する第1始動入賞口に対応して設けられた第1始動口スイッチ22Aからの検出信号に基づき、第1始動口スイッチ22Aがオンであるか否かを判定する（208SGS501a）。このとき、第1始動口スイッチ22Aがオンであれば（208SGS501a；Y）、第1特図を用いた特図ゲームの保留記憶数である第1特図保留記憶数が、所定の上限値（例えば上限記憶数としての「4」）となっているか否かを判定する（208SGS502）。CPU103は、例えば遊技制御カウンタ設定部に設けられた第1保留記憶数カウンタの格納値である第1保留記憶数カウント値を読み取ることにより、第1特図保留記憶数を特定できればよい。第1特図保留記憶数が上限値ではないときには（208SGS502；N）、例えば遊技制御バッファ設定部に設けられた始動口バッファの格納値を、「1」に設定する（208SGS503）。

【1324】

208SGS501aにて第1始動口スイッチ22Aがオフであるときや（208SGS501a；N）、208SGS502にて第1特図保留記憶数が上限値に達しているときには（208SGS502；Y）、可変入賞球装置6Bが形成する第2始動入賞口に対応して設けられた第2始動口スイッチ22Bからの検出信号に基づき、第2始動口スイッチ22Bがオンであるか否かを判定する（208SGS501b）。このとき、第2始動口スイッチ22Bがオンであれば（208SGS501b；Y）、第2特図を用いた特図ゲームの保留記憶数である第2特図保留記憶数が、所定の上限値（例えば上限記憶数としての「4」）となっているか否かを判定する（208SGS505）。CPU103は、例えば遊技制御カウンタ設定部に設けられた第2保留記憶数カウンタの格納値である第2保留記憶数カウント値を読み取ることにより、第2特図保留記憶数を特定できればよい。208SGS505にて第2特図保留記憶数が上限値ではないときには（208SGS505；N）、例えば遊技制御バッファ設定部に設けられた始動口バッファの格納値を、「2」に設定する（208SGS506）。

【1325】

尚、第2始動口スイッチがオンでない場合（208SGS501b；N）や第2特図保留記憶数が上限値である場合（208SGS505；Y）は、始動入賞判定処理を終了する。

【1326】

208SGS503、208SGS506の処理のいずれかを実行した後は、始動口バッファの格納値である始動口バッファ値に応じた特図保留記憶数を1加算するように更新する（208SGS507）。例えば、始動口バッファ値が「1」であるときには第1保留記憶数カウント値を1加算する一方で、始動口バッファ値が「2」であるときには第2保留記憶数カウント値を1加算する。こうして、第1保留記憶数カウント値は、第1始動入賞口を遊技球が通過（進入）して第1特図を用いた特図ゲームに対応した第1始動条件が成立したときに、1増加するように更新される。また、第2保留記憶数カウント値は、第2始動入賞口を遊技球が通過（進入）して第2特図を用いた特図ゲームに対応した第2始動条件が成立したときに、1増加するように更新される。このときには、合計保留記憶数も1加算するように更新する（208SGS508）。例えば、遊技制御カウンタ設定部に設けられた合計保留記憶数カウンタの格納値である合計保留記憶数カウント値を、1加算するように更新すればよい。

【1327】

208SGS508の処理を実行した後に、CPU103は、乱数回路104や遊技制御カウンタ設定部のランダムカウンタによって更新されている数値データのうちから、特図表示結果判定用の乱数値MR1や大当り種別判定用の乱数値MR2、変動パターン判定用の乱数値MR3を示す数値データを抽出する（208SGS509）。こうして抽出した各乱数値を示す数値データは、始動口バッファ値に応じた特図保留記憶部における空きエントリの先頭に、保留情報としてセットされることで記憶される（208SGS510）。

）。例えば、始動口バッファ値が「1」であるときには、第1特図保留記憶部に乱数値MR1～MR3を示す数値データが格納される一方、始動口バッファ値が「2」であるときには、第2特図保留記憶部に乱数値MR1～MR3を示す数値データが格納される。

【1328】

特図表示結果判定用の乱数値MR1や大当り種別判定用の乱数値MR2を示す数値データは、特別図柄や飾り図柄の可変表示結果を「大当り」とするか否か、更には可変表示結果を「大当り」とする場合の大当り種別を判定するために用いられる。変動パターン判定用の乱数値MR3は、特別図柄や飾り図柄の可変表示時間を含む変動パターンを判定するために用いられる。CPU103は、208SGS509の処理を実行することにより、特別図柄や飾り図柄の可変表示結果や可変表示時間を含む可変表示態様の判定に用いられる乱数値のうち全部を示す数値データを抽出する。

10

【1329】

208SGS510の処理に続いて、始動口バッファ値に応じた始動口入賞指定コマンドの送信設定が行われる(208SGS511)。例えば、始動口バッファ値が「1」であるときにはROM101における第1始動口入賞指定コマンドテーブルの記憶アドレスを送信コマンドバッファにおいて送信コマンドポインタにより指定されたバッファ領域に格納することなどにより、演出制御基板12に対して第1始動口入賞指定コマンドを送信するための設定を行う。これに対して、始動口バッファ値が「2」であるときにはROM101における第2始動口入賞指定コマンドテーブルの記憶アドレスを送信コマンドバッファのバッファ領域に格納することなどにより、演出制御基板12に対して第2始動口入賞指定コマンドを送信するための設定を行う。こうして設定された始動口入賞指定コマンドは、例えば特別図柄プロセス処理が終了した後、図13に示すS27のコマンド制御処理が実行されることなどにより、主基板11から演出制御基板12に対して伝送される。

20

【1330】

208SGS511の処理に続いて、入賞時乱数値判定処理を実行する(208SGS512)。その後、例えばROM101における保留記憶数通知コマンドテーブルの記憶アドレスを送信コマンドバッファにおいて送信コマンドポインタによって指定されたバッファ領域に格納することなどにより、演出制御基板12に対して保留記憶数通知コマンドを送信するための設定を行う(208SGS513)。こうして設定された保留記憶数通知コマンドは、例えば特別図柄プロセス処理が終了した後、図13に示すS27のコマンド制御処理が実行されることなどにより、主基板11から演出制御基板12に対して伝送される。

30

【1331】

208SGS513の処理を実行した後は、始動口バッファ値が「1」であるか否かを判定する(208SGS514)。このとき、始動口バッファ値が「1」であれば(208SGS514;Y)始動口バッファをクリアして、その格納値を「0」に初期化してから(208SGS515)、208SGS501bの処理に進む。これに対して、始動口バッファ値が「2」であるときには(208SGS514;N)、始動口バッファをクリアして、その格納値を「0」に初期化してから(208SGS516)、始動入賞判定処理を終了する。これにより、第1始動口スイッチ22Aと第2始動口スイッチ22Bの双方が同時に有効な遊技球の始動入賞を検出した場合でも、確実に双方の有効な始動入賞の検出に基づく処理を完了できる。

40

【1332】

図15-16(A)は、入賞時乱数値判定処理として、図15-15の208SGS512にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。本特徴部208SGにおいて、特別図柄や飾り図柄の可変表示が開始されるときには、特別図柄通常処理(図14のステップS22)において、遊技状態、可変表示を実行する特別図柄、設定値に応じた表示結果判定用テーブル(図15-7～図15-10参照)を選択肢、該選択した表示結果判定用テーブルを用いて特図表示結果(特別図柄の可変表示結果)を「大当り」として大当り遊技状態に制御するか否かの判定や特図表示結果を「小当り」として小当り遊技状態

50

に制御するか否かの判定が行われる。

【1333】

他方、これらの判定とは別に、遊技球が始動入賞口（第1始動入賞口または第2始動入賞口）にて検出されたタイミングで、CPU103が208SGS512の入賞時乱数値判定処理を実行することにより、特図表示結果として大当り図柄や小当り図柄を停止表示すると判定されるか否かの判定や、飾り図柄の可変表示態様がスーパーリーチを伴う所定表示態様となるか否かの判定などを行う。これにより、始動入賞口に進入した遊技球の検出に基づく特別図柄や飾り図柄の可変表示が開始されるより前、つまり、該可変表示の開始時に大当りや小当りとするか否かが決定されるよりも前に、特図表示結果が「大当り」や「小当り」となることや、飾り図柄の可変表示態様がいずれのカテゴリの可変表示態様となるかを判定し、この判定結果に基づいて、演出制御用CPU120などにより、後述するように、保留表示予告演出等の先読予告演出が実行されるようになる。

10

【1334】

図15-16(A)に示す入賞時乱数値判定処理において、CPU103は、まず、例えば遊技制御フラグ設定部208SG152などに設けられた時短フラグや確変フラグの状態を確認することなどにより、パチンコ遊技機1における現在の遊技状態を特定する(208SGS521)。CPU103は、確変フラグがオンであるときには確変状態(高確高ベース状態)であることを特定し、確変フラグがオフで時短フラグがオンであるときには時短状態(低確高ベース状態)であることを特定し、確変フラグと時短フラグがともにオフであるときには通常状態(低確低ベース状態)であることを特定すればよい。

20

【1335】

208SGS521の処理に続いて、CPU103は、パチンコ遊技機1に設定されている設定値を特定する(208SGS522)。次いで、現在の遊技状態、始動口バッファ値及び設定値に応じた表示結果判定テーブルを選択してセットする(208SGS524)。

【1336】

具体的には、始動口バッファ値が「1」であるとき、設定値が1であり且つ遊技状態が通常状態または時短状態である場合は図15-7(A)に示す第1特図用表示結果判定テーブルをセットし、設定値が1であり且つ遊技状態が確変状態である場合は図15-7(B)に示す第1特図用表示結果判定テーブルをセットし、設定値が2であり且つ遊技状態が通常状態または時短状態である場合は図15-7(C)に示す第1特図用表示結果判定テーブルをセットし、設定値が2であり且つ遊技状態が確変状態である場合は図15-7(D)に示す第1特図用表示結果判定テーブルをセットし、設定値が3であり且つ遊技状態が通常状態または時短状態である場合は図15-7(E)に示す第1特図用表示結果判定テーブルをセットし、設定値が3であり且つ遊技状態が確変状態である場合は図15-7(F)に示す第1特図用表示結果判定テーブルをセットする。

30

【1337】

また、始動口バッファ値が「1」であるとき、設定値が4であり且つ遊技状態が通常状態または時短状態である場合は図15-8(A)に示す第1特図用表示結果判定テーブルをセットし、設定値が4であり且つ遊技状態が確変状態である場合は図15-8(B)に示す第1特図用表示結果判定テーブルをセットし、設定値が5であり且つ遊技状態が通常状態または時短状態である場合は図15-8(C)に示す第1特図用表示結果判定テーブルをセットし、設定値が5であり且つ遊技状態が確変状態である場合は図15-8(D)に示す第1特図用表示結果判定テーブルをセットし、設定値が6であり且つ遊技状態が通常状態または時短状態である場合は図15-8(E)に示す第1特図用表示結果判定テーブルをセットし、設定値が6であり且つ遊技状態が確変状態である場合は図15-8(F)に示す第1特図用表示結果判定テーブルをセットする。

40

【1338】

また、始動口バッファ値が「2」であるとき、設定値が1であり且つ遊技状態が通常状態または時短状態である場合は図15-9(A)に示す第2特図用表示結果判定テーブル

50

をセットし、設定値が1であり且つ遊技状態が確変状態である場合は図15-9(B)に示す第2特図用表示結果判定テーブルをセットし、設定値が2であり且つ遊技状態が通常状態または時短状態である場合は図15-9(C)に示す第2特図用表示結果判定テーブルをセットし、設定値が2であり且つ遊技状態が確変状態である場合は図15-9(D)に示す第2特図用表示結果判定テーブルをセットし、設定値が3であり且つ遊技状態が通常状態または時短状態である場合は図15-9(E)に示す第2特図用表示結果判定テーブルをセットし、設定値が3であり且つ遊技状態が確変状態である場合は図15-9(F)に示す第2特図用表示結果判定テーブルをセットする。

【1339】

また、始動口バッファ値が「2」であるとき、設定値が4であり且つ遊技状態が通常状態または時短状態である場合は図15-10(A)に示す第2特図用表示結果判定テーブルをセットし、設定値が4であり且つ遊技状態が確変状態である場合は図15-10(B)に示す第2特図用表示結果判定テーブルをセットし、設定値が5であり且つ遊技状態が通常状態または時短状態である場合は図15-10(C)に示す第2特図用表示結果判定テーブルをセットし、設定値が5であり且つ遊技状態が確変状態である場合は図15-10(D)に示す第2特図用表示結果判定テーブルをセットし、設定値が6であり且つ遊技状態が通常状態または時短状態である場合は図15-10(E)に示す第2特図用表示結果判定テーブルをセットし、設定値が6であり且つ遊技状態が確変状態である場合は図15-10(F)に示す第2特図用表示結果判定テーブルをセットする。

【1340】

表示結果判定テーブルをセットした後は、可変表示結果判定モジュール(208SGS525)において、特図表示結果が「大当たり」、「小当たり」、「はずれ」のいずれになるかを判定する処理を行う。尚、可変表示結果判定モジュールでは、セットした可変表示結果判定テーブルにおける大当たり判定値の数値範囲や小当たり判定値の数値範囲と特図表示結果判定用の乱数値MR1の値を比較し、該乱数値MR1の値が大当たり判定値の数値範囲内であれば可変表示結果を大当たりと判定し、該乱数値MR1の値が小当たり判定値の数値範囲内であれば可変表示結果を小当たりと判定し、該乱数値MR1の値が大当たり判定値の数値範囲外且つ小当たり判定値の数値範囲外であれば可変表示結果をはずれと判定すればよい。

【1341】

そして、CPU103は、208SGS525にて可変表示結果が大当たりとなると判定したか否かを判定する(208SGS526)。大当たりとならないと判定した場合(208SGS526;N)は、208SGS525において可変表示結果が小当たりとなると判定したか否かを判定する(208SGS527)。小当たりとならないと判定した場合、つまり、可変表示においてははずれとなると判定した場合には(208SGS527;N)、可変表示結果が「はずれ」となることに応じた図柄指定コマンドである第1図柄指定コマンドの送信設定を実行し(208SGS527a)、時短フラグがセットされているか否か、つまり、現在の遊技状態が時短状態であるか否かを判定する(208SGS528)。

【1342】

時短フラグがセットされていない場合は(208SGS528;N)、図15-14に示すはずれ用変動パターン判定テーブルAを選択してセットして208SGS536に進み(208SGS529)、時短フラグがセットされている場合は(208SGS528;Y)、図15-14(D)に示すはずれ用変動パターン判定テーブルDを選択してセットして208SGS536に進む(208SGS530)。

【1343】

208SGS526にて可変表示が大当たりとなると判定した場合には(208SGS526;Y)、大当たり種別判定用の乱数値MR2と大当たり種別判定テーブルとに基づいて、大当たり種別を判定する(208SGS533)。このとき、CPU103は、始動口バッファ値に対応して特定される変動特図(「1」に対応する「第1特図」または「2」に対応する「第2特図」)に応じて、大当たり種別判定テーブルを構成するテーブルデータから大当たり種別判定用テーブルデータを選択する。そして、選択した大当たり種別判定用テ

10

20

30

40

50

ルデータを参照することにより、大当り種別が複数種別のいずれに判定されるかを判定する。

【1344】

また、判定した大当り種別に応じた図柄指定コマンド、つまり、大当りAである場合には第2図柄指定コマンド、大当りBである場合には第3図柄指定コマンド、大当りCである場合には第4図柄指定コマンドの送信設定を実行し(208SGS534)、その後、大当り変動パターンを判定するためのテーブルとして、図15-13(A)に示す大当り用変動パターン判定テーブルを選択してセットして(208SGS535)、208SGS536に進む。

【1345】

また、208SGS527にて可変表示において小当りとなると判定した場合には(208SGS527;Y)、可変表示結果が「小当り」となることに応じた図柄指定コマンドである第6図柄指定コマンドの送信設定を実行し(208SGS531)、図15-13(B)に示す小当り用変動パターン判定テーブルを選択してセットして(208SGS532)、208SGS536に進む。

【1346】

尚、本特徴部208SGでは、これらのはずれ用変動パターン判定テーブルA～はずれ用変動パターン判定テーブルDでは、共通して非リーチの変動パターンとノーマルリーチの変動パターンとに1~700の判定値が割り当てられており、701~997にスーパーリーチの変動パターンが割り当てられている。

【1347】

このため、可変表示結果がはずれである場合は、はずれ用変動パターン判定テーブルAまたははずれ用変動パターン判定テーブルDを用いて変動パターンを判定することで、非リーチとスーパーリーチの判定は、該判定後に保留記憶数が変化しても必ず非リーチまたはスーパーリーチの変動パターンとなるので、始動入賞時の判定においては、はずれ用変動パターン判定テーブルAまたははずれ用変動パターン判定テーブルDを用いて変動パターンを判定している。

【1348】

208SGS529、208SGS530、208SGS532、208SGS535の処理のいずれかを実行した後は、これらの各ステップにおいてセットされた各変動パターン判定テーブルと変動パターン判定用の乱数値MR3を示す数値データとを用いて、乱数値MR3が含まれる判定値の範囲に応じた変動カテゴリを判定する(208SGS536)。本特徴部208SGでは、図15-16(B)に示すように、少なくとも可変表示結果が「はずれ」となる場合に、合計保留記憶数にかかわらず共通して「非リーチ」の可変表示態様となる変動カテゴリと、「スーパーリーチ」の可変表示態様となる変動カテゴリと、「非リーチ」と「スーパーリーチ」以外の可変表示態様(例えばノーマルリーチや小当り)となる「その他」の変動カテゴリと、を設け、乱数値MR3に基づいて、このような変動カテゴリに決定されるか否かを判定できればよい。

【1349】

その後、208SGS536の処理による判定結果に応じた変動カテゴリ指定コマンドを、演出制御基板12に対して送信するための設定を行ってから(208SGS537)、入賞時乱数値判定処理を終了する。

【1350】

尚、図柄指定コマンドや変動カテゴリ指定コマンドは、CPU103がコマンド制御処理を実行することで送信される。

【1351】

次に、本実施の形態の特徴部208SGにおいて演出制御用CPU120が実行する処理について説明する。図15-17は、図7に示す可変表示開始設定処理(S171)を示すフローチャートである。

【1352】

可変表示開始設定処理において、演出制御用CPU120は、まず、第1可変表示開始コマンド受信フラグがセットされているか否かを判定する(208SGS271)。第1可変表示開始コマンド受信フラグがセットされている場合は(208SGS271; Y)、始動入賞時受信コマンドバッファにおける第1特図保留記憶のバッファ番号「1-0」~「1-4」に対応付けて格納されている各種コマンドデータと各種フラグを、バッファ番号1個分ずつ上位にシフトする(272)。尚、バッファ番号「1-0」の内容については、シフトする先が存在しないためにシフトすることはできないので消去される。

【1353】

また、208SGS271において第1可変表示開始コマンド受信フラグがセットされていない場合は(208SGS271; N)、第2可変表示開始コマンド受信フラグがセットされているか否かを判定する(208SGS273)。第2可変表示開始コマンド受信フラグがセットされていない場合は(208SGS273; N)、可変表示開始設定処理を終了し、第2可変表示2開始コマンド受信フラグがセットされている場合は(208SGS273; Y)、始動入賞時受信コマンドバッファにおける第2特図保留記憶のバッファ番号「2-0」~「2-4」に対応付けて格納されている各種コマンドデータと各種フラグを、バッファ番号1個分ずつ上位にシフトする(208SGS274)。尚、バッファ番号「2-0」の内容については、シフトする先が存在しないためにシフトすることはできないので消去される。

【1354】

208SGS272または208SGS274の実行後、演出制御用CPU120は、変動パターン指定コマンド格納領域から変動パターン指定コマンドを読み出す(208SGS275)。

【1355】

次いで、表示結果指定コマンド格納領域に格納されているデータ(即ち、受信した表示結果指定コマンド)に応じて飾り図柄の表示結果(停止図柄)を決定する(208SGS276)。この場合、演出制御用CPU120は、表示結果指定コマンドで指定される表示結果に応じた飾り図柄の停止図柄を決定し、決定した飾り図柄の停止図柄を示すデータを飾り図柄表示結果格納領域に格納する。

【1356】

尚、本実施の形態の特徴部208SG、受信した表示結果指定コマンドが大当たりAに該当する第2可変表示結果指定コマンドである場合は、例えば、停止図柄として3図柄が偶数で揃った飾り図柄の組合せ(大当たり図柄)を決定する。また、受信した表示結果指定コマンドが大当たりBに該当する第3可変表示結果指定コマンドである場合は、例えば、停止図柄として3図柄が「7」や「3」以外の奇数で揃った飾り図柄の組合せ(大当たり図柄)を決定する。そして、受信した表示結果指定コマンドが大当たりCに該当する第4可変表示結果指定コマンドである場合は、例えば、停止図柄として3図柄が「7」や「3」で揃った飾り図柄の組合せ(大当たり図柄)を決定する。また、受信した表示結果指定コマンドが小当たりを示す第5可変表示結果指定コマンドである場合は、例えば、「123」や「246」等の連続する3つの数、連続する3つの偶数(または奇数)等の飾り図柄の組合せ(小当たり図柄)を決定する。そして、受信した表示結果指定コマンドがはずれを示す第1可変表示結果指定コマンドである場合は、例えば、上述した大当たり図柄や小当たり図柄とは異なる飾り図柄の組合せ(はずれ図柄)を決定する。

【1357】

これら停止図柄の決定においては、演出制御用CPU120は、例えば、停止図柄を決定するための乱数を抽出し、飾り図柄の組合せを示すデータと数値とが対応付けられている停止図柄判定テーブルを用いて、飾り図柄の停止図柄を決定すれば良い。即ち、抽出した乱数に一致する数値に対応する飾り図柄の組合せを示すデータを選択することによって停止図柄を決定すれば良い。

【1358】

208SGS276の実行後、演出制御用CPU120は、当該可変表示の変動パター

10

20

30

40

50

ンがスーパーリーチの変動パターンであるか否かを判定する（208SG277）。当該可変表示の変動パターンがスーパーリーチの変動パターンであるか否かは、208SG275において読み出した変動パターン指定コマンドから特定すればよい。当該可変表示の変動パターンがスーパーリーチの変動パターンである場合（208SG277；Y）は、リーチ演出中に後述するカットイン演出を実行するか否か及びカットイン演出の演出パターンを決定するためのカットイン演出決定処理（208SGS278）を実行して208SGS279に進む。また、当該可変表示の変動パターンがスーパーリーチの変動パターンでない場合（208SG277；N）は、208SGS278の処理を実行せずに208SGS279に進む。

【1359】

そして、208SGS279において演出制御用CPU120は、当該可変表示において後述の予告演出を実行するか否か及び予告演出の演出パターンを決定するための予告演出決定処理を実行する（208SGS279）。尚、予告演出は、図15-27～図15-29に示すように、非リーチの変動パターンでは可変表示中に実行可能な演出であり、ノーマルリーチやスーパーリーチの変動パターンでは可変表示が開始してからリーチとなるタイミングまでの期間において実行可能な演出である。

【1360】

208SGS279の実行後、演出制御用CPU120は、変動パターン指定コマンドに応じた演出制御パターン（プロセステーブル）を選択する（208SGS280）。そして、選択したプロセステーブルのプロセスデータ1におけるプロセスタイマをスタートさせる（208SGS281）。

【1361】

尚、プロセステーブルには、画像表示装置5の表示を制御するための表示制御実行データ、各LEDの点灯を制御するためのランプ制御実行データ、スピーカ8L，8Rから出力する音の制御するための音制御実行データや、プッシュボタン31Bやスティックコントローラ31Aの操作を制御するための操作部制御実行データ等が、各プロセスデータn（1～N番まで）に対応付けて時系列に順番配列されている。

【1362】

次いで、演出制御用CPU120は、プロセスデータ1の内容（表示制御実行データ1、ランプ制御実行データ1、音制御実行データ1、操作部制御実行データ1）に従って演出装置（演出用部品としての画像表示装置5、演出用部品としての各種ランプ及び演出用部品としてのスピーカ8L，8R、操作部（プッシュボタン31B、スティックコントローラ31A等））の制御を実行する（208SGS282）。例えば、画像表示装置5において変動パターンに応じた画像を表示させるために、表示制御部123に指令を出力する。また、各種ランプを点灯／消灯制御を行わせるために、ランプ制御基板14に対して制御信号（ランプ制御実行データ）を出力する。また、スピーカ8L，8Rからの音声出力を行わせるために、音声制御基板13に対して制御信号（音番号データ）を出力する。

【1363】

尚、本実施の形態における特徴部208SGでは、演出制御用CPU120は、変動パターン指定コマンドに1対1に対応する変動パターンによる飾り図柄の可変表示が行われるように制御するが、演出制御用CPU120は、変動パターン指定コマンドに対応する複数種類の変動パターンから、使用する変動パターンを選択するようにしてもよい。

【1364】

そして、変動時間タイマに、変動パターン指定コマンドで特定される変動時間（可変表示時間）に相当する値を設定する（208SGS283）。また、変動制御タイマに所定時間を設定する（208SGS284）。尚、所定時間は例えば30msであり、演出制御用CPU120は、所定時間が経過する毎に左中右の飾り図柄の表示状態を示す画像データをVRAMに書き込み、表示制御部123がVRAMに書き込まれた画像データに応じた信号を画像表示装置5に出力し、画像表示装置5が信号に応じた画像を表示することによって飾り図柄の可変表示が実現される。次いで、演出制御プロセスフラグの値を可変

10

20

30

40

50

表示中演出処理（S172）に対応した値に更新して可変表示開始設定処理を終了する（208SGS285）。

【1365】

図15-18～図15-20は、図15-17に示すカットイン演出決定処理を示すフローチャートである。カットイン演出決定処理において演出制御用CPU120は、まず、変動パターンがスーパーリーチαまたはスーパーリーチβの変動パターンであるか否かを判定する（208SGS301）。変動パターンがスーパーリーチαまたはスーパーリーチβの変動パターンである場合（208SGS301；Y）はカットイン演出決定処理を終了し、変動パターンがスーパーリーチγまたはスーパーリーチδの変動パターンである場合（208SGS301；N）は、更に変動パターンがスーパーリーチγの変動パターンであるか否かを判定する（208SGS302）。

10

【1366】

変動パターンがスーパーリーチγの変動パターンである場合（208SGS301；Y）は、変動パターンがPB1-5、つまり、復活演出を実行するスーパーリーチγの変動パターンであるか否かを判定する（208SGS303）。変動パターンがPB1-5である場合（208SGS303；Y）、演出制御用CPU120は、大当たり種別を特定し（208SGS304）、該大当たり種別が大当たりAまたは大当たりBであるか否かを判定する（208SGS305）。

【1367】

大当たり種別が大当たりAまたは大当たりBである場合（208SGS305；Y）は、大当たり種別が大当たりAまたは大当たりBであることに基づいてカットイン演出の実行の有無及び演出パターンを決定し（208SGS306）、208SGS308に進む。尚、208SGS306では、図15-21（A）に示すように、変動パターンがPB1-5、可変表示結果（大当たり種別）が大当たりAまたは大当たりBであることに基づいて、カットイン演出の非実行を10%の割合で決定する。また、カットイン演出の実行として、演出パターンを30%の割合でパターンCI-1に決定し、55%の割合でパターンCI-2に決定し、5%の割合でパターンCI-3に決定し、0%の割合でパターンCI-4に決定する。

20

【1368】

尚、本実施の形態の特徴部208SGにおけるカットイン演出は、図15-28及び図15-31に示すように、スーパーリーチγのリーチ演出中において画像表示装置5にプッシュボタン31Bの画像を表示し、遊技者に対してプッシュボタン31Bの操作を促す。そして、プッシュボタン31Bの操作受付期間中にプッシュボタン31Bが操作された場合や、プッシュボタン31Bが操作されることなくプッシュボタン31Bの操作受付期間が終了した場合は、画像表示装置5において各演出パターンに応じたエフェクトとカットイン画像を表示する。

30

【1369】

具体的には、図15-23及び図15-31に示すように、演出パターンがパターンCI-1であれば、画像表示装置5においてカットイン画像208SG005wを青色のエフェクトと共に表示し、演出パターンがパターンCI-2であれば、画像表示装置5においてカットイン画像208SG005xを赤色のエフェクトと共に表示し、演出パターンがパターンCI-3であれば、画像表示装置5においてカットイン画像208SG005yを金色のエフェクトと共に表示し、演出パターンがパターンCI-4であれば、画像表示装置5においてカットイン画像208SG005zを虹色のエフェクトと共に表示する。

40

【1370】

また、大当たり種別が大当たりCである場合（208SGS305；N）、演出制御用CPU120は、大当たり種別が大当たりCであることに基づいてカットイン演出の実行の有無及び演出パターンを決定し（208SGS307）、208SGS308に進む。尚、208SGS307では、図15-21（A）に示すように、変動パターンがPB1-5、可変表示結果（大当たり種別）が大当たりCであることに基づいて、カットイン演出の非実行を10%の割合で決定する。また、カットイン演出の実行として、演出パターンを30%の

50

割合でパターンC I - 1に決定し、54%の割合でパターンC I - 2に決定し、5%の割合でパターンC I - 3に決定し、1%の割合でパターンC I - 4に決定する。

【1371】

208SGS306または208SGS307の実行後、演出制御用CPU120は、カットイン演出の実行を決定したか否かを判定する(208SGS308)。カットイン演出の実行を決定した場合(208SGS308; Y)は、決定した演出パターンを記憶するとともにカットイン演出の開始までの期間に応じた値をカットイン演出開始待ちタイマにセットし(208SGS309、208SGS310)、カットイン演出決定処理を終了する。

【1372】

また、208SGS303において変動パターンが復活演出を実行しないスーパーリーチγの変動パターン(PA2-4またはPB1-4)である場合(208SGS303; N)、演出制御用CPU120は、パチンコ遊技機1に設定されている設定値を特定し(208SGS311)、該特定した設定値が1~3のいずれかであるか否かを判定する(208SGS312)。尚、パチンコ遊技機1に設定されている設定値は、CPU103から受信した設定値指定コマンドに基づいて特定すればよい。

【1373】

尚、カットイン演出決定処理においてカットイン演出の実行を決定した場合、演出制御用CPU120は、可変表示中演出処理(S172)を実行する毎にカットイン演出開始待ちタイマの値を-1していき、カットイン演出開始待ちタイマがタイマアウトした場合は、決定した演出パターンに応じたカットイン演出用プロセステーブルをセットする。以降、演出制御用CPU120は、可変表示中演出処理を実行する毎にカットイン演出用プロセステーブル内のデータ(プロセスデータ)の内容に従って演出装置(画像表示装置5、スピーカ8L、8R、遊技効果ランプ9等)の制御を行うことによってカットイン演出を実行すればよい。

【1374】

パチンコ遊技機1に設定されている設定値が1~3のいずれかである場合(208SGS312; Y)は、更に可変表示結果が大当たりであるか否かを判定する(308SGS313)。尚、可変表示結果が大当たりであるか否かは、変動パターンがスーパーリーチγ大当たりのPB1-4であるか否かを判定すればよい。可変表示結果が大当たりである場合(208SGS313; Y)は、大当たり種別を特定し(208SGS314)、該大当たり種別が大当たりAまたは大当たりBであるか否かを判定する(208SGS315)。

【1375】

大当たり種別が大当たりAまたは大当たりBである場合(208SGS3315; Y)は、設定値が1~3のいずれかであることと大当たり種別が大当たりAまたは大当たりBであることに基づいてカットイン演出の実行の有無及び演出パターンを決定し(208SGS3316)、208SGS308~208SGS310の処理を実行する。尚、208SGS316では、図15-21(B)に示すように、設定値が1~3のいずれかであり可変表示結果(大当たり種別)が大当たりAまたは大当たりBであることに基づいて、カットイン演出の非実行を10%の割合で決定する。また、カットイン演出の実行として、演出パターンを30%の割合でパターンC I - 1に決定し、50%の割合でパターンC I - 2に決定し、10%の割合でパターンC I - 3に決定し、0%の割合でパターンC I - 4に決定する。

【1376】

また、大当たり種別が大当たりCである場合(208SGS315; N)、演出制御用CPU120は、設定値が1~3のいずれかであることと大当たり種別が大当たりCであることに基づいてカットイン演出の実行の有無及び演出パターンを決定し(208SGS317)、208SGS308~208SGS310の処理を実行する。尚、208SGS317では、図15-21(B)に示すように、設定値が1~3のいずれかであり可変表示結果(大当たり種別)が大当たりCであることに基づいて、カットイン演出の非実行を10%の割合で決定する。また、カットイン演出の実行として、演出パターンを30%の割合でパタ

10

20

30

40

50

ーンC I－1に決定し、45%の割合でパターンC I－2に決定し、10%の割合でパターンC I－3に決定し、5%の割合でパターンC I－4に決定する。

【1377】

尚、208SGS313において可変表示結果がはずれである場合（208SGS313；N）、演出制御用CPU120は、設定値が1～3のいずれかであることと可変表示結果がはずれであることに基づいてカットイン演出の実行の有無及び演出パターンを決定し（208SGS318）、208SGS308～208SGS310の処理を実行する。尚、208SGS318では、図15-21（B）に示すように、設定値が1～3のいずれかであり可変表示結果がはずれであることに基づいて、カットイン演出の非実行を55%の割合で決定する。また、カットイン演出の実行として、演出パターンを35%の割合でパターンC I－1に決定し、10%の割合でパターンC I－2に決定し、0%の割合でパターンC I－3に決定し、0%の割合でパターンC I－4に決定する。

10

【1378】

また、208SGS312においてパチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかである場合（208SGS312；N）、演出制御用CPU120は、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4であるか否かを判定する（208SGS221）。パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4である場合（208SGS321；Y）は、更に可変表示結果が大当たりであるか否かを判定する（208SGS322）。尚、可変表示結果が大当たりであるか否かは、変動パターンがスーパーリーチγ大当たりのPB1-4であるか否かを判定すればよい。

20

【1379】

可変表示結果が大当たりである場合（208SGS322；Y）は、大当たり種別を特定し（208SGS323）、該大当たり種別が大当たりAまたは大当たりBであるか否かを判定する（208SGS324）。

【1380】

大当たり種別が大当たりAまたは大当たりBである場合（208SGS324；Y）は、設定値が4であることと大当たり種別が大当たりAまたは大当たりBであることに基づいてカットイン演出の実行の有無及び演出パターンを決定し（208SGS325）、208SGS308～208SGS310の処理を実行する。尚、208SGS325では、図15-21（C）に示すように、設定値が4であり大当たり種別が大当たりAまたは大当たりBであることに基づいて、カットイン演出の非実行を10%の割合で決定する。また、カットイン演出の実行として、演出パターンを30%の割合でパターンC I－1に決定し、50%の割合でパターンC I－2に決定し、10%の割合でパターンC I－3に決定し、0%の割合でパターンC I－4に決定する。

30

【1381】

また、大当たり種別が大当たりCである場合（208SGS324；N）は、設定値が4であることと大当たり種別が大当たりCであることに基づいてカットイン演出の実行の有無及び演出パターンを決定し（208SGS326）、208SGS308～208SGS310の処理を実行する。尚、208SGS326では、図15-21（C）に示すように、設定値が4であり大当たり種別が大当たりCであることに基づいて、カットイン演出の非実行を10%の割合で決定する。また、カットイン演出の実行として、演出パターンを30%の割合でパターンC I－1に決定し、45%の割合でパターンC I－2に決定し、10%の割合でパターンC I－3に決定し、5%の割合でパターンC I－4に決定する。

40

【1382】

尚、208SGS322において可変表示結果がはずれである場合（208SGS322；N）は、更に遊技状態が高確高ベース状態であるか否かを判定する（208SGS327）。尚、遊技状態は、CPU103から受信した遊技状態指定コマンドから特定すればよい。

【1383】

遊技状態が高確高ベース状態である場合（208SGS327；Y）は、設定値が4で

50

あることと可変表示結果がはずれであること及び遊技状態が高確高ベース状態であることに基づいてカットイン演出の実行の有無及び演出パターンを決定し（208SGS328）、208SGS308～208SGS310の処理を実行する。尚、208SGS328では、図15-21（C）に示すように、設定値が4であることと可変表示結果がはずれであること及び遊技状態が高確高ベース状態であることに基づいて、カットイン演出の非実行を40%の割合で決定する。また、カットイン演出の実行として、演出パターンを30%の割合でパターンCⅠ-1に決定し、10%の割合でパターンCⅠ-2に決定し、20%の割合でパターンCⅠ-3に決定し、0%の割合でパターンCⅠ-4に決定する。

【1384】

また、遊技状態が低確高ベース状態または低確低ベース状態である場合（208SGS327；N）は、設定値が4であることと可変表示結果がはずれであること及び遊技状態が低確高ベース状態または低確低ベース状態であることに基づいてカットイン演出の実行の有無及び演出パターンを決定し（208SGS329）、208SGS308～208SGS310の処理を実行する。尚、208SGS329では、図15-21（C）に示すように、設定値が4であることと可変表示結果がはずれであること及び遊技状態が低確高ベース状態または低確低ベース状態であることに基づいて、カットイン演出の非実行を59%の割合で決定する。また、カットイン演出の実行として、演出パターンを30%の割合でパターンCⅠ-1に決定し、10%の割合でパターンCⅠ-2に決定し、1%の割合でパターンCⅠ-3に決定し、0%の割合でパターンCⅠ-4に決定する。

【1385】

また、208SGS321においてパチンコ遊技機1に設定されている設定値が4ではない場合（208SGS321；N）、演出制御用CPU120は、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が5であるか否かを判定する（208SGS330）。パチンコ遊技機1に設定されている設定値が5である場合（208SGS330；Y）は、更に可変表示結果が大当たりであるか否かを判定する（208SGS331）。尚、可変表示結果が大当たりであるか否かは、変動パターンがスーパーリーチγ大当たりのPB1-4であるか否かを判定すればよい。

【1386】

可変表示結果が大当たりである場合（208SGS331；Y）は、大当たり種別を特定し（208SGS332）、該大当たり種別が大当たりAまたは大当たりBであるか否かを判定する（208SGS333）。

【1387】

大当たり種別が大当たりAまたは大当たりBである場合（208SGS333；Y）は、設定値が5であることと大当たり種別が大当たりAまたは大当たりBであることに基づいてカットイン演出の実行の有無及び演出パターンを決定し（208SGS334）、208SGS308～208SGS310の処理を実行する。尚、208SGS334では、図15-21（D）に示すように、設定値が5であり大当たり種別が大当たりAまたは大当たりBであることに基づいて、カットイン演出の非実行を10%の割合で決定する。また、カットイン演出の実行として、演出パターンを30%の割合でパターンCⅠ-1に決定し、50%の割合でパターンCⅠ-2に決定し、10%の割合でパターンCⅠ-3に決定し、0%の割合でパターンCⅠ-4に決定する。

【1388】

また、大当たり種別が大当たりCである場合（208SGS333；N）は、設定値が5であることと大当たり種別が大当たりCであることに基づいてカットイン演出の実行の有無及び演出パターンを決定し（208SGS335）、208SGS308～208SGS310の処理を実行する。尚、208SGS335では、図15-21（D）に示すように、設定値が5であり大当たり種別が大当たりCであることに基づいて、カットイン演出の非実行を10%の割合で決定する。また、カットイン演出の実行として、演出パターンを30%の割合でパターンCⅠ-1に決定し、45%の割合でパターンCⅠ-2に決定し、10%の割合でパターンCⅠ-3に決定し、5%の割合でパターンCⅠ-4に決定する。

【1389】

尚、208SGS331において可変表示結果がはずれである場合（208SGS331；N）は、更に遊技状態が高確高ベース状態であるか否かを判定する（208SGS336）。尚、遊技状態は、CPU103から受信した遊技状態指定コマンドから特定すればよい。

【1390】

遊技状態が高確高ベース状態である場合（208SGS336；Y）は、設定値が5であることと可変表示結果がはずれであること及び遊技状態が高確高ベース状態であることに基づいてカットイン演出の実行の有無及び演出パターンを決定し（208SGS337）、208SGS308～208SGS310の処理を実行する。尚、208SGS337では、図15-21（D）に示すように、設定値が5であることと可変表示結果がはずれであること及び遊技状態が高確高ベース状態であることに基づいて、カットイン演出の非実行を35%の割合で決定する。また、カットイン演出の実行として、演出パターンを30%の割合でパターンCⅠ-1に決定し、10%の割合でパターンCⅠ-2に決定し、25%の割合でパターンCⅠ-3に決定し、0%の割合でパターンCⅠ-4に決定する。

10

【1391】

また、遊技状態が低確高ベース状態または低確低ベース状態である場合（208SGS336；N）は、設定値が5であることと可変表示結果がはずれであること及び遊技状態が低確高ベース状態または低確低ベース状態であることに基づいてカットイン演出の実行の有無及び演出パターンを決定し（208SGS338）、208SGS308～208SGS310の処理を実行する。尚、208SGS338では、図15-21（D）に示すように、設定値が5であることと可変表示結果がはずれであること及び遊技状態が低確高ベース状態または低確低ベース状態であることに基づいて、カットイン演出の非実行を58%の割合で決定する。また、カットイン演出の実行として、演出パターンを30%の割合でパターンCⅠ-1に決定し、10%の割合でパターンCⅠ-2に決定し、2%の割合でパターンCⅠ-3に決定し、0%の割合でパターンCⅠ-4に決定する。

20

【1392】

また、208SGS330においてパチンコ遊技機1に設定されている設定値が5ではない場合（208SGS330；N）、演出制御用CPU120は、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が6であるとして、可変表示結果が大当たりであるか否かを判定する（208SGS339）。尚、可変表示結果が大当たりであるか否かは、変動パターンがスーパーリーチγ大当たりのPB1-4であるか否かを判定すればよい。

30

【1393】

可変表示結果が大当たりである場合（208SGS339；Y）は、大当たり種別を特定し（208SGS340）、該大当たり種別が大当たりAまたは大当たりBであるか否かを判定する（208SGS341）。

【1394】

大当たり種別が大当たりAまたは大当たりBである場合（208SGS341；Y）は、設定値が6であることと大当たり種別が大当たりAまたは大当たりBであることに基づいてカットイン演出の実行の有無及び演出パターンを決定し（208SGS342）、208SGS308～208SGS310の処理を実行する。尚、208SGS342では、図15-21（E）に示すように、設定値が6であり大当たり種別が大当たりAまたは大当たりBであることに基づいて、カットイン演出の非実行を10%の割合で決定する。また、カットイン演出の実行として、演出パターンを30%の割合でパターンCⅠ-1に決定し、50%の割合でパターンCⅠ-2に決定し、10%の割合でパターンCⅠ-3に決定し、0%の割合でパターンCⅠ-4に決定する。

40

【1395】

また、大当たり種別が大当たりCである場合（208SGS341；N）は、設定値が6であることと大当たり種別が大当たりCであることに基づいてカットイン演出の実行の有無及び演出パターンを決定し（208SGS343）、208SGS308～208SGS31

50

0の処理を実行する。尚、208SGS343では、図15-21(E)に示すように、設定値が6であり大当り種別が大当りCであることに基づいて、カットイン演出の非実行を10%の割合で決定する。また、カットイン演出の実行として、演出パターンを30%の割合でパターンCⅠ-1に決定し、45%の割合でパターンCⅠ-2に決定し、10%の割合でパターンCⅠ-3に決定し、5%の割合でパターンCⅠ-4に決定する。

【1396】

尚、208SGS339において可変表示結果がはずれである場合(208SGS339;N)は、更に遊技状態が高確高ベース状態であるか否かを判定する(208SGS344)。尚、遊技状態は、CPU103から受信した遊技状態指定コマンドから特定すればよい。

【1397】

遊技状態が高確高ベース状態である場合(208SGS344;Y)は、設定値が6であることと可変表示結果がはずれであること及び遊技状態が高確高ベース状態であることに基づいてカットイン演出の実行の有無及び演出パターンを決定し(208SGS345)、208SGS308~208SGS310の処理を実行する。尚、208SGS345では、図15-21(E)に示すように、設定値が6であることと可変表示結果がはずれであること及び遊技状態が高確高ベース状態であることに基づいて、カットイン演出の非実行を30%の割合で決定する。また、カットイン演出の実行として、演出パターンを30%の割合でパターンCⅠ-1に決定し、10%の割合でパターンCⅠ-2に決定し、30%の割合でパターンCⅠ-3に決定し、0%の割合でパターンCⅠ-4に決定する。

【1398】

また、遊技状態が低確高ベース状態または低確低ベース状態である場合(208SGS344;N)は、設定値が6であることと可変表示結果がはずれであること及び遊技状態が低確高ベース状態または低確低ベース状態であることに基づいてカットイン演出の実行の有無及び演出パターンを決定し(208SGS346)、208SGS308~208SGS310の処理を実行する。尚、208SGS346では、図15-21(E)に示すように、設定値が6であることと可変表示結果がはずれであること及び遊技状態が低確高ベース状態または低確低ベース状態であることに基づいて、カットイン演出の非実行を57%の割合で決定する。また、カットイン演出の実行として、演出パターンを30%の割合でパターンCⅠ-1に決定し、10%の割合でパターンCⅠ-2に決定し、3%の割合でパターンCⅠ-3に決定し、0%の割合でパターンCⅠ-4に決定する。

【1399】

また、208SGS302においてスーパーリーチδの変動パターン(PS2-5またはPB1-6)である場合(202SGS302;N)、演出制御用CPU120は、可変表示結果が大当りであるか否かを判定する(208SGS351)。尚、可変表示結果が大当りであるか否かは、変動パターンがスーパーリーチγ大当りのPB1-4であるか否かを判定すればよい。

【1400】

可変表示結果が大当りである場合(208SGS351;Y)は、大当り種別を特定し(208SGS352)、該大当り種別が大当りAまたは大当りBであるか否かを判定する(208SGS353)。

【1401】

大当り種別が大当りAまたは大当りBである場合(208SGS353;Y)は、大当り種別が大当りAまたは大当りBであることに基づいてカットイン演出の実行の有無及び演出パターンを決定し(208SGS354)、208SGS308~208SGS310の処理を実行する。尚、208SGS354では、図15-22に示すように、大当り種別が大当りAまたは大当りBであることに基づいて、カットイン演出の非実行を10%の割合で決定する。また、カットイン演出の実行として、演出パターンを30%の割合でパターンCⅠ-1に決定し、50%の割合でパターンCⅠ-2に決定し、10%の割合でパターンCⅠ-3に決定し、0%の割合でパターンCⅠ-4に決定する。

【1402】

また、大当り種別が大当りCである場合（208SGS353；N）は、大当り種別が大当りCであることに基づいてカットイン演出の実行の有無及び演出パターンを決定し（208SGS355）、208SGS308～208SGS310の処理を実行する。尚、208SGS355では、図15-22に示すように、大当り種別が大当りCであることに基づいて、カットイン演出の非実行を10%の割合で決定する。また、カットイン演出の実行として、演出パターンを30%の割合でパターンCⅠ-1に決定し、45%の割合でパターンCⅠ-2に決定し、10%の割合でパターンCⅠ-3に決定し、5%の割合でパターンCⅠ-4に決定する。

【1403】

尚、208SGS351において可変表示結果がはずれである場合（208SGS351；N）は、可変表示結果がはずれであることに基づいてカットイン演出の実行の有無及び演出パターンを決定し（208SGS356）、208SGS308～208SGS310の処理を実行する。尚、208SGS356では、図15-22に示すように、可変表示結果がはずれであることに基づいて、カットイン演出の非実行を35%の割合で決定する。また、カットイン演出の実行として、演出パターンを30%の割合でパターンCⅠ-1に決定し、10%の割合でパターンCⅠ-2に決定し、25%の割合でパターンCⅠ-3に決定し、0%の割合でパターンCⅠ-4に決定する。

【1404】

以上のように本実施の形態の特徴部208SGでは、図15-21及び図15-22に示すように、スーパーリーチγやスーパーリーチδの変動パターンにて可変表示を実行するときは、カットイン演出を実行しない場合が最も可変表示結果が大当りとなる割合（大当り期待度）が低く、カットイン演出がパターンCⅠ-1にて実行される場合、カットイン演出がパターンCⅠ-2にて実行される場合、カットイン演出がパターンCⅠ-3にて実行される場合、カットイン演出がパターンCⅠ-4にて実行される場合の順に可変表示結果が大当りとなる割合が高まっていくように設定されている（カットイン演出における大当り期待度：非実行<パターンCⅠ-1<パターンCⅠ-2<パターンCⅠ-3<パターンCⅠ-4）。

【1405】

特にカットイン演出がパターンCⅠ-4にて実行される場合は、パチンコ遊技機1に設定されている設定値にかかわらず可変表示結果が大当りとなり且つ大当り種別が大当りCとなることが確定する。

【1406】

また、図15-21、図15-22及び図15-24に示すように、スーパーリーチγやスーパーリーチδの変動パターンにて可変表示を実行するときにカットイン演出をパターンCⅠ-3にて実行する割合については、設定値が1～3のいずれかで変動パターンがスーパーリーチγはずれ・スーパーリーチδはずれである場合が最も低く設定（0%）されている。そして、変動パターンが復活演出を実行するスーパーリーチγ大当りである場合、設定値が1～3のいずれかで変動パターンが復活演出を実行しないスーパーリーチγ大当り・スーパーリーチδ大当りである場合、設定値が4であり変動パターンが復活演出を実行しないスーパーリーチγ大当りである場合、設定値が5であり変動パターンが復活演出を実行しないスーパーリーチγ大当りである場合、設定値が6であり変動パターンが復活演出を実行しないスーパーリーチγ大当りである場合の順でカットイン演出をパターンCⅠ-3にて実行する割合が高まるように設定されている。

【1407】

また、変動パターンが復活演出を実行しないスーパーリーチγの変動パターン（PA2-4とPB1-4）であるときに注目すると、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が1～3のときには、カットイン演出がパターンCⅠ-3にて実行される場合に可変表示結果が大当り（大当りA～大当りCのいずれか）となることが確定する一方で、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のときには、カットイン演出がパターンCⅠ-

10

20

30

40

50

3にて実行される場合であっても可変表示結果がはずれとなる場合がある。つまり、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであるときは、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が1～3のいずれかであるときよりもカットイン演出がパターンCⅠ-3にて実行される場合の大当たり期待度が低く設定されている。このため、本実施の形態の特徴部208SGにおいて、スーパーリーチγのリーチ演出が実行される場合にカットイン演出がパターンCⅠ-3にて実行されて可変表示結果がはずれとなると、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであることが確定する。

【1408】

一方で復活演出を実行するスーパーリーチγ大当りの変動パターン(PB1-5)に注目すると、復活演出を実行するスーパーリーチγ大当りの変動パターン(PB1-4)よりもカットイン演出がパターンCⅠ-3やパターンCⅠ-4にて実行される割合が低く設定されている。このため、復活演出を実行しないスーパーリーチγ大当りの変動パターンにて可変表示が実行される場合については、カットイン演出がCⅠ-3にて実行されてはずれが報知されたことにより、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであることが確定したと遊技者が認識したにもかかわらず、後に復活演出が実行されて大当たりであることが報知されることでパチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであるか否かが不定となってしまう遊技者が落胆してしまうことが抑制されている。

【1409】

また、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであり且つ変動パターンが復活演出を実行しないスーパーリーチγの変動パターン(PA2-4とPB1-4)であるときに注目すると、可変表示結果が大当たりとなる場合についてはいずれの設定値においてもカットイン演出がパターンCⅠ-3にて実行される割合が同一に設定されているが、可変表示結果がはずれとなる場合については、高設定値ほどカットイン演出がパターンCⅠ-3にて実行される割合が高く設定されている(設定値4～6のときのはずれ時のパターンCⅠ-3実行割合:設定値4<設定値5<設定値6)。

【1410】

このため、本実施の形態の特徴部208SGでは、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が高設定値であるほどカットイン演出がパターンCⅠ-3にて実行されて可変表示結果がはずれとなる頻度が高くなるので、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであることに対して遊技者を期待させることができ、遊技興趣の向上を図れるようになっている。

【1411】

また、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであり且つ変動パターンが復活演出を実行しないスーパーリーチγの変動パターン(PA2-4とPB1-4)であるときには、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が同一であり可変表示結果がはずれであれば、遊技状態が高確高ベース状態である場合には遊技状態が低確高ベース状態や低確低ベース状態である場合よりも高い割合でカットイン演出がパターンCⅠ-3で実行されるように設定されている。

【1412】

このため、本実施の形態の特徴部208SGでは、高確高ベース状態の可変表示においてカットイン演出がパターンCⅠ-3にて実行されて可変表示結果がはずれとなることで、遊技状態が低確低ベース状態に移行した後もパチンコ遊技機1に4～6のいずれかの設定値が設定されていることにより遊技者に遊技の継続を促すことができるので、遊技興趣を向上できるようになっている。

【1413】

また、図15-21(B)～図15-21(E)に示すように、可変表示結果がはずれとなる場合について注目すると、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が高いほどカットイン演出の実行割合が高く設定されている。つまり、本特徴部208SGでは、可変表示結果がはずれとなるときにカットイン演出が実行される割合自体がパチンコ遊技機1

10

20

30

40

50

に4～6の設定値のいずれかが設定されていることの示唆となるので、カットイン演出が大当たり期待度の高い演出パターンにて実行されるか否かに加えて、カットイン演出が実行されるか否か自体に対しても遊技者を注目させることができ、遊技興趣を向上させることが可能となっている。

【1414】

また、図15-21及び図15-22に示すカットイン演出の演出パターンの決定割合はあくまで一例であり、これらカットイン演出の演出パターンの決定割合は本発明を適用する遊技機に応じて本特徴部208SGとは適宜異ならせてもよい。但し、これらカットイン演出の演出パターンの決定割合を適宜異ならせる場合には、各演出パターンの大当たり期待度の傾向（カットイン演出における大当たり期待度：非実行<パターンCⅠ-1<パターンCⅠ-2<パターンCⅠ-3<パターンCⅠ-4）自体は維持することによって、カットイン演出の実行時に遊技者が当該カットイン演出の演出パターンに応じた大当たり期待度を誤認してしまわないようにすることが望ましい。

【1415】

また、本実施の形態の特徴部208SGでは、図15-21及び図15-22に示すように、スーパーリーチγやスーパーリーチδの変動パターンにて可変表示を実行する場合に、パチンコ遊技機1に設定されている設定値や可変表示結果に応じて該可変表示中にカットイン演出を実行する割合を異ならせる形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、スーパーリーチγやスーパーリーチδの変動パターンにて可変表示を実行する場合には、該可変表示中に必ずカットイン演出を実行するようにしてもよい。尚、このようにスーパーリーチγやスーパーリーチδの可変表示中に必ずカットイン演出を実行する場合については、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであれば、可変表示結果がはずれである場合にカットイン演出の非実行に割り当てられていた割合（図15-21（C）～図15-21（E）参照）を大当たり期待度の低いパターンCⅠ-1またはパターンCⅠ-1とパターンCⅠ-2との両方に割り当てることで、カットイン演出がパターンCⅠ-3にて実行される割合を本特徴部208SGから異ならないよう維持してもよい。このようにすることで、スーパーリーチγやスーパーリーチδの可変表示中においてカットイン演出が実行されることによる興趣向上を図りつつ、過度にカットイン演出がパターンCⅠ-3にて実行されることにより容易にパチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであることを遊技者に認識されてしまうことを防ぐことができる。

【1416】

図15-25は、図15-17における予告演出決定処理を示すフローチャートである。予告演出決定処理では、演出制御用CPU120は、まず、可変表示結果と変動パターンを特定する（208SGS361）。そして、可変表示結果が小当たりであるか否かを判定する（208SGS362）。可変表示結果が小当たりである場合（208SGS362；Y）は予告演出決定処理を終了し、可変表示結果が大当たりまたははずれである場合（208SGS362；N）は、更にカットイン演出の実行が決定されているか否か、すなわち、カットイン演出のいずれかの演出パターンが記憶されているか否かを判定する（208SGS363）。

【1417】

カットイン演出の実行が決定されている場合（208SGS363；Y）は、更に、記憶されているカットイン演出の演出パターンがパターンCⅠ-3またはパターンCⅠ-4であるか否かを判定する（208SGS364）。記憶されているカットイン演出の演出パターンがパターンCⅠ-3またはパターンCⅠ-4である場合（208SGS364；Y）は、カットイン演出がパターンCⅠ-3またはパターンCⅠ-4にて実行されることと、特定した可変表示結果及び変動パターンに基づいて予告演出の実行の有無と演出パターンを決定する（208SGS365）。

【1418】

一方で、カットイン演出の非実行が決定されている場合（208SGS363；N）や

記憶されている演出パターンがパターンC I-1やC I-2である場合（208SGS364;N）は、可変表示結果が大当りであるか否かを判定する（208SGS366）。可変表示結果が大当りである場合（208SGS366;Y）は、大当り種別を特定し（208SGS367）、該特定した大当り種別に基づいて予告演出の実行の有無と演出パターンを決定する（208SGS368）。

【1419】

また、可変表示結果がはずれである場合（208SGS366;N）は、特定した可変表示結果と変動パターンに基づいて予告演出の実行の有無と演出パターンを決定する（208SGS369）。

【1420】

具体的には、208SGS365の処理では、図15-26（A）に示すように、可変表示結果が大当りである場合は、予告演出の非実行を15%の割合で決定する。また、予告演出の実行として、演出パターンを30%の割合でパターンY E-1に決定し、55%の割合でパターンY E-2に決定し、0%の割合でパターンY E-3に決定し、0%の割合でパターンY E-4に決定する。また、可変表示結果がはずれであり変動パターンがスーパーリーチ（スーパーリーチはずれ）である場合は、予告演出の非実行を50%の割合で決定する。また、予告演出の実行として、演出パターンを30%の割合でパターンY E-1に決定し、20%の割合でパターンY E-2に決定し、0%の割合でパターンY E-3に決定し、0%の割合でパターンY E-4に決定する。

【1421】

また、可変表示結果がはずれであり変動パターンがノーマルリーチ（ノーマルリーチはずれ）である場合は、予告演出の非実行を80%の割合で決定する。また、予告演出の実行として、演出パターンを15%の割合でパターンY E-1に決定し、5%の割合でパターンY E-2に決定し、0%の割合でパターンY E-3に決定し、0%の割合でパターンY E-4に決定する。また、可変表示結果がはずれであり変動パターンが非リーチ（非リーチはずれ）である場合は、予告演出の非実行を95%の割合で決定する。また、予告演出の実行として、演出パターンを5%の割合でパターンY E-1に決定し、0%の割合でパターンY E-2に決定し、0%の割合でパターンY E-3に決定し、0%の割合でパターンY E-4に決定する。

【1422】

尚、前述したように、本実施の形態の特徴部208SGでは、カットイン演出がパターンC I-3にて実行されて可変表示結果がはずれとなる場合とは、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4~6のいずれかであり、且つ変動パターンがスーパーリーチγはずれ（PA2-4）の変動パターンである場合である。

【1423】

図15-26（C）及び図15-30に示すように、パターンY E-1は、画像表示装置5においてキャラクタAの画像208SG005sを青色のエフェクトと共に表示する演出パターンであり、パターンY E-2は、画像表示装置5においてキャラクタBの画像208SG005tを赤色のエフェクトと共に表示する演出パターンであり、パターンY E-3は、画像表示装置5においてキャラクタCの画像208SG005uを金色のエフェクトと共に表示する演出パターンであり、パターンY E-4は、画像表示装置5においてキャラクタA~Cの集合画像208SG005vを虹色のエフェクトと共に表示する演出パターンである。

【1424】

また、208SGS368の処理では、図15-26（B）に示すように、大当り種別が大当りAまたは大当りBである場合は、予告演出の非実行を10%の割合で決定する。また、予告演出の実行として、演出パターンを30%の割合でパターンY E-1に決定し、45%の割合でパターンY E-2に決定し、15%の割合でパターンY E-3に決定し、0%の割合でパターンY E-4に決定する。また、大当り種別が大当りCである場合は、予告演出の非実行を10%の割合で決定する。また、予告演出の実行として、演出パタ

10

20

30

40

50

ーンを30%の割合でパターンYE-1に決定し、40%の割合でパターンYE-2に決定し、15%の割合でパターンYE-3に決定し、5%の割合でパターンYE-4に決定する。

【1425】

また、208SGS369の処理では、図15-26(B)に示すように、可変表示結果がはずれであり変動パターンがスーパーリーチ（スーパーリーチはずれ）である場合は、予告演出の非実行を50%の割合で決定する。また、予告演出の実行として、演出パターンを30%の割合でパターンYE-1に決定し、15%の割合でパターンYE-2に決定し、5%の割合でパターンYE-3に決定し、0%の割合でパターンYE-4に決定する。また、

10

更に、可変表示結果がはずれであり変動パターンがノーマルリーチ（ノーマルリーチはずれ）である場合は、予告演出の非実行を80%の割合で決定する。また、予告演出の実行として、演出パターンを15%の割合でパターンYE-1に決定し、5%の割合でパターンYE-2に決定し、0%の割合でパターンYE-3に決定し、0%の割合でパターンYE-4に決定する。また、可変表示結果がはずれであり変動パターンが非リーチ（非リーチはずれ）である場合は、予告演出の非実行を95%の割合で決定する。また、予告演出の実行として、演出パターンを5%の割合でパターンYE-1に決定し、0%の割合でパターンYE-2に決定し、0%の割合でパターンYE-3に決定し、0%の割合でパターンYE-4に決定する。

【1426】

20

以上のように本実施の形態の特徴部208SGでは、可変表示中に予告演出が実行されない場合が最も可変表示結果が大当たりとなる割合（大当たり期待度）が低く設定されており、予告演出がパターンYE-1で実行される場合、予告演出がパターンYE-2で実行される場合、予告演出がYE-3で実行される場合、予告演出がYE-4で実行される場合の順で可変表示結果が大当たりとなる割合が高くなるように設定されている（予告演出の大当たり期待度：予告演出非実行<パターンYE-1で実行<パターンYE-2で実行<パターンYE-3で実行<パターンYE-4で実行）。

【1427】

特に、図15-26(B)に示すように、カットイン演出の非実行が決定されている場合やカットイン演出がパターンCI-3やパターンCI-4よりも大当たり期待度の低いパターンCI-1やパターンCI-2での実行が決定されている場合については、大当たり種別が大当たりCである場合のみ予告演出をパターンYE-4にて実行する場合が設けられている。このため、本実施の形態の特徴部208SGでは、予告演出がパターンYE-3にて実行されるか否かに加えて、予告演出がパターンYE-4にて実行されるか否かについても遊技者を注目させることが可能となっている。

30

【1428】

また、図15-26(A)に示すように、既にカットイン演出の演出パターンとしてパターンCI-1やパターンCI-2よりも大当たり期待度が高いパターンCI-3、または可変表示結果が大当たりとなることと大当たり種別が大当たりCであることが確定するパターンCI-4が決定されている場合については、可変表示結果や変動パターンにかかわらず予告演出の演出パターンとしてYE-3やYE-4が実行されることが無いように設定されている。このため、可変表示結果が大当たりとなる場合については、カットイン演出がパターンYE-1やパターンYE-2のみで実行可能であることにより、可変表示結果が大当たりとなることがカットイン演出の開始タイミングよりも前のタイミング（予告演出の開始タイミング）にて遊技者に認識されてしまうことが防止されている。更に、可変表示結果がはずれとなる場合については、予告演出とカットイン演出とが共に大当たり期待度の高い演出パターンにて実行されないため、可変表示結果が大当たりとなることに対して遊技者が過度に期待してしまうことが防止されている。

40

【1429】

208SGS365、208SGS368、208SGS369のいずれかの処理を実

50

行した後、演出制御用CPU120は、予告演出の実行を決定したか否かを判定する（208SGS370）。予告演出の実行を決定している場合（208SGS370；Y）は、208SGS365、208SGS368、208SGS369のいずれかの処理で決定した演出パターンを記憶するとともに（208SGS371）、予告演出開始待ちタイマをセットして予告演出決定処理を終了する（208SGS372）。予告演出の非実行を決定している場合（208SGS370；N）は、208SGS371、208SGS372の処理を実行することなく予告演出決定処理を終了する。

【1430】

尚、予告演出決定処理において予告演出の実行を決定した場合、演出制御用CPU120は、可変表示中演出処理（S172）を実行する毎に予告演出開始待ちタイマの値を－1していき、予告演出開始待ちタイマがタイマアウトした場合は、決定した演出パターンに応じた予告演出用プロセステーブルをセットする。以降、演出制御用CPU120は、可変表示中演出処理を実行する毎に予告演出用プロセステーブル内のデータ（プロセスデータ）の内容に従って演出装置（画像表示装置5、スピーカ8L、8R、遊技効果ランプ9等）の制御を行うことによって予告演出を実行すればよい。

【1431】

以上のように可変表示開始設定処理内においてカットイン演出と予告演出との実行を決定可能とすることによって、図15-27（A）～図15-27（C）に示すように、非リーチはずれの変動パターンにおいては、可変表示中に予告演出をパターンYE-1でのみ実行可能となっており、ノーマルリーチはずれの変動パターンにおいては、可変表示中のリーチ前の期間において予告演出をパターンYE-1とパターンYE-2とで実行可能となっており、スーパーリーチαはずれやスーパーリーチβはずれの変動パターンにおいては、可変表示中のリーチ前の期間において予告演出をパターンYE-1～パターンYE-3で実行可能となっている。尚、ノーマルリーチはずれやスーパーリーチαはずれ、スーパーリーチγはずれの変動パターンでは、リーチ後の期間においてカットイン演出を実行不能となっている。

【1432】

更に、図15-28に示すように、スーパーリーチγはずれやスーパーリーチδはずれの変動パターンにおいては、リーチ前の期間において予告演出をパターンYE-1～パターンYE-3で実行可能となっており、リーチ後の期間においてカットイン演出をパターンCI-1～パターンCI-3で実行可能となっている。但し、カットイン演出がパターンCI-3での実行が決定されている場合は、予告演出はパターンYE-1とパターンYE-2のみで実行可能となっている。

【1433】

また、図15-29（A）及び図15-29（B）に示すように、復活演出を実行しないスーパーリーチγ大当りの変動パターンにおいては、リーチ前の期間において予告演出をパターンYE-1～パターンYE-4で実行可能となっており、リーチ後の期間においてカットイン演出をパターンCI-1～パターンCI-4で実行可能となっている。但し、カットイン演出がパターンCI-3またはパターンCI-4での実行が決定されている場合は、予告演出はパターンYE-1とパターンYE-2のみで実行可能となっている。

【1434】

次に、本実施の形態の特徴部208SGにおける可変表示実行時の画像表示装置5の表示態様について図15-30～図15-32に基づいて説明する。まず、図15-30（A）～図15-30（E）に示すように、可変表示の開始時に予告演出の実行が決定されている場合は、画像表示装置5において予告演出がパターンYE-1～パターンYE-4のいずれかで実行される。具体的には、予告演出がパターンYE-1で実行される場合は、画像表示装置5においてキャラクタAの画像208SG005sが青色のエフェクトと共に表示され、予告演出がパターンYE-2で実行される場合は、画像表示装置5においてキャラクタBの画像208SG005tが赤色のエフェクトと共に表示され、予告演出がパターンYE-3で実行される場合は、画像表示装置5においてキャラクタCの画像2

08SG005uが金色のエフェクトと共に表示され、予告演出がパターンYE-4で実行される場合は、画像表示装置5においてキャラクタA～Cの集合画像208SG005vが虹色のエフェクトと共に表示される。

【1435】

このとき、遊技者は、画像表示装置5に表示された画像がいずれのキャラクタの画像208SG005s、208SG005t、208SG005u、208SG005vのいずれであるか及び、これらキャラクタの画像とともに表示されるエフェクトの色によって大当たり期待度を認識することが可能となっている。

【1436】

尚、前述したように、可変表示の開始時にカットイン演出がパターンCI-3やパターンCI-4で実行が決定している場合は、予告演出がパターンYE-1またはパターンYE-2でのみ実行可能となっている。

【1437】

そして、当該可変表示がスーパーリーチγの可変表示である場合は、図15-31(A)～図15-31(C)に示すように飾り図柄がリーチの組合せで表示された後、スーパーリーチγのリーチ演出(本特徴部208SGでは味方キャラクタと敵キャラクタとが戦うバトル演出)が実行される。

【1438】

次いで、図15-31(D)に示すように、該スーパーリーチγのリーチ演出中のカットイン演出実行開始タイミングとなると、画像表示装置5においてプッシュボタン31Bの画像の表示が開始され、遊技者に対してプッシュボタン31Bを操作するように促す促進報知が実施される。このとき、遊技者がプッシュボタン31Bの操作受付期間中にプッシュボタン31Bを操作する、または、遊技者がプッシュボタン31Bの操作受付期間中にプッシュボタン31Bを操作することなく該プッシュボタン31Bの操作受付期間が経過すると、画像表示装置5においてカットイン演出の演出パターンに応じたカットイン画像とともにエフェクトが表示される。

【1439】

具体的には、カットイン演出の演出パターンがパターンCI-1である場合は、画像表示装置5においてカットイン画像208SG005wが青色のエフェクトと共に表示され、カットイン演出がパターンCI-2で実行される場合は、画像表示装置5においてカットイン画像208SG005xが赤色のエフェクトと共に表示され、カットイン演出がパターンCI-3で実行される場合は、画像表示装置5においてカットイン画像208SG005yが金色のエフェクトと共に表示され、予告演出がパターンYE-4で実行される場合は、画像表示装置5においてカットイン画像208SG005zが虹色のエフェクトと共に表示される。

【1440】

このとき、遊技者は、画像表示装置5に表示されたカットイン画像がいずれのカットイン画像208SG005w、208SG005x、208SG005y、208SG005zのいずれであるか及び、これらカットイン画像とともに表示されるエフェクトの色によって大当たり期待度を認識することが可能となっている。

【1441】

そして、図15-32(A)及び図15-32(B)に示すように、当該可変表示の変動パターンがPS2-4(スーパーリーチγはずれの変動パターン)である場合は、スーパーリーチγのリーチ演出結果(バトル演出結果)として味方キャラクタが敵キャラクタに負けることによって可変表示結果がはずれであることが報知されて可変表示が終了する。また、図15-32(A)及び図15-32(C)に示すように、当該可変表示の変動パターンがPB1-4(復活演出を実行しないスーパーリーチγ大当りの変動パターン)である場合は、スーパーリーチγのリーチ演出結果(バトル演出結果)として味方キャラクタが敵キャラクタに勝利することによって可変表示結果が大当たりであることが報知されて可変表示が終了する。

10

20

30

40

50

【1442】

また、図15-32(A)、図15-32(D)～図15-32(F)に示すように、当該可変表示の変動パターンがPB1-5(復活演出を実行するスーパーリーチγ大当りの変動パターン)である場合は、スーパーリーチγのリーチ演出結果(バトル演出結果)として味方キャラクタが敵キャラクタに敗北することによって一旦可変表示結果がはずれであることが報知される。そして、復活演出が実行されることで、スーパーリーチγのリーチ演出結果(バトル演出結果)として味方キャラクタが敵キャラクタに逆転して勝利することによって可変表示結果が大当りであることが改めて報知され、可変表示が終了する。

【1443】

尚、特に図示はしないが、当該可変表示がスーパーリーチδの可変表示である場合は、飾り図柄がリーチの組合せで表示された後、スーパーリーチγのリーチ演出と同様に味方キャラクタと敵キャラクタとが戦うバトル演出)が実行される。そして、該バトル演出中にカットイン演出が実行される場合は、該カットイン演出がパターンC1-3にて実行されることによって可変表示結果が必ず大当りとなる。尚、スーパーリーチδのリーチ演出としてのバトル演出は、スーパーリーチγのリーチ演出としてのバトル演出と同一態様の演出であってもよいが、対戦するキャラクタやバトルの展開の一部異なるものであってもよい。

10

【1444】

以上、本実施の形態の特徴部208SGでは、図15-21に示すように、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が1～3のいずれかであるときは、カットイン演出がパターンC1-3にて実行されることによって可変表示結果が大当りとなることが確定する一方で、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであるときは、カットイン演出がパターンC1-3にて実行されて可変表示結果がはずれとなる場合が設けられている。つまり、カットイン演出がパターンC1-3にて実行されて可変表示結果がはずれとなる場合は、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであることが確定するので、カットイン演出がパターンC1-3にて実行された場合に可変表示結果が大当りとなるかははずれとなるかに遊技者を注目させることができ、遊技興趣を向上させることができるようになっている。

20

【1445】

加えて、本実施の形態の特徴部208SGでは、図15-21に示すように、リーチ演出中にカットイン演出を実行可能な変動パターンとして、一旦可変表示結果がはずれであることを報知した後に復活演出を実行して可変表示結果が大当りであることを報知するスーパーリーチγ大当りの変動パターン(復活演出を実行するスーパーリーチγ大当りの変動パターン、PB1-5)と復活演出を実行しないスーパーリーチγ大当りの変動パターン(PB1-4)とが設けられており、復活演出を実行するスーパーリーチγ大当りの変動パターンにて可変表示を実行する場合は、復活演出を実行しないスーパーリーチγ大当りの変動パターンにて可変表示を実行する場合よりもカットイン演出をパターンC1-3で実行する割合が低く設定されている。このため、スーパーリーチγのリーチ演出中にカットイン演出がパターンC1-3で実行されて可変表示がはずれであることが報知された場合、遊技者がパチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであると認識しても、復活演出が実行されて可変表示が大当りであることが報知されることによって、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであると認識したことが誤りとなることによる遊技興趣の低下を軽減することができる。

30

40

【1446】

尚、本実施の形態の特徴部208SGでは、パチンコ遊技機1に設定される設定値として、不利設定値を1～3、有利設定値を4～6とし、パチンコ遊技機1に設定されている設定値がこれら不利設定値であるか有利設定値であるかに応じてカットイン演出や予告演出の演出パターンの決定割合を異ならせているが、本発明はこれに限定されるものではなく、不利設定値は1、有利設定値は6を含んでいれば、お互いに値が重複しない任意の範囲に設定してもよい。具体的には、不利設定値を1～5、有利設定値を6のみとしてもよ

50

いし、不利設定値を 1 のみ、有利設定値を 2 ～ 6 としてもよい。

【1447】

また、本実施の形態の特徴部 208SG では、本発明における示唆演出をリーチ演出として説明する形態を例示したが、発明はこれに限定されるものではなく、本発明における示唆演出は、可変表示中に実行可能な演出であれば、例えば、飾り図柄の仮停止と再可変表示を繰り返し実行する擬似連演出等、リーチ演出以外の演出であってもよい。

【1448】

また、図 15-21 (C) ～図 15-21 (E) に示すように、パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値が 4 ～ 6 のいずれかであるときにスーパーリーチ γ はずれの変動パターンにて可変表示が実行される場合には、パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値が 6 である場合が最もカットイン演出がパターン C I-3 にて実行される割合が高く、パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値が 4 である場合が最もカットイン演出がパターン C I-3 にて実行される割合が低く設定されている。このため、パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値が高いほど、カットイン演出がパターン C I-3 にて高頻度で実行されて可変表示結果がはずれとなり、パチンコ遊技機 1 により高い設定値が設定されていることに對して遊技者を期待させることができるので、遊技興趣を向上できる。

【1449】

尚、実施の形態の特徴部 208SG では、パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値が 4 ～ 6 のいずれかであるときにスーパーリーチ γ はずれの変動パターンにて可変表示が実行される場合については、パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値が高設定値であるほどカットイン演出がパターン C I-3 にて実行される割合が高くなる形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値が 4 ～ 6 のいずれかであるときにスーパーリーチ γ はずれの変動パターンにて可変表示が実行される場合には、パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値にかかわらずカットイン演出がパターン C I-3 にて実行される割合を同一割合としてもよい。このようにすることでスーパーリーチ γ はずれの可変表示においてカットイン演出がパターン C I-3 にて実行される場合に、パチンコ遊技機 1 に設定されている設定値が 4 ～ 6 のいずれかであるかが遊技者に特定され難くすることができる。

【1450】

また、図 15-6 に示すように、いずれのリーチ演出を実行するか否か及び復活演出を実行するか否かは、各変動パターンに對付けて予め決定されているとともに、図 15-13 (A) に示すように、可変表示結果が大当たりとなる場合は、CPU 103 がパチンコ遊技機 1 に設定されている設定値にかかわらず 1 の大当たり用変動パターン判定テーブルを用いて変動パターンを決定するので、可変表示結果が大当たりとなる場合に可変表示中に復活演出を実行する割合はパチンコ遊技機 1 に設定されている設定値にかかわらず同一となっている。このため、可変表示中の復活演出の実行割合は可変表示結果が大当たりとなる割合を決める設定値に追隨するため、可変表示中に復活演出が実行されるか否かに遊技者を注目させることができ、遊技興趣を向上できる。

【1451】

尚、本実施の形態の特徴部 208SG では、いずれのリーチ演出を実行するか否か及び復活演出を実行するか否かは、各変動パターンに對付けて予め決定されている形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、いずれのリーチ演出を実行するか否か及び復活演出を実行するか否かは、CPU 103 が変動パターンを決定した後に演出制御用 CPU 120 が可変表示結果等から適宜決定してもよい。

【1452】

また、図 15-6 及び図 15-22 に示すように、本実施の形態の特徴部 208SG における変動パターンとしては、スーパーリーチ δ のリーチ演出を実行する変動パターン (PA 2-5 と PB 1-6) が設けられており、該スーパーリーチ δ のリーチ演出中にカットイン演出がパターン C I-3 にて実行される場合は必ず可変表示結果が大当たりとなるので、スーパーリーチ演出のバリエーションが増えるとともに、スーパーリーチ δ のリーチ

演出中にカットイン演出がパターンＣＩ－３にて実行されて可変表示結果が大当たりとなるか否かに遊技者を注目させることができるので、遊技興趣を向上できる。

【１４５３】

尚、本実施の形態の特徴部２０８ＳＧでは、スーパーリーチδのリーチ演出を実行する変動パターン（ＰＡ２－５とＰＢ１－６）を設ける形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、スーパーリーチδのリーチ演出を実行する変動パターンを設けないようにしてもよい。

【１４５４】

また、本実施の形態の特徴部２０８ＳＧでは、可変表示中に実行可能な演出として、可変表示の開始からリーチまで（若しくは可変表示の終了タイミングまで）の期間中に実行可能な予告演出と、リーチ演出中に実行可能なカットイン演出と、が設けられている。更に、予告演出は、大当たり期待度が異なる複数の演出パターン（パターンＹＥ－１～パターンＹＥ－４）のいずれかで実行可能となっている。更に、図１５－２６に示すように、可変表示結果が大当たりであり、カットイン演出が大当たり期待度の高い演出パターンであるパターンＣＩ－３やパターンＣＩ－４での実行が決定しているときは、予告演出を実行する場合、大当たり期待度の高いパターンＹＥ－３とパターンＹＥ－４を除く演出パターン（パターンＹＥ－１とパターンＹＥ－２）から演出パターンを決定するので、予告演出がパターンＹＥ－３やＹＥ－４にて実行されることにより可変表示結果が大当たりとなることが予め遊技者に認識されることを防止できる。このため、カットイン演出のパターンＣＩ－４での実行が決定している場合は、予告演出をパターンＹＥ－１やパターンＹＥ－２にて実行することによって、可変表示結果が大当たりとなるか否かに可変表示が終了するまで注目させることができ、遊技興趣の向上を図ることができる。

【１４５５】

また、本実施の形態の特徴部２０８ＳＧでは、図１５－２７及び図１５－２８に示すように、１の可変表示中において、予告演出をカットイン演出よりも前のタイミング（可変表示の開始からリーチまでの期間中）に実行可能とすることで、可変表示結果が大当たりとなる場合に、カットイン演出が実行されるよりも前のタイミングから可変表示結果が大当たりとなると遊技者に認識されることを防いで遊技興趣の低下を防ぐことができる。

【１４５６】

尚、本実施の形態の特徴部２０８ＳＧでは、１の可変表示中において、予告演出をカットイン演出よりも前にタイミングに実行可能とする形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、予告演出は、カットイン演出を実行する可変表示よりも前に実行する可変表示中において先読み演出として実行してもよい。更に、予告演出は、カットイン演出を開始してからリーチ演出が終了するまでの期間中に実行することで、該カットイン演出を開始してからリーチ演出が終了するまでの期間において可変表示結果が大当たりとなることを遊技者に認識されることを防ぎ、遊技興趣の低下を防ぐようにしてもよい。

【１４５７】

また、図１５－２１及び図１５－２２に示すように、可変表示結果が大当たりとなるときについては、カットイン演出がパターンＣＩ－４にて実行される場合は必ず大当たり種別が大当たりＣとなる一方で、カットイン演出がパターンＣＩ－３にて実行される場合は大当たり種別が大当たりＡ、大当たりＢ、大当たりＣのいずれにもなり得るので、可変表示中にカットイン演出がパターンＣＩ－４にて実行されるか否かに遊技者を注目させることができる。更に、カットイン演出がパターンＣＩ－３にて実行される場合は、大当たり種別として大当たりＡや大当たりＢとなる可能性も有るので、カットイン演出がパターンＣＩ－３にて実行されて可変表示結果がはずれとなる場合については、遊技者に対して仮に大当たりとなったとしても大当たりＡや大当たりＢであったかもしれないと思わせることができるので、可変表示結果がはずれとなったことに対する遊技興趣の低下を軽減することができる。

【１４５８】

また、図１５－２６に示すように、パチンコ遊技機１に設定値として４～６のいずれかが設定されており（つまり、カットイン演出がパターンＣＩ－３にて実行されて可変表示

10

20

30

40

50

結果がはずれとなる可能性があるとき)、カットイン演出が大当たり期待度の高い演出パターンであるパターンC I-3での実行が決定している場合は、予告演出を実行する場合、大当たり期待度の高いパターンY E-3とパターンY E-4を除く演出パターン(パターンY E-1とパターンY E-2)から演出パターンを決定するので、予告演出がパターンY E-3やY E-4にて実行されることにより可変表示結果が大当たりとなることが予め遊技者に認識されることを防止できる。このため、可変表示結果が大当たりとならないにもかかわらず、同一可変表示中においてパターンC I-3とパターンY E-3やY E-4が実行されることにより可変表示結果が大当たりとなることに対する遊技者の期待感を過度に高めてしまうことを防止することができる。

【1459】

尚、本実施の形態の特徴部208SGでは、パチンコ遊技機1に設定値として4~6のいずれかが設定されており、カットイン演出が大当たり期待度の高い演出パターンであるパターンC I-3での実行が決定しているときに予告演出のパターンY E-3やパターンY E-4での実行を制限する形態として、パターンY E-3やパターンY E-4の実行割合を0%とする(予告演出をパターンY E-3やパターンY E-4にて実行不能とする)形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、パチンコ遊技機1に設定値として4~6のいずれかが設定されており、カットイン演出が大当たり期待度の高い演出パターンであるパターンC I-3での実行が決定しているときは、予告演出をパターンY E-1やパターンY E-2よりも低い割合でパターンY E-3やパターンY E-4にて実行可能としてもよい。つまり、本請求項における『前記有利設定値に設定されており、かつ前記決定手段によって前記有利状態に制御されることが決定されていないときに、前記特定演出を含む態様にて前記示唆演出が実行される場合には、前記第2所定演出の実行を制限する』ことには、予告演出をパターンY E-3やパターンY E-4にて実行しないことと、予告演出をパターンY E-1やパターンY E-2にて実行する場合よりも低い割合でパターンY E-3やパターンY E-4にて実行する形態も含まれている。

【1460】

また、図15-21に示すように、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4~6のいずれかであり、且つ変動パターンがスーパーリーチγはずれの変動パターン(PA2-4)である場合は、設定値が同一値であれば、高確高ベース状態においてカットイン演出がパターンC I-3にて実行される割合が、低確低ベース状態や低確高ベース状態においてカットイン演出がパターンC I-3にて実行される割合よりも高く設定されている。このため、遊技状態が高確高ベース状態である場合は、遊技状態が低確低ベース状態である場合や低確高ベース状態である場合よりもスーパーリーチγはずれの可変表示においてカットイン演出をパターンC I-3にて実行する割合が高くなるので、高確高ベース状態において遊技者がパチンコ遊技機1に設定されている設定値が4~6のいずれかであると認識し易くなる。尚、高確高ベース状態においてカットイン演出がパターンC I-3にて実行されることによってパチンコ遊技機1に設定されている設定値が4~6のいずれかであると遊技者が認識した後は、遊技状態が低確低ベース状態に移行した後も遊技者が遊技を継続し易くなるので、パチンコ遊技機1の稼動を向上させることができる。

【1461】

尚、本実施の形態の特徴部208SGでは、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4~6のいずれかであり、且つスーパーリーチγはずれの変動パターン(PA2-4)で可変表示が実行されるとき、遊技状態が高確高ベース状態である場合は、設定値が同一値であれば遊技状態が低確低ベース状態や低確高ベース状態である場合よりも高い割合でカットイン演出をパターンC I-3で実行可能な形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4~6のいずれかであり、且つスーパーリーチγはずれの変動パターン(PA2-4)で可変表示が実行されるとき、遊技状態が高確高ベース状態である場合はカットイン演出をパターンC I-3で実行可能である一方で、遊技状態が低確低ベース状態や低確高ベース状態である場合はカットイン演出をパターンC I-3で実行不能としてもよい。

【1462】

以上、本発明の実施の形態を図面により説明してきたが、具体的な構成はこれらに限られるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲における変更や追加があっても本発明に含まれる。

【1463】

例えば、前記実施の形態の特徴部208SGでは、図15-21に示すように、復活演出を実行する変動パターン(PB1-5)にて可変表示を実行する場合は、復活演出を実行しない変動パターン(PA2-4やPB1-4)にて可変表示を実行する場合よりも低い割合にてカットイン演出をパターンCI-3にて実行可能な形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、変形例208SG-1として図15-33(A)～図15-33(E)に示すように、復活演出を実行する変動パターン(PB1-5)にて可変表示を実行する場合は、カットイン演出をパターンCI-3にて実行不可能としてもよい。このようにすることで、カットイン演出がパターンCI-3にて実行されて可変表示結果がはずれであることが報知された場合に、パチンコ遊技機1に設定値として4～6のいずれかが設定されていると遊技者が認識したにもかかわらず、復活演出が実行されて可変表示結果が大当たりであることが報知されることによる遊技興趣の低下を防止することができる。

10

【1464】

また、前記実施の形態の特徴部208SGでは、復活演出を実行するスーパーリーチγ大当りの変動パターンにて可変表示を実行する場合は、復活演出を実行しないスーパーリーチγ大当りの変動パターンにて可変表示を実行する場合よりもカットイン演出をパターンCI-3で実行する割合が低く設定されている形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、変形例208SG-2として図15-34(A)～図15-34(D)に示すように、復活演出を実行するスーパーリーチγ大当りの変動パターンにて可変表示を実行する場合は、復活演出を実行しないスーパーリーチγ大当りの変動パターンにて可変表示を実行する場合よりもカットイン演出をパターンCI-3で実行する割合が高く設定されていてもよい。このようにすることで、例えば、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであるかよりも可変表示結果が大当たりとなるか否かの方を遊技者が重要視している場合については、カットイン演出がパターンCI-3にて実行されて可変表示結果がはずれであることが報知された後に、更に復活演出が実行されて可変表示結果が大当たりであることが報知されるか否かに遊技者を注目させることができるので、遊技興趣を向上できる。

20

30

【1465】

また、前記実施の形態の特徴部208SGでは、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が1～6のいずれであっても、復活演出を実行するスーパーリーチγ大当りの変動パターン(PB1-5)にて可変表示を実行する場合には、カットイン演出をパターンCI-3にて実行可能な形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、変形例208SG-3として図15-35(A)～図15-35(C)に示すように、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであるときには、復活演出を実行するスーパーリーチγ大当りの変動パターン(PB1-5)にて可変表示を実行する場合にカットイン演出をパターンCI-3にて実行可能とする一方で、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が1～3のいずれかであるときには、復活演出を実行するスーパーリーチγ大当りの変動パターン(PB1-5)にて可変表示を実行する場合にカットイン演出をパターンCI-3にて実行不能としてもよい。このようにすることで、復活演出を実行するスーパーリーチγ大当りの変動パターン(PB1-5)にて可変表示を実行する場合は、可変表示結果が大当たりとなることと、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであることが確定し、可変表示中にスーパーリーチγのリーチ演出中に可変表示結果がはずれとなることが一旦報知された後に復活演出が実行されて可変表示結果が大当たりとなることが報知されるか否かに遊技者を注目させることができ、遊技興趣を向上できる。

40

50

【1466】

つまり、前記特徴部208SGでは、スーパーリーチγのリーチ演出中にカットイン演出がパターンCⅠ-3で実行された場合は、可変表示結果がはずれとなってもパチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであると確定することによって遊技者に対して遊技の継続を促進することが可能となっているが、本特徴部208SG-3では、スーパーリーチγのリーチ演出中にカットイン演出がパターンCⅠ-3で実行された場合に可変表示結果が大当たりとなり、更にパチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであると確定することによって遊技者に対して遊技の継続を促進することが可能となっている。

【1467】

また、前記実施の形態の特徴部208SGでは、図15-26に示すように、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであり、且つスーパーリーチγはずれの変動パターン(PA2-4)で可変表示が実行されるときには、カットイン演出が大当たり期待度の低い演出パターンであるパターンCⅠ-1やパターンCⅠ-2での実行が決定している場合は、カットイン演出が大当たり期待度の高い演出パターンであるパターンCⅠ-3での実行が決定している場合よりも高い割合で予告演出をパターンYE-3で実行可能な形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、変形例208SG-4として図15-36(A)～図15-36(C)に示すように、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであり、且つスーパーリーチγはずれの変動パターン(PA2-4)で可変表示が実行されるときには、カットイン演出が大当たり期待度の高い演出パターンであるパターンCⅠ-3での実行が決定している場合は、カットイン演出が大当たり期待度の低い演出パターンであるパターンCⅠ-1やパターンCⅠ-2での実行が決定している場合よりも高い割合で予告演出をパターンYE-3で実行可能としてもよい。このようにすることで、スーパーリーチγのリーチ演出中にカットイン演出がパターンCⅠ-3にて実行される際に、カットイン演出がパターンCⅠ-1やパターンCⅠ-2にて実行される際よりも高い割合で予告演出がパターンYE-3にて実行されることにより、可変表示結果がはずれとなることが遊技者に事前に認識されてしまうことを防ぐことができるため、可変表示結果が大当たりとなるか否かに対して遊技者を注目させることができ、遊技興趣を向上できる。

【1468】

また、前記実施の形態の特徴部208SGでは、図15-21(C)～図15-21(E)に示すように、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであり、且つスーパーリーチγはずれの変動パターン(PA2-4)で可変表示が実行されるとき、遊技状態が高確高ベース状態である場合は、設定値が同一値であれば遊技状態が低確低ベース状態や低確高ベース状態である場合よりも高い割合でカットイン演出をパターンCⅠ-3で実行可能な形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、変形例208SG-5として図15-37に示すように、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであり、且つスーパーリーチγはずれの変動パターン(PA2-4)で可変表示が実行されるとき、遊技状態が低確低ベース状態や低確高ベース状態である場合は、設定値が同一値であれば遊技状態が高確高ベース状態である場合よりも高い割合でカットイン演出をパターンCⅠ-3で実行可能としてもよい。

【1469】

このようにすることで、遊技状態が低確低ベース状態や低確高ベース状態である場合は、遊技状態が高確高ベース状態である場合よりも高い割合でスーパーリーチγのリーチ演出中にカットイン演出がパターンCⅠ-3にて実行され易くなるので、例えば、低確低ベース状態において長期間(例えば、1000回の可変表示等)に亘って可変表示結果が大当たりとならないことにより遊技者の遊技に対する継続意欲が低下した場合に、カットイン演出がパターンCⅠ-3にて実行されること、すなわち、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであることが遊技者に報知されることで遊技者の遊技に対する継続意欲を向上させることができるので、低確低ベース状態や低確高ベース状態に

10

20

30

40

50

おける遊技興趣を向上できる。

【1470】

尚、本変形例208SG-5では、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであり、且つスーパーリーチγはずれの変動パターン（PA2-4）で可変表示が実行されるとき、遊技状態が低確低ベース状態や低確高ベース状態である場合は、設定値が同一値であれば遊技状態が高確高ベース状態である場合よりも高い割合でカットイン演出をパターンCI-3で実行可能な形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、変形例208SG-6として図15-38に示すように、パチンコ遊技機1に設定されている設定値が4～6のいずれかであり、且つスーパーリーチγはずれの変動パターン（PA2-4）で可変表示が実行されるとき、遊技状態が低確低ベース状態や低確高ベース状態である場合はカットイン演出をパターンCI-3で実行可能である一方で、遊技状態が高確高ベース状態である場合はカットイン演出をパターンCI-3で実行不能としてもよい。このようにすることで、遊技状態が低確低ベース状態や低確高ベース状態である場合のみスーパーリーチγのリーチ演出中にカットイン演出がパターンCI-3で実行可能となるので、高確高ベース状態よりも可変表示結果が大当たりとなり難い低確定ベース状態や低確高ベース状態に遊技者を注目させることが可能となるため、これら低確定ベース状態や低確高ベース状態の遊技興趣を向上させることができる。

10

【1471】

また、前記実施の形態の特徴部208SGでは、スーパーリーチγやスーパーリーチδのリーチ演出中にカットイン演出を実行可能とする形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、例えば、変形例208SG-7として図15-40（A）及び図15-40（B）に示すように、スーパーリーチγやスーパーリーチδのリーチ演出中は、カットイン演出に代えて、パチンコ遊技機1に設定されている設定値を示唆する設定値示唆演出を実行可能としてもよい。尚、このようにスーパーリーチγやスーパーリーチδのリーチ演出中に設定値示唆演出を実行可能とする場合は、該設定値示唆演出の実行可能期間（リーチ演出中）よりも前の期間（例えば、可変表示が開始してからリーチとなるまでの期間）において前述の予告演出を実行可能とし、該予告演出の演出パターンに応じて設定値示唆演出の実行割合が異なるようにしてもよい。

20

【1472】

具体的には、予告演出がパターンYE-3やパターンYE-4にて実行される場合は、予告演出がパターンYE-1やパターンYE-2にて実行される場合よりも高い割合で設定値示唆演出を実行可能とすればよい。このようにすることで、予告演出がいずれの演出パターンにて実行されるかに遊技者を注目させることができるとともに、予告演出がパターンYE-3やパターンYE-4にて実行された場合は、リーチ演出中に設定値示唆演出が実行されるか否かに遊技者を注目させることができるので、遊技者による設定値示唆演出の見逃しを防ぐことができる。

30

【符号の説明】

【1473】

- 1 … パチンコ遊技機
- 2 … 遊技盤
- 3 … 遊技機用枠
- 4A … 第1特別図柄表示装置
- 4B … 第2特別図柄表示装置
- 5 … 画像表示装置
- 6A … 入賞球装置
- 6B … 可変入賞球装置
- 7 … 特別可変入賞球装置
- 8L、8R … スピーカ
- 9 … 枠LED
- 10 … 一般入賞口

40

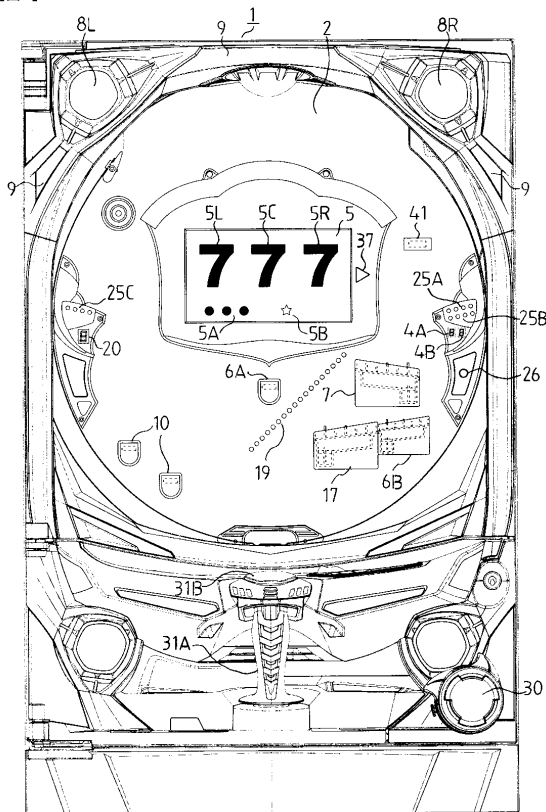
50

- 1 1 … 主基板
- 1 2 … 演出制御基板
- 1 3 … 音声制御基板
- 1 4 … L E D制御基板
- 1 5 … 中継基板
- 1 7 … 特殊可変入賞球装置
- 2 0 … 普通図柄表示器
- 2 1 … ゲートスイッチ
- 2 2 A、2 2 B … 始動口スイッチ
- 2 3 … 第1カウントスイッチ
- 2 4 … 第2カウントスイッチ
- 3 0 … 打球操作ハンドル
- 3 1 A … スティックコントローラ
- 3 1 B … プッシュボタン
- 3 2 … 可動体
- 4 1 … 通過ゲート
- 1 0 0 … 遊技制御用マイクロコンピュータ
- 1 0 1、1 2 1 … ROM
- 1 0 2、1 2 2 … RAM
- 1 0 3 … CPU
- 1 0 4、1 2 4 … 乱数回路
- 1 0 5、1 2 5 … I/O
- 1 2 0 … 演出制御用CPU
- 1 2 3 … 表示制御部

【図面】

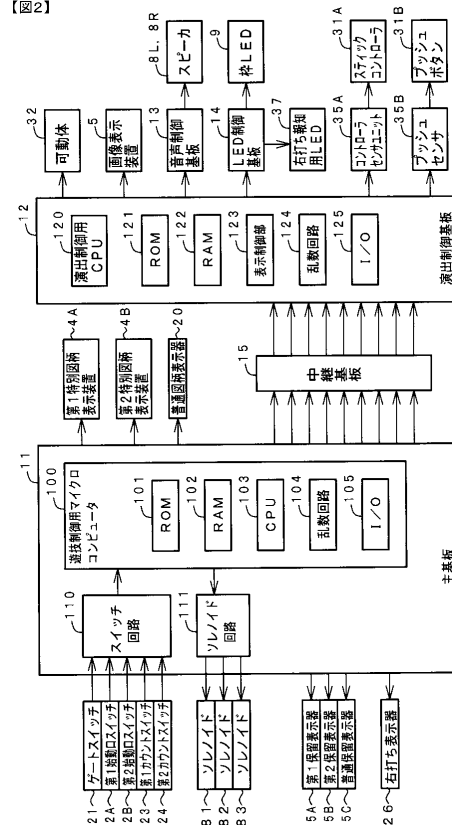
【図1】

【図1】



【図2】

【図2】



10

20

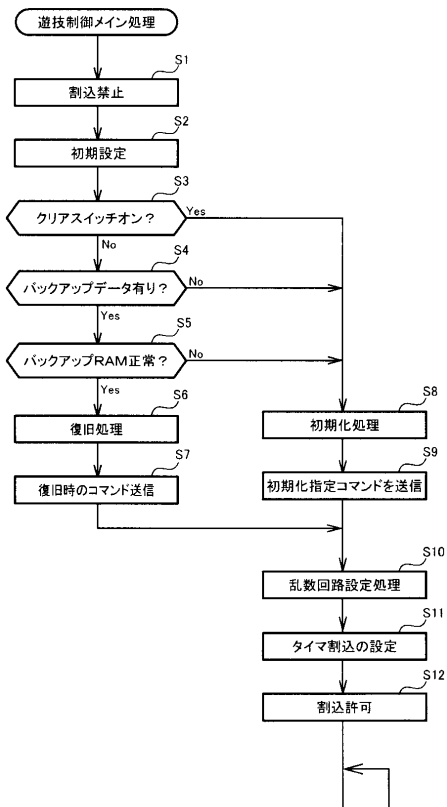
30

40

50

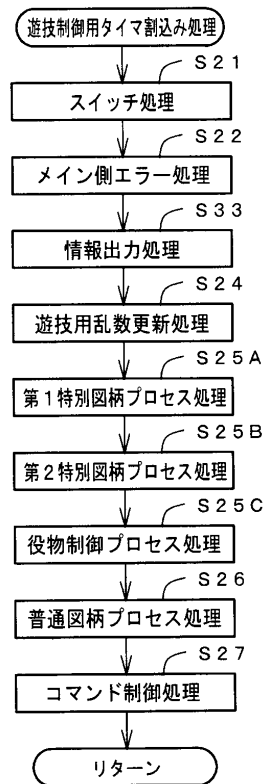
【図 3】

【図3】



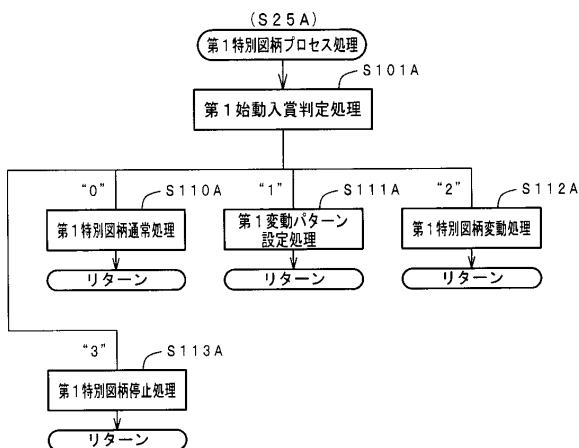
【図 4】

【図4】



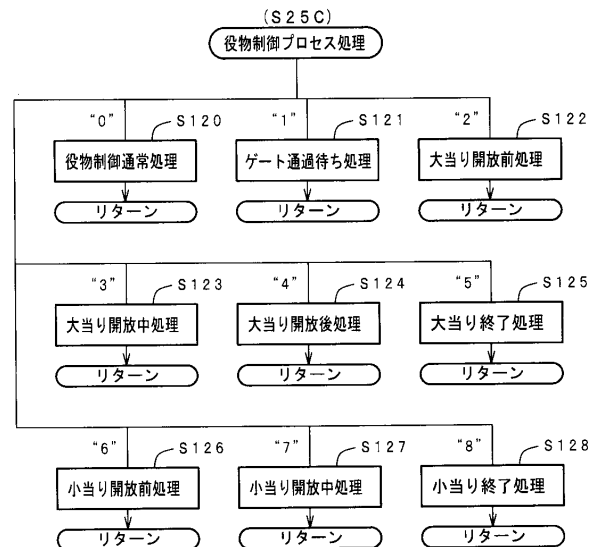
【図 5】

【図5】



【図 6】

【図6】



10

20

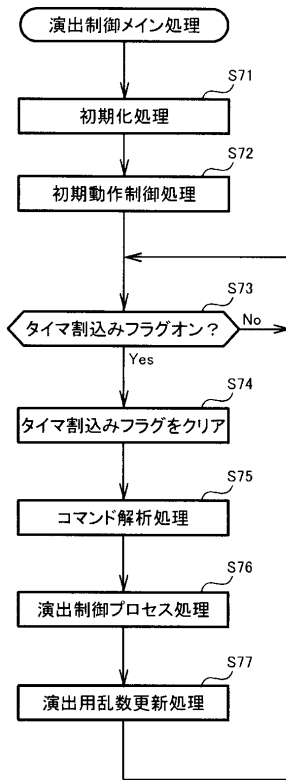
30

40

50

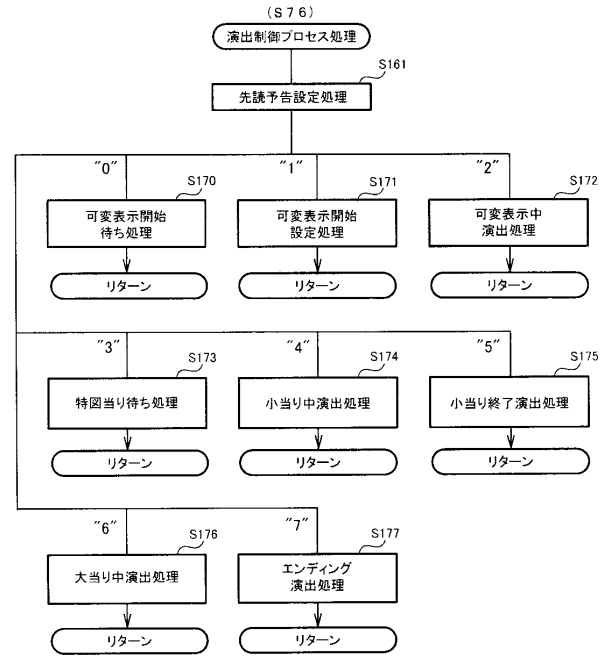
【図 7】

【図7】



【図 8】

【図8】

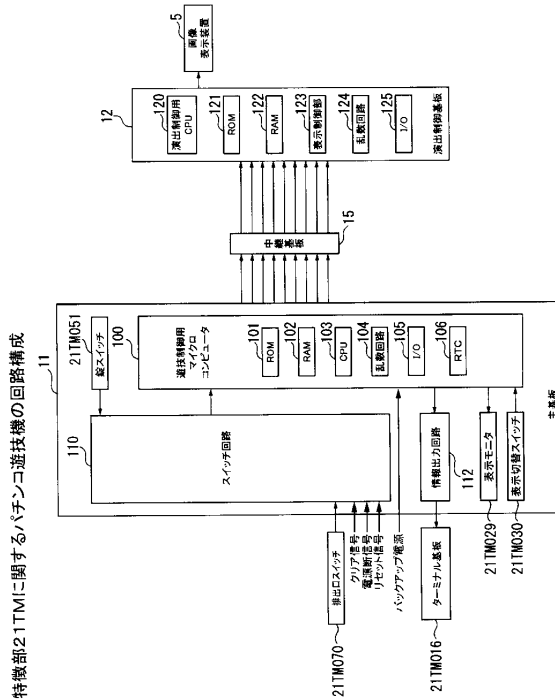


10

20

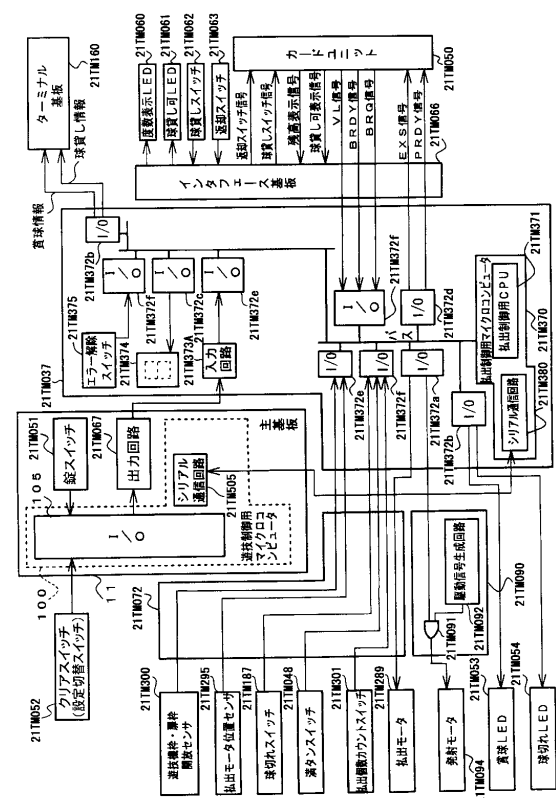
【図 9 - 1】

【図9-1】



【図 9 - 2】

【図9-2】



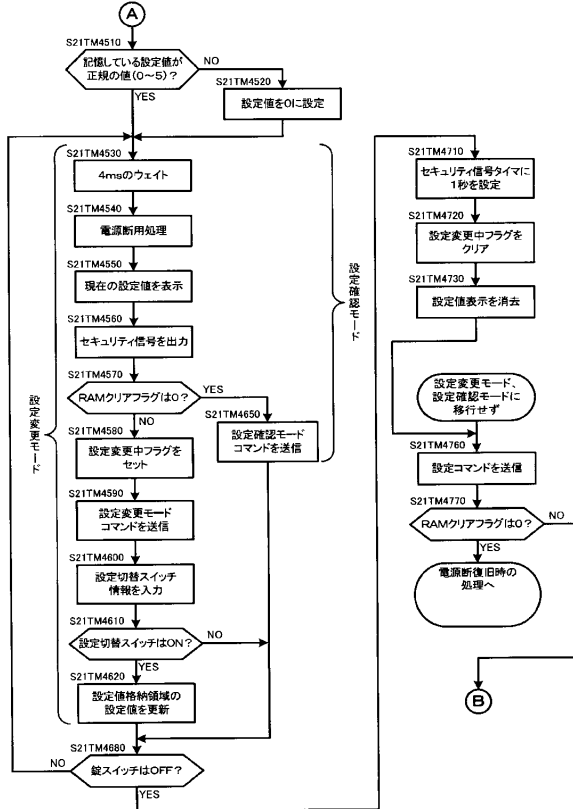
30

40

50

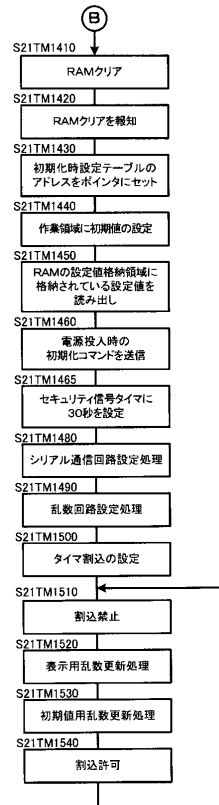
【図 9 - 7】

【図 9-7】



【図 9 - 8】

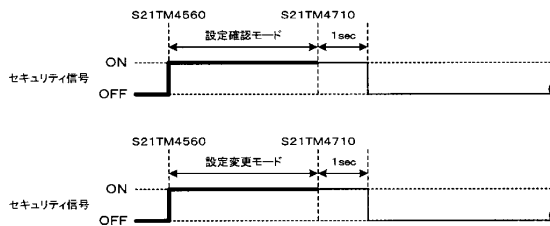
【図 9-8】



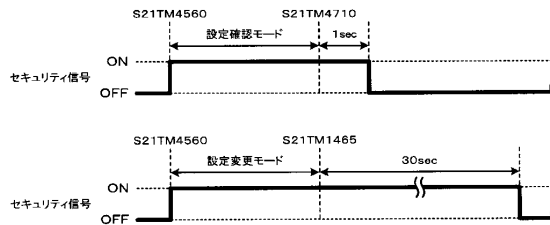
【図 9 - 9】

【図 9-9】

(1) 当初の出力設定

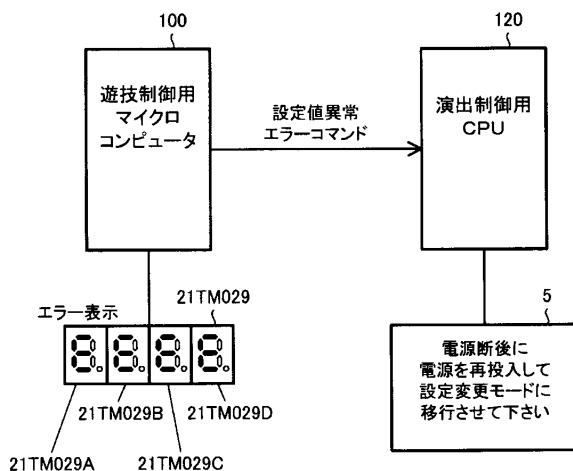


(2) 最終的な出力設定



【図 9 - 10】

【図 9-10】



10

20

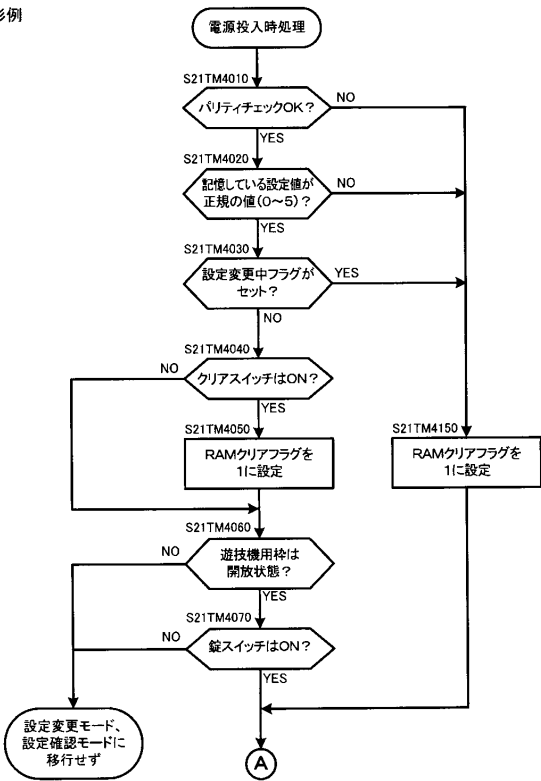
30

40

50

【図 9 - 1 1】

【図9-11】
変形例



【図 9 - 1 2】

【図9-12】

(1) 設定変更モード中の設定値確定前に電源断した場合

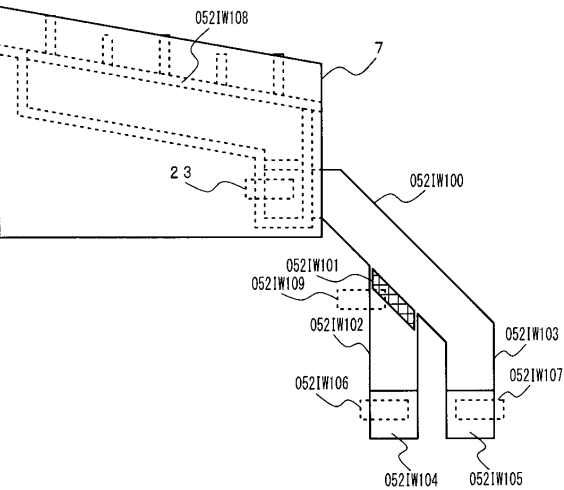
順	状況	錠スイッチ	設定値	設定値表示
1	電源投入	ON	0	
2	設定変更モード開始	ON	0	1
3	設定値変更中	ON	1	2
4	設定値変更中	ON	2	3
5	電源断	ON	2	
6	電源投入	ON	2	
7	設定変更モード開始	ON	2	3

(2) 設定変更モード中の設定値確定後に電源断した場合

順	状況	錠スイッチ	設定値	設定値表示
1	電源投入	ON	0	
2	設定変更モード開始	ON	0	1
3	設定値変更中	ON	1	2
4	設定値変更中	ON	2	3
5	設定値確定	OFF	2	3
6	電源断	OFF	2	
7	電源投入	ON	2	
8	設定変更モード開始	ON	2	3

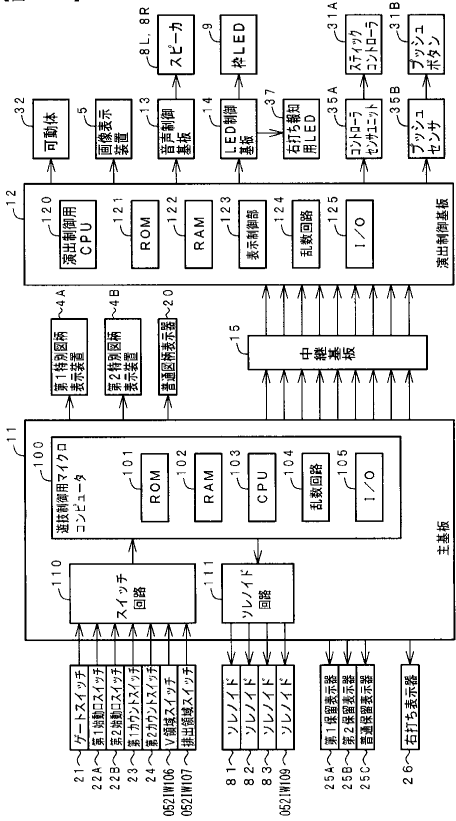
【図 1 0 - 1】

【図10-1】



【図 1 0 - 2】

【図10-2】



【図10-3】

【図10-3】

(A) 非確変状態（低確率状態） [第1特別図柄用]

設定値	設定値「1」	設定値「2」	設定値「3」	設定値「4」	設定値「5」	設定値「6」
大当り確率	205/65536	215/65536	225/65536	235/65536	245/65536	247/65536
小当り確率	6298/65536	6298/65536	6298/65536	6298/65536	6298/65536	6298/65536
はずれ確率	59033/65536	59023/65536	59013/65536	59003/65536	58993/65536	58991/65536

(B) 確変状態（高確率状態） [第1特別図柄用]

設定値	設定値「1」	設定値「2」	設定値「3」	設定値「4」	設定値「5」	設定値「6」
大当り確率	2050/65536	2150/65536	2250/65536	2350/65536	2450/65536	2470/65536
小当り確率	6298/65536	6298/65536	6298/65536	6298/65536	6298/65536	6298/65536
はずれ確率	57188/65536	57088/65536	56988/65536	56888/65536	56788/65536	56768/65536

【図10-4】

【図10-4】

(A) 非確変状態（低確率状態） [第2特別図柄用]

設定値	設定値「1」	設定値「2」	設定値「3」	設定値「4」	設定値「5」	設定値「6」
大当り確率	205/65536	215/65536	225/65536	235/65536	245/65536	247/65536
小当り確率	62986/65536	62986/65536	62986/65536	62986/65536	62986/65536	62986/65536
はずれ確率	2345/65536	2335/65536	2325/65536	2315/65536	2305/65536	2303/65536

(B) 確変状態（高確率状態） [第2特別図柄用]

設定値	設定値「1」	設定値「2」	設定値「3」	設定値「4」	設定値「5」	設定値「6」
大当り確率	2050/65536	2150/65536	2250/65536	2350/65536	2450/65536	2470/65536
小当り確率	62986/65536	62986/65536	62986/65536	62986/65536	62986/65536	62986/65536
はずれ確率	500/65536	400/65536	300/65536	200/65536	100/65536	80/65536

【図10-5】

【図10-5】

(A) 大当り種別判定テーブル [第1特別図柄用]

設定値	設定値「1」	設定値「2」	設定値「3」	設定値「4」	設定値「5」	設定値「6」
10R確変大当り	0~8	0~8	0~8	0~8	0~8	0~8
6R確変大当り	9~64	9~64	9~64	9~64	9~64	9~64
6R通常大当り	65~99	65~99	65~99	65~99	65~99	65~99

(B) 大当り種別判定テーブル [第2特別図柄用]

設定値	設定値「1」	設定値「2」	設定値「3」	設定値「4」	設定値「5」	設定値「6」
10R確変大当り	0~9	0~9	0~9	0~9	0~9	0~9
6R確変大当り	10~59	10~59	10~59	10~59	10~59	10~59
2R確変大当り	60~64	60~64	60~64	60~64	60~64	60~64
2R通常大当り	65~99	65~99	65~99	65~99	65~99	65~99

(※) 各欄は大当り種別判定値（当り種別判定用乱数〔0~99〕と比較される）

【図10-6】

【図10-6】

(A) 小当り種別判定テーブル [第1特別図柄用]

設定値	設定値「1」	設定値「2」	設定値「3」	設定値「4」	設定値「5」	設定値「6」
小当りA	0~99	0~99	0~99	0~99	0~99	0~99

(B) 小当り種別判定テーブル [第2特別図柄用]

設定値	設定値「1」	設定値「2」	設定値「3」	設定値「4」	設定値「5」	設定値「6」
小当りB	0~69	0~69	0~69	0~69	0~69	0~69
小当りC	70~99	70~99	70~99	70~99	70~99	70~99

(※) 各欄は小当り種別判定値（当り種別判定用乱数〔0~99〕と比較される）

【図 10-7】

【図10-7】

(A) 第1特別図柄用変動パターンテーブル [非K T時]

変動パターン			
EXT	変動パターン名	変動内容	変動時間
01	第1変動パターン#01	はずれ	15秒
02	第1変動パターン#02	リーチAはずれ	30秒
03	第1変動パターン#03	リーチBはずれ	40秒
04	第1変動パターン#04	小当り	15秒
05	第1変動パターン#05	リーチA大当り	30秒
06	第1変動パターン#06	リーチB大当り	40秒

(B) 第1特別図柄用変動パターンテーブル [K T時]

変動パターン			
EXT	変動パターン名	変動内容	変動時間
07	第1変動パターン#07	はずれ	2秒
08	第1変動パターン#08	小当り	2秒
09	第1変動パターン#09	大当り	10秒

【図 10-8】

【図10-8】

(C) 第2特別図柄用変動パターンテーブル [非K T時]

変動パターン			
EXT	変動パターン名	変動内容	変動時間
11	第2変動パターン#01	はずれ	15分
12	第2変動パターン#02	小当り	15分
13	第2変動パターン#03	大当り	5分

(D) 第2特別図柄用変動パターンテーブル [低確率/第1K T時/1変動目]

変動パターン			
EXT	変動パターン名	変動内容	変動時間
14	第2変動パターン#04	はずれ [短縮変動]	5秒
15	第2変動パターン#05	小当り [第2始動入賞口開放準備]	7秒
16	第2変動パターン#06	大当り	2分

(E) 第2特別図柄用変動パターンテーブル [低確率/第1K T時/2~49変動目]

変動パターン			
EXT	変動パターン名	変動内容	変動時間
17	第2変動パターン#07	はずれ [短縮変動] (第2保留記憶数=0)	5秒
18	第2変動パターン#08	はずれ [短縮変動] (第2保留記憶数≥1)	1秒
19	第2変動パターン#09	はずれ [リーチ変動]	2分
1A	第2変動パターン#10	小当り [短縮変動] (第2保留記憶数=0)	5秒
1B	第2変動パターン#11	小当り [短縮変動] (第2保留記憶数≥1)	1秒
1C	第2変動パターン#12	小当り [リーチ変動]	2分
1D	第2変動パターン#13	大当り [リーチ変動]	2分

(F) 第2特別図柄用変動パターンテーブル [低確率/第1K T時/50変動目]

変動パターン			
EXT	変動パターン名	変動内容	変動時間
1E	第2変動パターン#14	はずれ [終了表示]	10秒
1F	第2変動パターン#15	小当り [終了表示]	10秒
20	第2変動パターン#16	大当り [終了表示+復活表示]	15秒

【図 10-9】

【図10-9】

(G) 第2特別図柄用変動パターンテーブル [高確率/第1K T時/1変動目]

変動パターン			
EXT	変動パターン名	変動内容	変動時間
21	第2変動パターン#17	はずれ [短縮変動]	5秒
22	第2変動パターン#18	はずれ [リーチ変動]	2分
23	第2変動パターン#19	小当り [第2始動入賞口開放準備]	7秒
24	第2変動パターン#20	小当り [リーチ変動]	2分
25	第2変動パターン#21	大当り [リーチ変動]	2分

(H) 第2特別図柄用変動パターンテーブル [高確率/第1K T時/2変動目以降]

変動パターン			
EXT	変動パターン名	変動内容	変動時間
26	第2変動パターン#22	はずれ [短縮変動] (第2保留記憶数=0)	5秒
27	第2変動パターン#23	はずれ [短縮変動] (第2保留記憶数≥1)	1秒
28	第2変動パターン#24	はずれ [リーチ変動]	2分
29	第2変動パターン#25	小当り [短縮変動] (第2保留記憶数=0)	5秒
2A	第2変動パターン#26	小当り [短縮変動] (第2保留記憶数≥1)	1秒
2B	第2変動パターン#27	小当り [リーチ変動]	2分
2C	第2変動パターン#28	大当り [リーチ変動]	2分

(I) 第2特別図柄用変動パターンテーブル [高確率/第2K T時]

変動パターン			
EXT	変動パターン名	変動内容	変動時間
2D	第2変動パターン#29	はずれ [短縮変動]	1.5秒
2E	第2変動パターン#30	はずれ [通常変動]	5秒
2F	第2変動パターン#31	はずれ [リーチ変動]	20秒
30	第2変動パターン#32	小当り [短縮変動]	1.5秒
31	第2変動パターン#33	小当り [通常変動]	5秒
32	第2変動パターン#34	大当り [リーチ変動]	2分

【図 10-10】

【図10-10】

小当り用変動パターンテーブル [高確率/第2K T時] (第2特別図柄用)			
設定値	設定値「1」	設定値「2」	設定値「3」
第2変動パターン#32	0~69	0~69	0~69
第2変動パターン#33	70~99	70~99	70~99

(※) 各欄は変動パターン判定値 (変動パターン判定用乱数 [0~99] と比較される)

10

20

30

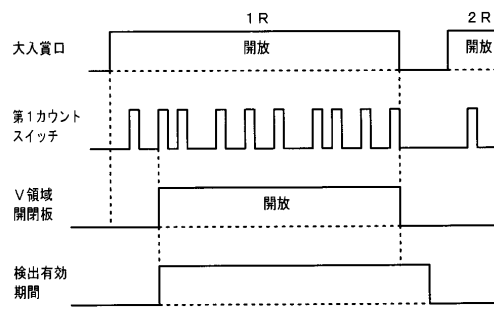
40

50

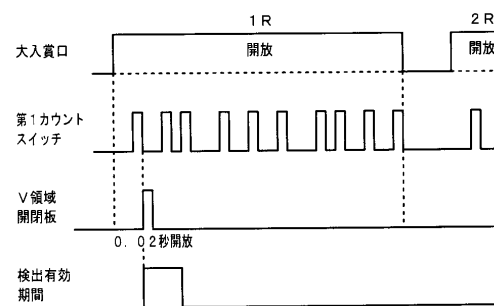
【図 10-11】

【図10-11】

(1) 10R/6R/2R確変大当り



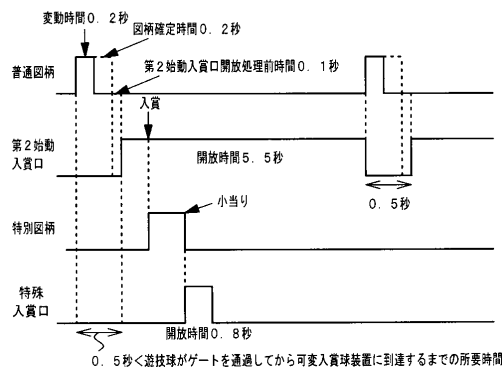
(2) 6R/2R通常大当り



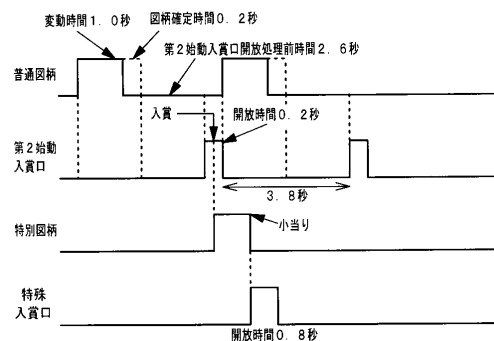
【図 10-13】

【図10-13】

(1) 第1KT状態 [小当りB]



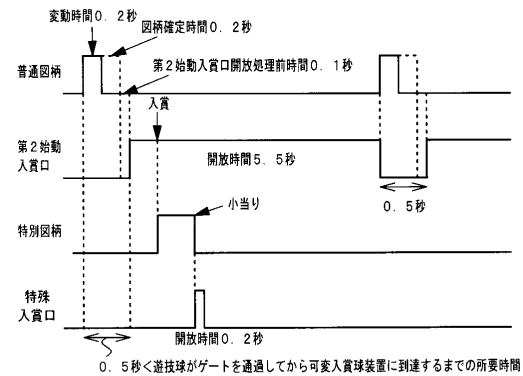
(2) 第2KT状態 [小当りB]



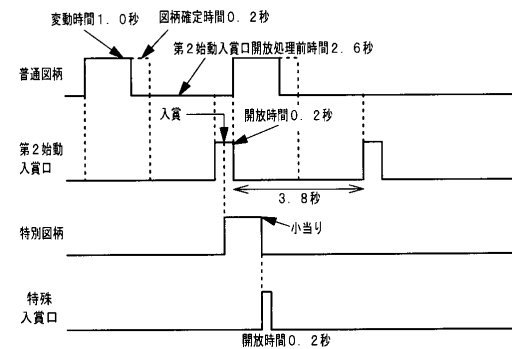
【図 10-12】

【図10-12】

(1) 第1KT状態 [小当りA]



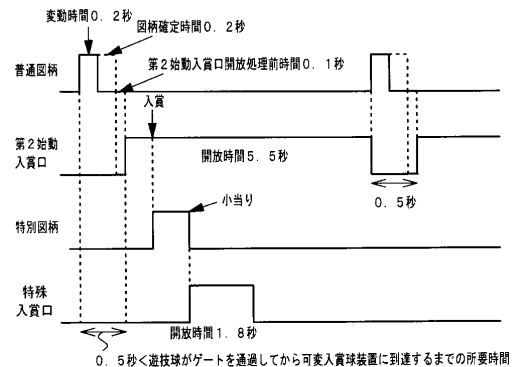
(2) 第2KT状態 [小当りA]



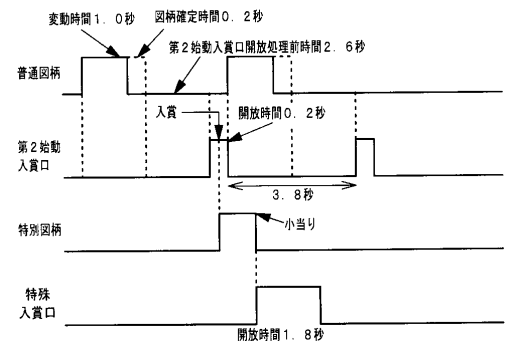
【図 10-14】

【図10-14】

(1) 第1KT状態 [小当りC]



(2) 第2KT状態 [小当りC]



10

20

30

40

50

【図 10-15】

【図10-15】

MODE	EXT	名称	内容
8 0	0 1	第1変動パターン#01指定	第1飾り図柄変動パターン#01の指定
	⋮	⋮	⋮
8 0	0 9	第1変動パターン#09指定	第1飾り図柄変動パターン#09の指定
8 0	1 1	第2変動パターン#01指定	第2飾り図柄変動パターン#01の指定
	⋮	⋮	⋮
8 0	3 2	第2変動パターン#34指定	第2飾り図柄変動パターン#34の指定
9 0	0 1	表示結果1指定	可変表示結果をはずれとすることの指定
9 0	0 2	表示結果2指定	可変表示結果を10R確変大当りとするの指定
9 0	0 3	表示結果3指定	可変表示結果を6R確変大当りとするの指定
9 0	0 4	表示結果4指定	可変表示結果を6R通常大当りとするの指定
9 0	0 5	表示結果5指定	可変表示結果を2R確変大当りとするの指定
9 0	0 6	表示結果6指定	可変表示結果を2R通常大当りとするの指定
9 0	0 7	表示結果7指定	可変表示結果を小当りとするの指定
9 C	0 0	右打ち点灯終了指定	右打ち表示器の点灯を終了したことを指定
9 C	0 1	右打ち点灯開始指定	右打ち表示器の点灯を開始したことを指定
A 0	0 0	第1図柄確定指定	第1図柄の変動を終了することを指定
A 0	0 1	第2図柄確定指定	第2図柄の変動を終了することを指定
A 0	0 2	第1強制図柄確定指定	第1図柄の変動を強制終了することを指定
A 0	0 3	第2強制図柄確定指定	第2図柄の変動を強制終了することを指定

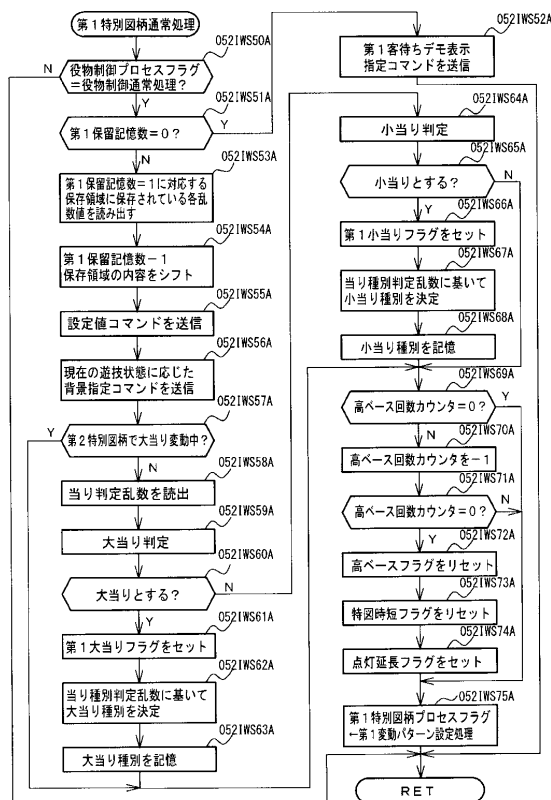
【図 10-16】

【図10-16】

MODE	EXT	名称	内容
B 0	0 0	大当り開始指定 (ファンファーレ指定)	大当り遊技の開始を指定
B 0	0 1	大当り終了指定 (エンディング指定)	大当り遊技の終了を指定
B 0	0 4	小当り開始指定	小当り遊技の開始を指定
B 0	0 5	小当り終了指定	小当り遊技の終了を指定
B 1	X X	大入賞口開放中表示	XXで示すラウンド中の表示指定
B 2	X X	大入賞口開放後表示	XXで示すラウンド後の表示指定
B 4	0 0	大入賞口入賞指定	大入賞口に入賞したことの指定
B 4	0 1	特殊入賞口入賞指定	特殊入賞口に入賞したことの指定
C 0	0 0	第1有効始動入賞指定	第1始動入賞口に遊技球が入賞(有効入賞)したことを指定
C 0	0 1	第2有効始動入賞指定	第2始動入賞口に遊技球が入賞(有効入賞)したことを指定
C 8	0 1	ゲート通過指定	ゲートを遊技球が通過したことを指定
D 0	0 0	第1客待ちデモ表示指定	第1客待ちデモンストレーション時の表示指定
D 0	0 1	第2客待ちデモ表示指定	第2客待ちデモンストレーション時の表示指定
E 0	0 0	低確/非KT背景指定	遊技状態が低確率/非KT状態であるときの表示指定
E 0	0 1	低確/第1KT背景指定	遊技状態が低確率/第1KT状態であるときの表示指定
E 0	0 2	高確/第1KT背景指定	遊技状態が高確率/第1KT状態であるときの表示指定
E 0	0 3	高確/第2KT背景指定	遊技状態が高確率/第2KT状態であるときの表示指定
E 1	X X	設定値コマンド	XXで示す設定値に設定されていることを指定

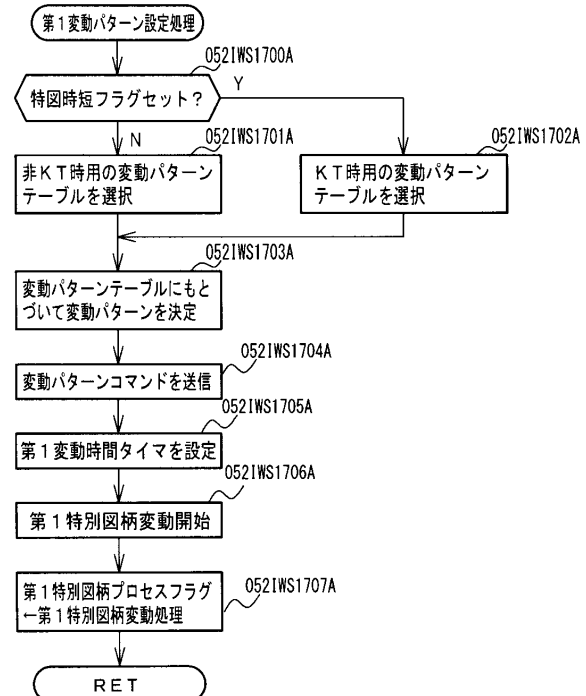
【図 10-17】

【図10-17】



【図 10-18】

【図10-18】



10

20

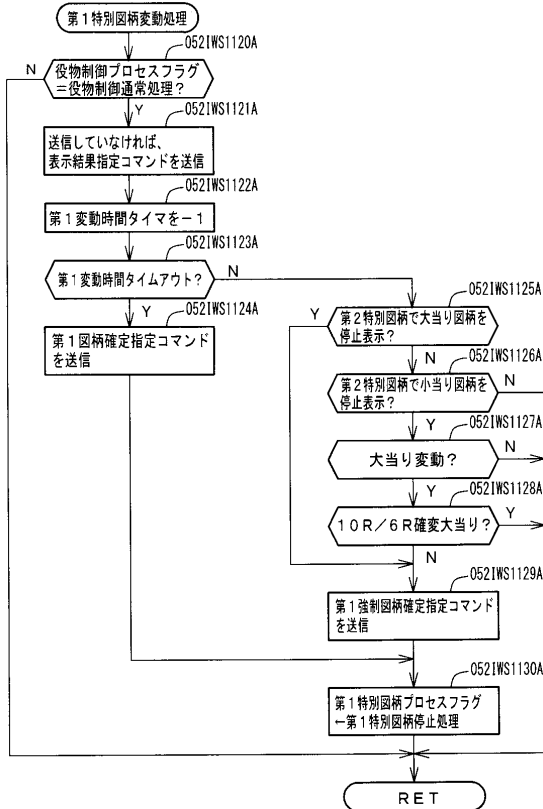
30

40

50

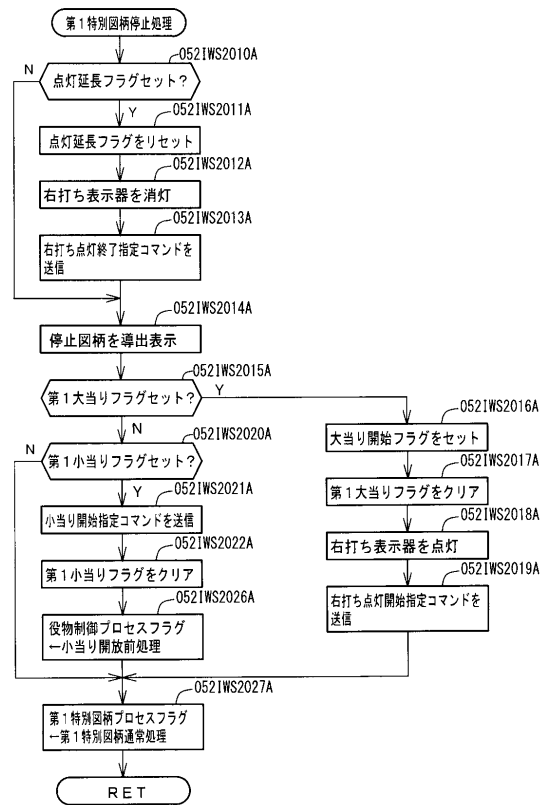
【図 10-19】

【図10-19】



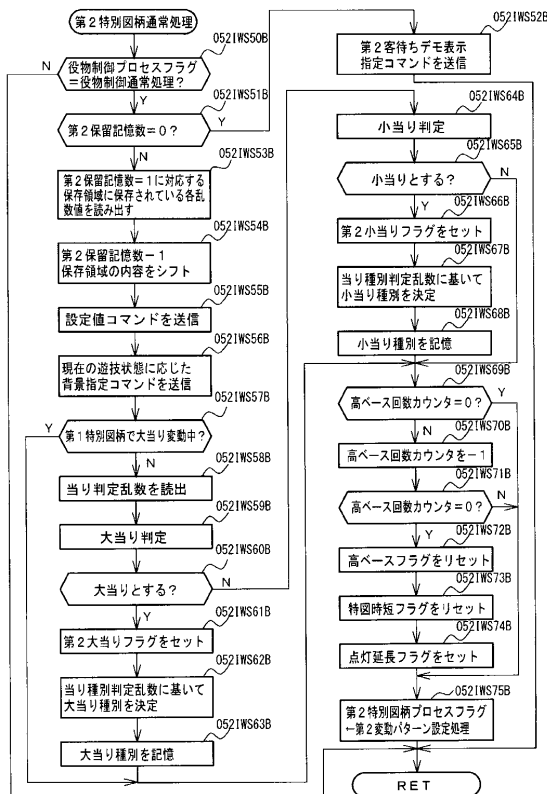
【図 10-20】

【図10-20】



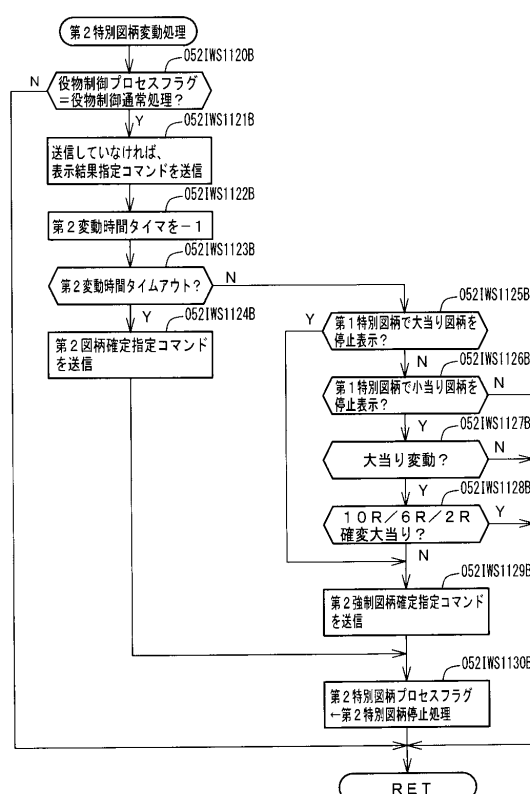
【図 10-21】

【図10-21】



【図 10-22】

【図10-22】



10

20

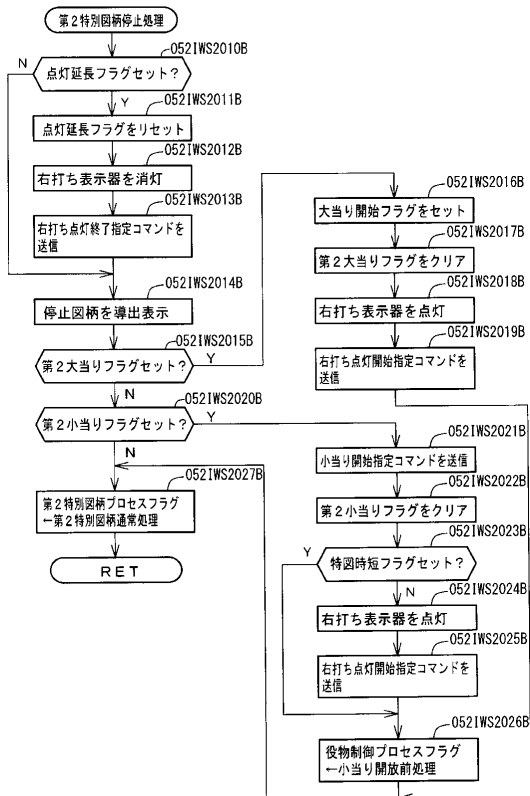
30

40

50

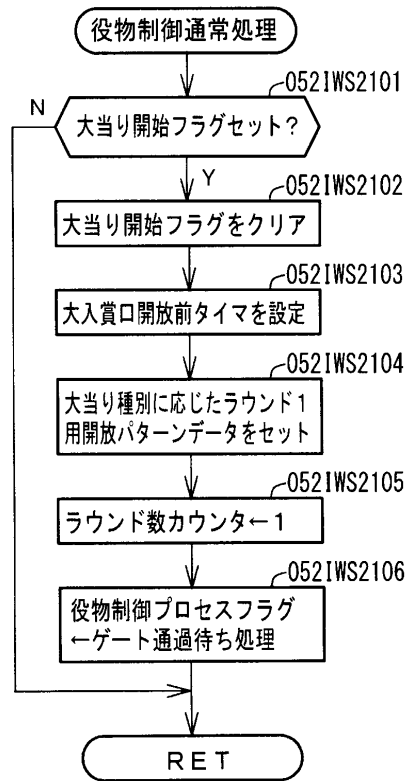
【図 10-23】

【图10-23】



【図 10-24】

【图10-24】

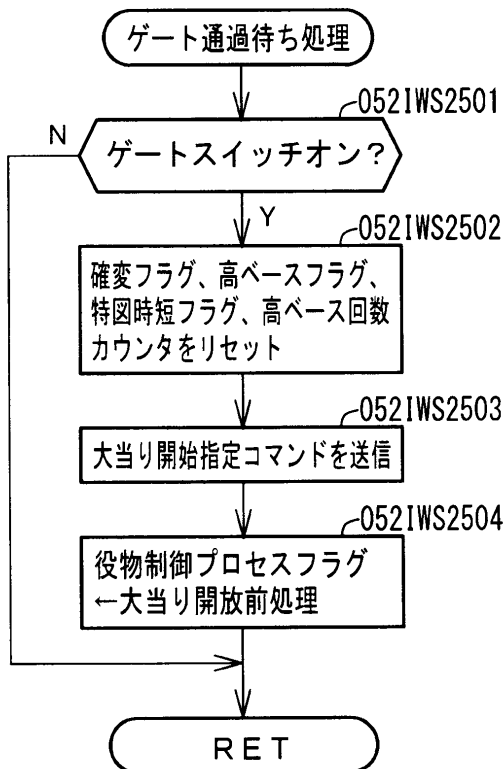


10

20

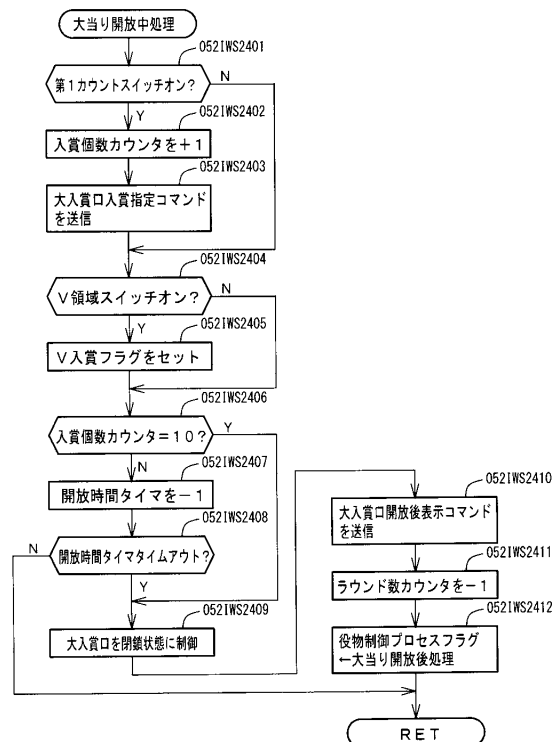
【図 10-25】

【图10-25】



【図 10-26】

【图10-26】

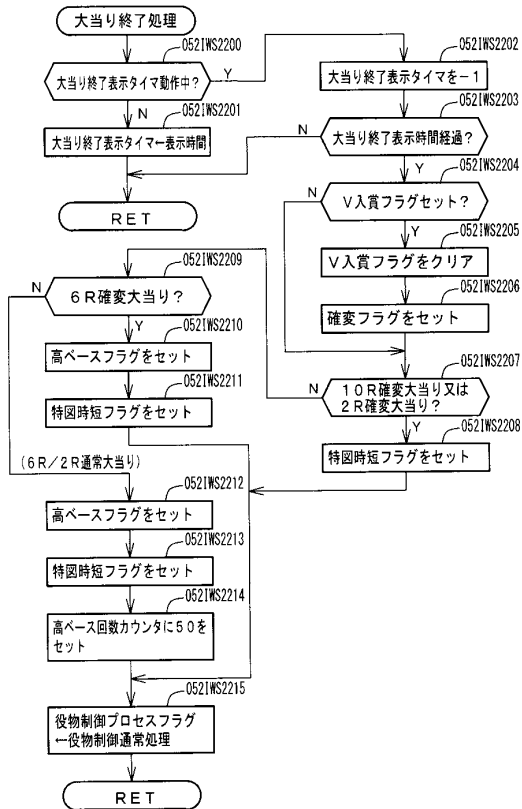


30

40

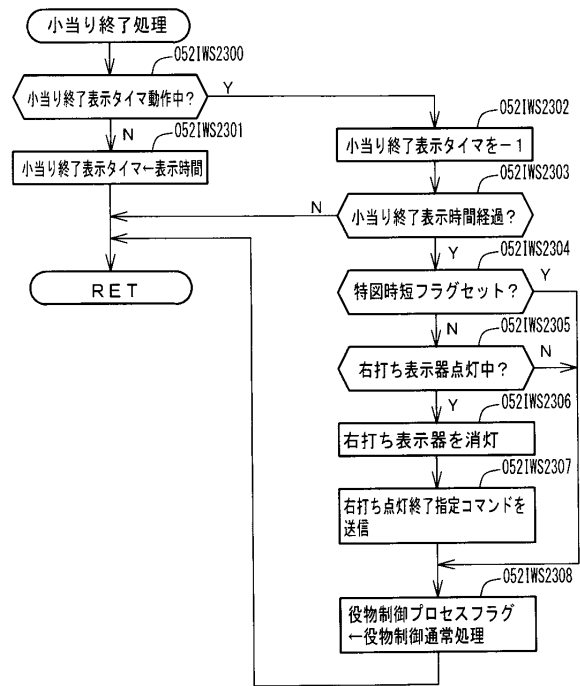
【図10-27】

【図10-27】



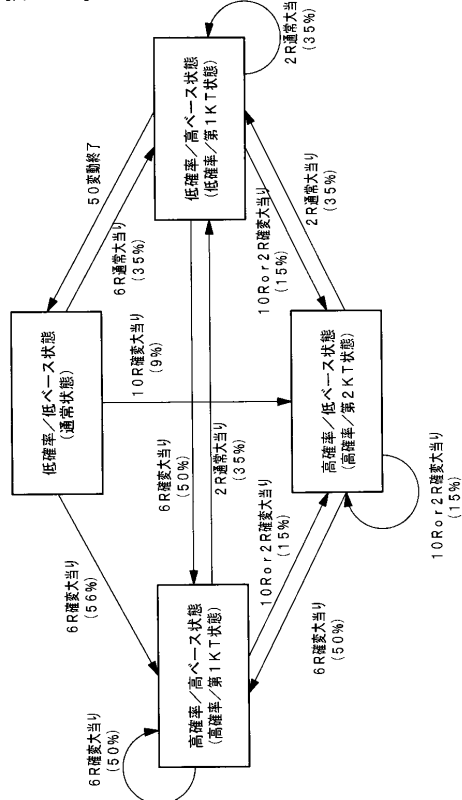
【図10-28】

【図10-28】



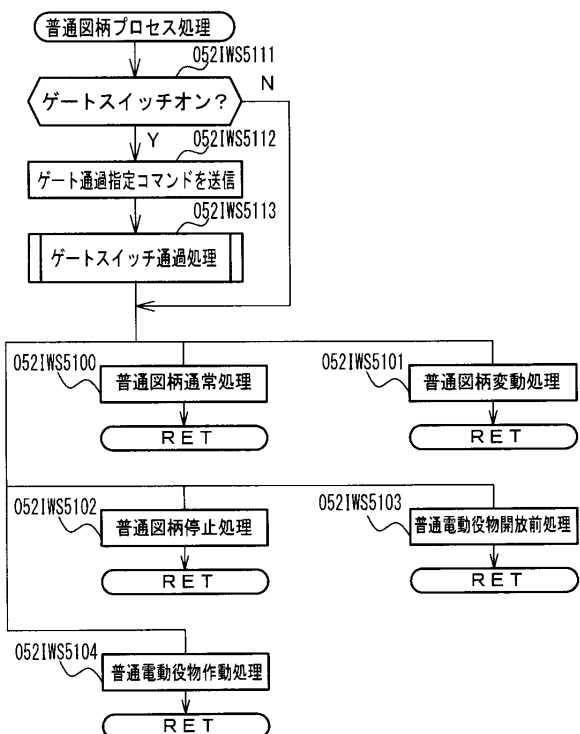
【図10-29】

【図10-29】



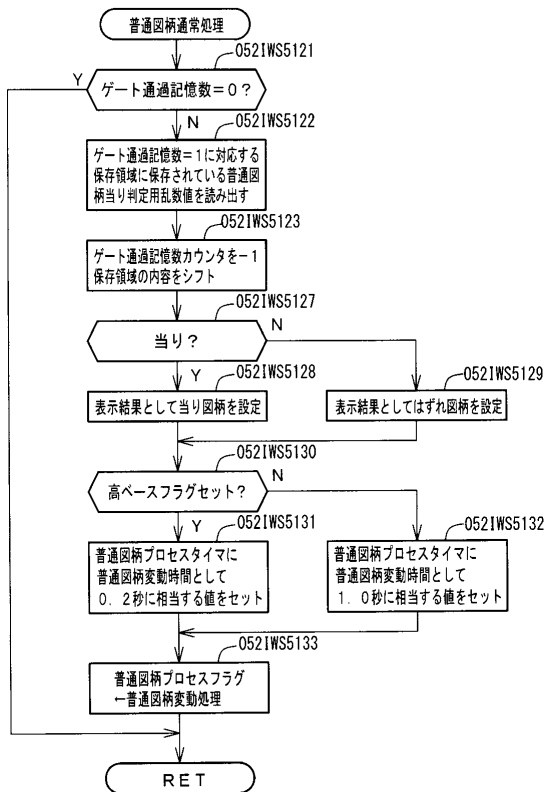
【図10-30】

【図10-30】



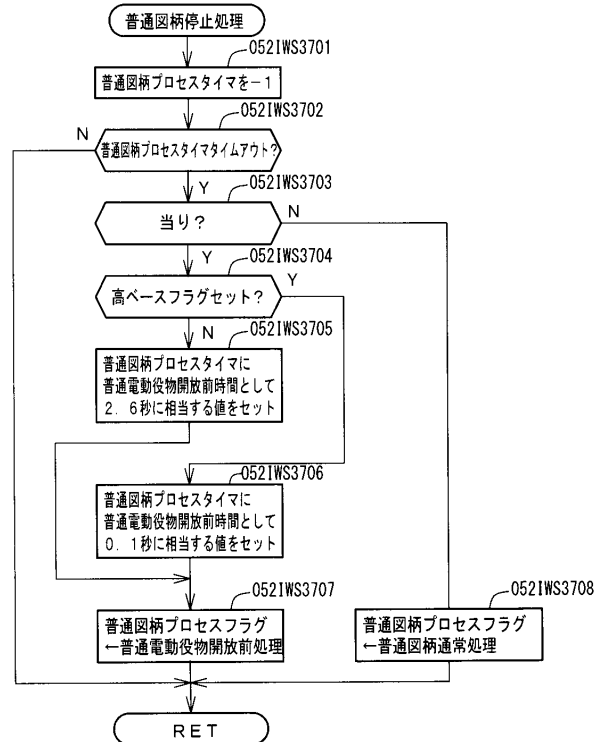
【図 10-31】

【図10-31】



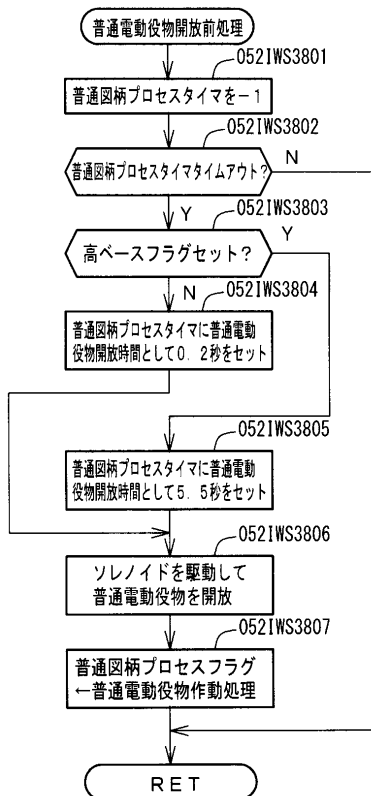
【図 10-32】

【図10-32】



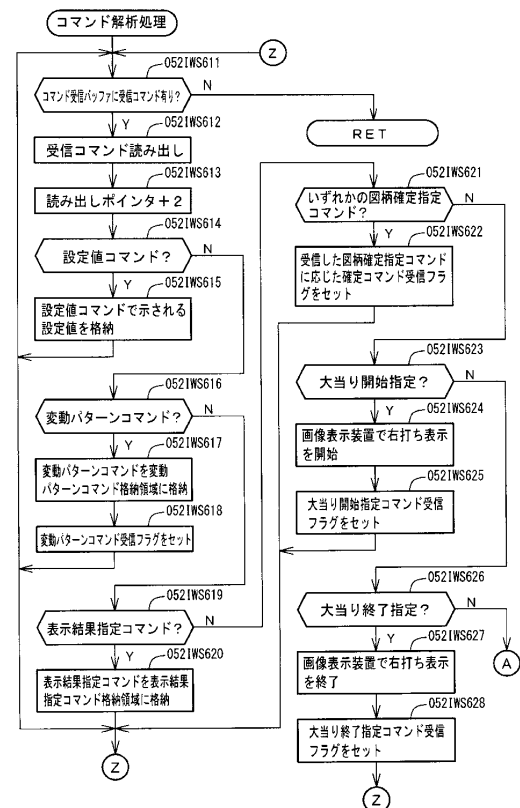
【図 10-33】

【図10-33】



【図 10-34】

【図10-34】



10

20

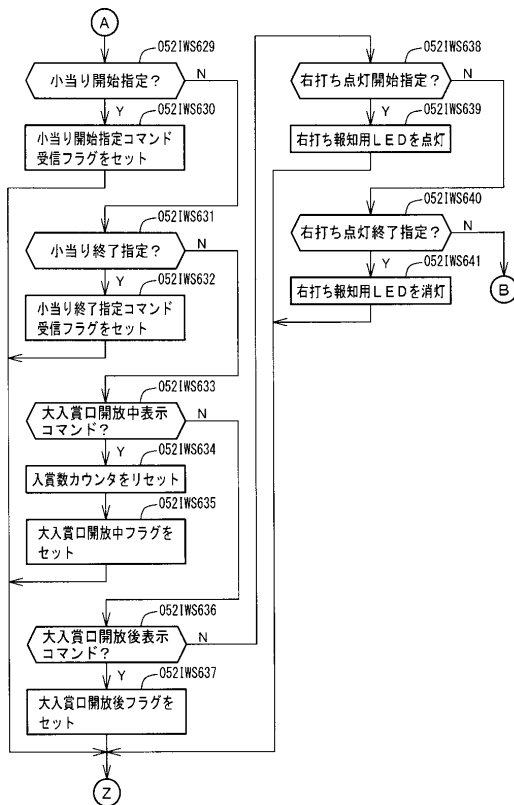
30

40

50

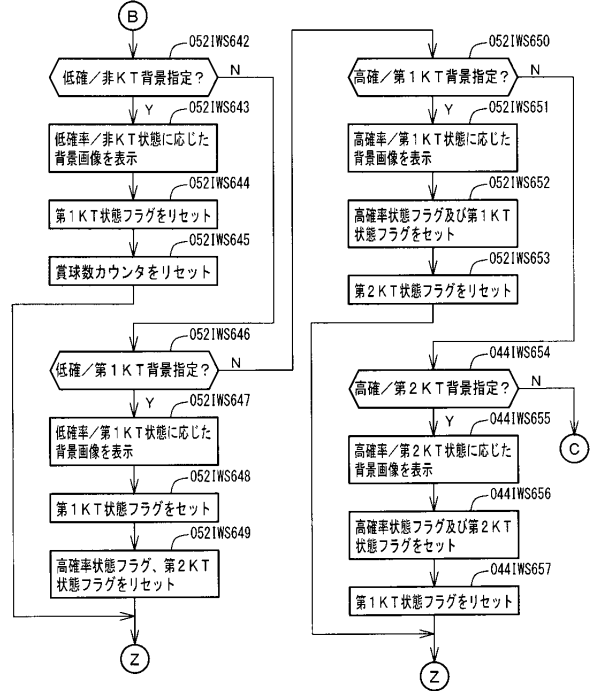
【図 10-35】

【図 10-35】



【図 10-36】

【図 10-36】

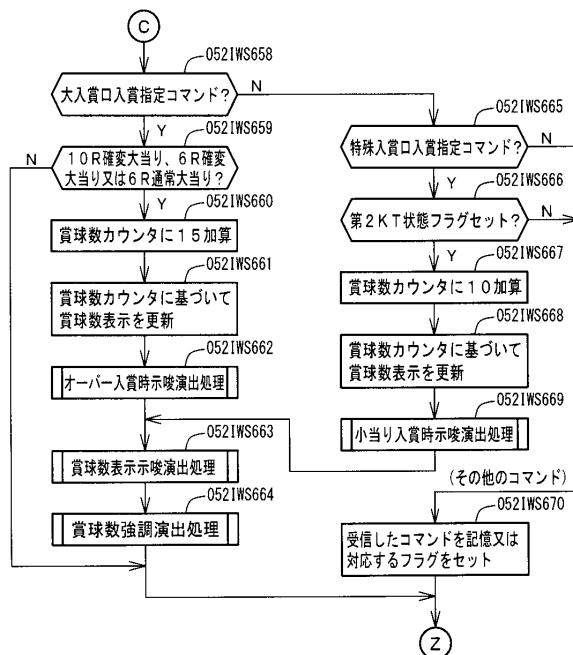


10

20

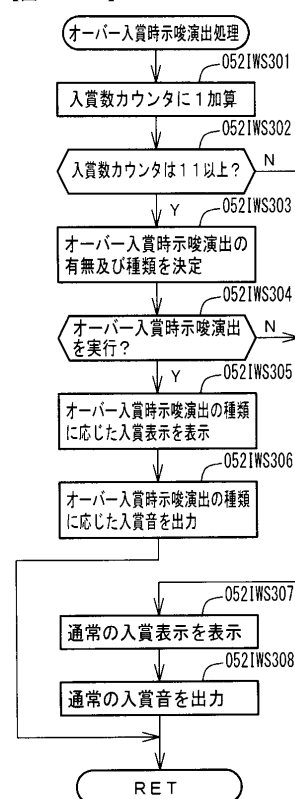
【図 10-37】

【図 10-37】



【図 10-38】

【図 10-38】



30

40

50

【図 10-39】

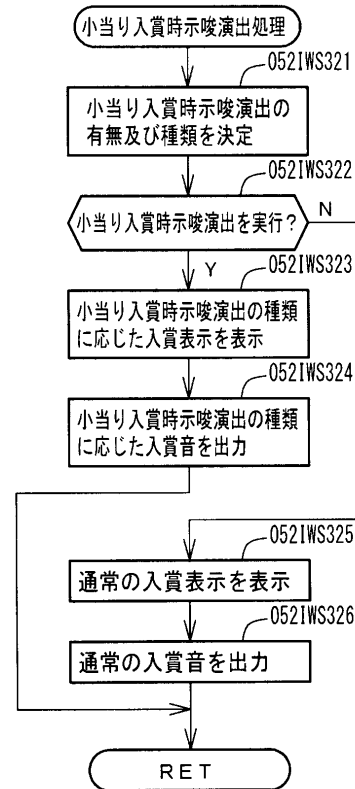
【図10-39】

オーバー入賞時示唆演出決定テーブル

オーバー入賞時示唆演出の有無及び種類	入賞表示	入賞音	設定値「1」	設定値「2」	設定値「3」	設定値「4」	設定値「5」	設定値「6」
オーバー入賞時示唆演出なし	白色	通常音	60%	55%	50%	45%	40%	35%
オーバー入賞時示唆演出Aを実行	青色	音A	10%	9%	5%	5%	5%	5%
オーバー入賞時示唆演出Bを実行	緑色	音B	8%	12%	10%	5%	6%	6%
オーバー入賞時示唆演出Cを実行	黄色	音C	7%	8%	15%	11%	6%	7%
オーバー入賞時示唆演出Dを実行	橙色	音D	5%	6%	10%	17%	12%	12%
オーバー入賞時示唆演出Eを実行	赤色	音E	5%	5%	5%	11%	20%	13%
オーバー入賞時示唆演出Fを実行	虹色	音F	5%	5%	5%	6%	11%	22%

【図 10-40】

【図10-40】



10

20

【図 10-41】

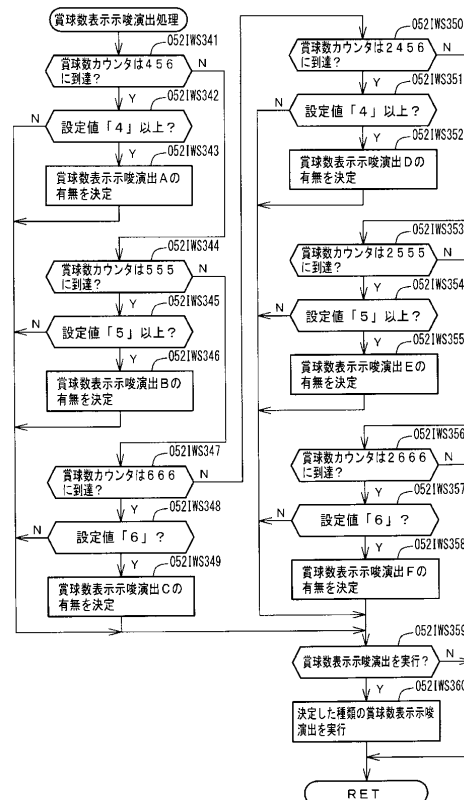
【図10-41】

小当り入賞時示唆演出決定テーブル

小当り入賞時示唆演出の有無及び種類	入賞表示	入賞音	設定値「1」	設定値「2」	設定値「3」	設定値「4」	設定値「5」	設定値「6」
小当り入賞時示唆演出なし	白色	通常音	95%	94%	93%	92%	91%	90%
小当り入賞時示唆演出Aを実行	青色	音A	2%	1%	1%	1%	1%	1%
小当り入賞時示唆演出Bを実行	緑色	音B	1%	2%	1%	1%	1%	1%
小当り入賞時示唆演出Cを実行	黄色	音C	1%	1%	2%	1%	1%	1%
小当り入賞時示唆演出Dを実行	橙色	音D	1%	1%	1%	3%	2%	1%
小当り入賞時示唆演出Eを実行	赤色	音E	—	1%	1%	1%	3%	2%
小当り入賞時示唆演出Fを実行	虹色	音F	—	—	1%	1%	1%	4%

【図 10-42】

【図10-42】



30

40

50

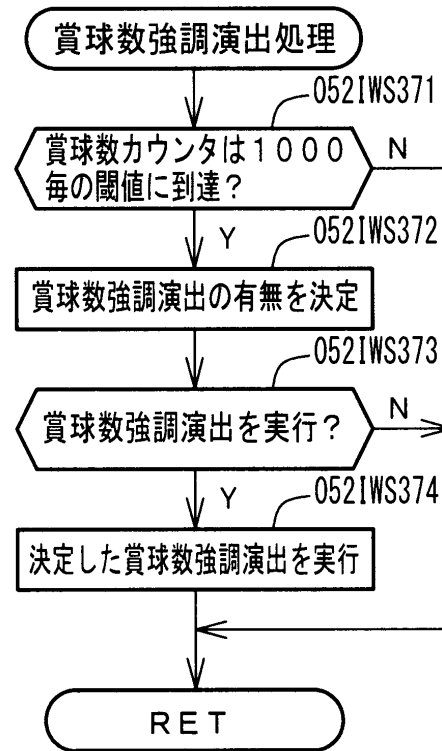
【図 10 - 43】

【図 10-43】

賞球数表示示唆演出決定テーブル			
賞球数表示示唆演出の種類	演出内容	実行する	実行しない
賞球数表示示唆演出 A	「4 5 6 O V E R」を表示	3 %	9 7 %
賞球数表示示唆演出 B	「5 5 5 O V E R」を表示	2 %	9 8 %
賞球数表示示唆演出 C	「6 6 6 O V E R」を表示	1 %	9 9 %
賞球数表示示唆演出 D	「2 4 5 6 O V E R」を表示	5 %	9 5 %
賞球数表示示唆演出 E	「2 5 5 5 O V E R」を表示	3 %	9 7 %
賞球数表示示唆演出 F	「2 6 6 6 O V E R」を表示	2 %	9 8 %

【図 10 - 44】

【図 10-44】



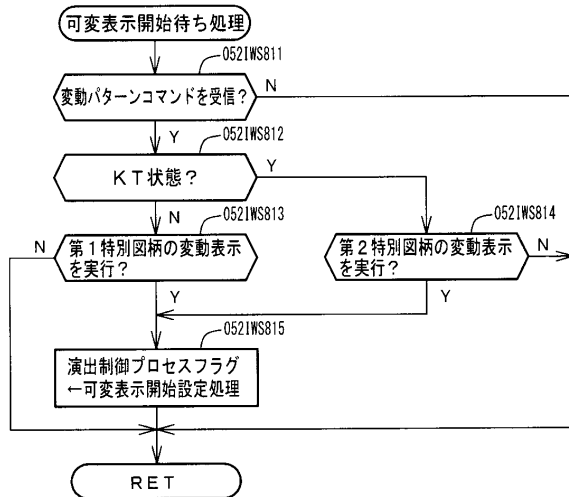
【図 10 - 45】

【図 10-45】

賞球数強調演出決定テーブル				
賞球数強調演出の種類	条件	演出内容	実行する	実行しない
賞球数強調演出 A	賞球 1000 個到達	「1000 OVER」を表示	50%	50%
賞球数強調演出 B	賞球 2000 個到達	「2000 OVER」を表示	60%	40%
賞球数強調演出 C	賞球 3000 個到達	「3000 OVER」を表示	70%	30%
賞球数強調演出 D	賞球 4000 個到達	「4000 OVER」を表示	80%	20%
賞球数強調演出 E	賞球 5000 個到達	「5000 OVER」を表示	90%	10%

【図 10 - 46】

【図 10-46】



10

20

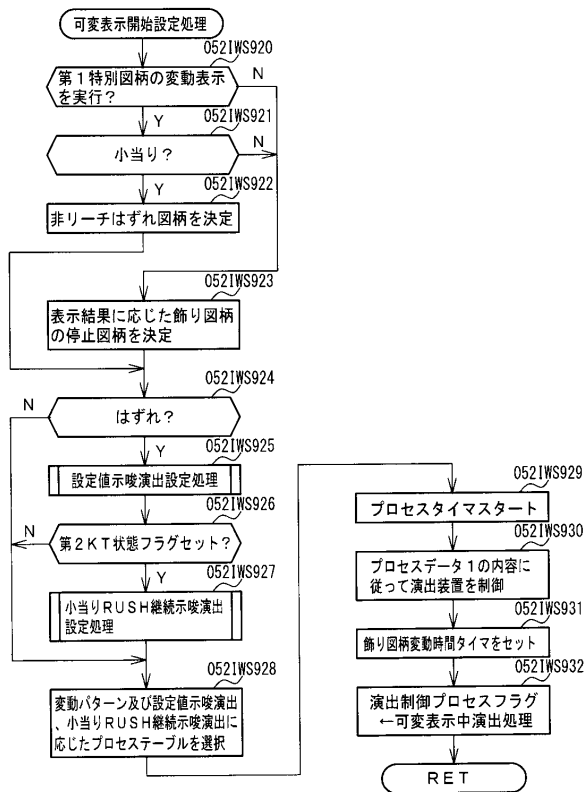
30

40

50

【図 10-47】

【図10-47】



【図 10-48】

【図10-48】

設定値示唆演出の名称・種類	設定値「1」	設定値「2」	設定値「3」	設定値「4」	設定値「5」	設定値「6」
設定値示唆演出なし	90%	85%	80%	75%	70%	65%
設定値示唆演出A	5%	2%	3%	4%	5%	4%
設定値示唆演出B	1%	5%	3%	4%	5%	4%
設定値示唆演出C	1%	2%	5%	4%	4%	5%
設定値示唆演出D	1%	2%	3%	7%	4%	6%
設定値示唆演出E	1%	2%	3%	3%	8%	6%
設定値示唆演出F	1%	2%	3%	3%	4%	10%

10

20

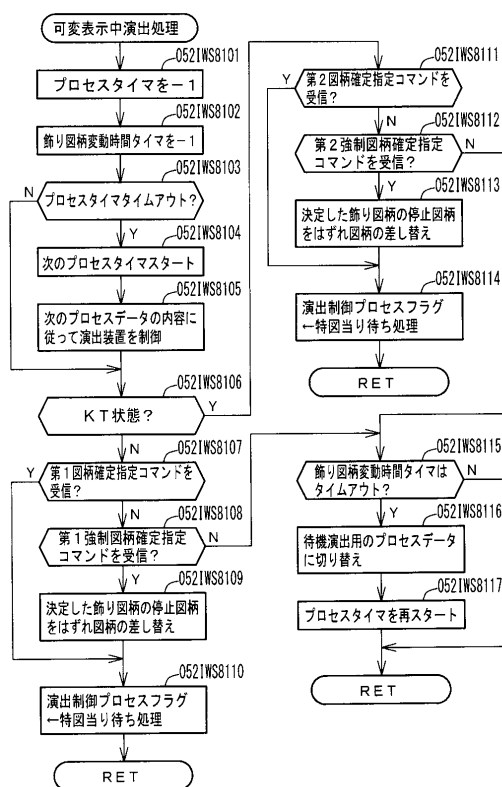
【図 10-49】

【図10-49】

小当りRUSH継続示唆演出決定テーブル	設定値「1」	設定値「2」	設定値「3」	設定値「4」	設定値「5」	設定値「6」
小当りRUSH継続示唆演出の名称・種類	35%	40%	45%	50%	55%	60%
小当りRUSH継続示唆演出なし	30%	28%	27%	25%	23%	22%
小当りRUSH継続示唆演出A	35%	32%	28%	25%	22%	18%

【図 10-50】

【図10-50】



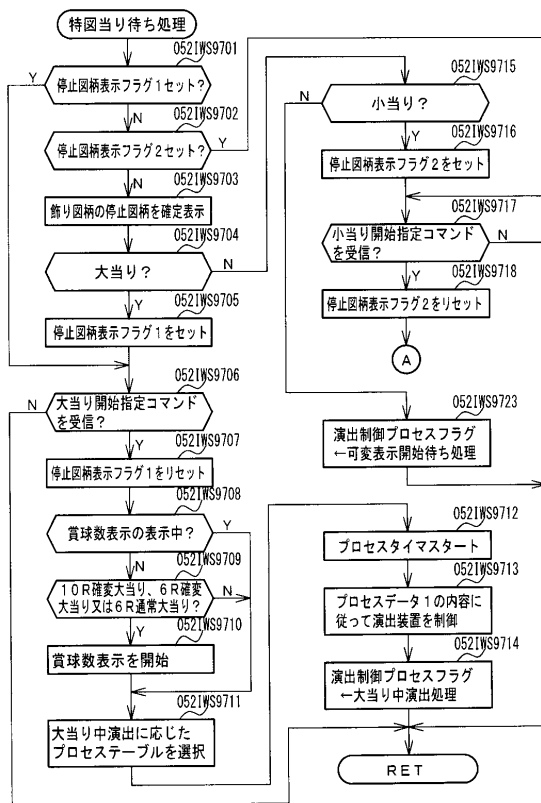
30

40

50

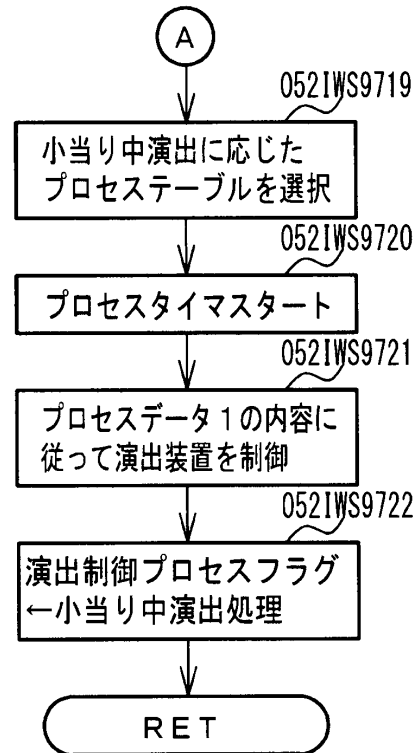
【図 10-51】

【図 10-51】



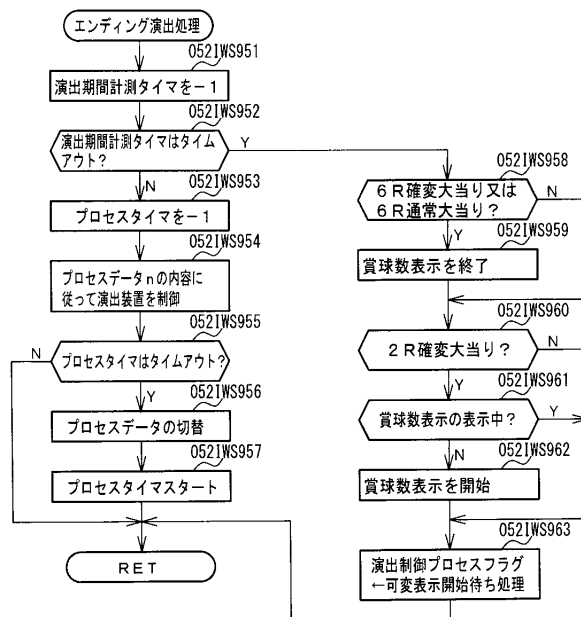
【図 10-52】

【図 10-52】



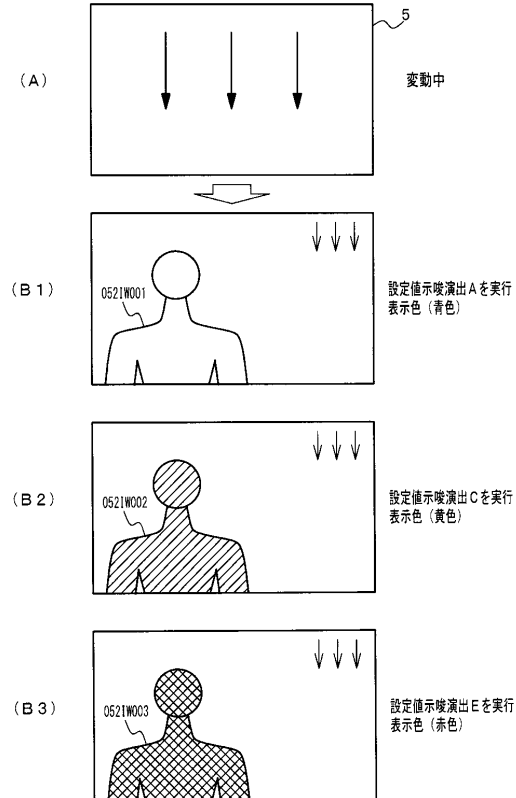
【図 10-53】

【図 10-53】



【図 10-54】

【図 10-54】



10

20

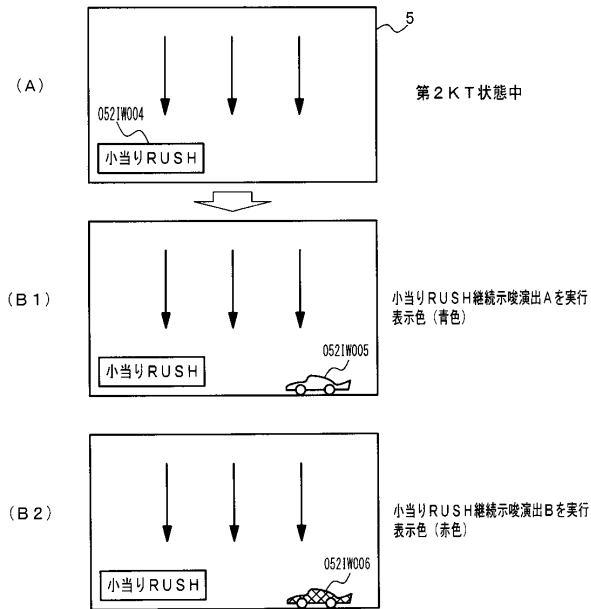
30

40

50

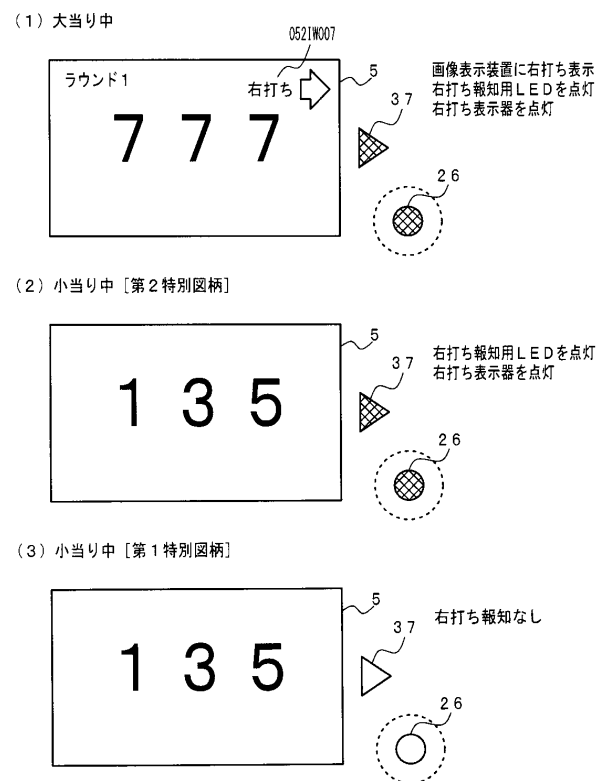
【図 10-55】

【図10-55】



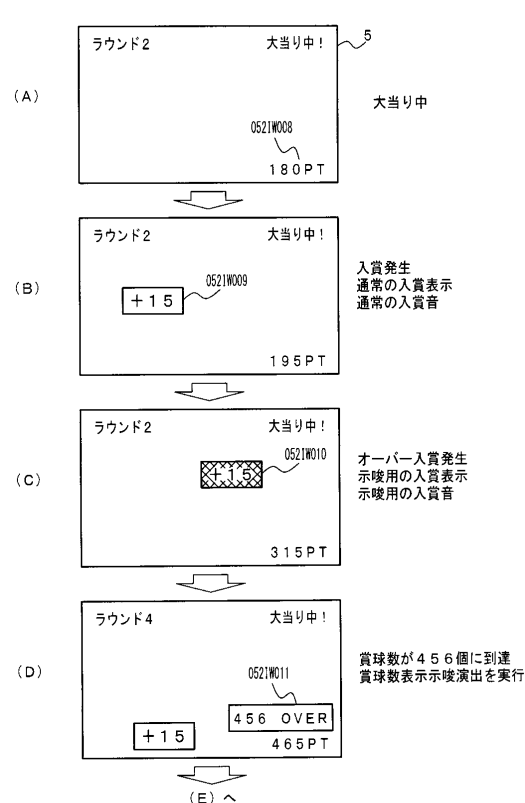
【図 10-56】

【図10-56】



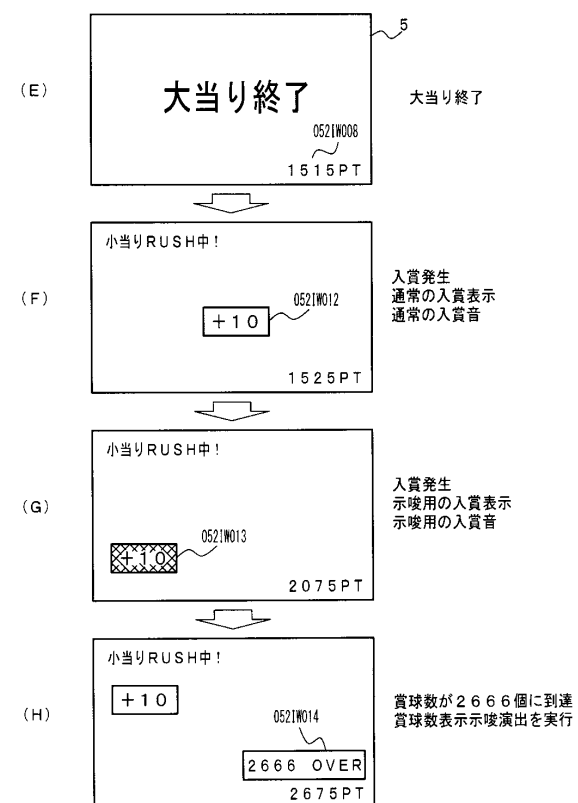
【図 10-57】

【図10-57】



【図 10-58】

【図10-58】



10

20

30

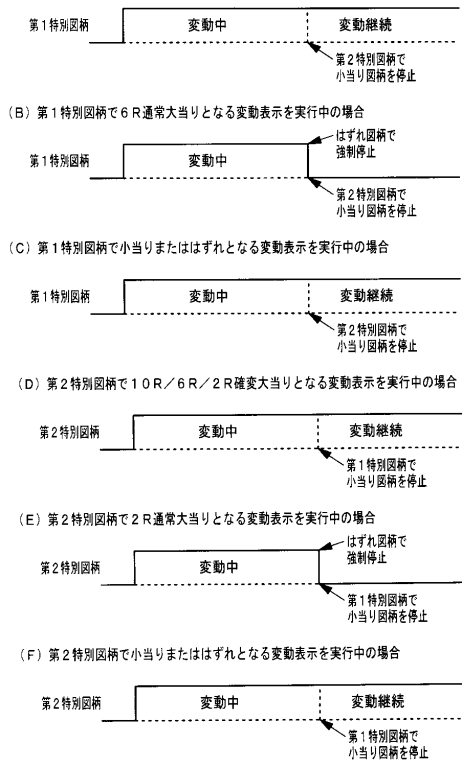
40

50

【図 10-59】

【例10-59】

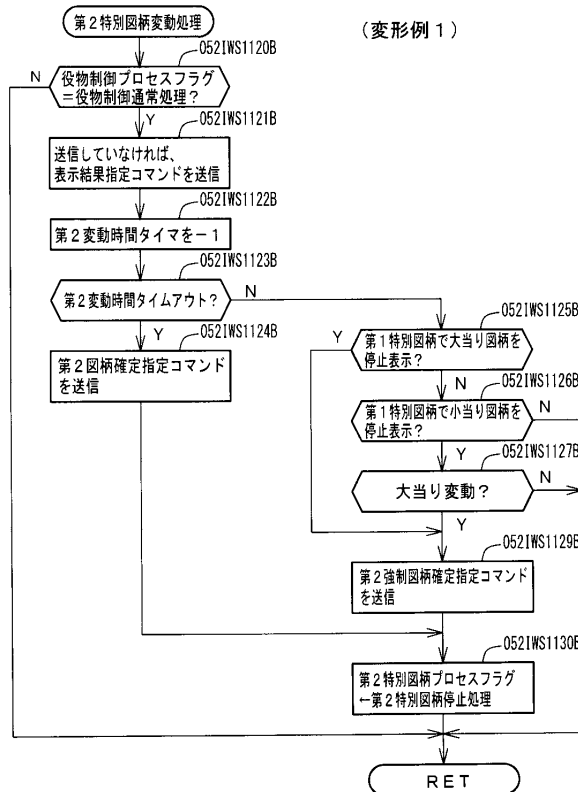
(A) 第1特別図柄で10R/6R確変大当たりとなる変動表示を実行中の場合



【図 10-61】

【图10-61】

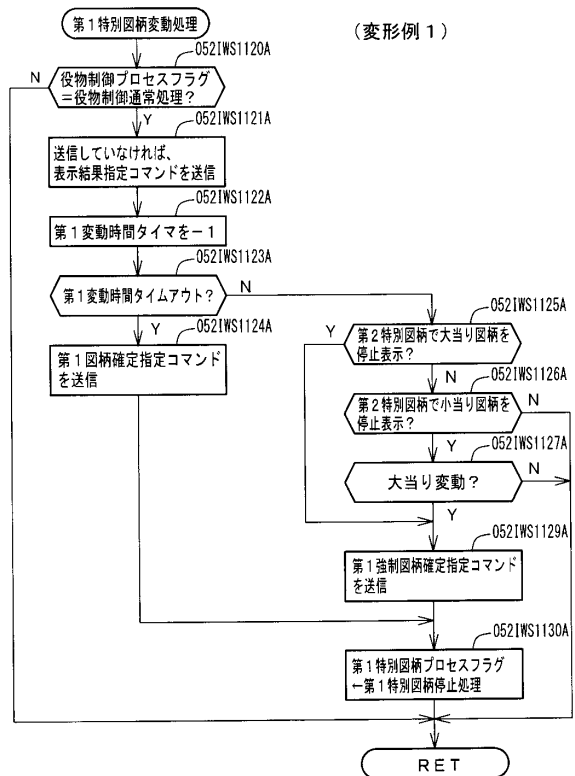
(变形例 1)



【図 10-60】

【图10-60】

(变形例 1)

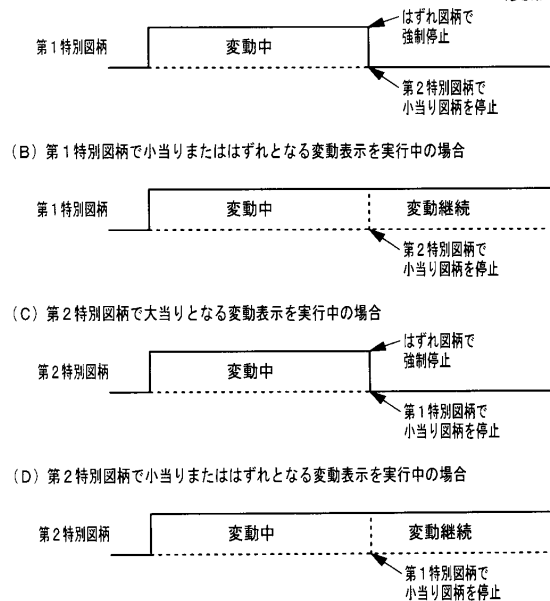


【図 10-62】

【图10-62】

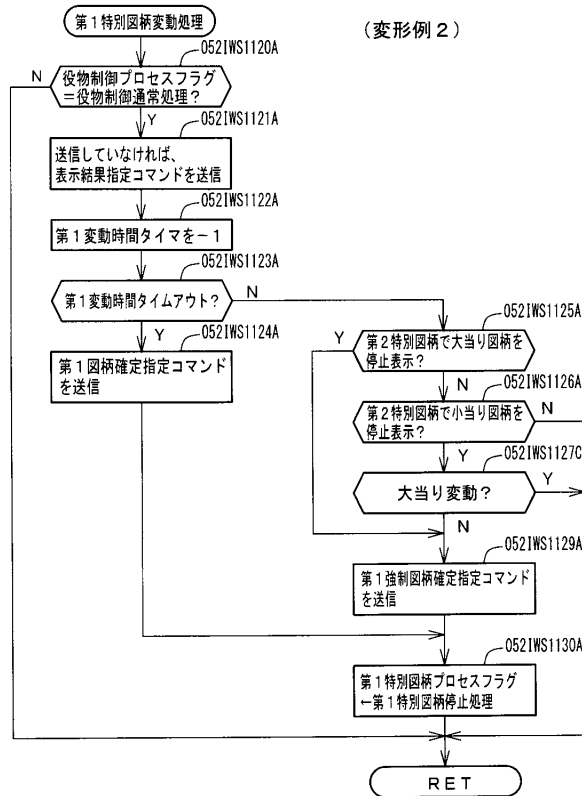
(A) 第1特別図柄で大当たりとなる変動表示を実行中の場合

(变形例 1)



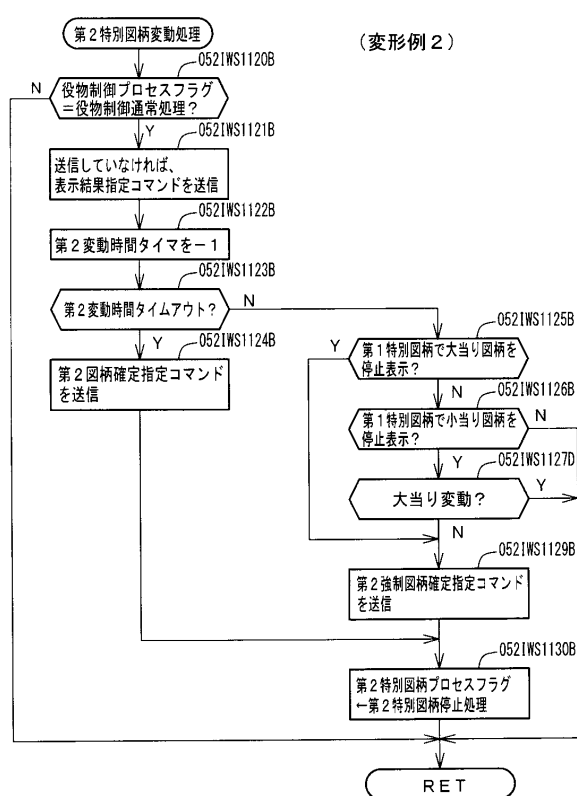
【図 10-63】

【図 10-63】



【図 10-64】

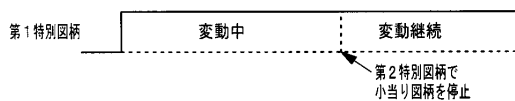
【図 10-64】



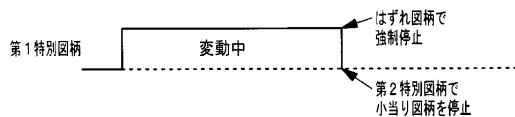
【図 10-65】

【図 10-65】

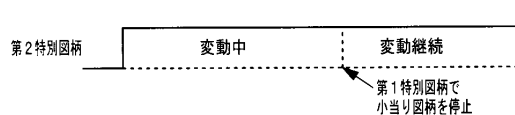
(A) 第1特別図柄で大当りとなる変動表示を実行中の場合 (変形例 2)



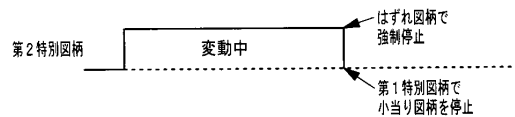
(B) 第1特別図柄で小当りまたははずれとなる変動表示を実行中の場合



(C) 第2特別図柄で大当りとなる変動表示を実行中の場合

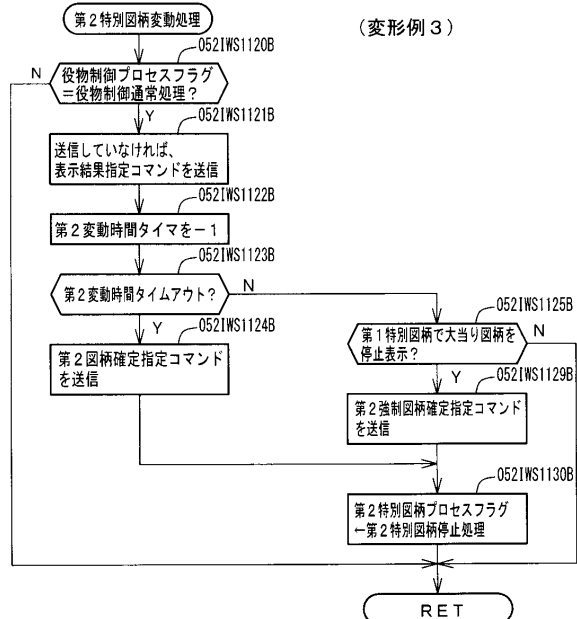


(D) 第2特別図柄で小当りまたははずれとなる変動表示を実行中の場合



【図 10-66】

【図 10-66】



10

20

30

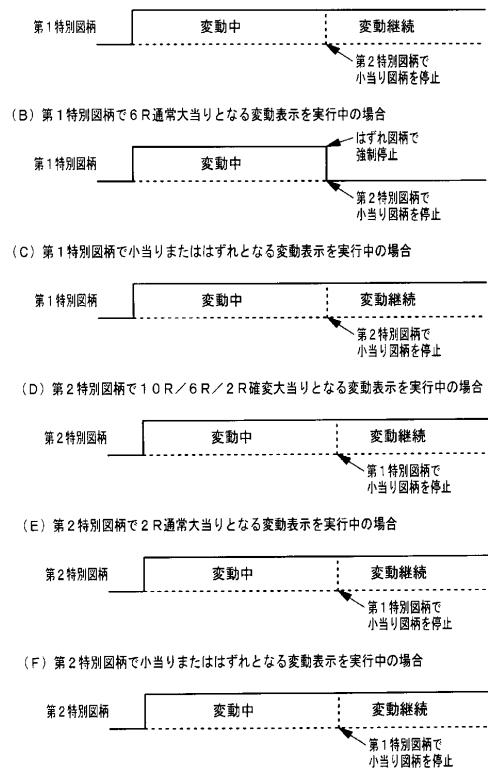
40

50

【図 10-67】

【图10-67】

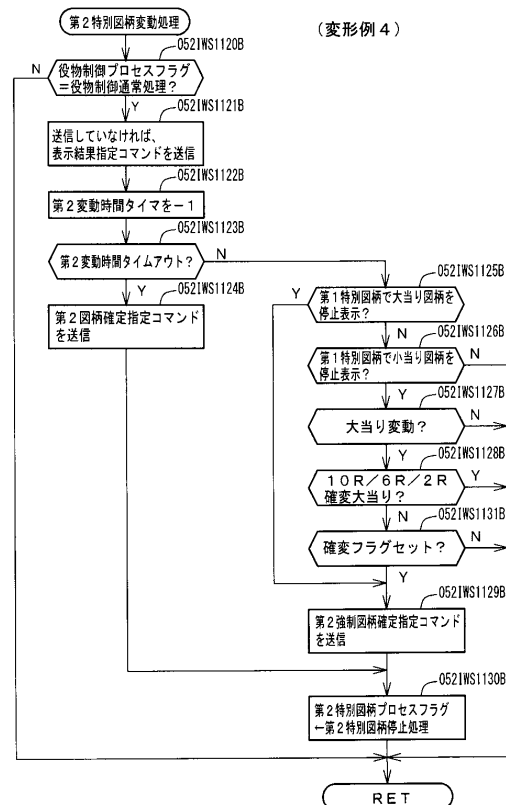
(A) 第1特別図柄で10R/6R確変大当たりとなる変動表示を実行中の場合 (変形例3)



【図 10-69】

【图10-69】

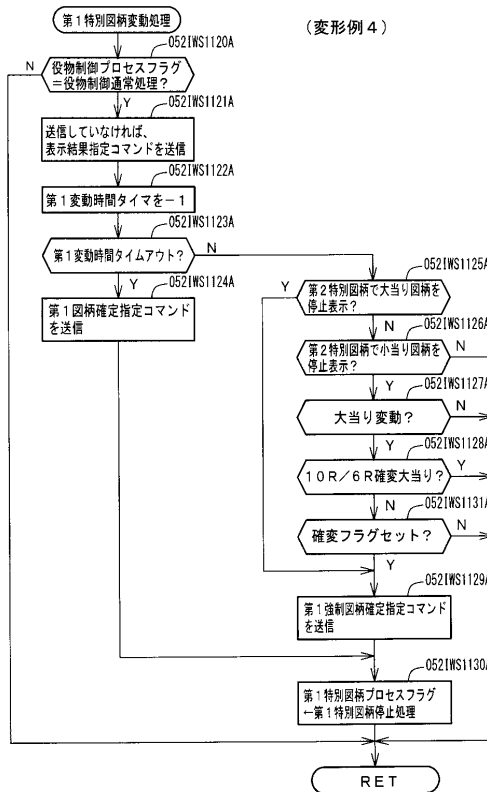
(变形例 4)



【図 10-68】

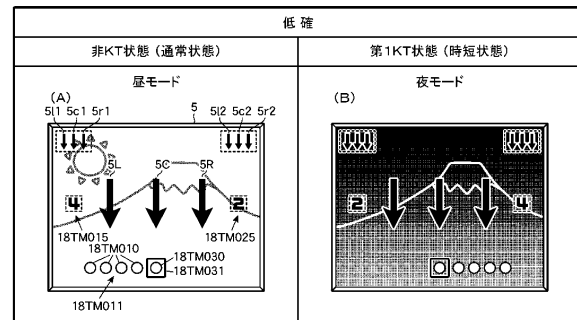
【图10-68】

(变形例 4)



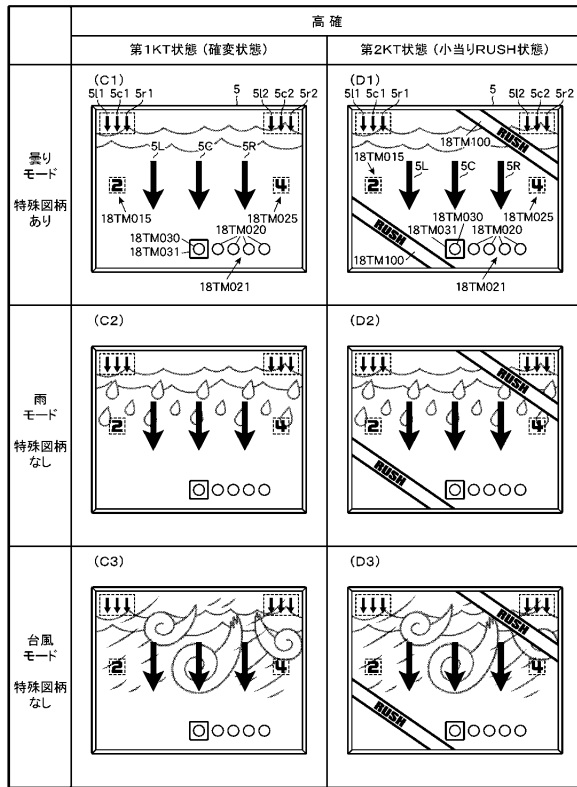
【図 1 1 - 1】

【图11-1】



【図 11-2】

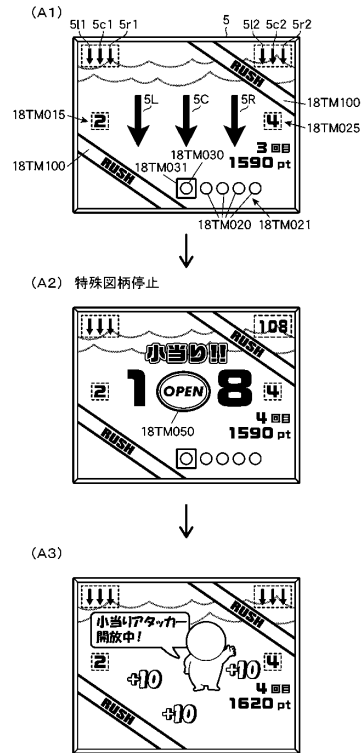
【図11-2】



【図 11-3】

【図11-3】

(A) 曇りモード



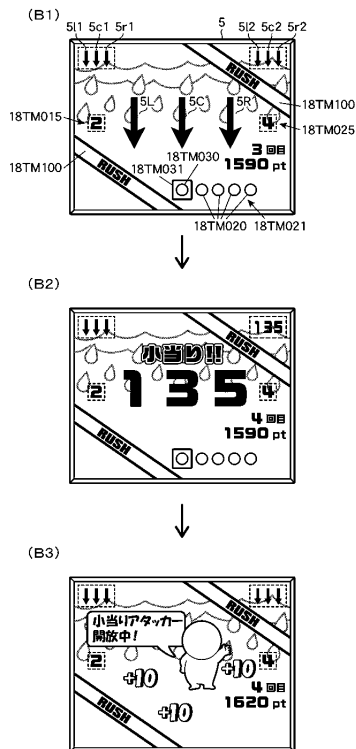
10

20

【図 11-4】

【図11-4】

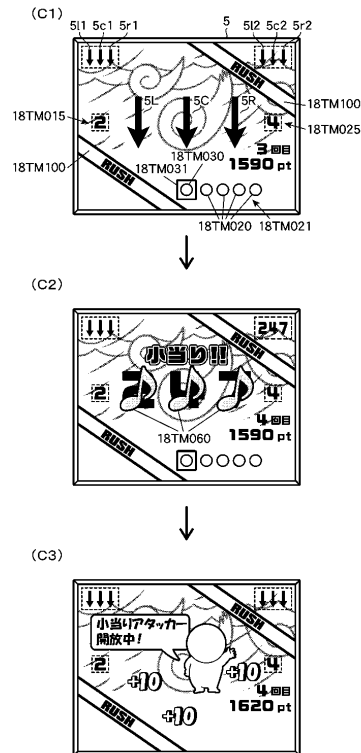
(B) 雨モード



【図 11-5】

【図11-5】

(C) 台風モード



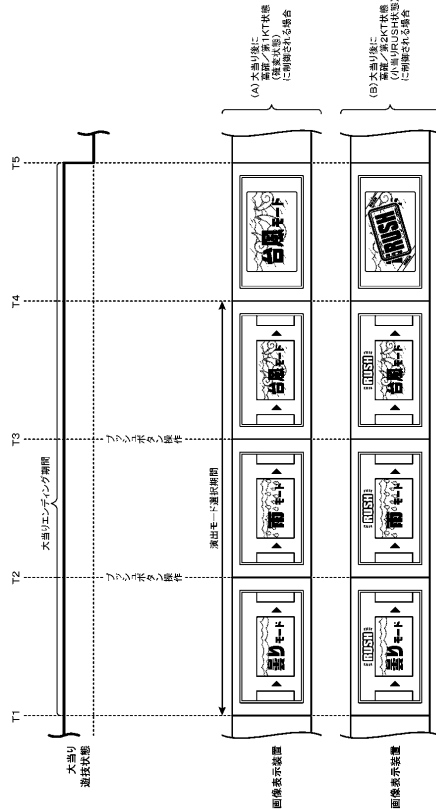
30

40

50

【図 11-6】

【図11-6】



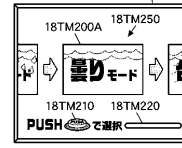
【図 11-7】

【図11-7】

大当りエンディング期間の演出モード選択

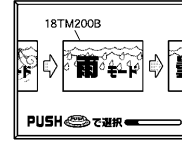
(A) 高確／第1KT状態 (確変状態)

(A1)



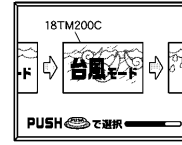
プッシュボタン操作

(A2)



プッシュボタン操作

(A3)



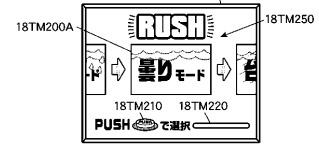
プッシュボタン操作

(A4)



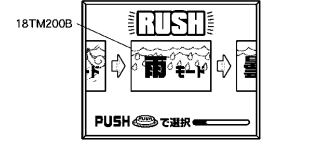
(B) 高確／第2KT状態 (小当りRUSH状態)

(B1)



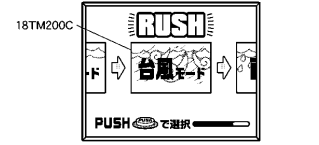
プッシュボタン操作

(B2)



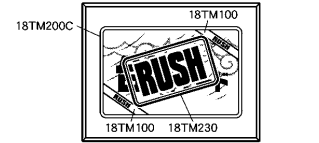
プッシュボタン操作

(B3)



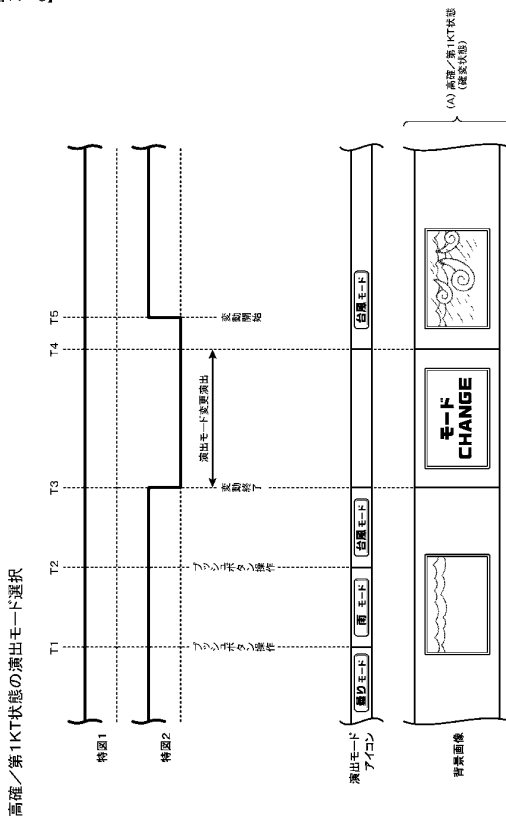
プッシュボタン操作

(B4)



【図 11-8】

【図11-8】



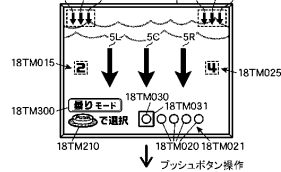
【図 11-9】

【図11-9】

変動表示を実行している期間の演出モード選択

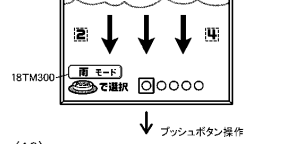
(A) 高確／第1KT状態 (確変状態)

(A1)



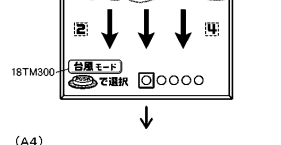
プッシュボタン操作

(A2)



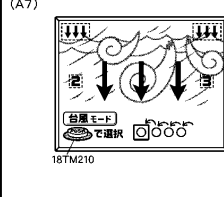
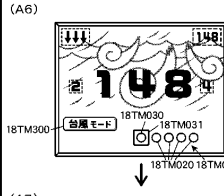
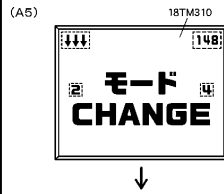
プッシュボタン操作

(A3)



プッシュボタン操作

(A4)



10

20

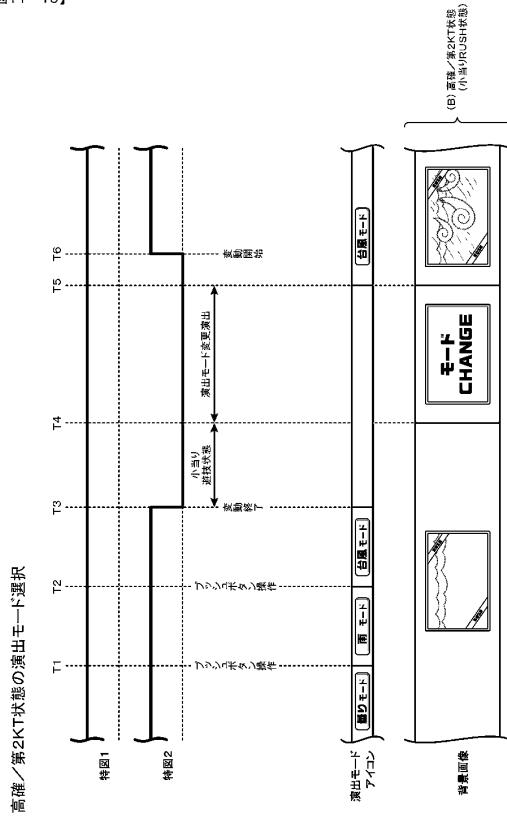
30

40

50

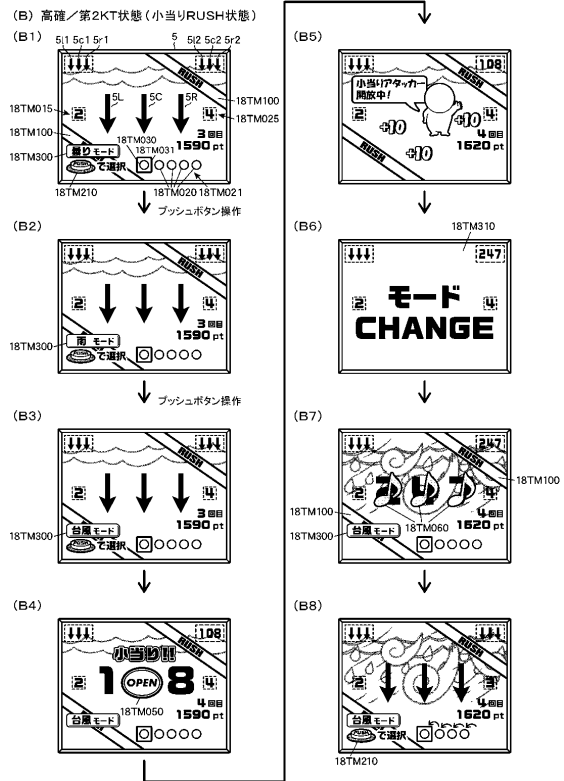
【図 11-10】

【图11-10】



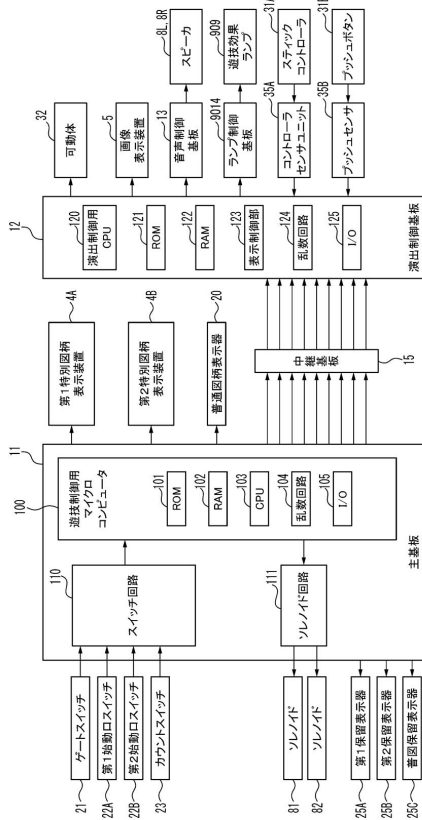
【図 1 1 - 1 1】

【图 11-11】



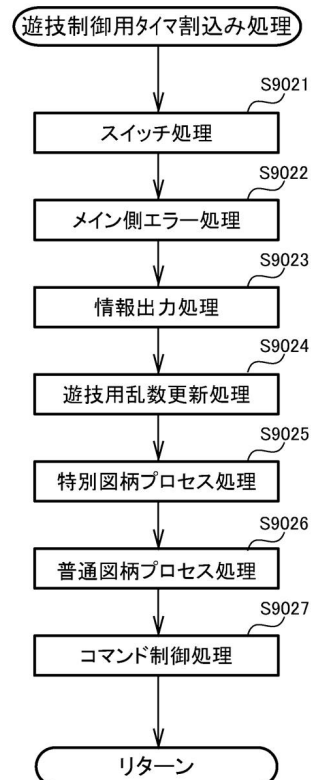
【圖 12】

【図12】



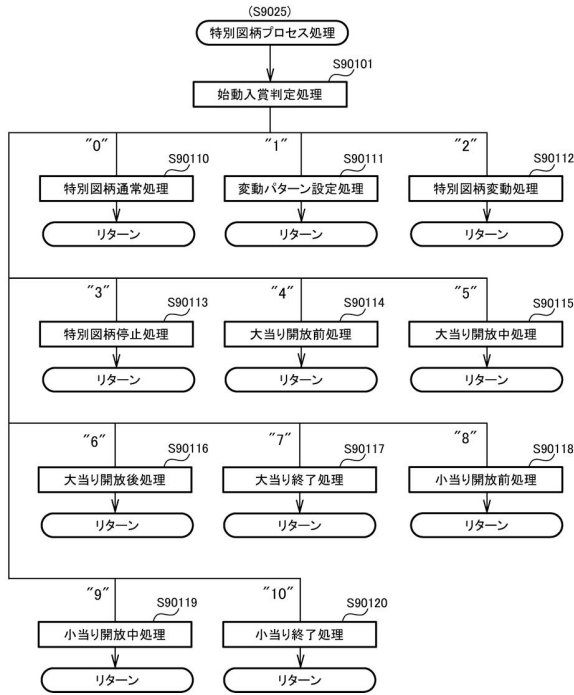
【圖 13】

【図13】



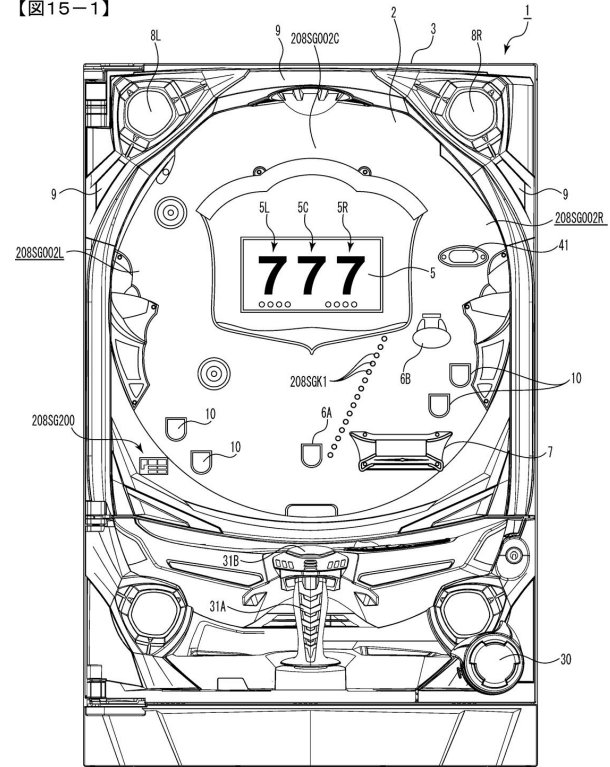
【図 14】

【図14】



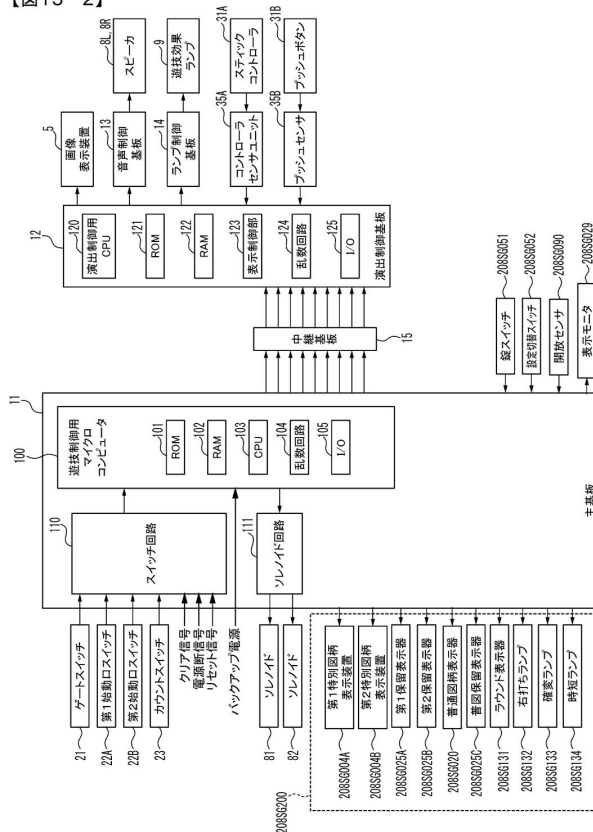
【図 15-1】

【図15-1】



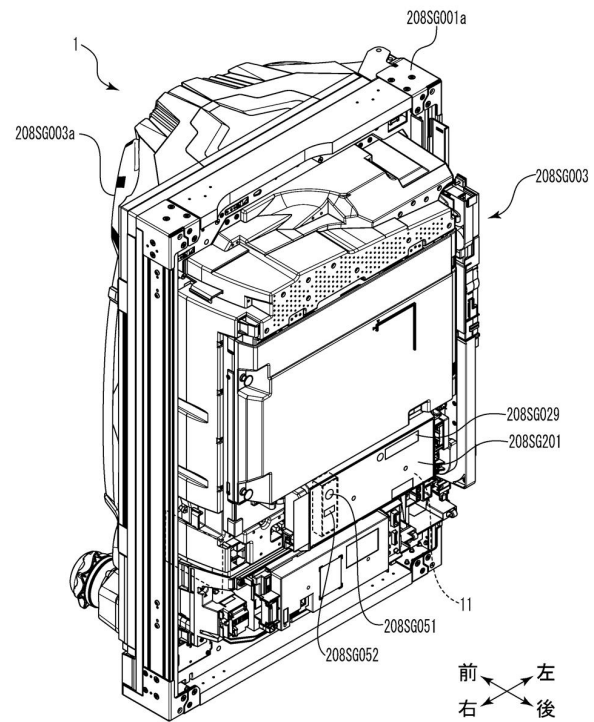
【図 15-2】

【图15-2】



【圖 15-3】

【图15-3】



【図 15 - 4】

【図15-4】

(A)

MODE	EXT	名称	内容
80	01	第1可変表示開始	第1特図の可変表示開始を指定
80	02	第2可変表示開始	第2特図の可変表示開始を指定
81	XX	変動パターン指定	変動パターン(変動表示時間)を指定
8C	XX	可変表示結果通知	可変表示結果を指定
8F	00	図柄確定	演出図柄の可変表示の停止指定
95	XX	遊技状態指定	現在の遊技状態を指定
96	XX	エラー指定	XXで示すエラーの発生を指定
A0	XX	当り開始指定	大当り・小当りの開始指定
A1	XX	大入賞口開放中指定	大入賞口開放中を指定
A2	XX	大入賞口開放後指定	大入賞口開放後を指定
A3	XX	当り終了指定	大当り・小当りの終了指定
B1	00	第1始動口入賞指定	第1始動入賞口への入賞を通知
B2	00	第2始動口入賞指定	第2始動入賞口への入賞を通知
C1	XX	第1保留記憶数通知	第1保留記憶数を通知
C2	XX	第2保留記憶数通知	第2保留記憶数を通知
C4	XX	図柄指定	始動入賞時の入賞時判定結果(表示結果)を指定
D6	XX	変動カテゴリ	始動入賞時の入賞時判定結果(変動カテゴリ)を指定
00	XX	設定値指定	設定値を指定

(B)

MODE	EXT	名称	指定内容
8C	00	第1可変表示結果指定	はずれ
8C	01	第2可変表示結果指定	大当りA
8C	02	第3可変表示結果指定	大当りB
8C	03	第4可変表示結果指定	大当りC
8C	04	第5可変表示結果指定	小当り

【図 15 - 6】

【図15-6】

変動パターン	特図変動時間(ms)	内容
PA1-1	12000	短縮なし(通常状態)→非リーチ(はずれ)
PA1-2	5750	保留2~4個短縮(通常状態)→非リーチ(はずれ)
PA1-3	3750	保留5~8個短縮(通常状態)→非リーチ(はずれ)
PA1-4	5000	短縮(時短制御中)→非リーチ(はずれ)
PA2-1	20000	ノーマルリーチ(はずれ)
PA2-2	43000	スーパリーチ α (はずれ)
PA2-3	53000	スーパリーチ β (はずれ)
PA2-4	63000	スーパリーチ γ (はずれ)
PA2-5	73000	スーパリーチ δ (はずれ)
PB1-1	20000	ノーマルリーチ(大当り)
PB1-2	43000	スーパリーチ α (大当り)
PB1-3	53000	スーパリーチ β (大当り)
PB1-4	63000	スーパリーチ γ (大当り)
PB1-5	68000	スーパリーチ γ (はずれ→復活演出後大当り)
PB1-6	73000	スーパリーチ δ (大当り)
PC1-1	4000	小当り

【図 15 - 5】

【図15-5】

乱数	範囲	用途	加算
MR1	0~65535	特図表示結果判定用	0.002秒毎に1ずつ加算
MR2	0~299	大当り種別判定用	0.002秒毎に1ずつ加算
MR3	1~997	変動パターン判定用	0.002秒毎および割込処理 余り時間に1ずつ加算
MR4	3~23	普通図柄当り判定用	0.002秒毎に1ずつ加算
MR5	3~23	MR4初期値決定用	0.002秒毎および割込処理 余り時間に1ずつ加算

10

【図 15 - 7】

【図15-7】

(A) 第1特図用表示結果判定テーブル
(設定値1であり通常状態または時短状態)

特図表示結果	MR1(設定値1)
大当り	1020~1237 (確率:1/300)
小当り	32767~33094 (確率:1/200)
はずれ	上記数値以外

(B) 第1特図用表示結果判定テーブル
(設定値1であり確変状態)

特図表示結果	MR1(設定値1)
大当り	1020~1346 (確率:1/200)
小当り	32767~33094 (確率:1/200)
はずれ	上記数値以外

20

(C) 第1特図用表示結果判定テーブル
(設定値2であり通常状態または時短状態)

特図表示結果	MR1(設定値2)
大当り	1020~1253 (確率:1/280)
小当り	32767~33094 (確率:1/200)
はずれ	上記数値以外

(D) 第1特図用表示結果判定テーブル
(設定値2であり確変状態)

特図表示結果	MR1(設定値2)
大当り	1020~1383 (確率:1/180)
小当り	32767~33094 (確率:1/200)
はずれ	上記数値以外

30

(E) 第1特図用表示結果判定テーブル
(設定値3であり通常状態または時短状態)

特図表示結果	MR1(設定値3)
大当り	1020~1272 (確率:1/260)
小当り	32767~33094 (確率:1/200)
はずれ	上記数値以外

(F) 第1特図用表示結果判定テーブル
(設定値3であり確変状態)

特図表示結果	MR1(設定値3)
大当り	1020~1429 (確率:1/160)
小当り	32767~33094 (確率:1/200)
はずれ	上記数値以外

40

50

【図 15-8】

【図15-8】

(A) 第1特図用表示結果判定テーブル
(設定値4であり通常状態または時短状態)

特図表示結果	MR1 (設定値4)
大当り	1020～1292 (確率:1/240)
小当り	32767～33094 (確率:1/200)
はずれ	上記数値以外

【図 15-9】

【図15-9】

(B) 第1特図用表示結果判定テーブル
(設定値4であり確変状態)

特図表示結果	MR1 (設定値4)
大当り	1020～1487 (確率:1/140)
小当り	32767～33094 (確率:1/200)
はずれ	上記数値以外

(A) 第2特図用表示結果判定テーブル
(設定値1であり通常状態または時短状態)

特図表示結果	MR1 (設定値1)
大当り	1020～1237 (確率:1/300)
小当り	32767～33421 (確率:1/100)
はずれ	上記数値以外

(B) 第2特図用表示結果判定テーブル
(設定値1であり確変状態)

特図表示結果	MR1 (設定値1)
大当り	1020～1346 (確率:1/200)
小当り	32767～33421 (確率:1/100)
はずれ	上記数値以外

(C) 第1特図用表示結果判定テーブル
(設定値5であり通常状態または時短状態)

特図表示結果	MR1 (設定値5)
大当り	1020～1317 (確率:1/220)
小当り	32767～33094 (確率:1/200)
はずれ	上記数値以外

(D) 第1特図用表示結果判定テーブル
(設定値5であり確変状態)

特図表示結果	MR1 (設定値5)
大当り	1020～1556 (確率:1/120)
小当り	32767～33094 (確率:1/200)
はずれ	上記数値以外

(C) 第2特図用表示結果判定テーブル
(設定値2であり通常状態または時短状態)

特図表示結果	MR1 (設定値2)
大当り	1020～1253 (確率:1/280)
小当り	32767～33421 (確率:1/100)
はずれ	上記数値以外

(D) 第2特図用表示結果判定テーブル
(設定値2であり確変状態)

特図表示結果	MR1 (設定値2)
大当り	1020～1383 (確率:1/180)
小当り	32767～33421 (確率:1/100)
はずれ	上記数値以外

(E) 第1特図用表示結果判定テーブル
(設定値6であり通常状態または時短状態)

特図表示結果	MR1 (設定値6)
大当り	1020～1346 (確率:1/200)
小当り	32767～33094 (確率:1/200)
はずれ	上記数値以外

(F) 第1特図用表示結果判定テーブル
(設定値6であり確変状態)

特図表示結果	MR1 (設定値6)
大当り	1020～1674 (確率:1/100)
小当り	32767～33094 (確率:1/200)
はずれ	上記数値以外

(E) 第2特図用表示結果判定テーブル
(設定値3であり通常状態または時短状態)

特図表示結果	MR1 (設定値3)
大当り	1020～1272 (確率:1/260)
小当り	32767～33421 (確率:1/100)
はずれ	上記数値以外

(F) 第2特図用表示結果判定テーブル
(設定値3であり確変状態)

特図表示結果	MR1 (設定値3)
大当り	1020～1429 (確率:1/160)
小当り	32767～33421 (確率:1/100)
はずれ	上記数値以外

【図 15-10】

【図15-10】

(A) 第2特図用表示結果判定テーブル
(設定値4であり通常状態または時短状態)

特図表示結果	MR1 (設定値4)
大当り	1020～1292 (確率:1/240)
小当り	32767～33421 (確率:1/100)
はずれ	上記数値以外

【図 15-11】

【図15-11】

(B) 第2特図用表示結果判定テーブル
(設定値4であり確変状態)

特図表示結果	MR1 (設定値4)
大当り	1020～1487 (確率:1/140)
小当り	32767～33421 (確率:1/100)
はずれ	上記数値以外

(A) 大当り種別判定テーブル(第1特別図柄用)

判定結果	MR2
大当りA	0～99
大当りB	100～249
大当りC	250～299

(B) 大当り種別判定テーブル(第2特別図柄用)

判定結果	MR2
大当りA	0～99
大当りB	100～199
大当りC	200～299

(C) 第2特図用表示結果判定テーブル
(設定値5であり通常状態または時短状態)

特図表示結果	MR1 (設定値5)
大当り	1020～1317 (確率:1/220)
小当り	32767～33421 (確率:1/100)
はずれ	上記数値以外

(D) 第2特図用表示結果判定テーブル
(設定値5であり確変状態)

特図表示結果	MR1 (設定値5)
大当り	1020～1556 (確率:1/120)
小当り	32767～33421 (確率:1/100)
はずれ	上記数値以外

(E) 第2特図用表示結果判定テーブル
(設定値6であり通常状態または時短状態)

特図表示結果	MR1 (設定値6)
大当り	1020～1346 (確率:1/200)
小当り	32767～33421 (確率:1/100)
はずれ	上記数値以外

(F) 第2特図用表示結果判定テーブル
(設定値6であり確変状態)

特図表示結果	MR1 (設定値6)
大当り	1020～1674 (確率:1/100)
小当り	32767～33421 (確率:1/100)
はずれ	上記数値以外

10

20

30

40

50

【図 15 - 12】

【図15-12】

大当り種別

大当り種別	確変制御	時短制御	ラウンド数
大当りA	無し	100回 (100回以内の大当りまで)	5
大当りB	次回大当りまで	次回大当りまで	10
大当りC	次回大当りまで	次回大当りまで	15

【図 15 - 13】

【図15-13】

(A) 大当り用変動パターン判定テーブル

変動パターン	MR3
ノーマルPB1-1	1～50
スーパーPB1-2	51～200
スーパーPB1-3	201～400
スーパーPB1-4	401～650
スーパーPB1-5	651～700
スーパーPB1-6	701～997

10

(B) 小当り用変動パターン判定テーブル

変動パターン	MR3
小当りPC1-1	1～997

20

【図 15 - 14】

【図15-14】

(A) はずれ用変動パターン判定テーブルA(低ベース中合算保留記憶数1個以下用)

変動パターン	MR3
非リーチPA1-1	1～450
ノーマルPA2-1	451～700
スーパーPA2-2	701～850
スーパーPA2-3	851～930
スーパーPA2-4	931～970
スーパーPA2-5	971～997

(B) はずれ用変動パターン判定テーブルB(低ベース中合算保留記憶数2～4個用)

変動パターン	MR3
非リーチPA1-2	1～500
ノーマルPA2-1	501～700
スーパーPA2-2	701～850
スーパーPA2-3	851～930
スーパーPA2-4	931～970
スーパーPA2-5	971～997

(C) はずれ用変動パターン判定テーブルC(低ベース中合算保留記憶数5個以上用)

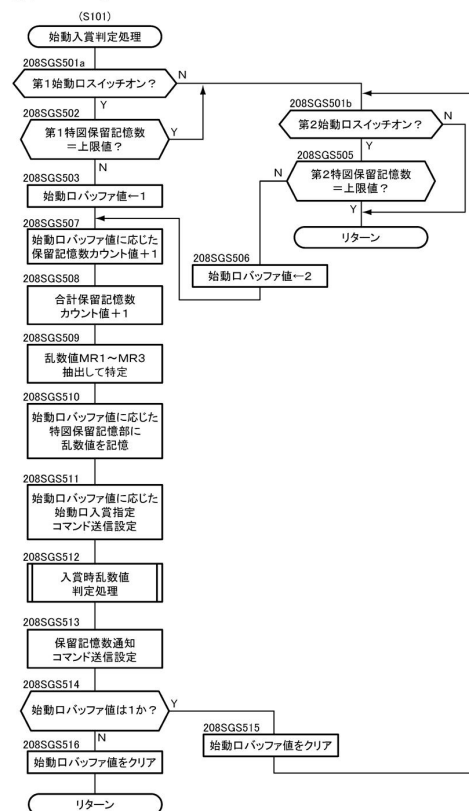
変動パターン	MR3
非リーチPA1-3	1～550
ノーマルPA2-1	551～700
スーパーPA2-2	701～850
スーパーPA2-3	851～930
スーパーPA2-4	931～970
スーパーPA2-5	971～997

(D) はずれ用変動パターン判定テーブルD(高ベース中用)

変動パターン	MR3
非リーチPA1-4	1～550
ノーマルPA2-1	551～700
スーパーPA2-2	701～850
スーパーPA2-3	851～930
スーパーPA2-4	931～970
スーパーPA2-5	971～997

【図 15 - 15】

【図15-15】



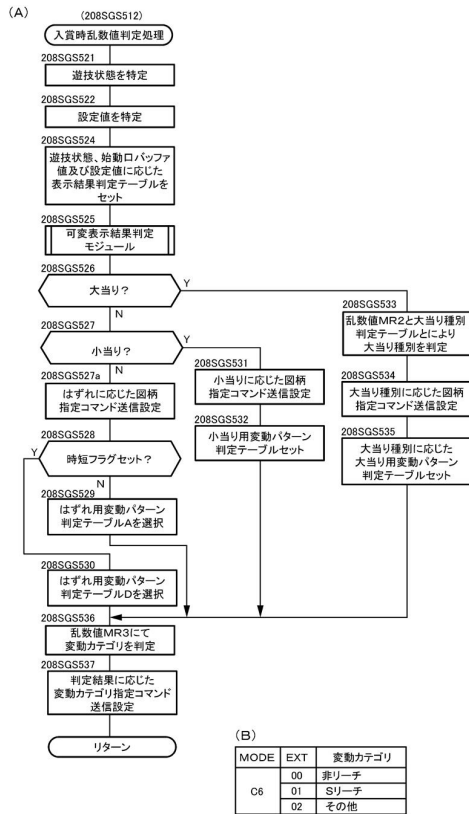
30

40

50

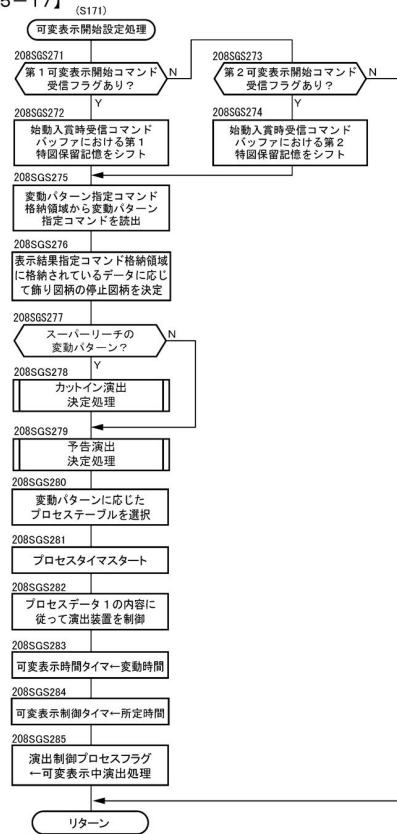
【図 15-16】

【図 15-16】



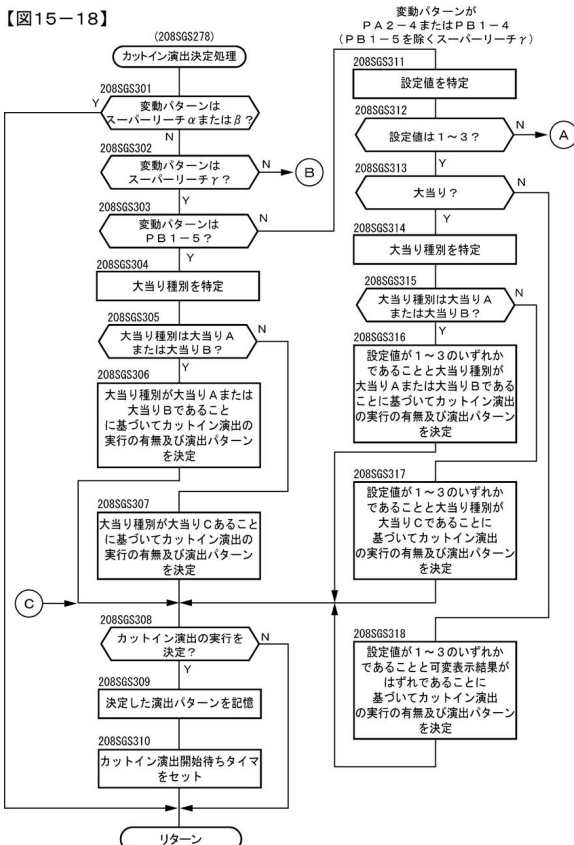
【図 15-17】

【図 15-17】



【図 15-18】

【図 15-18】



【図 15-19】

【図 15-19】



10

20

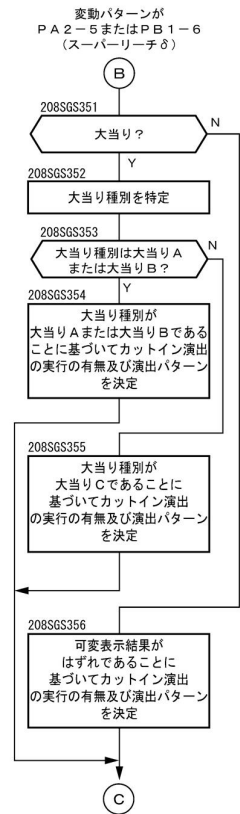
30

40

50

【図 15－20】

【図15-20】



【図 15－22】

【図15-22】

変動パターンがPA2-5またはPB1-6である場合
(208SGS354、208SGS355、208SGS356)

可変表示結果	非実行	演出パターン			
		パターンC I-1	パターンC I-2	パターンC I-3	パターンC I-4
大当りA or B	10%	30%	50%	10%	0%
大当りC	10%	30%	45%	10%	5%
はずれ	50%	35%	15%	0%	0%

【図 15－21】

【図15-21】

(A) 変動パターンがPB1-5である場合 (208SGS306、208SGS307)

可変表示結果	非実行	演出パターン			
		パターンC I-1	パターンC I-2	パターンC I-3	パターンC I-4
大当りA or B	10%	30%	55%	5%	0%
大当りC	10%	30%	54%	5%	1%

(B) 設定値が1〜3のいずれかであり変動パターンがPA2-4またはPB1-4である場合
(208SGS316、208SGS317、208SGS318)

可変表示結果	非実行	演出パターン			
		パターンC I-1	パターンC I-2	パターンC I-3	パターンC I-4
大当りA or B	10%	30%	50%	10%	0%
大当りC	10%	30%	45%	10%	5%
はずれ	55%	35%	10%	0%	0%

(C) 設定値が4であり変動パターンがPA2-4またはPB1-4である場合
(208SGS325、208SGS326、208SGS328、208SGS329)

可変表示結果	非実行	演出パターン			
		パターンC I-1	パターンC I-2	パターンC I-3	パターンC I-4
大当りA or B	10%	30%	50%	10%	0%
大当りC	10%	30%	45%	10%	5%
はずれ (高確高ベース)	40%	30%	10%	20%	0%
はずれ (高確高ベース以外)	59%	30%	10%	1%	0%

(D) 設定値が5であり変動パターンがPA2-4またはPB1-4である場合
(208SGS334、208SGS335、208SGS337、208SGS338)

可変表示結果	非実行	演出パターン			
		パターンC I-1	パターンC I-2	パターンC I-3	パターンC I-4
大当りA or B	10%	30%	50%	10%	0%
大当りC	10%	30%	45%	10%	5%
はずれ (高確高ベース)	35%	30%	10%	25%	0%
はずれ (高確高ベース以外)	58%	30%	10%	2%	0%

(E) 設定値が6であり変動パターンがPA2-4またはPB1-4である場合
(208SGS342、208SGS343、208SGS345、208SGS346)

可変表示結果	非実行	演出パターン			
		パターンC I-1	パターンC I-2	パターンC I-3	パターンC I-4
大当りA or B	10%	30%	50%	10%	0%
大当りC	10%	30%	45%	10%	5%
はずれ (高確高ベース)	30%	30%	10%	30%	0%
はずれ (高確高ベース以外)	57%	30%	10%	3%	0%

【図 15－23】

【図15-23】

カットイン演出の演出パターン

演出パターン	内容
パターンC I-1	カットイン画像表示（青色表示）
パターンC I-2	カットイン画像表示（赤色表示）
パターンC I-3	カットイン画像表示（金色表示）
パターンC I-4	カットイン画像表示（虹色表示）

10

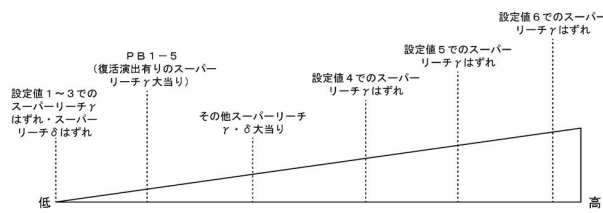
20

30

40

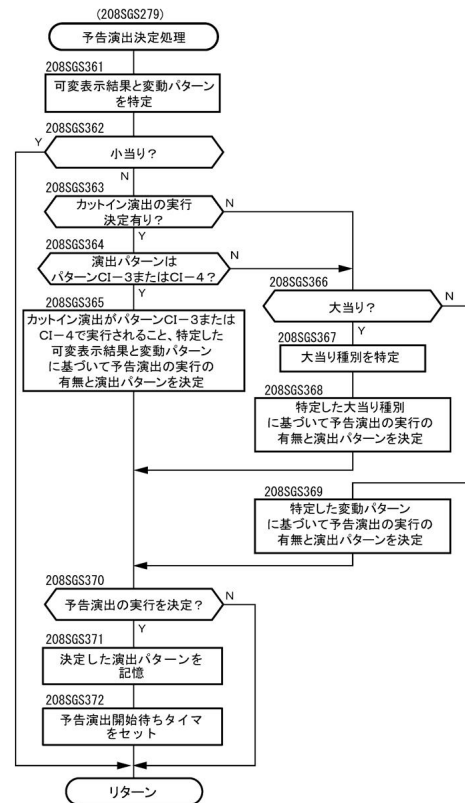
50

【図 15-24】

【図15-24】
パターンC1-3の実行決定割合

【図 15-25】

【図15-25】



【図 15-26】

【図15-26】

(A) カットイン演出がパターンC1-3またはC1-4で実行される場合 (208SGS365)

可変表示結果と変動パターン	非実行	演出パターン			
		パターンYE-1	パターンYE-2	パターンYE-3	パターンYE-4
大当たり	15%	30%	55%	0%	0%
Sリーチはずれ	50%	30%	20%	0%	0%
Nリーチはずれ	80%	15%	5%	0%	0%
非リーチはずれ	95%	5%	0%	0%	0%

(B) カットイン演出非実行・カットイン演出がパターンC1-1またはC1-2で実行される場合 (208SGS368、208SGS369)

可変表示結果と変動パターン	非実行	演出パターン			
		パターンYE-1	パターンYE-2	パターンYE-3	パターンYE-4
大当たりA・B	10%	30%	45%	15%	0%
大当たりC	10%	30%	40%	15%	5%
Sリーチはずれ	50%	30%	15%	5%	0%
Nリーチはずれ	80%	15%	5%	0%	0%
非リーチはずれ	95%	5%	0%	0%	0%

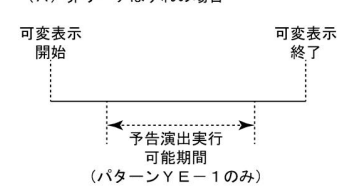
(C) 予告演出の演出パターン

演出パターン	内容
パターンYE-1	キャラクターA画像表示 (青色表示)
パターンYE-2	キャラクターB画像表示 (赤色表示)
パターンYE-3	キャラクターC画像表示 (金色表示)
パターンYE-4	キャラクターA～C画像表示 (虹色表示)

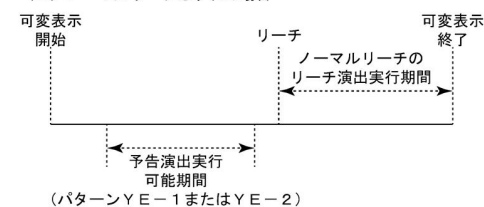
【図 15-27】

【図15-27】

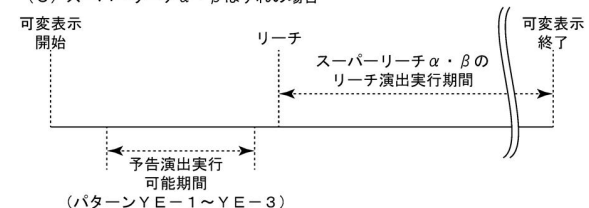
(A) 非リーチはずれの場合



(B) ノーマルリーチはずれの場合



(C) スーパーリーチα・βはずれの場合



10

20

30

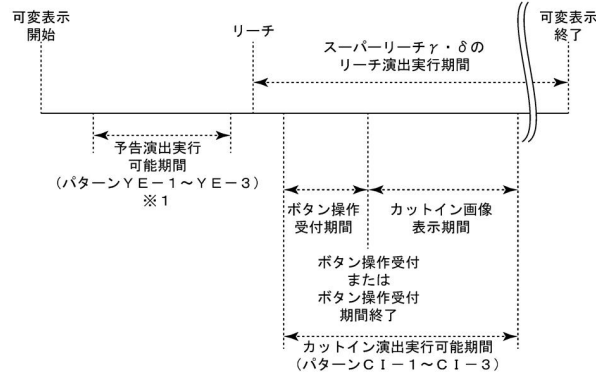
40

50

【図15-28】

【図15-28】

スーパーリーチャ・δはずれの場合

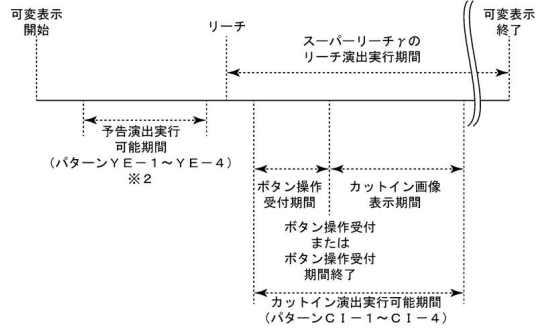


※1：但し、カットイン演出のパターンCI-3での実行が決定されている場合はパターンYE-1またはYE-2

【図15-29】

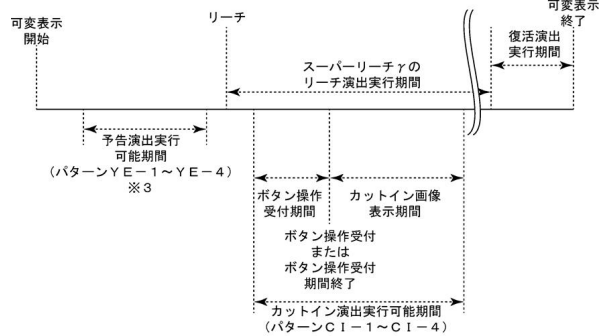
【図15-29】

(A) スーパーリーチャ大当り（復活演出非実行）、スーパーリーチャδ大当りの場合



※2：但し、カットイン演出のパターンCI-3またはCI-4での実行が決定されている場合はパターンYE-1またはYE-2

(B) スーパーリーチャ大当り（復活演出実行）の場合

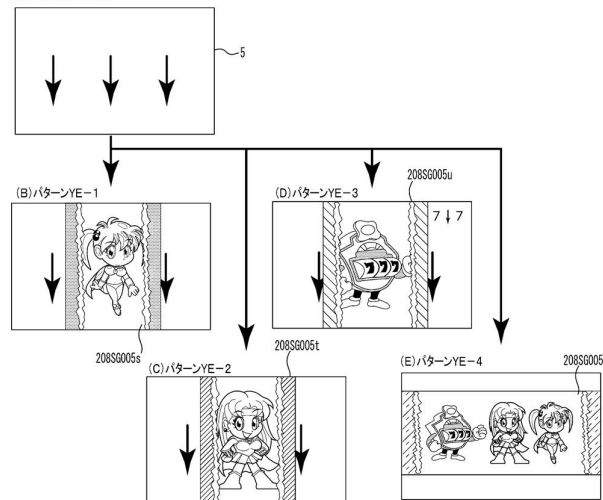


※3：但し、カットイン演出のパターンCI-3またはCI-4での実行が決定されている場合はパターンYE-1またはYE-2

【図15-30】

【図15-30】

(A) 可変表示開始

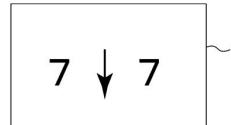


※：カットイン演出がパターンCI-3またはCI-4で実行が決定している場合はパターンYE-1またはYE-2でのみ実行可能

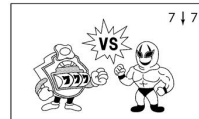
【図15-31】

【図15-31】

(A) リーチ



(B) スーパーリーチャのリーチ演出



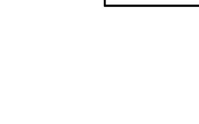
(C)



(D)



(E) パターンCI-1



(F) パターンCI-2



(G) パターンCI-3

(H) パターンCI-4 (大当りCの場合のみ)

10

20

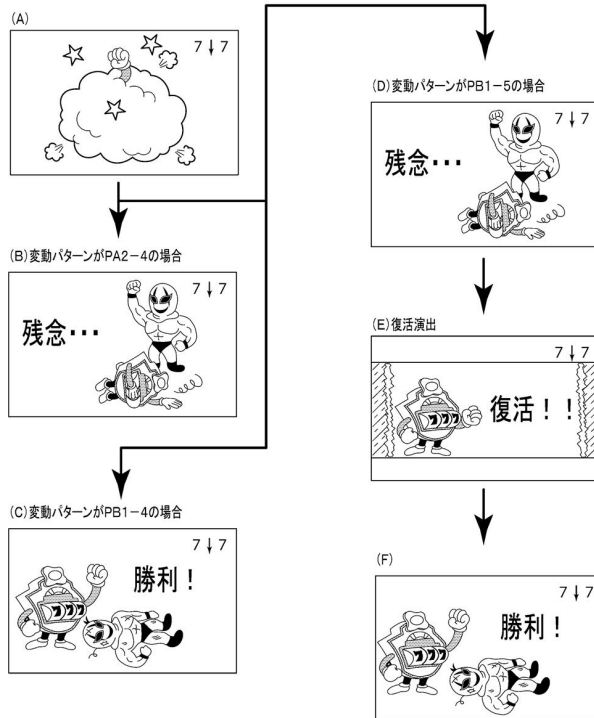
30

40

50

【図 15-32】

【図15-32】



【図 15-33】

【図15-33】変形例208SG-1

(A) 変動パターンがPB1-5である場合

可変表示結果	非実行	演出パターン			
		パターンC1-1	パターンC1-2	パターンC1-3	パターンC1-4
大当りA or B	10%	30%	60%	0%	0%
大当りC	10%	30%	59%	0%	1%

(B) 設定値が1~3のいずれかであり変動パターンがPA2-4またはPB1-4である場合

可変表示結果	非実行	演出パターン			
		パターンC1-1	パターンC1-2	パターンC1-3	パターンC1-4
大当りA or B	10%	30%	50%	10%	0%
大当りC	10%	30%	45%	10%	5%
はずれ	55%	35%	10%	0%	0%

(C) 設定値が4であり変動パターンがPA2-4またはPB1-4である場合

可変表示結果	非実行	演出パターン			
		パターンC1-1	パターンC1-2	パターンC1-3	パターンC1-4
大当りA or B	10%	30%	50%	10%	0%
大当りC	10%	30%	45%	10%	5%
はずれ (高確高ベース)	40%	30%	10%	20%	0%
はずれ (高確高ベース以外)	59%	30%	10%	1%	0%

(D) 設定値が5であり変動パターンがPA2-4またはPB1-4である場合

可変表示結果	非実行	演出パターン			
		パターンC1-1	パターンC1-2	パターンC1-3	パターンC1-4
大当りA or B	10%	30%	50%	10%	0%
大当りC	10%	30%	45%	10%	5%
はずれ (高確高ベース)	35%	30%	10%	25%	0%
はずれ (高確高ベース以外)	58%	30%	10%	2%	0%

(E) 設定値が6であり変動パターンがPA2-4またはPB1-4である場合

可変表示結果	非実行	演出パターン			
		パターンC1-1	パターンC1-2	パターンC1-3	パターンC1-4
大当りA or B	10%	30%	50%	10%	0%
大当りC	10%	30%	45%	10%	5%
はずれ (高確高ベース)	30%	30%	10%	30%	0%
はずれ (高確高ベース以外)	57%	30%	10%	3%	0%

【図 15-34】

【図15-34】変形例208SG-2

(A) 変動パターンがPB1-5である場合

可変表示結果	非実行	演出パターン			
		パターンC1-1	パターンC1-2	パターンC1-3	パターンC1-4
大当りA or B	10%	25%	50%	15%	0%
大当りC	10%	25%	50%	14%	1%

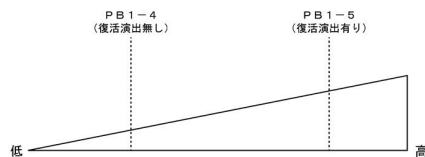
(B) 設定値が1~3のいずれかであり変動パターンがPB1-4である場合

可変表示結果	非実行	演出パターン			
		パターンC1-1	パターンC1-2	パターンC1-3	パターンC1-4
大当りA or B	10%	30%	50%	10%	0%
大当りC	10%	30%	45%	10%	5%

(C) 設定値が4~6であり変動パターンがPB1-4である場合

可変表示結果	非実行	演出パターン			
		パターンC1-1	パターンC1-2	パターンC1-3	パターンC1-4
大当りA or B	10%	30%	50%	10%	0%
大当りC	10%	30%	45%	10%	5%

(D) スーパーリーチャ大当りの変動パターンにおけるパターンC1-3の決定割合



【図 15-35】

【図15-35】変形例208SG-3

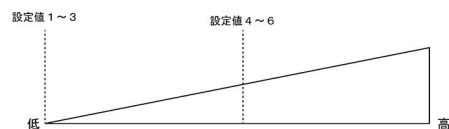
(A) 設定値が1~3のいずれかであり変動パターンがPB1-5である場合

可変表示結果	非実行	演出パターン			
		パターンC1-1	パターンC1-2	パターンC1-3	パターンC1-4
大当りA or B	10%	30%	60%	0%	0%
大当りC	10%	30%	59%	0%	1%

(B) 設定値が4~6のいずれかであり変動パターンがPB1-5である場合

可変表示結果	非実行	演出パターン			
		パターンC1-1	パターンC1-2	パターンC1-3	パターンC1-4
大当りA or B	10%	30%	55%	5%	0%
大当りC	10%	30%	54%	5%	1%

(C) 変動パターンがPB1-5であるときにおける設定値毎のパターンC1-3決定割合



10

20

30

40

50

【図15-36】

【図15-36】変形例208SG-4

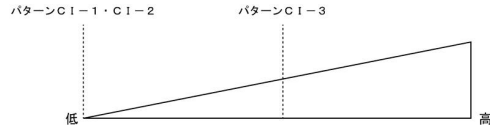
(A) 設定値が4～6のいずれかであり変動パターンがPA2-4且つカットイン演出がパターンC1-3で実行される場合

可変表示結果と変動パターン	非実行	演出パターン			
		パターンYE-1	パターンYE-2	パターンYE-3	パターンYE-4
Sリーチはずれ	50%	30%	20%	5%	0%

(B) 設定値が4～6のいずれかであり変動パターンがPA2-4且つカットイン演出がパターンC1-1またはC1-2で実行される場合

可変表示結果と変動パターン	非実行	演出パターン			
		パターンYE-1	パターンYE-2	パターンYE-3	パターンYE-4
Sリーチはずれ	50%	30%	15%	0%	0%

(C) 設定値が4～6のいずれかであり変動パターンがPA2-4である場合のカットイン演出の各演出パターン決定時におけるパターンYE-3の決定割合



【図15-37】

【図15-37】変形例208SG-5

(A) 設定値が4であり変動パターンがPA2-4である場合

可変表示結果	非実行	演出パターン			
		パターンC1-1	パターンC1-2	パターンC1-3	パターンC1-4
はずれ (高確高ベース)	59%	30%	10%	1%	0%
はずれ (高確高ベース以外)	40%	30%	10%	20%	0%

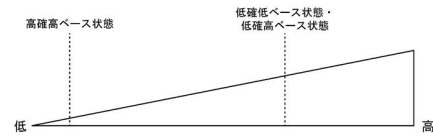
(B) 設定値が5であり変動パターンがPA2-4である場合

可変表示結果	非実行	演出パターン			
		パターンC1-1	パターンC1-2	パターンC1-3	パターンC1-4
はずれ (高確高ベース)	58%	30%	10%	2%	0%
はずれ (高確高ベース以外)	35%	30%	10%	25%	0%

(C) 設定値が6であり変動パターンがPA2-4である場合

可変表示結果	非実行	演出パターン			
		パターンC1-1	パターンC1-2	パターンC1-3	パターンC1-4
はずれ (高確高ベース)	57%	30%	10%	3%	0%
はずれ (高確高ベース以外)	30%	30%	10%	30%	0%

(D) 設定値が4～6のいずれかであり変動パターンがPA2-4である場合の各遊技状態におけるパターンC1-3の決定割合



【図15-38】

【図15-38】208SG-6

(C) 設定値が4であり変動パターンがPA2-4である場合

可変表示結果	非実行	演出パターン			
		パターンC1-1	パターンC1-2	パターンC1-3	パターンC1-4
はずれ (高確高ベース以外)	45%	30%	10%	15%	0%
はずれ (高確高ベース)	60%	30%	10%	0%	0%

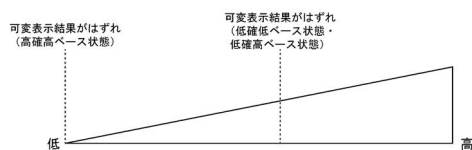
(D) 設定値が5であり変動パターンがPA2-4である場合

可変表示結果	非実行	演出パターン			
		パターンC1-1	パターンC1-2	パターンC1-3	パターンC1-4
はずれ (高確高ベース以外)	40%	30%	10%	20%	0%
はずれ (高確高ベース)	60%	30%	10%	0%	0%

(E) 設定値が6であり変動パターンがPA2-4である場合

可変表示結果	非実行	演出パターン			
		パターンC1-1	パターンC1-2	パターンC1-3	パターンC1-4
はずれ (高確高ベース以外)	35%	30%	10%	25%	0%
はずれ (高確高ベース)	60%	30%	10%	0%	0%

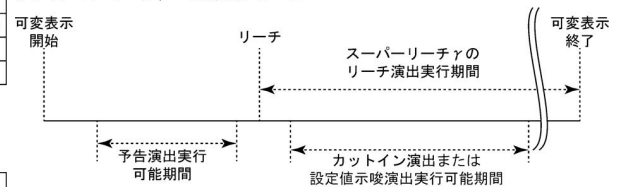
(D) 設定値が4～6のいずれかであり変動パターンがPA2-4である場合の各遊技状態におけるパターンC1-3の決定割合



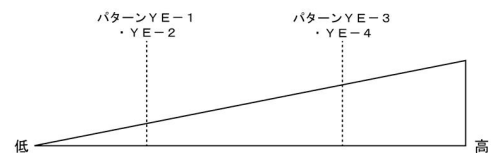
【図15-39】

【図15-39】変形例208SG-7

(A) スーパーリーチャ・δの変動パターン



(B) 各予告演出の演出パターンの決定時における設定値し唆演出の実行決定割合



10

20

30

40

50

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開 2019-063150 (JP, A)
特開 2004-154347 (JP, A)
特開 2018-027478 (JP, A)
特開 2018-007976 (JP, A)
特許第 6851354 (JP, B2)
- (58)調査した分野 (Int.Cl., DB名)
A63F 7/02